

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (136)

中小河川改修事業(万之瀬川)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(IV)

K A M I Z U R U

上水流遺跡 3

縄文時代前期・中近世(遺物)編

(南さつま市金峰町)

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書

(136)

上水流遺跡 3
縄文時代前期・中近世(遺物)編

二〇〇九年三月

鹿児島県立埋蔵文化財センター





曾畑式土器



花押

序 文

この報告書は、万之瀬川の河川改修事業に伴って、平成12年度及び15年度から17年度にかけて実施した南さつま市金峰町（旧日置郡金峰町）に所在する上水流遺跡の発掘調査の記録（縄文時代前期・中近世遺物編）です。

上水流遺跡では、縄文時代前期の遺構・遺物をはじめ、複数の時代にわたる生活跡が発見されました。その成果については、過年度までに2冊の報告書にまとめてあります。いずれの時代においても、本県の歴史を知る上で欠かすことの出来ない資料が多数出土しています。

なお、本改修事業に伴い、これまで持躰松遺跡や芝原遺跡などの発掘調査を行い、その成果は全国的にも注目されているところです。さらに、本遺跡の周辺には、国指定史跡である縄文時代草創期の柗ノ原遺跡をはじめ、「阿多」の刻書土器が出土した小中原遺跡など貴重な遺跡が所在しています。これらも含めたうえで、当遺跡を見ていただきたいと思えます。

本報告書が、県民の皆様はじめ多くの方々に活用され、埋蔵文化財に対する関心とご理解をいただくとともに、文化財の普及・啓発の一助となれば幸いです。

最後に、調査にあたりご協力をいただいた南薩地域振興局（旧伊集院土木事務所）、南さつま市教育委員会並びに発掘調査に従事された地域の方々に厚くお礼申し上げます。

平成21年3月

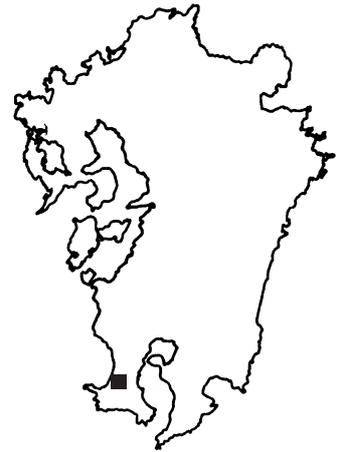
鹿児島県立埋蔵文化財センター
所 長 宮 原 景 信

報 告 書 抄 録

ふりがな	かみづる いせき							
書名	上水流遺跡3							
副書名	中小河川改修事業(万之瀬川)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	136							
編著者名	溝口学 佐藤義明 木之下悦朗 黒川忠広 上床真							
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター							
所在地	〒899 - 4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号 TEL 0995 - 48 - 5811							
発行年月日	西暦2009年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみづる いせき 上水流遺跡	みなみ し 南さつま市 きんぼうちょうはな ぜ 金峰町花瀬 かみづる もりやま 上水流・森山	462209	35-98	31° 25 02	130° 20 22	20000424) 20010329 20030809) 20040319 20040514) 20050204 20050509) 20050928	15,500㎡	中小河川改修 (万之瀬川)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
上水流遺跡	散布地	縄文時代前期	集石3基 土坑1基 焼土4カ所 ピット17基 集積2基	曾畑式土器・方形土器・焼成粘土塊・石鏃・石匙・楔形石器・スクレイパー・石錐・打製石斧・磨製石斧・磨石・敲石・石皿・石製品		曾畑式土器と共に方形土器が出土。		
	集落遺跡	中・近世	昨年度報告済み・上水流遺跡2を参照のこと	土師器・国産陶器(常滑・備前・東播磨系・樺万丈・カムイヤキ)輸入陶磁器(青磁・高麗青磁・白磁・景德鎮窯系青花・漳州窯系青花)土器・国産陶磁器(肥前系・東海系・薩摩焼)・土製品・石製品・鉄製品・古銭				
遺跡の概要	<p>上水流遺跡では、縄文時代前期から近世にかけての遺構・遺物が発見されている。今回の報告は、そのうちの縄文時代前期・中近世遺物編である。縄文時代前期では、曾畑式土器がほぼ単純な状態で出土し、石器組成などの時期判断を絞り込むことのできる数少ない遺跡である。中・近世では、昨年度刊行した遺構編に続く遺物編を掲載した。特筆すべきは、徳化窯産の白磁や薩摩焼では堂平窯産の可能性が考えられる資料が出土している点であろう。鉄製品も多数出土しており、鍋の破片や鎌、火打金が出土している。</p>							



東シナ海



(1/50,000)

上水流遺跡の位置図

例 言

- 1 本書は、中小河川改修事業（万之瀬川）に伴う上水流遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡は、鹿児島県南さつま市金峰町（旧日置郡金峰町）花瀬に所在する。
- 3 発掘調査及び報告書作成（整理作業）は、県土木部河川課から鹿児島県教育委員会が依頼を受け、鹿児島県立埋蔵文化財センターが担当した。
- 4 発掘調査は、平成12年4月24日～平成13年3月29日、平成15年8月9日～平成16年3月19日、平成16年5月14日～平成17年2月4日、平成17年5月9日～9月28日にかけて実施し、整理作業・報告書作成は平成17年度から継続して実施している。
- 5 遺物番号は、時代別・遺物の種類別にそれぞれ通し番号とし、本文・挿図・表・図版の番号は一致する。
- 6 挿図の縮尺は、各図面に示した。
- 7 本書で用いたレベル数値は、県土木部が提示した工事計画図面に基づく海拔絶対高である。
- 8 発掘調査における図面の作成、写真の撮影は、各年度の調査担当者が行った。空中写真撮影は、有限会社ふじた、有限会社スカイサーベイ九州に委託した。
- 9 遺構実測の一部は、株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託し、トレースは郷田千秋が担当し黒川忠広が監修した。
- 10 土器の実測およびトレースは、整理作業員の協力を得て黒川・別府祐子が行った。
- 11 石器の実測・トレースの一部は、整理作業員の協力を得て黒川が行い、一部は、株式会社埋蔵文化財サポートシステム、株式会社九州文化財研究所、株式会社アイシン精機に委託し、監修は東郷克利・廣栄次・黒川が行った。
- 12 自然科学分析は、株式会社パリノ・サーヴェイ、株式会社パレオ・ラボ、株式会社加速器分析研究所に委託した。なお、上水流遺跡1において掲載した部分で、本書の内容に関連ある部分については再録を行った。
- 13 遺物の写真撮影は、吉岡康弘・黒川・上床が行った。
- 14 本書の執筆分担は、縄文時代前期を黒川、中近世を上床・溝口学が行い、編集は黒川が担当した。なお、第6章に関しては各節未記載者が執筆している。
- 15 遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し、展示・活用する予定である。なお、上水流遺跡の遺物注記の略号は「KMZ」、「KZ」である。

本文目次

巻頭図版		第5章 科学分析	182
序文		第1節 概要	182
報告書抄録		第2節 放射性炭素年代測定	182
例言		第3節 鹿児島県上水流遺跡出土植物遺体の同定調査	184
第1章 調査の経過	1	第4節 花粉分析(再録)	184
第2章 層位と調査の概要	2	第5節 珪藻化石群集分析(再録)	186
第1節 層位	2	第6節 植物珪酸体分析(再録)	189
第2節 遺物の分類について	2	第6章 調査のまとめ	192
第3章 縄文時代前期の調査	10	第1節 縄文時代前期の概要	192
第1節 調査成果の概要	10	第2節 甕畑式土器の製作痕について	193
第2節 遺構	10	第3節 縄文時代における蛇紋岩製磨製石斧について	195
第3節 遺物	10	第4節 中・近世の上水流遺跡について	201
第4章 中世～近世の調査(遺物編)	146	第5節 鹿児島県内出土の火打金・火打石	203
第1節 概要	146	第6節 上水流遺跡出土の特徴的な遺物について	204
第2節 遺物の出土状況	156		
第3節 遺物	156		

挿図目次

第1図 調査範囲	3	第24図 1類土器実測図(7)	33
第2図 調査後の状況	3	第25図 1類土器実測図(8)	34
第3図 西側土層断面図(1)	4	第26図 2類土器実測図(1)	35
第4図 西側土層断面図(2)	5	第27図 2類土器実測図(2)	36
第5図 北側土層断面図	6	第28図 2類土器実測図(3)	37
第6図 遺構配置図	12	第29図 2類土器実測図(4)	38
第7図 遺構配置図(V～X区)	13	第30図 2類土器実測図(5)	39
第8図 遺構実測図	17	第31図 2類土器実測図(6)	40
第9図 遺構内出土遺物	18	第32図 2類土器実測図(7)	41
第10図 1類土器出土状況図	19	第33図 2類土器実測図(8)	42
第11図 2類土器出土状況図	20	第34図 2類土器実測図(9)	43
第12図 3類土器出土状況図	21	第35図 2類土器実測図(10)	44
第13図 4類土器出土状況図	22	第36図 2類土器実測図(11)	45
第14図 5類土器出土状況図	23	第37図 2類土器実測図(12)	46
第15図 6類土器出土状況図	24	第38図 3類土器実測図(1)	47
第16図 7類土器出土状況図	25	第39図 3類土器実測図(2)	48
第17図 8類土器出土状況図	26	第40図 3類土器実測図(3)	49
第18図 1類土器実測図(1)	27	第41図 3類土器実測図(4)	50
第19図 1類土器実測図(2)	28	第42図 3類土器実測図(5)	51
第20図 1類土器実測図(3)	29	第43図 4類土器実測図(1)	52
第21図 1類土器実測図(4)	30	第44図 4類土器実測図(2)	53
第22図 1類土器実測図(5)	31	第45図 4類土器実測図(3)	54
第23図 1類土器実測図(6)	32	第46図 4類土器実測図(4)	55

第47図	4 類土器実測図(5)	56	第90図	器種別出土状況図(5)楔形石器	100
第48図	4 類土器実測図(6)	57	第91図	器種別出土状況図(6)石錐	101
第49図	4 類土器実測図(7)	58	第92図	器種別出土状況図(7)石核	102
第50図	4 類土器実測図(8)	59	第93図	器種別出土状況図(8)打製石斧	103
第51図	4 類土器実測図(9)・5 類土器実測図(1)	60	第94図	器種別出土状況図(9)磨製石斧	104
第52図	5 類土器実測図(2)	61	第95図	器種別出土状況図(10)礫器	105
第53図	5 類土器実測図(3)	62	第96図	器種別出土状況図(11)敲石	106
第54図	5 類土器実測図(4)	63	第97図	器種別出土状況図(12)磨石	107
第55図	5 類土器実測図(5)	64	第98図	器種別出土状況図(13)石皿	108
第56図	5 類土器実測図(6)	65	第99図	石器実測図(1)石鏃	109
第57図	6 類土器実測図(1)	66	第100図	石器実測図(2)石鏃	110
第58図	6 類土器実測図(2)	67	第101図	石器実測図(3)石鏃・石匙	111
第59図	6 類土器実測図(3)	68	第102図	石器実測図(4)石匙	112
第60図	7 類土器実測図(1)	69	第103図	石器実測図(5)石匙	113
第61図	7 類土器実測図(2)・8 類土器実測図	70	第104図	石器実測図(6)石匙	114
第62図	器種組成および石材別出土割合	72	第105図	石器実測図(7)石匙	115
第63図	石材別出土状況図(1)黒曜石	73	第106図	石器実測図(8)石匙	116
第64図	石材別出土状況図(2)黒曜石	74	第107図	石器実測図(9)石匙	117
第65図	石材別出土状況図(3)黒曜石	75	第108図	石器実測図(10)スクレイパー	118
第66図	石材別出土状況図(4)黒曜石	76	第109図	石器実測図(11)スクレイパー	119
第67図	石材別出土状況図(5)黒曜石	77	第110図	石器実測図(12)スクレイパー	120
第68図	石材別出土状況図(6)黒曜石	78		・二次加工	
第69図	石材別出土状況図(7)黒曜石	79	第111図	石器実測図(13)二次加工	121
第70図	石材別出土状況図(8)安山岩	80	第112図	石器実測図(14)楔形石器	122
第71図	石材別出土状況図(9)安山岩	81	第113図	石器実測図(15)楔形石器	123
第72図	石材別出土状況図(10)安山岩	82	第114図	石器実測図(16)楔形石器	124
第73図	石材別出土状況図(11)安山岩	83	第115図	石器実測図(17)石錐・石核	125
第74図	石材別出土状況図(12)頁岩	84	第116図	石器実測図(18)石核	126
第75図	石材別出土状況図(13)頁岩	85	第117図	石器実測図(19)石核	127
第76図	石材別出土状況図(14)頁岩	86	第118図	石器実測図(20)石核	128
第77図	石材別出土状況図(15)頁岩	87	第119図	石器実測図(21)石核	129
第78図	石材別出土状況図(16)頁岩	88	第120図	石器実測図(22)石核	130
第79図	石材別出土状況図(17)頁岩	89	第121図	石器実測図(23)打製石斧・磨製石斧	131
第80図	石材別出土状況図(18)頁岩	90	第122図	石器実測図(24)磨製石斧・礫器	132
第81図	石材別出土状況図(19)頁岩	91	第123図	石器実測図(25)礫器・敲石	133
第82図	石材別出土状況図(20)砂岩	92	第124図	石器実測図(26)敲石	134
第83図	石材別出土状況図(21)蛇紋岩	93	第125図	石器実測図(27)磨石	135
第84図	石材別出土状況図(22)	94	第126図	石器実測図(28)磨石	136
	ホルンフェルス・軽石・メノウ系		第127図	石器実測図(29)磨石	137
第85図	石材別出土状況図(23)その他	95	第128図	石器実測図(30)磨石	138
第86図	器種別出土状況図(1)石鏃	96	第129図	石器実測図(31)磨石	139
第87図	器種別出土状況図(2)石匙	97	第130図	石器実測図(32)石皿	140
第88図	器種別出土状況図(3)スクレイパー	98	第131図	石器実測図(33)石皿	141
第89図	器種別出土状況図(4)二次加工	99	第132図	石器実測図(34)石皿	142

第133図	石器実測図(35)石皿	143	第161図	中近世遺物実測図(16)青花	169
第134図	土製品及び出土状況	144	第162図	中近世遺物実測図(17)青花・土錘	170
第135図	石製品及び出土状況	145	第163図	中近世遺物実測図(18)鞆の羽口	171
第136図	中・近世の遺構配置図・地形図(左)	148	第164図	中近世遺物実測図(19)火打石	172
第137図	中・近世の遺構配置図・地形図(右)	149	第165図	中近世遺物実測図(20)金床石	173
第138図	遺物出土状況図(1)全点ドット	150	第166図	中近世遺物実測図(21)金床石	174
第139図	遺物出土状況図(2) 中世瓦質土器・須恵器・国産陶器	150	第167図	中近世遺物実測図(22)砥石	175
第140図	遺物出土状況図(3)在地系陶器 ・肥前系陶器	151	第168図	中近世遺物実測図(23)砥石	176
第141図	遺物出土状況図(4)輸入陶器	151	第169図	中近世遺物実測図(24)軽石製品	177
第142図	遺物出土状況図(5)白磁・青磁	152	第170図	中近世遺物実測図(25)鉄製品	178
第143図	遺物出土状況図(6)カムイヤキ	152	第171図	中近世遺物実測図(26)鉄製品	179
第144図	遺物出土状況図(7)青花	153	第172図	中近世遺物実測図(27)鉄製品・銅製品	180
第145図	遺物出土状況図(8)中世土師器	153	第173図	中近世遺物実測図(28)銭貨	181
第146図	中近世遺物実測図(1)土師器	154	第174図	暦年較正結果	183
第147図	中近世遺物実測図(2)土師器	155	第175図	機動細胞珪酸体分布図	190
第148図	中近世遺物実測図(3)瓦質土器 ・煮炊具	156	第176図	土器類別出土割合	192
第149図	中近世遺物実測図(4)瓦質土器	157	第177図	石器組成	192
第150図	中近世遺物実測図(5)東播磨系須恵器鉢	158	第178図	石材一覧	192
第151図	中近世遺物実測図(6)中世須恵器 ・カムイヤキ	159	第179図	粘土紐観察結果	194
第152図	中近世遺物実測図(7)国産陶器	160	第180図	一湊松山遺跡遺物実測図	197
第153図	中近世遺物実測図(8) 在地系陶器(薩摩焼)	161	第181図	神野牧遺跡遺物実測図	197
第154図	中近世遺物実測図(9)肥前系陶器	162	第182図	蛇紋岩製磨製石斧出土遺跡分布図	198
第155図	中近世遺物実測図(10) 肥前系陶器・その他の国産陶器	163	第183図	磨製石斧利用石材の割合	198
第156図	中近世遺物実測図(11)白磁	164	第184図	南薩・大隅出土の蛇紋岩製磨製石斧重量 比較	200
第157図	中近世遺物実測図(12)青磁	165	第185図	南薩・大隅出土の蛇紋岩製磨製石斧長幅比	200
第158図	中近世遺物実測図(13)青磁	166	第186図	磨製石斧の長幅比	201
第159図	中近世遺物実測図(14)青磁	167	第187図	蛇紋岩製磨製石斧の長幅比	201
第160図	中近世遺物実測図(15)輸入陶器	168	第188図	磨製石斧の幅厚比と重量の関係	201
			第189図	蛇紋岩製磨製石斧の幅厚比と重量の関係	201
			第190図	本遺跡の各組成	202
			第191図	見込荒磯文碗(肥前)	205
			第192図	火打金・火打石集成図	205

表 目 次

表 1	石材分類表	7	表 9	植物珪酸体一覧表	190
表 2	測定試料及び処理	182	表10	石器・剥片類一覧表	193
表 3	放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果	182	表11	遺跡一覧	199
表 4	植物遺体同定表	184	表12	鹿児島県内出土の火打金	205
表 5	出土遺構と結果	184	表13	鹿児島県内出土の火打石	205
表 6	採取試料一覧	184	表14	鹿児島県内出土の鉄鍋	206
表 7	花粉一覧表	186	表15	土器観察表(1)	207
表 8	珪藻化石産出表と分布	187	表16	土器観察表(2)	208

表17	土器観察表(3)	209	表28	中・近世出土遺物観察表(1)	220
表18	土器観察表(4)	210	表29	中・近世出土遺物観察表(2)	221
表19	土器観察表(5)	211	表30	中・近世出土遺物観察表(3)	222
表20	土器観察表(6)	212	表31	中・近世出土遺物観察表(4)	223
表21	土器観察表(7)	213	表32	中・近世出土遺物観察表(5)	224
表22	土器観察表(8)	214	表33	中・近世出土遺物観察表(6)	225
表23	土器観察表(9)	215	表34	中近世の土製品	225
表24	石器観察表(1)	216	表35	中近世の石製品	225
表25	石器観察表(2)	217	表36	中近世の金属製品	226
表26	石器観察表(3)	218	表37	中近世の古銭	226
表27	石器観察表(4)	219			

図 版 目 次

巻頭	曾畑式土器・花押		図版31	縄文時代前期の土器(16)	243
図版 1	石材分類写真(1)	8	図版32	縄文時代前期の土器(17)	244
図版 2	石材分類写真(2)	9	図版33	縄文時代前期の土器(18)	245
図版 3	遺構検出状況	14	図版34	縄文時代前期の土器(19)	246
図版 4	遺物出土状況	15	図版35	縄文時代前期の土器(20)	247
図版 5	焼土・ピット検出状況	16	図版36	縄文時代前期の土器(21)	248
図版 6	測定種子	184	図版37	縄文時代前期の土器(22)	249
図版 7	花粉化石	186	図版38	縄文時代前期の土器(23)	250
図版 8	珪藻化石写真	189	図版39	縄文時代前期の土器(24)	251
図版 9	植物珪酸体写真	191	図版40	縄文時代前期の石器(1)	252
図版10	X線写真	195	図版41	縄文時代前期の石器(2)	253
図版11	粘土接合痕(上水流遺跡)	196	図版42	縄文時代前期の石器(3)	254
図版12	粘土接合痕(一湊松山遺跡)	197	図版43	縄文時代前期の石器(4)	255
図版13	粘土接合痕(神野牧遺跡)	197	図版44	縄文時代前期の石器(5)	256
図版14	上床氏の写真	206	図版45	縄文時代前期の石器(6)	257
図版15	縄文時代前期の遺構内出土遺物	227	図版46	縄文時代前期の石器(7)	258
図版16	縄文時代前期の土器(1)	228	図版47	縄文時代前期の石器(8)	259
図版17	縄文時代前期の土器(2)	229	図版48	縄文時代前期の石器(9)	260
図版18	縄文時代前期の土器(3)	230	図版49	縄文時代前期の石器(10)	261
図版19	縄文時代前期の土器(4)	231	図版50	縄文時代前期の石器(11)	262
図版20	縄文時代前期の土器(5)	232	図版51	縄文時代前期の石器(12)	263
図版21	縄文時代前期の土器(6)	233	図版52	縄文時代前期の石器(13)	264
図版22	縄文時代前期の土器(7)	234	図版53	中近世の遺物(1)	265
図版23	縄文時代前期の土器(8)	235	図版54	中近世の遺物(2)	266
図版24	縄文時代前期の土器(9)	236	図版55	中近世の遺物(3)	267
図版25	縄文時代前期の土器(10)	237	図版56	中近世の遺物(4)	268
図版26	縄文時代前期の土器(11)	238	図版57	中近世の遺物(5)	269
図版27	縄文時代前期の土器(12)	239	図版58	中近世の遺物(6)	270
図版28	縄文時代前期の土器(13)	240	図版59	中近世の遺物(7)	271
図版29	縄文時代前期の土器(14)	241	図版60	中近世の遺物(8)	272
図版30	縄文時代前期の土器(15)	242	図版61	中近世の遺物(9)	273

第1章 調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過

鹿児島県教育委員会は、文化財の保護と活用を図るため、事業区域内における文化財の有無及びその取り扱いについて各開発関係機関との間で協議し、諸開発との調整を図っている。

この事前協議制に基づき、鹿児島県土木部河川課（以下、県土木部）は、中小河川改修工事（万之瀬川）の日置郡金峰町内（現南さつま市）における事業計画実施に先立って、対象地内における埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会文化課（現文化財課、以下県文化財課）に照会した。これを受けて県文化財課、金峰町教育委員会が平成5年度に分布調査を実施したところ、事業区域内に万之瀬川川底遺跡、松ヶ鼻遺跡、持躰松遺跡、渡畑遺跡、芝原遺跡、上水流遺跡の6遺跡の所在が判明した。この結果を受けて、県土木部・県文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下、県埋文センター）の3者で協議した結果、対象地域内の遺跡の範囲と性格を把握するために当該地域において確認調査を実施することとし、上水流遺跡の調査は金峰町教育委員会が担当した。

確認調査は、平成7年8月1日から12月15日の期間に実施し、その結果、予定地において約13,000㎡の範囲に遺跡が残存していることが確認された。この分についての報告書は、既に金峰町教育委員会で発行されている。

これを受けて、12年度（新築堤防部分）・15年度（旧堤防と新築堤防の間）・16～17年度（新築堤防部分以外の部分・旧堤防部分）の本調査を実施した。

なお、平成16年度には調査対象範囲についての協議を県土木部・県文化財課・県埋文センターの3者で行った。その結果、調査範囲の拡大が判明し、調査期間は平成17年度の上半期までとした。

整理作業は、平成17年度の発掘調査終了後に取りかかり、平成18年度に縄文時代中期後半～弥生時代編を、平成19年度に古墳時代～近世編を刊行した。本年度は、縄文時代前期を中心に作業を実施した。

第2節 調査の組織

- (1) 平成12年度～平成19年度
上水流遺跡1・2を参照

- (2) 平成20年度
起因事業主体 鹿児島県土木部河川課
(鹿児島地域振興局)

調査主体	鹿児島県教育委員会	
調査統括	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所長 宮原 景信
調査企画	次長兼総務課長	平山 章
	次長	池畑 耕一
調査事務	主任文化財主事兼調査第一課長	青崎 和憲
	主任文化財主事兼調査第一課第二調査係長	井ノ上秀文
調査担当	文化財主事	溝口 学
	文化財主事	佐藤 義明
調査指導	文化財主事	木之下悦朗
	文化財主事	黒川 忠広
調査事務	文化財研究員	上床 真
	総務係長	紙屋 伸一
調査指導	文化庁記念物課調査官	水ノ江和同

企画担当者	文化財主事	中村 和美
	文化財主事	関 明恵
報告書作成検討委員会	平成20年12月3日	所長ほか10名
報告書作成指導委員会	平成20年12月1日	次長ほか2名

第3節 整理作業の概要

上水流遺跡の整理作業は、平成12年度から平成17年度にかけての発掘調査中に、遺物の水洗・注記作業を並行して行い、本格的な整理作業を平成17年度より実施した。作業は、県立埋蔵文化財センターで、他の万之瀬川流域の遺跡群（持躰松遺跡・渡畑遺跡・芝原遺跡）と同時進行の形で行った。具体的な報告書刊行は、平成18年度に縄文時代中期後半から弥生時代編（上水流遺跡1）を、平成19年度に古墳時代から近世遺構編（上水流遺跡2）の2冊を刊行している。本年度（平成20年度）は、縄文時代前期と中・近世遺物編で構成した。本報告により、残された領域は、縄文時代前期末から中期前半編のみとなる。この報告については、平成21年度を計画している。

第2章 層位と調査の概要

第1節 層位

上水流遺跡は、万之瀬川下流域の右岸にある自然堤防に立地する遺跡である。本遺跡で見られる地層は、河川堆積物およびそれらの上に堆積する腐植土である。砂質の土壌については、「砂質土」と「砂」に分類した。河川による氾濫堆積層などを含んでいるので、遺跡内において必ずしも安定している状況ではなかった。例えば、

a層では同一包含層の中で黄褐色砂質土層と灰白色砂質層とが何層にもわたって互い違いに堆積している様子が観察される地点も見られた。また、他の堆積土（砂）についても、ほとんどが数回にわたるとみられる沖積土（砂）であるので、下に示す層位と若干異なる様相を呈する地点もある。火山灰に関しては、b層中に開聞岳起源とされる「灰ゴラ」（額娃町水成川での¹⁴C年代分析結果では $3620 \pm 140y$ ）がみられる他には、明確な火山灰層はみられない。なお、この灰ゴラに関しては晩期土器の編年に関わる重要な鍵層となる。しかし、安定的には堆積しておらず、土器型式を上下で区分するだけの様相ではなかった。いずれにせよ、灰ゴラが万之瀬川下流域まで降灰していたことが判明した点は今後の調査を考える上で重要な事項となる。

なお、今回報告の層は部分的に泥炭化している場所が確認された。また、上水流遺跡1において分析結果を示しているが、曽根式土器が出土していない部分において泥炭化している箇所もあり、標高的には低い年代代的には新しい年代値が示されている。層位の連続性が確認出来づらい状況もあり、こういった矛盾点も存在してしまっている。

層	水田耕作土及び近世・近代の盛土（旧堤防の造成盛土も含む）
層	暗褐色腐植土 中世～近世
a'層	明黄褐色土 弥生時代～古墳時代
a層	黄褐色土 縄文時代晩期
b層	暗茶褐色土 縄文時代晩期
（ブロック状の灰ゴラを含む）	
層	赤（黄）褐色土 縄文時代中期後半～後期
a層	黄褐色砂質土 縄文時代中期前半
（灰～灰色砂との互層となる地点多し）	
b層	黄白色砂質土 縄文時代前期後半～ 縄文時代中期初頭
層	淡白色砂質土 縄文時代前期

第2節 遺物の分類について

(1) 土器

土器は、各時代に渡り幅広い時代のものが出土している。報告書作成では、これらを複数年計画で刊行することとしたため、本来は全体を通して類別作業を行うべきところが分断される形となってしまっている。そこで、便宜上類別の上に『群』を設定した。

1群は、縄文時代前期から中期前半までの土器。

2群は、縄文時代中期後半から後期終末までの土器。

3群は、縄文時代晩期から弥生時代後期までの土器。

4群は、弥生時代終末から古墳時代までの土器とした。

よって、今回報告する分は1群の内前半部分で、編集の都合上1 - 1群とした。各群内の土器の特徴に関しては、各々の章で紹介していきたい。

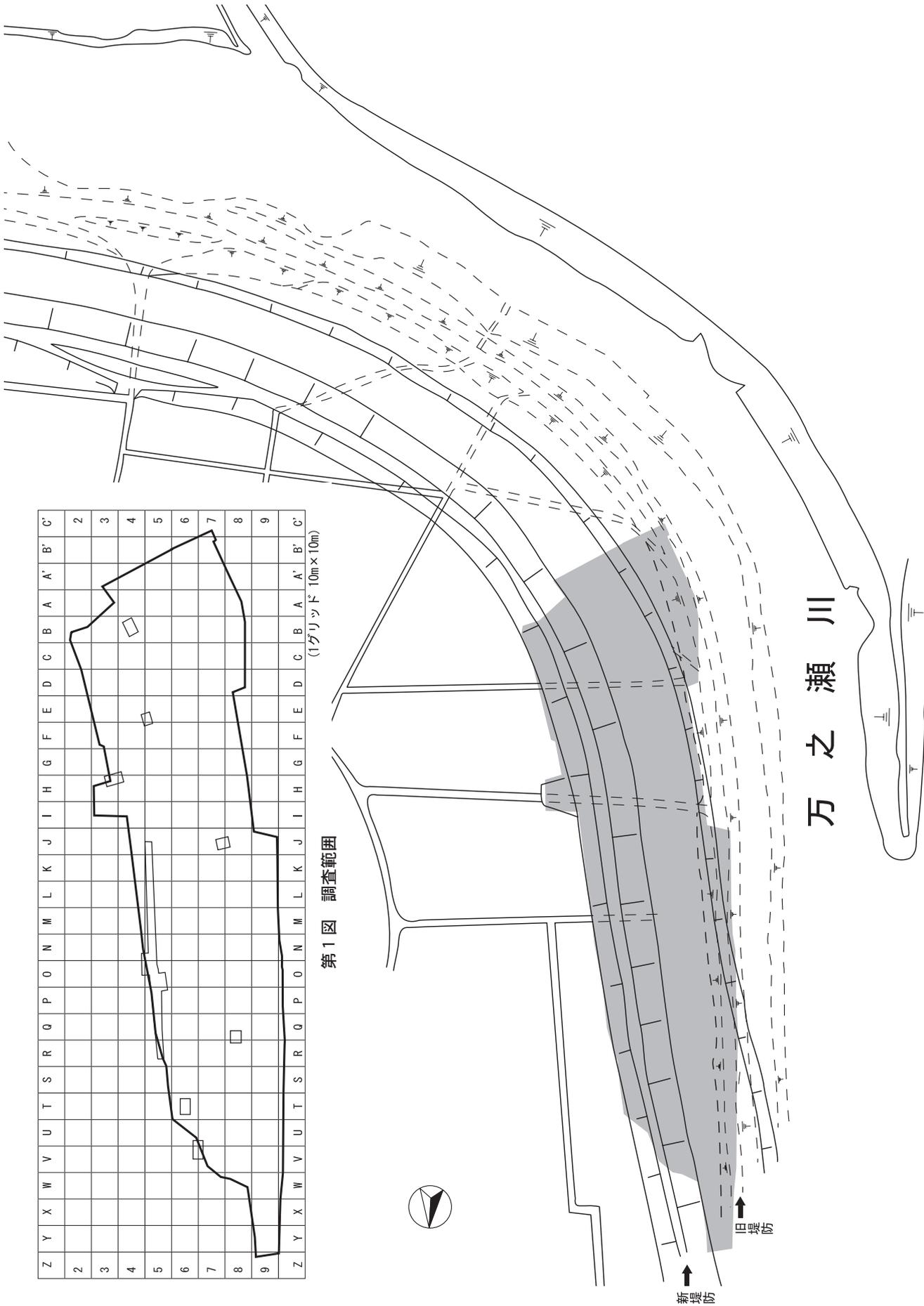
(2) 石器

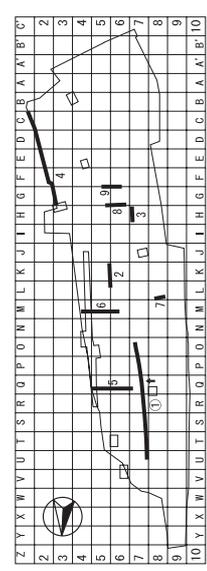
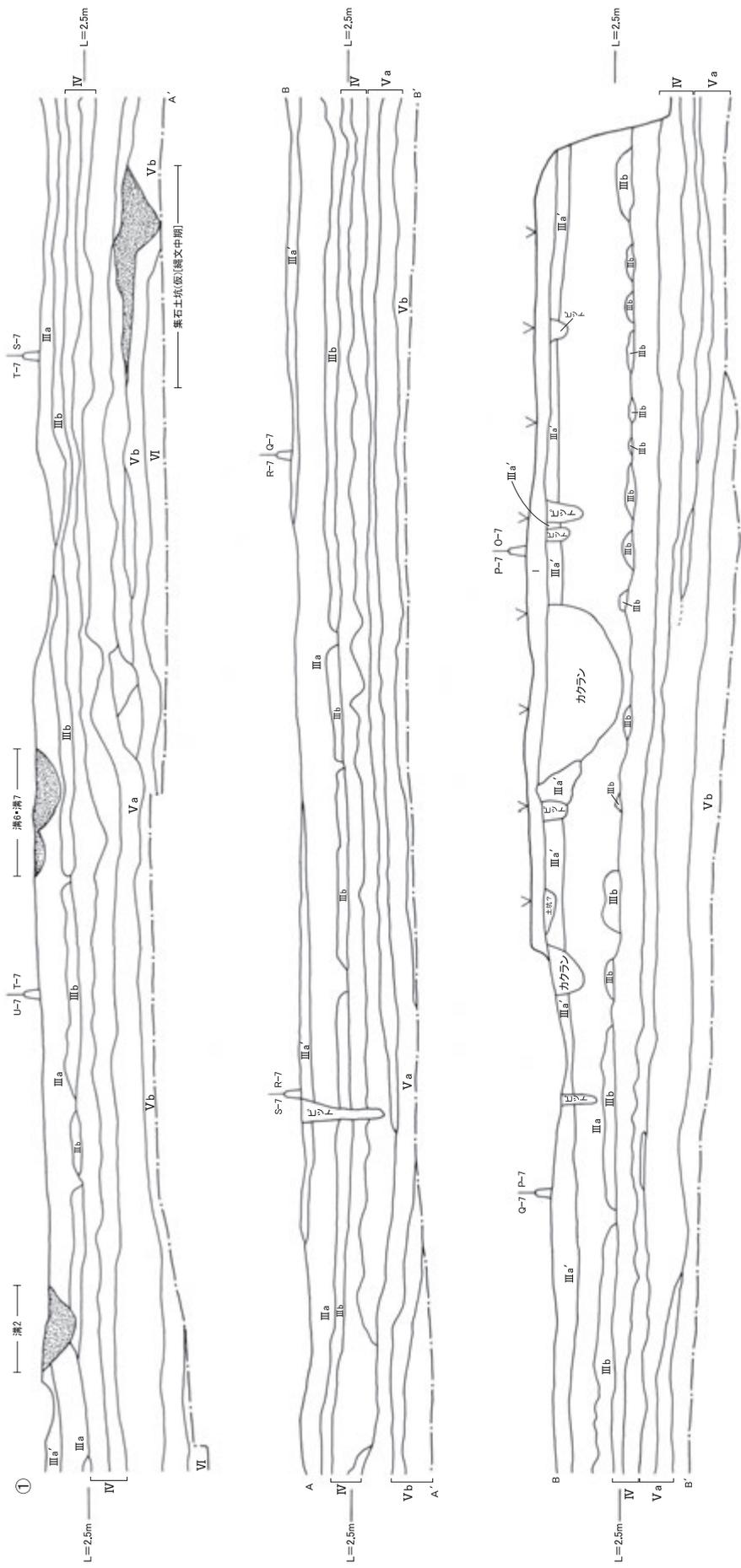
本遺跡では、縄文時代前期に比定される層から、土器同様石器類が多数出土した。この中で、石器として認識出来た点数は725点である。主な器種は、石鏃、石匙、スクレイパー、二次加工剥片、楔形石器、石錐、石核、磨製石斧、打製石斧、礫器類、磨石・敲石・凹石類、石皿・台石類、砥石、石製品などで、多岐にわたっている。剥片類は、2,739点である。

石器の石材及び器種については上水流遺跡1において示した分類表を基準とした。

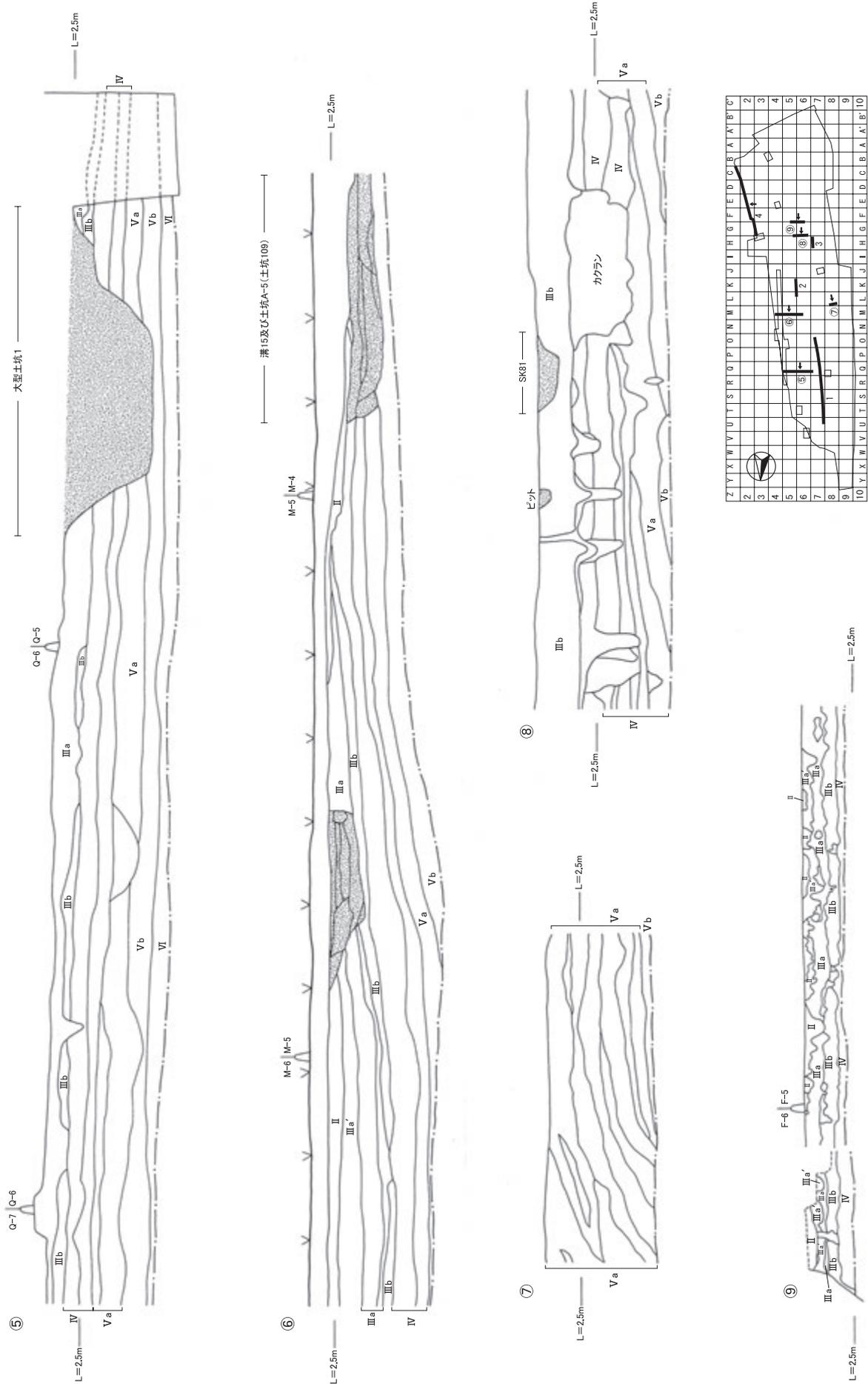
石材分類表

石材に関しては、石材産地を推定させる黒曜石及び安山岩、石材中に圧倒的な量を示し質感や風化の程度等個体差が顕著な頁岩については、石材の細分化を試み、以下のように分類した。他に、頁岩や砂岩等にホルンフェルス化した石材も散見されたが、変性が顕著であるものについてのみホルンフェルスに含めた。頁岩については硅質化が顕著な石材も、頁岩中に含めている。





第3図 西側土層断面図(1)



第5図 北側土層断面図

表1 石材分類表

器種	分類	概要
黒曜石 (ob)		不純物を多く含み、漆黒で光を通さないものを包括した。薩摩川内市樋脇町上牛鼻、いちき串木野市平木場、いちき串木野市宇都等の原産地資料に類似する。
		光を通し、不純物を大量に含む物を総括した。鹿児島市の三船、伊佐市の日東、五女木、錦江町の長谷等の原産地資料に類似するが、細分を行うことはできなかった。
		鉛色～黒色を基調とし、不純物をほとんど含まない良質のものを包括した。えびの市の桑ノ木津留、伊佐市の上青木の原産地資料や自然面が磨りガラス状を呈する霧島系の資料に類似するが細分を行うことはできなかった。
		黒色で不純物を全く含まない良質のものを包括した。佐賀県伊万里市腰岳産の資料に類似するが、一部長崎県佐世保市針尾島周辺で産出する黒色系の物も含まれる。
		青灰色で不純物の少ない物を包括した。針尾中町や長崎県佐世保市東浜、淀姫等西北九州の原産地資料に類似するが、原産地不明の一群も含まれる。
		不純物をあまり含まない灰色の物を包括した。椎葉川周辺の物を原産地資料とするが原産地不明の一群も含んでいる。
		原産地不明な物を包括した。
安山岩	a	黒色を呈し、砂質感が強い。斜長石が殆ど含まれない。西北九州産であると考えられる。
	b	aが風化したもの。
		西北九州産か？斜長石が殆ど含まれず、硅質の光沢がある。
	a	上牛鼻産と考えられる。斜長石が密に含まれる。黒色もしくは青灰色を呈し、光沢感が強い。風化していない、もしくは、弱い風化が見られる。
	b	aに類似するが、風化が強い。
		上記以外の一般的な安山岩。花崗岩との区別においては、帯磁率を基準とし 20×10^{-1} SI以上を本類に含めた。
凝灰岩		火山灰や火山砂などが堆積し、凝固したもの。親指大の礫を含む凝灰角礫岩を含む。
花崗岩		御影石とも呼称。石英・カリ長石・雲母・角閃石・輝石などを主成分鉱物として含む。安山岩との区別は、帯磁率において 2×10^{-1} SIの石材を本類に含めた。
蛇紋岩等		蛇紋岩はぬめつとした肌触りを有し、光沢がある。石材不明資料中、蛇紋岩に類似した資料を含めた。
頁岩		風化が顕著で、白色or乳白色を呈する。
		風化が見られる。層状剥離や白筋が見られるのが多い。
		に類似するが、風化がない、もしくは弱い。
		風化が全くない。光沢があり、漆黒色を呈する。
		風化が全くない。光沢があり、黒色や黄橙色、白色、乳白色、青灰色などを呈する。硅質の頁岩。
		粘板岩に類似。薄茶色を呈し、剥離が強い。シルト質の頁岩。
		さびが付着。黒色を呈し、剥離が強い。
	硬質頁岩の一種で、長石が粒状に多量に含まれる。金峰山が産地と考えられる。	
砂岩		砂粒・石英粒が集合して固まった堆積岩の一種。触ると砂粒感が強いものを本類に含めた。
粘板岩		極微小な砂粒（泥粒）が集合して固まった堆積岩の一種。頁岩に似て層状を成すが、薄茶色～茶黄色を呈し、指で触ると粉が指頭に残るものを本類に含めた。
ホルンズ		硬質化が著しく、鉱物が相累なって帯状もしくは斑状を成すもの。ただし、硬質化（もしくは、硅質化）した頁岩は本類に含めず、頁岩に分類した。
瑪瑙系		瑪瑙・玉髓・石英・タンパク石・鉄石英・水晶・石英班岩などを総称して、本類に含めた。
チャート		珪酸を含み光沢感を有する。灰白色を呈する。



ob



ob



ob



ob



ob



ob



安山岩 a



安山岩 b



安山岩



安山岩 a



安山岩 b

图版1 石材分类写真(1)



頁岩



頁岩



頁岩



頁岩



頁岩



頁岩



頁岩



頁岩

图版2 石材分類写真(2)

第3章 縄文時代前期の調査

第1節 調査成果の概要

縄文時代前期該当層は、6層である。この層は、金峰町教委が行った確認調査時の15トレンチ層に該当する。部分的に不明瞭な地点もあるが、概ね川に向けて落ち込むような堆積状況が見られた。平成12年度の調査において、層としていたものを含んでいる。この点については、16年度と17年度の調査中と整理作業によってその整合性を検討している。

調査は、5層の調査を終了後人力で6層を目指して掘り下げた。その中で、5層と6層の間には無遺物層が部分的に厚く堆積している箇所もあった。また、17年度の調査中には台風の被害で水没再埋没の憂き目に会い、一部の資料が出土地点不明となり一括取り上げせざるを得ない状況もあった。

6層の調査は、海拔0m以下の調査も含んでおり、特に万之瀬川に近い9区周辺では、湧水処理を進めながらの調査であった。また、部分的に黒色化した半泥炭層と呼べる層も認められた。この層については珪藻・花粉分析を実施し、上水流遺跡1において既に報告を行っている（鹿埋文セ2007参照）。

第2節 遺構

(1) 集石

3基が検出された。1号は、礫総数300点からなる。小型のものである。2号は、礫総数29点からなる。3号は遺物出土集中箇所よりやや南側で検出された。礫総数65点からなる。検出時、上部に被さる部分の土が黒色著しく、土中に多量の炭化材チップが散在している状況であった。これらの集石には、円礫が多く用いられている。この中には磨石が見られ、1号集石内出土の1点を図化した。

(2) 土坑

1基が検出された。床面からは湧水が確認され、明確な底面形ははっきりとしない。土坑内からは炭化物が出土しているが、原形をとどめない。

(3) ピット

調査区北側に17基が集中して検出された。これらが単体で構成されるものなのか、複数で構成されるものなのかは判断出来なかった。遺構としての認定は、裁ち割を実施しその断面観察によったが、明確に認定出来なかったものも多い。

(4) 焼土・炭化物集中域

U-8～X-9区において炭化物の集中が確認され、周辺を精査した結果南北約40m、東西約8mの範囲に種子炭化物が、一部途切れているがほぼ集中的に散布している状況が見られ、加えて合計4カ所の焼土域を確認することが出来た。両者の同時期性は厳密には断定出来なかったが、周辺の状況などから極めて近似しているものと思われる。焼土域は南側から1号、2号、3号、4号とした。この内1号については立ち割を行い（図版5）、深いところで10cm赤化している状況が確認出来た。炭化物集中域からは、多くの種子炭化物が出土している。これらの内種実が良好なもの100点について、種実同定の分析を実施した。詳細については第5章において報告書を掲載しているが、この結果を基に他の種子炭化物についても観察を行ったが、概ねシイ属ブナ科であった。また、放射性炭素年代測定を実施し、 5032 ± 25 という測定結果が示されている。これらをあわせて考えると、およそ曽畑式土器段階のものとして位置づけることが可能であると思われる。

(5) 集積

2基が検出された。1基は、石斧2点と敲石1点からなり、1基は磨石2点からなる。

磨石集積は、W-9区で検出された。2個の磨石が密接して出土したことからここに抽出した。2点共にほぼ円形に近い形状である。断面観は2が円形であることに對して、3はやや楕円形である。

石斧集積は、U-8区で検出された。掘り込み等は確認出来ていない。4は、研ぎによる稜線と面が明瞭に残っている。刃部には欠損が認められる。5は、全面に大振りの剥離が見られ、部分的に小さな剥離痕が観察される。一部には自然面を残しつつ、磨りによって切られる剥離がある。このことから、磨製石斧の未製品と見なすこともできる。6は楕円形の礫で、わずかに磨りの痕跡と側面に敲打による潰れが観察される。

第3節 遺物

(1) 土器

先述したように、今回報告する土器群は第1-1群土器である。既存の土器型式で言う曽畑式土器であり、層からほぼ単独状態で出土した。他の土器型式をほとんど含まない点、上部には無遺物層である砂層が堆積している点などから、曽畑式土器期の様相を知る上で極めて良好な出土状況であると言える。これは、後述する石

器に関しても同様のことが言え、両者をあわせて解釈していかなければならないことは言うまでもない。

さて、第1 - 1群土器は器形と文様によって1類から8類に分類して掲載している。総出土点数は、接合作業を経て3,288点で、各類は、細かな特徴を基に細分を行っている。出土状況は、その大半がH17年度調査区からの出土であり、U~X - 8・9区を中心に出土しているが、調査の安全上、掘り下げを断念した未調査部分を併せて考えると、東西に落ち込みながら北側へ先細りする標高0.4m ~ -0.4mの範囲に集中していると言えよう。

1 1類土器(第18図1~70)

口縁部に刺突文や沈線文を横位に施し、胴部は沈線文を組み合わせて方形を意識した文様構成が展開するものである。接合作業を得て109点がこの類に属し、この内70点を図化した。刺突文のあるものを1a類(1~10)、ないものを1b類(11~13)とした。1c類は、口縁部を欠損するものを一括した(14~70)これらは、さらに内面施文の特徴でも細分が可能であったが、これについては個別説明で補い敢えて細分は行わなかった。

1・2は同一個体である。口縁部に刺突文と沈線文とを交互に施し、胴部は縦横位の沈線を組み合わせる。刺突文と沈線文とは同一工具による可能性がある。3は、胴部の沈線がやや長く、縦横というよりは斜位に近い。4は、口縁部刺突文直下から胴部文様パターンが施文されている。口縁部の刺突文は、部分的に貼り付け粘土によって消されている。5・6は施文具幅が4mmと太めで、6には口縁部に装飾状の突起が認められる。7は、胴部X字状の沈線文を四角形の枠で囲うように施文されている。9は、口縁部上位にある横位刺突文が弧状を呈し、その上には横位の沈線が施されている。10はやや下膨れ状の器形を呈する胴部最大径下の施文が上の施文によって切られている。11の胴部下位の施文は縦位施文の後に横位施文が行われ、その横位施文は整然としていない。口縁部の沈線は始点が右にあり、終点が左にある。1.4cmの粘土紐積み上げが確認出来る。12の内面施文は、横位の沈線文施文の後に刺突文が施されている。13の沈線文は右に始点がある。14~18は口縁部上端を欠損する資料である。14の口縁部内面の刺突文が弧状を呈している。19は、胴部から底部が残存している。底部は蜘蛛の巣状で、胴部施文との境は部分的にナデの痕跡があり文様がやや不鮮明である。胴部最大径より下では、縦位沈線文の後に曲線文を重ねる。最大径上では縦横位の沈線文が組み合わさり、その間に刺突文が施文される。20は底部中央に向かって沈線文が施される。胴部最大径下位の文様帯では、縦位沈線文の後沈線で楕円形が描かれている。内面は丁寧なナデである。21は、幅4mmの工具により刺突文と沈線文とを施文している。縦位沈線文は上から下

へ、横位沈線文は右から左へと施文されている。22は、幅1.2cmの粘土紐である。24は、横位沈線のち縦位沈線文が施され、施文は上から下へ施される。26は、施文終了後に横ナデが施されている。28は、胴部屈曲部に粘土の接合面がある。30は、図化した以上に内傾する可能性もある。57は、わずかに口縁部内面施文である横位の沈線文が残っている。

2 2類土器(第26図71~179)

1類の胴部沈線文が斜位による組合せのものである。接合作業を得て187点がこの類に属し、この内109点を図化した。1類同様に、刺突文のあるものを2a類、ないものを2b類と細分した。

71~84はa類である。71は、斜位沈線文を組み合わせている。施文は、右下がり左下がりに切られている。72は、幅4mmの工具で施文される。内面の沈線は、右から左へ引かれる。78は、小型の土器である。胴部施文が底部施文を切っていることから、底部 胴部の順で施文されていたことがうかがえる。胴部の斜位沈線は、上から下へ施文され沈線文を切るものもある。底部文様の胴部近くはナデ消されており、底部施文の後、胴部施文を施す前にナデ調整を施している。79の施文具はやや鋭い。81は小型土器である。粘土接合面で剥離している。82は、口縁部にアクセントがある。横位の沈線文は右から左へ施文され、間に刺突文が入るが左右のバランスが悪い。83は、瘤状の貼り付けがある。

85~98はb類である。胴部施文の後に口縁部の横位沈線文が施されている。91は、横位沈線文が多条である。92は、内外面共に器壁の凹凸が激しい。94は、口縁部の横位沈線文間に縦位沈線文が施される。99~179は口縁部を欠損するなどして全体像が掴めなかったものを一括して2c類とした。100は、胴部屈曲部で剥落している。だが、接合面は他の資料と比べてフラッシュであり、あるいは焼成前に剥落していたのか、あるいはこちらが口縁部であるのか判断が付かない。101は斜位の沈線文が長い。口縁部と胴部との施文具が異なっている。102は鋭い工具で施文されている。105は、胴部施文の後に口縁部が施文されている。横位沈線文間に2列の連点文が垂下する。106は、胴部の沈線文は下から上へ施文されている。115は2cmの粘土紐で積み上げられている。119は、胴部の横位沈線文のち斜位沈線文が施され、その後に口縁部文様が施文されている。130は、長い沈線文の後に刺突文が施される。135は小型の土器である。137は小型の土器で太い沈線で施文されている。140は薄手である。174は、器高が低い。底面の施文は、中心から外側へ放射状に施文される。胴部との境には横位沈線文が施されるが、これが胴部施文によって切られている。胴部施文は、口縁部を上にした場合で下から上へ施文され



(1グリッド 10m×10m)

第6図 遺構配置図



(1グリッド 10m×10m)

第7図 遺構配置図 (V~X区)

8

9



① 1号集石



② 2号集石



③ 3号集石



④ 石斧デボ



⑤ 磨石デボ

図版3 遺構検出状況



① V~X-9区周辺



② 211出土状況



③ 609出土状況

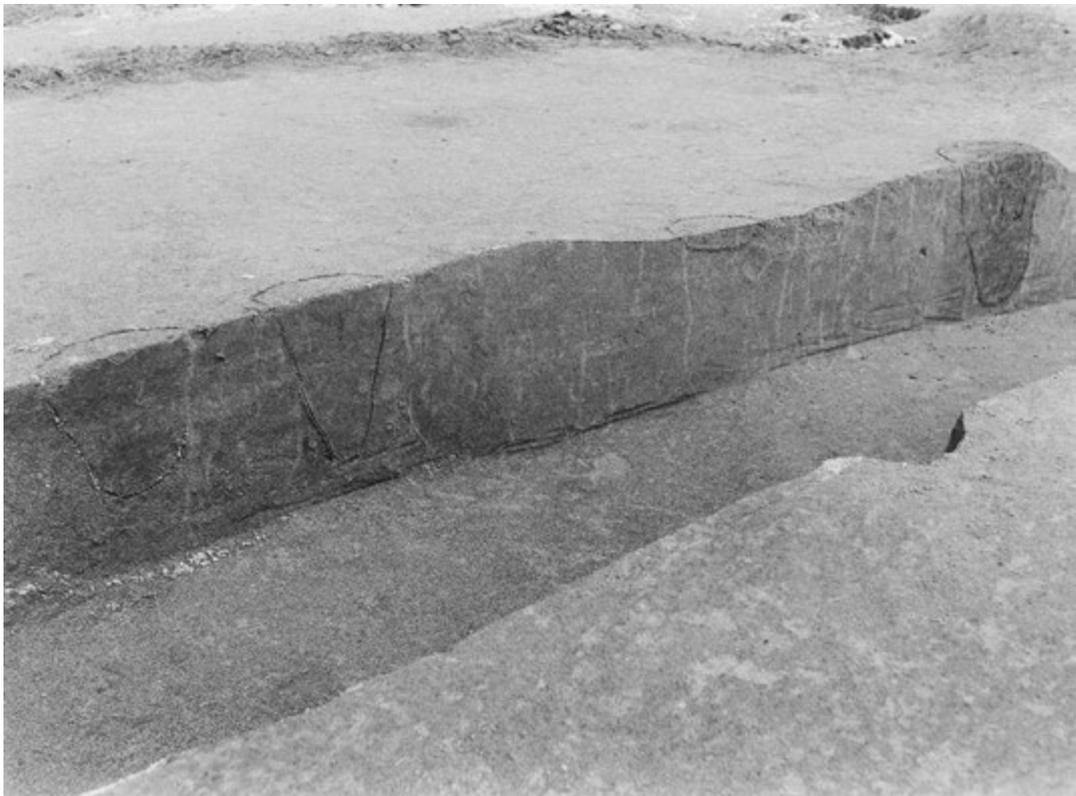


④ 581出土状況

図版4 遺物出土状況

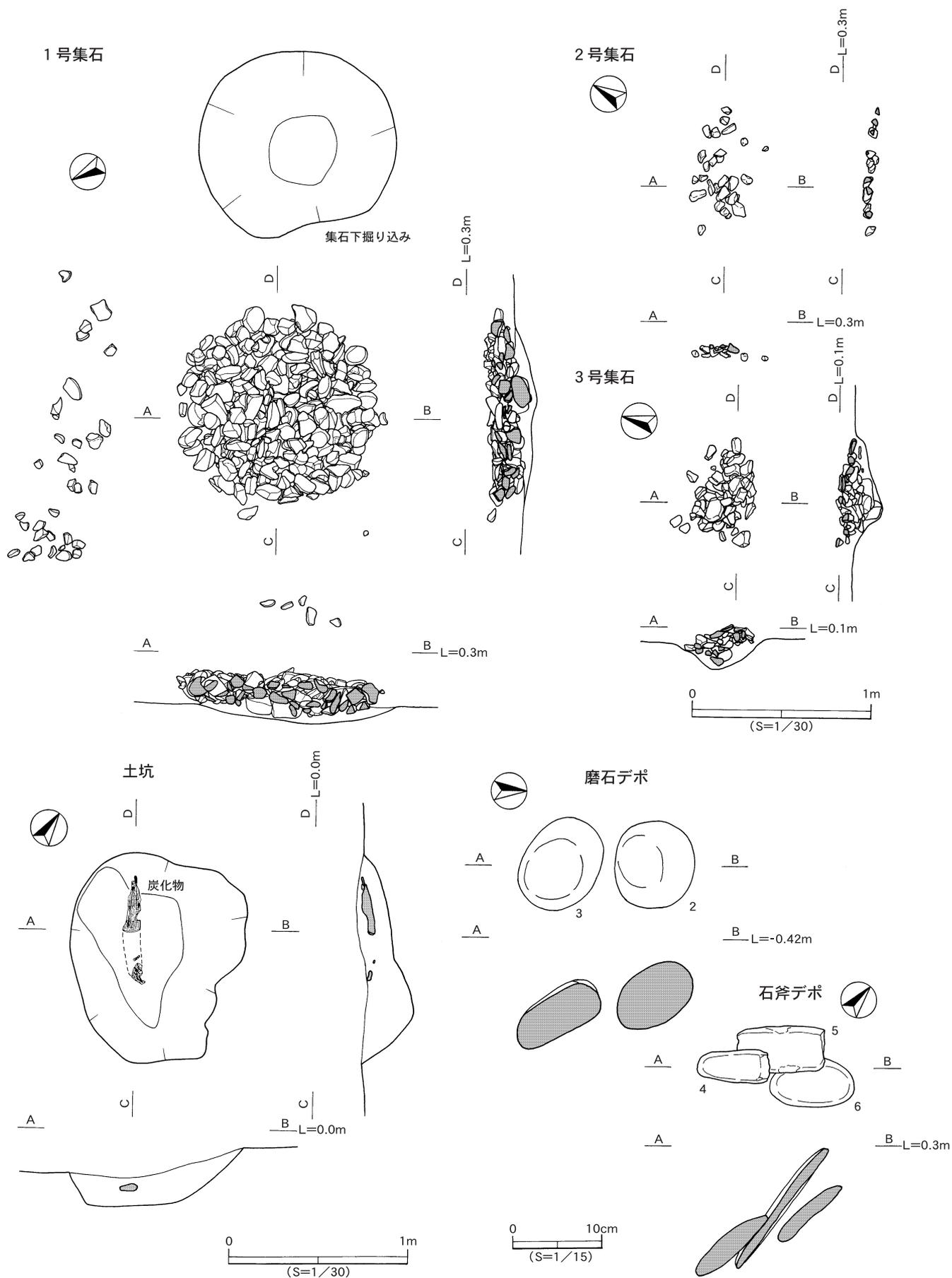


① 4号焼土

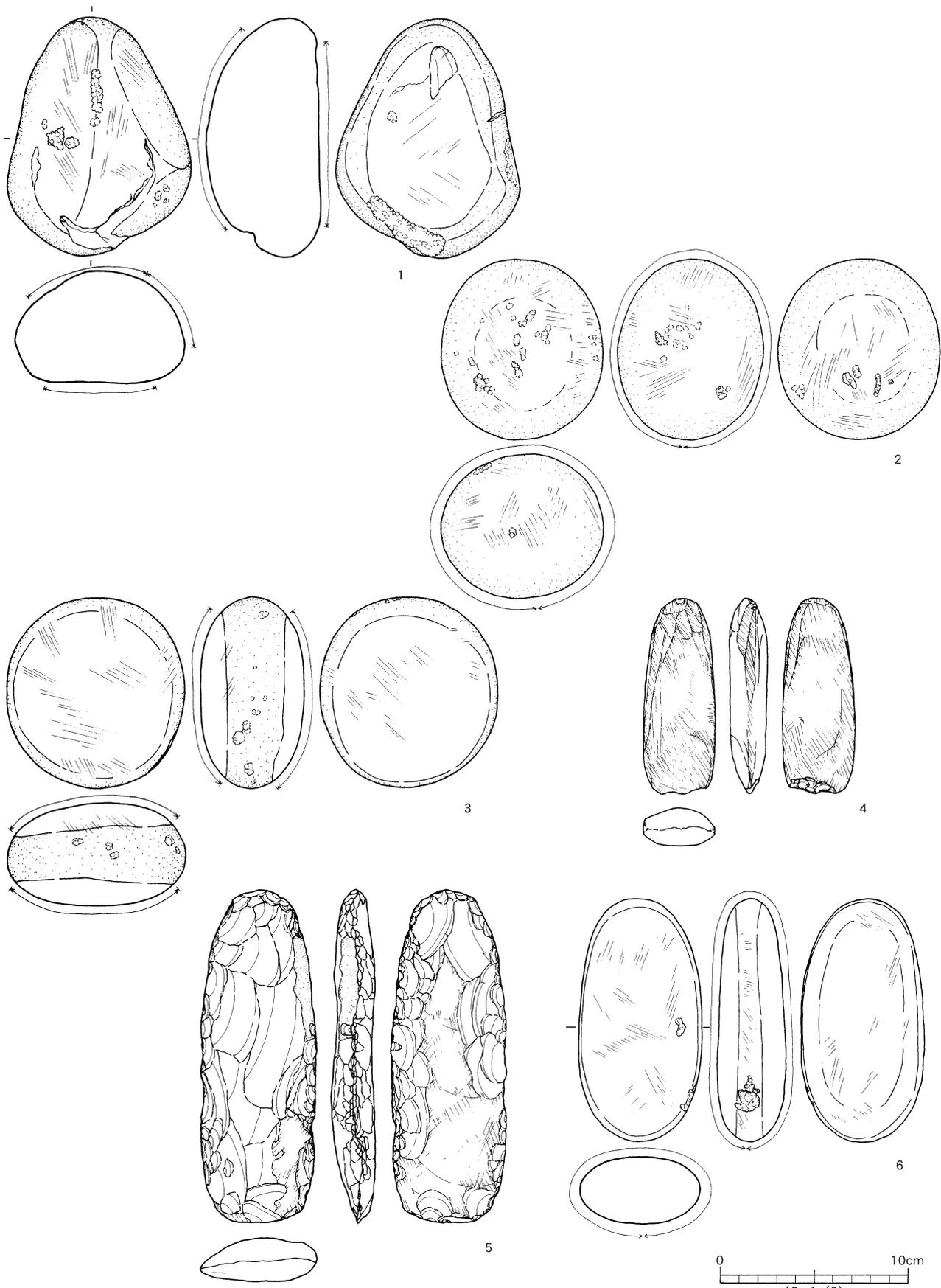


② W-9区検出のピット

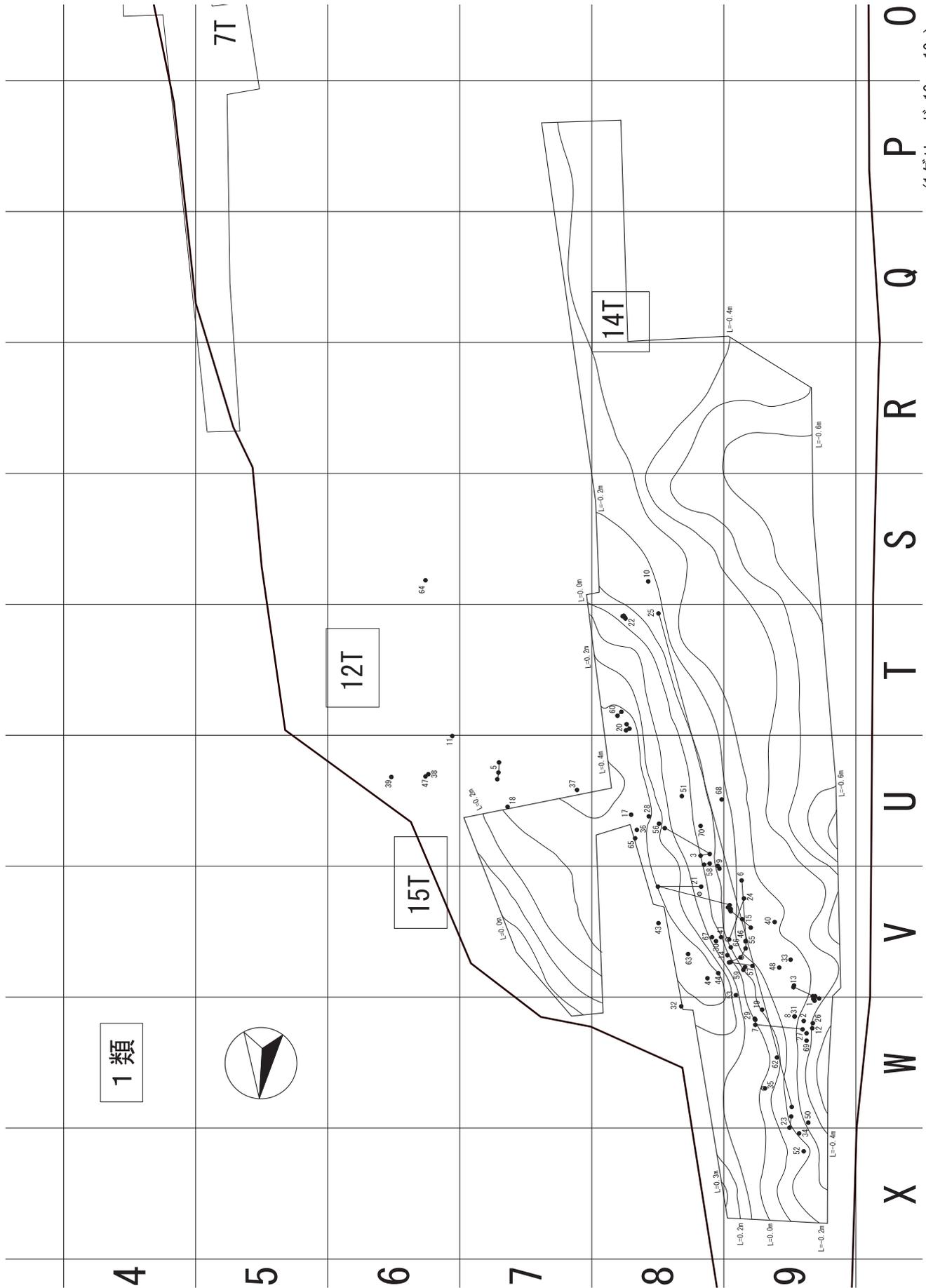
図版5 焼土・ピット検出状況



第8図 遺構実測図

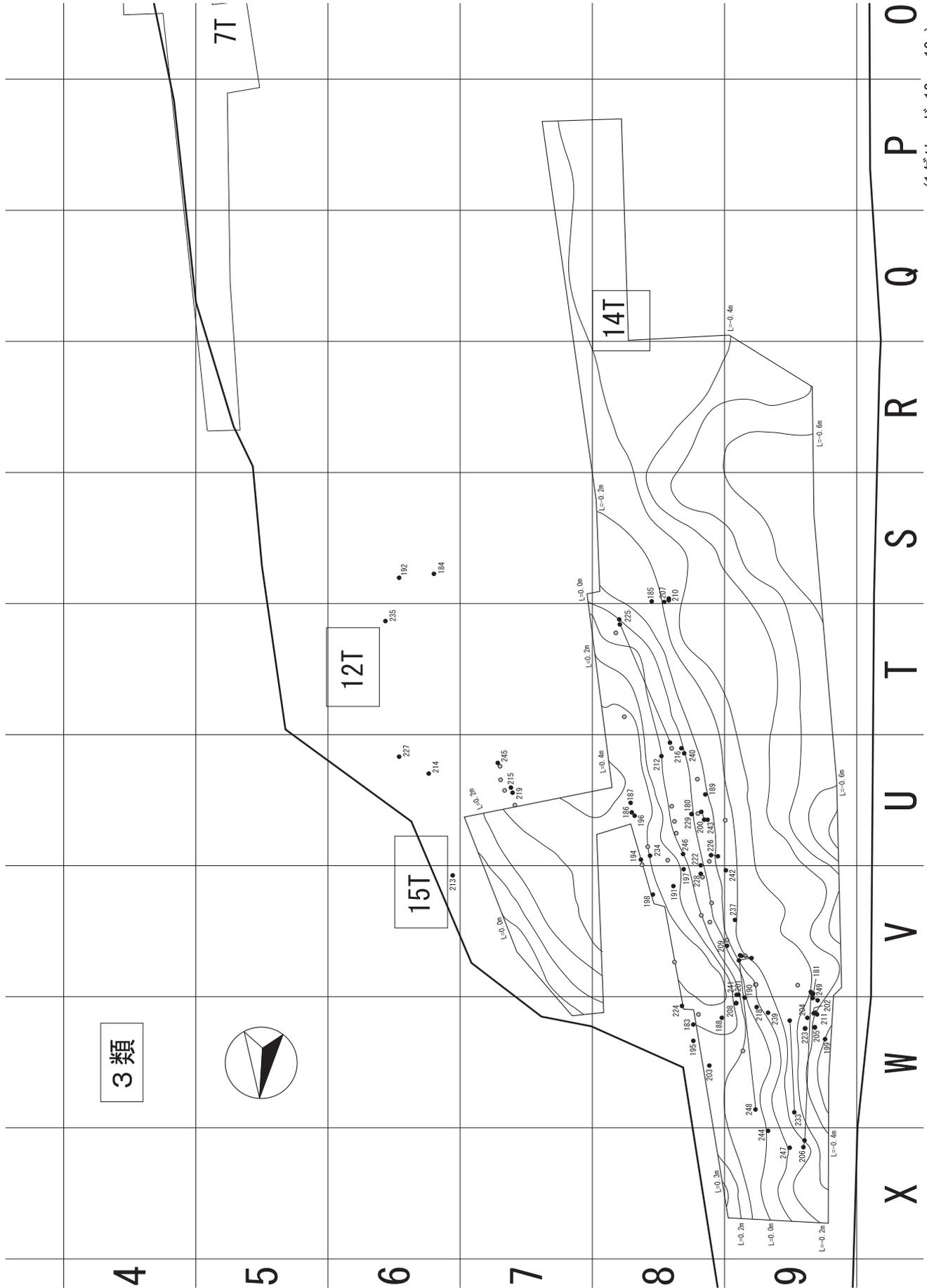


第9圖 遺構内出土遺物

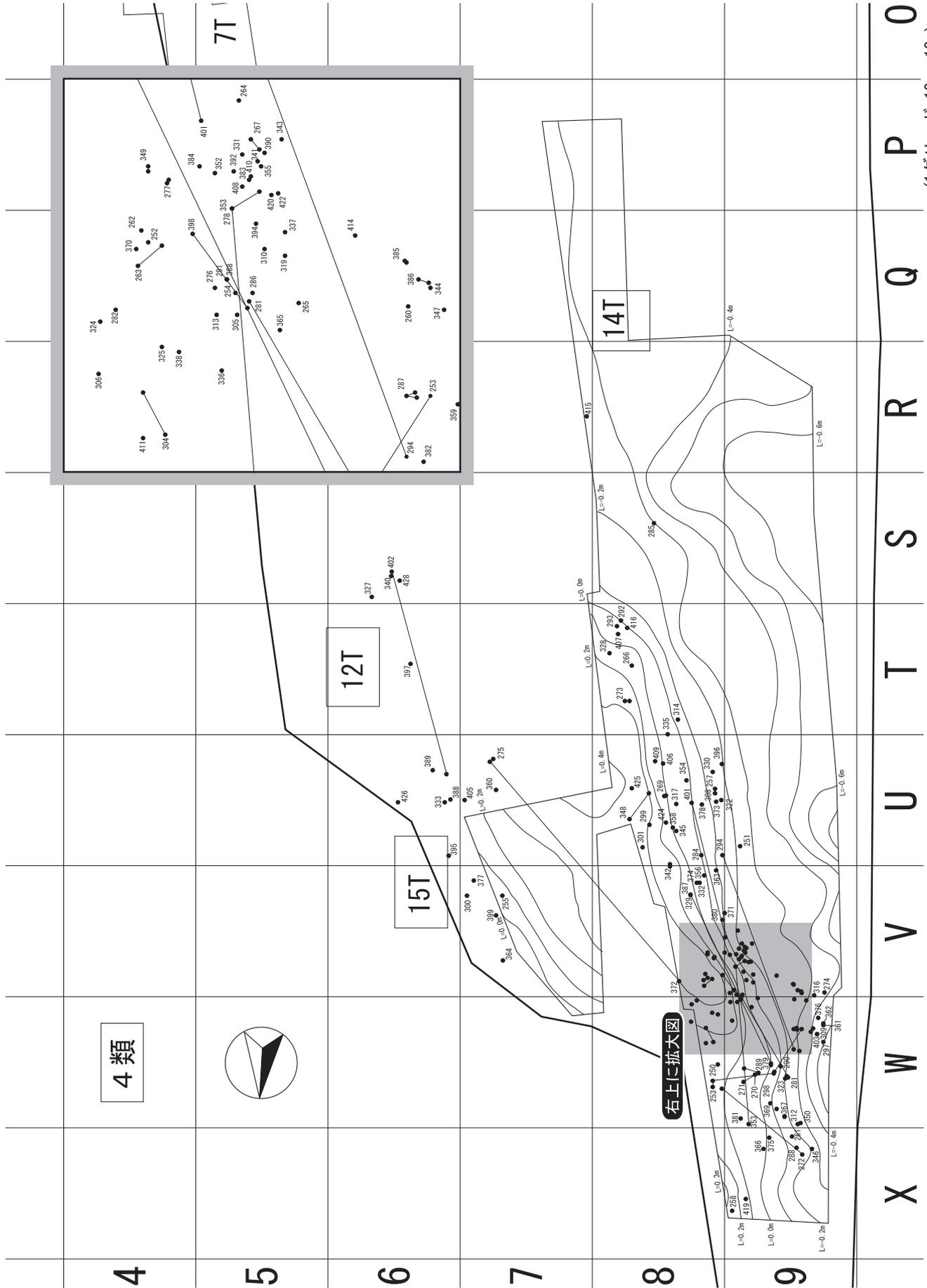


(1グリッド 10m×10m)

第10図 1類土器出土状況図

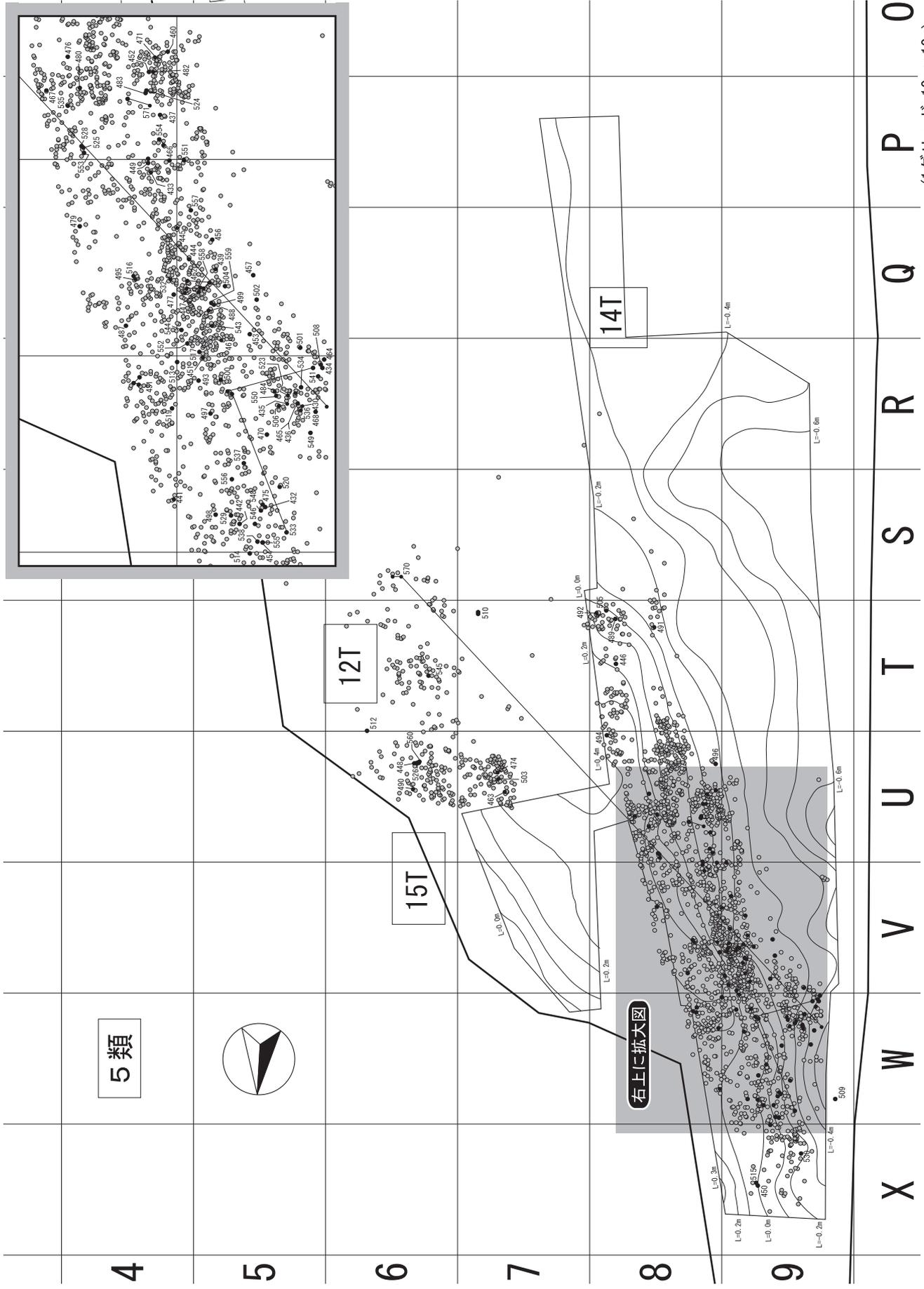


第12図 3類土器出土状況図



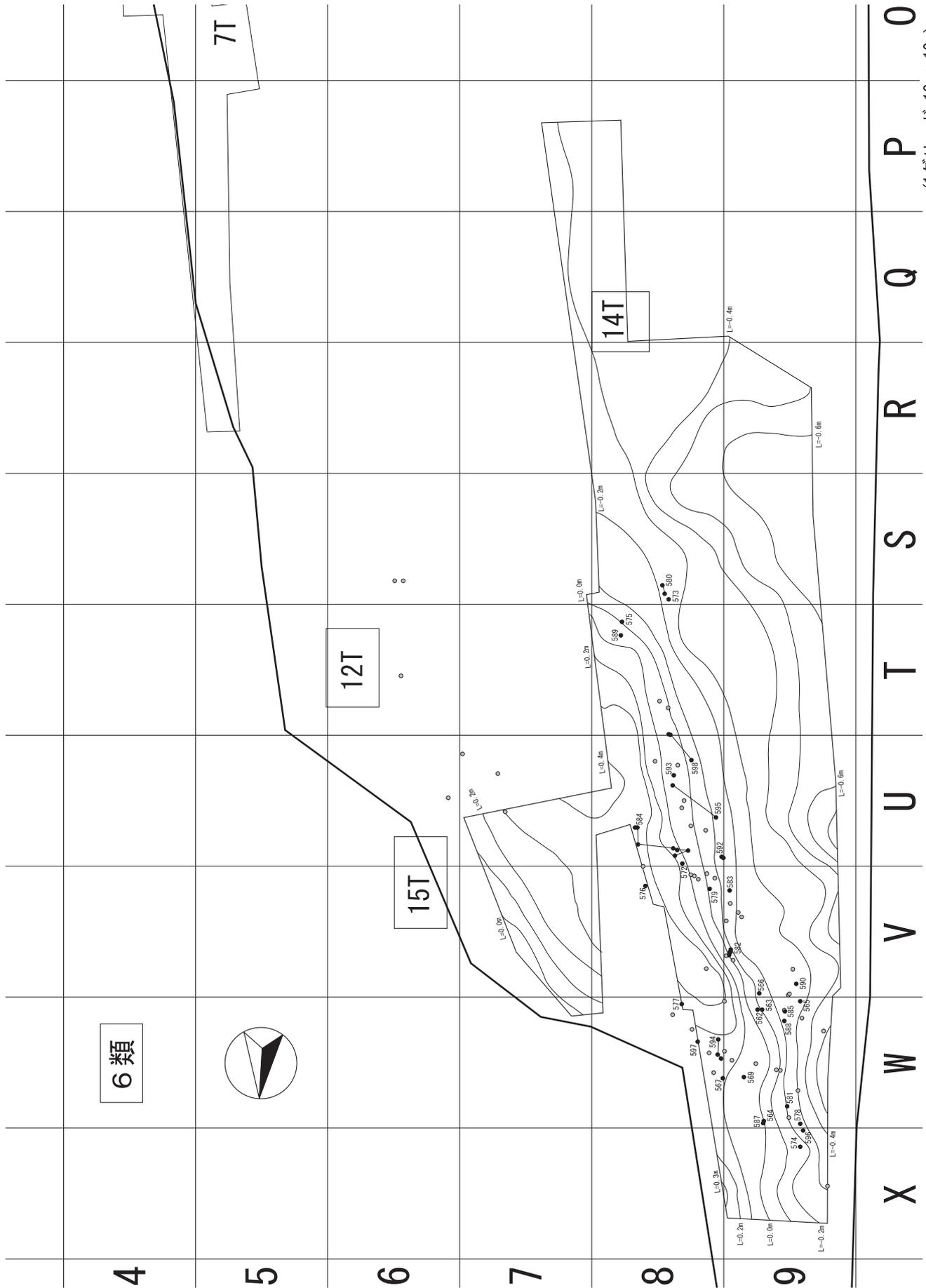
(1グリッド 10m×10m)

第13図 4類土器出土状況図



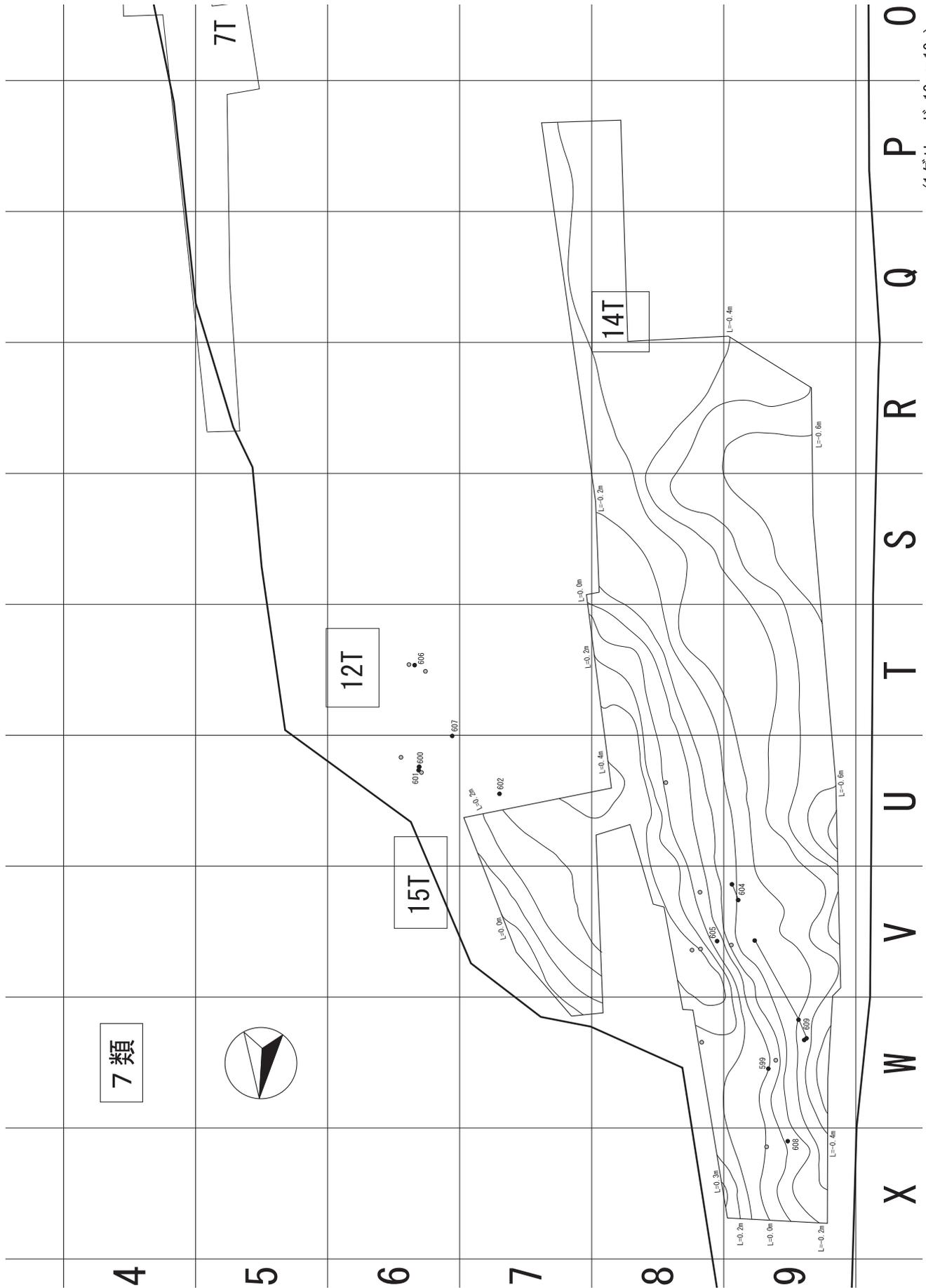
(1グリッド 10m×10m)

第14図 5類土器出土状況図



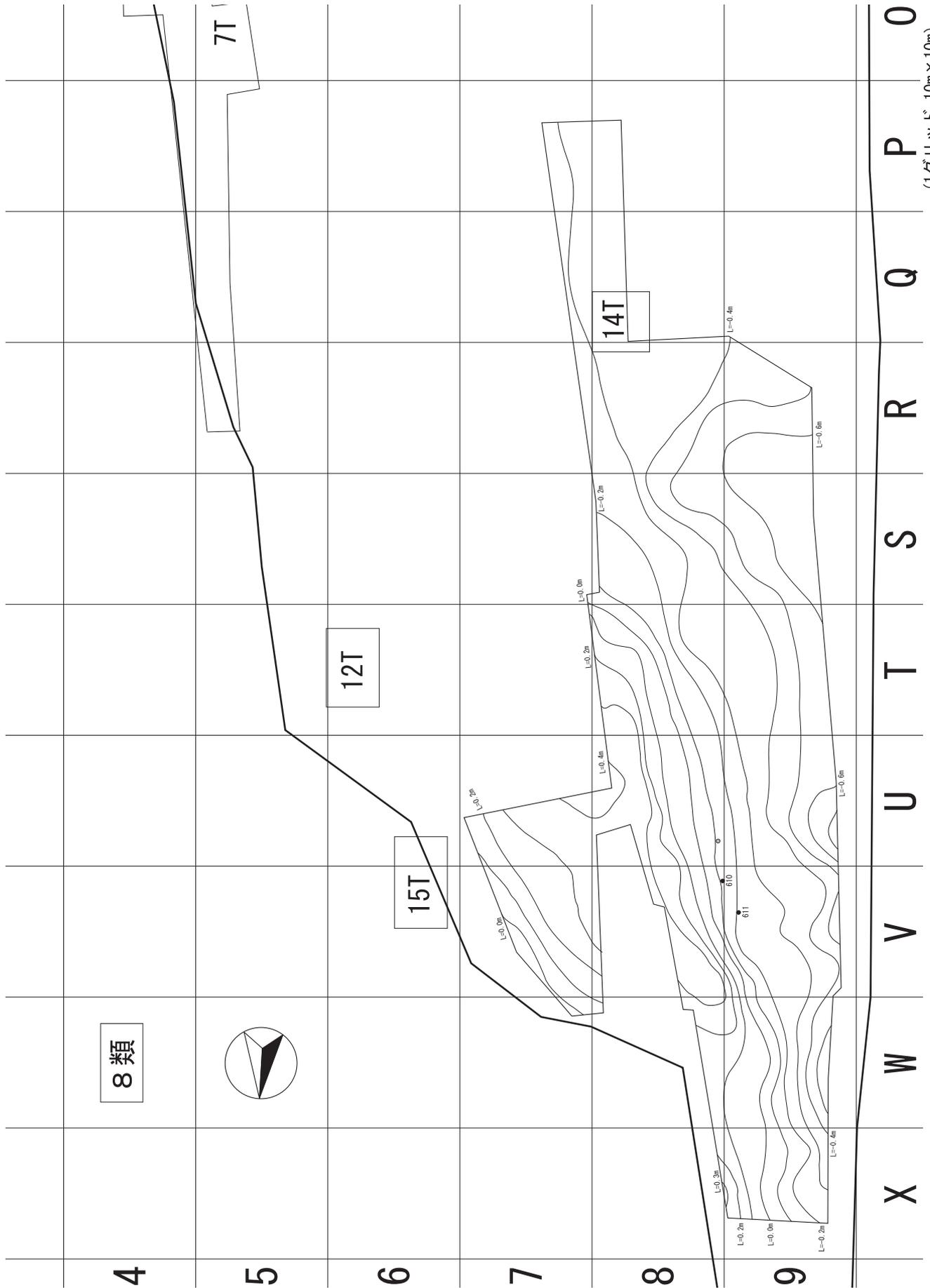
(1グリッド 10m×10m)

第15図 6類土器出土状況図

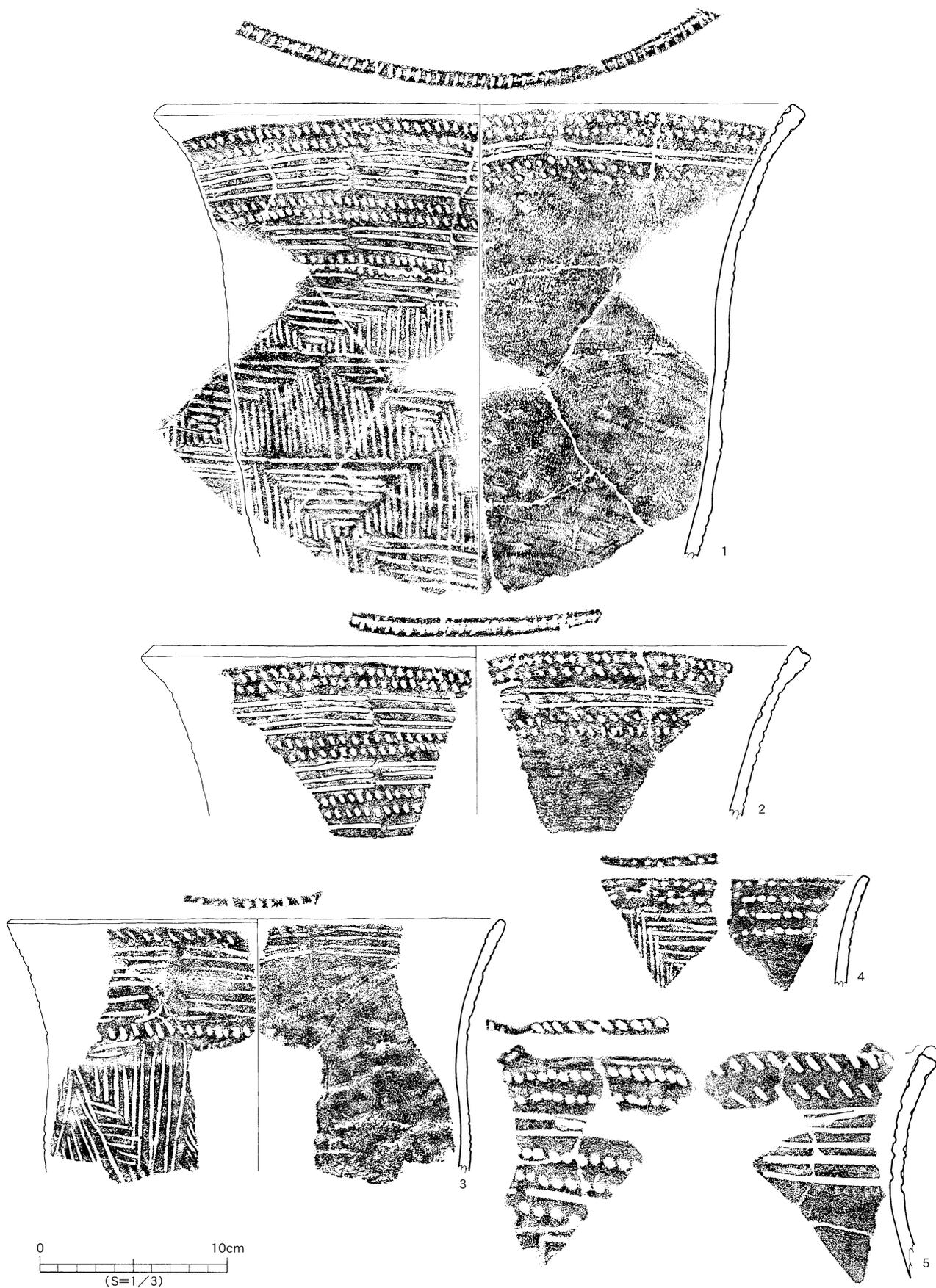


(1グリッド 10m×10m)

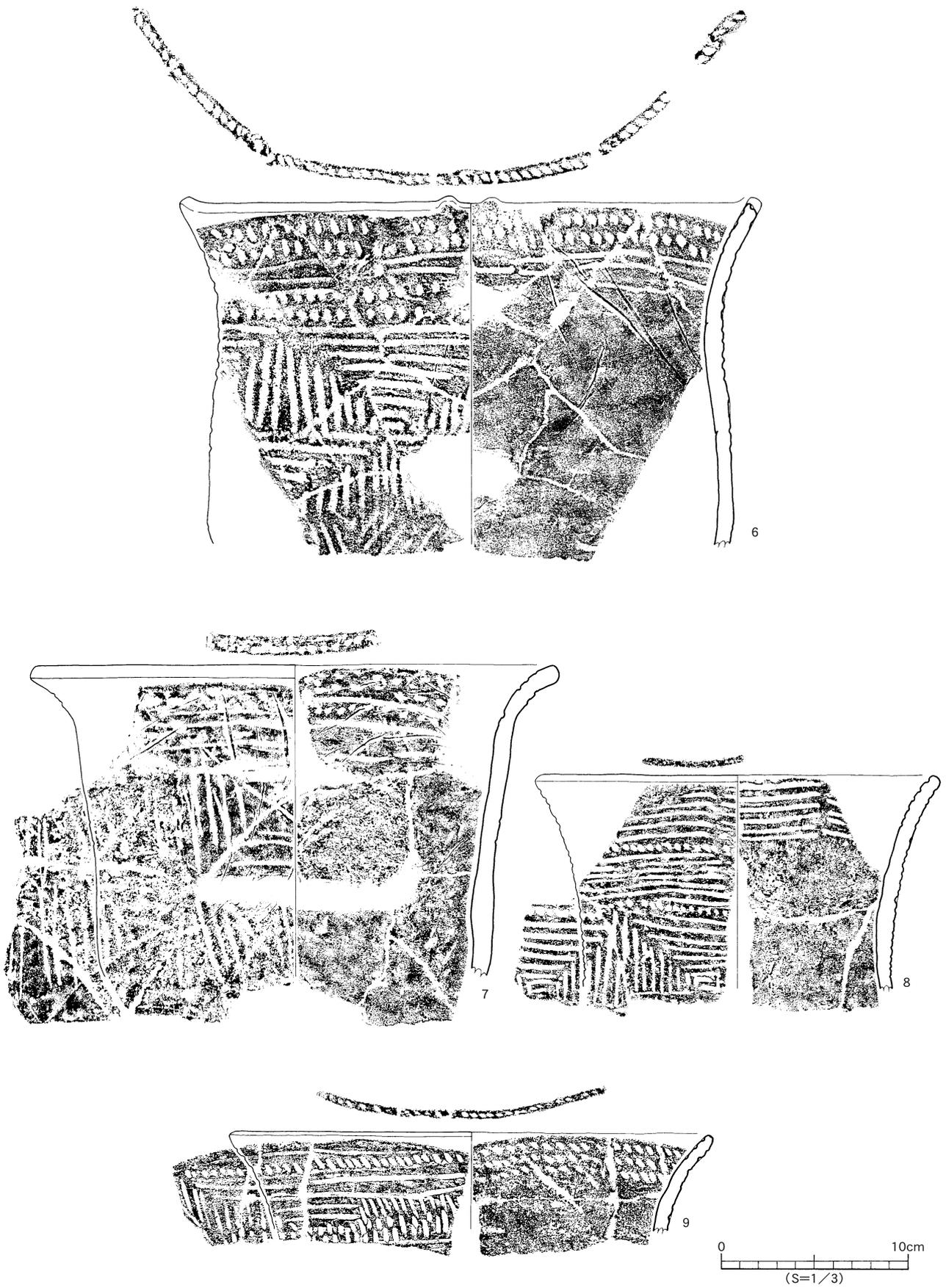
第16図 7類土器出土状況図



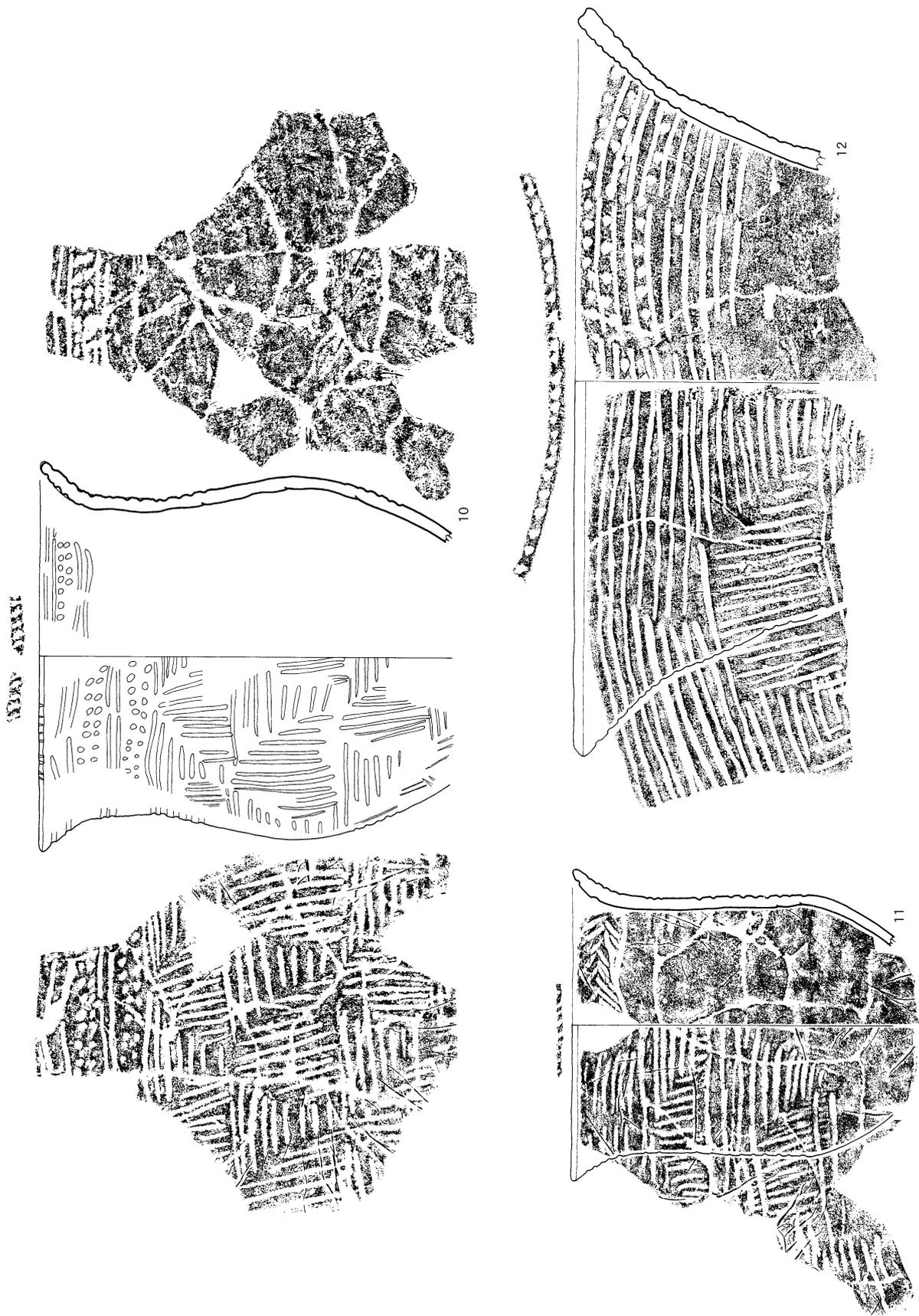
第17図 8類土器出土状況図



第18图 1類土器実測図(1)



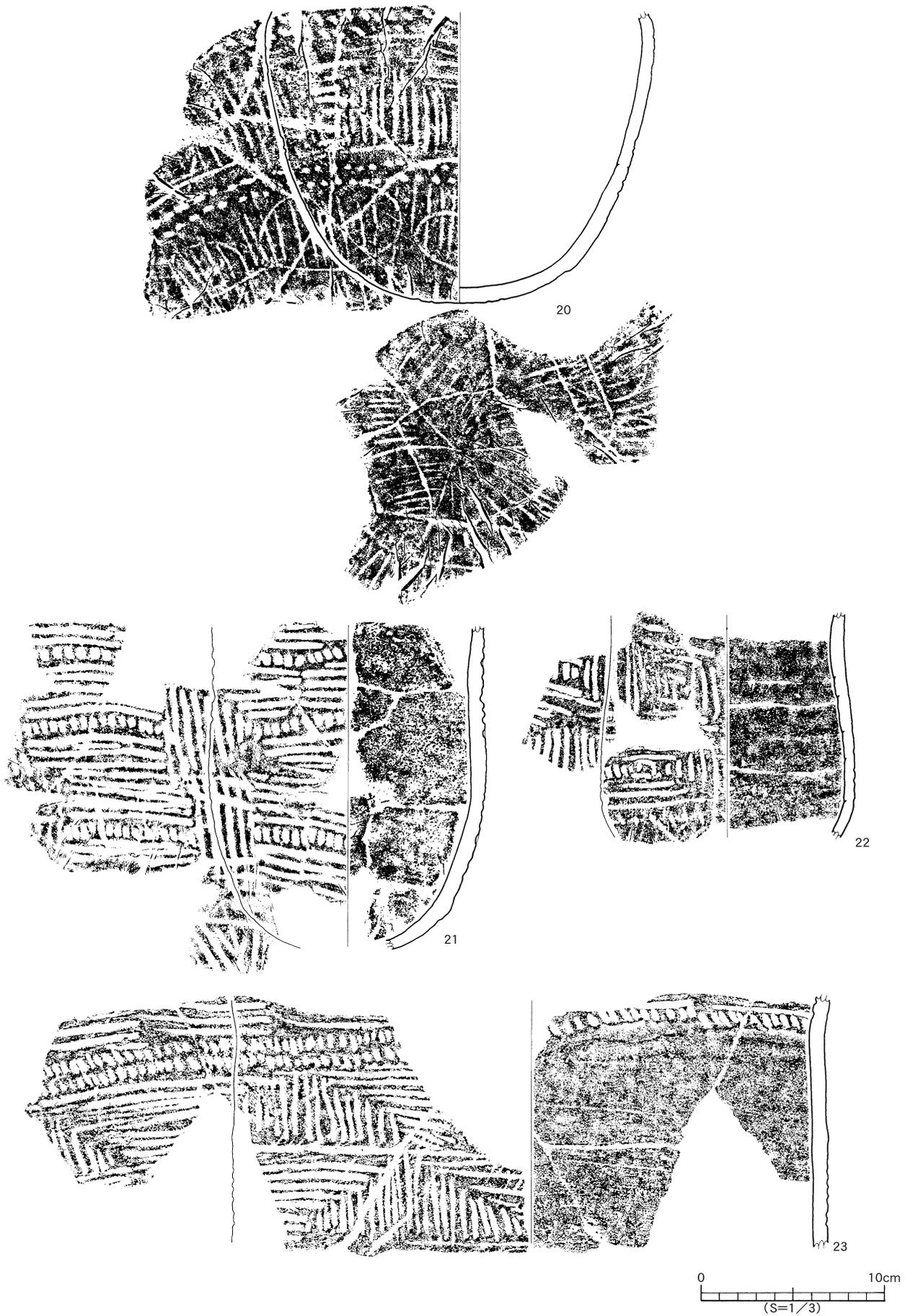
第19図 1類土器実測図(2)



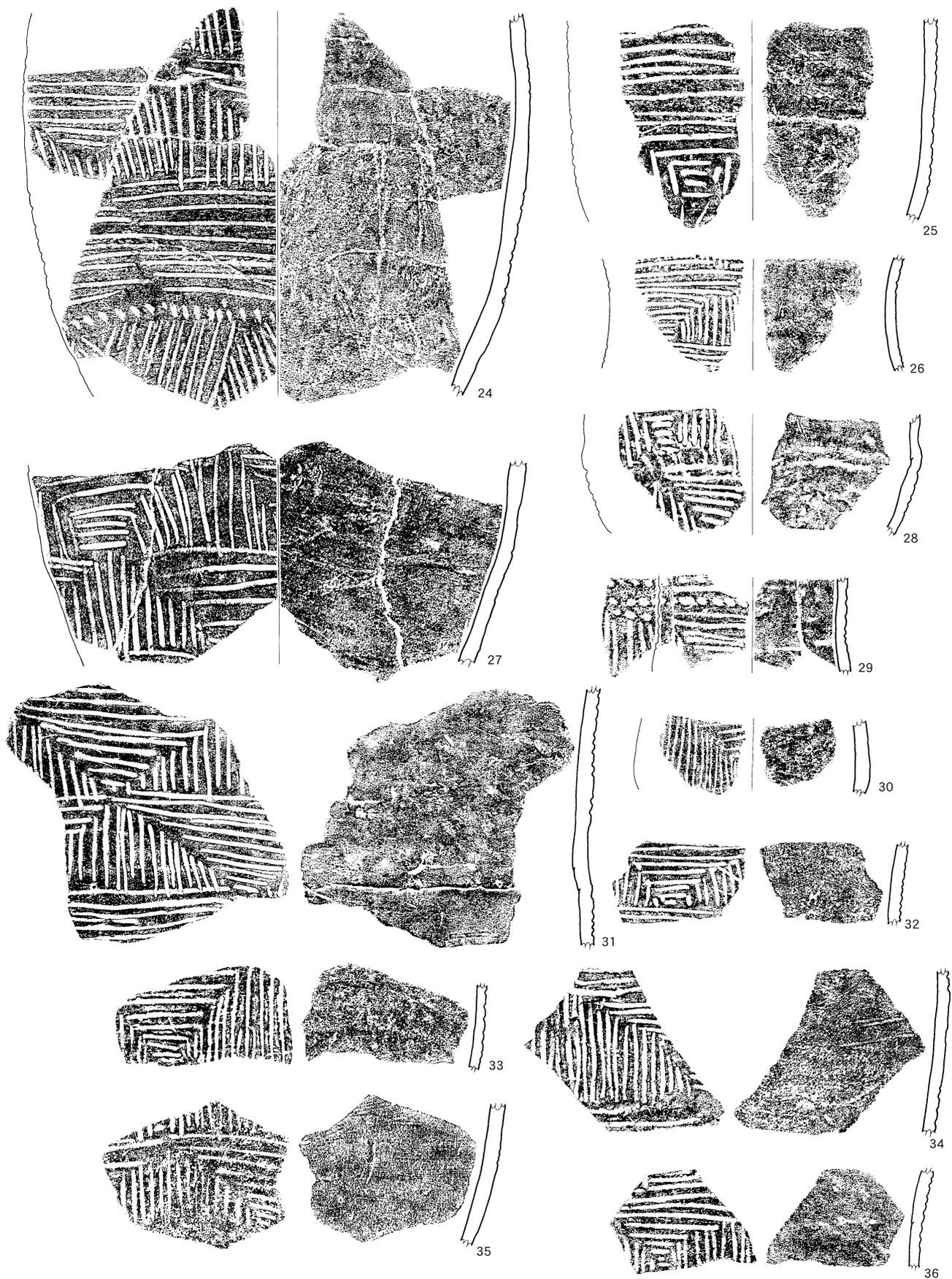
第20図 1類土器実測図(3)



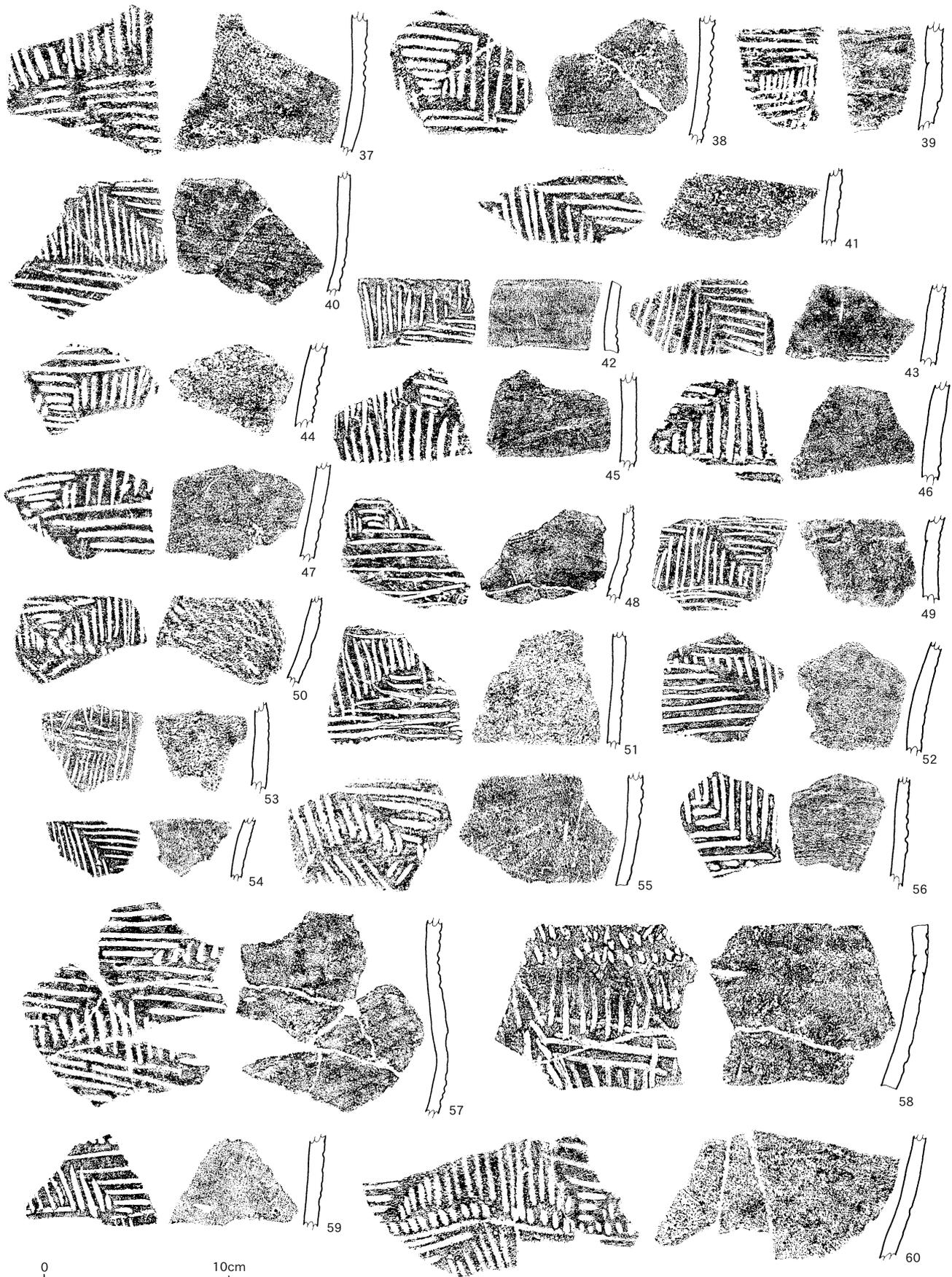
第21図 1類土器実測図(4)



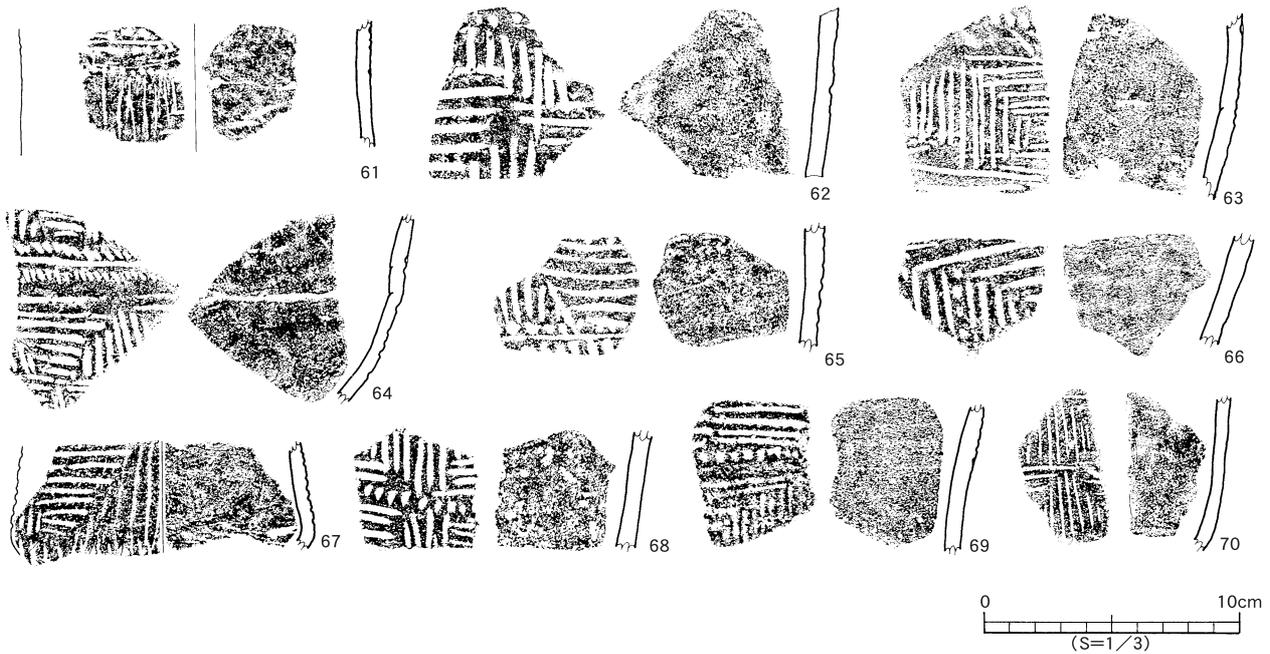
第22図 1類土器実測図(5)



第23図 1類土器実測図(6)



第24図 1類土器実測図(7)



第25図 1 類土器実測図(8)

る。口縁部には横位沈線文が施されるが、その下位にある斜位沈線文が部分的にナデ消されているため、胴部施文終了の後に口縁部付近をナデにより器面調整し、そして口縁部施文をしていた可能性が考えられる。176は胴部から底部に至るまで斜位の沈線文が施される。178は底部から胴部下半まで横位沈線文がほどこされ、これを胴部の斜位沈線文が切っている。

3 3 類土器 (第38図180~249)

口縁部と胴部とに明確な施文パターンの違いが認められないもの3類とした。接合作業を得て114点がこの類に属し、この内70点を図化した。

180~199は、1類の施文パターンを口縁部から施すものである。

180は、縦位と横位の沈線文とを組合せているが、部分的に斜位の沈線文も施される。181は、縦位沈線文の間に曲線文が加わる。内面には、短い沈線文が羽状に施文される。184は、口縁部に突起が付く。194~198は内面に曲線文が施され、さらに196・199は外面にも曲線文が見られる。

200~247は、2類の施文パターンを口縁部から施すものである。

200は、斜位沈線文の後に口縁部に横位沈線文を施す。この時の横位沈線文は4条の部分と2条の部分とがあり、一様でない。201は、口縁部が最後に施文されている。施文前に入念なナデが器面全体に施されている。202は、内面に連続する弧状沈線文を施文した後に横位の沈線文を施している。204は、高さ6cmの小型土器である。底面には粘土接合面が残っており、粘土紐を巻いて底部を

作り出している。207の内面には、抉るような粘土紐の接合痕が残されている。内面拓本に見られる横位の白色部分がこれである。209の口縁部内面には斜位の沈線文が施され、さらにその下位に横位の沈線文が施される。211は、長い斜位の沈線文を組み合わせる。217は、斜位沈線文の間に縦位沈線文が見られる。233は、口縁部外端に粘土を貼り付けて、口縁部を外反させている。244は、沈線文が羽状に連続する。

248・249は横位の沈線文を基調とする。248は器高が低いタイプである。口縁部が外反して胴部で強く湾曲して底部へ至る。胴部に刺突文が2列施される以外は横位の沈線文を基調とするが、部分的に斜位の沈線文を組み合わせている。249は、口縁部が外反し、胴部で強く屈曲して底部へ至る。文様は、底面を四分割した後に沈線文を施して四角形状をなす。口縁部から胴部に至るまで横位の沈線文が施され、口縁部を上にして見た場合、左から右にやや粗雑に施文されている。

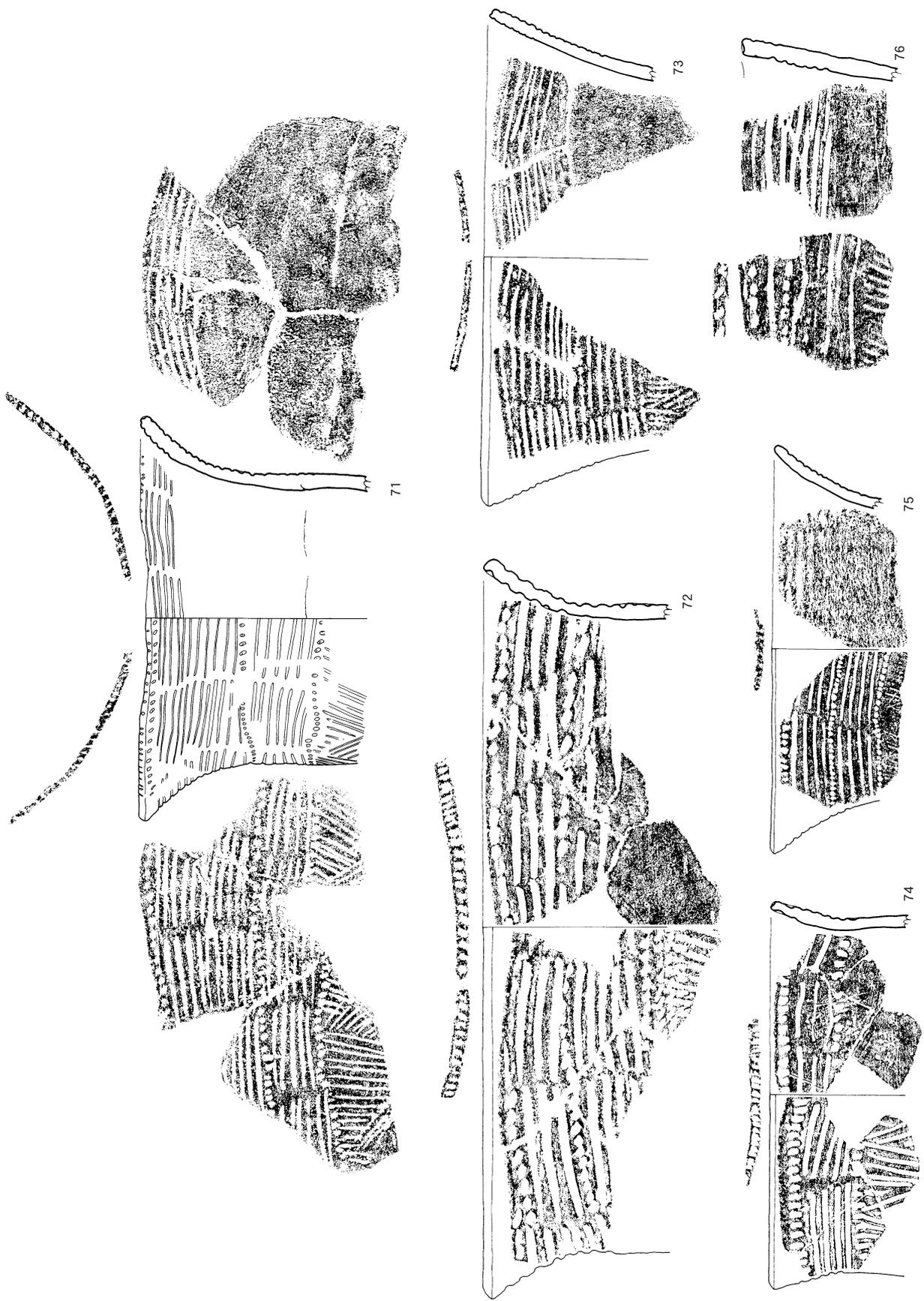
4 4 類土器 (第43図250~429)

1から3類に属さない口縁部資料を一括した。接合作業を得て212点がこの類に属し、この内180点を図化した。

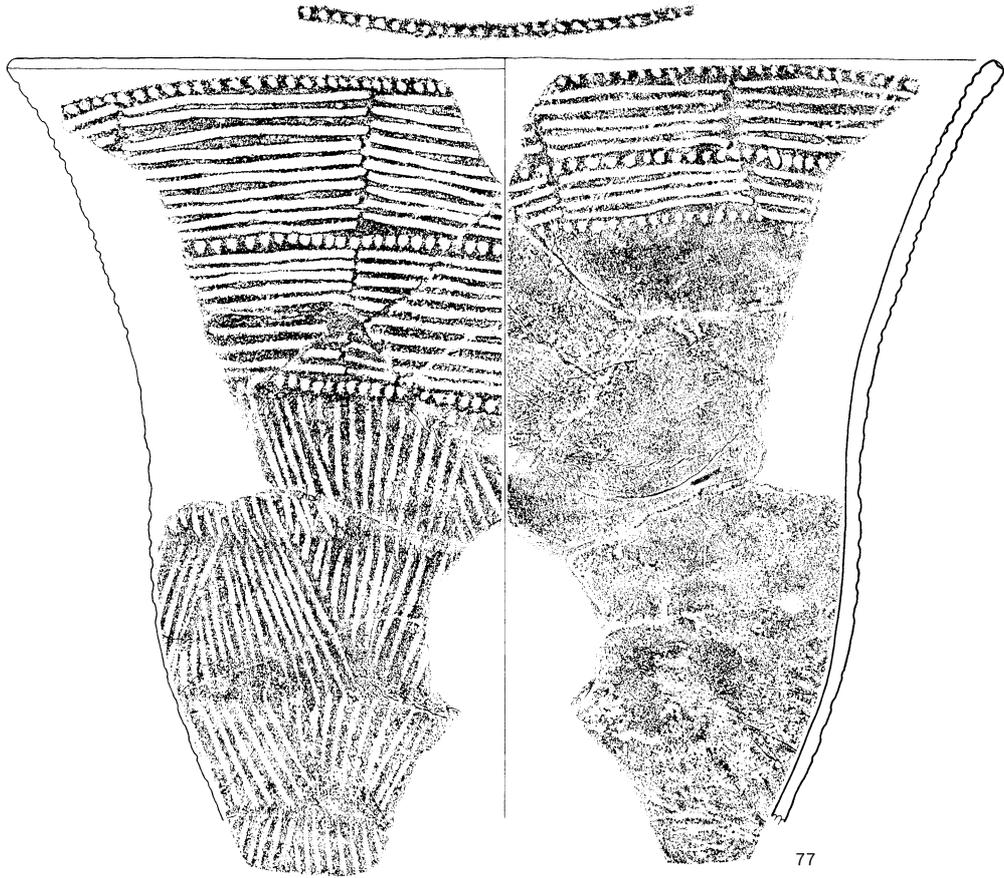
250~284は口縁部上端に刺突文が施されるものである。250~260は口縁部上端に突起などの装飾を施すなどして波状口縁を呈する。262・263は同一個体かと思われる。266の刺突文はやや間延びしている。279は平口縁として図化したのが、不安定な作りである。

285~299は口縁部上端の施文が沈線文ではじまる。292は幅4mmの工具による施文である。

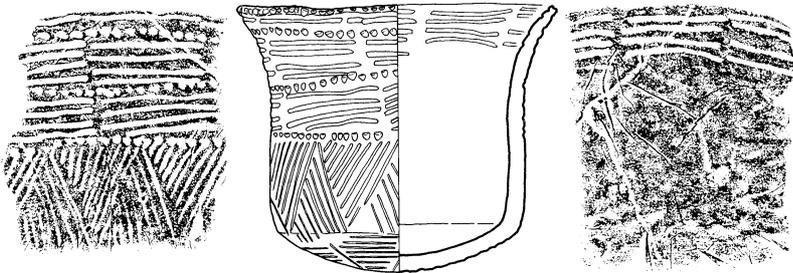
300~337は口縁部の小片である。



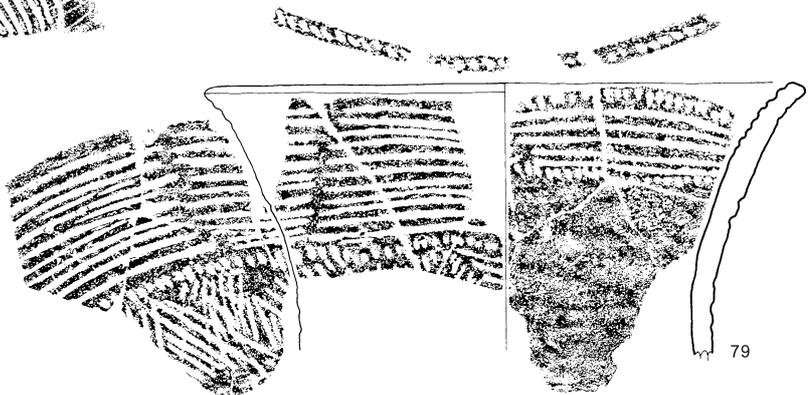
第26図 2類土器実測図(1)



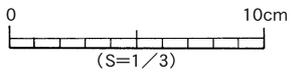
77



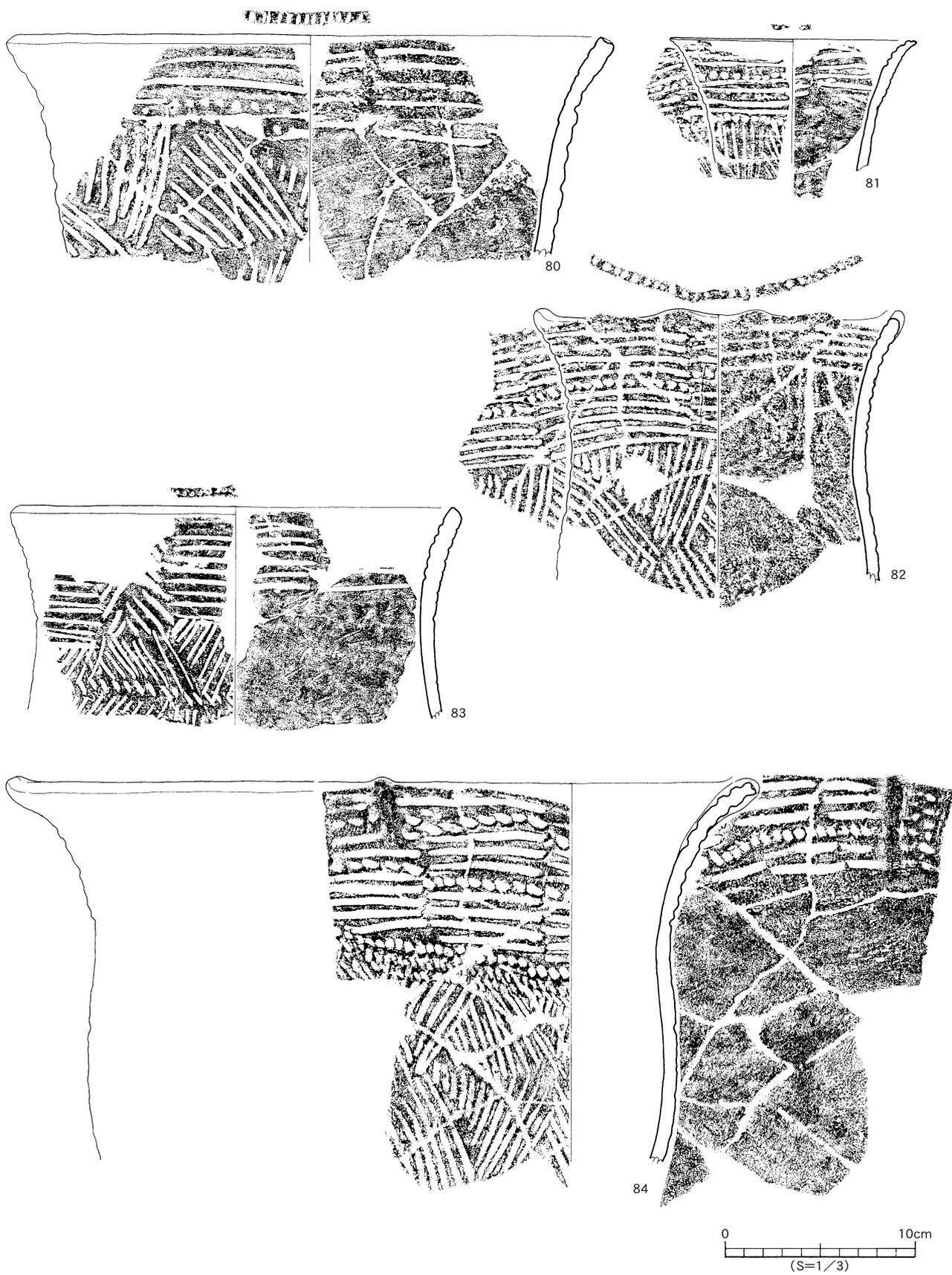
78



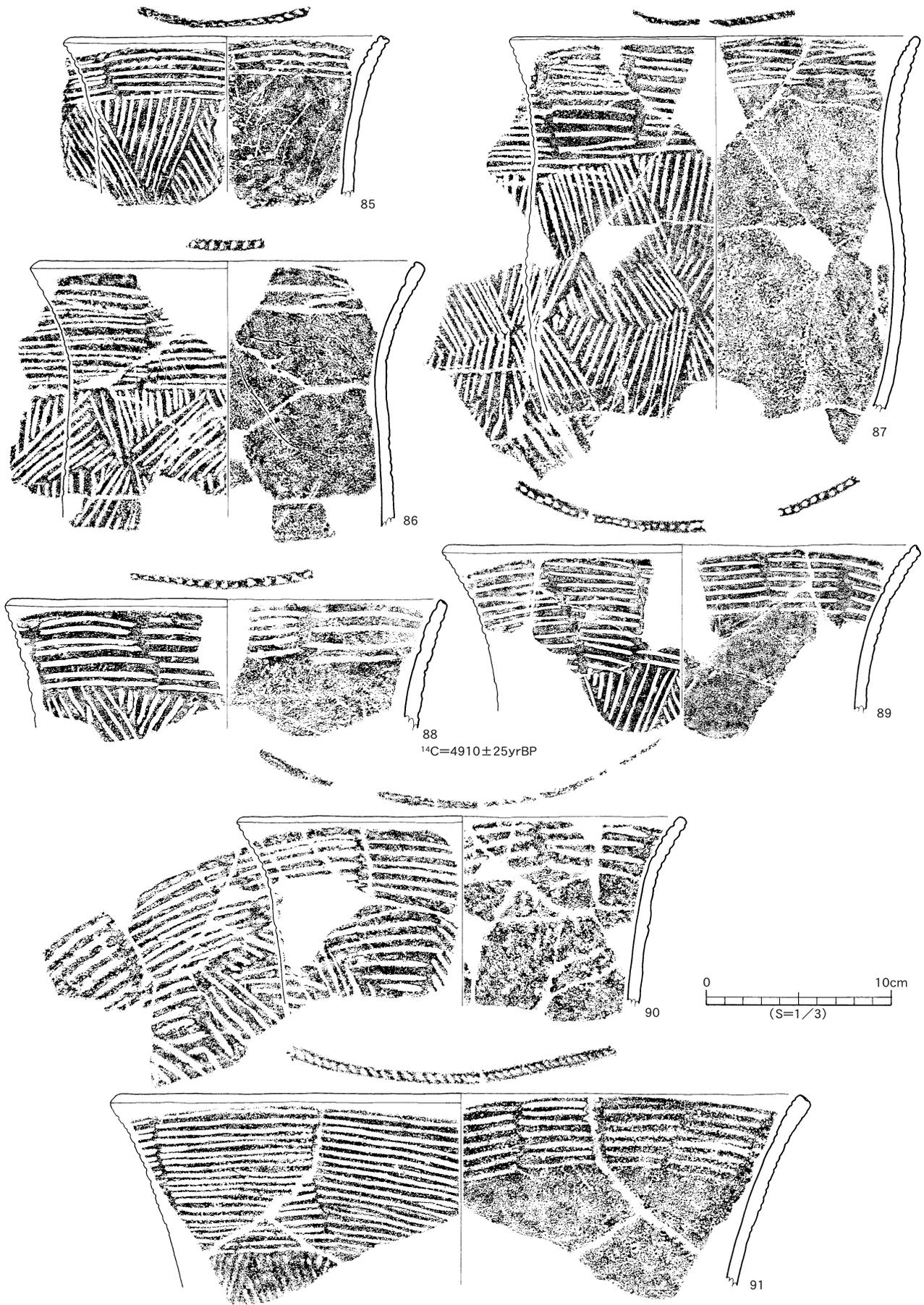
79



第27図 2類土器実測図(2)



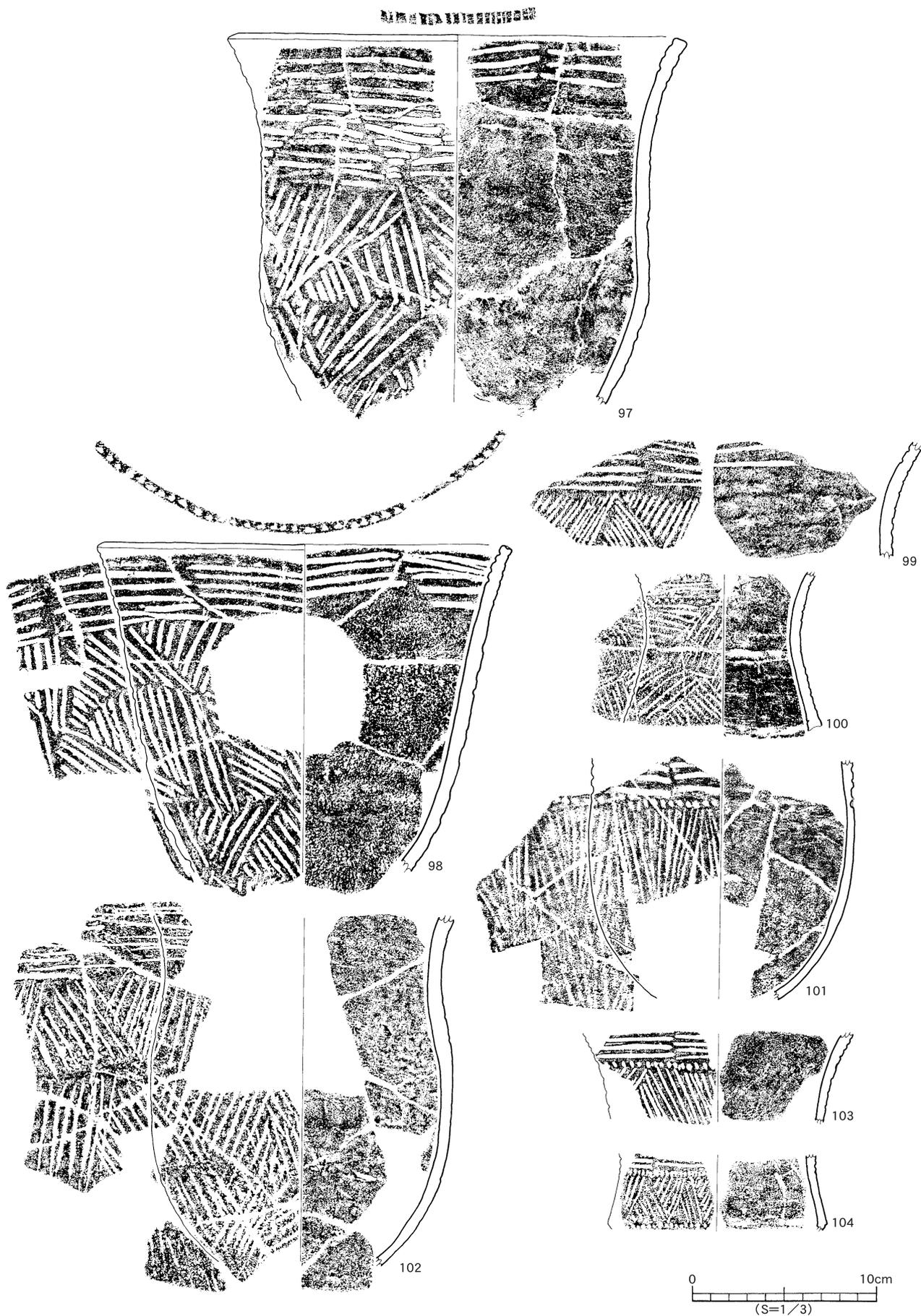
第28図 2類土器実測図(3)



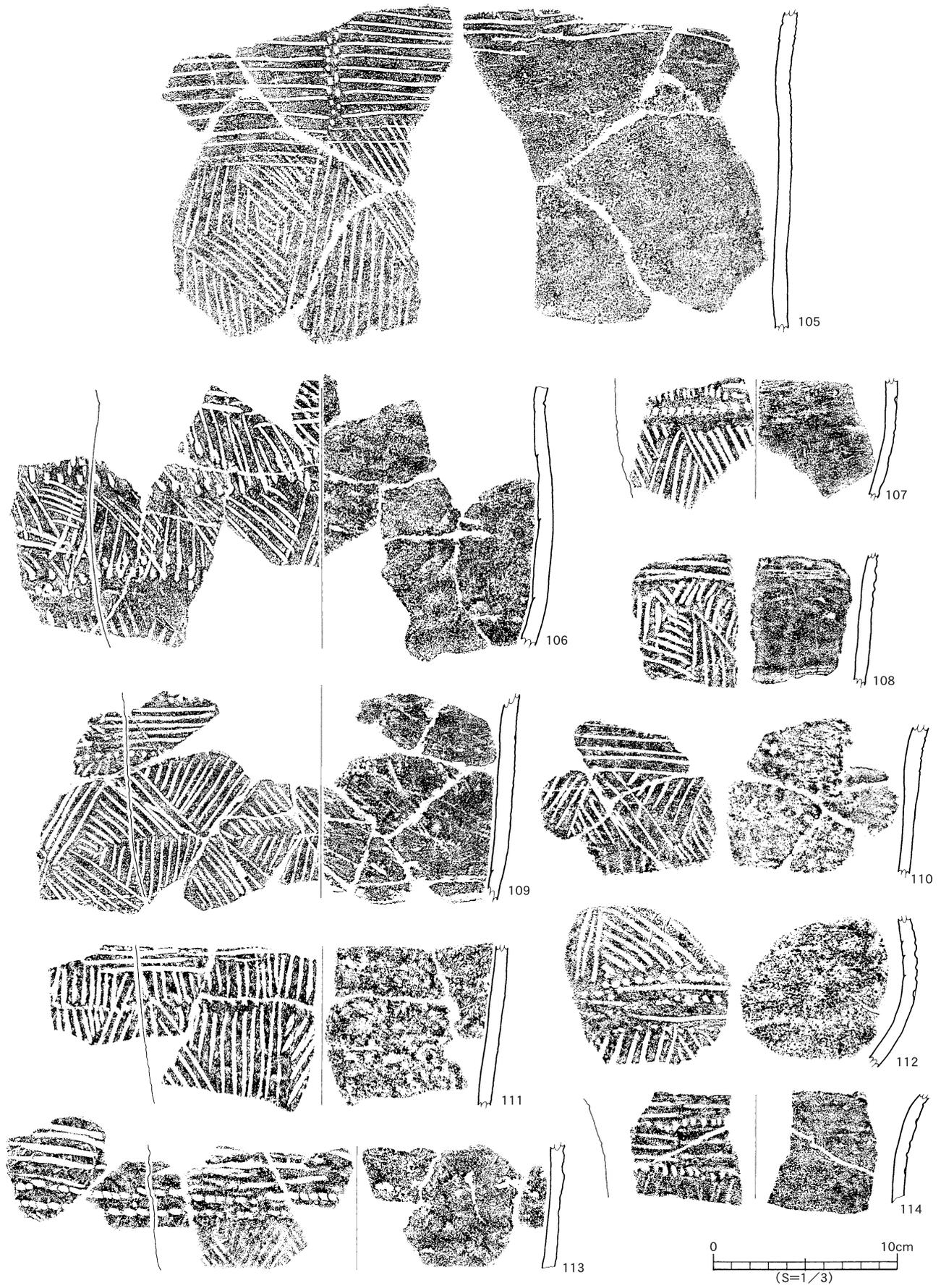
第29図 2類土器実測図(4)



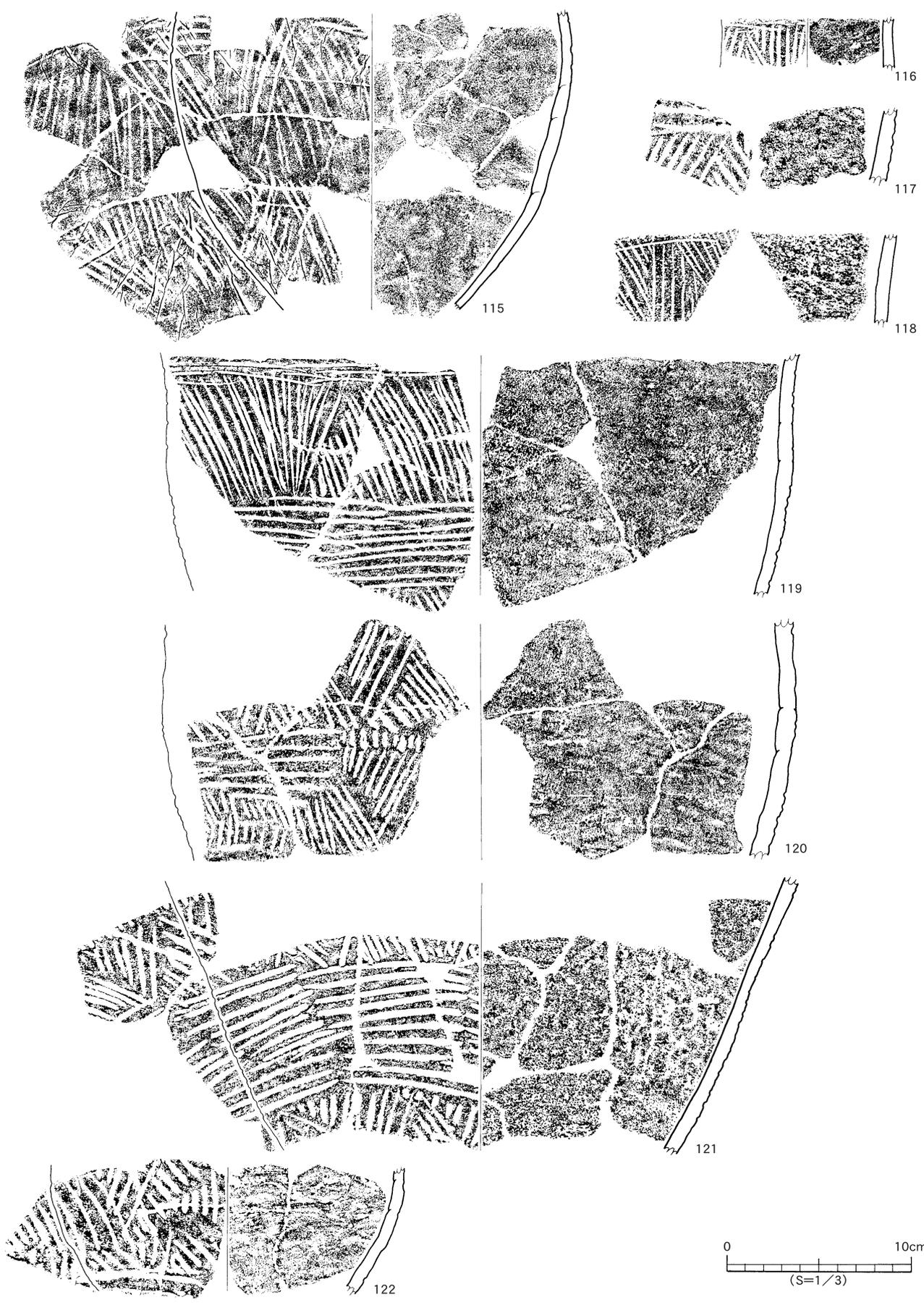
第30図 2類土器実測図(5)



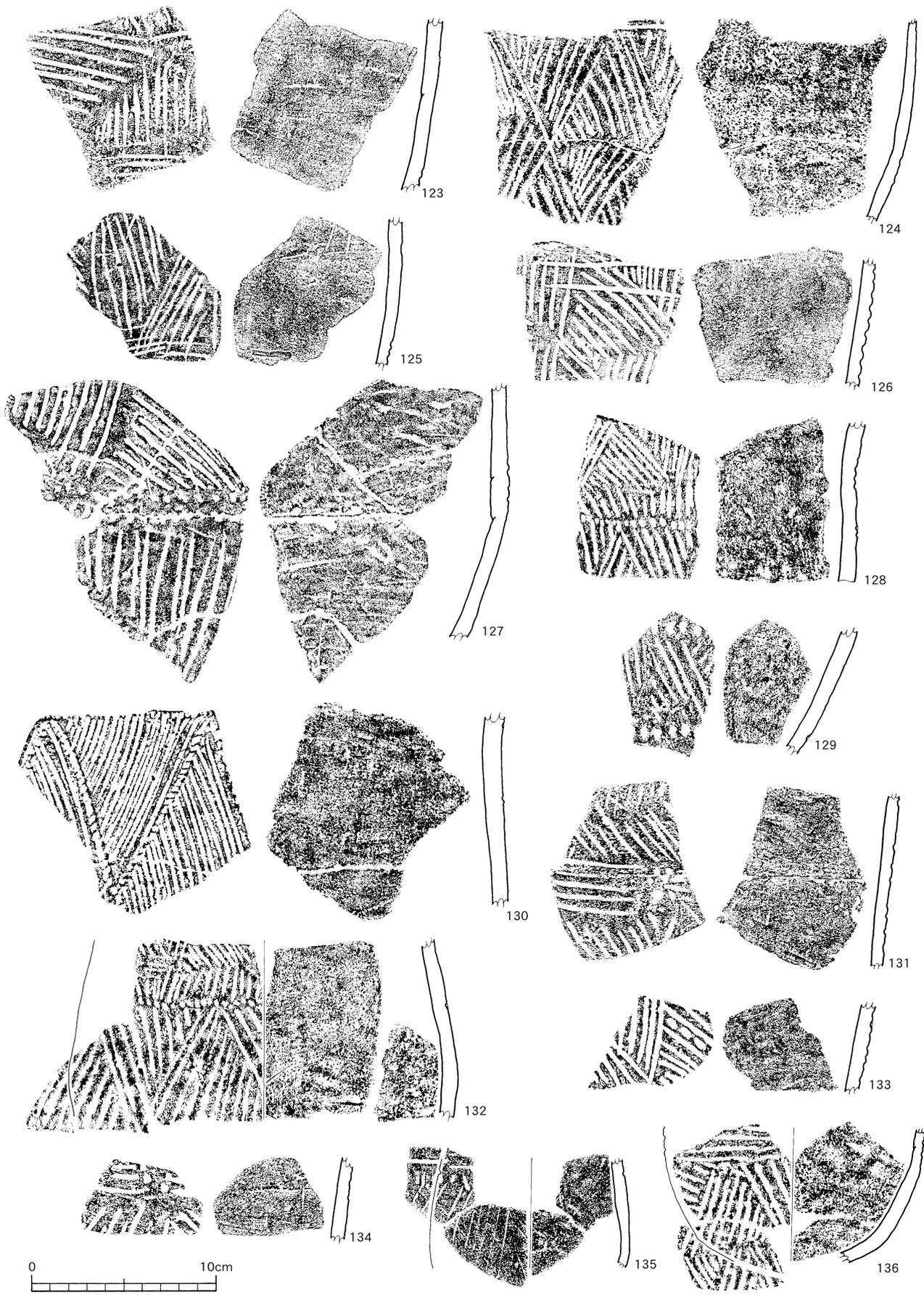
第31图 2類土器実測图(6)



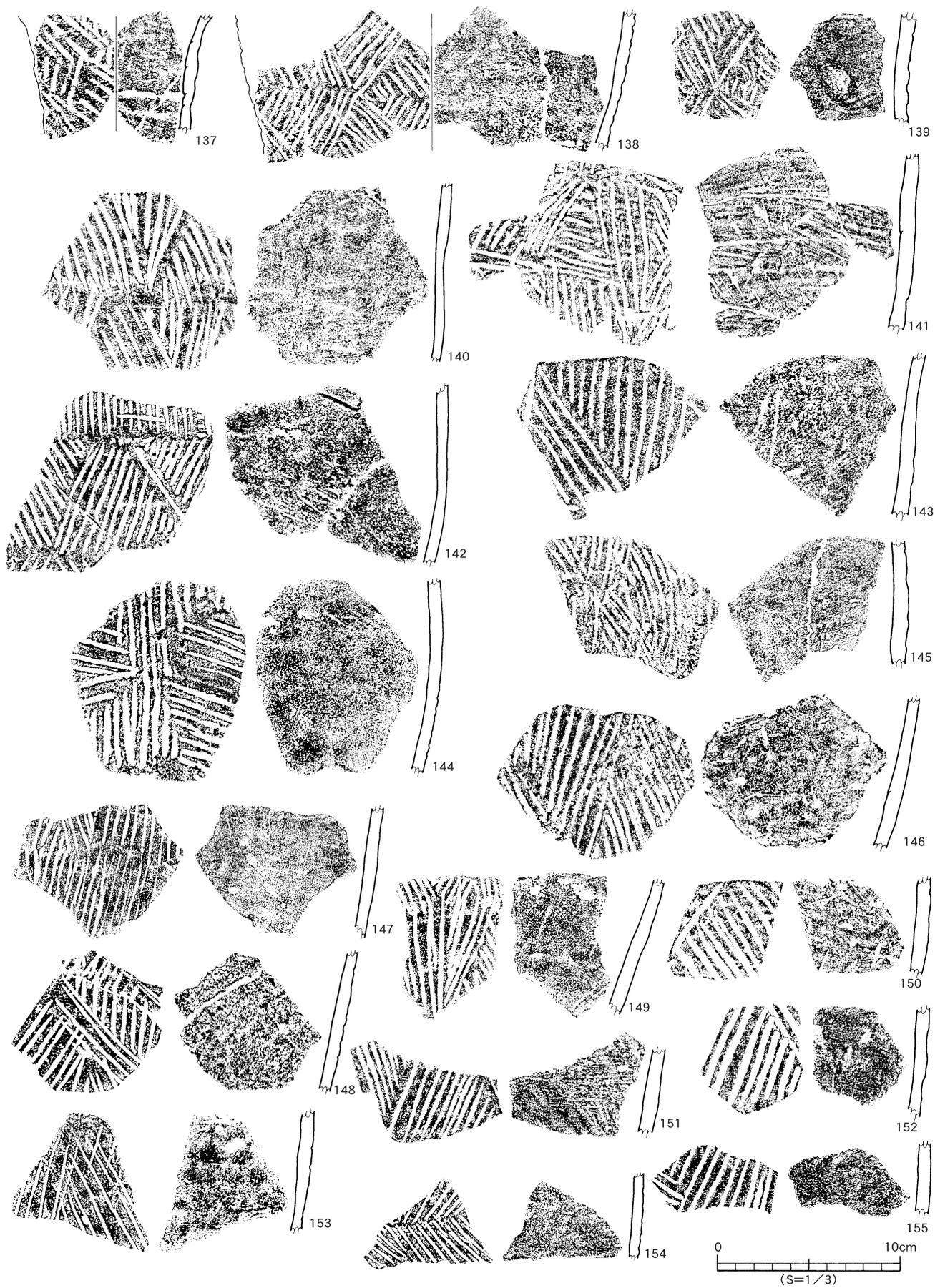
第32図 2類土器実測図(7)



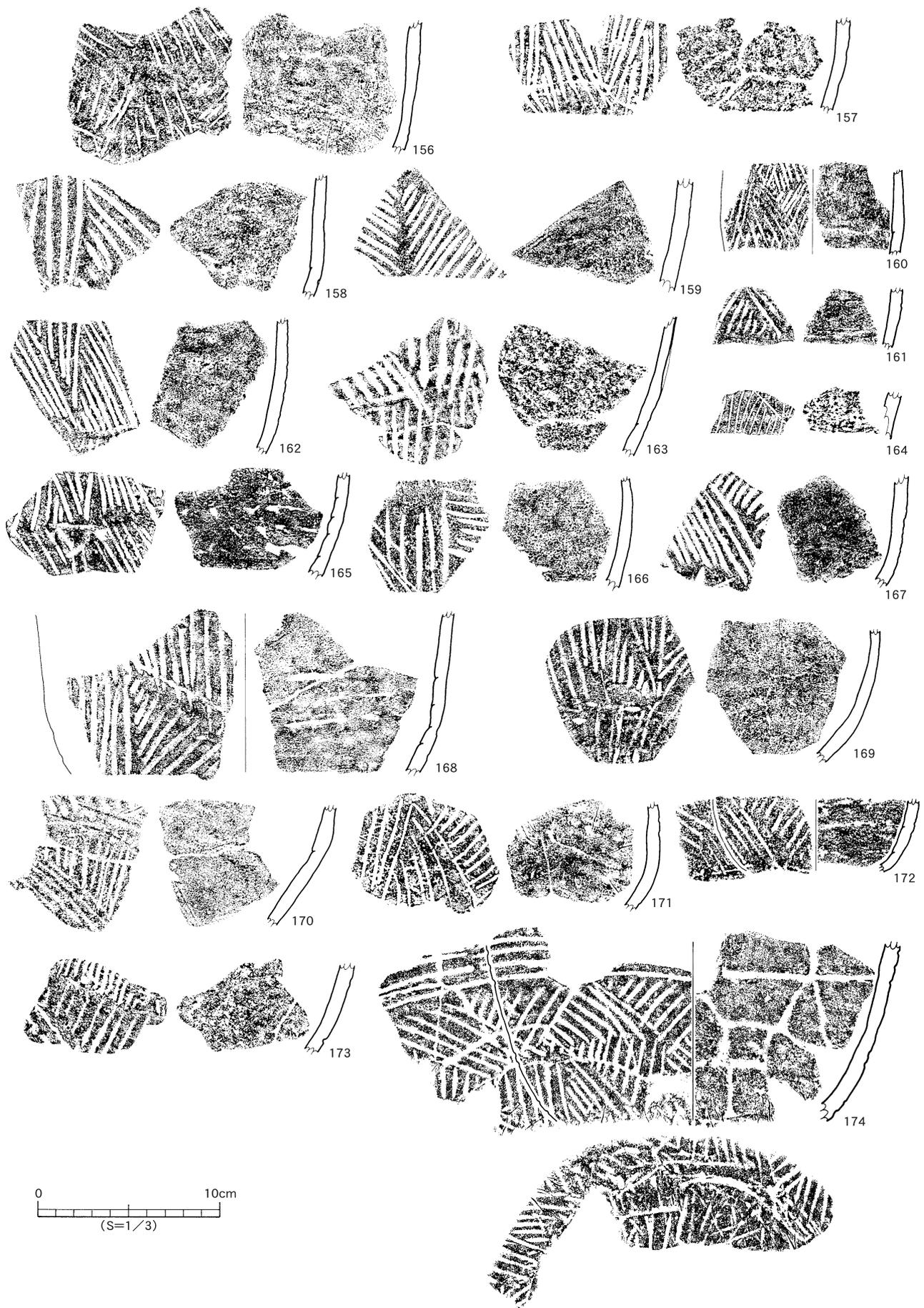
第33図 2類土器実測図(8)



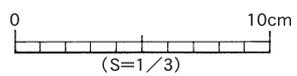
第34图 2類土器実測図(9)



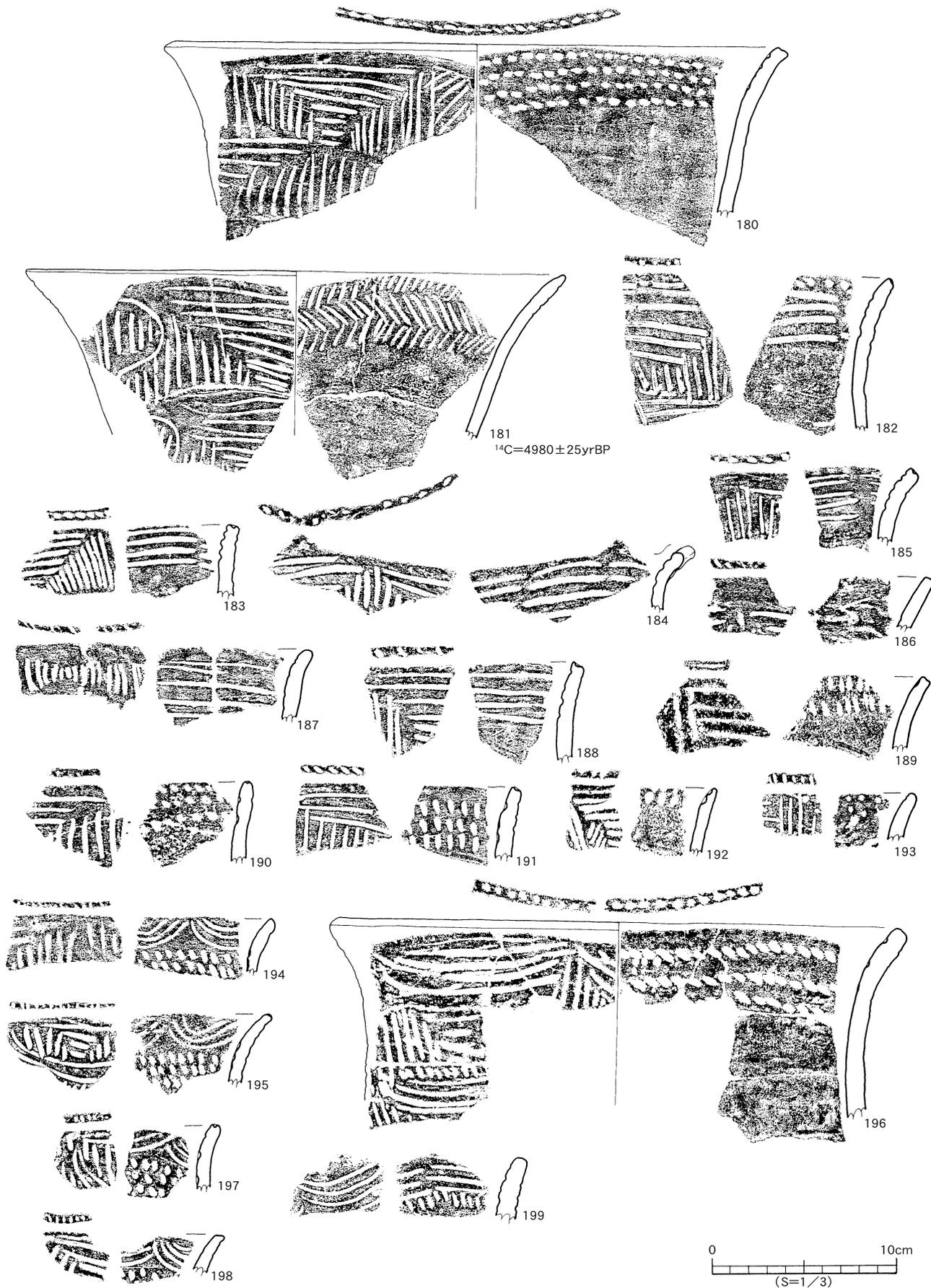
第35図 2類土器実測図(10)



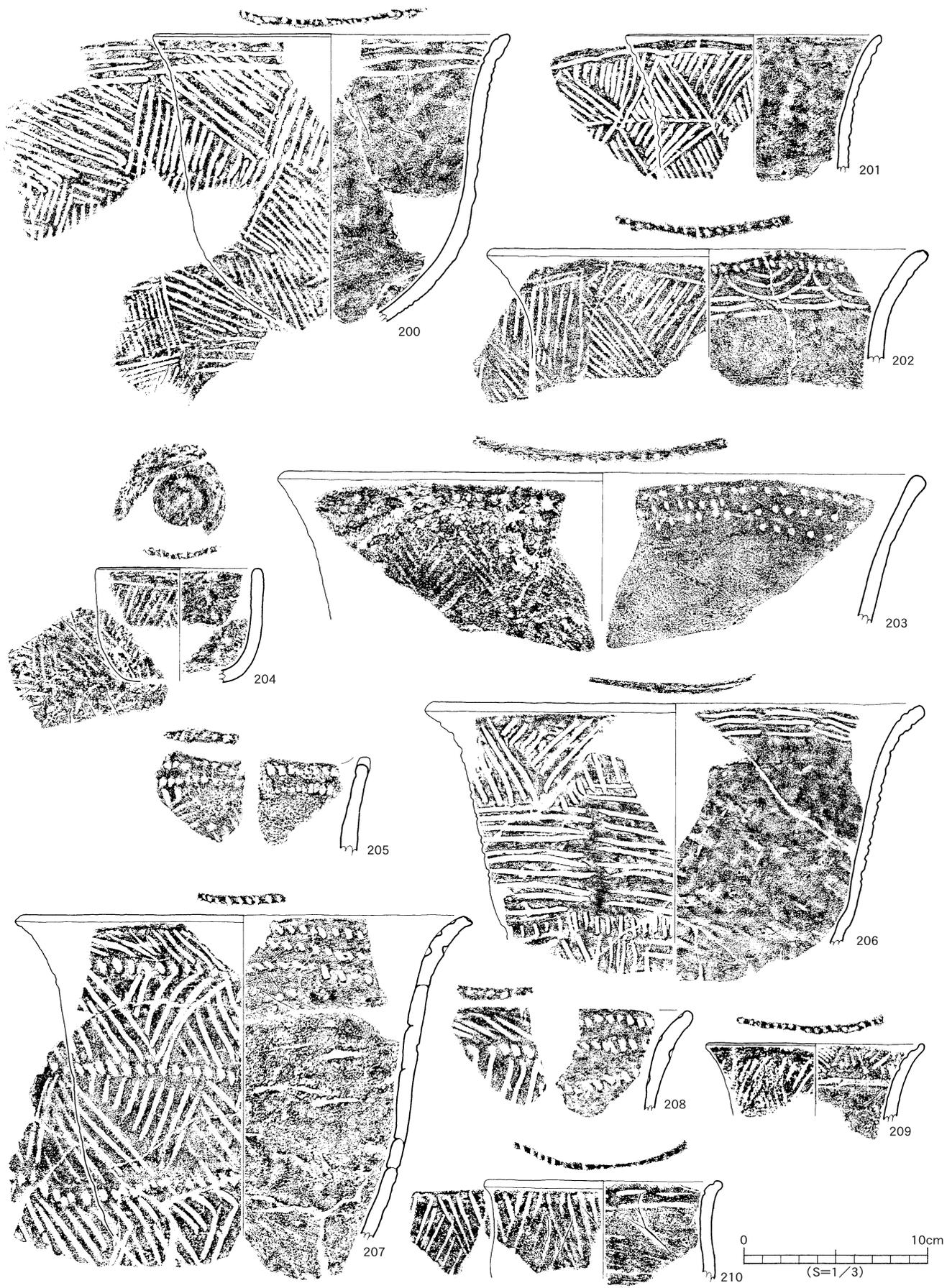
第36図 2類土器実測図(1)



第37図 2類土器実測図(2)



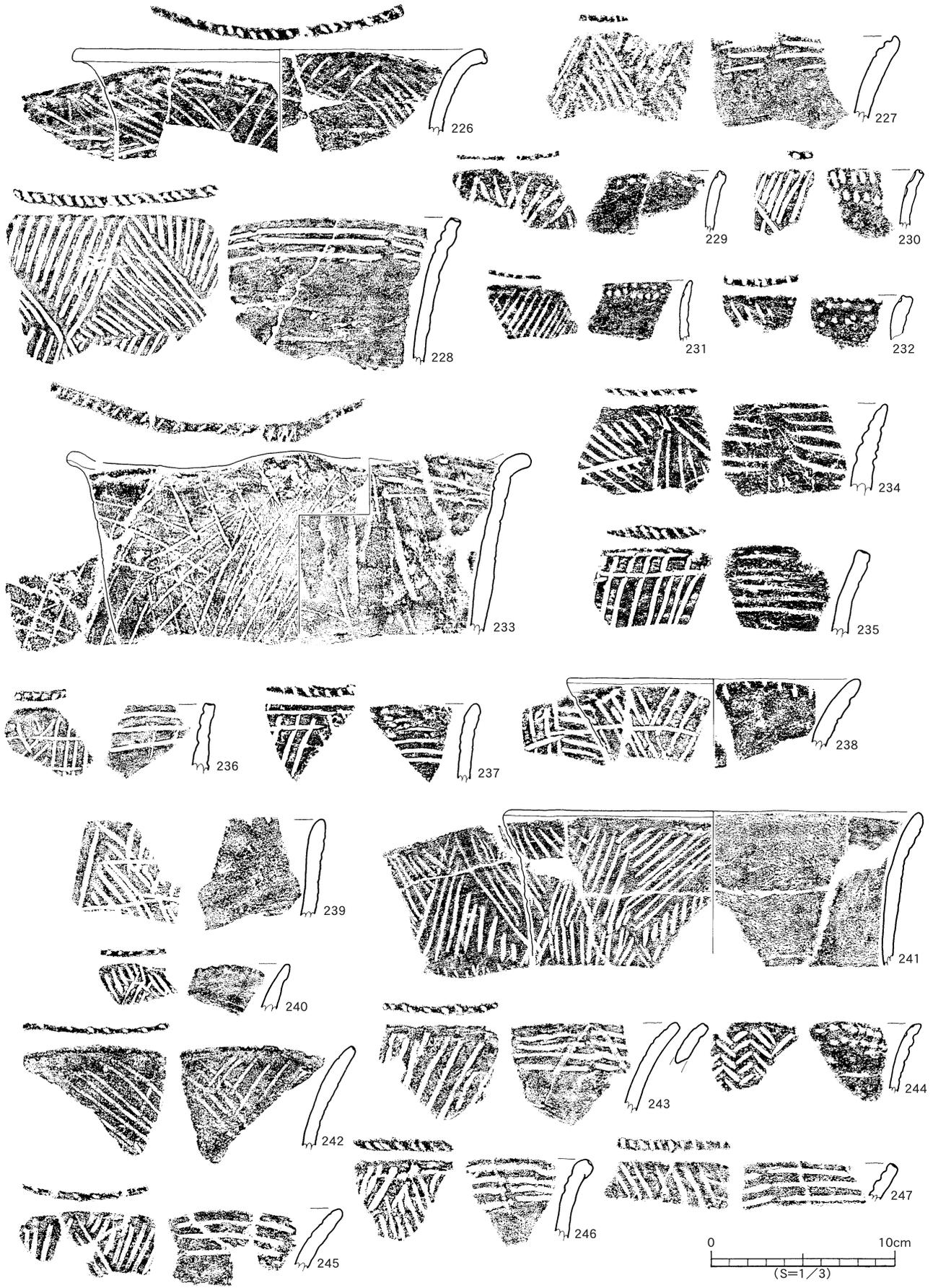
第38图 3類土器実測図(1)



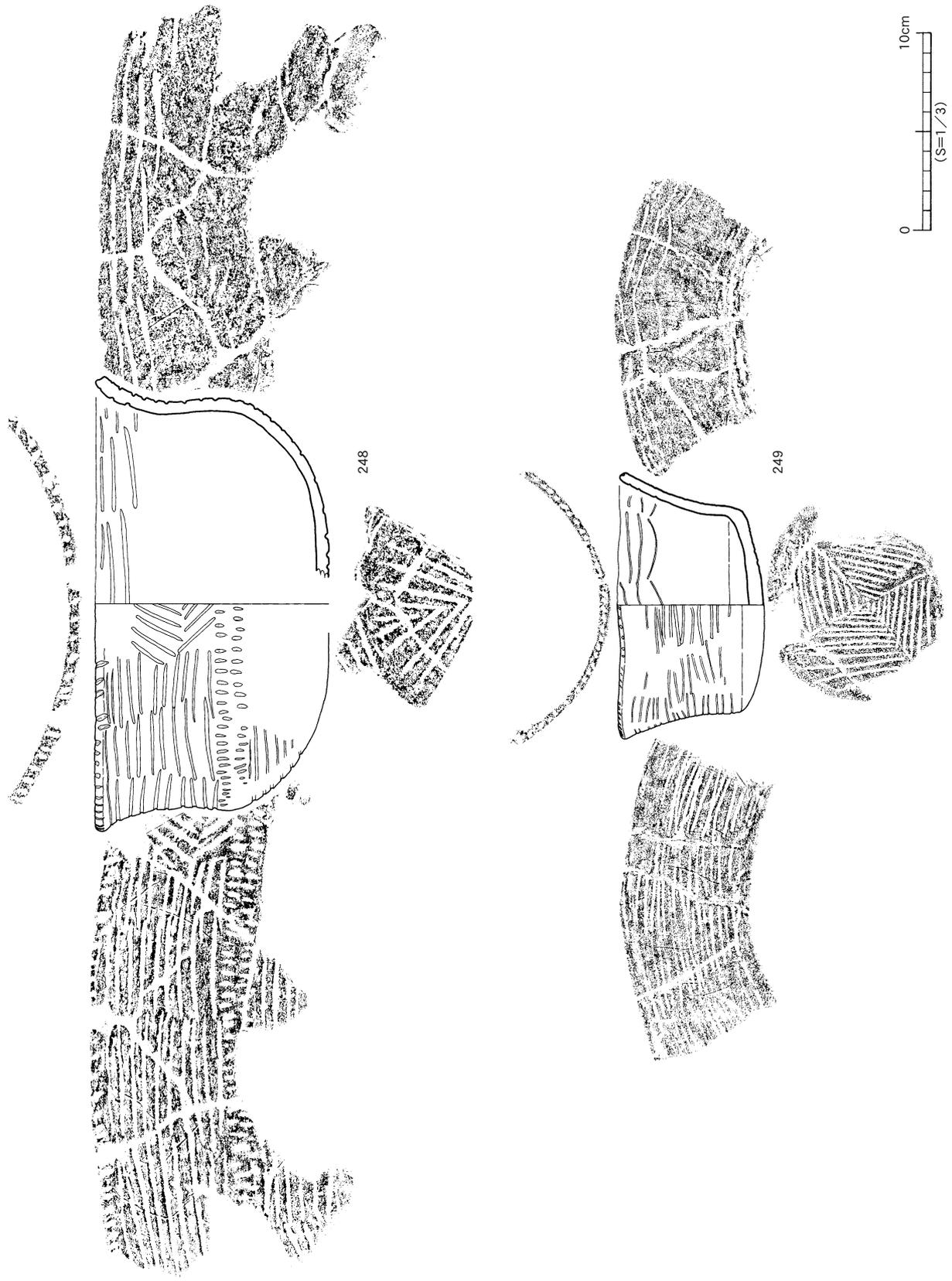
第39图 3類土器実測図(2)



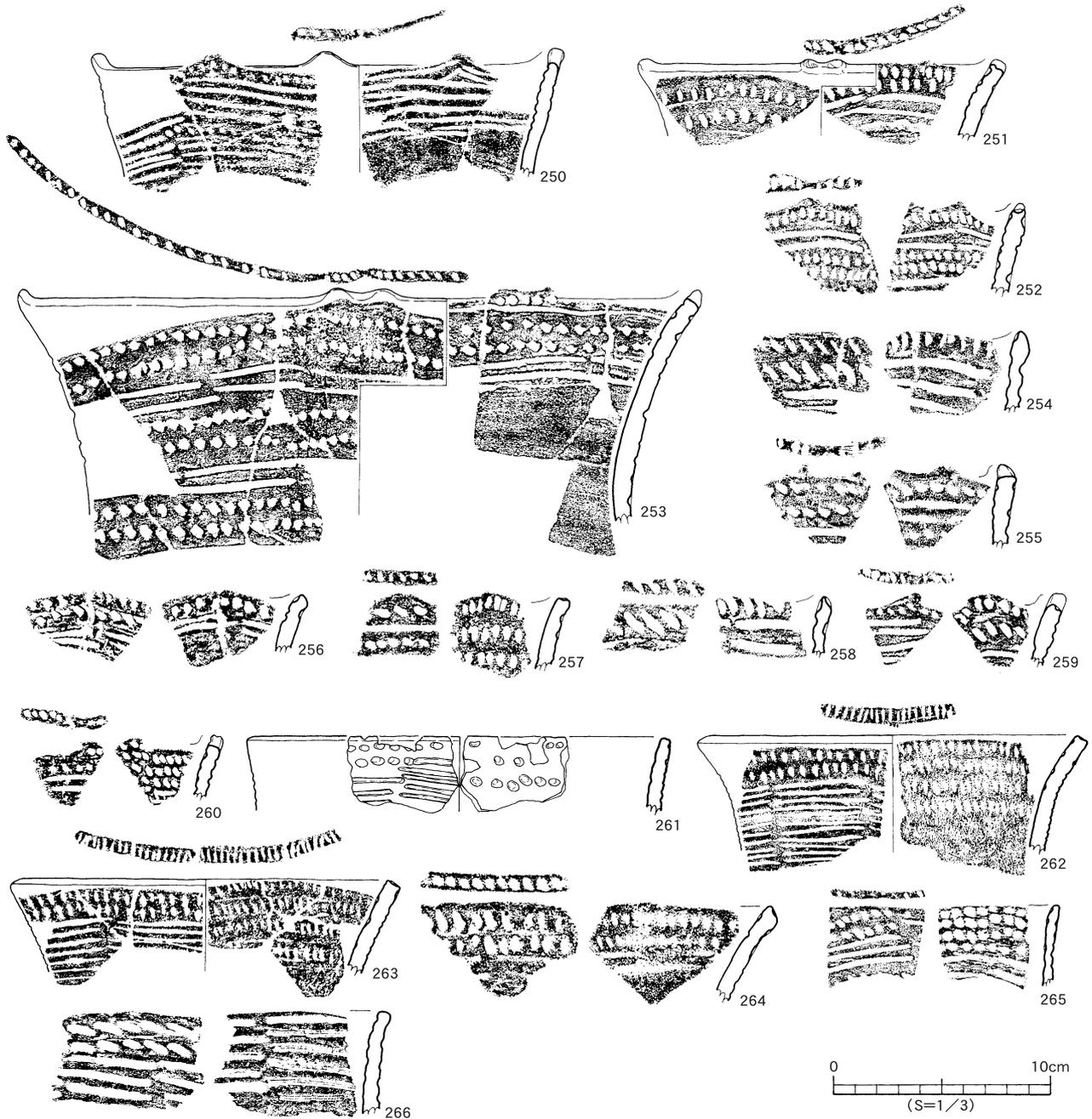
第40図 3類土器実測図(3)



第41图 3類土器実測图(4)



第42図 3類土器実測図(5)



第43図 4類土器実測図(1)

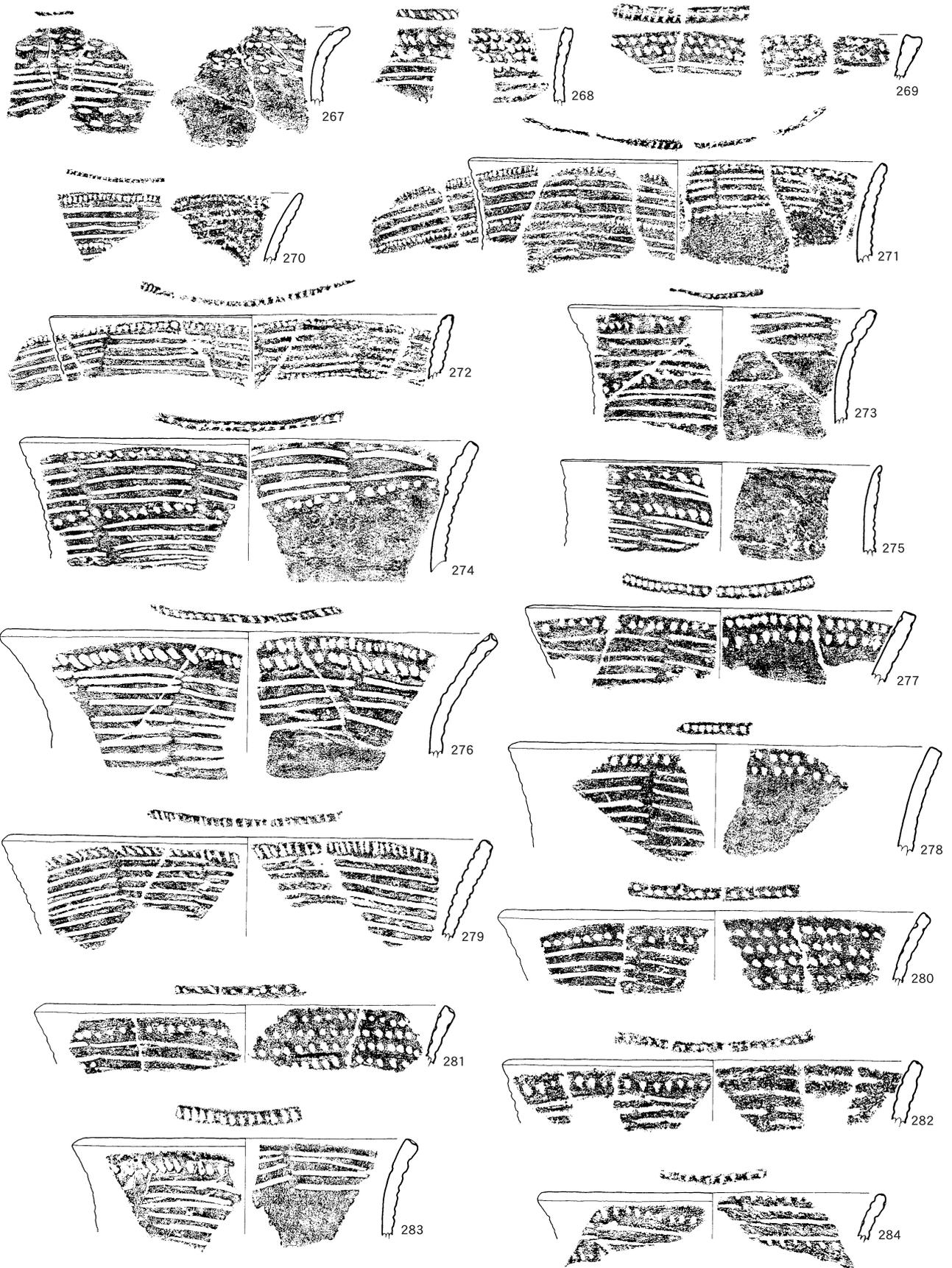
349は、口縁部に突起が付く。359は、口唇部に沈線文を施す。口縁部の沈線文は、沈線文の右端に粘土の盛り上がりが見られることから、口縁部を上にしてみた場合左から右へ施文されていたことが分かる。さらに、これらの文様はナデにより調整されている。370は強く口縁部が外反している。382は横位沈線文の後に曲線文を施す。385から390は小型の土器である。386は、口縁部内面の刺突文に径2～3mmの竹管状の工具を用いている。387・388は口唇部断面観が舌状をなすために、他の土器型式である可能性も考えられる。390は、間延びした刺突文を横位と縦位に施文している。395は、内面に条痕

が残っている。上層のものが混入した可能性も考えられる。396は、皿形の器形を呈する。斜位の沈線文を施し、口縁部上端をナデにより調整している。398は、口唇部が不安定である。

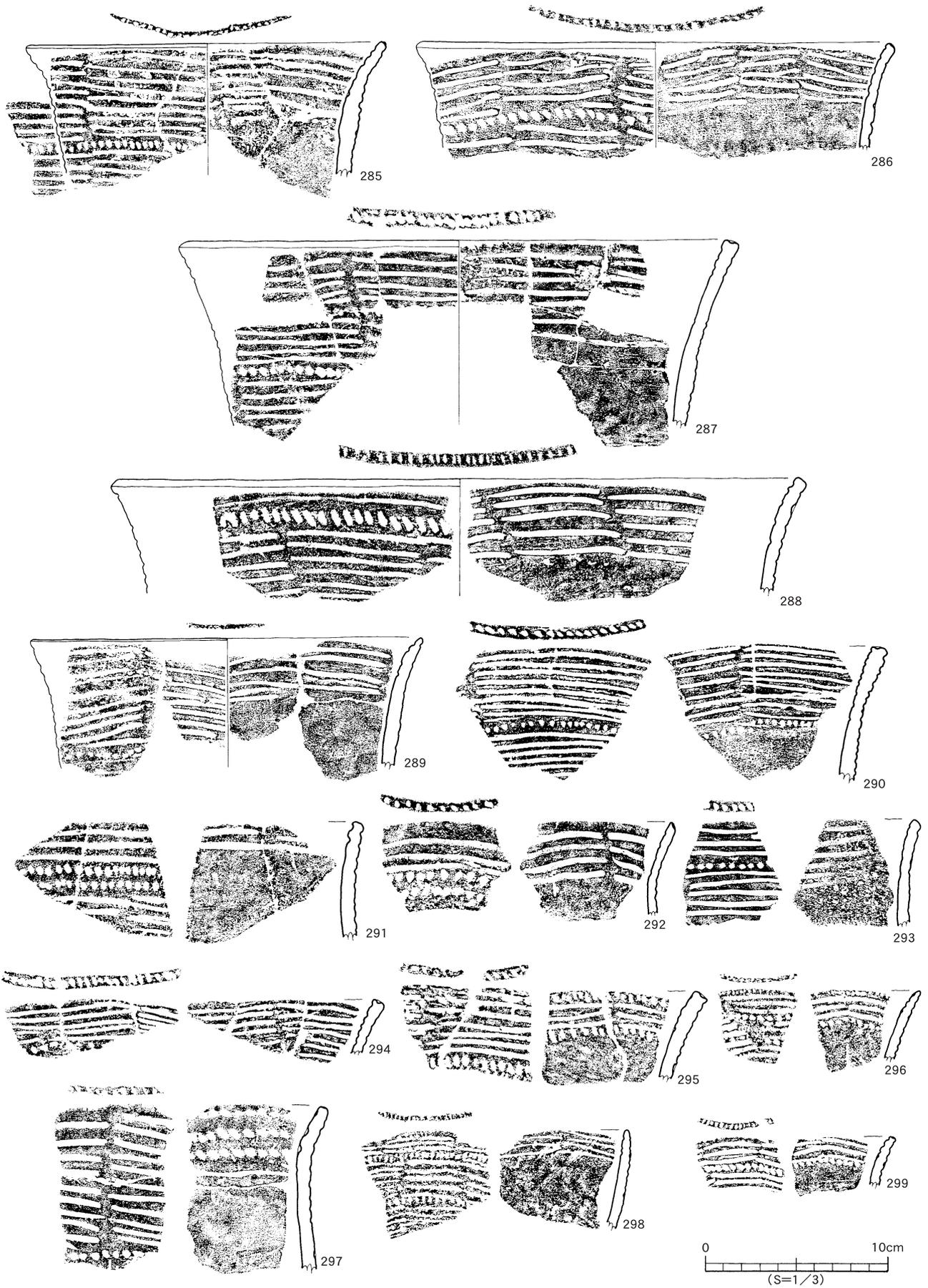
5 5類土器(第51図430～561)

口縁部片や胴部片で、全体像が掴めなかった胴部片を一括した。接合作業を得て2537点がこの類に属し、この内132点を図化した。総点数の約7割がここに属する結果となった。

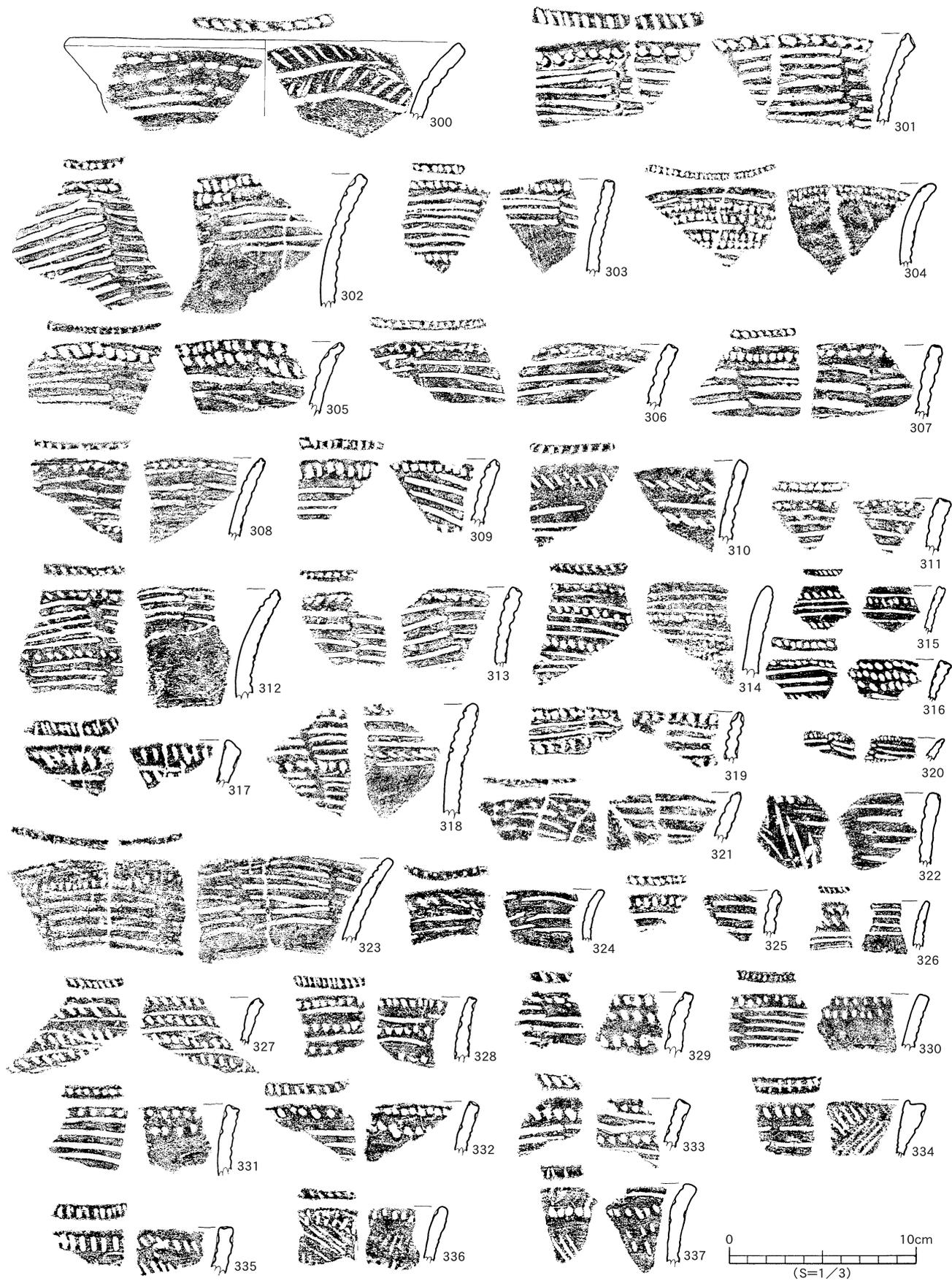
430～444は胴部片の中でもわずかに口縁部文様帯が見



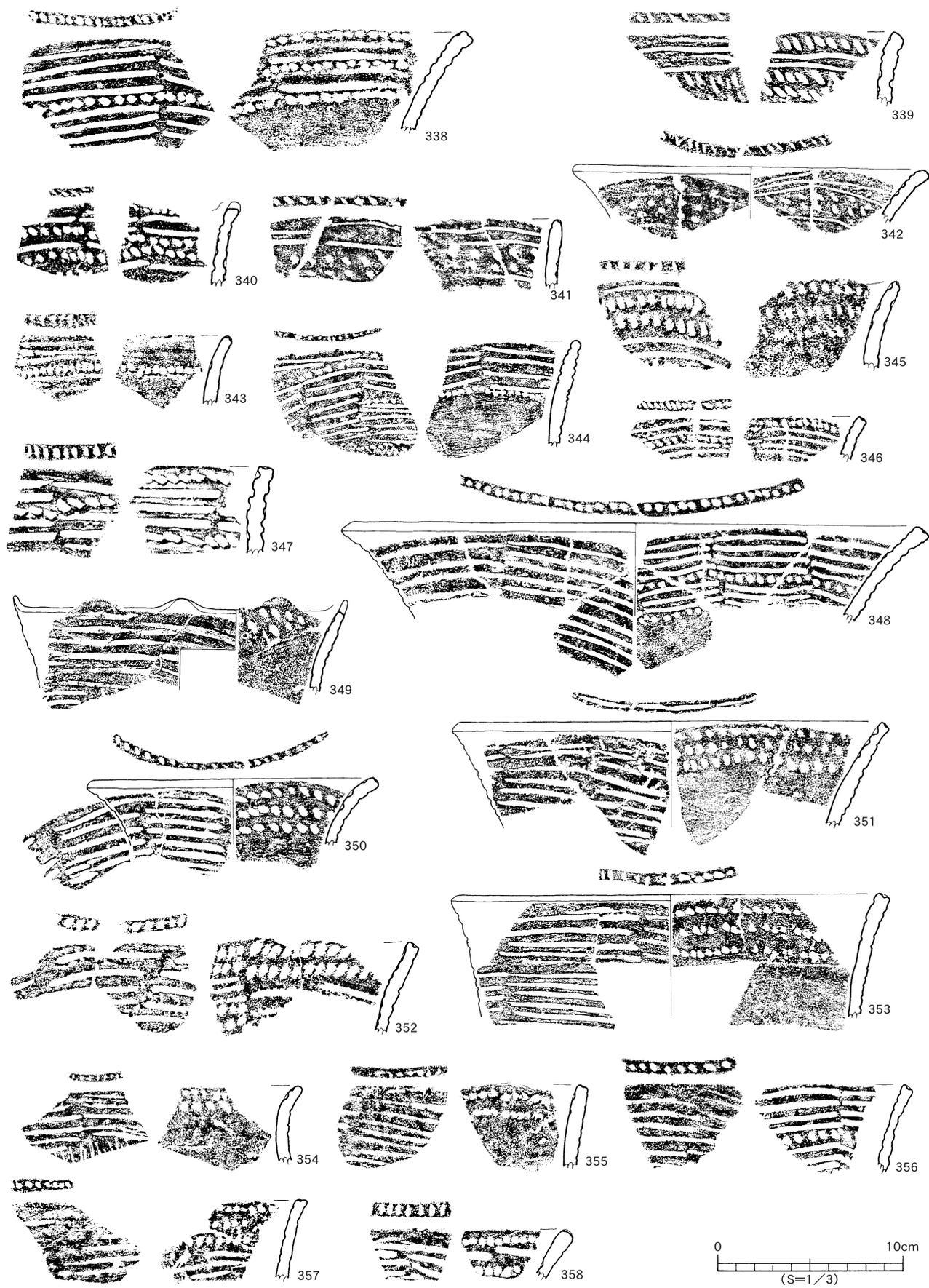
第44图 4類土器実測図(2)



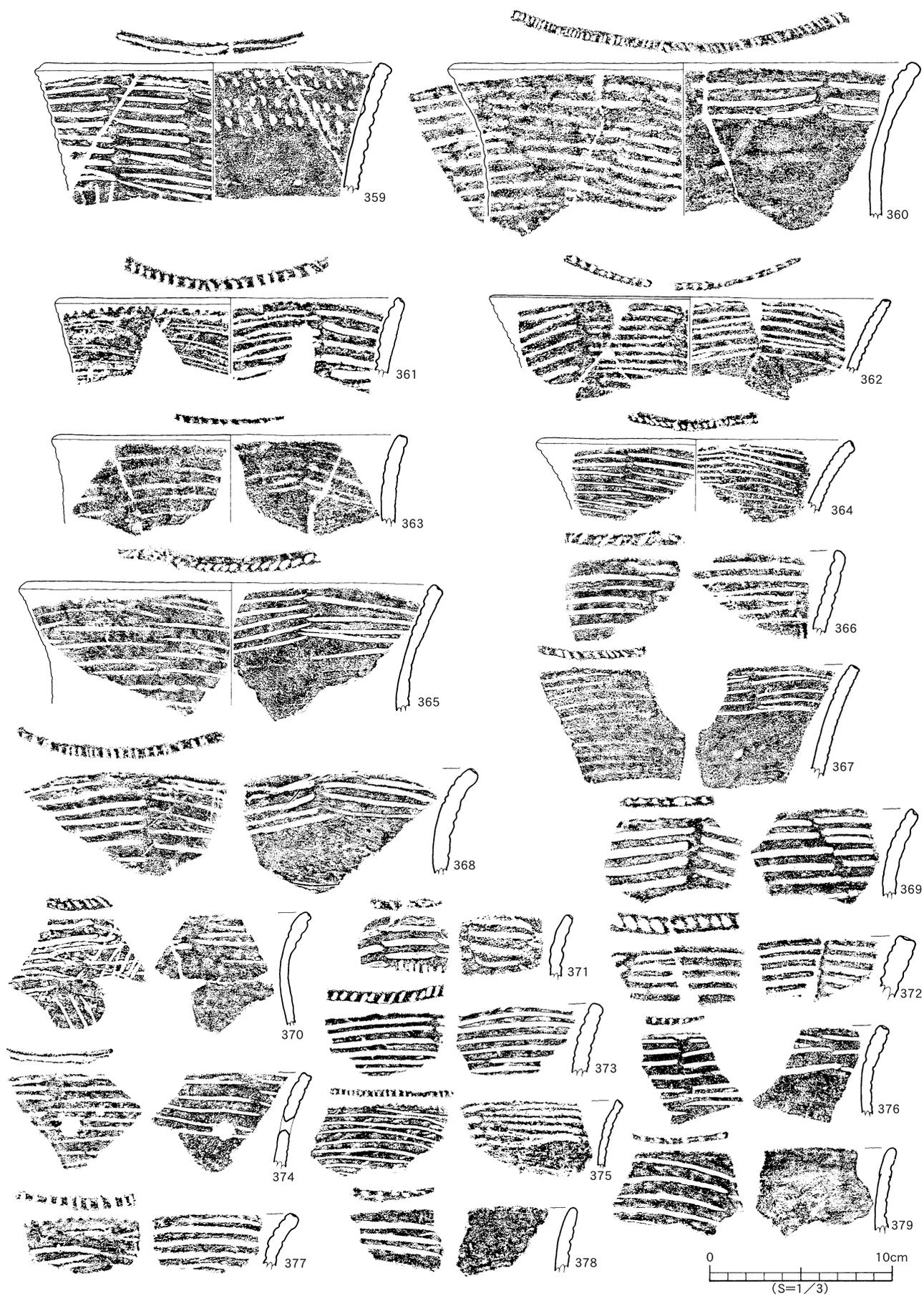
第45図 4類土器実測図(3)



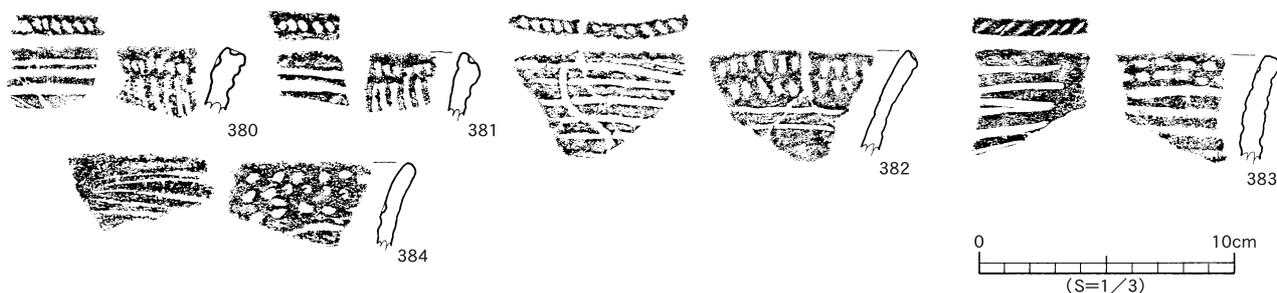
第46图 4類土器実測図(4)



第47图 4類土器実測图(5)



第48图 4類土器実測図(6)



第49図 4類土器実測図(7)

られる資料を一括掲載した。430は、外面に垂下する刺突文が施され、内面には横位と斜位の沈線文の下に刺突文が2列施される。461は、胴部最大径付近に刺突文が見られる。破片の上端にわずかに縦位の沈線文が見られる。462は、破片上部にV字状の沈線文を施した後に斜位に近い沈線文が施されている。

445～561は口縁部を含まない胴部片を一括掲載した。514～516は同一個体である。縦位沈線文の後曲線文を施す。517は太めの沈線文である。526は傾きがはっきりしない。底部に近いと思われる。531～533は沈線文が短く羽状に連続する。533は横位沈線文に関しても短い。535～537は胴部下の屈曲部分に該当する。543～561は底部付近の破片である。

6 6類土器(第57図562～598)

底部資料を一括した。接合作業を得て98点がこの類に属し、この内37点を図化した。

562～576はクモの巣状施文のものである。563は、分割する沈線文の後に横位沈線文が施される。568は粘土紐を渦巻き状に巻き上げている。577は不規則な施文である。578は、4分割する沈線文を施文した後に円弧文を描く。579～584は分割する沈線が見られない。580は、口唇部施文が見られないことから、擬口縁とも考えた。だが、口唇部と思われる箇所に、ナデが施されているため、確証がもてず、口縁部残存として実測したがここに掲載した。581は、口縁部を欠いた立位の状態出土した。底部と胴部の立ち上がりに斜位の沈線文が施され、それより上には横位沈線文と刺突文とを組み合わせる。584の内面には条痕が残る。あるいは他の土器型式である可能性が考えられる。

585～594は底面中央から放射線状に沈線文が施されている。589は底部内面を口縁部の方から見て時計回りに粘土が巻き上げられている。594は、屈曲して胴部が立ち上がる。598は、底部内面を口縁部から見て反時計回りに粘土が巻き上げられている。だが、1本の粘土によるものではなく、幾つかに分断されているようである。

7 7類土器(第60図599～609)

無文土器を一括した。この中には、深鉢形の他に、皿形や角鉢形の資料も含む。接合作業を得て28点がこの類に属し、この内11点を図化した。

599～601は皿状の器形を呈する。601は、皿形の器形を呈する資料で口縁部径が復元できたものである。偽口縁の可能性もあったが、口唇部や口縁部端部の調整などから完結しているものと判断し、器形を認定した。602～608は深鉢形を呈する。607は、1.2cmの粘土紐により製作されている。608はやや小型の土器である。609は、図版4 - に示したように6層からほかの類と同様に出土した。口縁部から底部に至るまでがまとまって出土したが、ほかの破片に関しては9m離れた地点の資料と接合している。2cm程度の粘土紐を積み上げて製作されている。口唇部にはキザミが施されているが、ほかの部分については無文であり、ナデ調整が施されている。角部の作出に関しては、意識して折り曲げている感もあるが均一でない。底部には突起が角部4カ所に見られ、横方向からの穿孔が施される。底面は、やや不安定である。

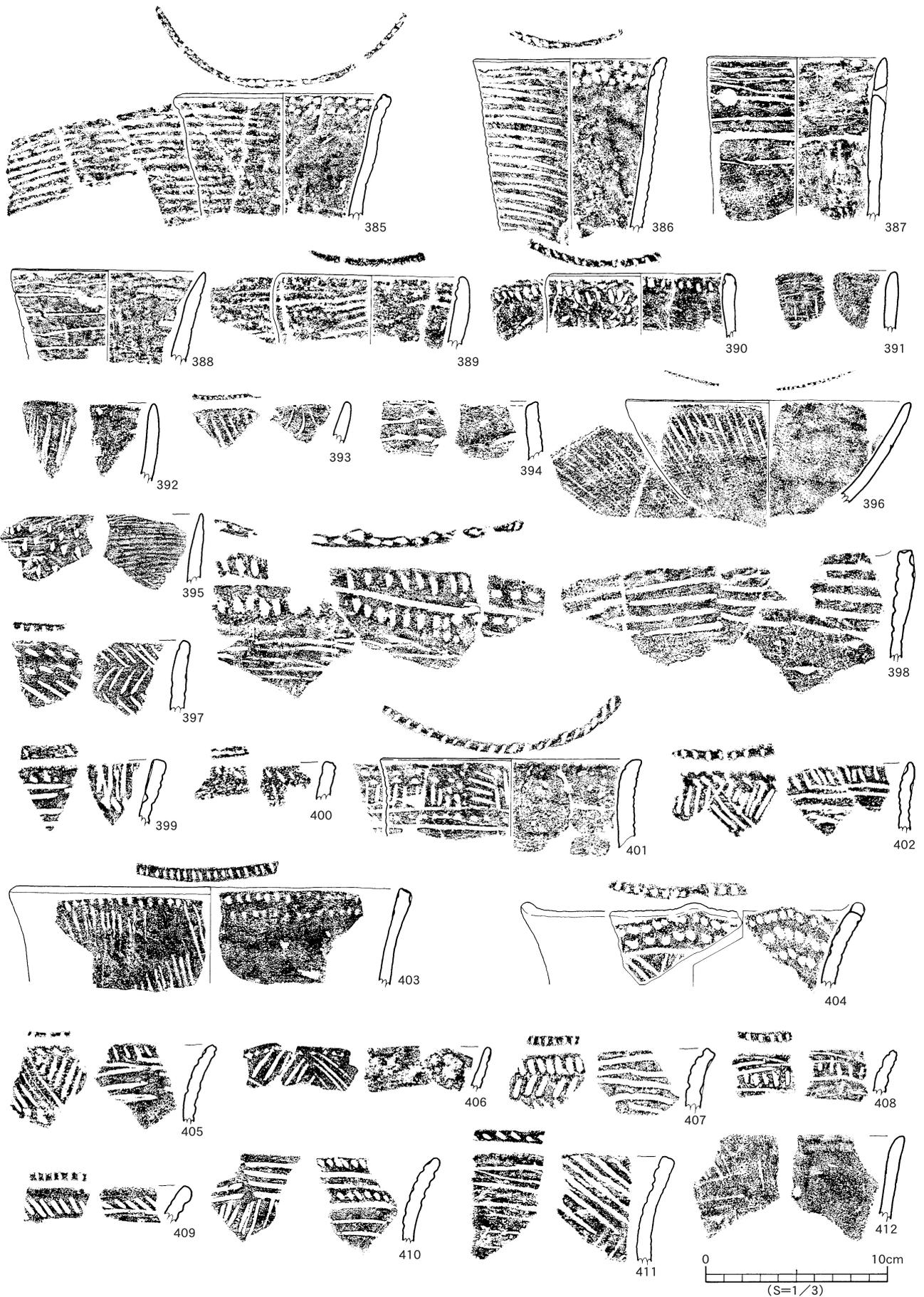
8 8類土器(第61図610・611)

滑石を含む資料である。本来は1～4類中で紹介すべきであろうが、胎土の特徴を重視して類として抽出した。接合作業を得て3点がこの類に属し、この内2点を図化した。610と611は同一個体である。口縁部は強く外反し、口唇部にキザミを施す。口縁部は、横位の沈線文で底部は沈線文を方形に組み合わせているが、一様でない。

(2) 石器

1 概要

層から出土した石器及び剥片類は総点数3,464点を数える。剥片石器では、石鏃が最も多く出土し、礫石器では磨石が最も多い。使用される石材は、剥片石器の場合黒曜石と安山岩が主体を占め、礫石器の場合頁岩と砂岩が多い。特筆すべきは楔形石器の多さで、該期の特徴であろう。



第50图 4類土器実測图(8)



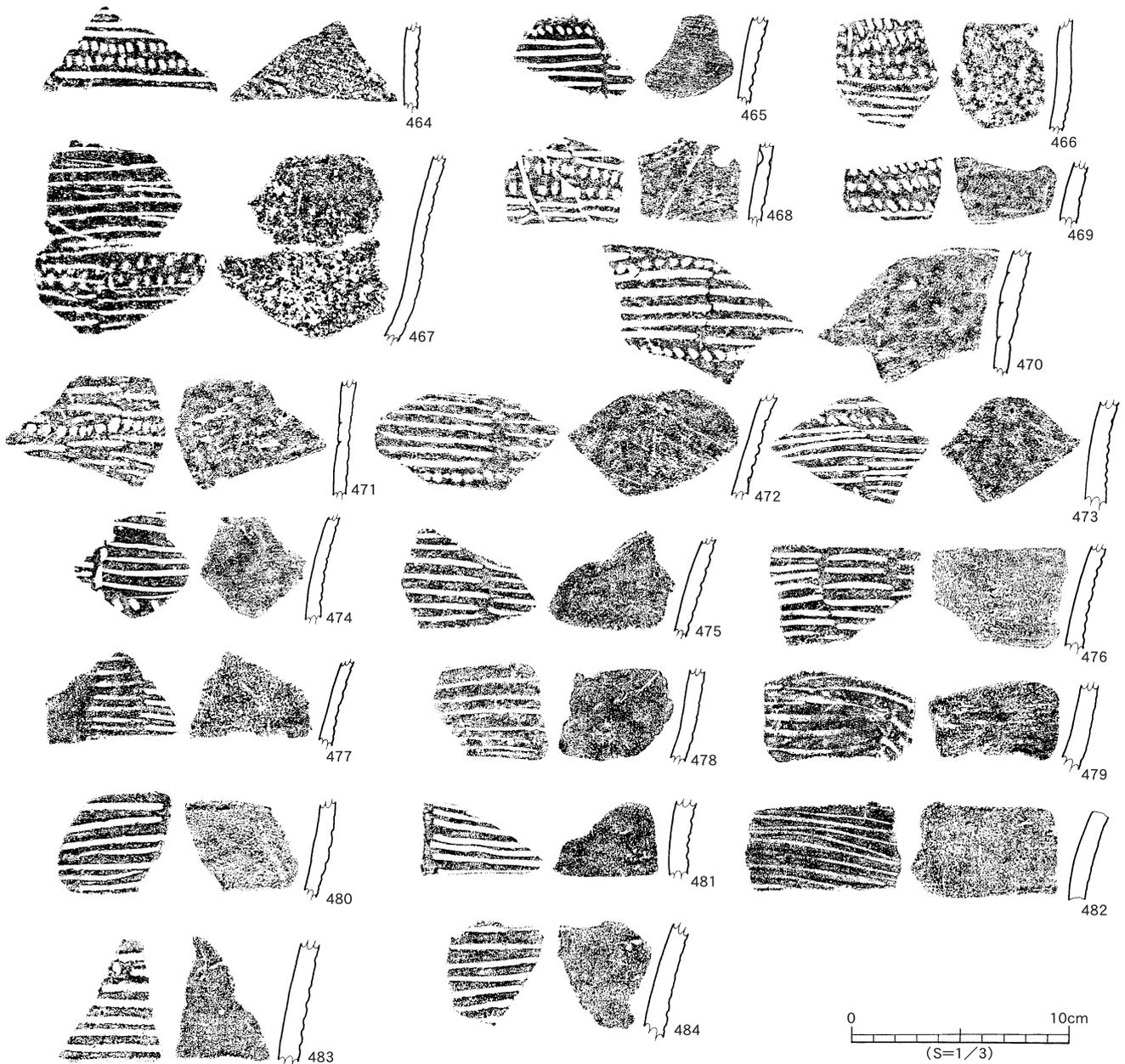
第51图 4類土器実測図(9)・5類土器実測図(1)



第52図 5類土器実測図(2)

はじめに、石材ごとの分布について述べたい。これらの出土状況図は第63図～第85図に示した。グリッド一括で取り上げた遺物も多数あり、厳密な分布状況ではない。石材の詳細については第2章に一括して示してありこれを参照されたい。黒曜石は、上牛鼻系である。調査区全体から出土しているが、S-9区に独立した分布域を有する。この石材の石核が出土しているが、製品は見られなかった。黒曜石は西北九州系である。R・S-8

区にまとまりが見られる。安山岩では、類と類が多い。特に類が多く、黒色の安山岩で上牛鼻系と思われる。このことは、黒曜石と安山岩で最も出土量の多い両者は、共に同一産地のもので構成されているのである。この他に注目すべき石材分布としては、蛇紋岩がある。遺跡内から剥片が出土する例は少なく、V-9区にわずかながら集中する傾向は、遺跡内において何らかの加工を行っていた可能性を指摘することができよう。



第53図 5類土器実測図(3)

なお、石材分布と器種分布に著しい変化は認められず、土器の分布とも大きな変化はない。遺構や種子炭化物等との分布にも概ね合致しており、これら全体が一带となって展開している現象と理解出来る。このことは、土器型式が曾畑式土器ほぼ単独に近い出土状況にあるため、これらの石器の多くが曾畑式土器段階の石器群として位置付けが可能であると思われる。

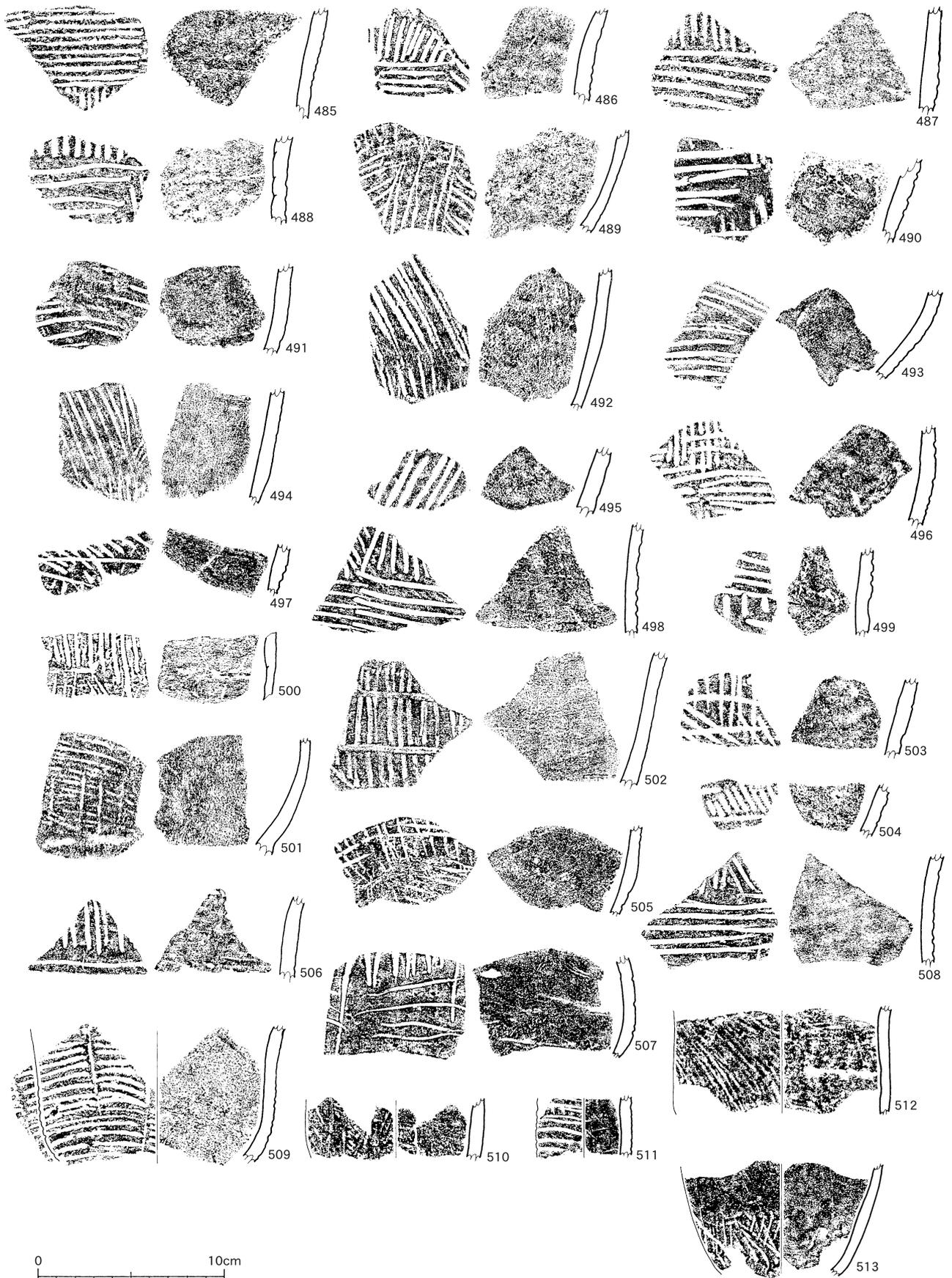
以下、器種ごとに説明を加えていきたい。

2 石鏃

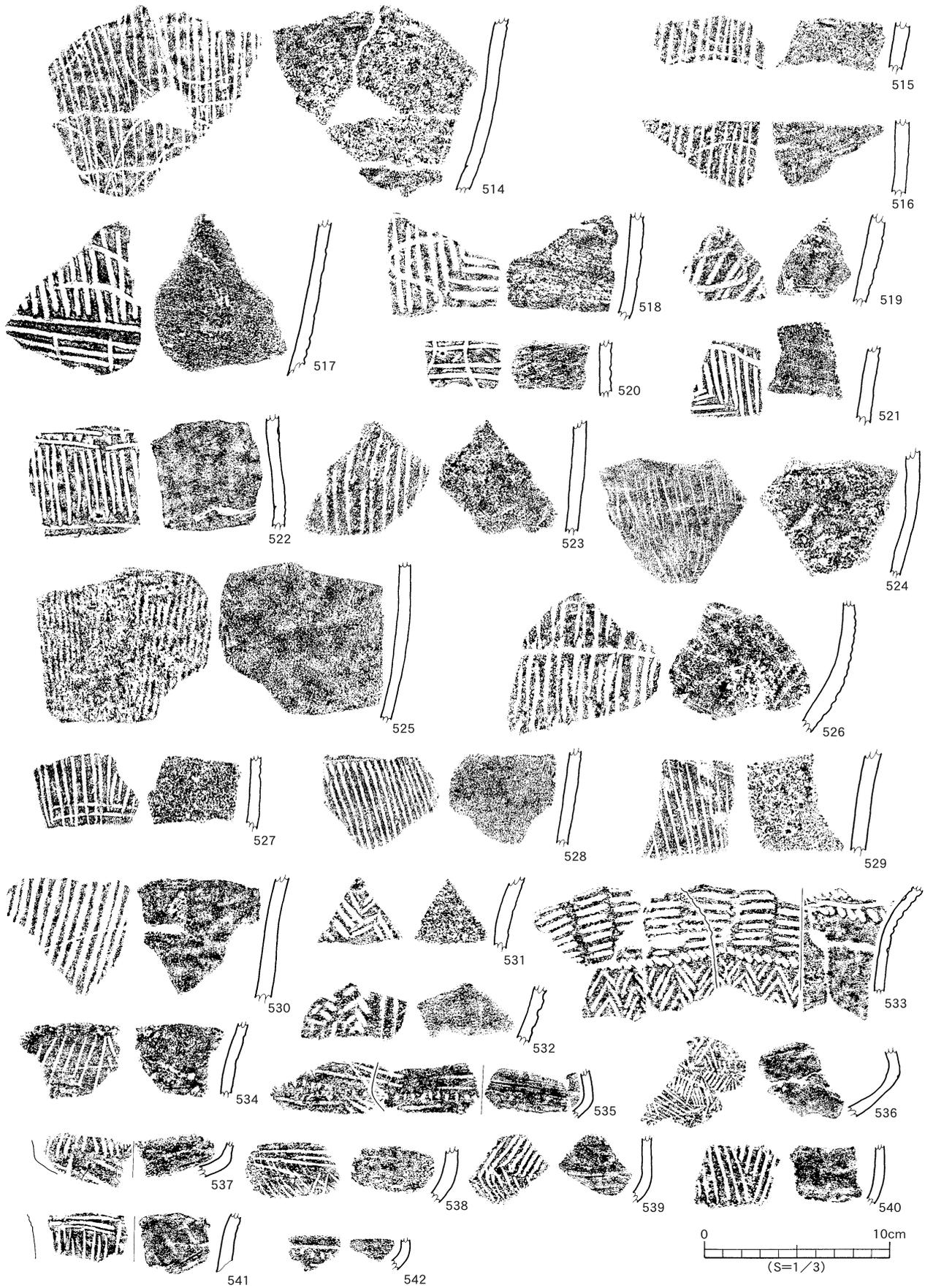
総点数140点が出土し、この内77点を図化した。

全体的な傾向として、小型の製品が多い。細分については、平基(1~4)・浅い凹基(5~24)・深い凹基(25~58)・U字(59)・長身で二等辺三角形(60~63)・欠損(64~68)・未製品(69~72)・厚みのある石鏃状のもの(73~76)と8つに分けることが出来た。

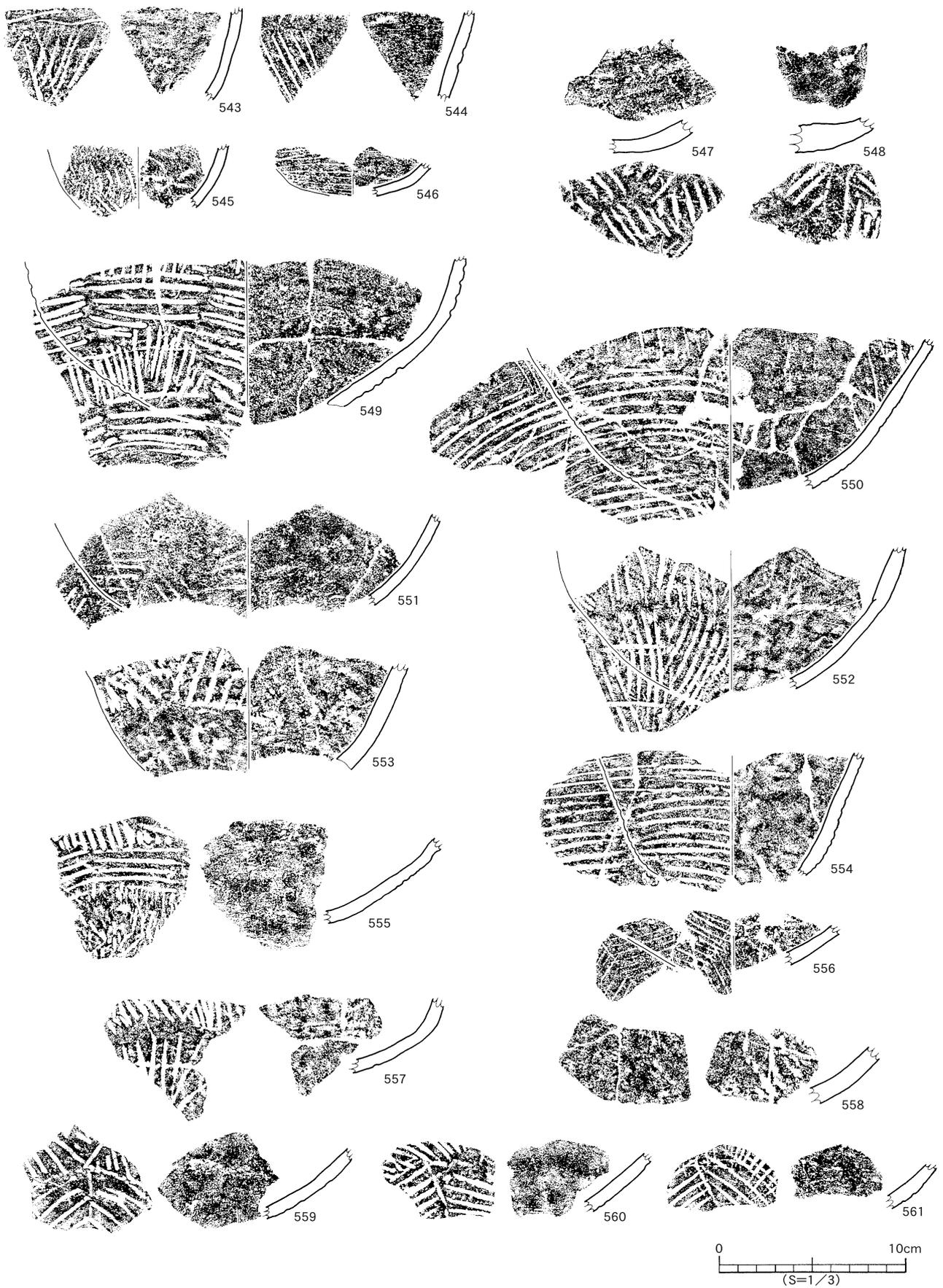
4は、中央部にある厚みを除去しきれていない。5は、先端部を細くすることを意識した可能性もある。主要剥離面を一部に残していることから未製品である可能性も考えられる。7は、先端部を欠損する。9は、右の脚を欠損している可能性があるがはっきりとしない。13は左脚を短く仕上げている。32は、やや大きめの石鏃である



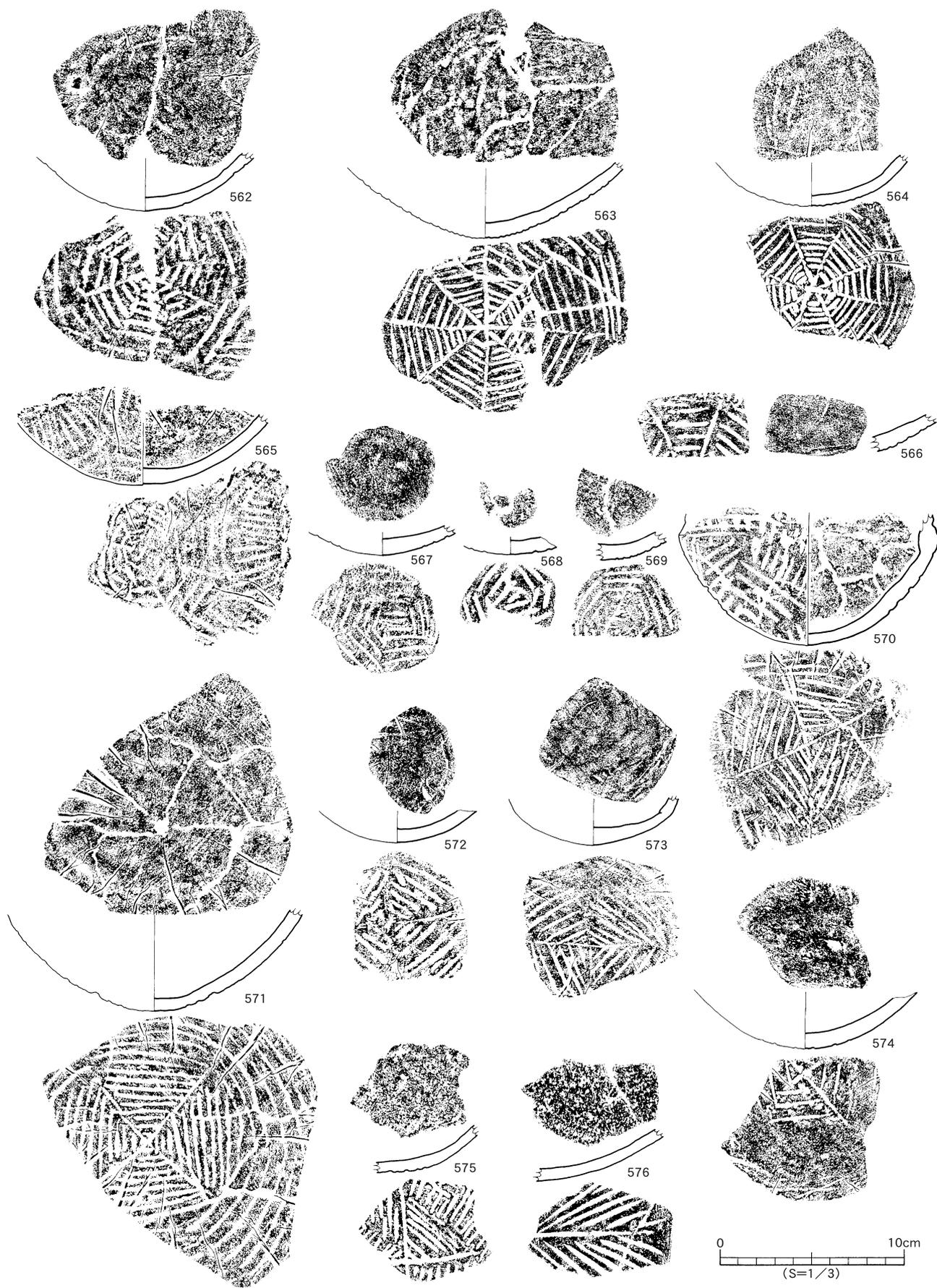
第54图 5類土器実測図(4)



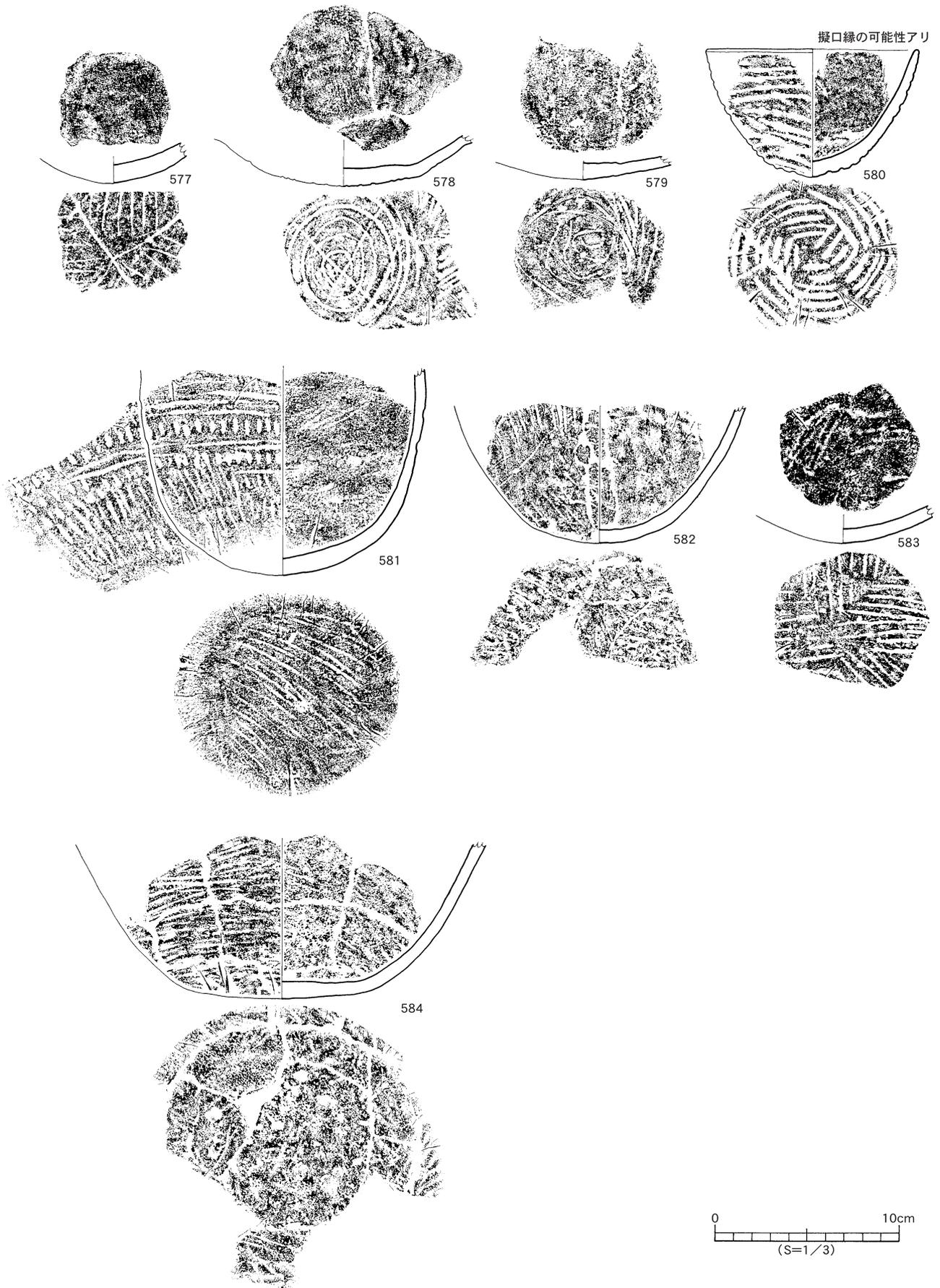
第55図 5類土器実測図(5)



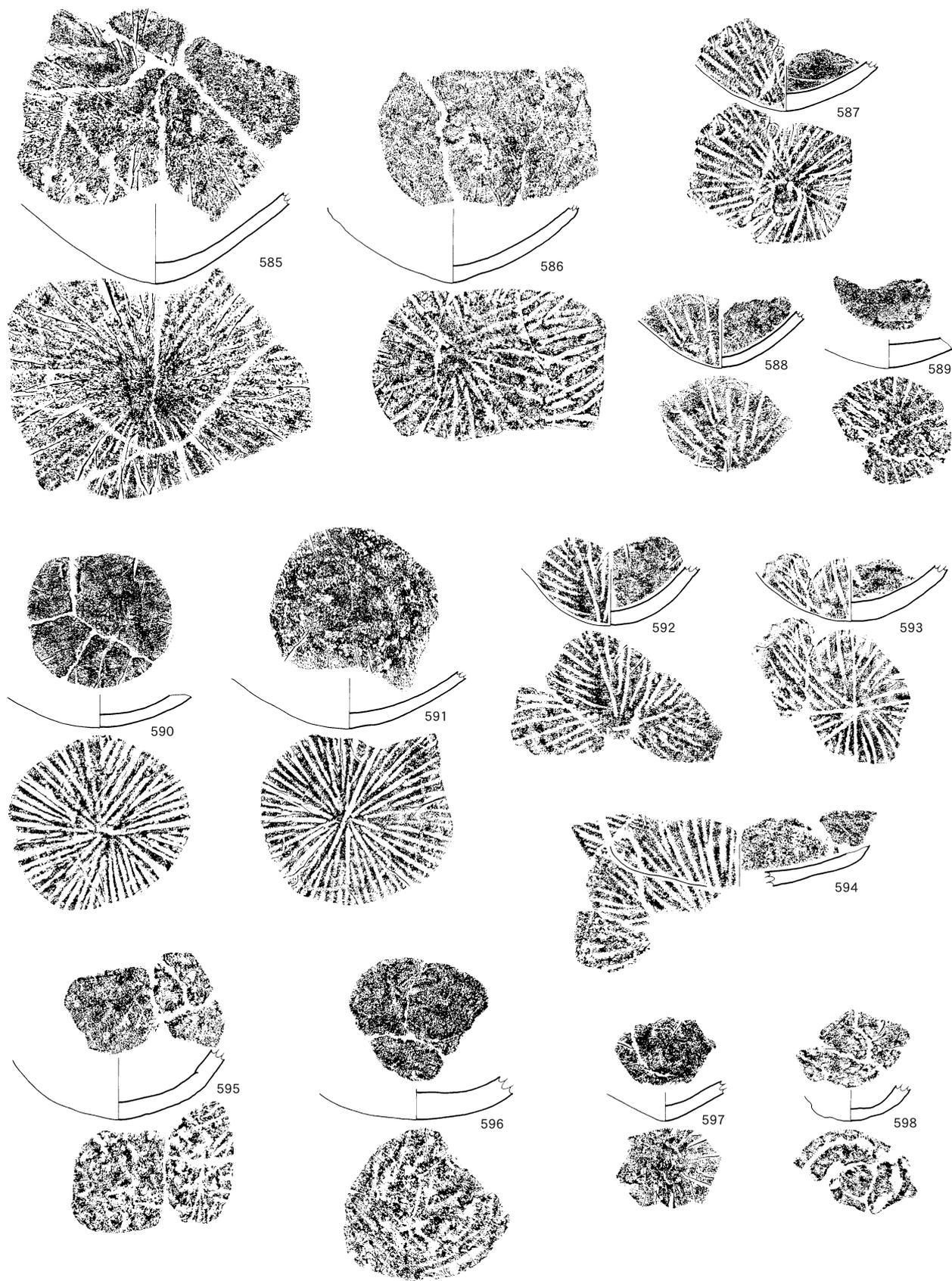
第56図 5類土器実測図(6)



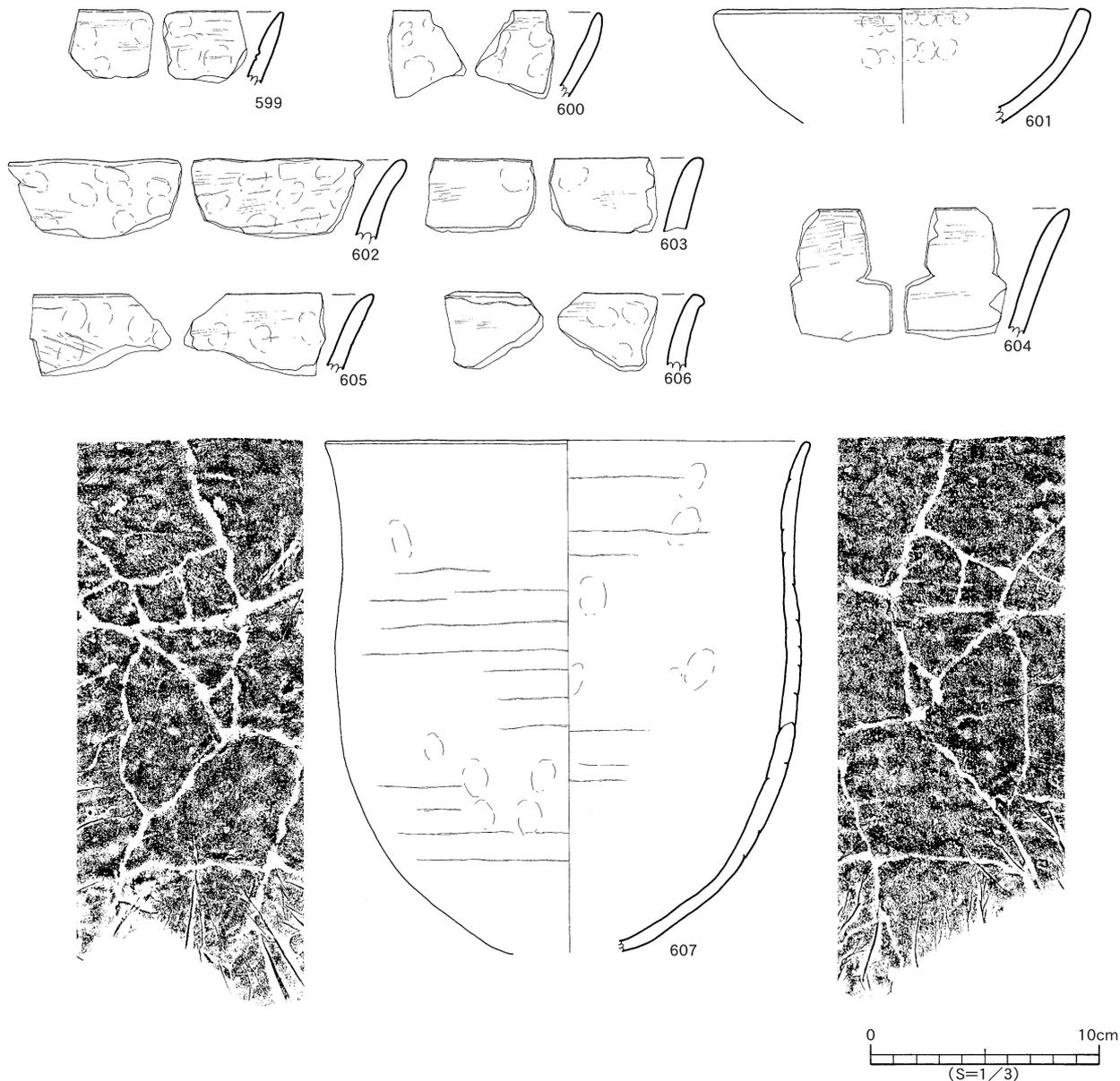
第57図 6類土器実測図(1)



第58図 6類土器実測図(2)



第59図 6類土器実測図(3)



第60図 7類土器実測図(1)

が薄く仕上げられている。36・37は、主要剥離面を残す。48は、各辺のバランスが悪く、左側の厚みを除去しきれしていない。55は、両面に素材剥片の形状が残っている。これで見ると、打点方向を先端部に行っているようである。72は、打点側を基部にして平坦に仕上げるように剥離を繰り返している。73~76は厚みのあるもので石鏃状を呈する。尖頭状石器や石鏃未製品なども含まれるであろうが、明確に抽出することが出来なかった。74は、腹面への剥離はあまりおこなっておらず、主要剥離面を残す。先端部を意識的に尖らせている感もあり、剥片素材のドリルである可能性もあるが、摩擦等の確認は出来なかつ

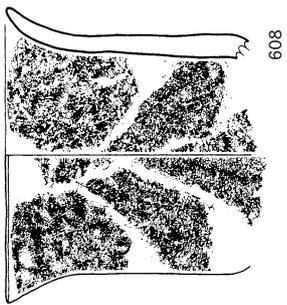
た。76は、剥片素材のドリルである可能性もある。

3 石匙

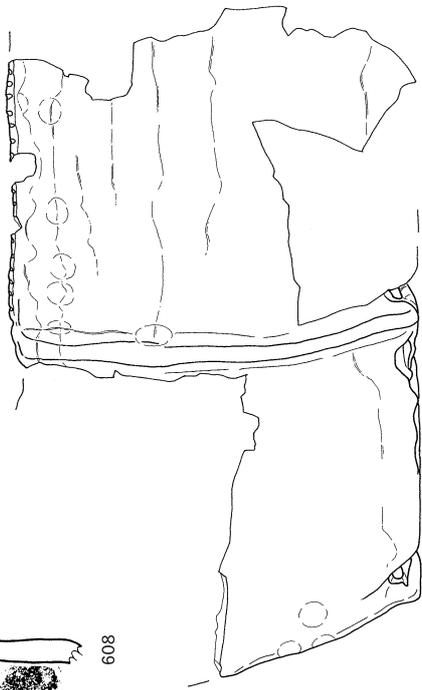
総点数24点が出土し、この内18点を図化した。

細分については、横形のもの(77~81)・縦形のもの(82~89)・礫素材の横形のもの(90・91)・礫素材の縦形のもの(92・93)・はっきりしないもの(94)の5つに分けることが出来た。

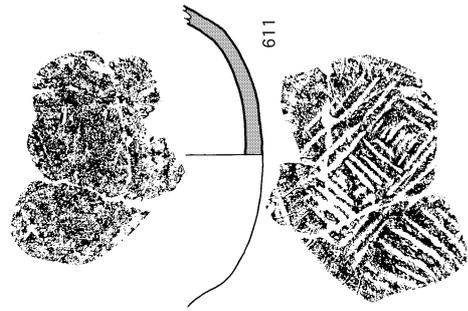
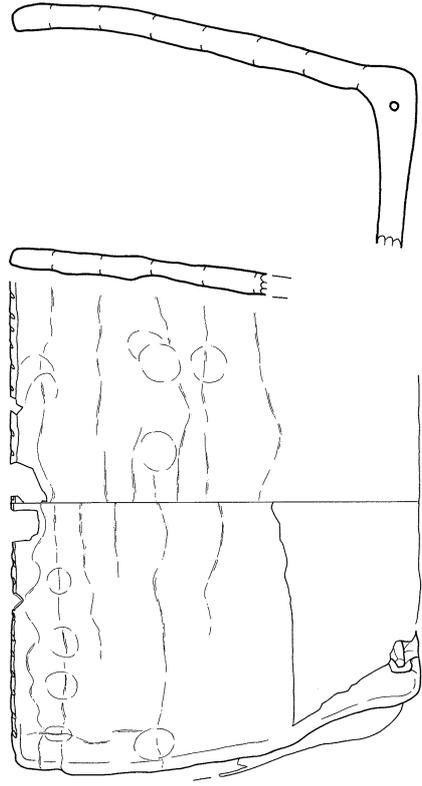
77は、横長剥片の鋭利な部分を利用して背面から加工を施す。78も77と同様で、縦に分割欠損していたが接合した。図上裏面の部分で右側のものについては欠損部分



608



609

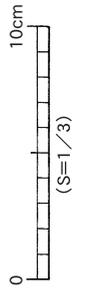


611



610

は滑石混入



第61図 7類土器実測図(2)・8類土器実測図

から剥離を施している。79は厚みのある剥片を用いている。厚みのあるせいか、つまみ部の作出が不十分である。80は、刃部は剥離の鋭利な部分を用いるが、77や78のように明瞭な刃部形成を行っていない。刃部左側にある微細な剥離は使用による剥離である可能性も考えられる。81は、打面と刃部とが平行しないが剥片素材の形状を生かした結果であろうか、刃部は細かな剥離により作出されている。82は、縦長剥片の左右に抉りと刃部を作出している。つまみ部間は3.7cmと広い。83は、つまみ部と刃部作出の点で右側辺がはっきりしない。85は、横長剥片を用い打点を見て左側につまみ部を作出し、打点側への剥離はつまみ部の剥離のみで素材の形状を大きく残している。87・88は台形状を呈する。89は、自然面あるいは節理面を残す。90は、礫素材の横長剥片を用い、鋭い一辺を刃部にしている。刃部作出は弱く、つまみ部の抉りもはっきりとしない。92は、自然面から横長に剥離された剥片を用い、打点側にはつまみ部とその下位に剥離を加えているが、打点付近以下への剥離は行っていない。逆に、右側への剥離ははっきりとしており、湾曲する刃部を呈する。

4 スクレイパー

総点数35点が出土し、この内24点を図化した。

器種を位置づけられなかった多くの剥片石器がここに分類されている。刃部がV字状を呈して尖頭状を呈するもの(95~102)・方形を呈するもの(103~105)・刃部が丸みを帯びるもの(106・107)・直線的な刃部のもの(108~111)・これらに分類出来なかったその他のもの(112~115)・厚みのある素材を用い大きめの剥離で尖頭状を呈するもの(116~118)の6つに細分した。

95は、打点近くに大きな礫状の不純物がある。96は剥片素材で抉りを入れV字状の刃部を形成する。97は、厚みのある剥片の薄い部分にV字状の刃部を形成している。99は縦長剥片を用いている。101は石鏃の未製品である可能性も考えられる。102は細身である。103は楔形石器の可能性もあるが、先端部等への潰れが認められない。108~110は左右が欠損しておりはっきりとしないが、直線的な刃部が形成されている。113・114は堤状を呈する。特に114は明瞭で、基部加工は入念であるが、先端部への加工は明瞭でない。115は厚みがある。116~118は尖頭状とも取れる形状を呈しており、全体的に厚めの素材を用いて求心状に近い剥離を施す。118は、礫皮面からの剥離のみである。

5 二次加工剥片

総点数62点が出土し、この内3点を図化した。

119は礫素材である。121は、自然礫の突出部を剥離しているため断面観が三角形ないし台形状を呈する。厚み

のある縦長剥片である。側辺に微細な剥離痕を有するが明瞭な刃部形成は認められない。

6 楔形石器

総点数87点が出土し、この内27点を図化した。

細分については、四角形状のもの(122~135)・一辺が小さいもの(136~139)・厚みがあり直方体状を呈するもの(140~145)・薄手の剥片素材のもの(146・147)・厚みのある大振りのもの(148)の5つに分けた。

122・124は四側辺全てに稜線の潰れが観察される。131は剥片素材である。132は左側を欠損している。三側辺に稜線の潰れが認められ、欠損していなければあるいは四面共であったかも知れない。なお、このように欠損している楔形石器は比較的多く見受けられ、これらに関しては接合作業を試みている。しかしながら一点も接合させることが出来なかった。今後の課題として残る問題である。134も三面の稜線が潰れている。断面観はきれいな紡錘形である。136は質の良い黒曜石を用いている。全体的な傾向として楔形石器には安山岩が多いのに対して黒曜石製はめずらしい。139は下方向からの力で分割されている。144・145は上面と下面の稜線が直交する特徴がある。148は楔形石器に分類したが、両極石核の可能性もある。

7 石錐

総点数4点が出土し、この内3点を図化した。

149は先端部の摩滅が激しい。150は、はっきりとした摩滅は認められない。しかし、刃部と反対側の先端部の稜が摩滅しており、あるいはこちら側が刃部であろうか。

8 石核

総点数71点が出土し、この内21点を図化した。

細分は形状で、小型(152~161)・大型(162~168)・扁平(169~172)の3つに分けた。

154は3cm程度の小石状の石核である。155は右側から打面を転移しており、正面も左方向から時計回りに作業を連続している。156は正面感が舟底形を呈する。158は下面の先端部の稜が潰れている。161は自然面を残さない特徴がある。162は層出土の石核中最大の重量を持つ。側辺にも剥片剥離が行われている。163は、拳大よりやや小さめである。164は拳大程度の大きさで比較的円礫に近い。166は大振りの剥片を石核としている。167は、右側と下面の稜に潰れが見られる。168は拳大よりやや小さめの石核を求心状に剥離している。

9 打製石斧

総点数4点が出土し、全てを図化した。

173は全体的に摩滅が激しい。174は礫皮面を上面に残

す縦長の剥片を素材としている。175はわずかに稜線に鋭さが見られない部分もあるが、研磨等は見られない。176は自然面が大きく残っている細身のものである。

10 磨製石斧

総点数24点が出土し、この内18点を図化した。

178・179は素材の形状を生かしながら研磨したと思われる磨製石斧である。いずれも研磨による稜線がはっきりと観察出来る。180は蛇紋岩製のものである。右側は刃部を再生したのであろうか左右対称となっていない。182は入念に成形研磨されたもので裏面が比較的平坦に仕上げられている。183は、幅の広い蛇紋岩製の石斧である。右側には剥離痕が多く残されているが、左側にそれはほとんど見受けられない。左側は丁寧に研がれている。184は刃部に集中して研磨が施されている。185～194は欠損品である。185は磨製石斧としたがはっきりとしない。186は基部の可能性もある。189は湾曲しているが、これは礫素材の形状を生かした結果であると思われる。190は右側に敲打痕が残されている。191は刃部が刃部方向から大きく剥離している。

11 礫器

総点数10点が出土し、この内9点を図化した。

多くの形状を含んでおり、細分は出来なかった。196・197は右側を刃部としていたのであろうか。199は左側の加工をほとんど行っていない。200は、上下に潰れや剥離が認められており、クサビ状の用途が考えられる。202は湾曲する刃部である。

12 敲石

総点数25点が出土し、この内18点を図化した。

208・209は上下に激しい潰れ痕があり面が作出されている。また、中央上位にも潰れの痕跡がある。205は下面が潰れて幾つかの平坦面が形成されている。219・220は楕円形で厚みがある。磨石に類似するが、上下先端部の潰れ痕の観察からここに分類した。

13 磨石

総点数186点が出土し、この内41点を図化した。

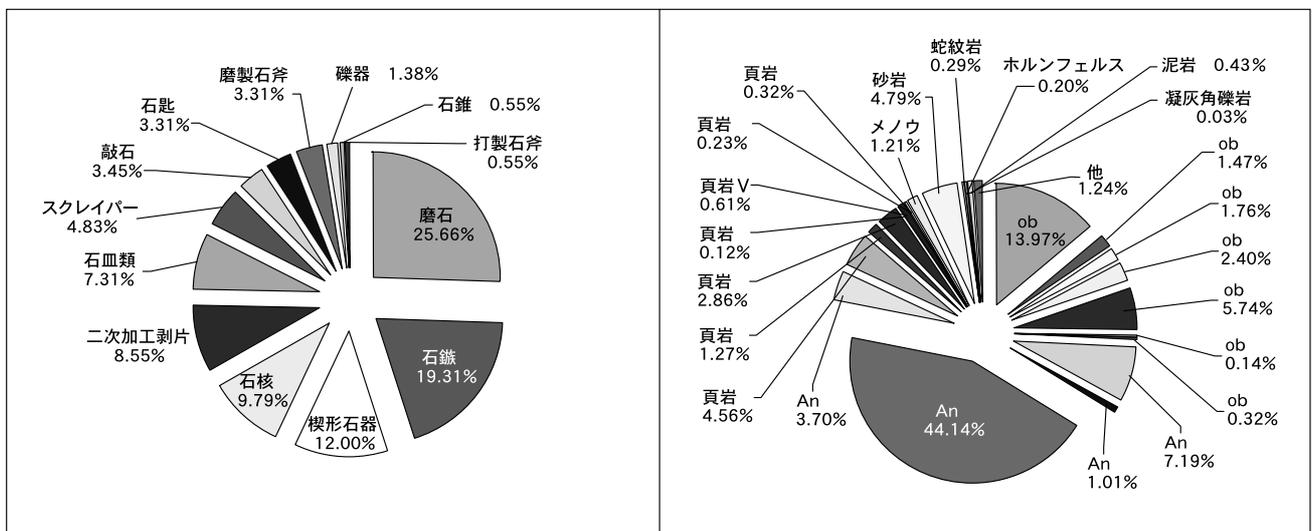
細分は、小型のもの(222～236)と大型のもの(237～262)とに分けられ、更に、260・261は断面観が円形を呈する。なお、262ははっきりとしない。

236は先端部に敲打痕による平坦面がある。240は内外面共に敲打による平坦面がある。240は表・裏面共に中央部分が窪んでいる。245は二次焼成を受けている。

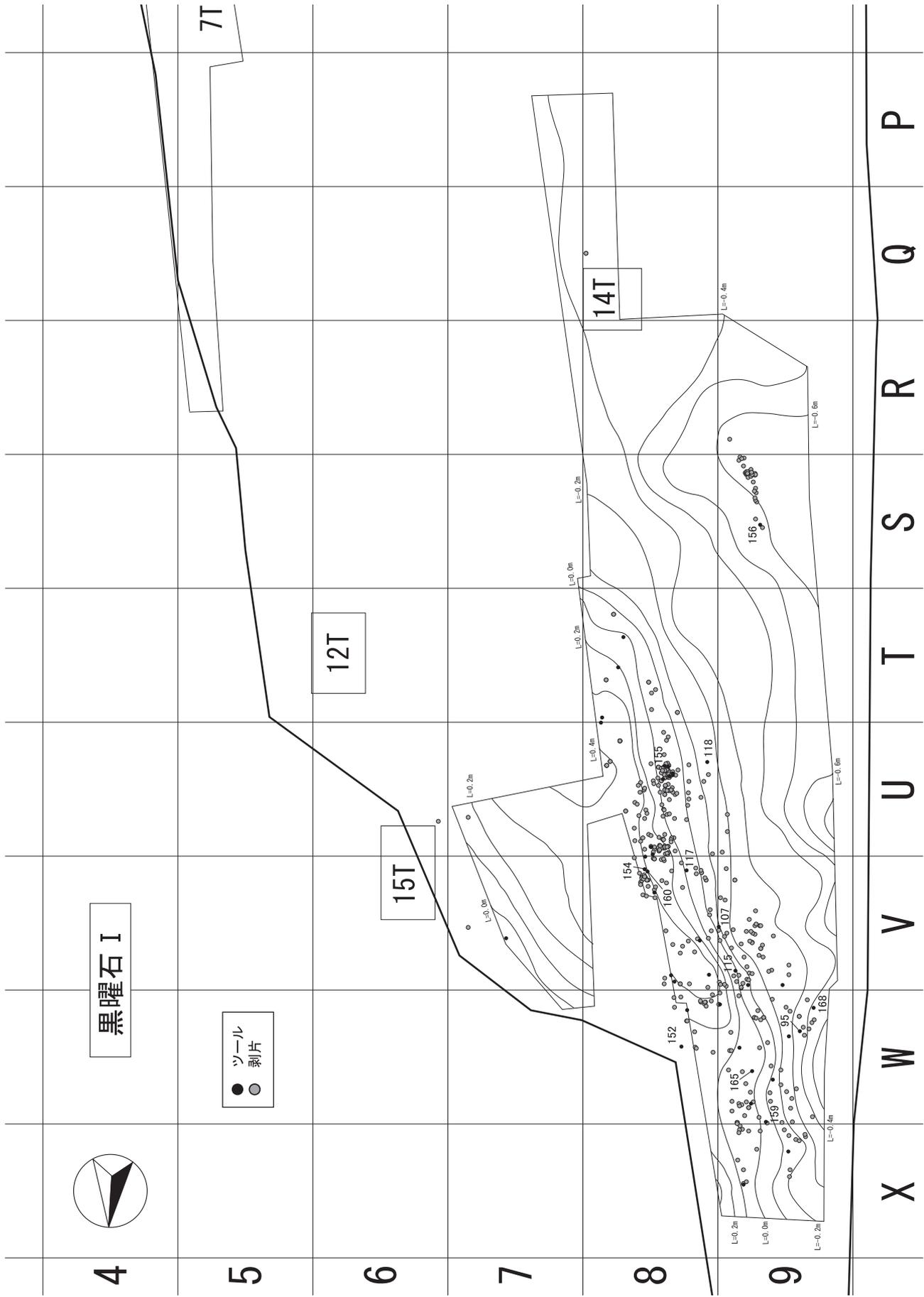
14 石皿類

総点数53点が出土し、この内17点を図化した。元来平坦面を有する石材で、磨り等の人為的行為が確認されたものを含んでいる。この為、石皿と砥石の両方がここに分類掲載されている。細分は、扁平な礫素材で小型のもの(263～269)・扁平な礫素材で大型のもの(270～276)・厚みのある礫素材のもの(277～279)の3つに分けた。

264は、砂岩製のもので中央部分がU字状に窪む。269は、表裏面共に敲打の範囲が2cmの範囲で認められる。270は、右側から表裏面へ敲打と剥離が施され、石皿片を転用した可能性もある。271は、U字状の窪みが直線的に数条見られる。273は部分的に赤化が観察される。275は緩やかなU字状に窪む。部分的に敲打が認められる。278は、赤化が広い範囲で認められ剥落がある。それ以外の部分については磨り等による光沢が明瞭に観察

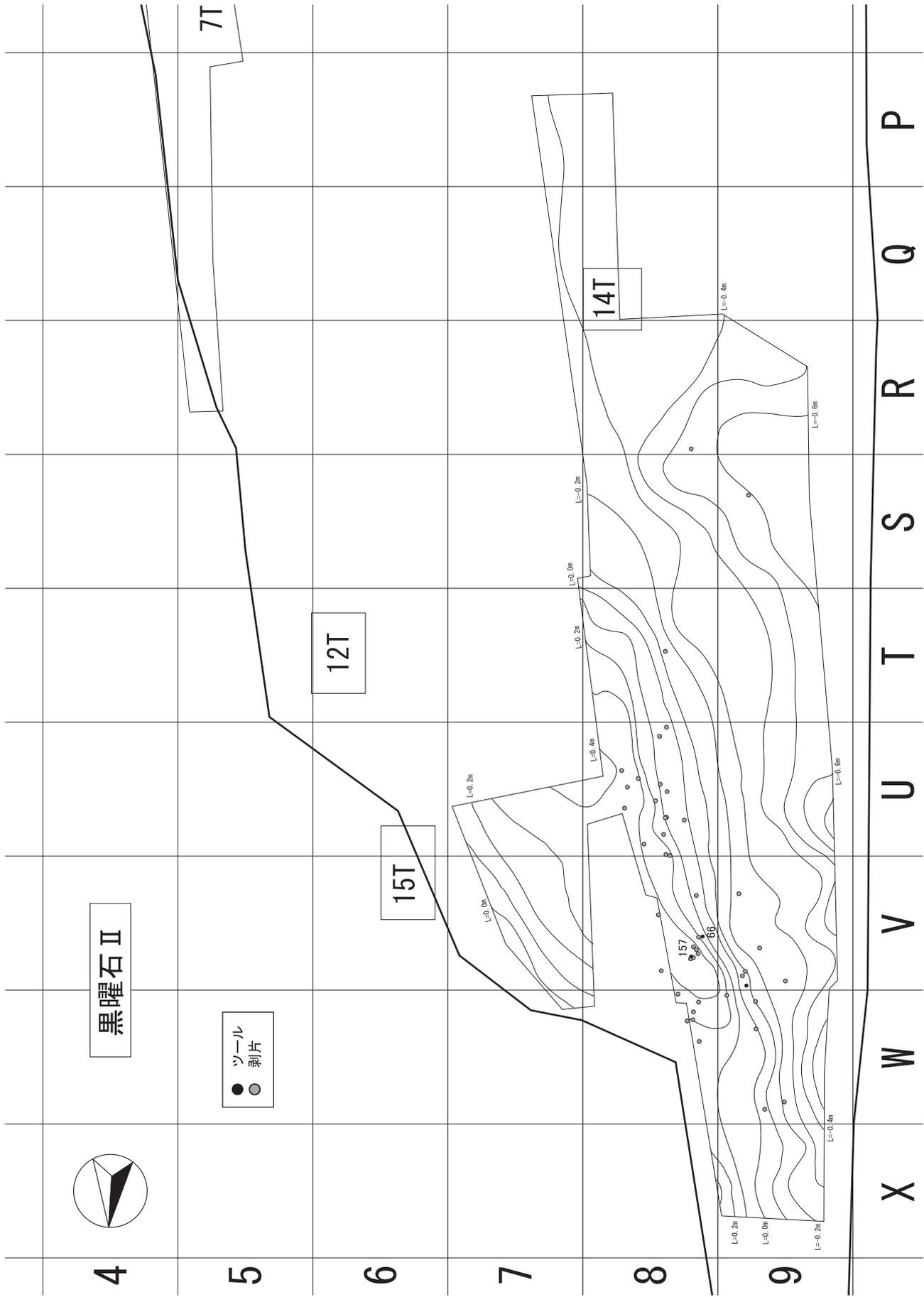


第62図 器種組成および石材別出土割合



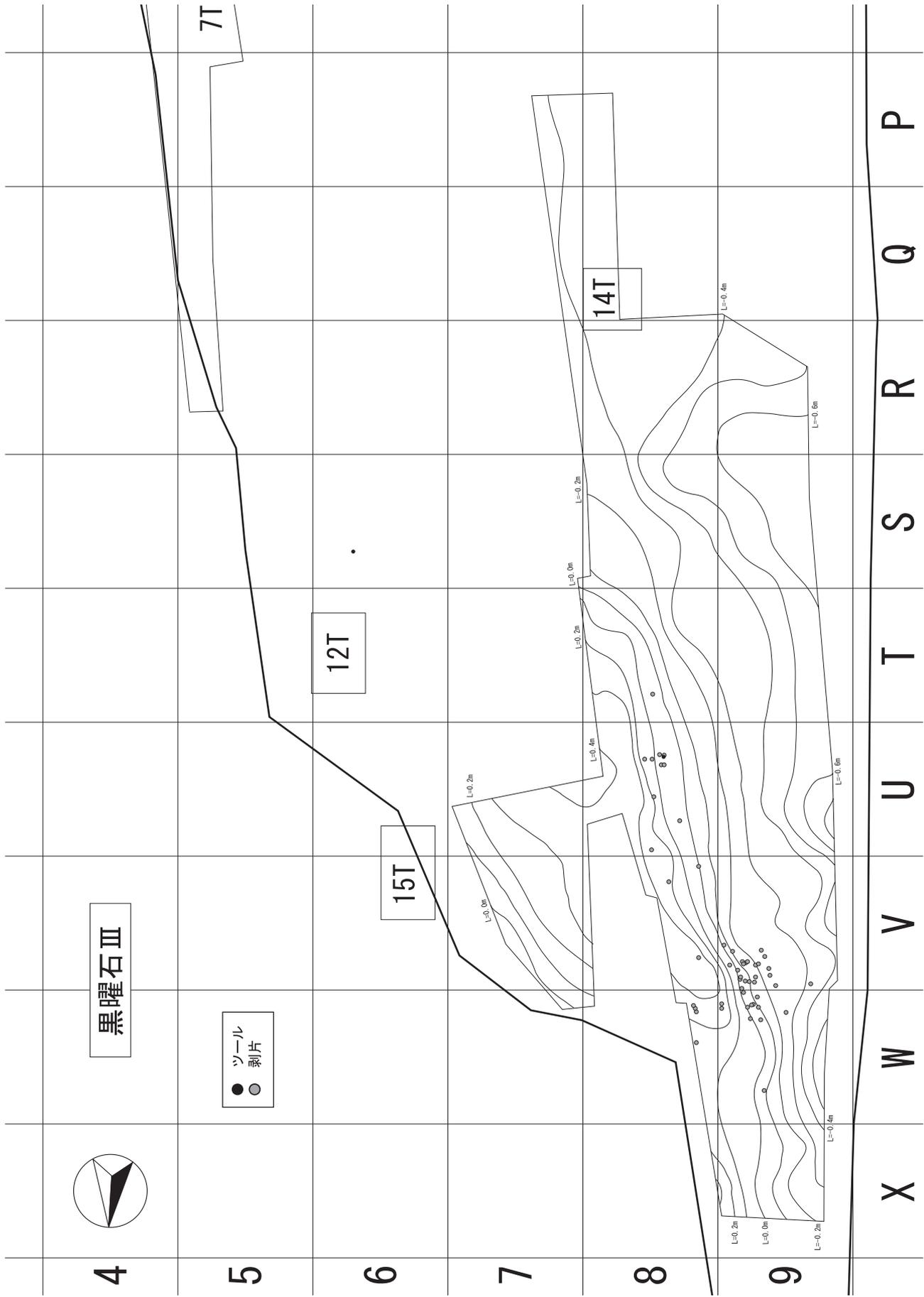
(1グリッド 10m×10m)

第63図 石材別出土状況図(1)黒曜石 I



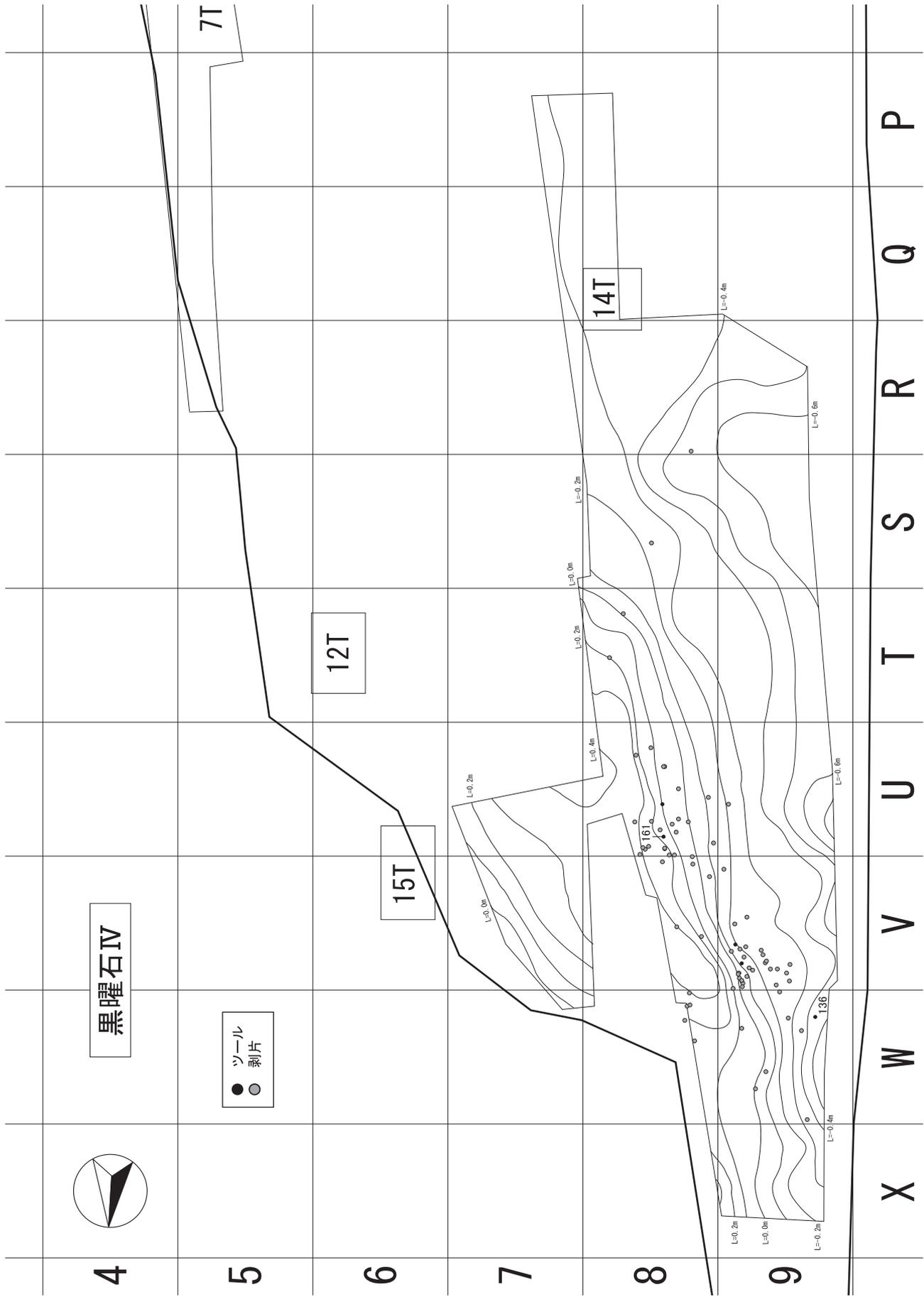
(1グリッド 10m x 10m)

第64図 石材別出土状況図(2)黒曜石 II



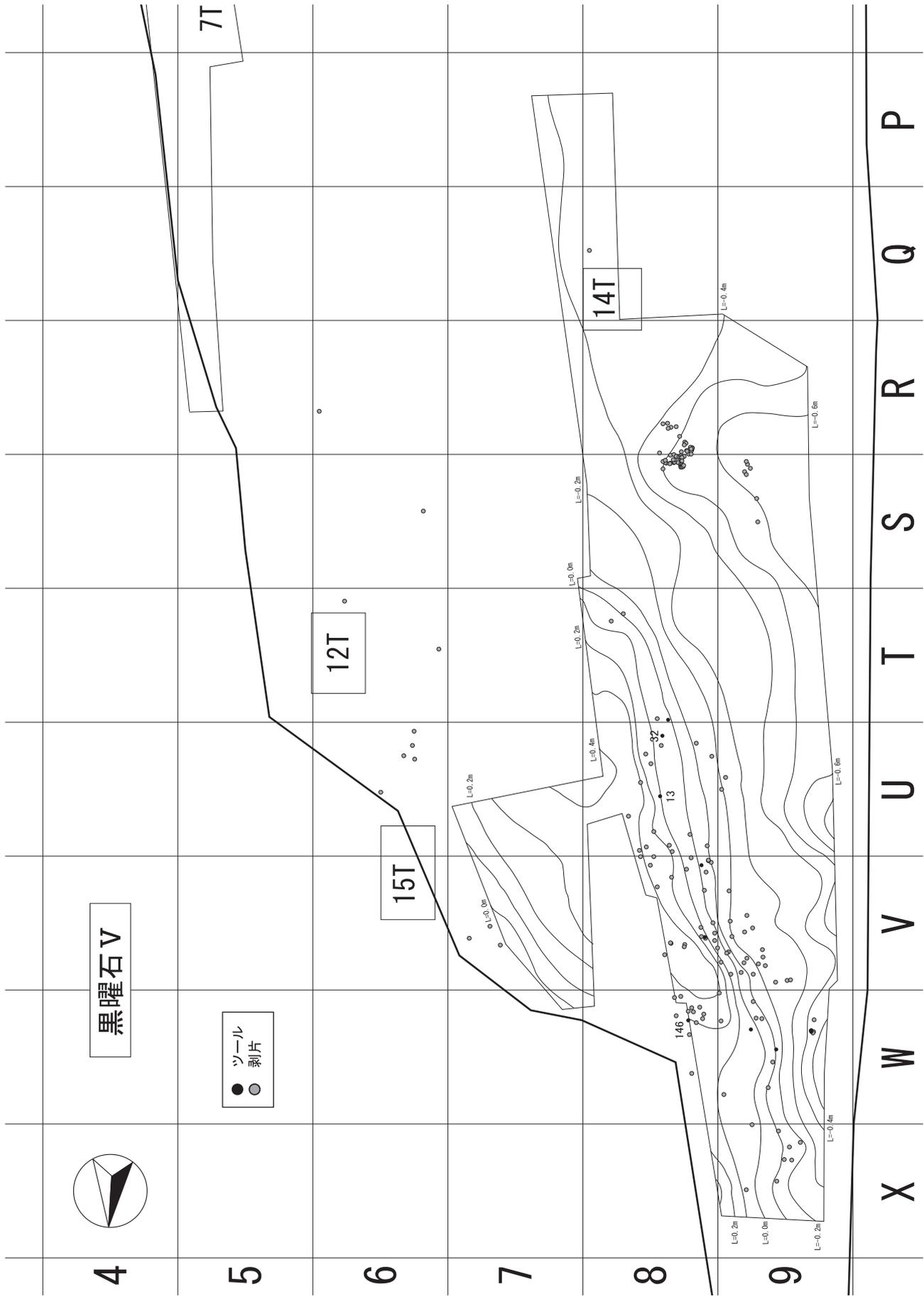
(1グリッド 10m×10m)

第65図 石材別出土状況図(3)黒曜石Ⅲ



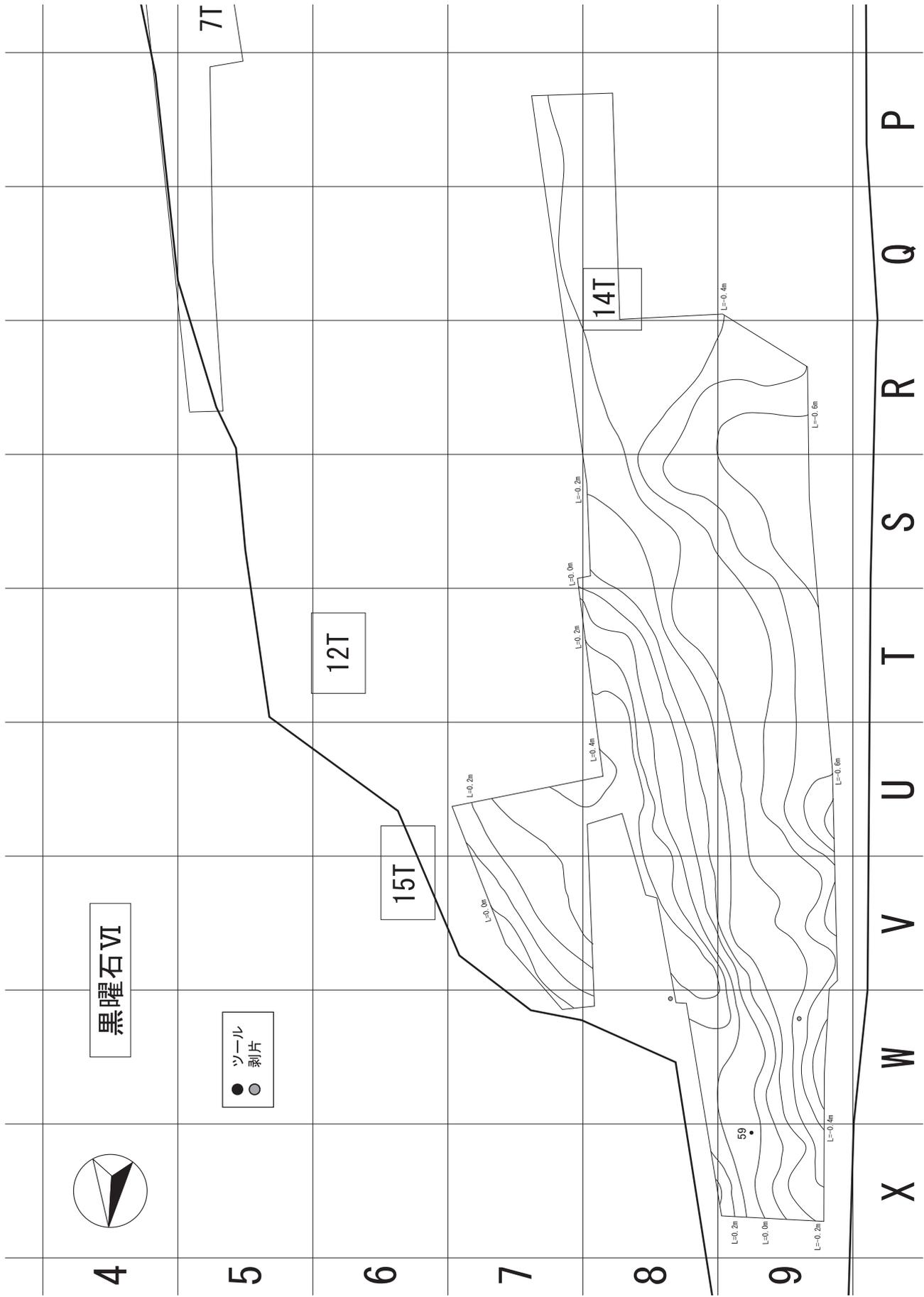
(1グリッド 10m x 10m)

第66図 石材別出土状況図(4)黒曜石IV



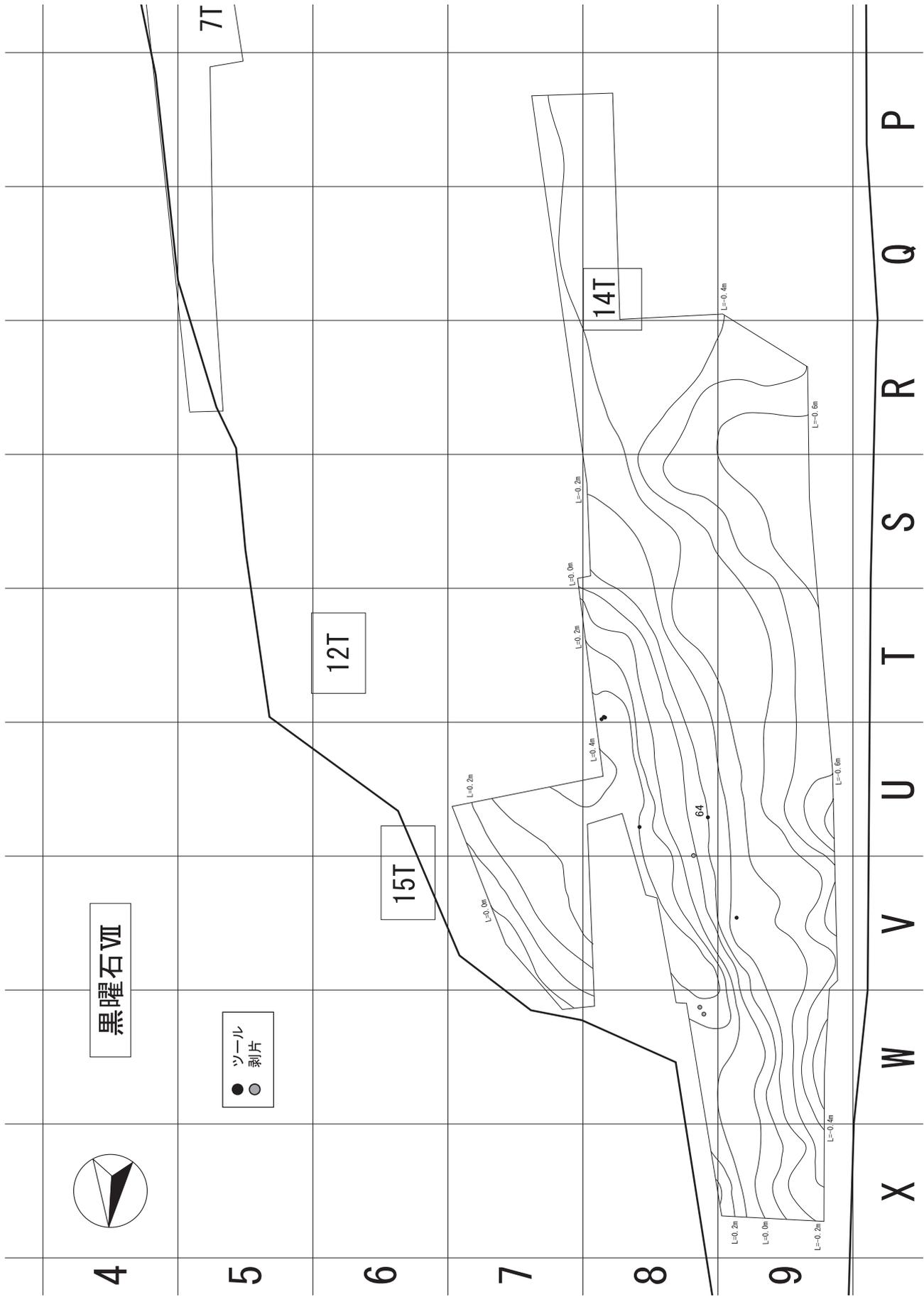
(1グリッド 10m x 10m)

第67図 石材別出土状況図(5)黒曜石V



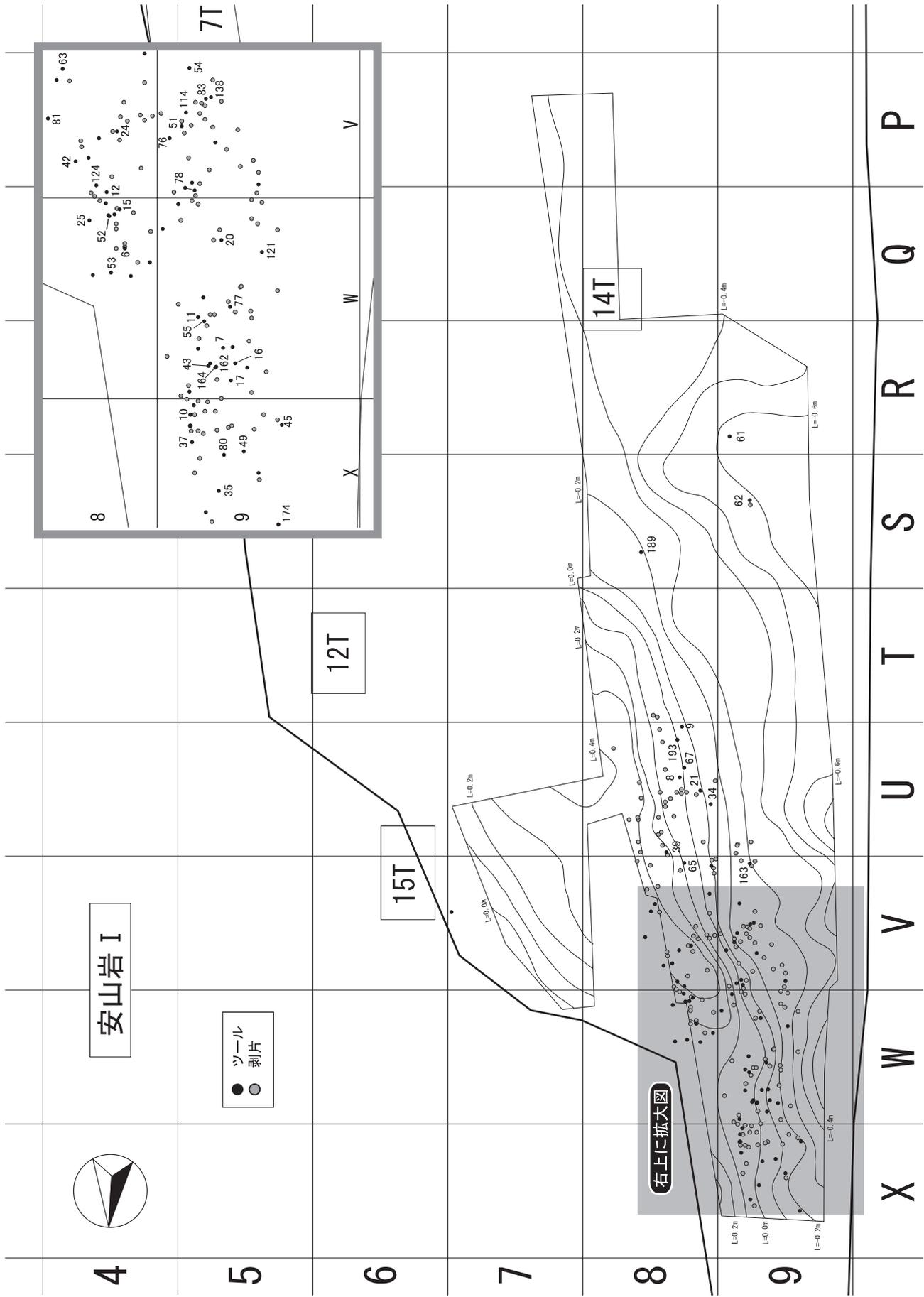
(1グリッド 10m×10m)

第68図 石材別出土状況図(6)黒曜石VI



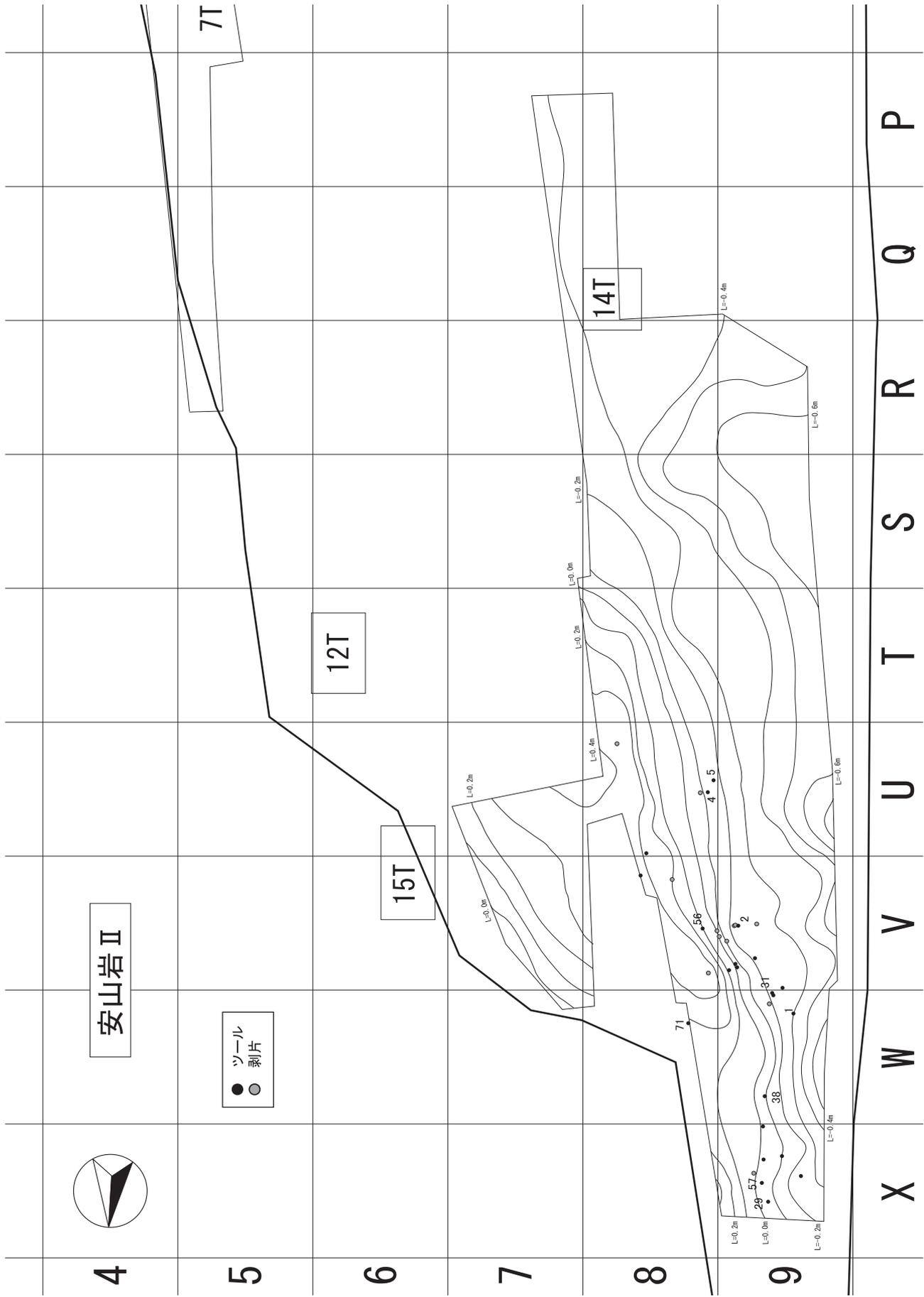
(1グリッド 10m×10m)

第69図 石材別出土状況図(7)黒曜石VII



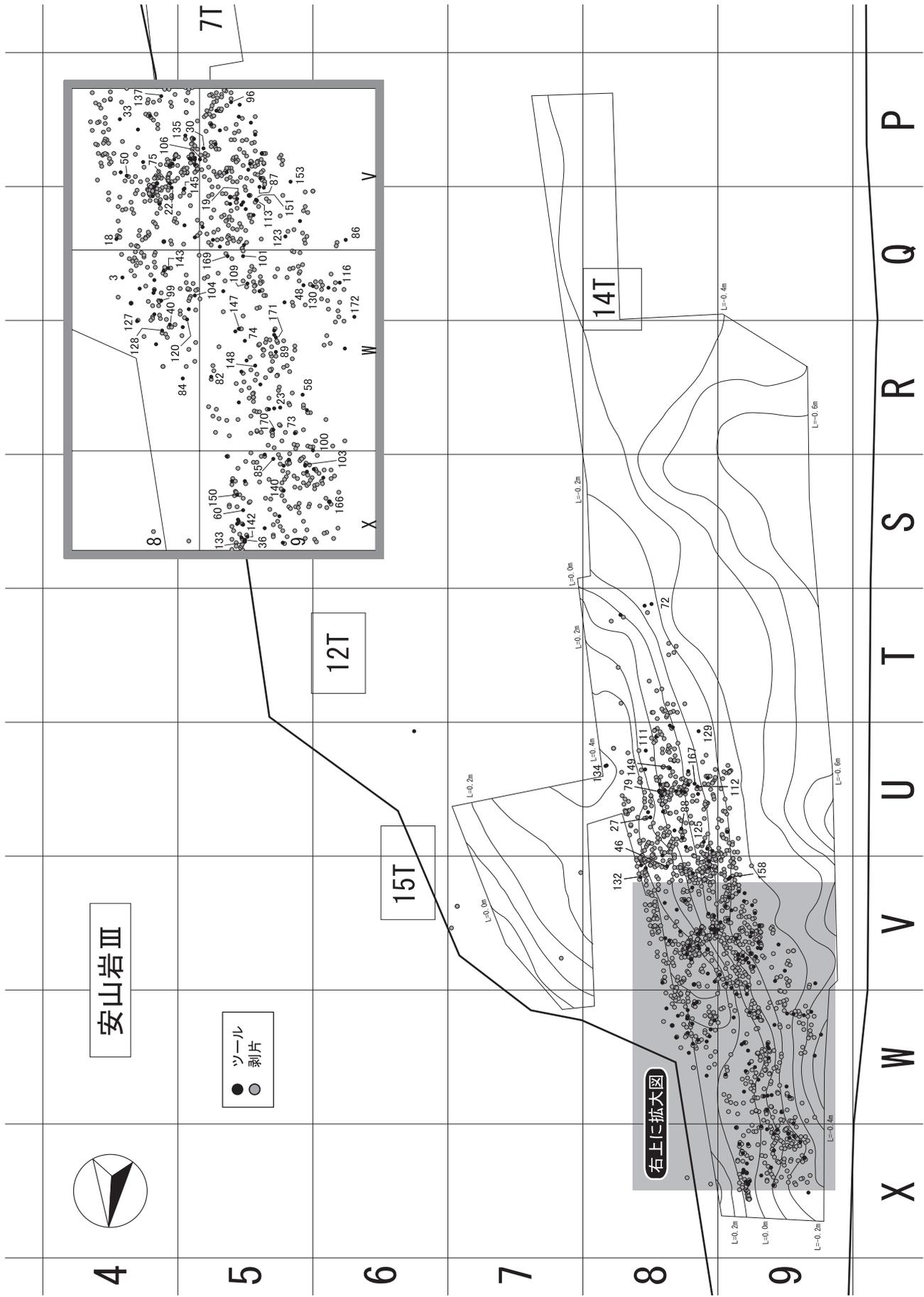
第70図 石材別出土状況図(8)安山岩 I

(1グリッド 10m×10m)



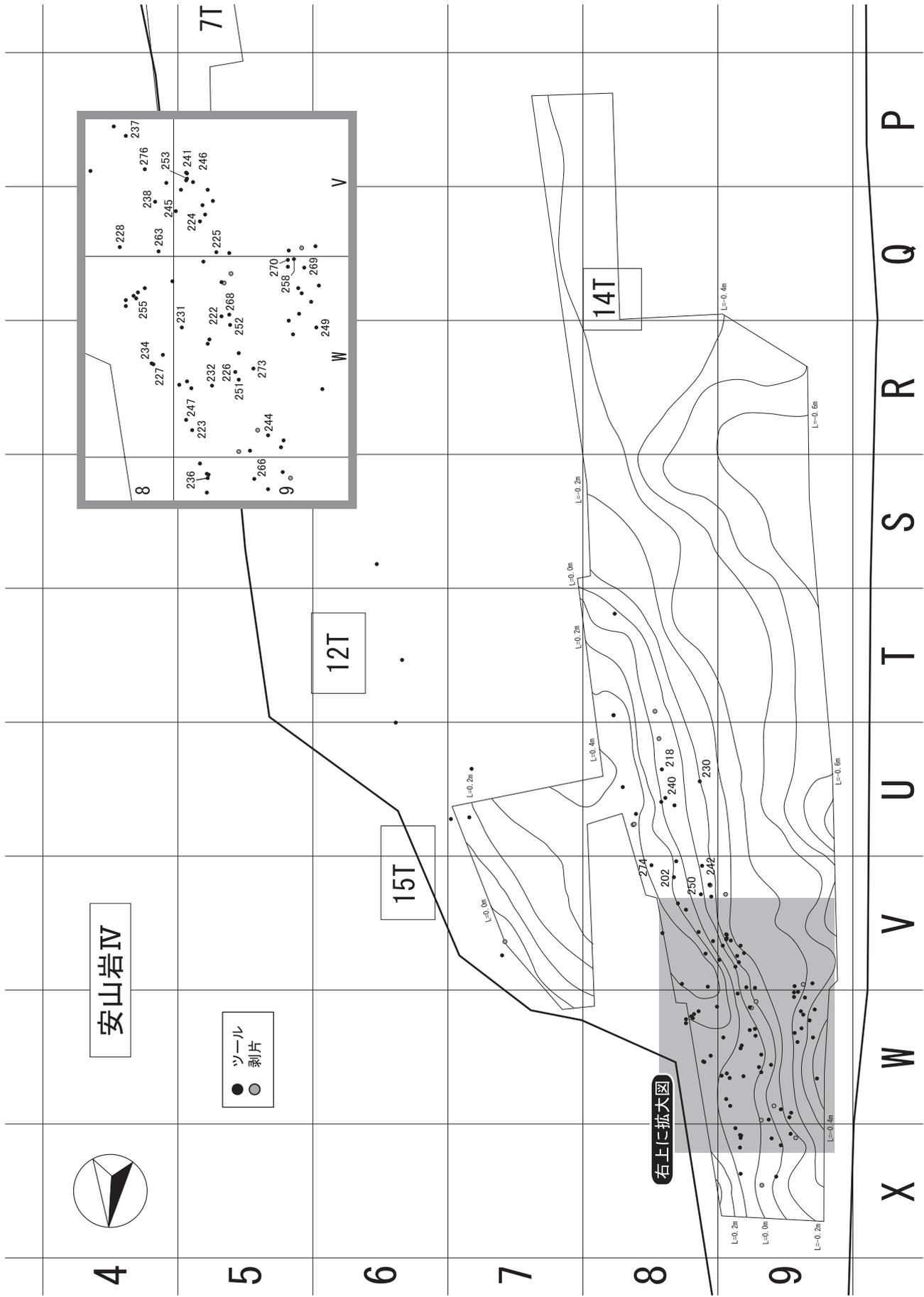
(1グリッド 10m×10m)

第71図 石材別出土状況図(9)安山岩Ⅱ



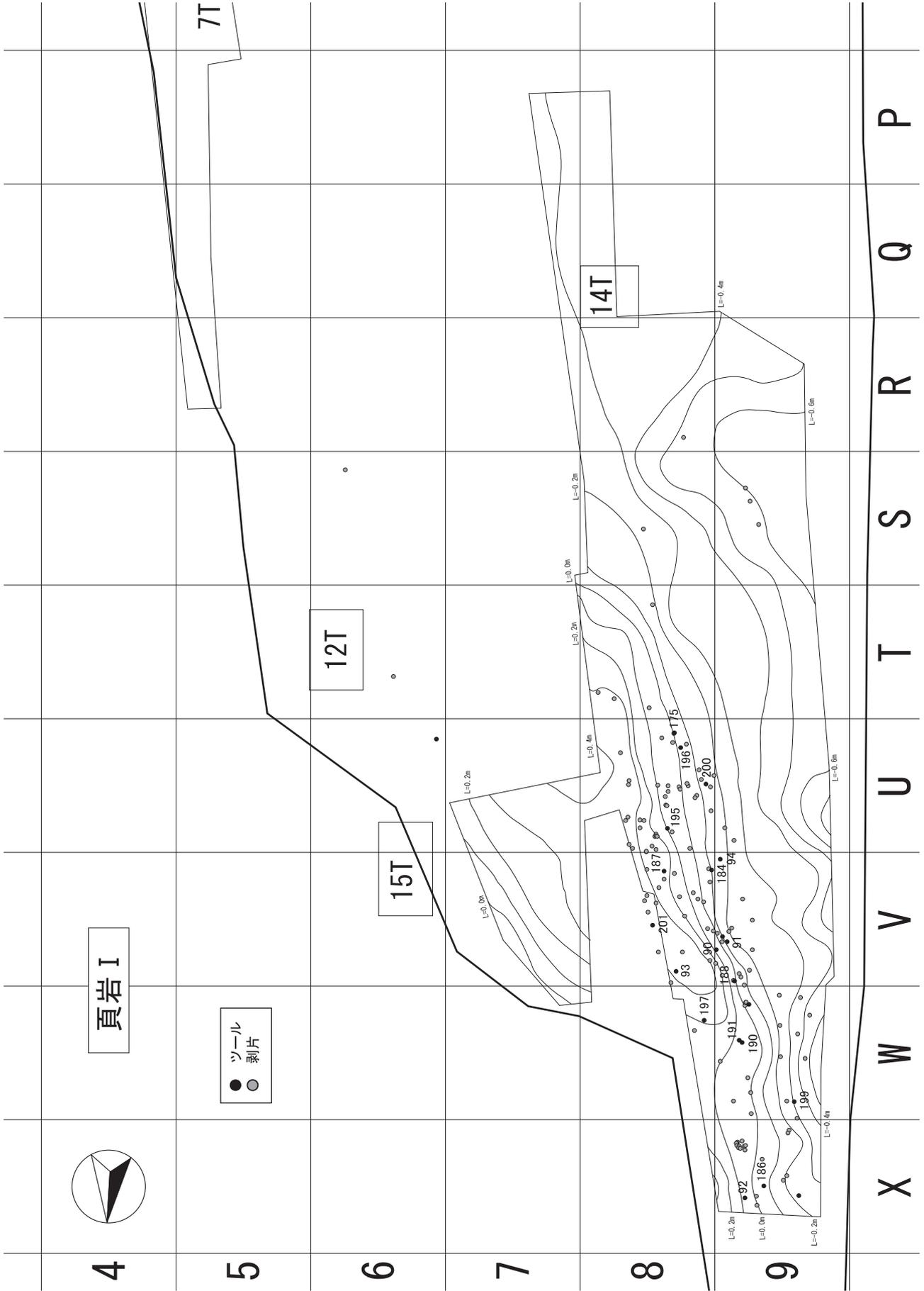
第72図 石材別出土状況図⑩安山岩Ⅲ

(1グリッド 10m×10m)



第73図 石材別出土状況図(1)安山岩IV

(1グリッド 10m×10m)



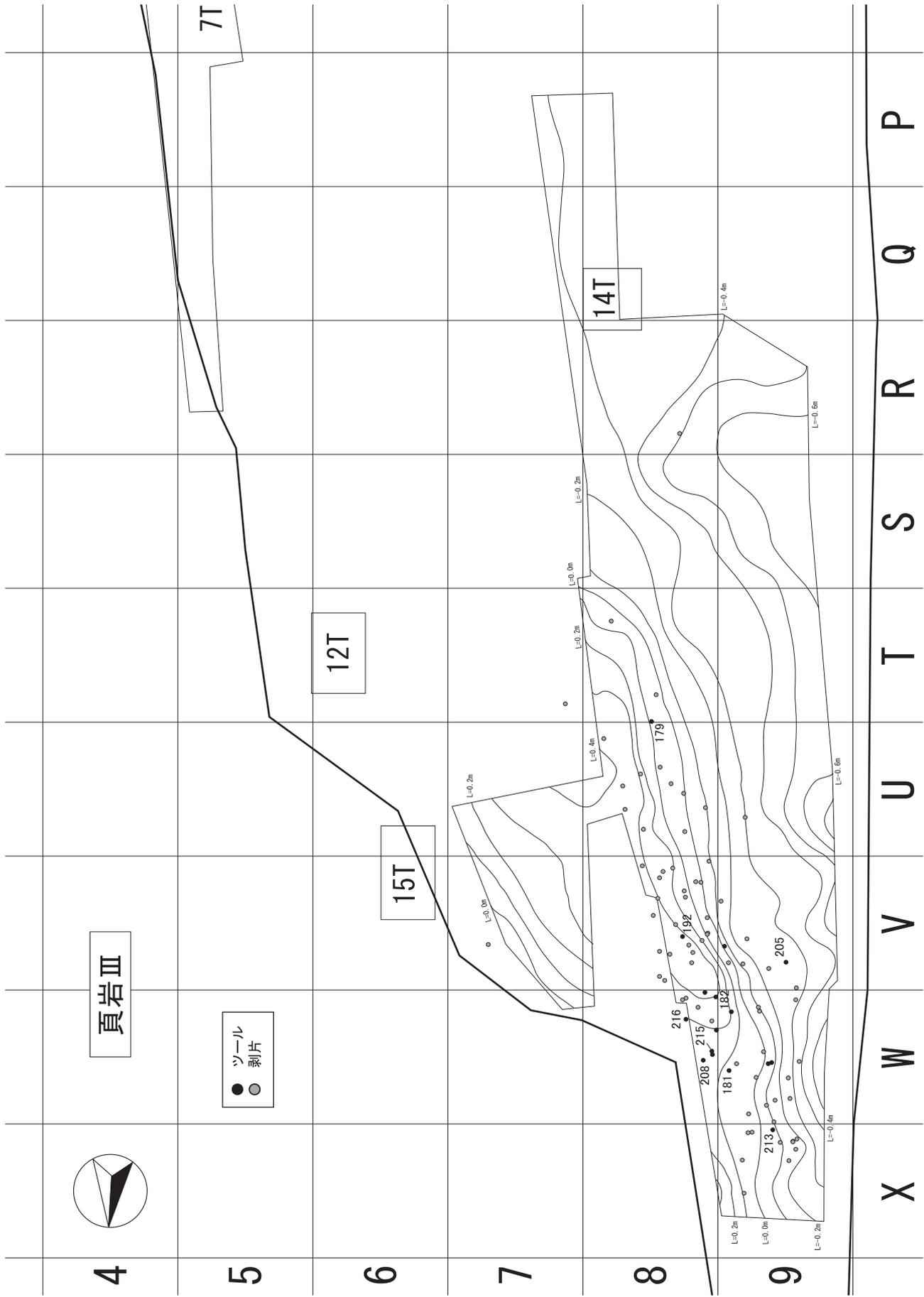
(1) グリッド 10m x 10m

第74図 石材別出土状況図(1)頁岩 I

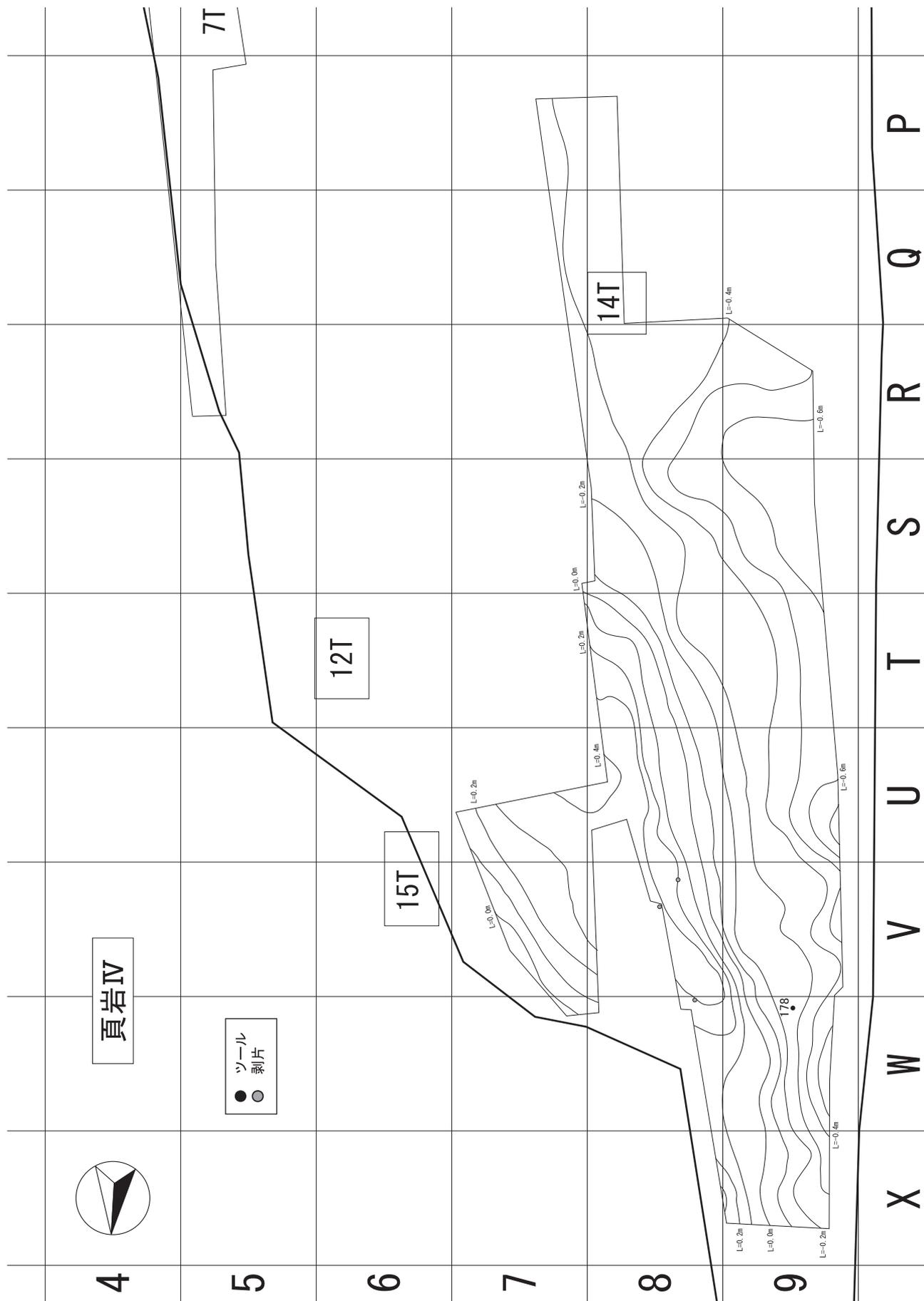


(1グリッド 10m×10m)

第75図 石材別出土状況図(13)頁岩II

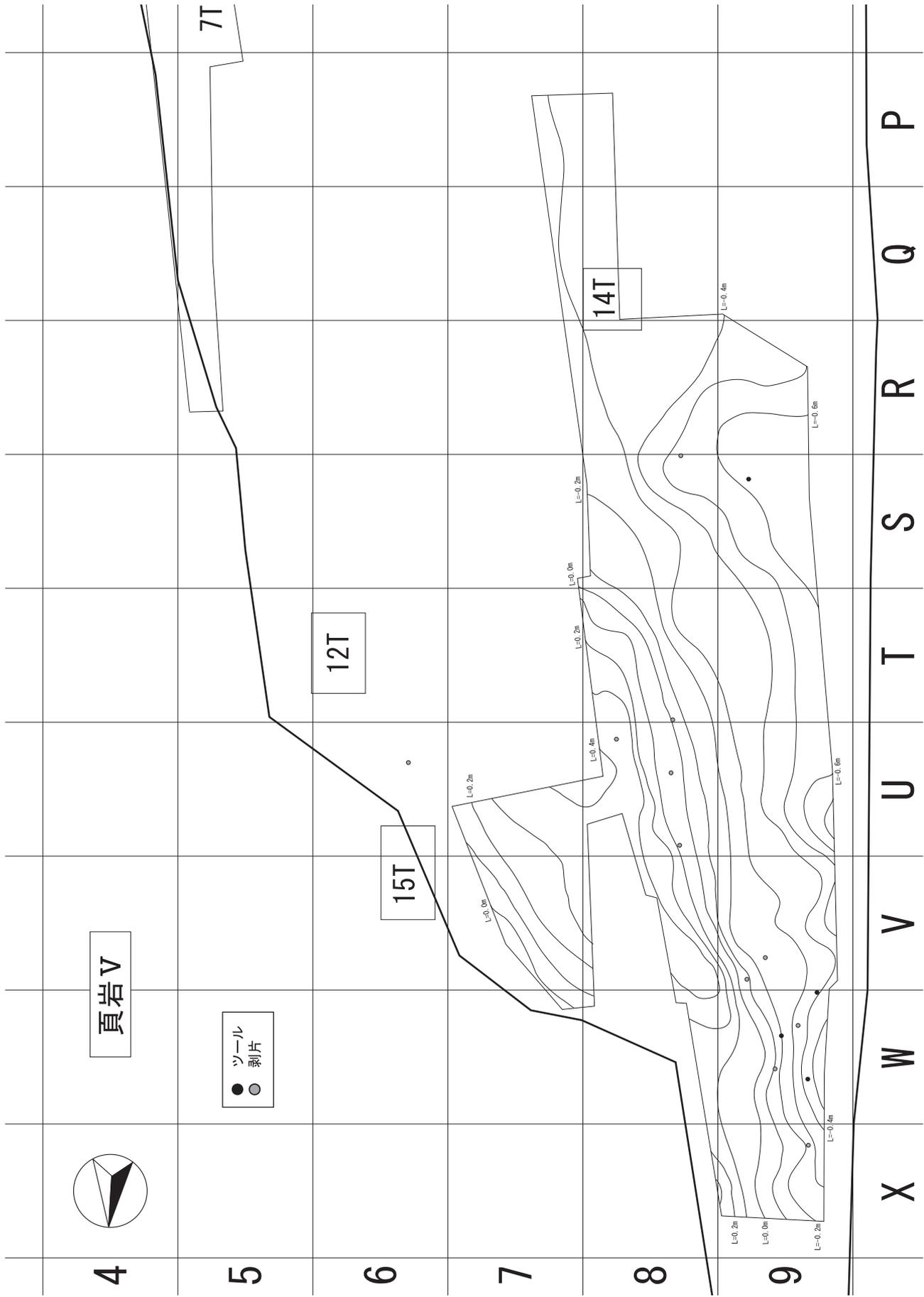


第76図 石材別出土状況図(14)頁岩Ⅲ
(1グリッド 10m×10m)



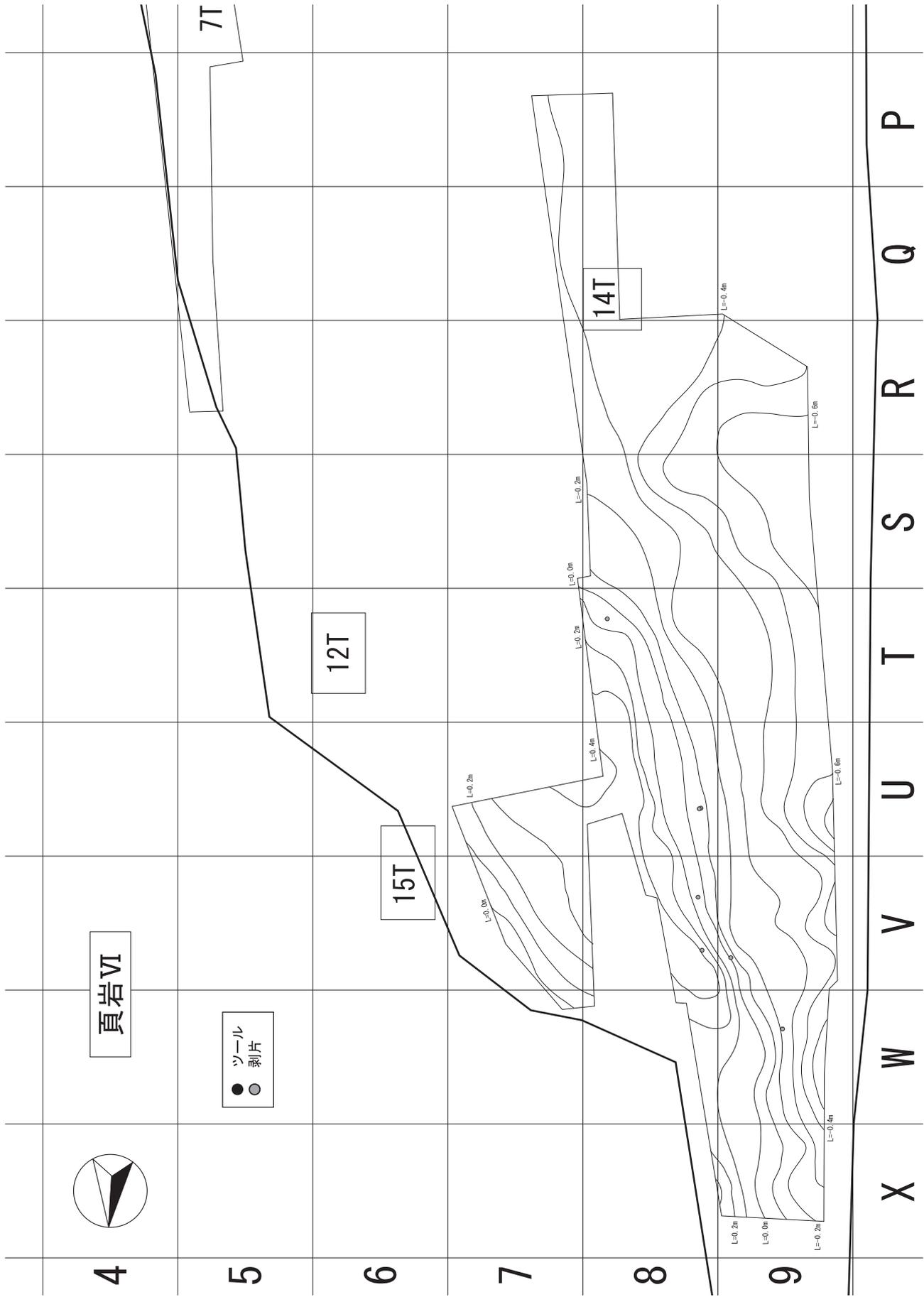
(1グリッド 10m×10m)

第77図 石材別出土状況図(15)頁岩IV



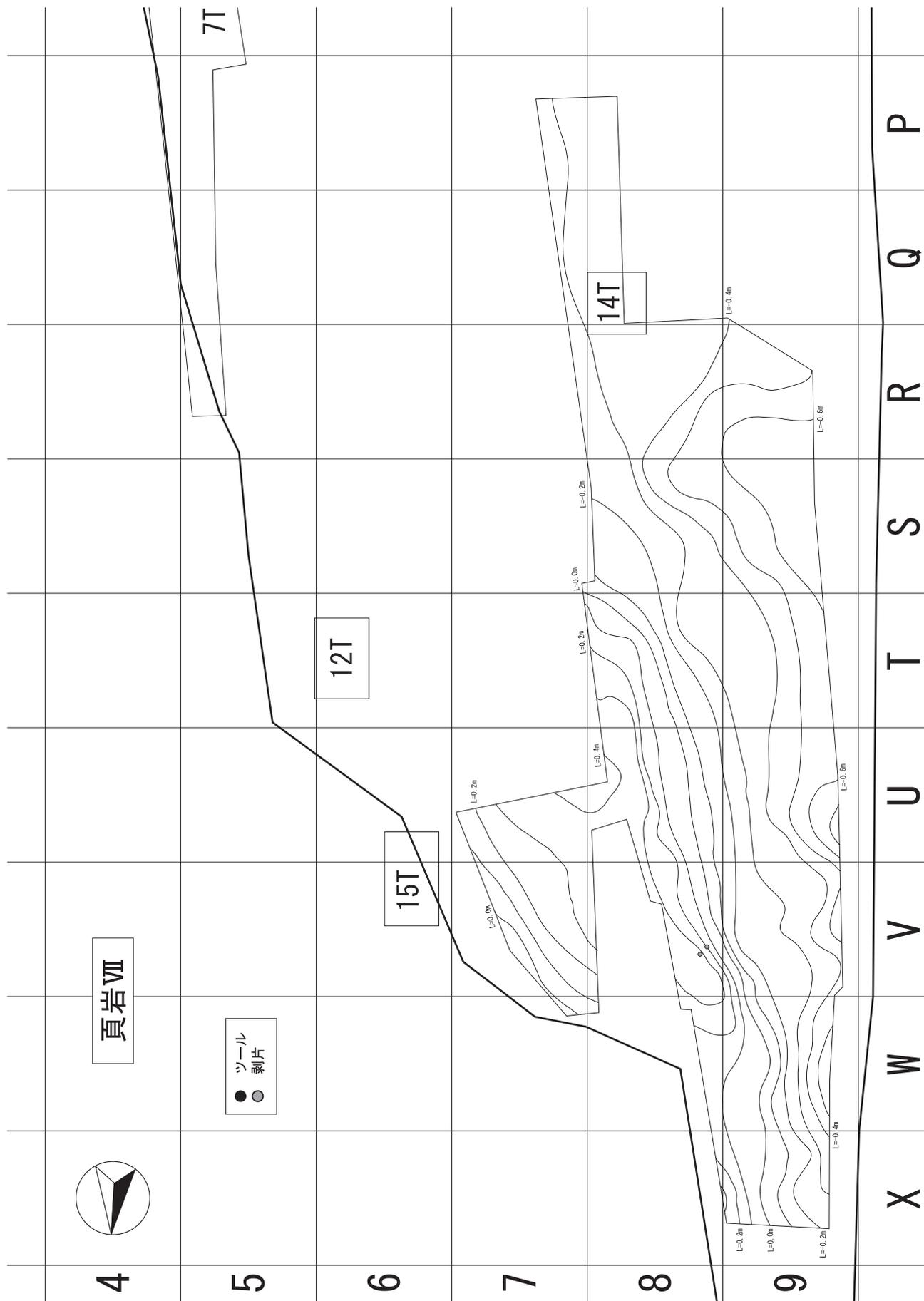
(1グリッド 10m×10m)

第78図 石材別出土状況図(16)頁岩V



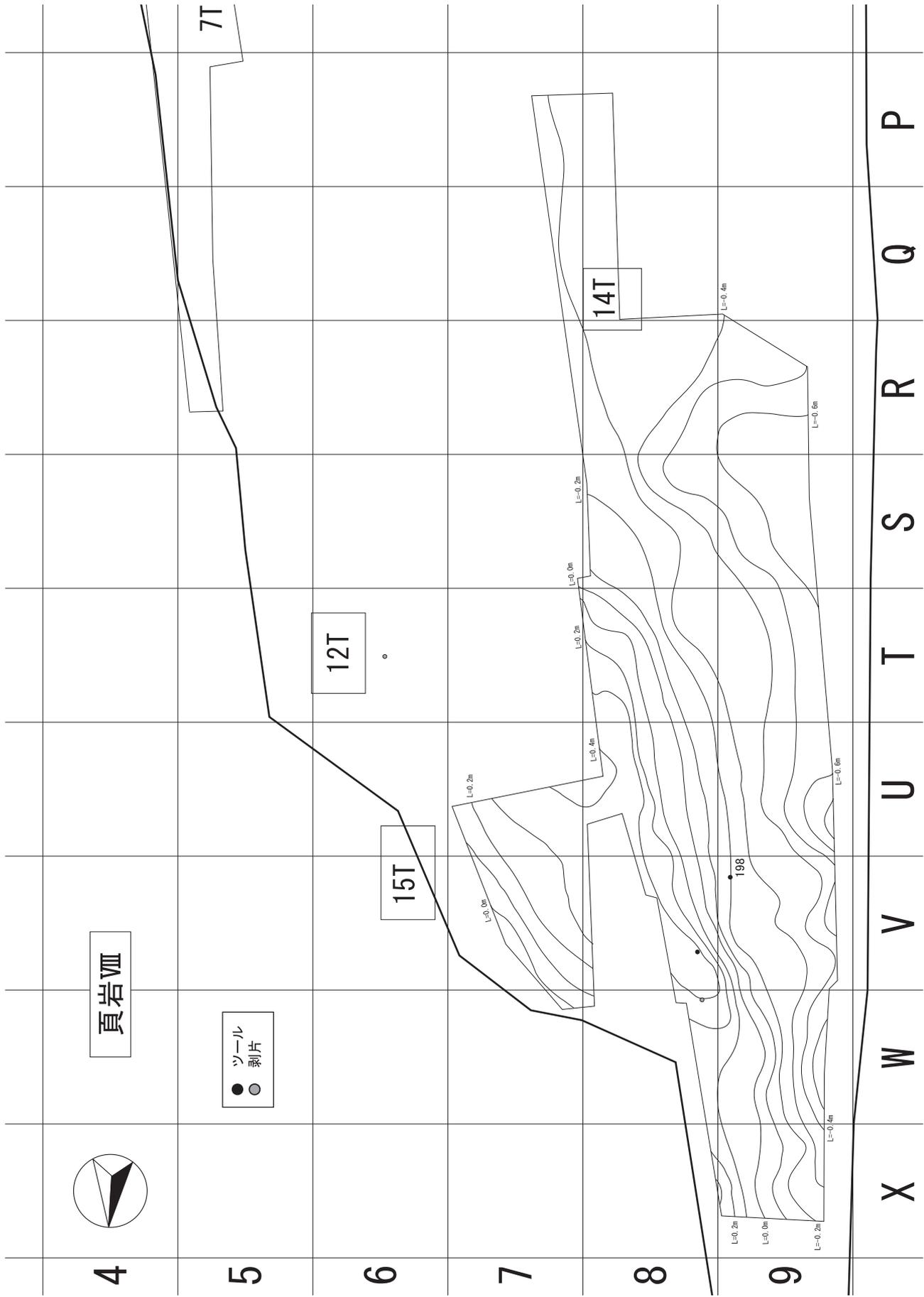
(1グリッド 10m×10m)

第79図 石材別出土状況図(1)頁岩VI



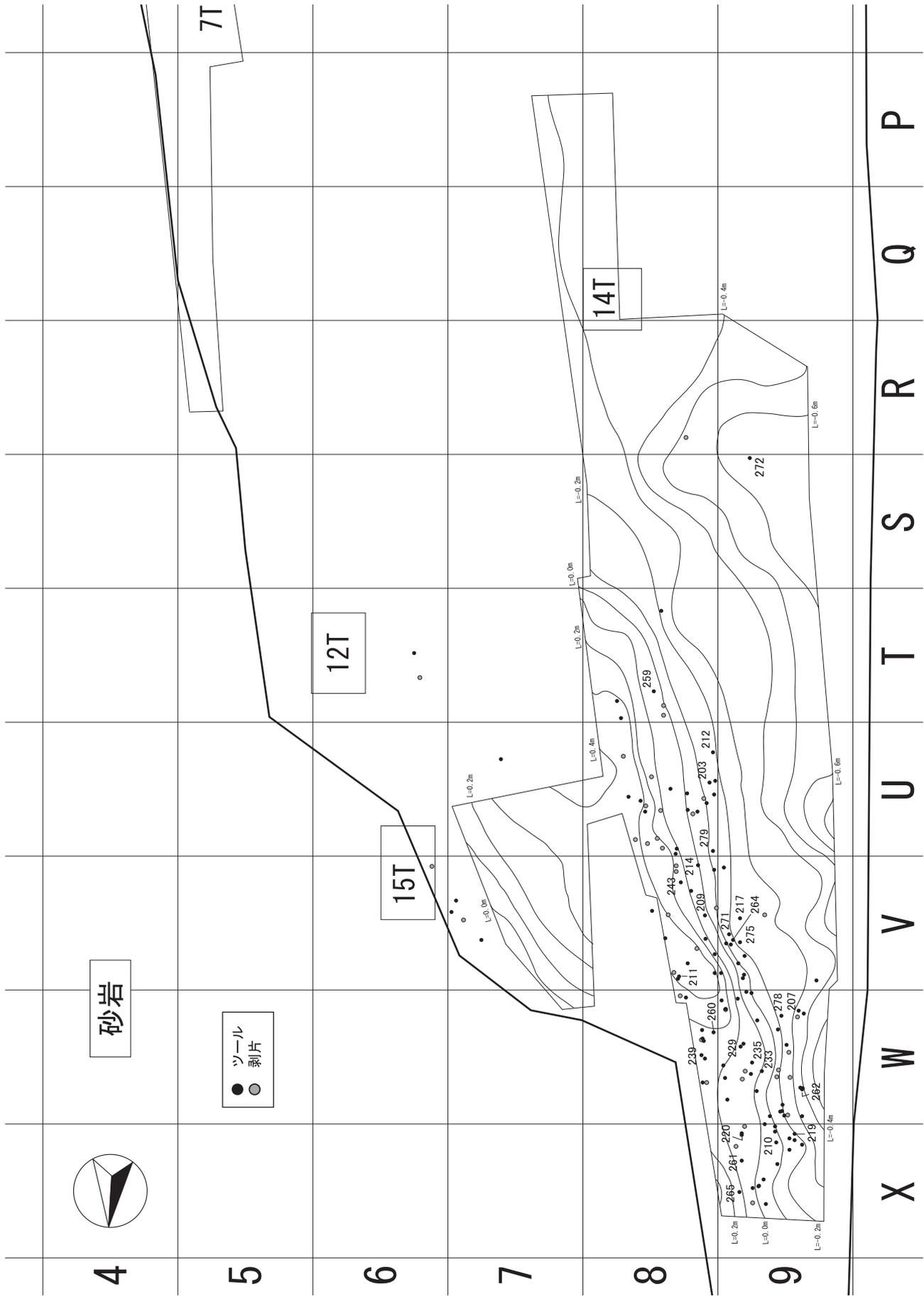
(1グリッド 10m×10m)

第80図 石材別出土状況図(18)頁岩VII



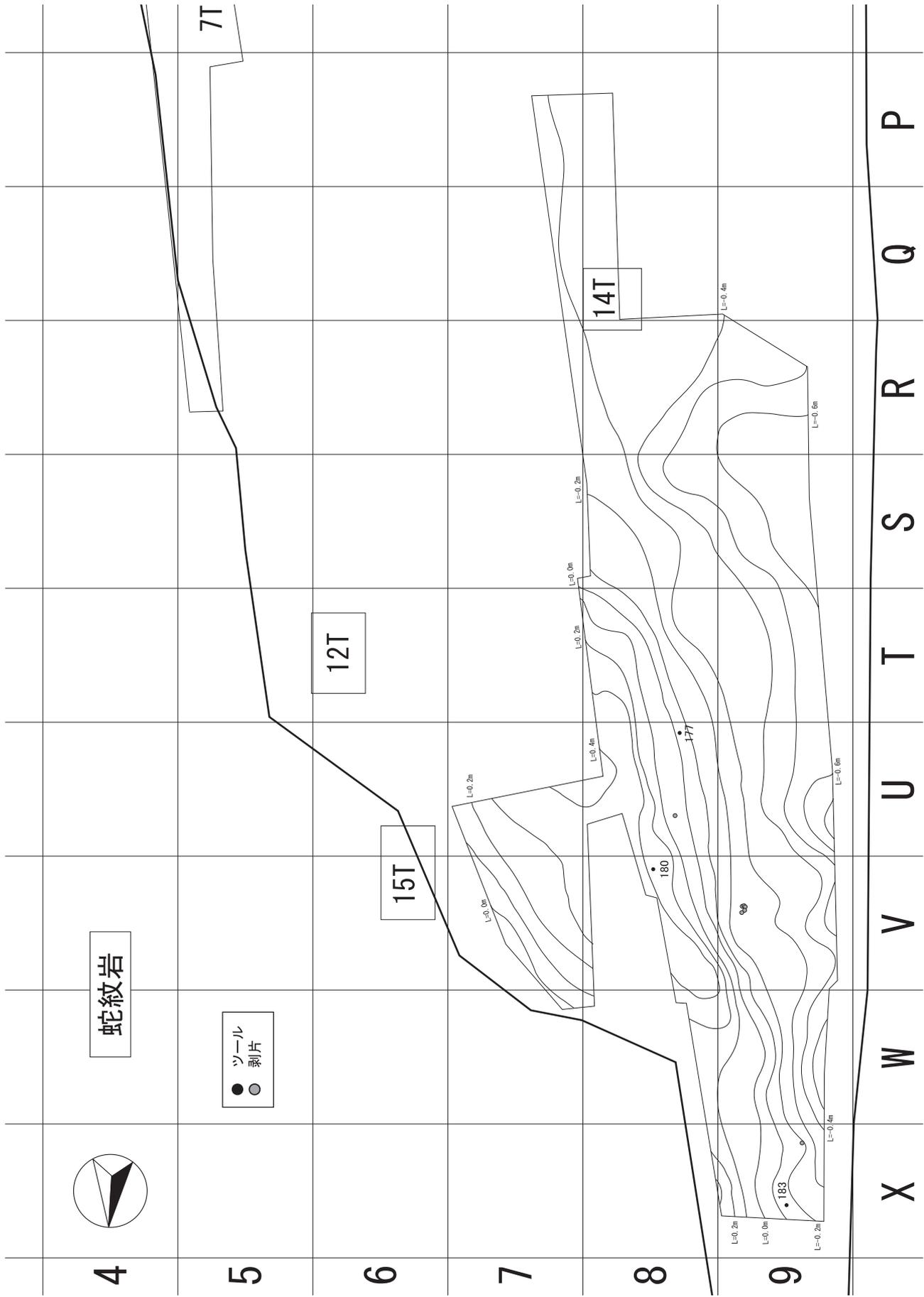
(1グリッド 10m×10m)

第81図 石材別出土状況図(頁岩Ⅷ)



第82図 石材別出土状況図(2)砂岩

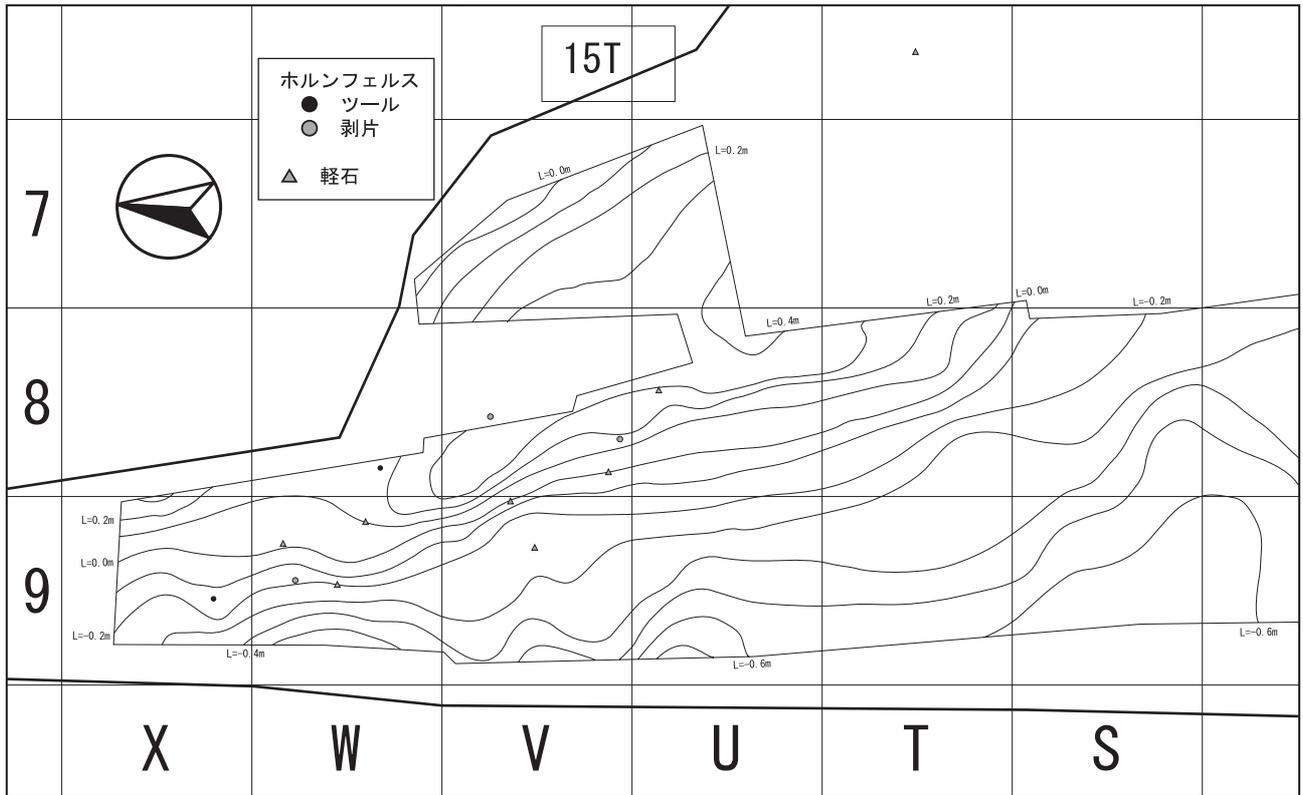
(1)グリッド 10m×10m



(1グリッド 10m×10m)

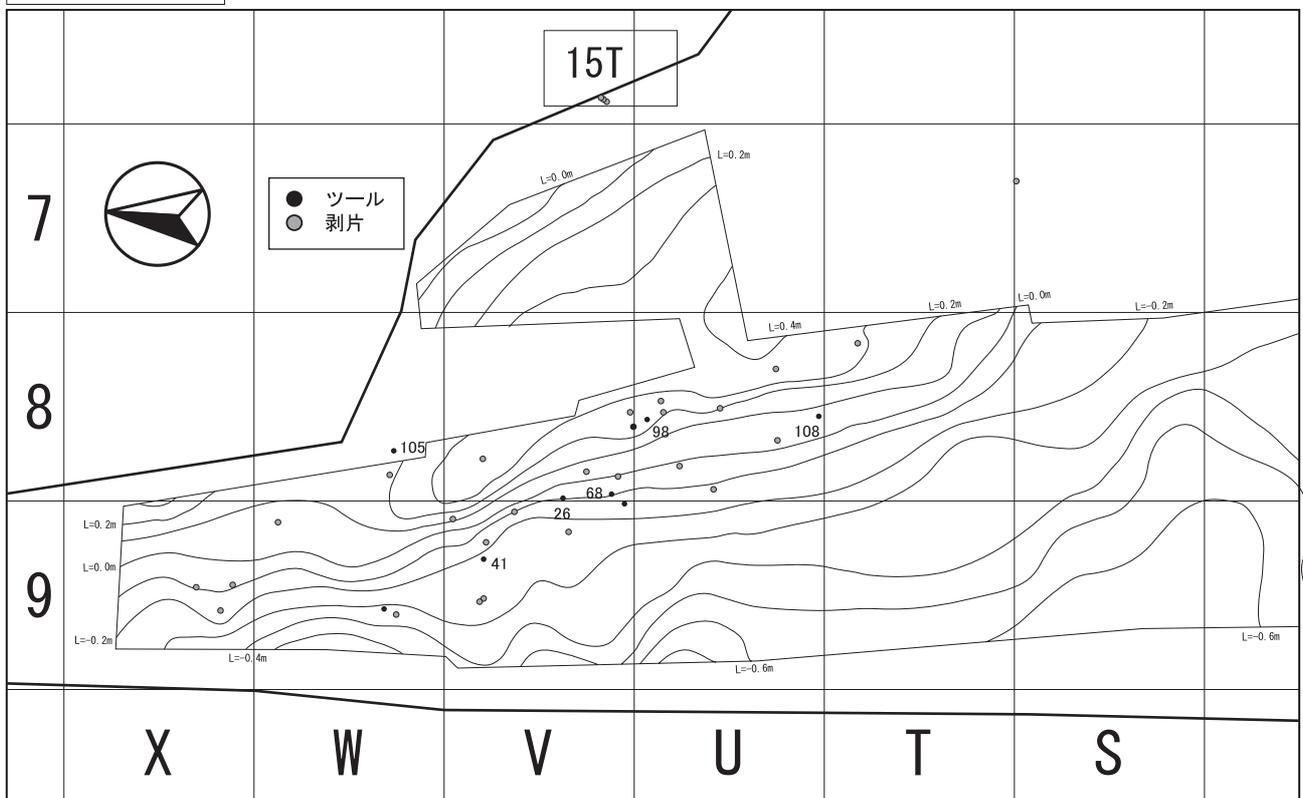
第83図 石材別出土状況図(2)蛇紋岩

ホルンフェルス・軽石



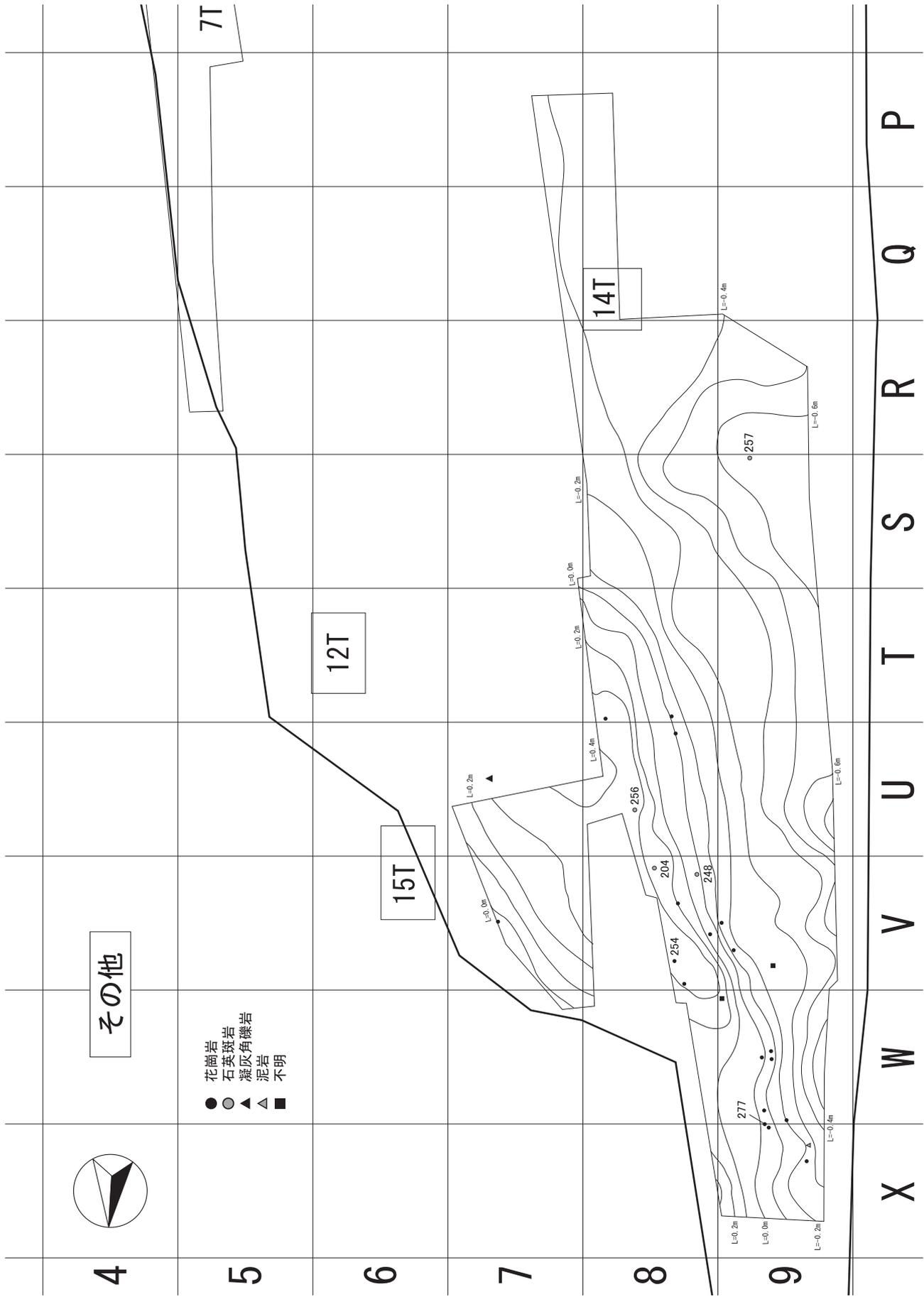
(1グリッド 10m×10m)

めのう系



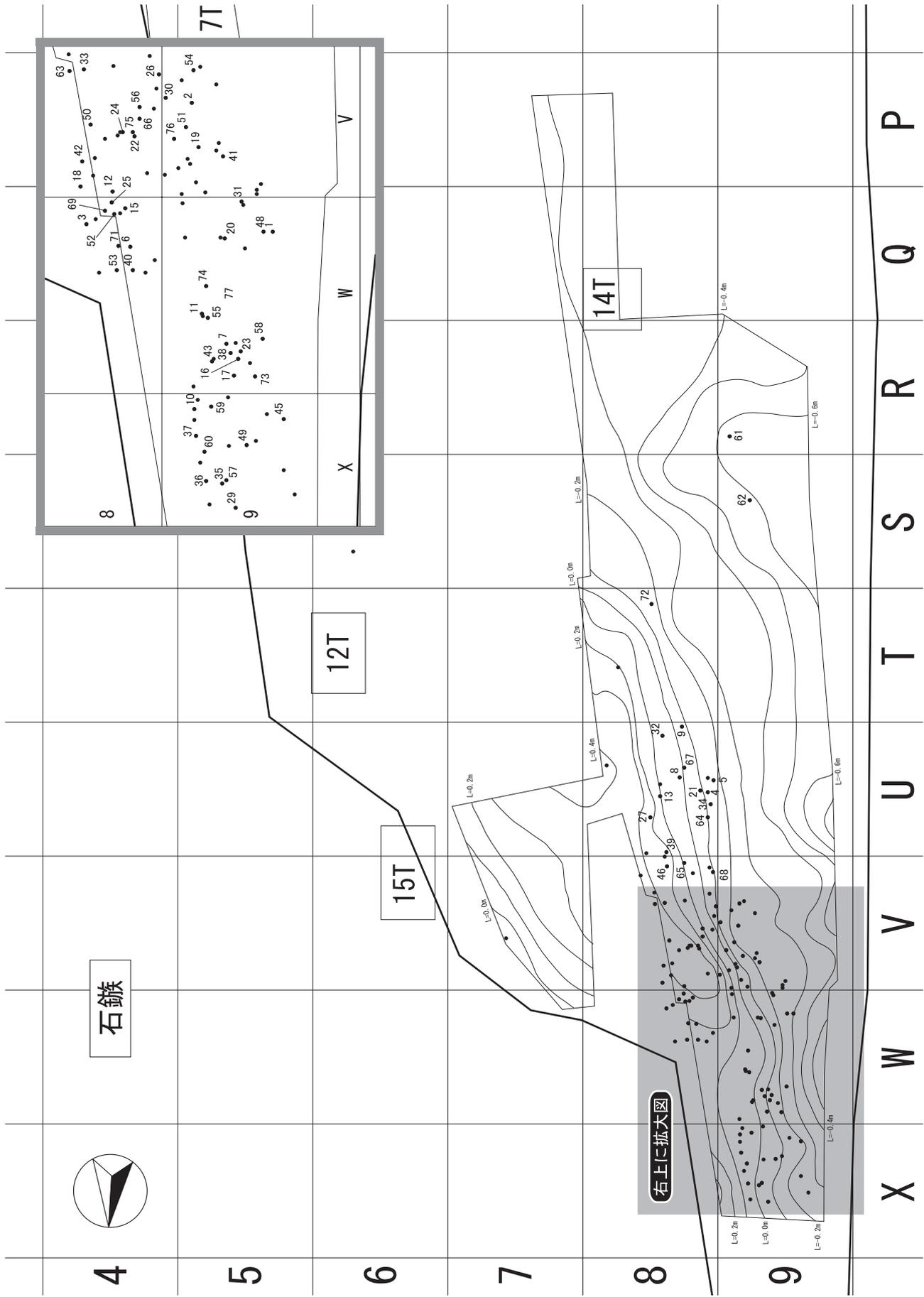
(1グリッド 10m×10m)

第84図 石材別出土状況図(2)ホルンフェルス・軽石・メノウ系



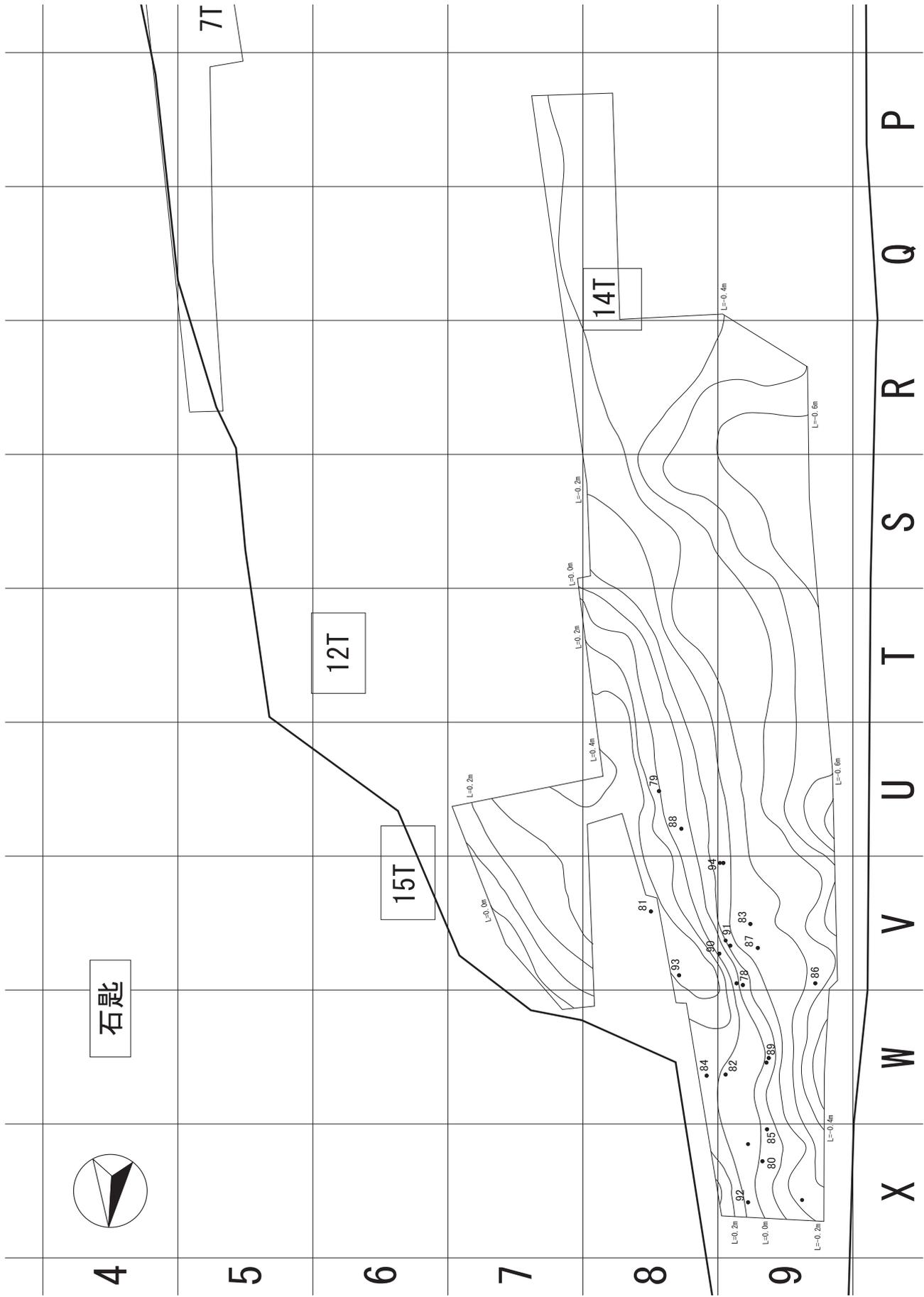
第85図 石材別出土状況図(2)その他

(1グリッド 10m x 10m)



第86図 器種別出土状況図(1)石鍬

(1グリッド 10m×10m)

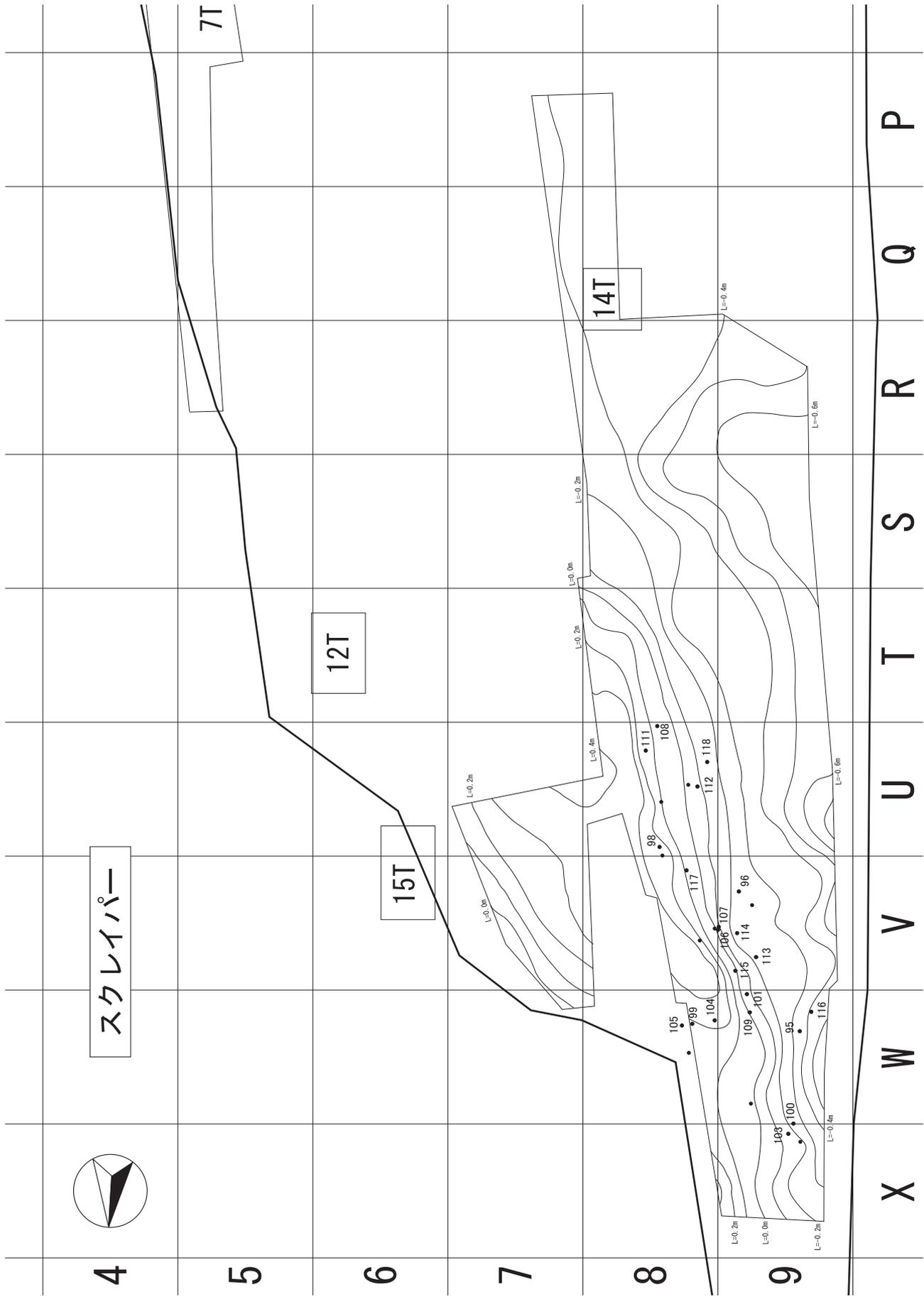


(1グリッド 10m×10m)

第87図 器種別出土状況図(2)石匙

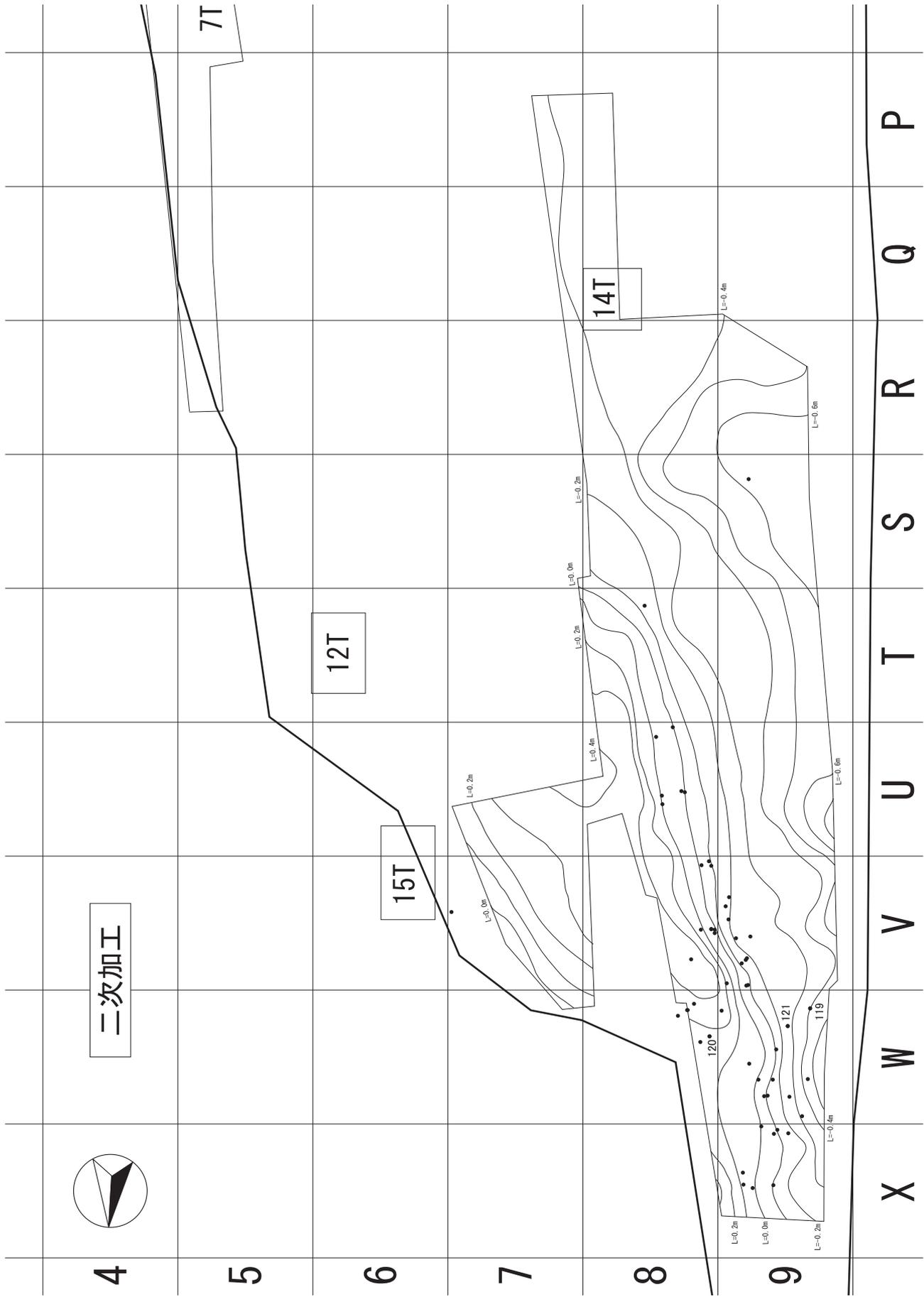


石匙



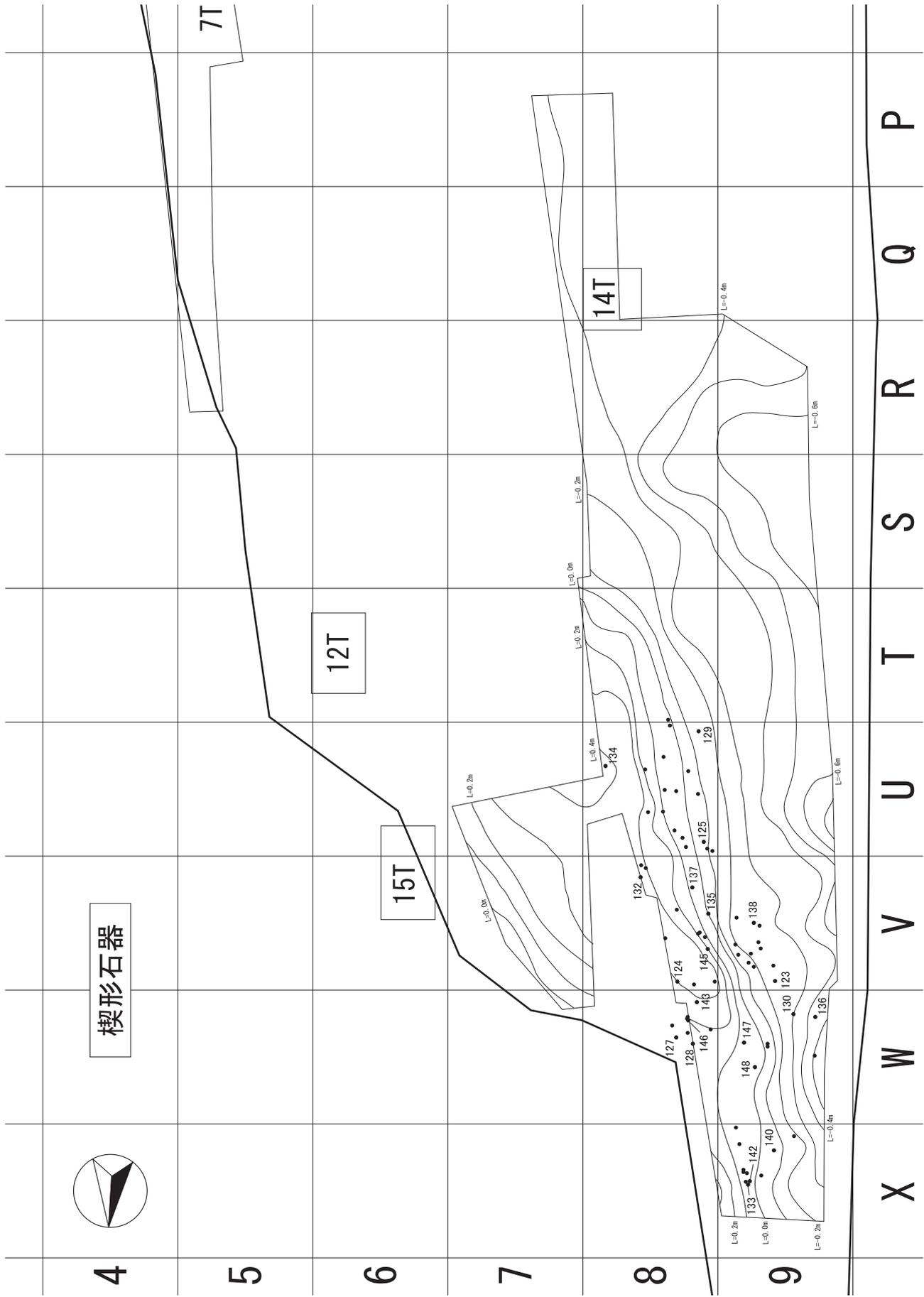
(1グリッド 10m x 10m)

第88図 器種別出土状況図(3)スクレイパー



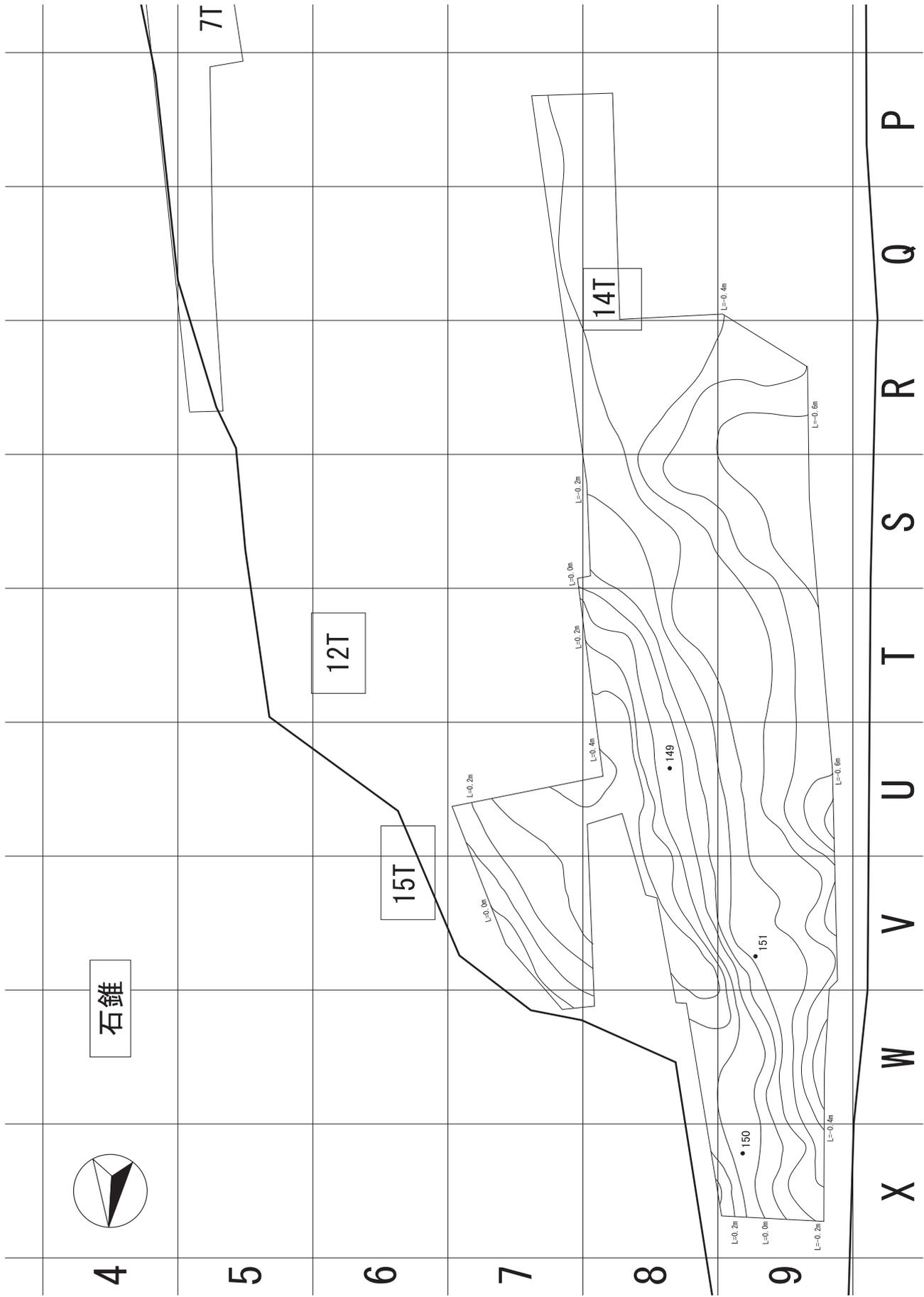
(1グリッド 10m×10m)

第89図 器種別出土状況図(4)二次加工



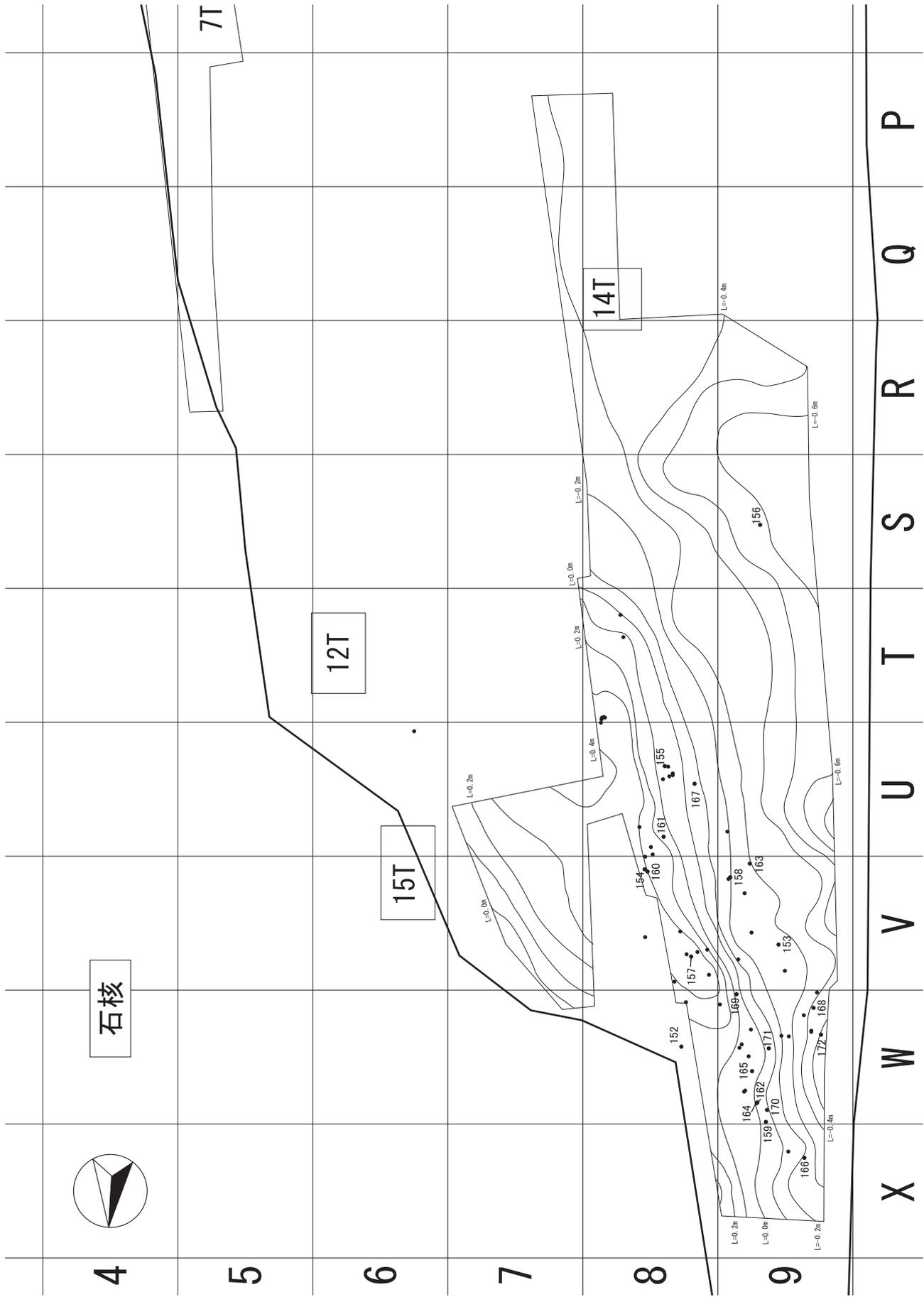
(1グリッド 10m×10m)

第90図 器種別出土状況図(5)楔形石器



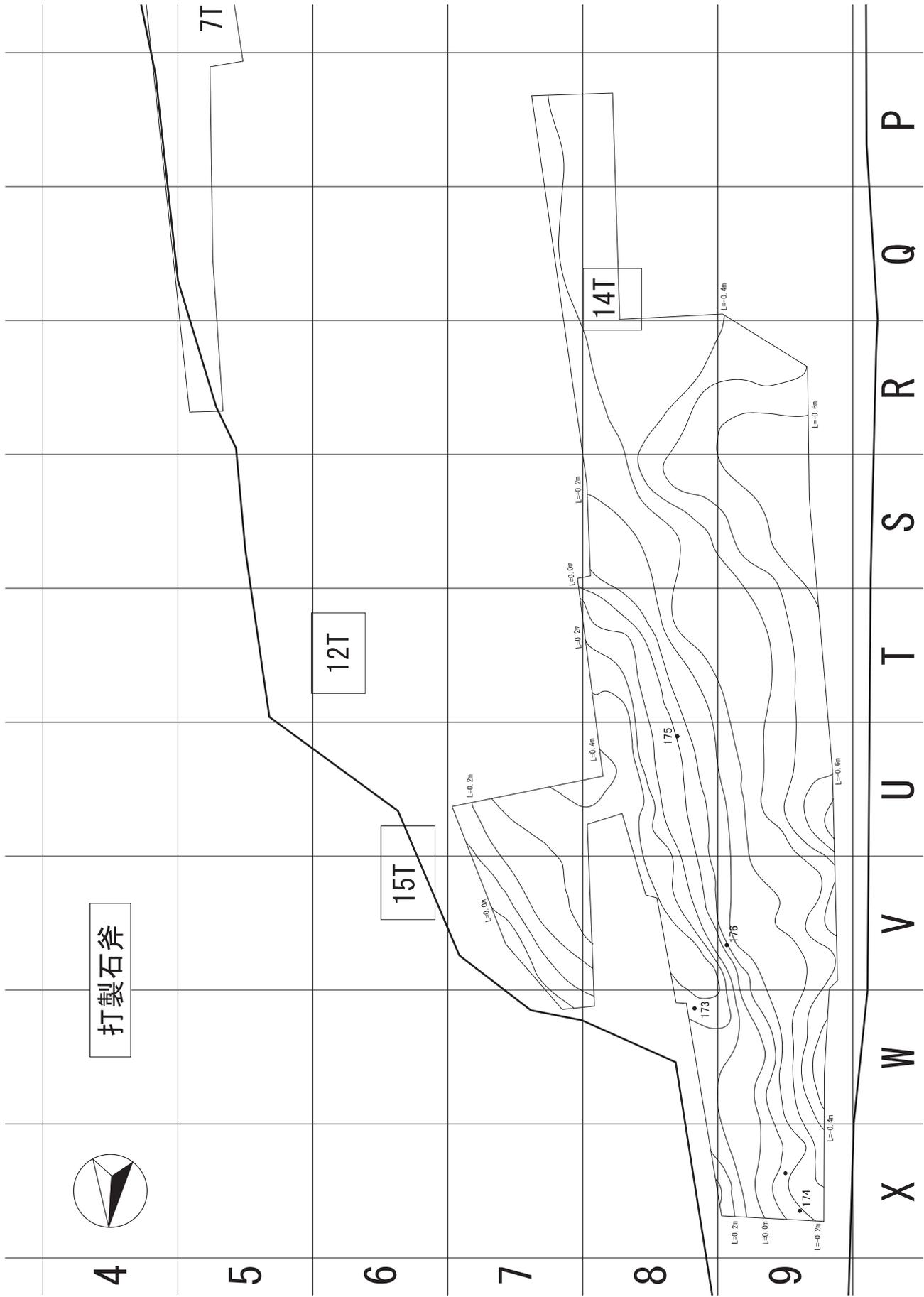
(1グリッド 10m×10m)

第91図 器種別出土状況図(6)石錐



(1グリッド 10m×10m)

第92図 器種別出土状況図(7)石核

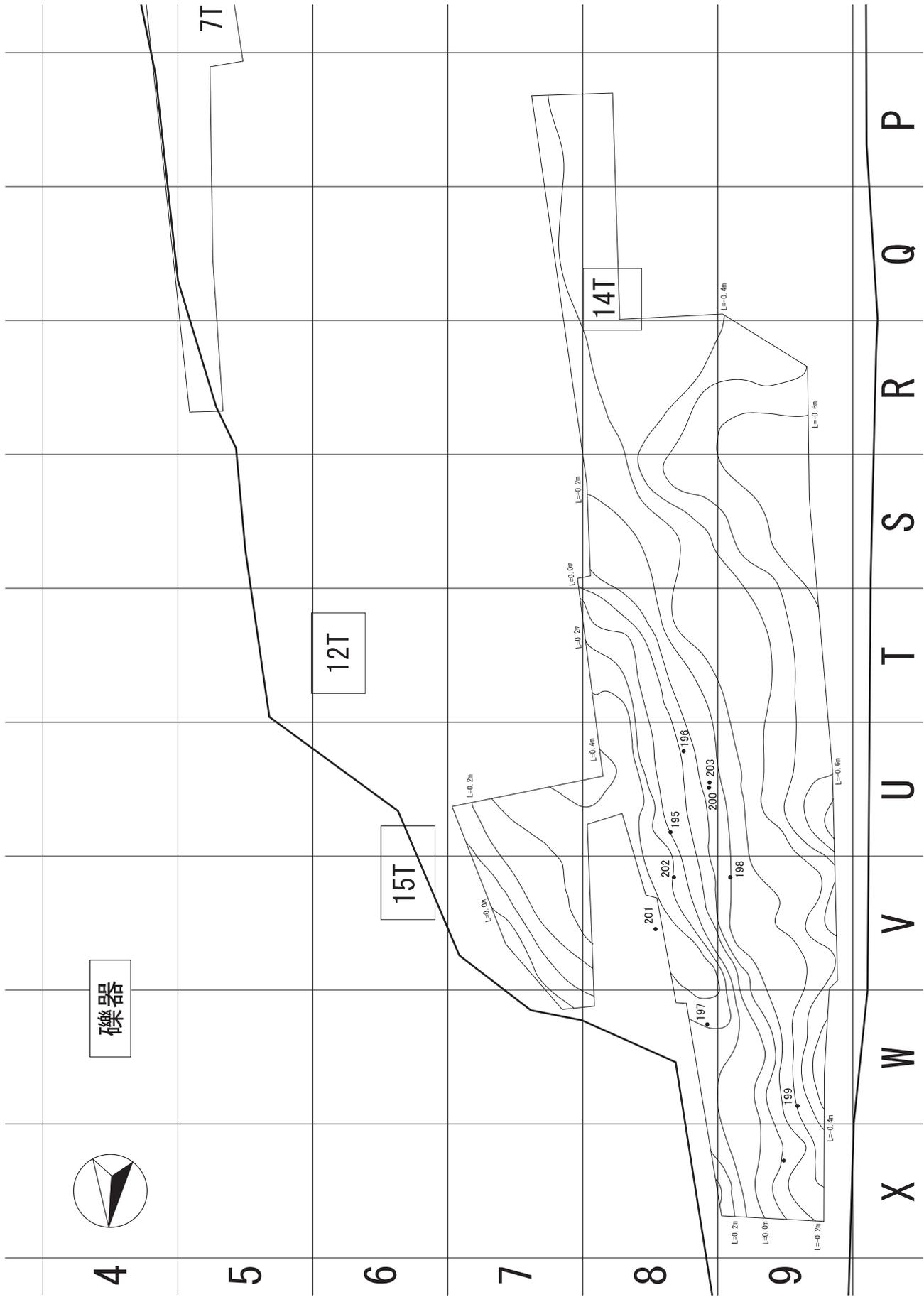


(1グリッド 10m×10m)

第93図 器種別出土状況図(8)打製石斧

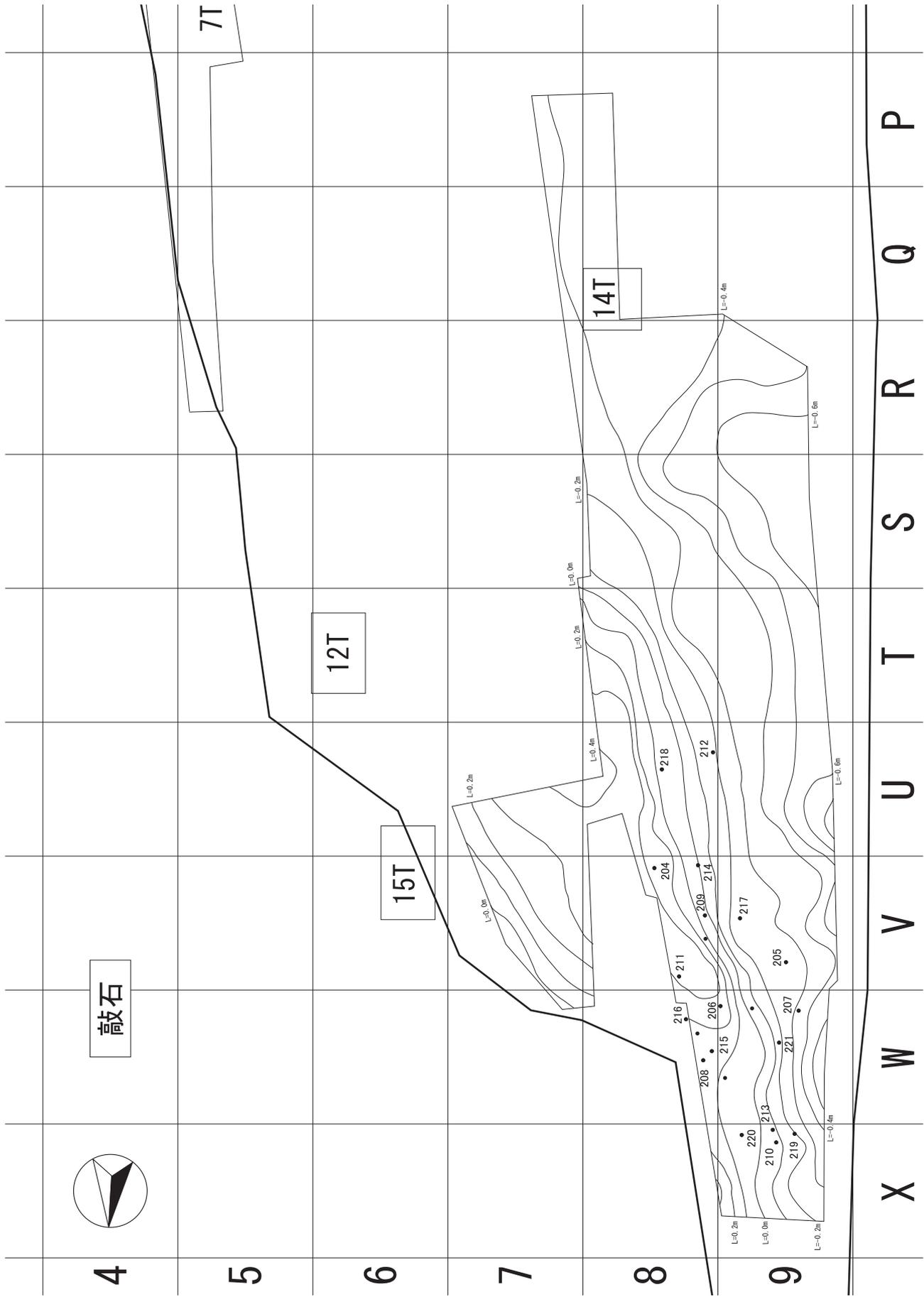


第94図 器種別出土状況図(9)磨製石斧



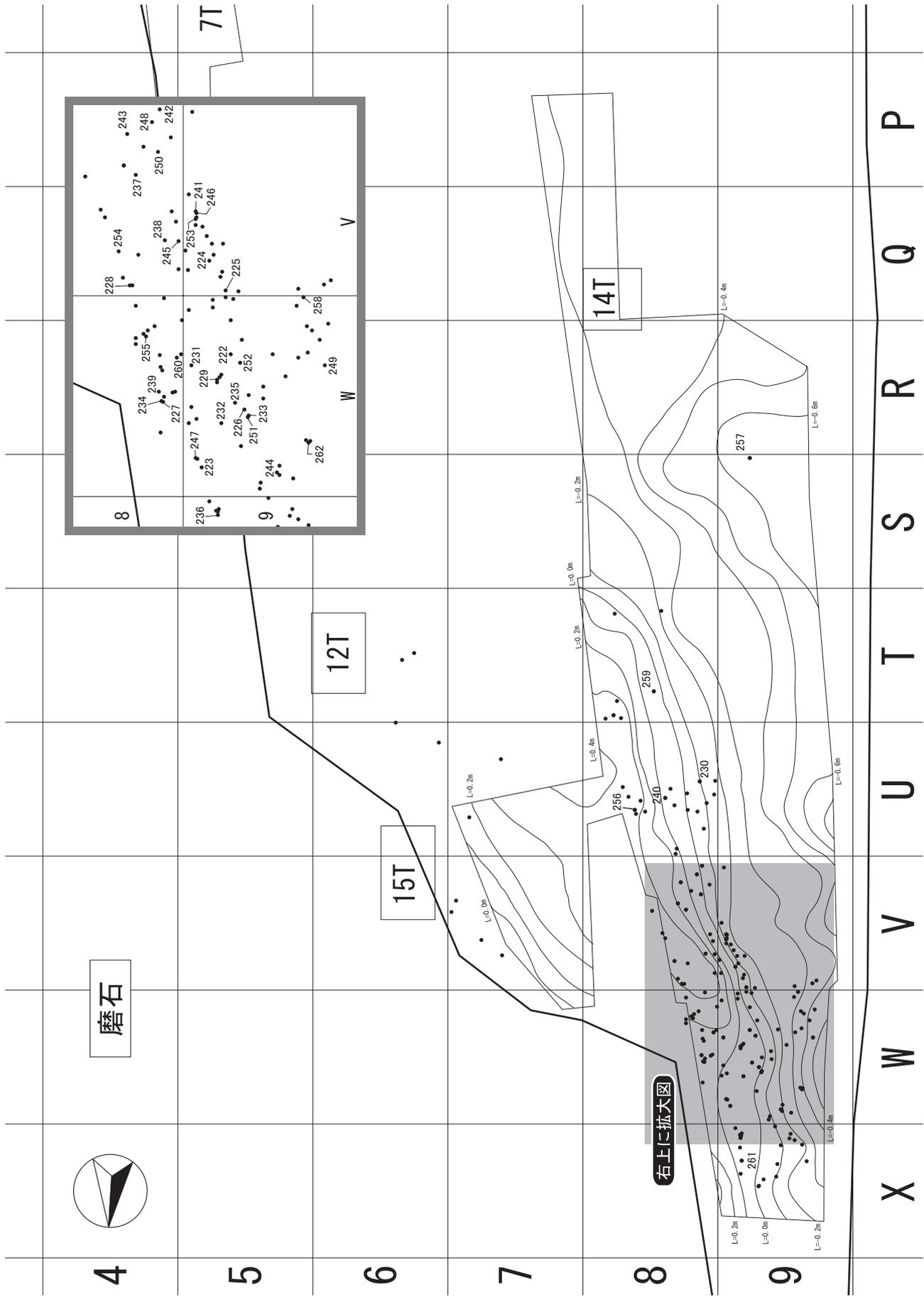
(1グリッド 10m×10m)

第95図 器種別出土状況図(10)磁器



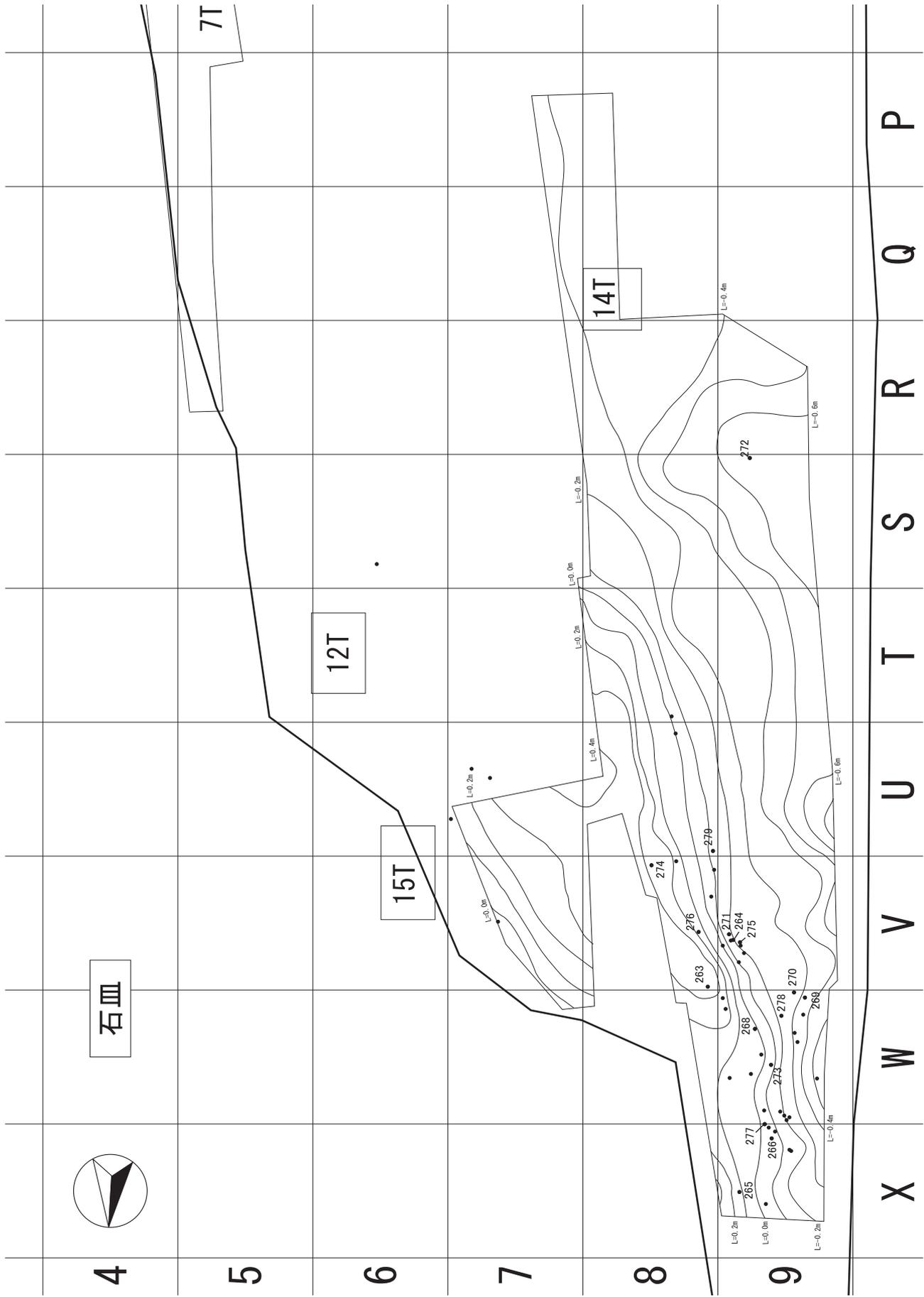
(1グリッド 10m×10m)

第96図 器種別出土状況図(1)敲石



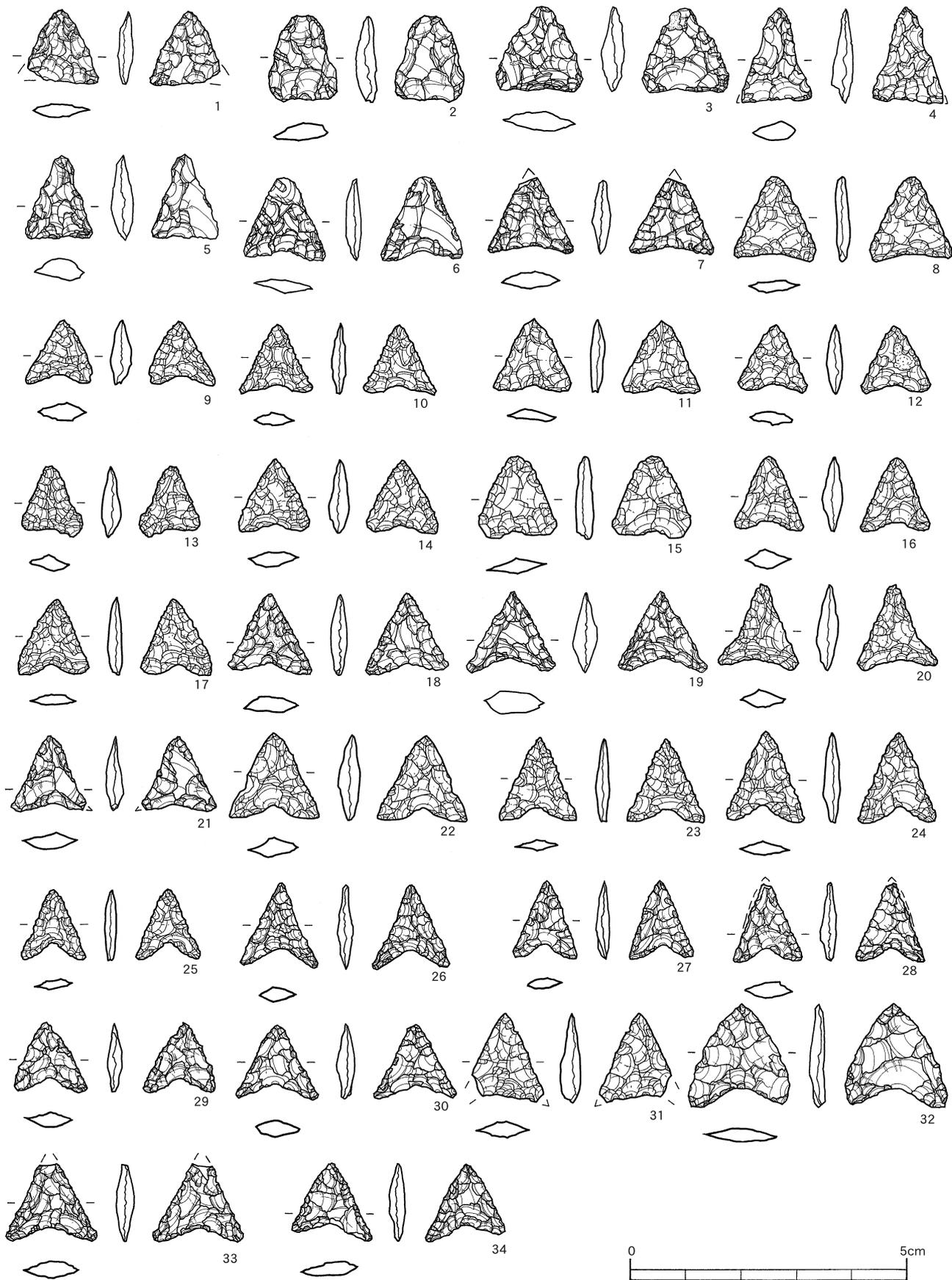
(1グリッド 10m×10m)

第97図 器種別出土状況(12)磨石

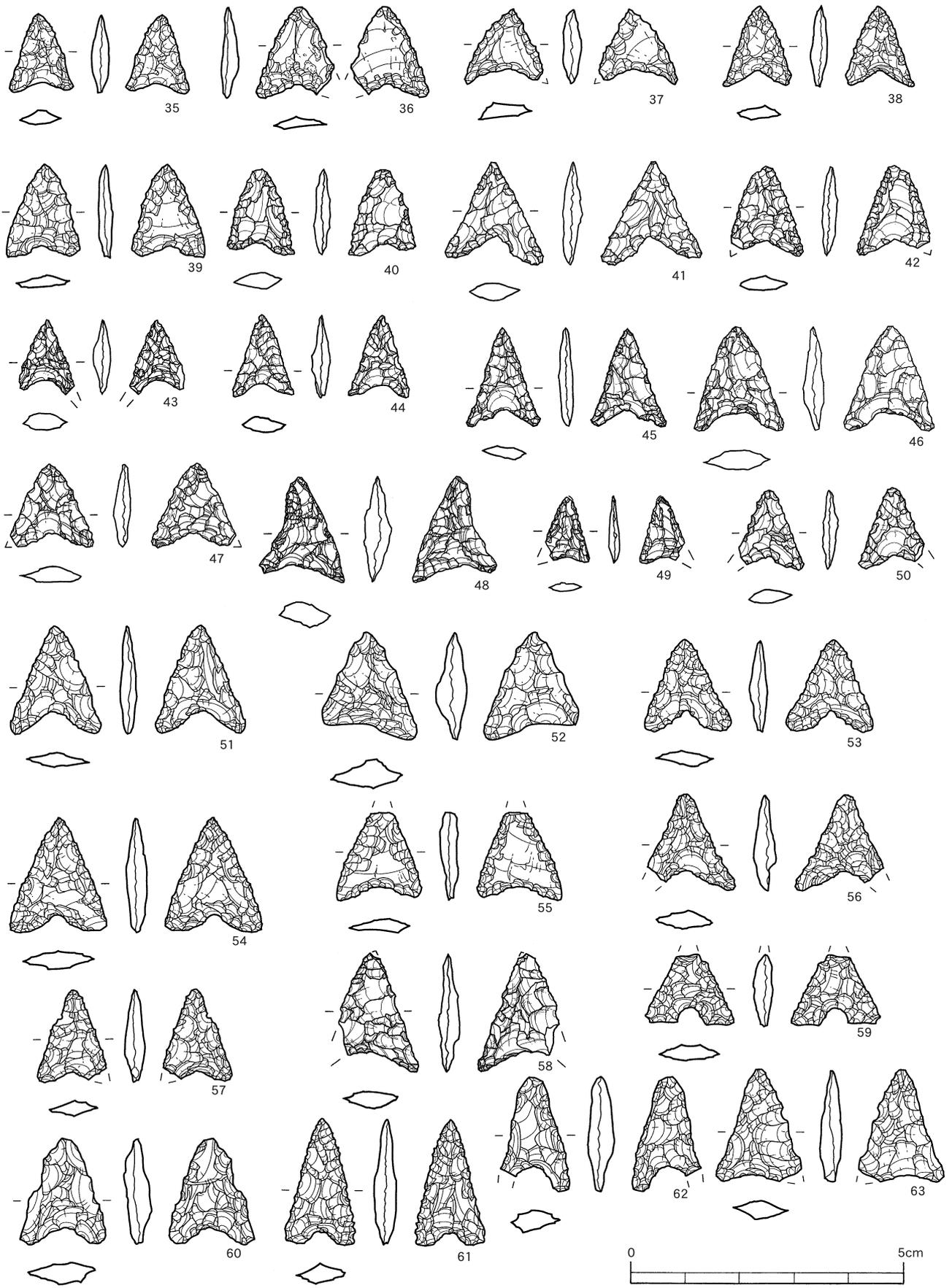


(1グリッド 10m×10m)

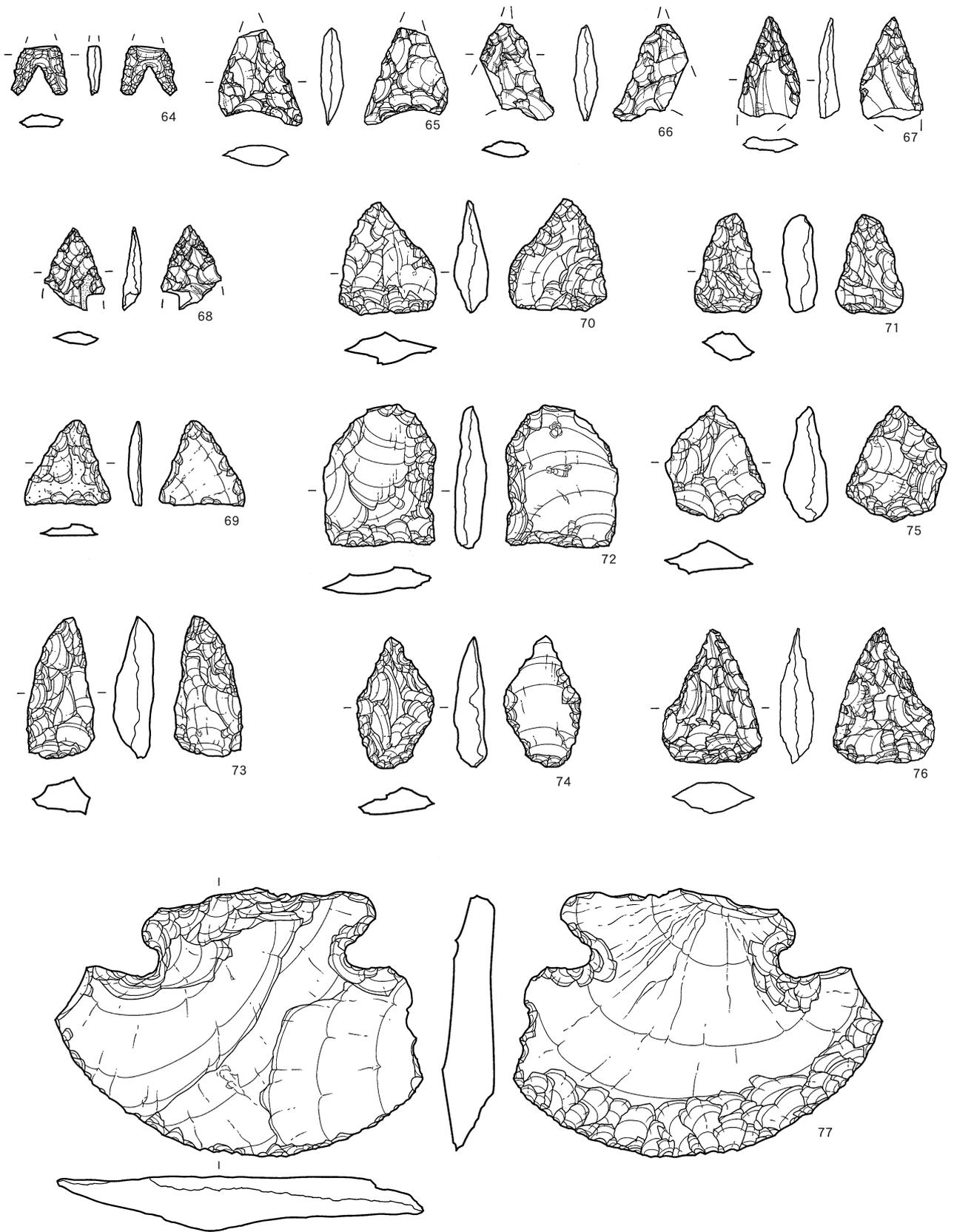
第98図 器種別出土状況図(13)石皿



第99图 石器实测图(1)石鏃①

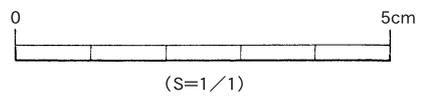
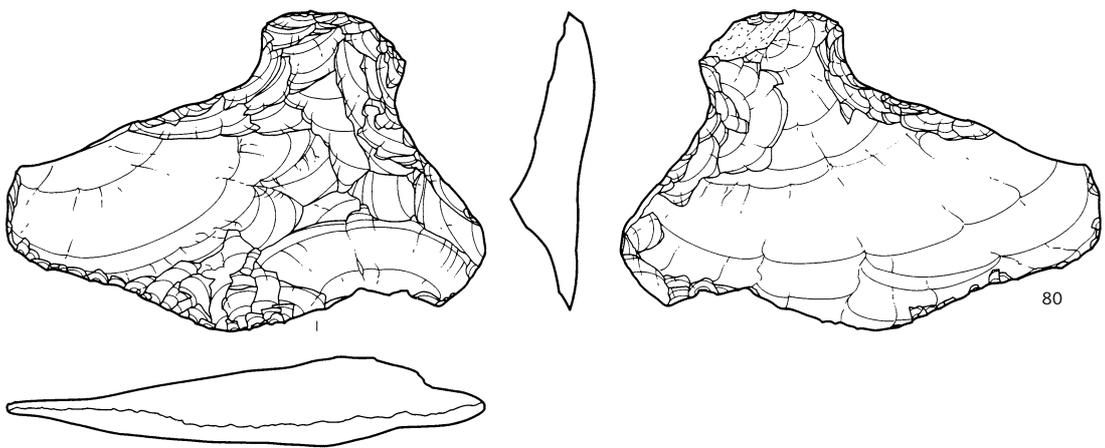
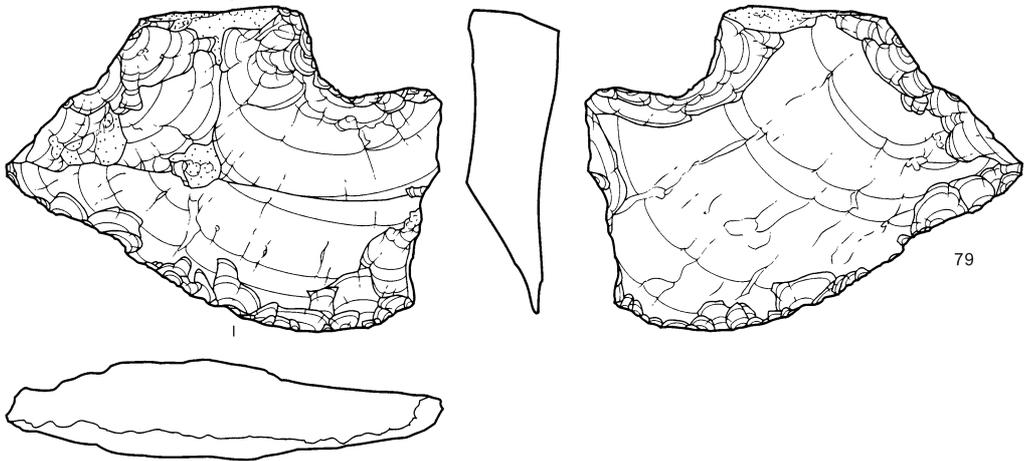
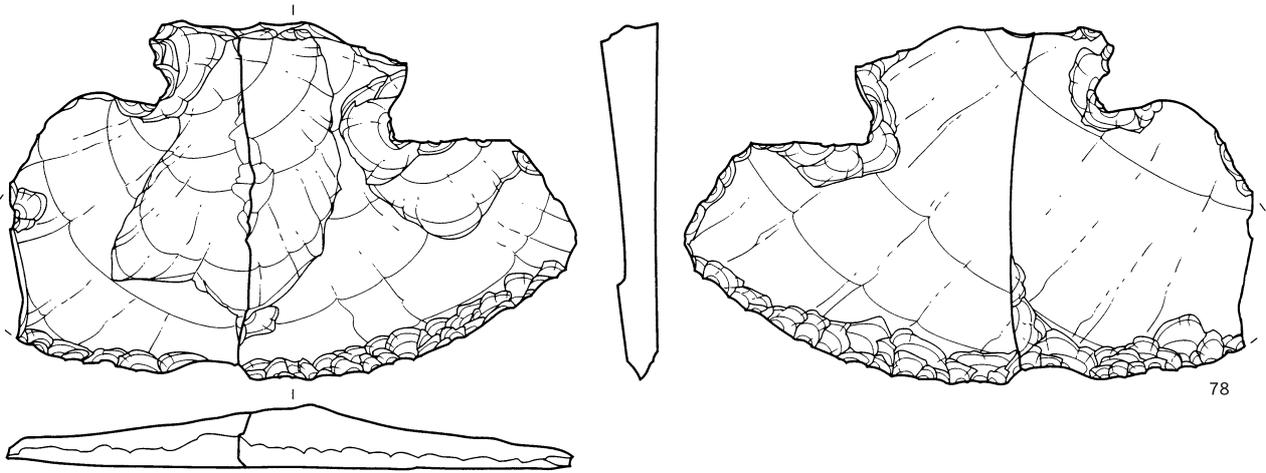


第100図 石器実測図(2)石鏃②

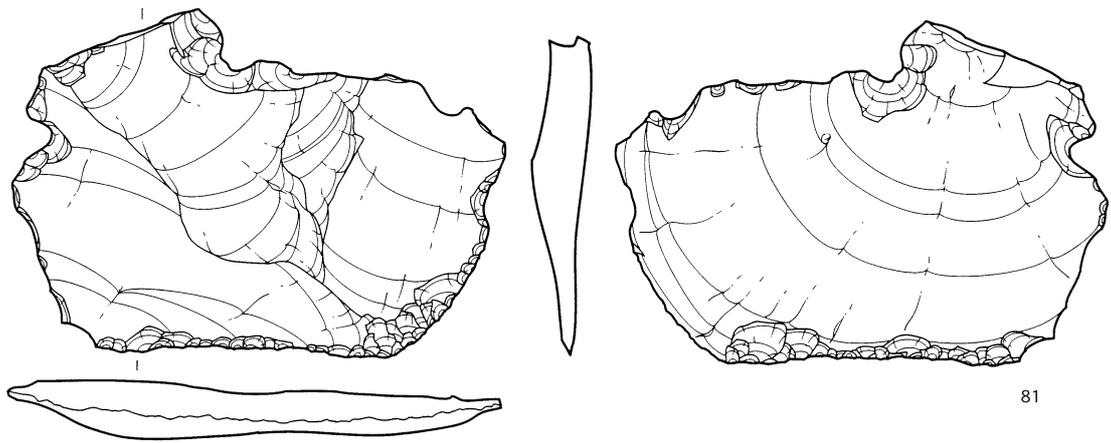


0 5cm
(S=1/1)

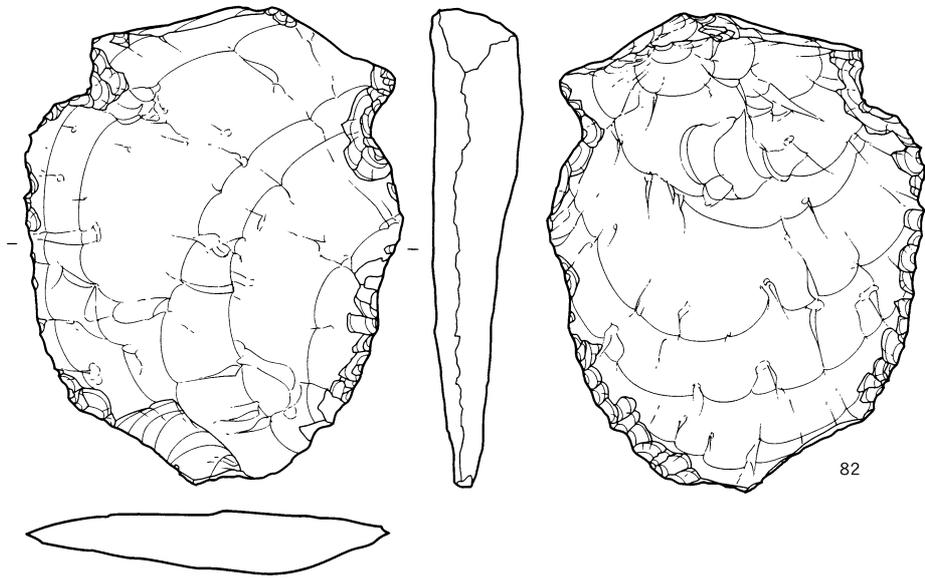
第101図 石器実測図(3)石鏃③・石匙①



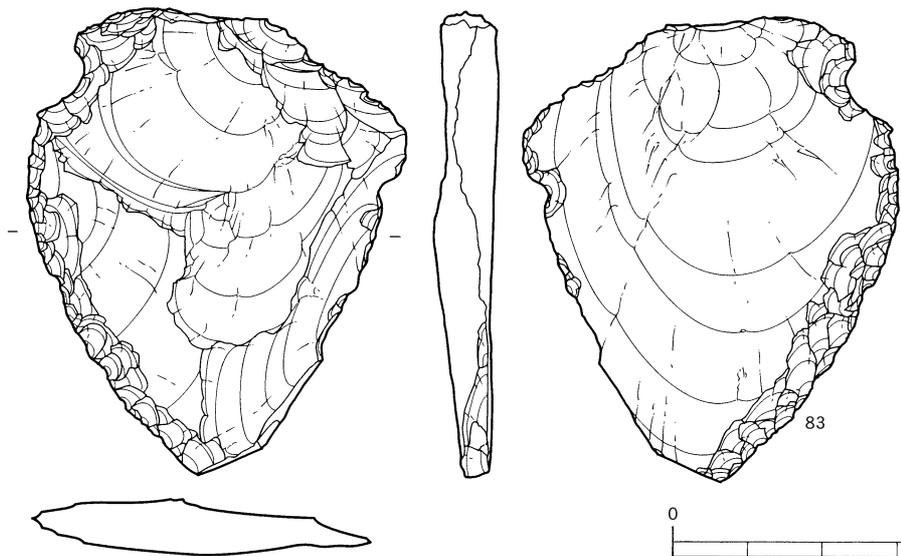
第102図 石器実測図(4)石匙②



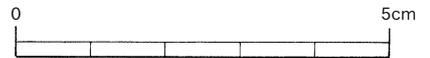
81



82

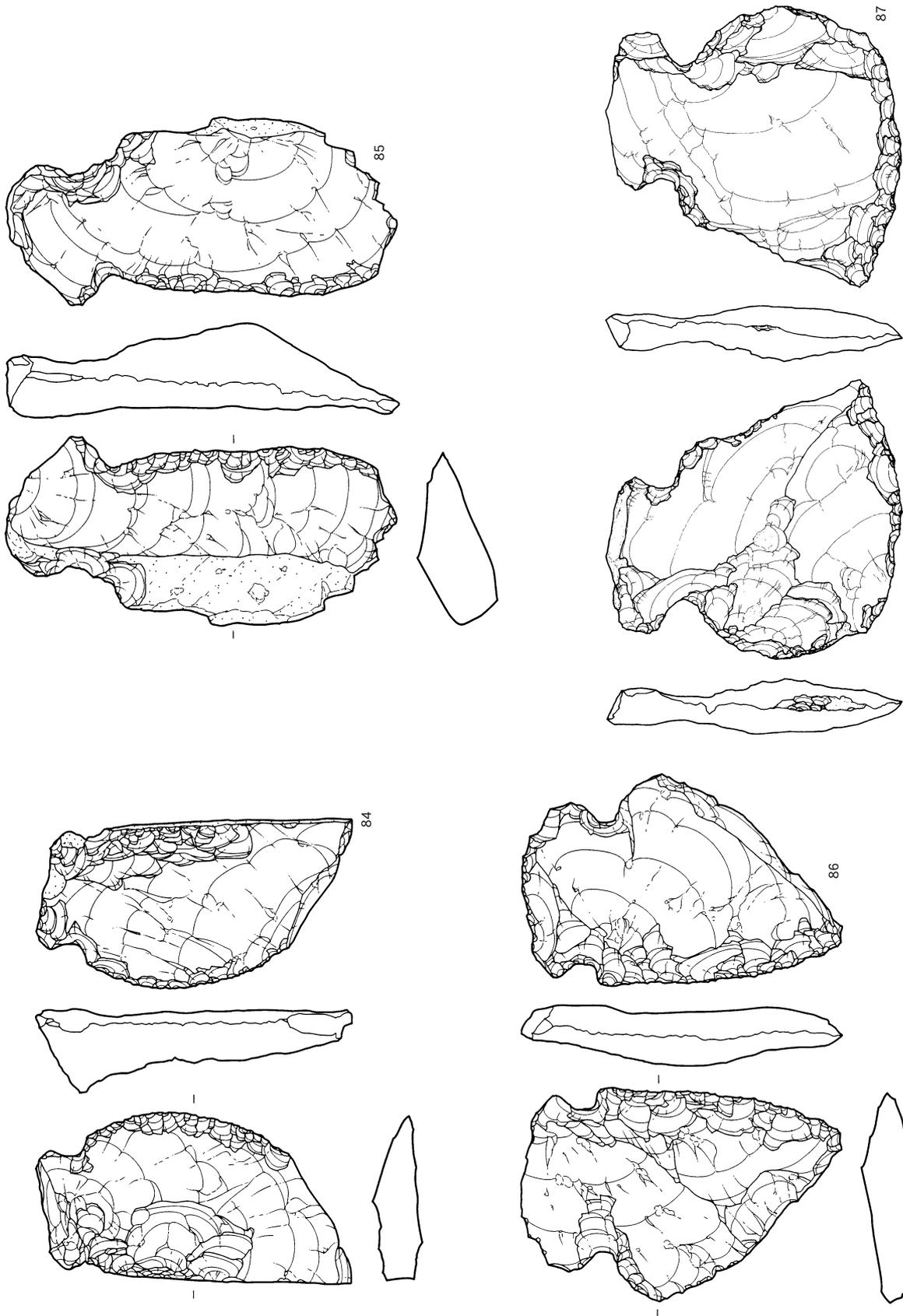


83

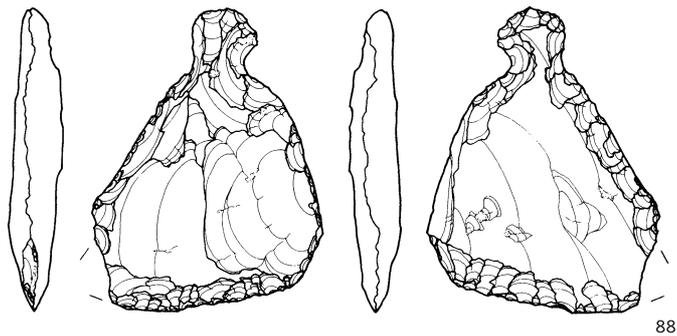


(S=1/1)

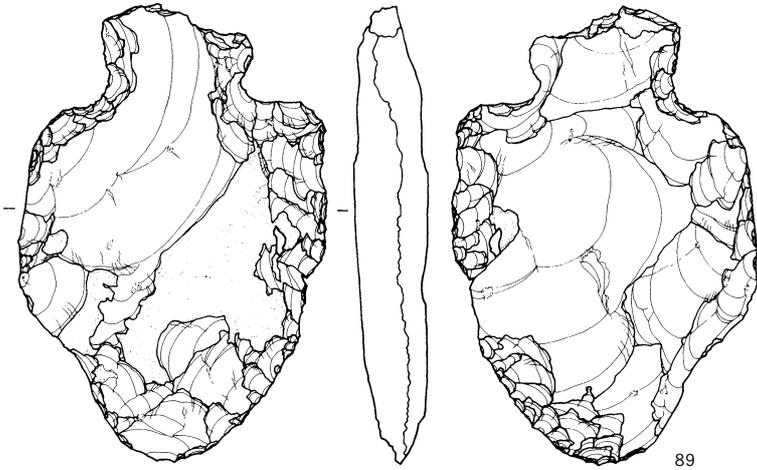
第103图 石器実測図(5)石匙③



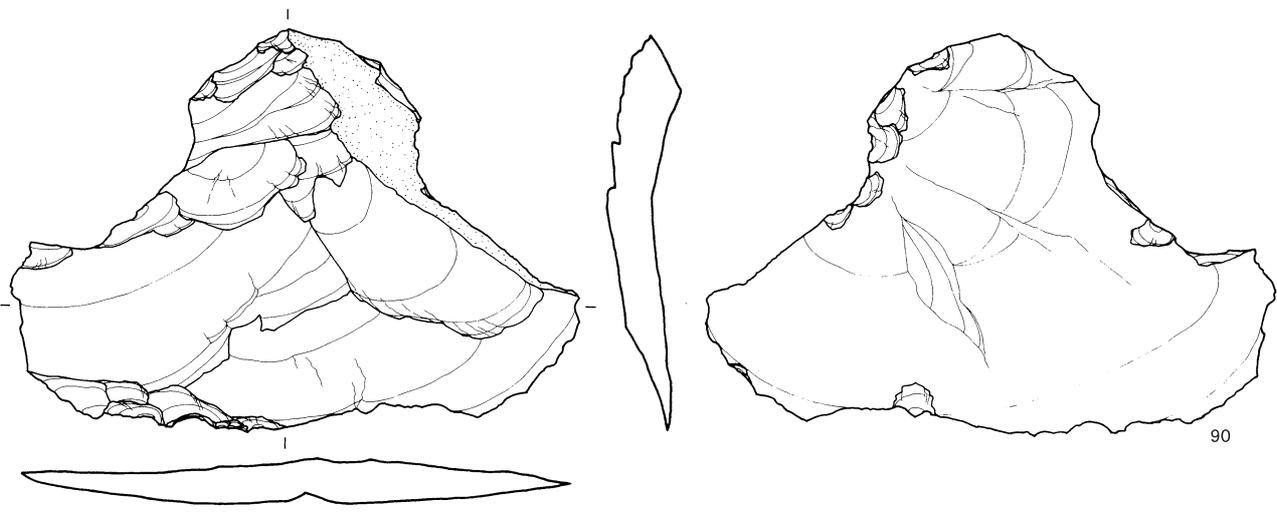
第104図 石器実測図(6)石匙④



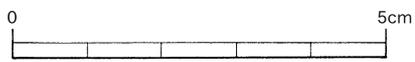
88



89

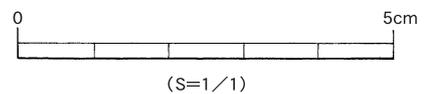
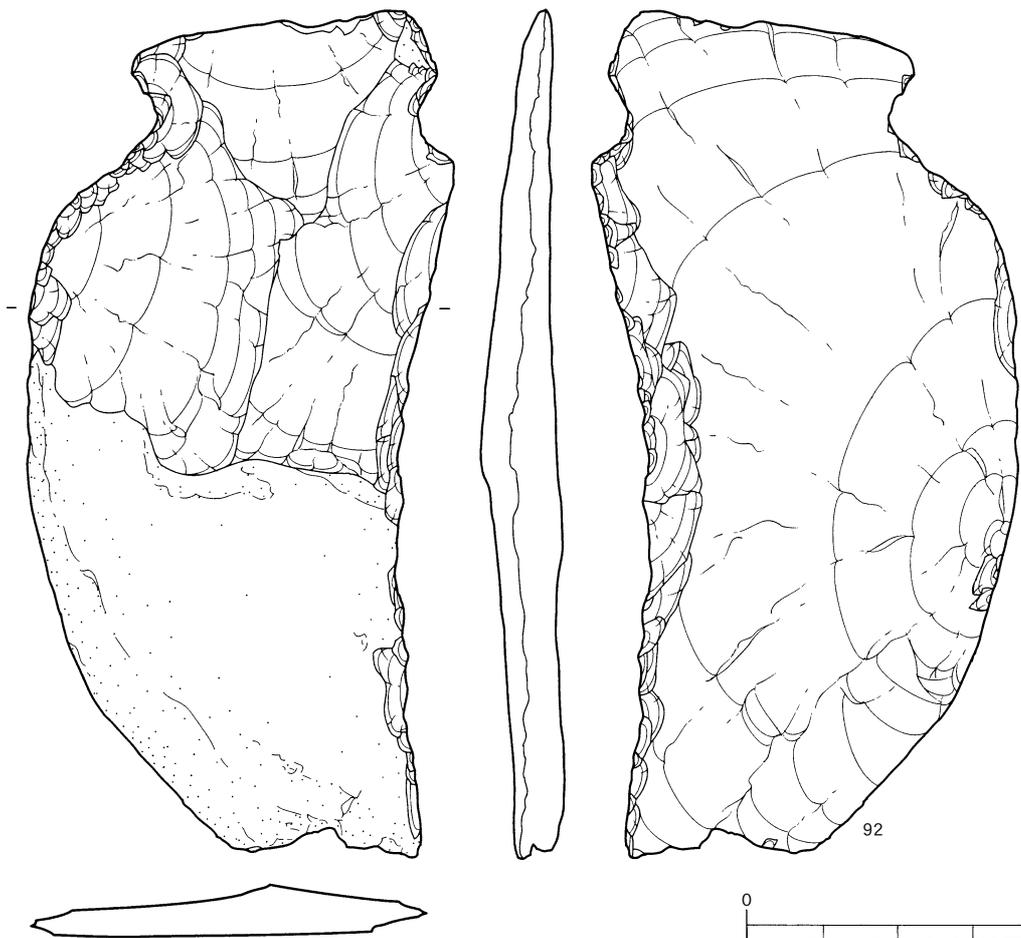
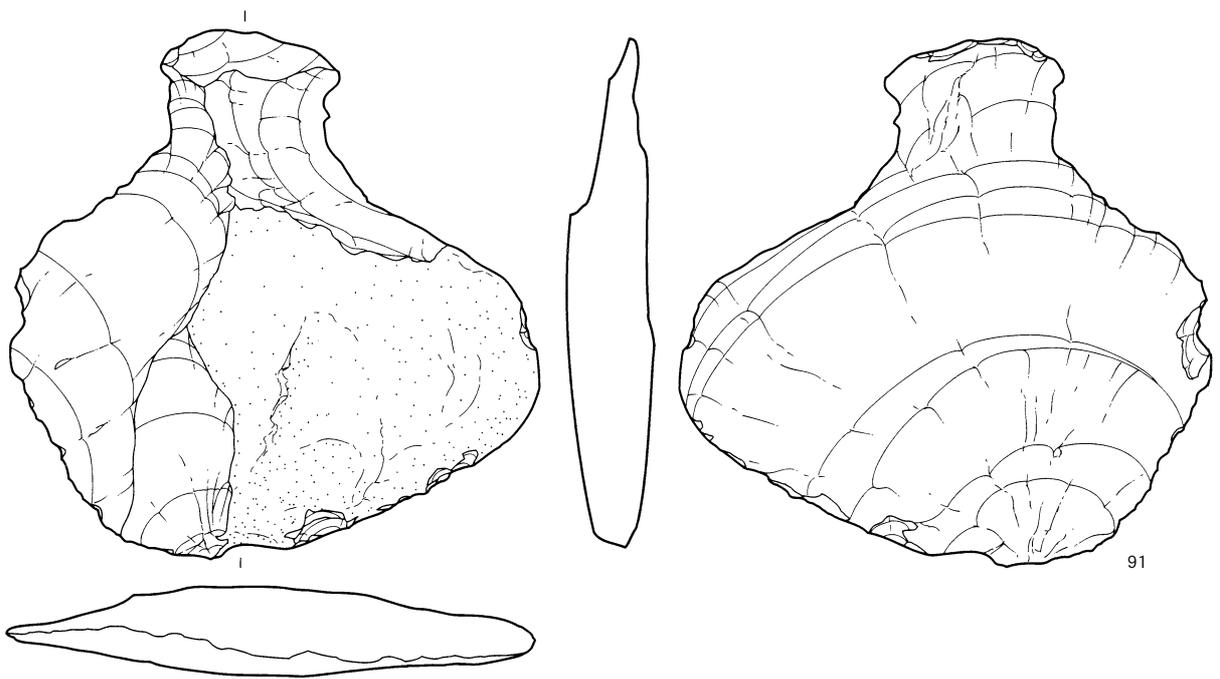


90

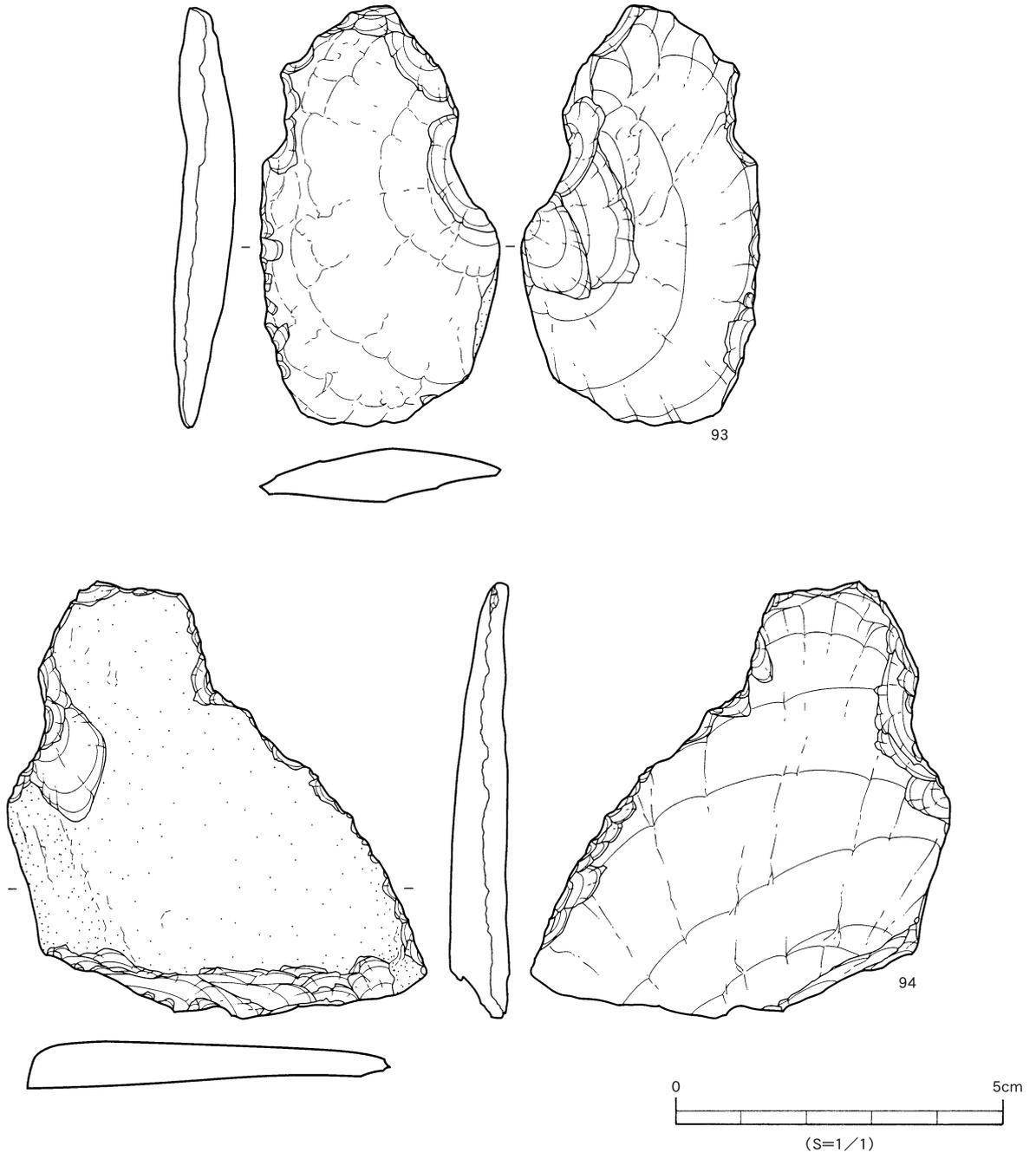


(S=1/1)

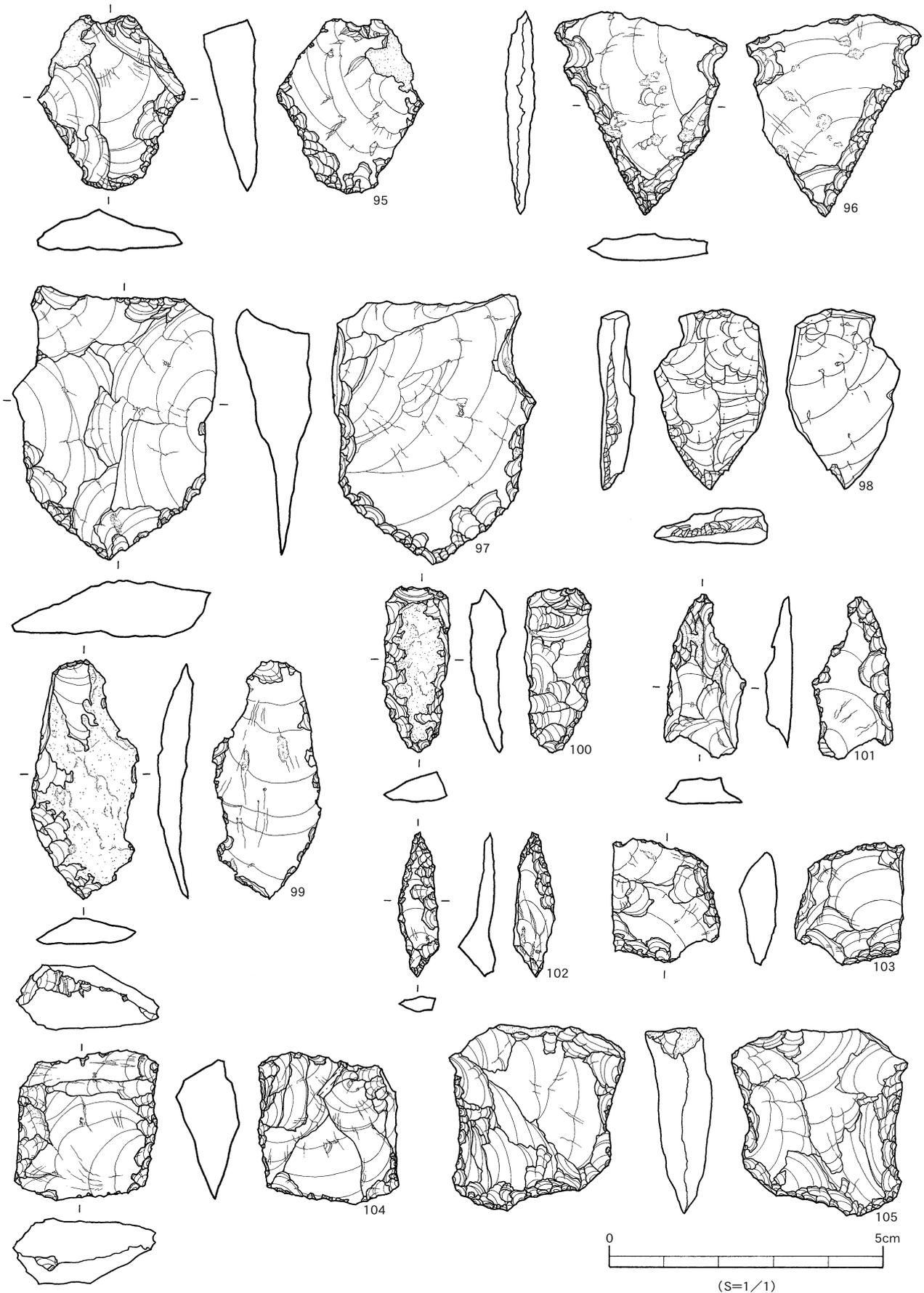
第105図 石器実測図(7)石匙⑤



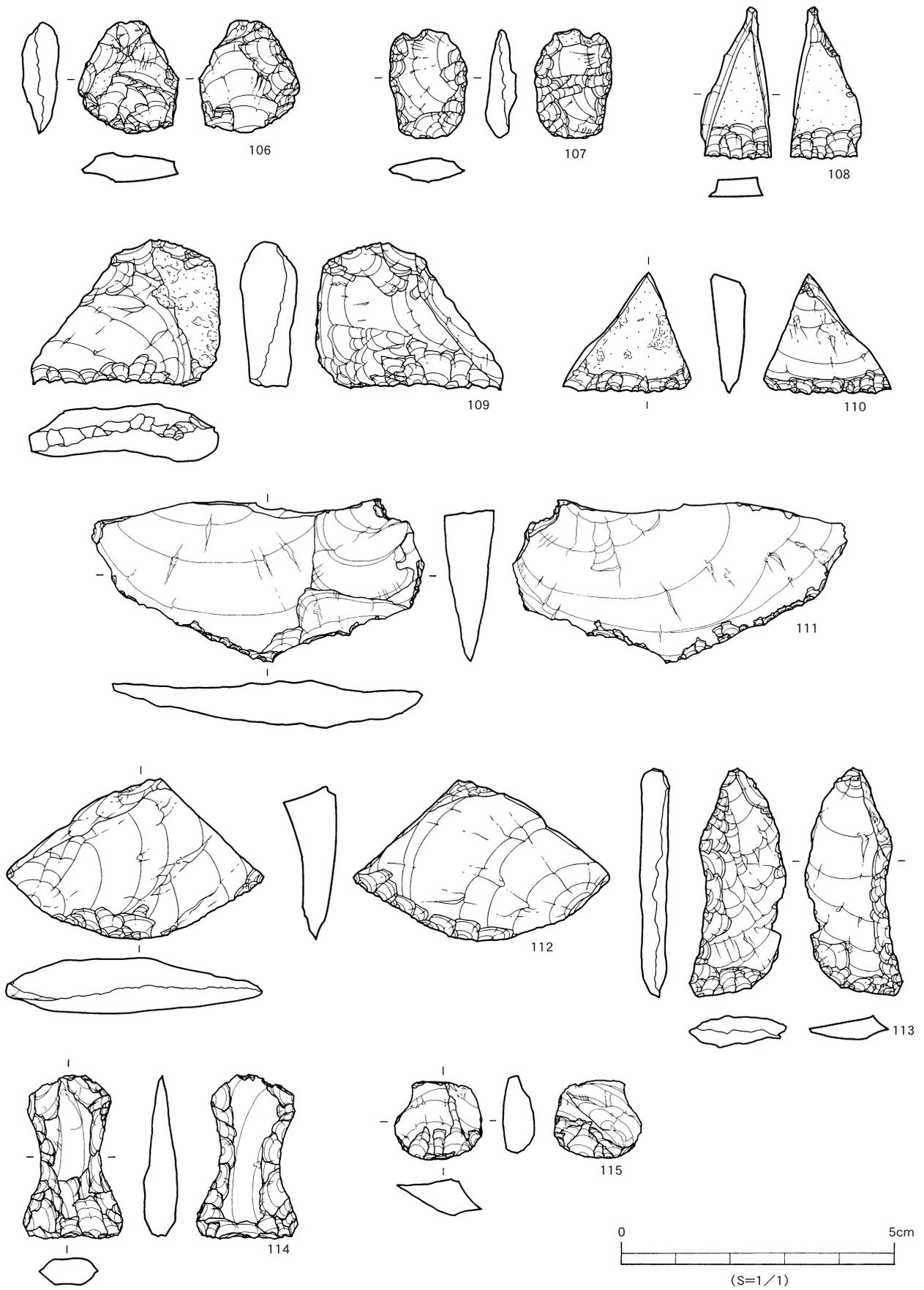
第106図 石器実測図(8)石匙⑥



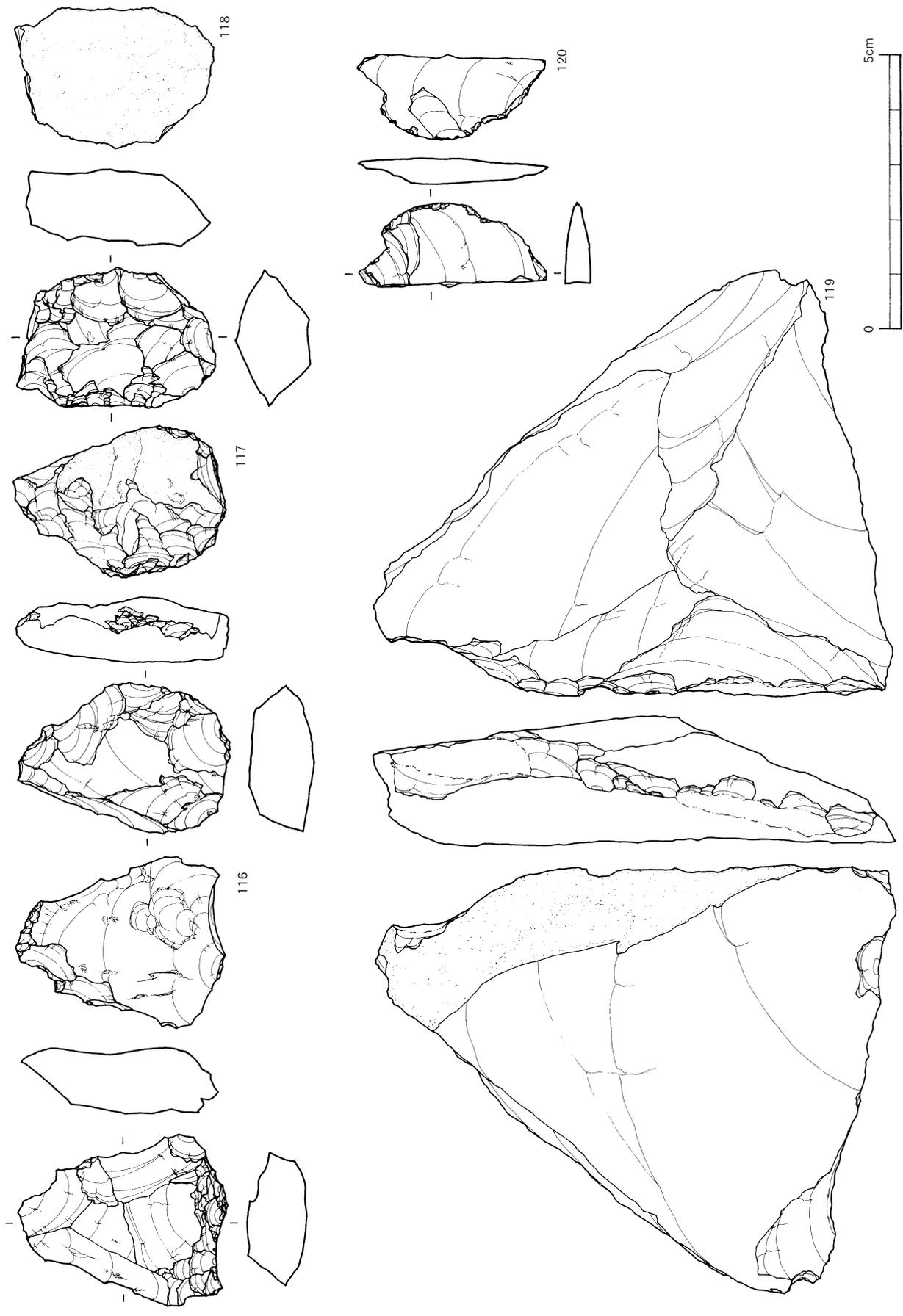
第107図 石器実測図(9)石匙⑦



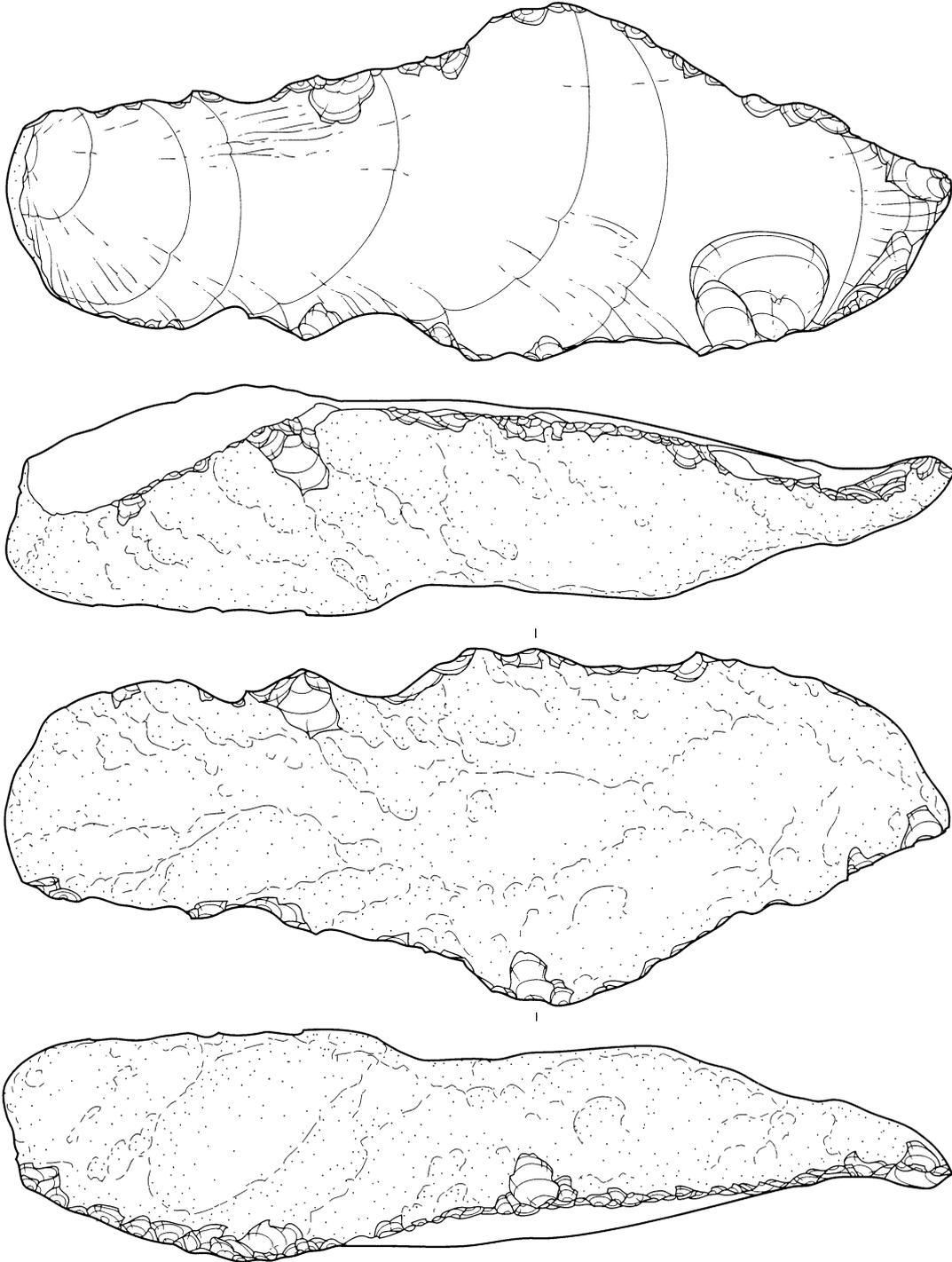
第108図 石器実測図(10)スクレイパー①



第109図 石器実測図(11)スクレイパー②



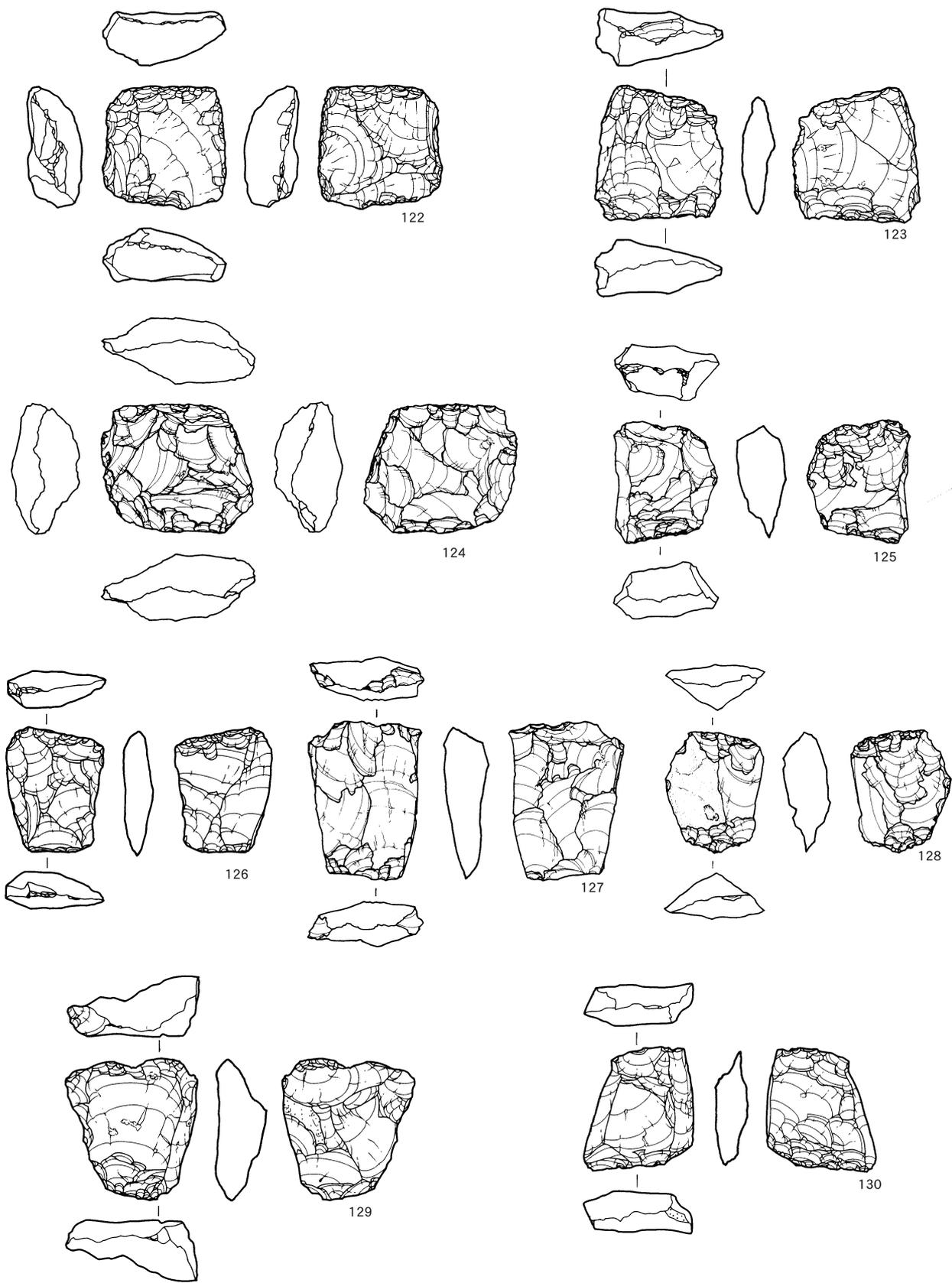
第110図 石器実測図(2)スレイパー③・二次加工①



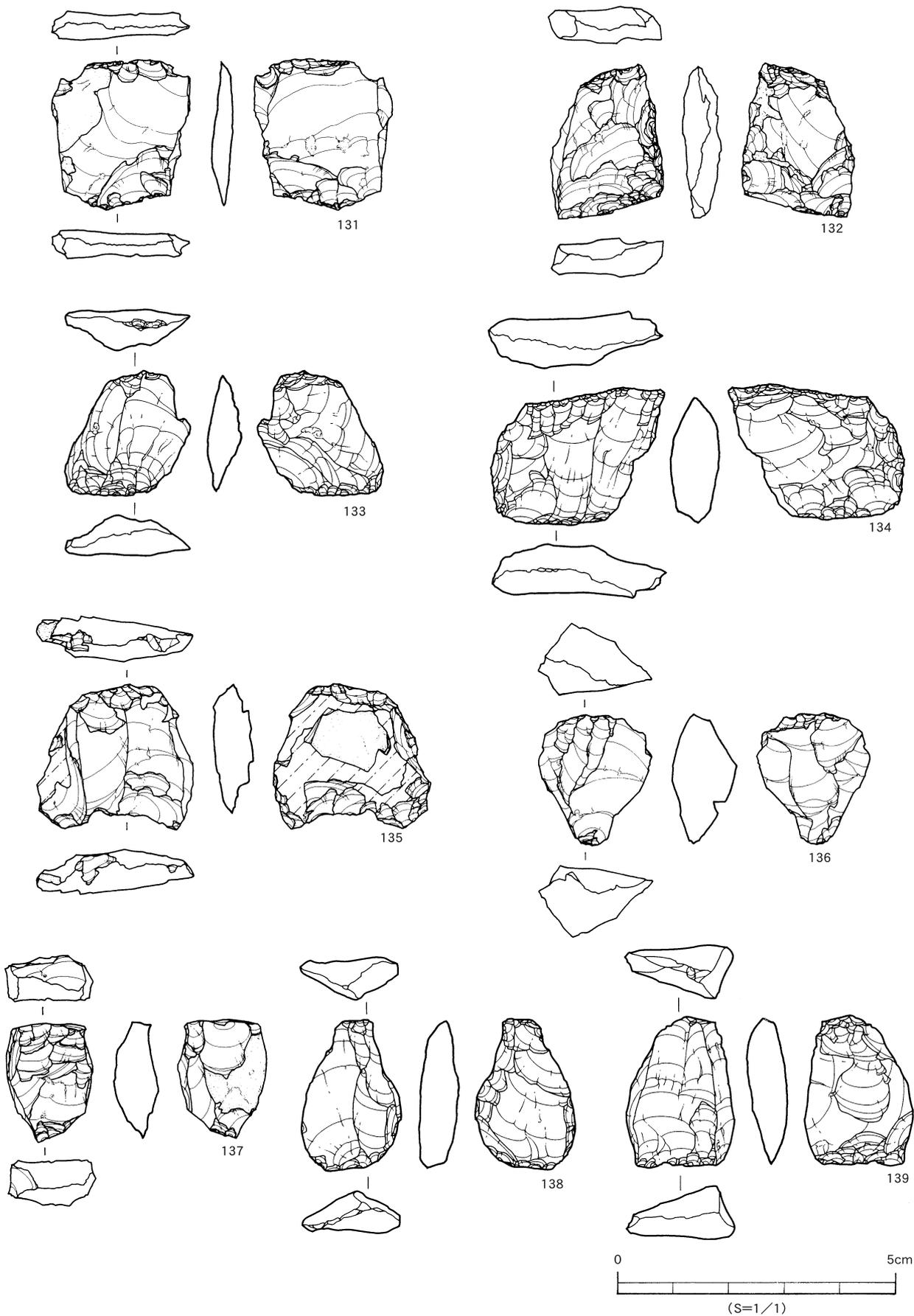
5cm
0
(S=1/1)

121

第111图 石器实测图(3)二次加工②



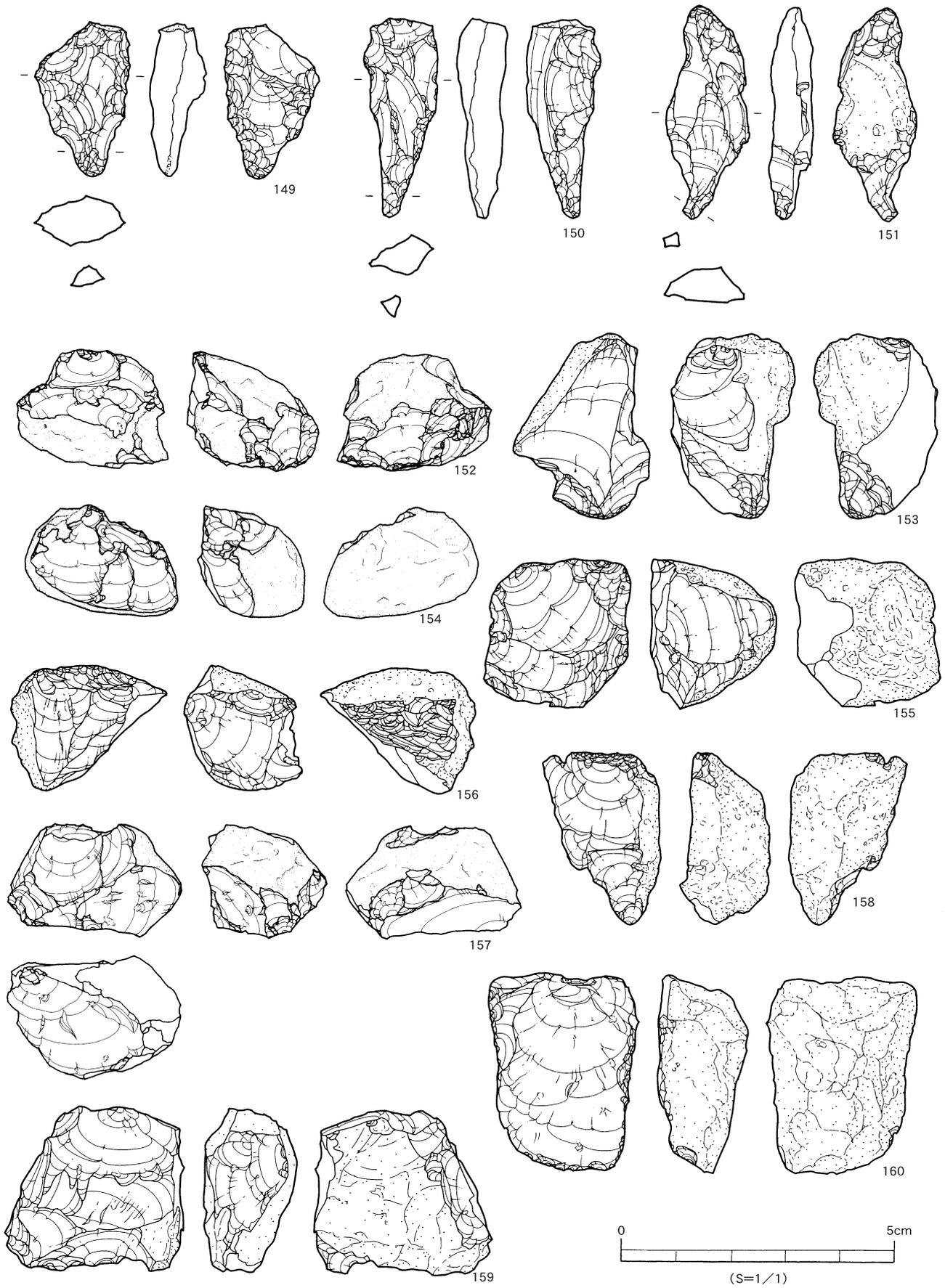
第112図 石器実測図(4)楔形石器①



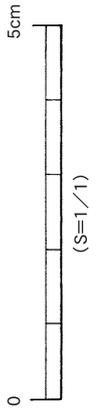
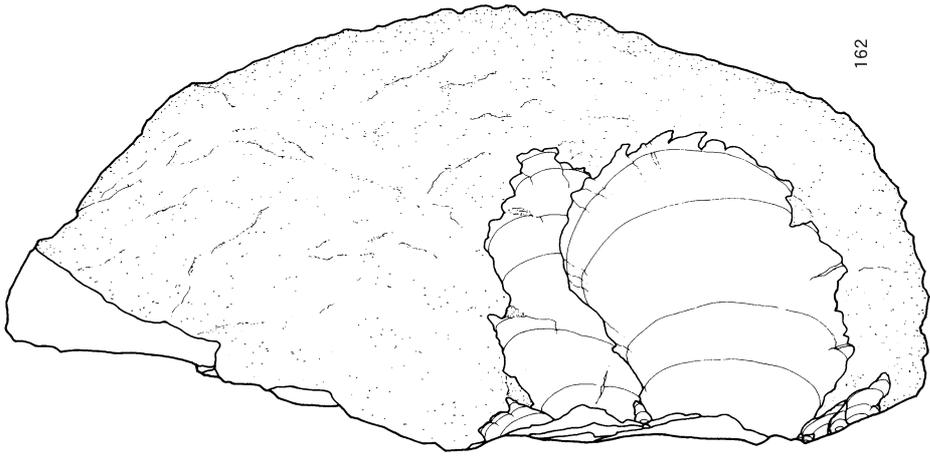
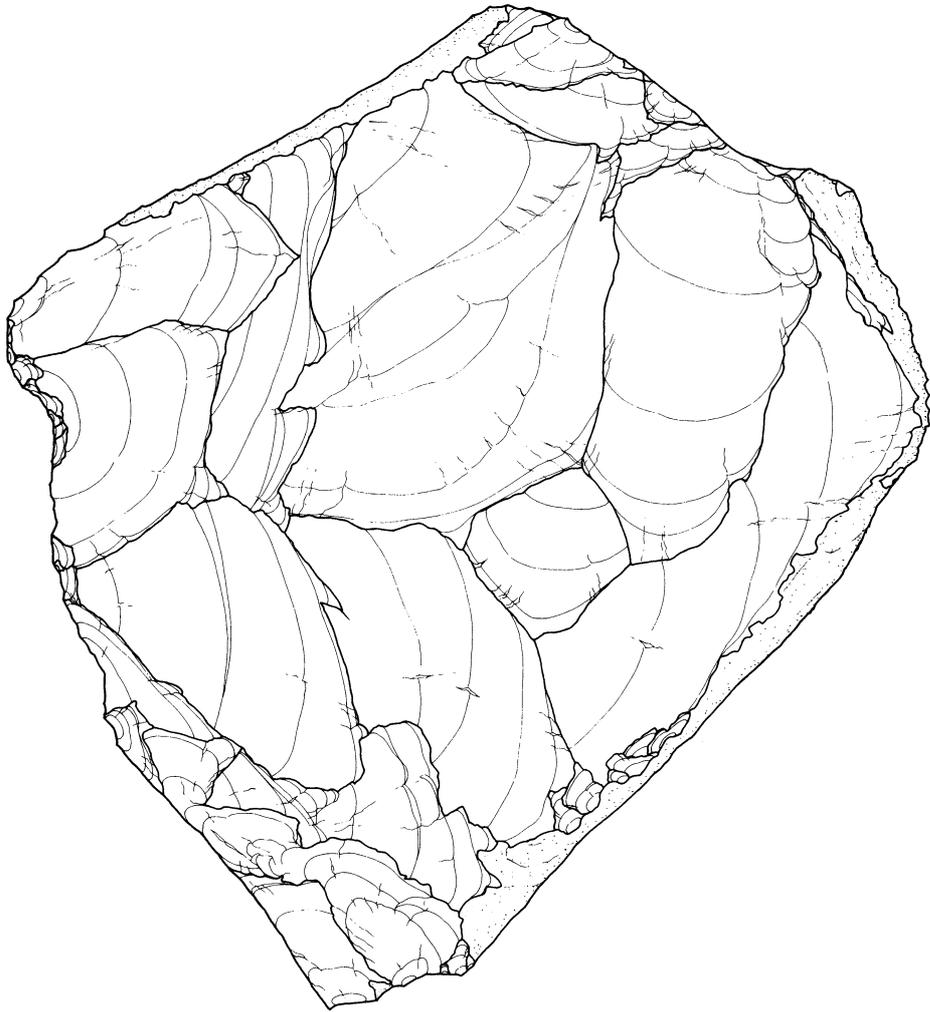
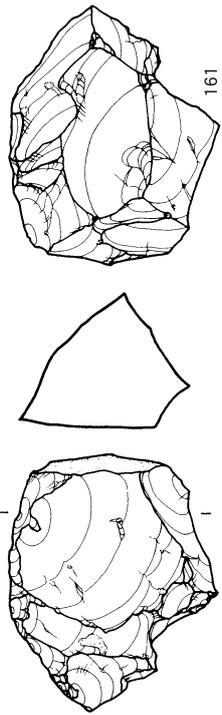
第113图 石器实测图(15)楔形石器②



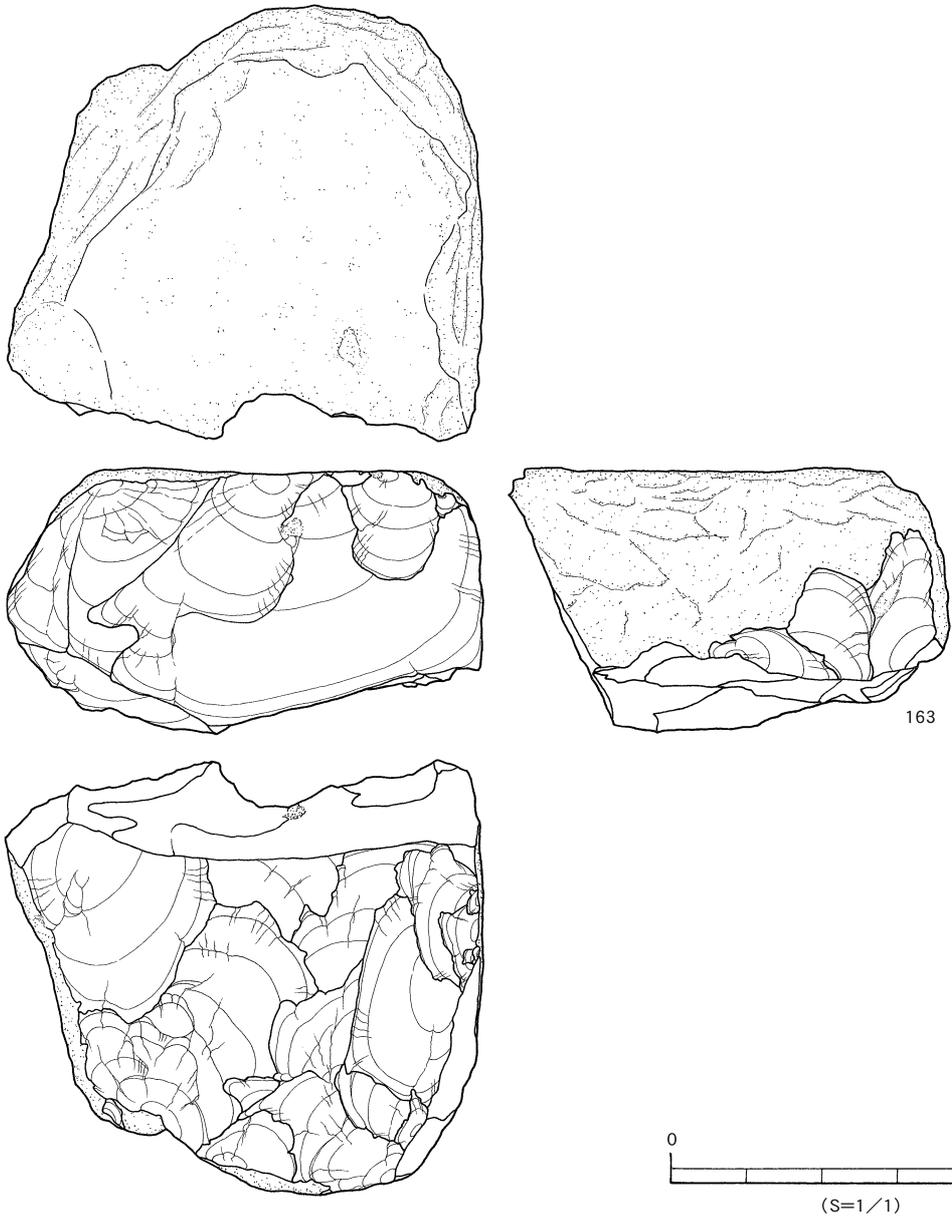
第114图 石器实测图(16)楔形石器③



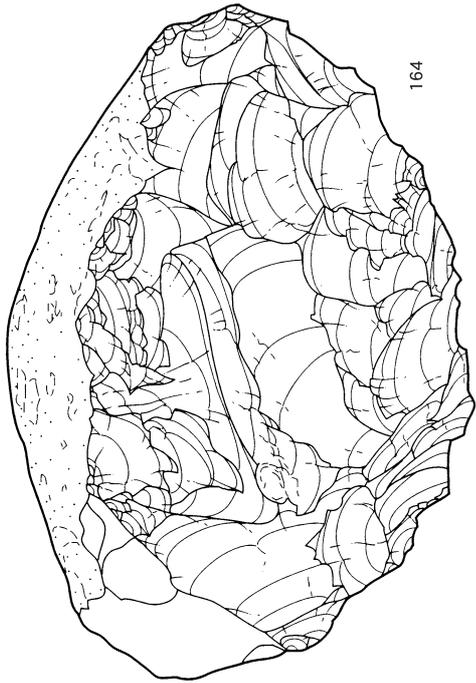
第115図 石器実測図(17)石錐・石核①



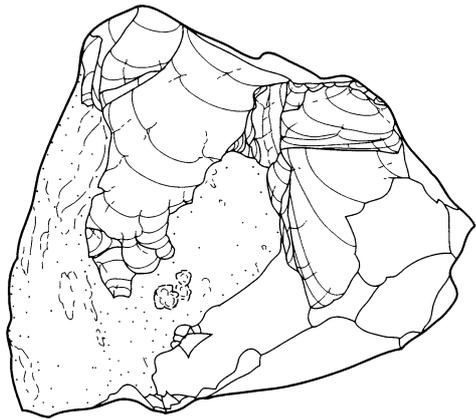
第116図 石器実測図(18)石核②



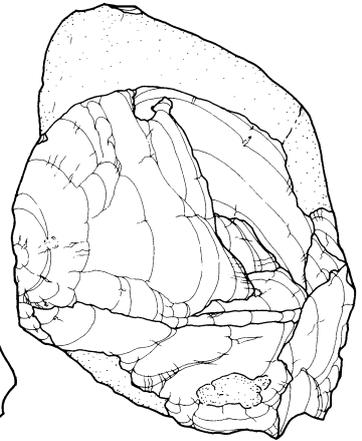
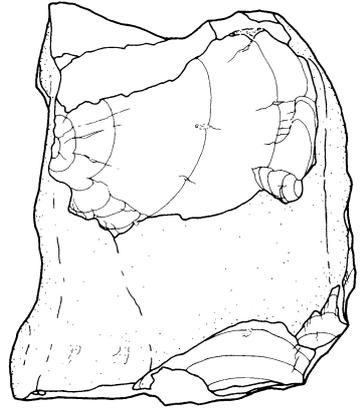
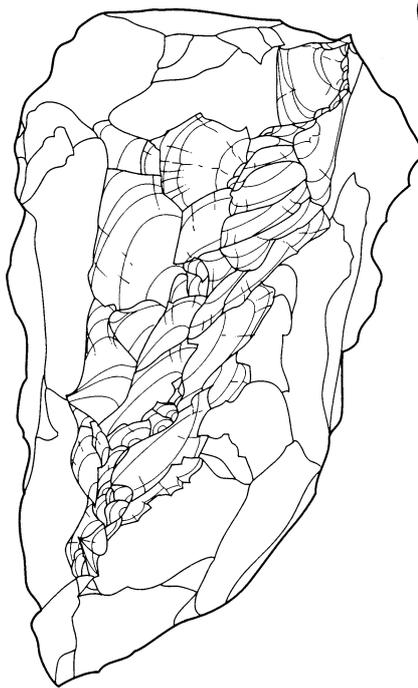
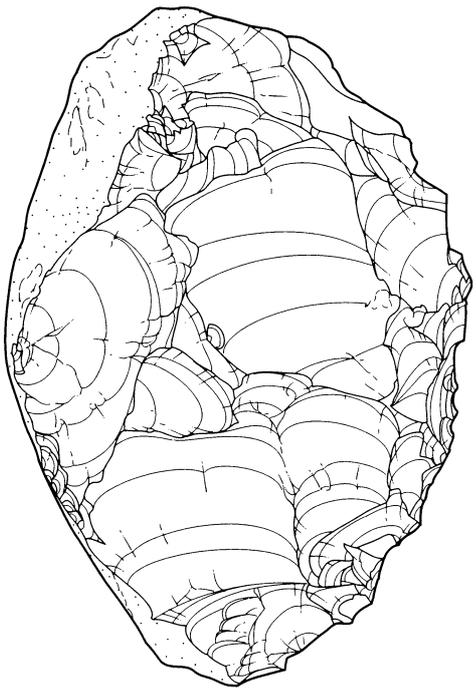
第117图 石器实测图(9)石核③



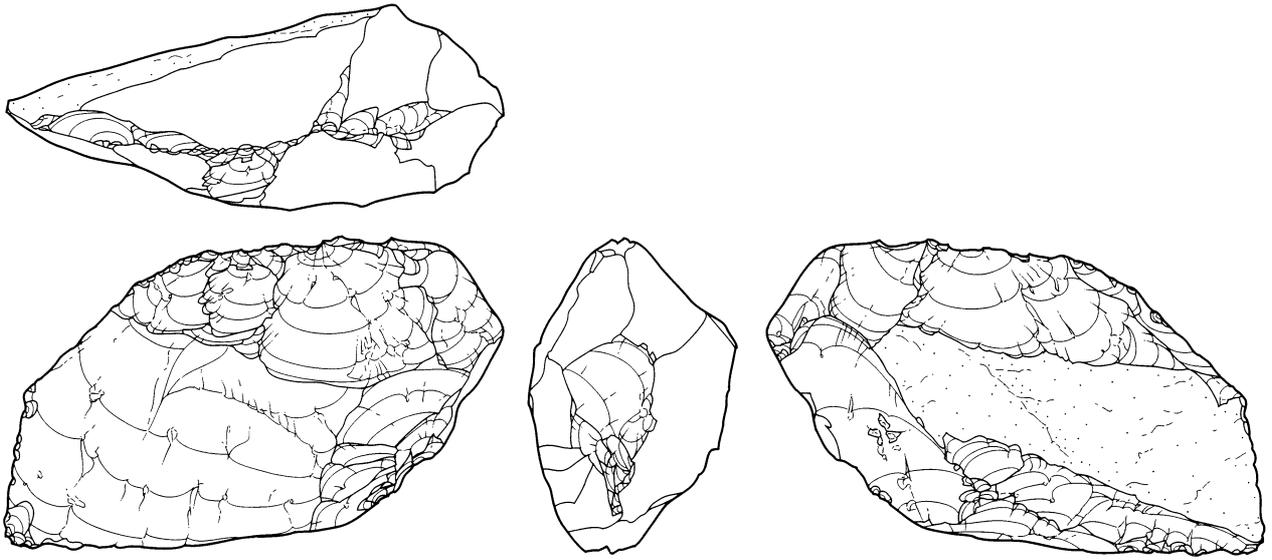
164



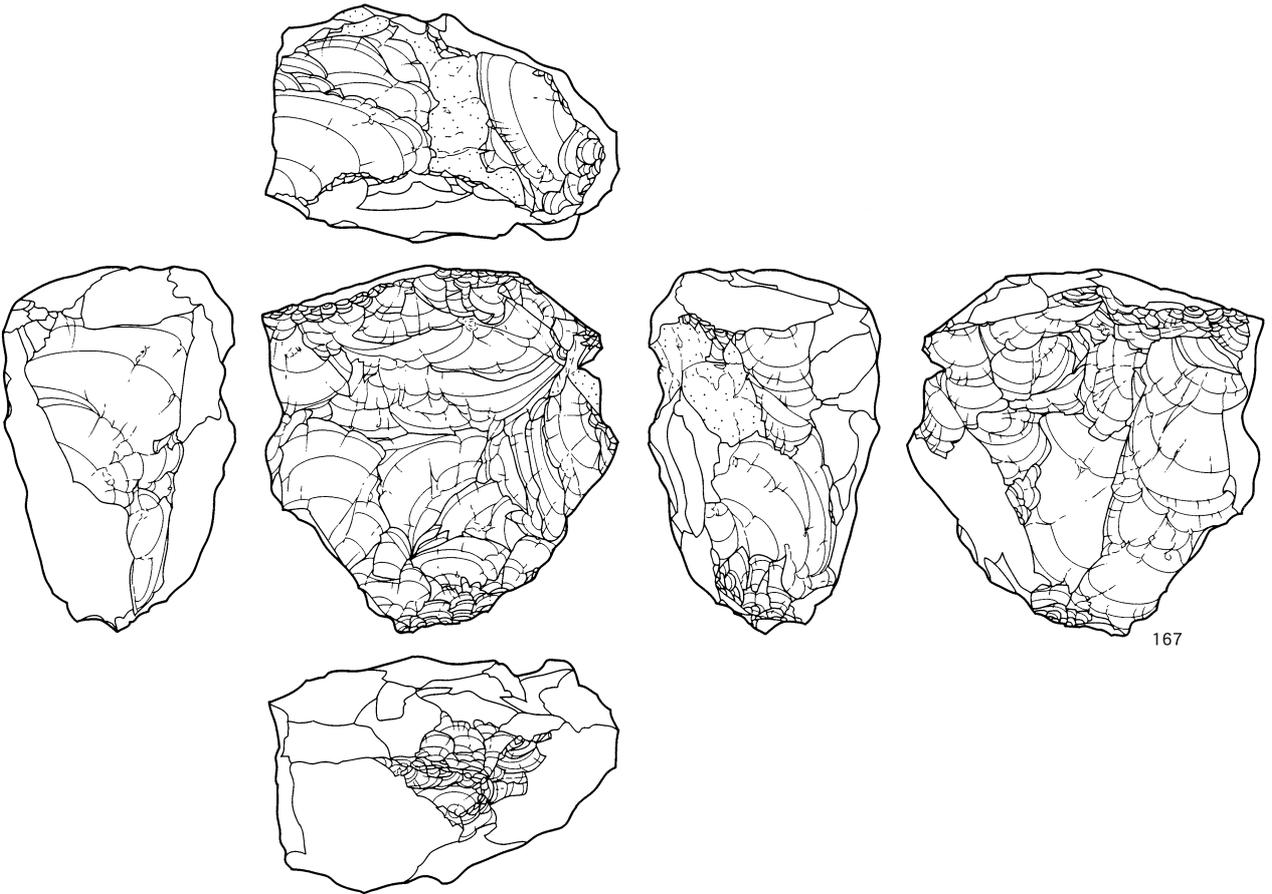
165



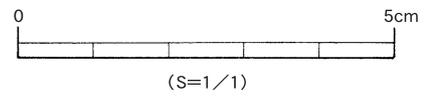
第118图 石器实测图(20)石核④



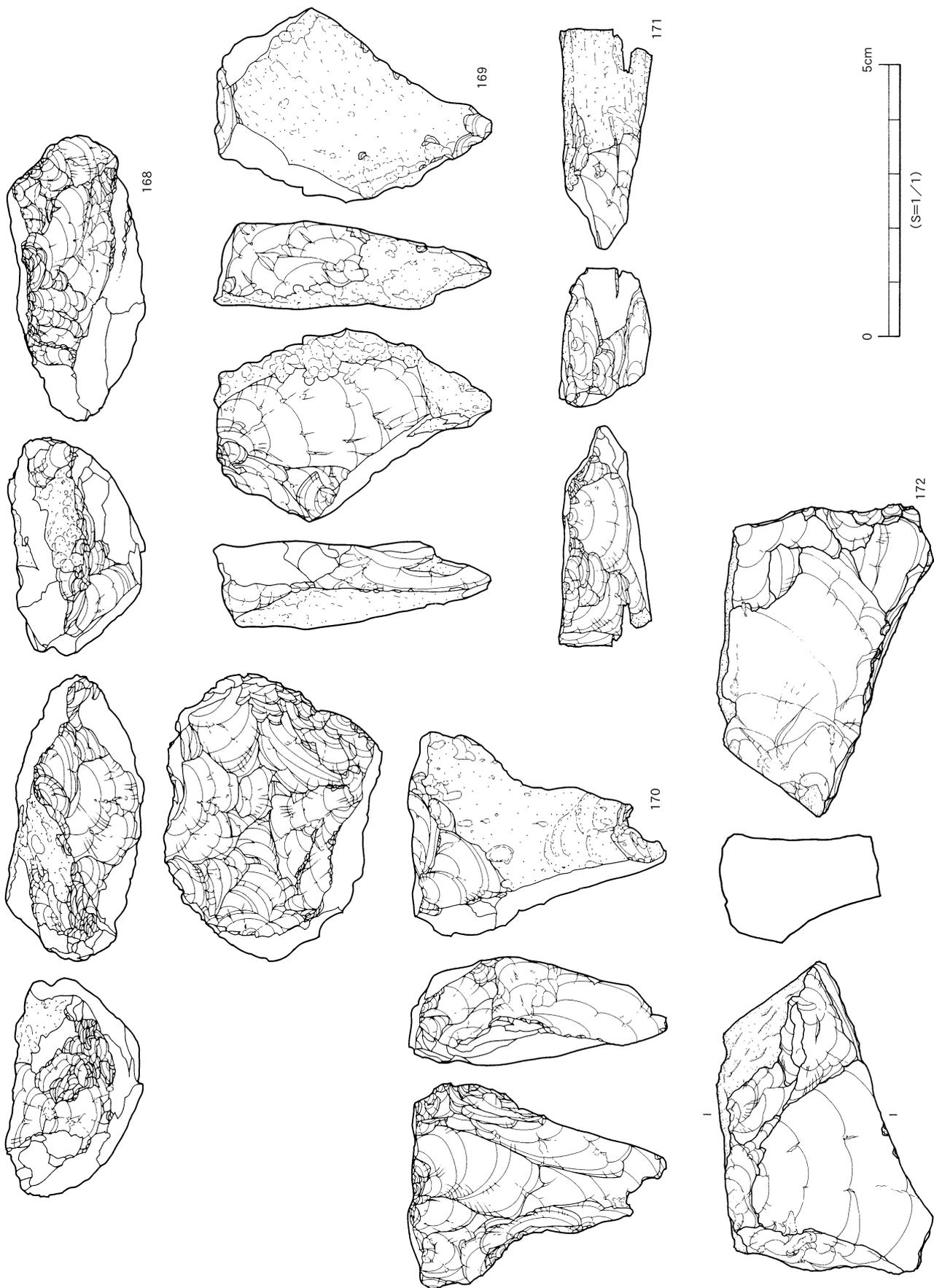
166



167



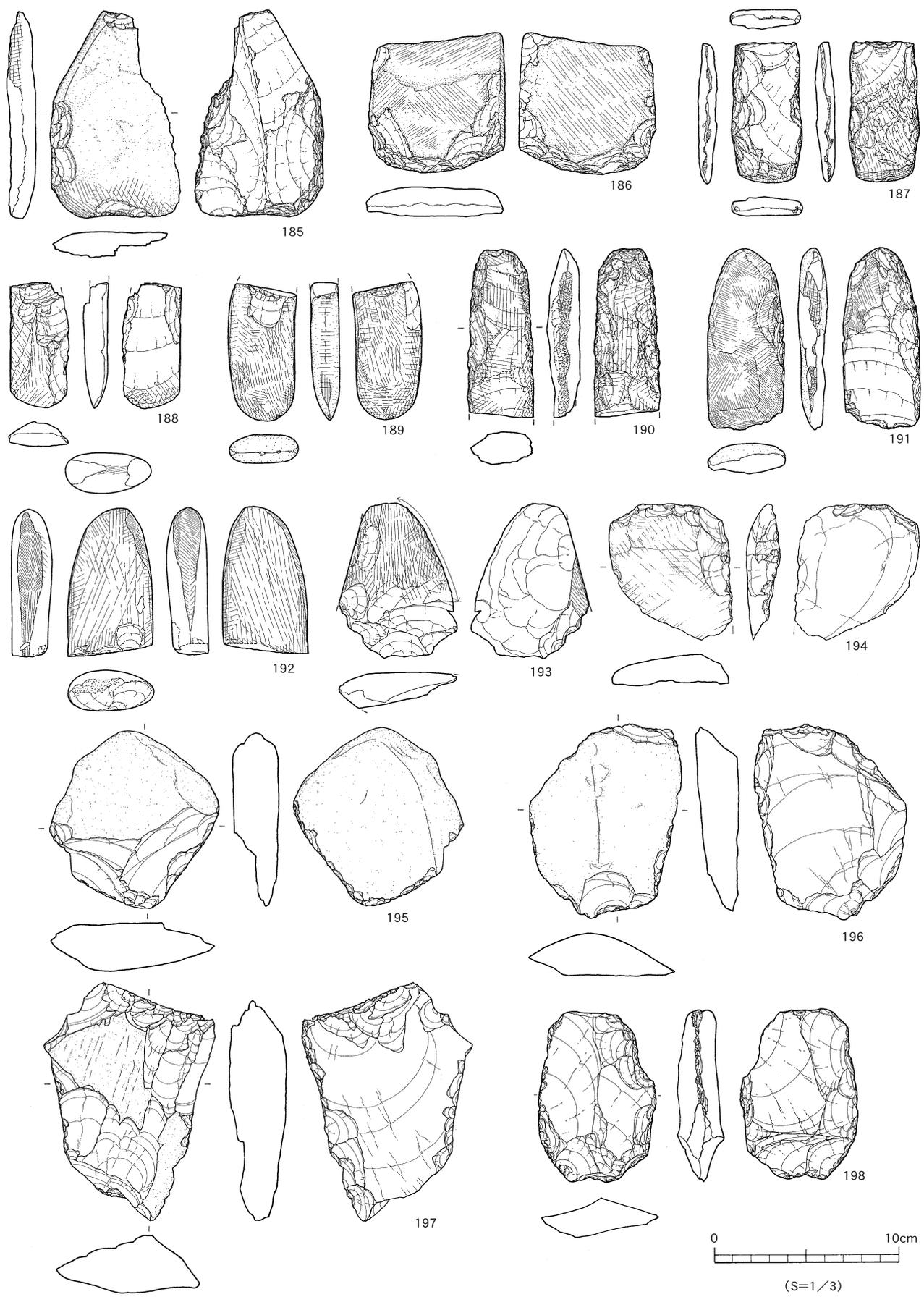
第119图 石器实测图(2)石核⑤



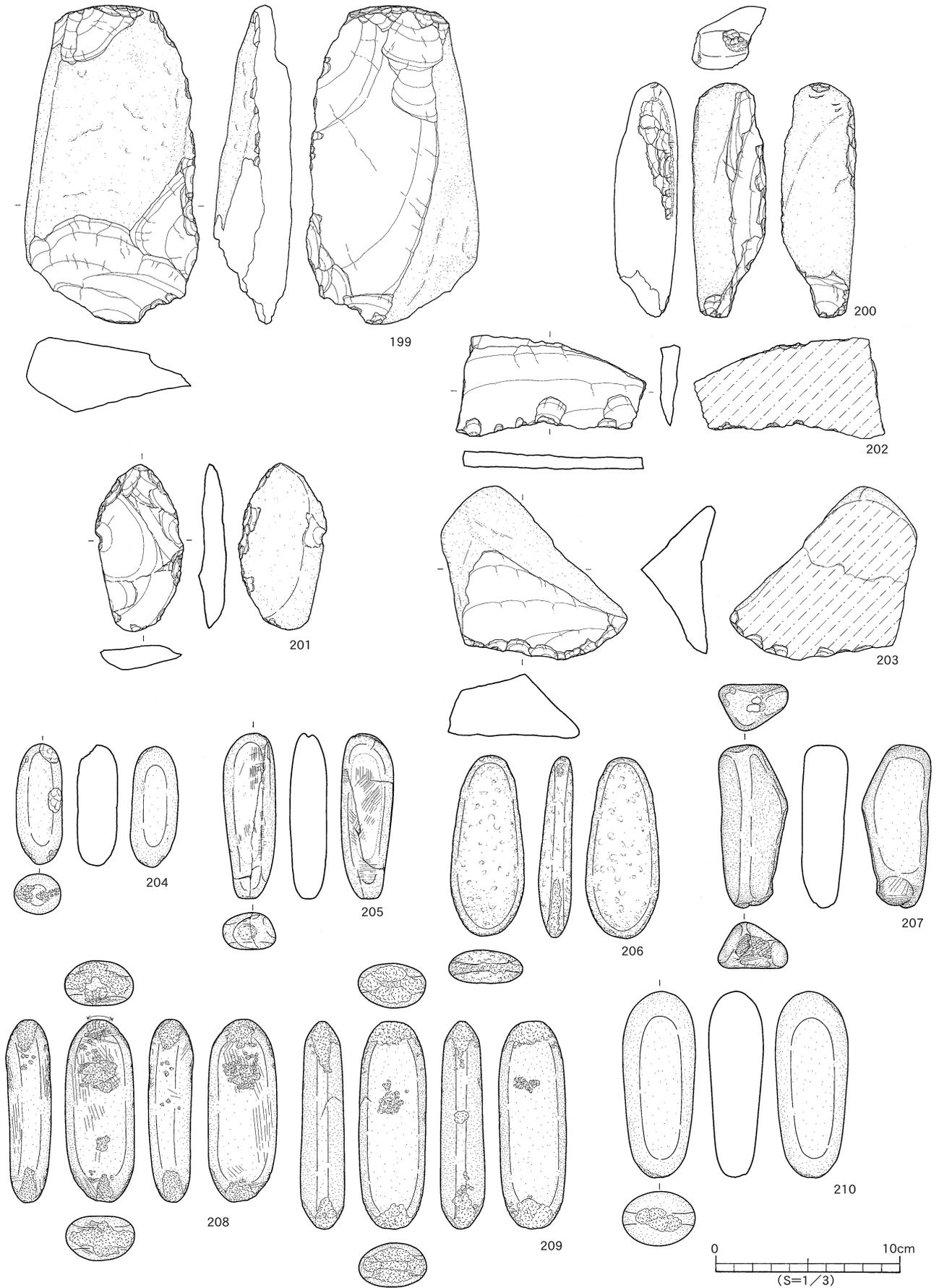
第120図 石器実測図(2)石核⑥



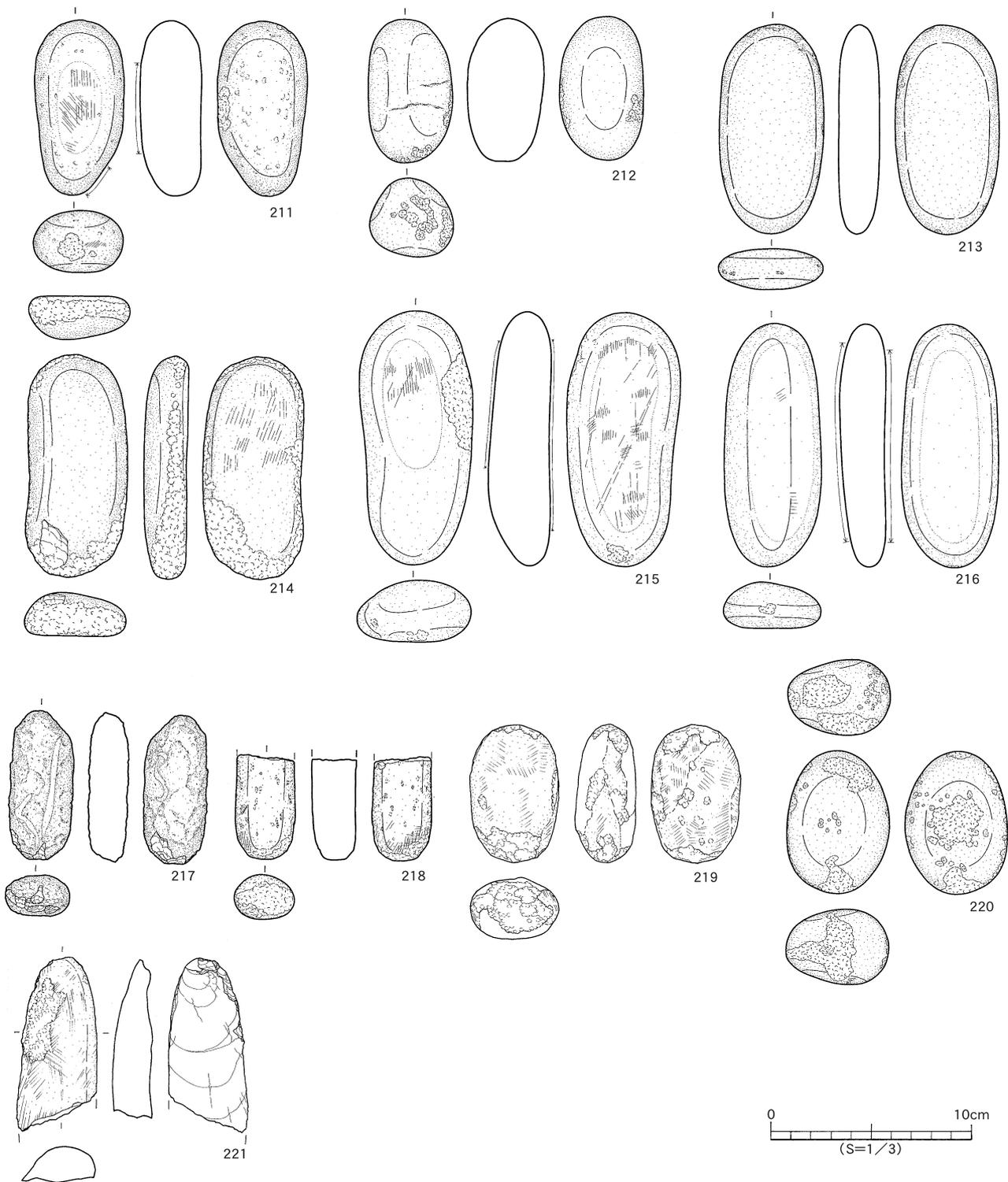
第121図 石器実測図(23)打製石斧・磨製石斧①



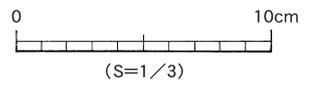
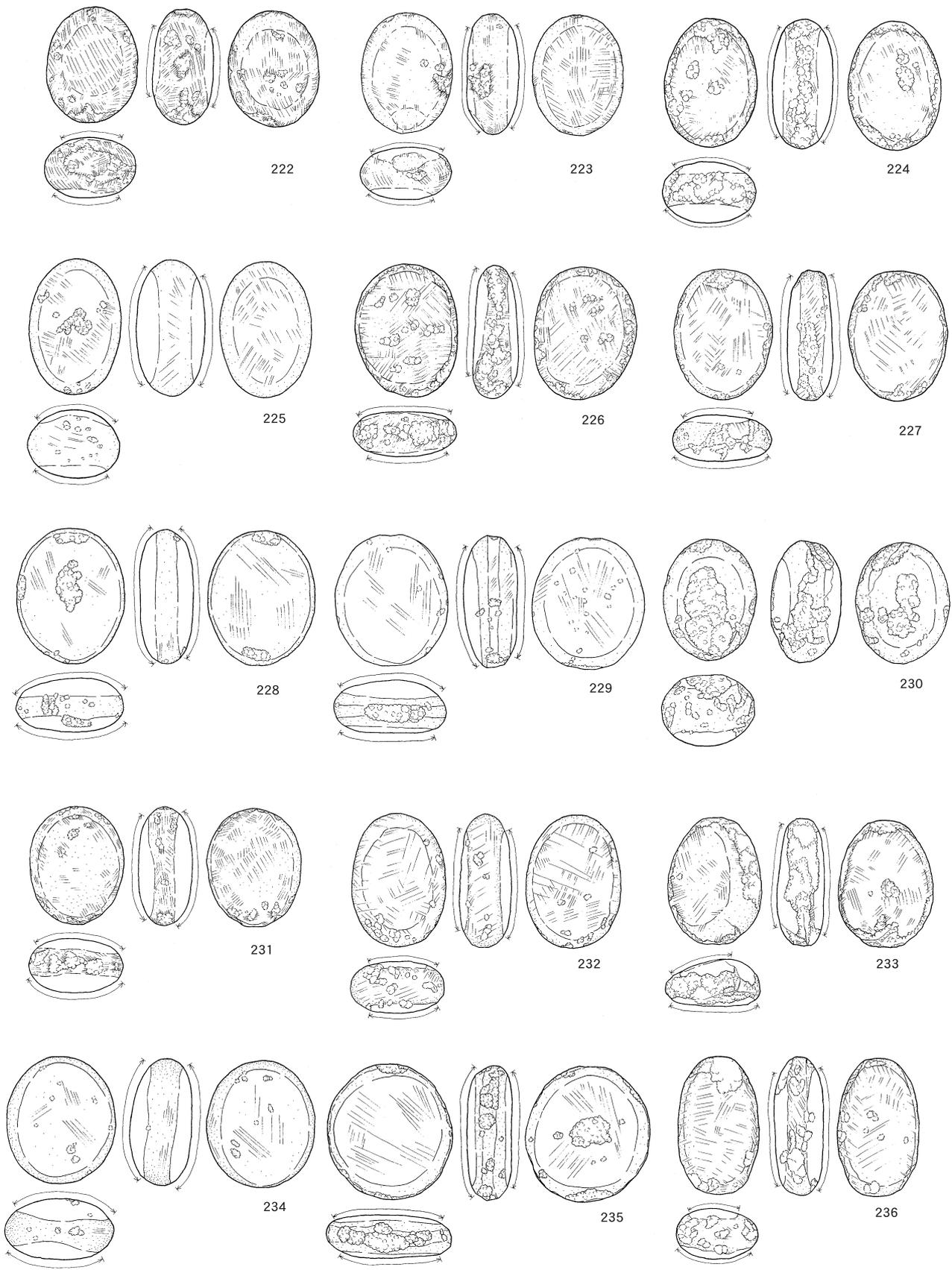
第122図 石器実測図(24)磨製石斧②・礫器①



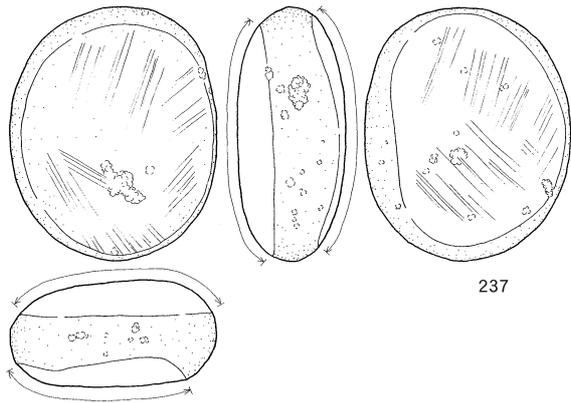
第123図 石器実測図(25)礫器②・敲石①



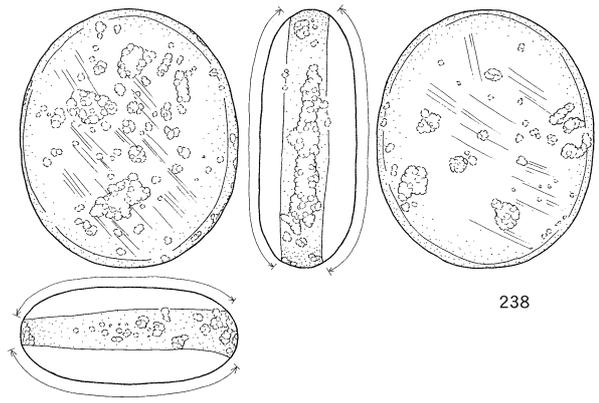
第124図 石器実測図(26)敲石②



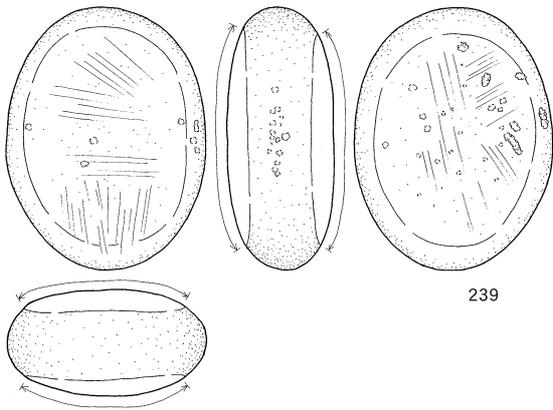
第125图 石器实测图(7)磨石①



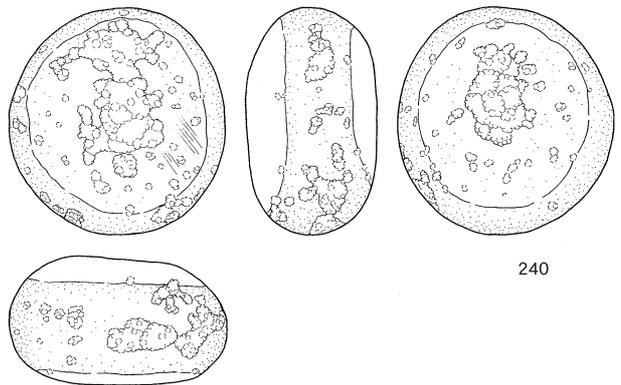
237



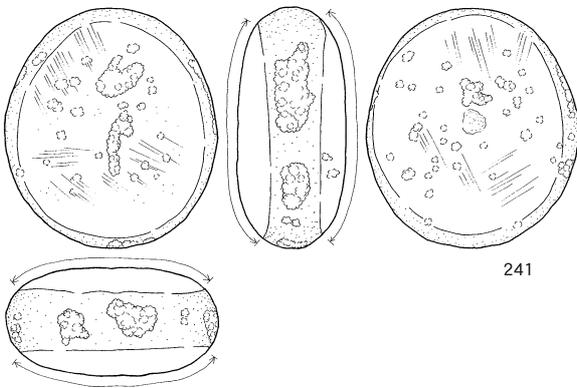
238



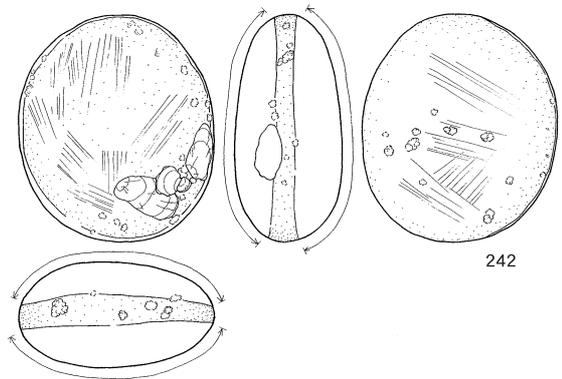
239



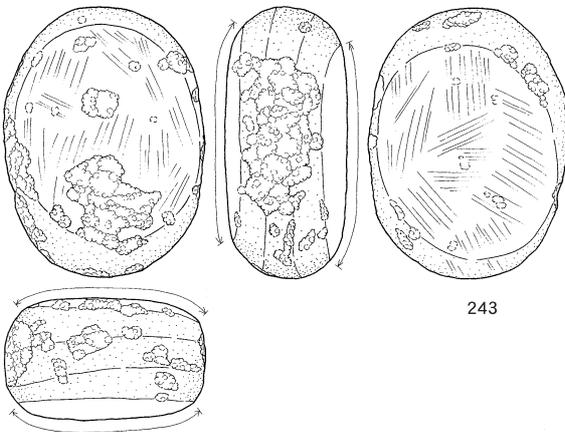
240



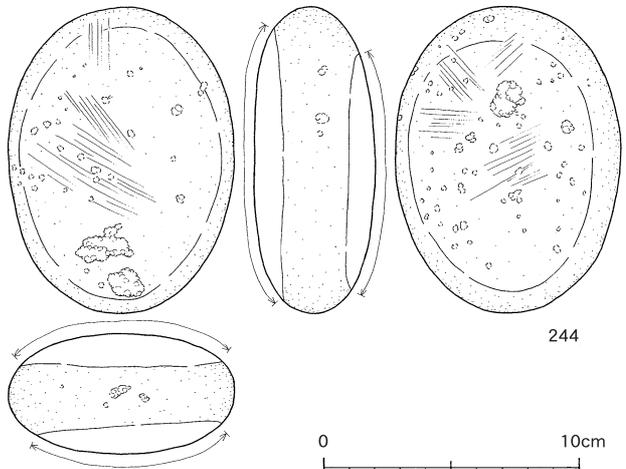
241



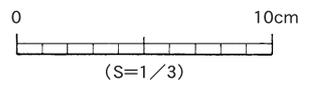
242



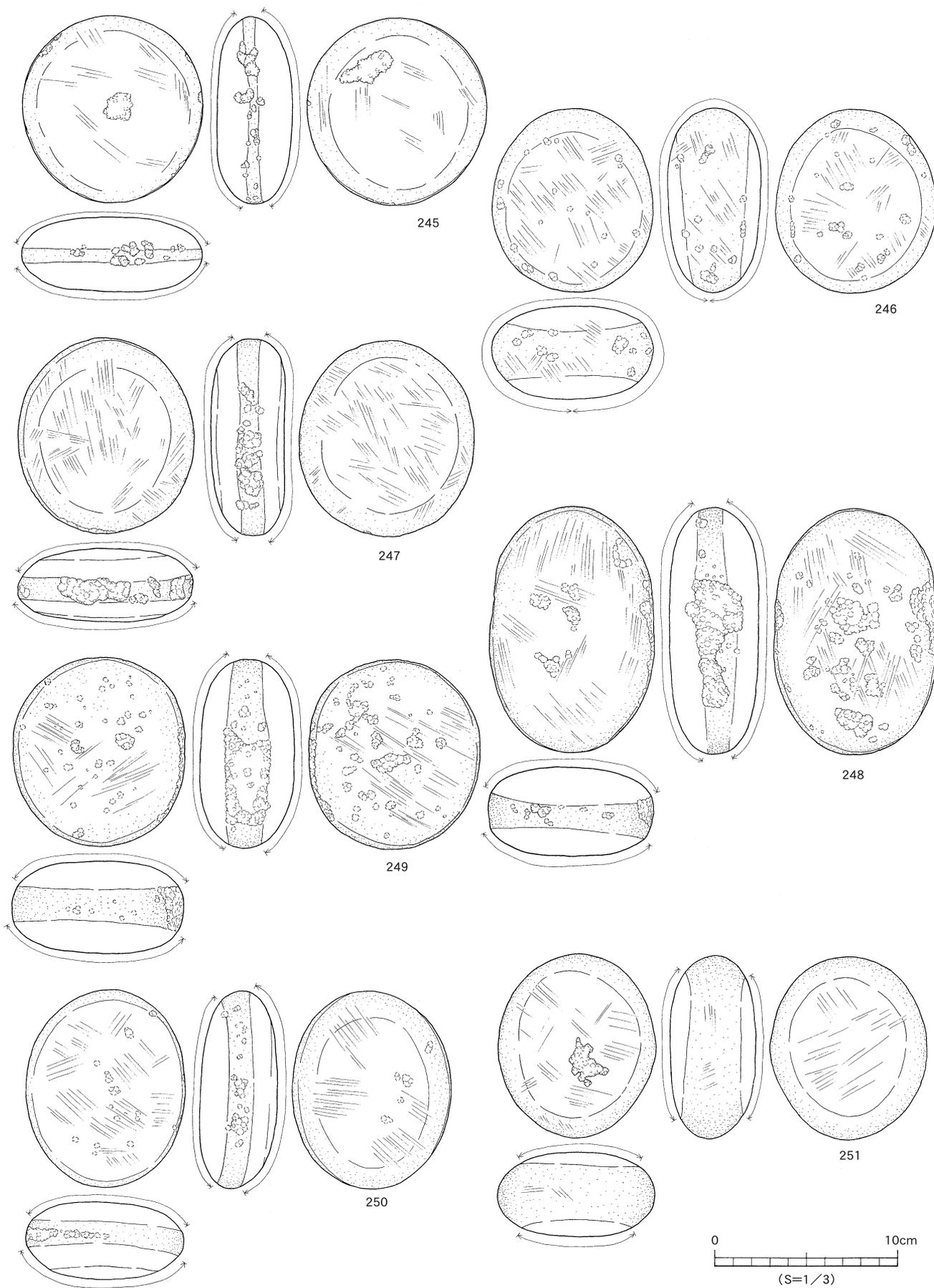
243



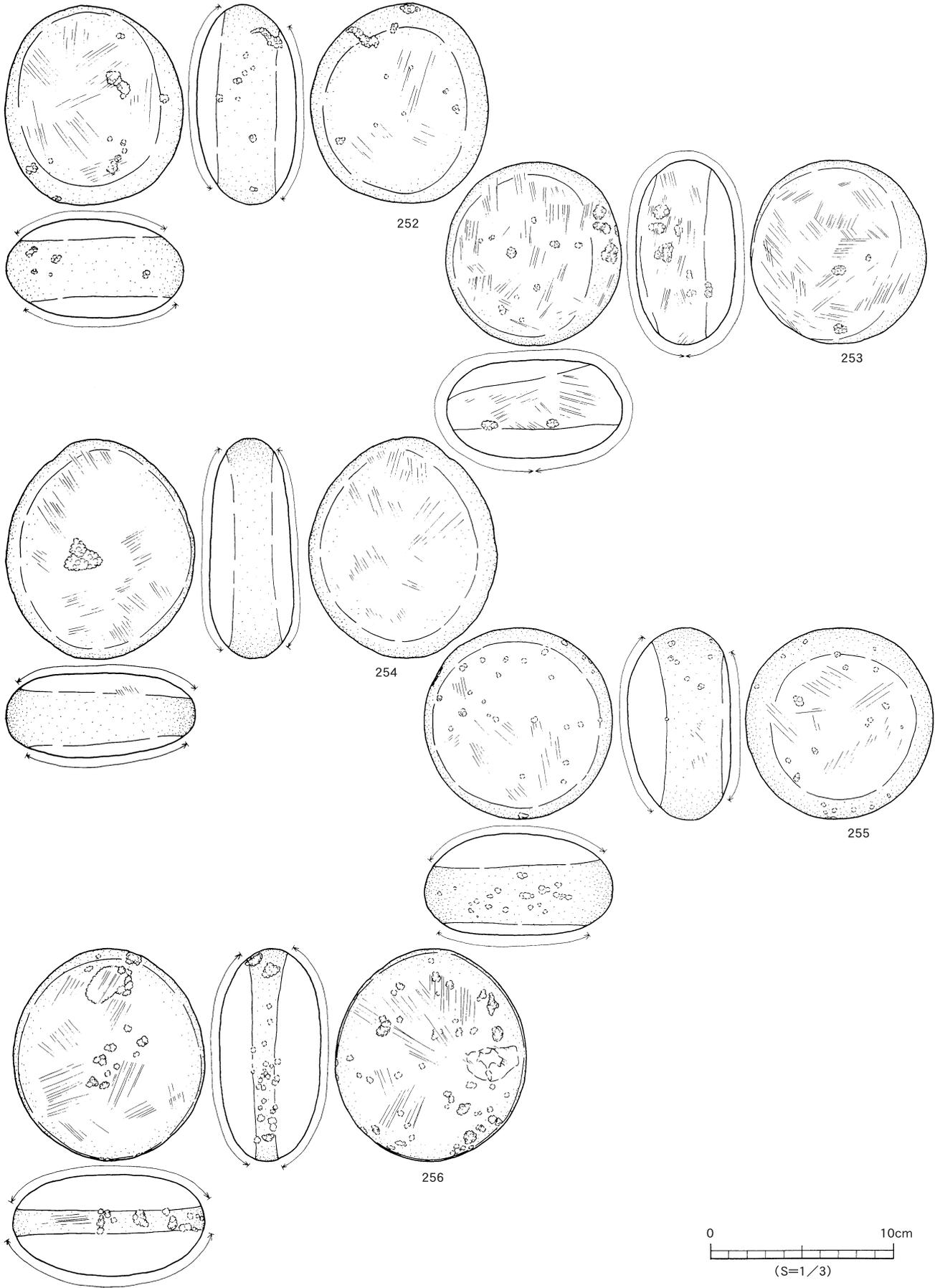
244



第126図 石器実測図(磨石②)



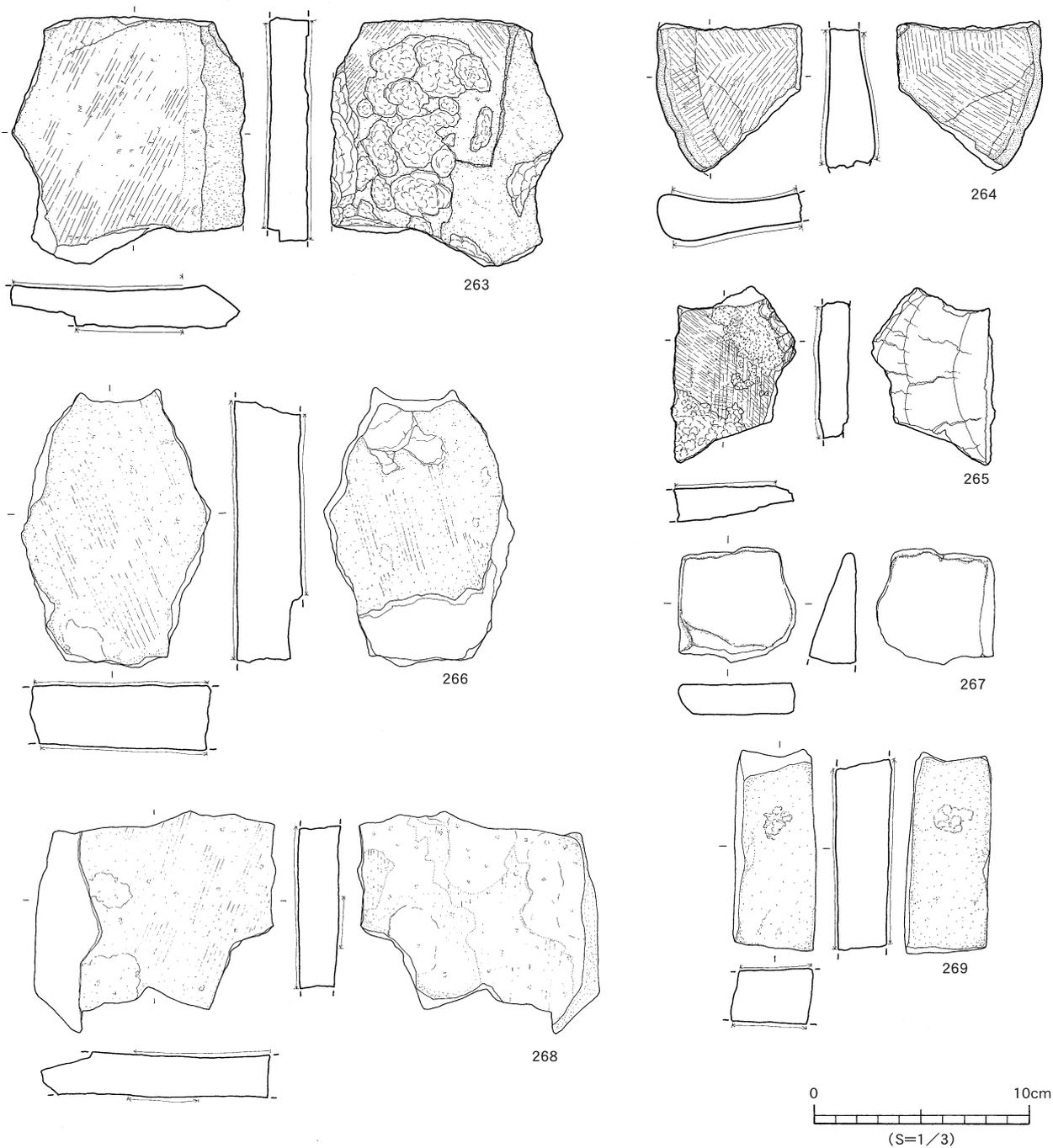
第127图 石器实测图(磨石③)



第128图 石器实测图(30)磨石④



第129図 石器実測図(3)磨石⑤



第130図 石器実測図(3)石皿①

される。279は、裏面に自然か人工かはっきりしないが、幅1cm程度のU字状の溝が見られる。この石材自体は節理を多く有する。

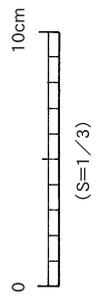
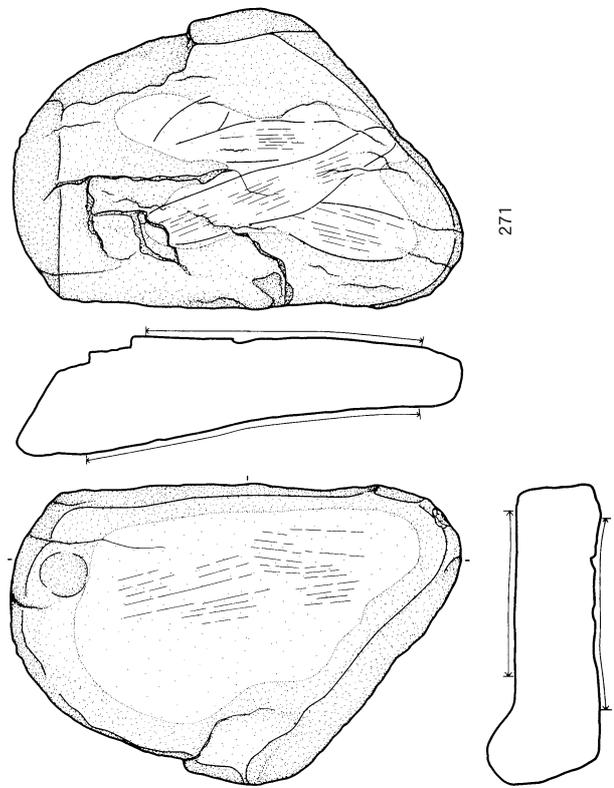
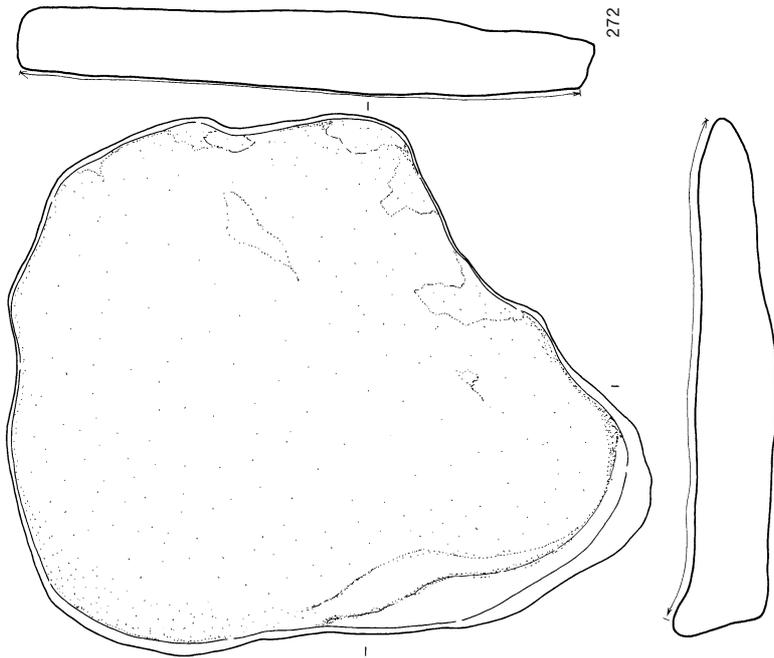
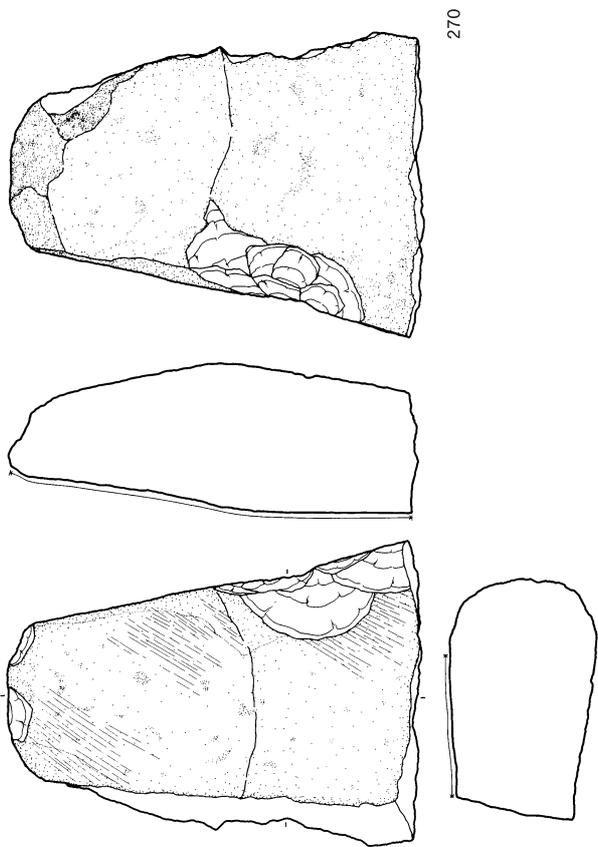
人工的な加工は認められないが全面に摩滅が認められる。8は、安山岩製の剥片で側面に6条の直交する溝と、片面に未完通の穿孔が認められる。

(3) 土製品・石製品その他

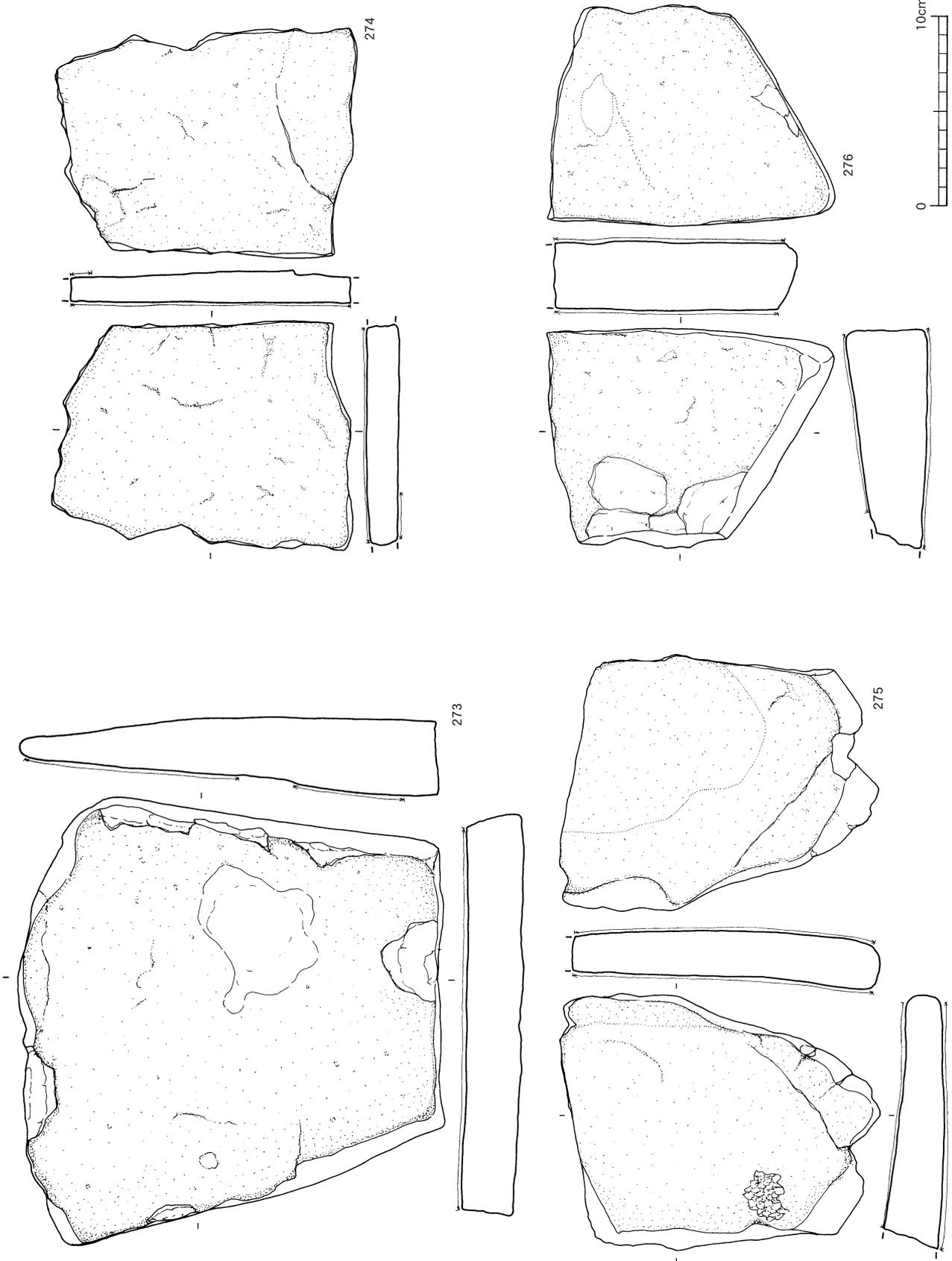
土製品・石製品等は総点数20点が出土し、この内8点を図化した。

1～6は焼成粘土塊である。

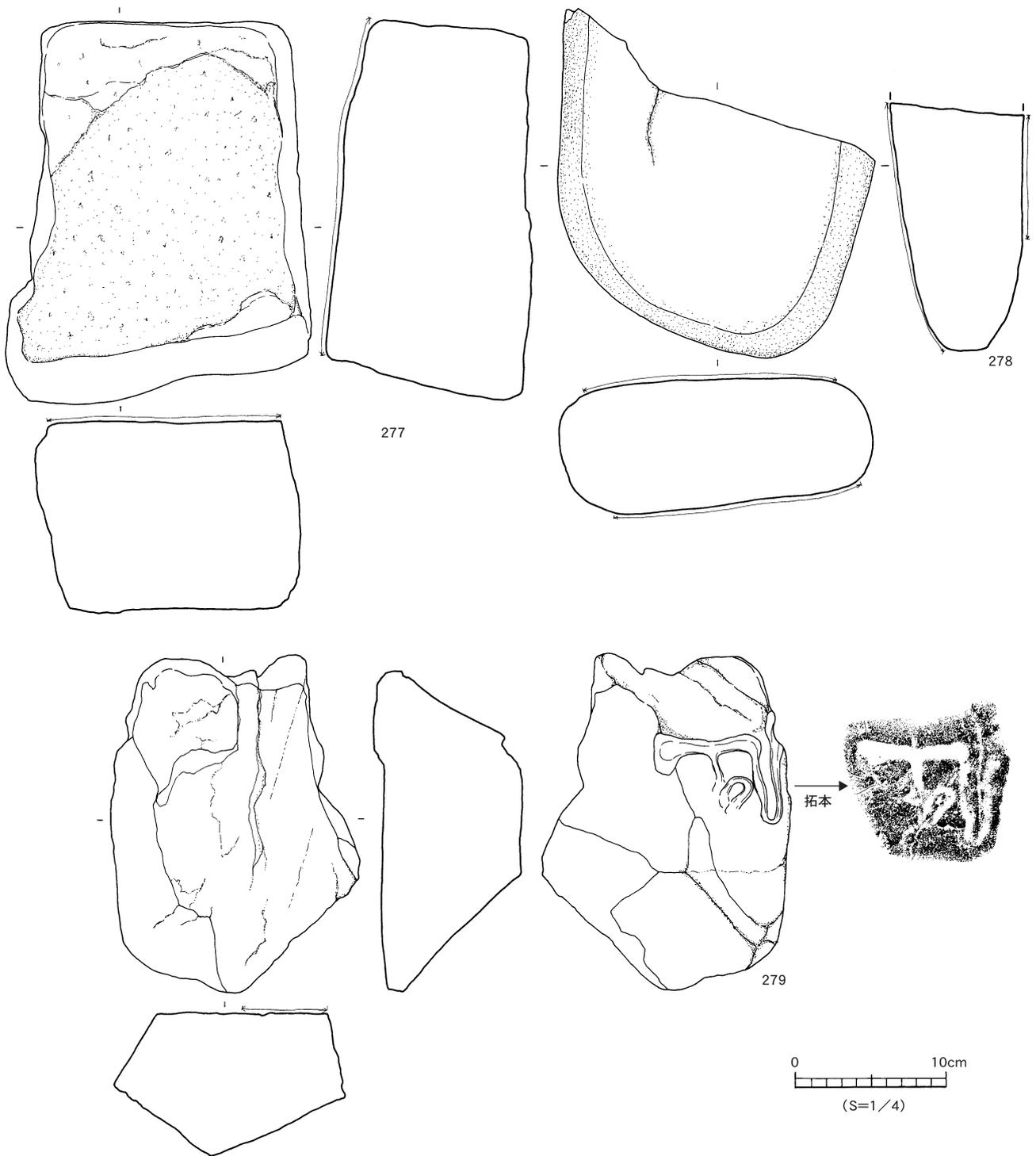
7・8は石製品である。7は、扁平な三角形の礫で、



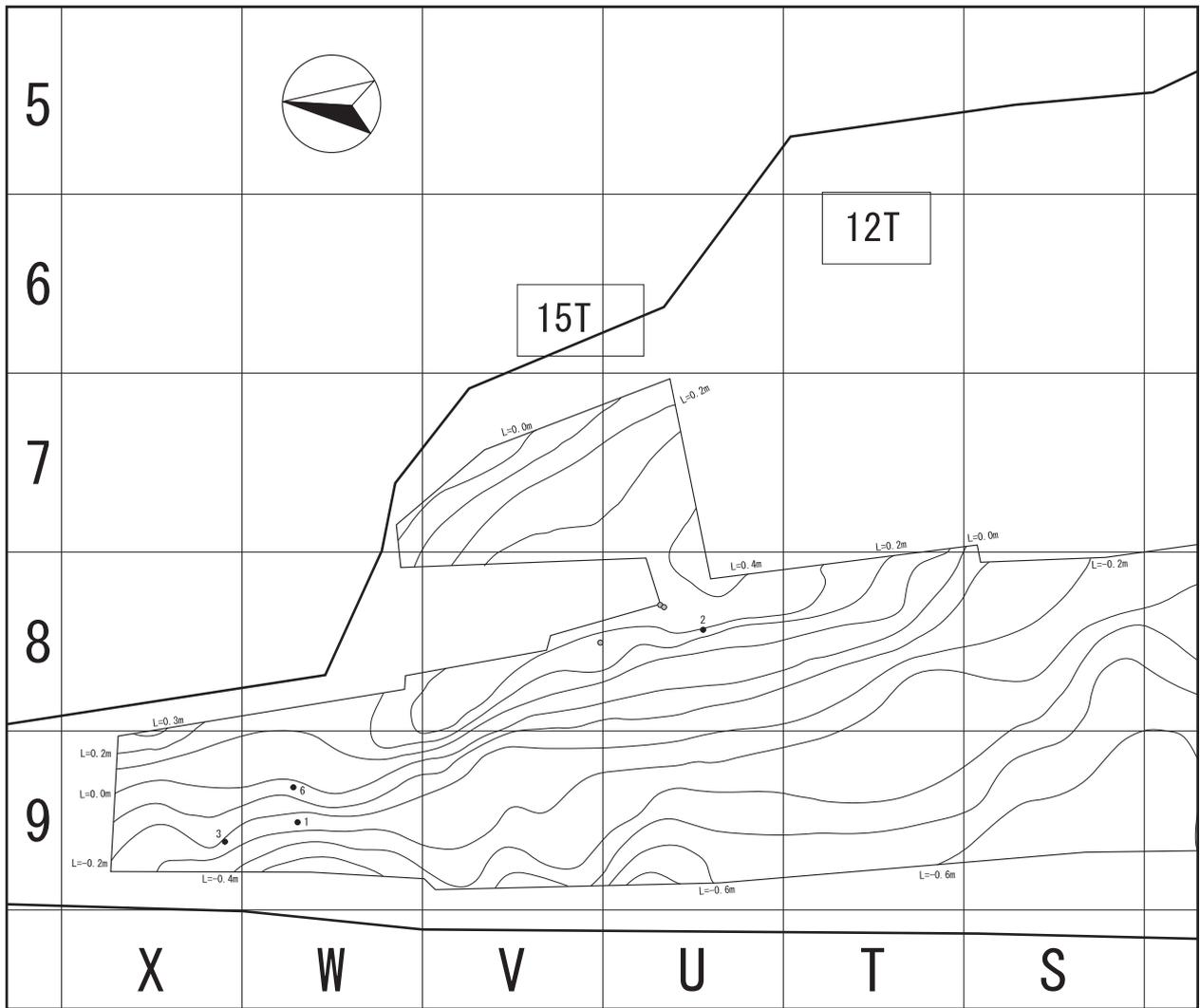
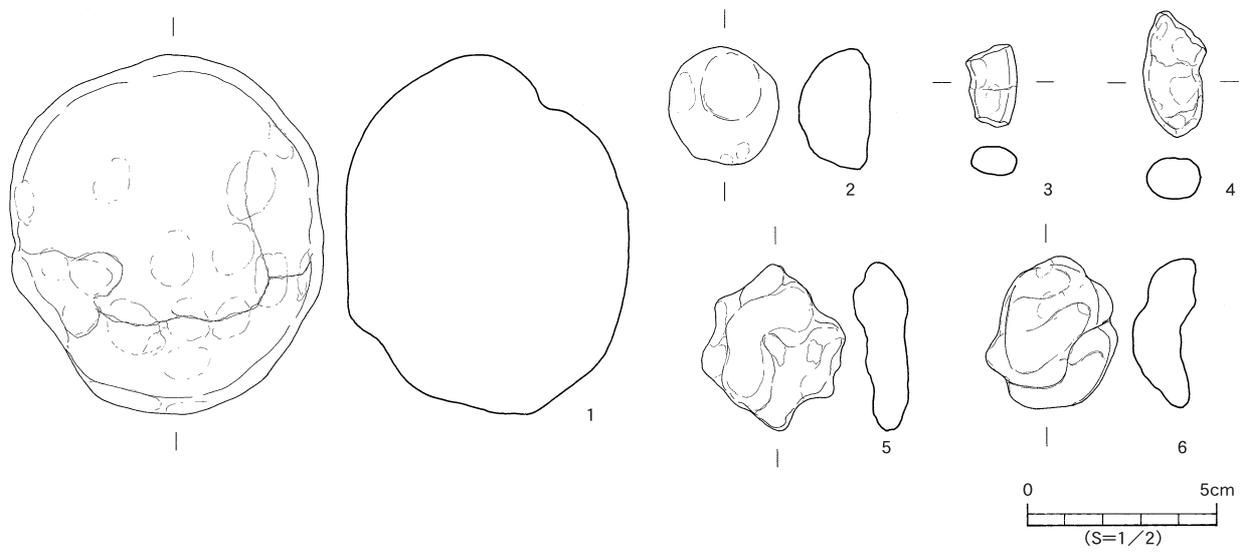
第131图 石器实测图(3)石皿②



第132图 石器实测图04石皿③

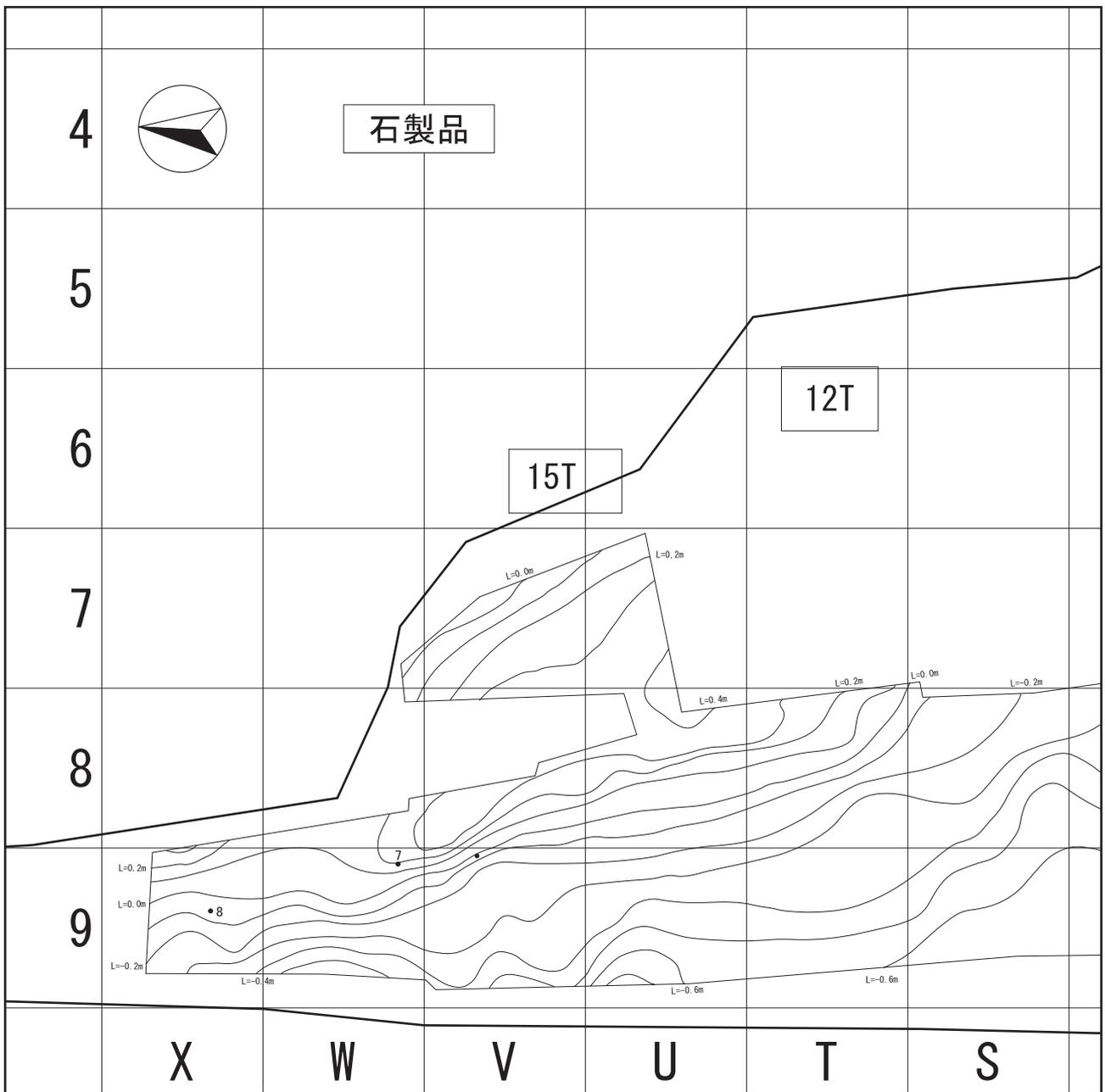
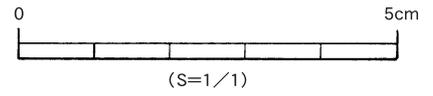
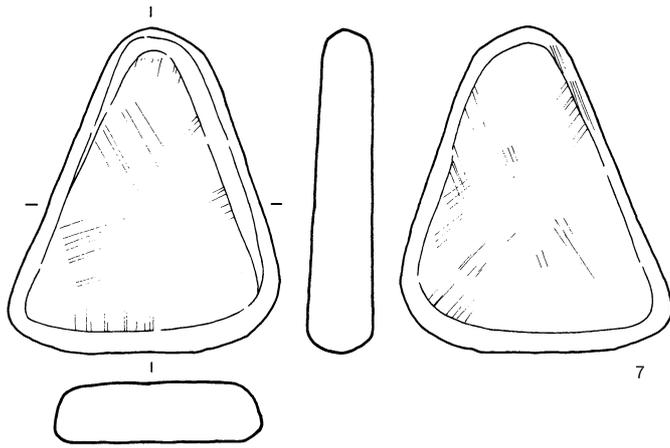


第133图 石器实测图(35)石皿④



(1グリッド 10m×10m)

第134図 土製品及び出土状況



第135図 石製品及び出土状況

(1グリッド 10m×10m)

第4章 中世～近世の調査（遺物編）

第1節 概要

調査対象となる層位は、層、a層、a層である。この中で最も遺物量が多いのは層である。

包含層では、層を中心として遺物の出土がみられた。状況としては、小破片が多い。小破片に関しては、区一括で取り上げを行い、比較的大きめの破片に関しては番号を付けて取り上げを実施した。

ここでは平安時代末の遺物に関しても中世の遺物として取り扱う。また、包含層では中世と近世の時期区分が困難であったため、本章では中世から近世までの遺構・遺物を一括して取り扱う。

中世の遺物としては、土師器・国産陶器（常滑・備前・東播磨系須恵器・樺万丈・南島産類須恵器【カムイヤキ】など）・輸入陶磁器（青磁・白磁など）などがみられた。輸入陶磁器の中でも、青磁と白磁は古くは11世紀後半から16世紀までの長い期間のものがみられる。特に、元から明にまたがる14世紀代のは注目されよう。また、高麗青磁などは他の遺跡でも類例が少なく、しかも3点もの資料が発見されたことは注目されよう。

中世末～近世前半（特に17後半～18初頭頃まで）の遺物としては、土器（瓦質土器を含む）・国産陶磁器（肥前系・東海系・薩摩焼など）・輸入陶磁器（景德鎮窯系青花・漳州窯系青花）などがみられた。この中には、徳化窯産白磁などの他の遺跡でも類例の少ないものが含まれている。また、薩摩焼は堂平窯（日置市東市来町）産とみられるものと、16世紀代の朝鮮産（あるいは17世紀代の串木野窯産）の可能性のあるものなどが含まれており、重要である。中でも堂平窯産とみられる薩摩焼は、生産地と消費地のありかたを考えると特に重要な資料である。

鉄器も比較的多く出土している。釘が多く出土している他には鍋の破片（鑄鉄）や、鎌、火打金など（鍛鉄）がみられる。

石器・石製品については、鍛冶及び鉄生産に関係するものが多かった。具体的には、金床石がそれにあたるが、砥石も鉄に関連するものといえよう。また、火打石も発見されており、火打金と併せて発火具がセットでみられることが明らかとなった。

その他には、青銅製品がある。用途不明のものが多いが、戦時中の弾丸などもあり注目される。

基本的には、以下のように遺物の大分類を行う。ただし、細かい部分については違う部分もある。

- ・食膳具 椀・坏・皿・大皿
- ・貯蔵具 壺・有耳壺・陶器（須恵器含む）甕

- ・煮炊具 鍋・釜・土師器甕
- ・調度具 合子・瓶・水注・小壺
- ・その他 以上のものにはいないもの。器種が特定できないもの。

1 中近世の遺物分類

ア 国産品

土師器

椀・坏・皿・蓋

須恵器（東播磨系・樺万丈系含む）

甕・壺・片口鉢

瓦質土器（中近世にまたがるもの含む）

播鉢（こね鉢含む）・羽釜・鉢・焙烙・火鉢（火舎）・蓋・その他

陶器

碗類・皿類・鉢類・甕類・壺類・瓶類（・水注類）・鍋類・釜類・箱類・器台類・蓋類・その他

磁器

碗類・皿類・鉢類・甕類・壺類・瓶類（・水注類）・箱類・器台類・その他

その他

類須恵器（南島須恵器・カムイヤキ）

肥前系大壺（五耳壺の耳部分のみ）

イ 輸入品

基本的には、碗・皿・口折皿・瓶・壺・鉢・盤・合子・その他に分類した・

青磁（龍泉窯・高麗含む）

分類は、基本的に上田分類（上田秀夫1982）と、大宰府分類（横田・森田1978，太宰府市教育委員会【山本信夫】2000ほか）を参考として、森村分類（森村健一2005）を加味した。

白磁（徳化窯産含む）

分類は、基本的に森田分類（森田勉1982）と、大宰府分類（横田・森田1978，太宰府市教育委員会【山本信夫】2000ほか）を参考とした。また、一部に森村氏による指導内容を加味した。

陶器類

甕・壺・碗・皿・鉢

青花（景德鎮窯系・漳州窯系）

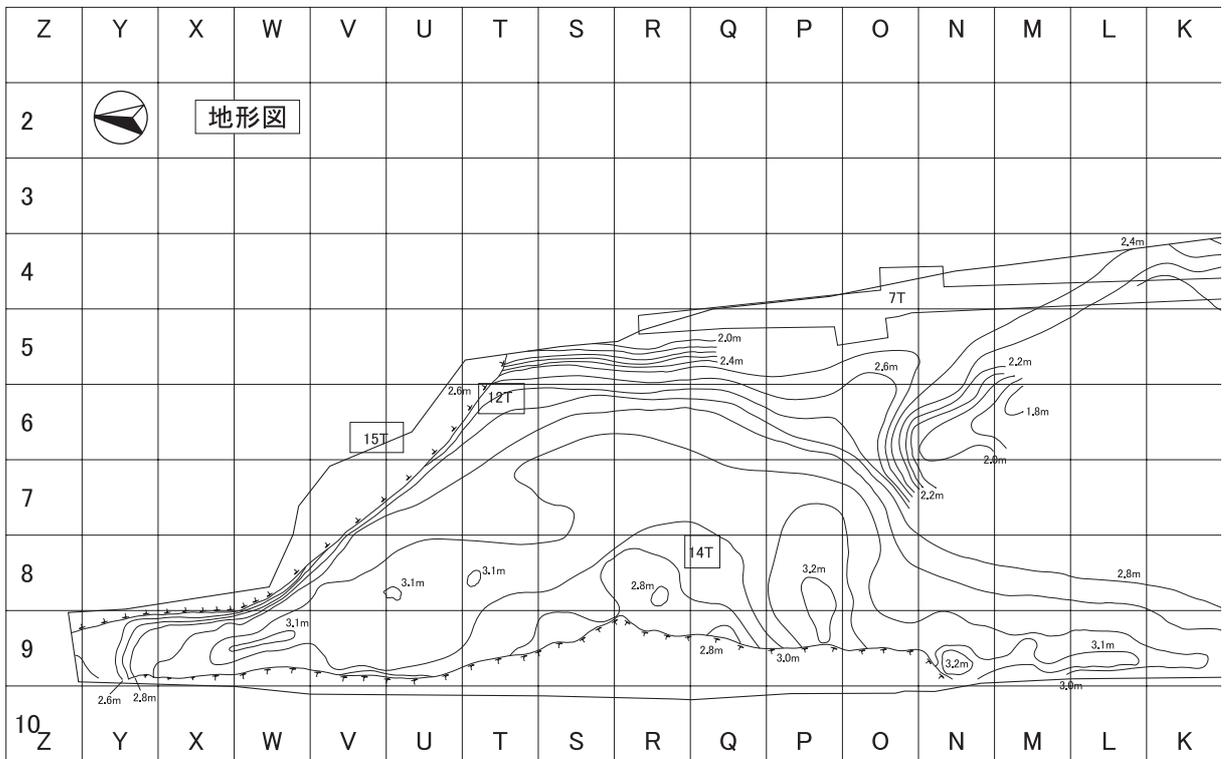
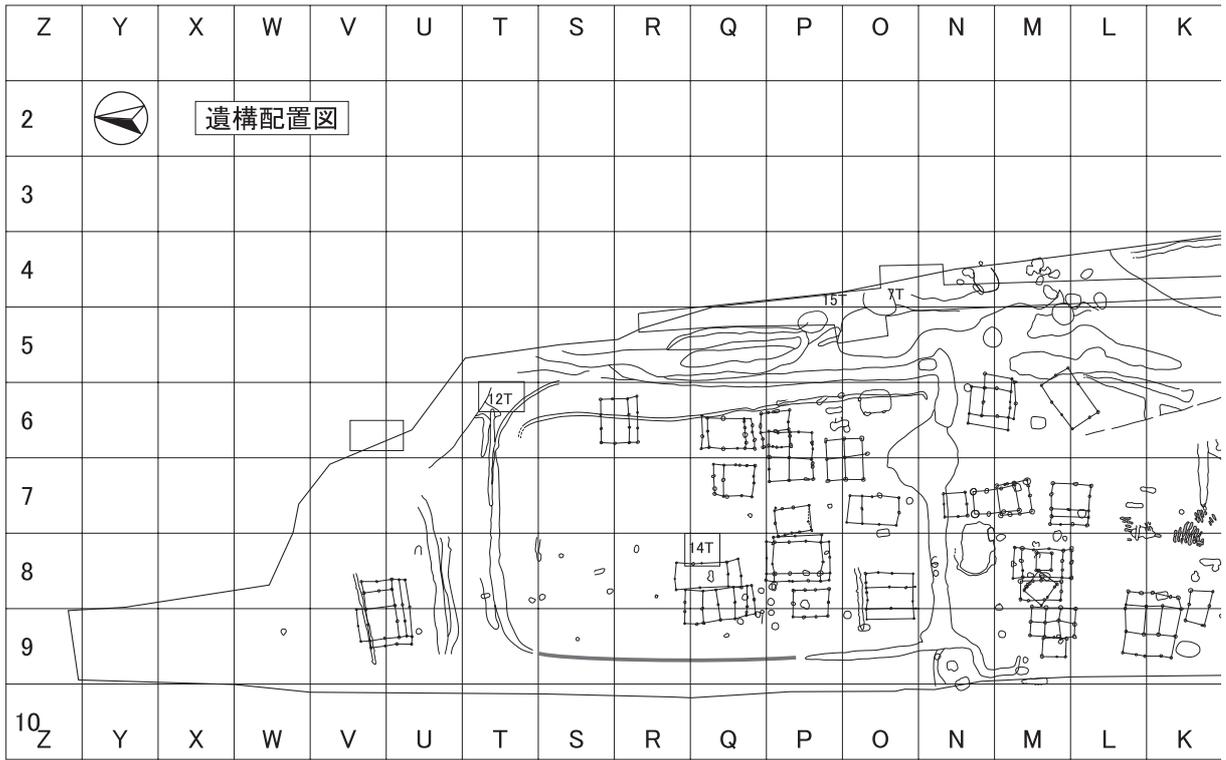
椀・皿

近世以降の陶磁器の器種・器形などの分類は、「江戸遺跡検出のやきもの分類」（新宿区四谷三丁目遺跡調査団1991），『九州陶磁の編年』（九州近世陶磁学会2000），『雪山・猿引遺跡』（鹿児島県立埋蔵文化財センター2003），『垂水・宮之城島津家屋敷跡』（鹿児島県立埋蔵

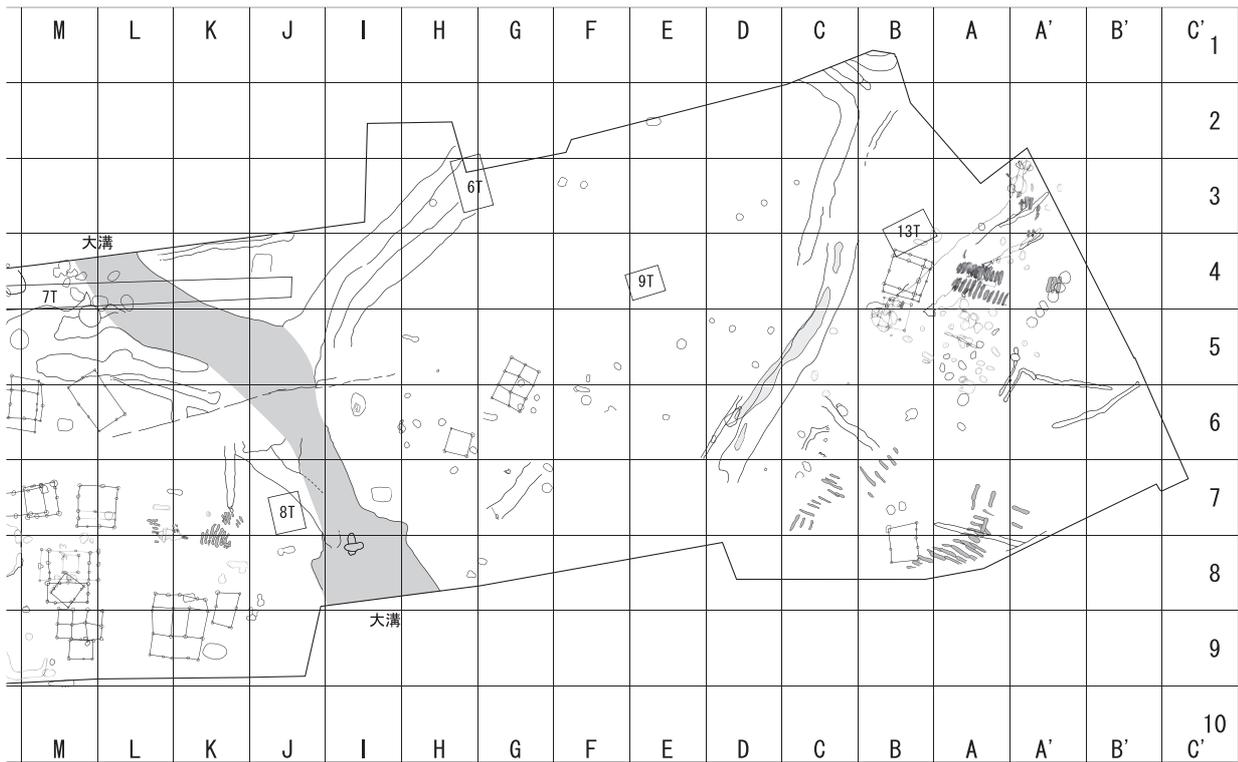
文化財センター 2003),『堂平窯跡』(鹿児島県立埋蔵文化財センター 2007)および「鹿児島県地域における16～19世紀の陶磁器出土様相」(橋口亘2002)等を参考にした。

参考文献

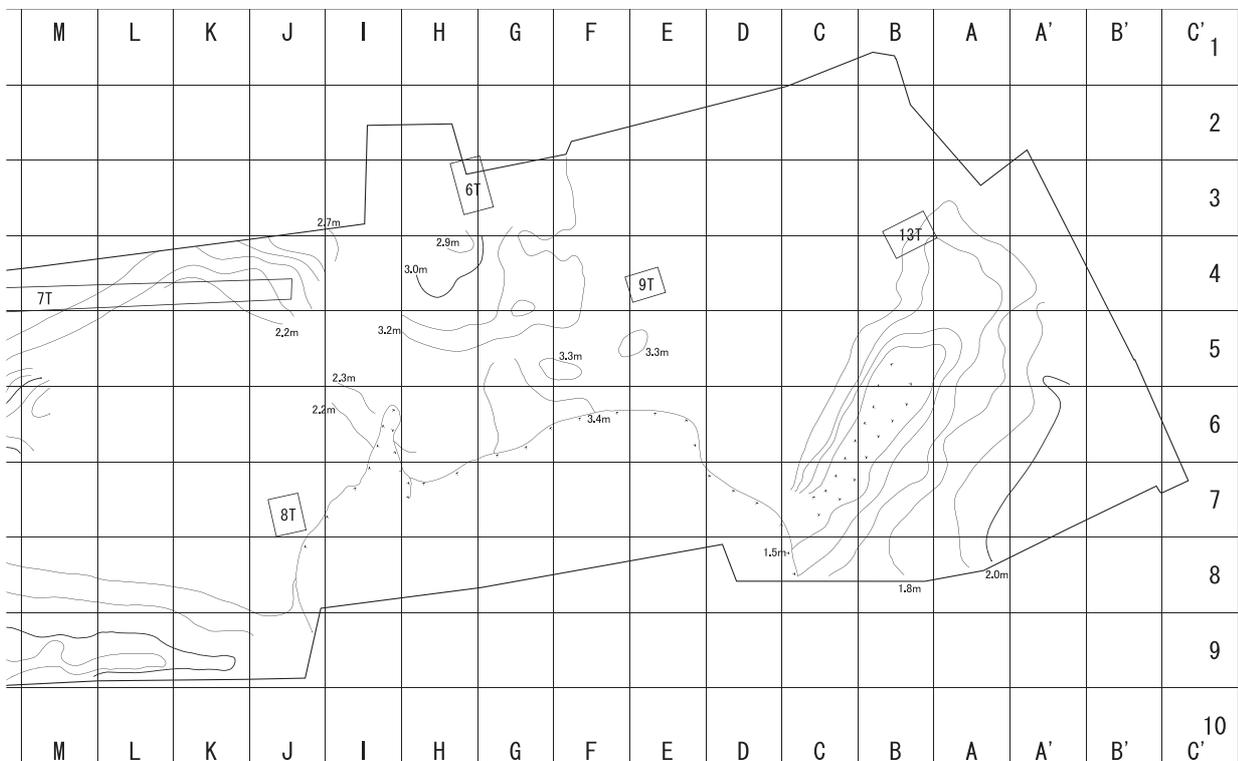
- 愛知県陶磁資料館2008『東アジアの海とシルクロードの拠点 福建 - 沈没船, 貿易都市, 陶磁器, 茶文化 -』(展示図録)
- 上田秀夫1982「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』2 日本貿易陶磁研究会 神奈川県鎌倉市
- 大橋康二1999「明末・清初における中国福建省徳化窯系磁器について」『大阪市文化財協会 研究紀要』第2号 財団法人大阪市文化財協会
- 沖縄県南城市教育委員会2006『佐敷上グスクほか範囲確認調査報告書 - 平成12年度から平成17年度までの調査報告 -』沖縄県南城市文化財調査報告書 第1集
- 小野正敏1982「15～16世紀の染付碗, 皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』2 日本貿易陶磁研究会
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2003『垂水・宮之城島津屋敷跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(48)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2003『雪山遺跡・猿引遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(53)
- 九州近世陶磁学会編2000『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会
- 重久淳一2004「鹿児島県内から出土したタイ, ベトナム系陶磁」『シンポジウム 陶磁器が語る交流 - 九州・沖縄から出土した東南アジア産陶磁器 -』東南アジア考古学会・九州国立博物館誘致推進本部・鹿児島大学埋蔵文化財調査室
- 新宿区四谷三丁目遺跡調査団1991『四谷三丁目遺跡』別冊「江戸遺跡検出のやきもの分類」新宿区四谷三丁目遺跡調査団
- 太宰府市教育委員会(山本信夫)2000『大宰府条坊跡 - 陶磁器分類編 -』太宰府市の文化財第49集 太宰府市教育委員会
- 中野晴久1994「常滑・渥美」中世土器研究会編『概説中世の土器・陶磁器』真陽社
- 中野晴久1995「生産地における編年について」永原慶二編『常滑焼と中世社会』小学館
- 中野晴久2005「常滑・渥美」『中世窯業の諸相 - 生産技術の展開と編年 -』資料集 全国シンポジウム「中世窯業の諸相 - 生産技術の展開と編年」実行委員会
- 乗岡実2005「備前」『中世窯業の諸相 - 生産技術の展開と編年 -』資料集 全国シンポジウム「中世窯業の諸相 - 生産技術の展開と編年」実行委員会
- 橋口亘2002「鹿児島県地域における16～19世紀の陶磁器出土様相 - 鹿児島県地域の近世陶磁器流通 -」『鹿児島地域史研究』2 鹿児島地域史研究会(南日本文化財研究会編2006『南日本文化財研究』2に再録)
- 橋口亘2006「補遺: 鹿児島県地域における16～19世紀の陶磁器出土様相 - 鹿児島県地域の近世陶磁器流通 -」『鹿児島地域史研究』3 鹿児島地域史研究会
- 森田勉1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』2 日本貿易陶磁研究会
- 森村健一2002「15～17世紀における東南アジア陶磁器からみた陶磁の日本文化史」『国立歴史民俗博物館研究報告』第94集
- 森村健一2004「堺から出土したタイ, ベトナム系陶磁」『シンポジウム 陶磁器が語る交流 - 九州・沖縄から出土した東南アジア産陶磁器 -』東南アジア考古学会・九州国立博物館誘致推進本部・鹿児島大学埋蔵文化財調査室
- 森村健一2005「14・15世紀の龍泉窯系青磁碗 - 編年と堺貿易システム -」産業社会学会誌『産業・社会・人間』産業社会学会(羽衣国際大学)
- 山本信夫1983「土器の分類」『大宰府条坊跡』太宰府市の文化財第7集 太宰府市教育委員会
- 山本信夫1984「土器分類の追加」『大宰府条坊跡』太宰府市の文化財第8集 太宰府市教育委員会
- 山本信夫1985「日本における初期高麗青磁について - 大宰府出土例を中心として -」『貿易陶磁研究』5 日本貿易陶磁研究会
- 山本信夫・山本麻里子2007「山陰の出土貿易陶磁と傾向 - 山陰における消費形態及び北部九州と日本海流通に関する基礎的検討」『波原遺跡・森広遺跡・片山遺跡』下関市文化財調査報告書(25) 山口県下関市教育委員会
- 横田賢次郎・森田勉1978「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』4 九州歴史資料館



第136図 中・近世の遺構配置図・地形図（左）



(1グリッド10m×10m)



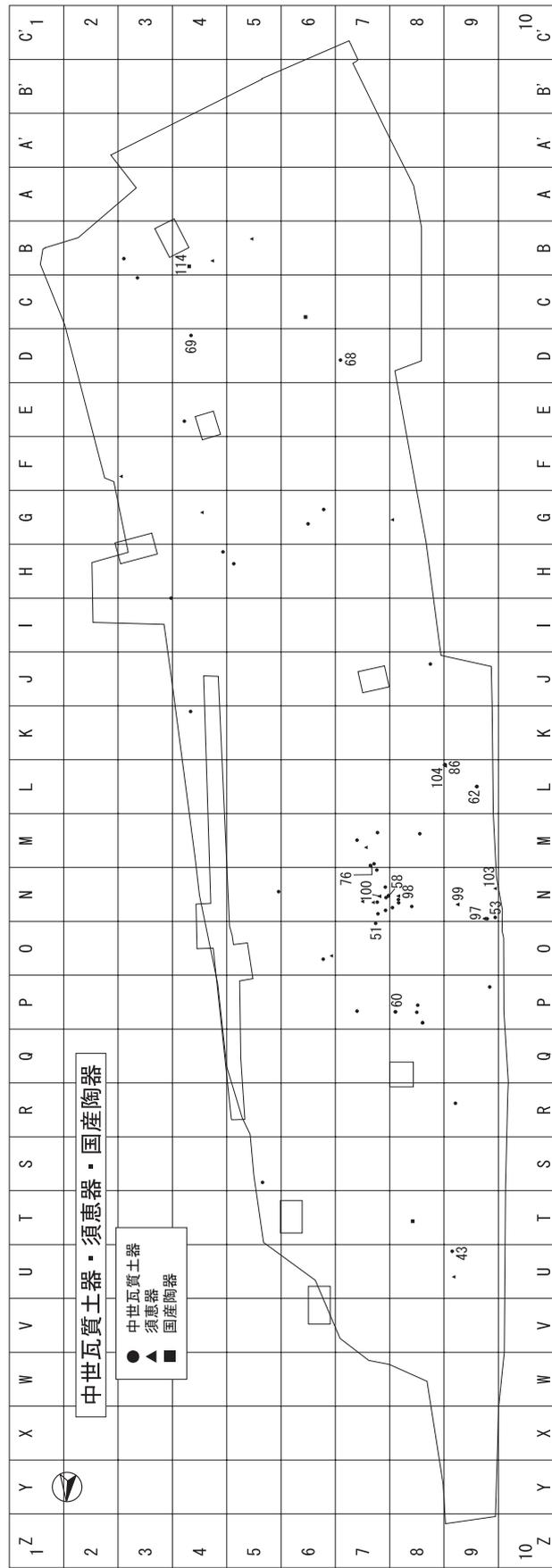
(1グリッド10m×10m)

第137図 中・近世の遺構配置図・地形図(右)



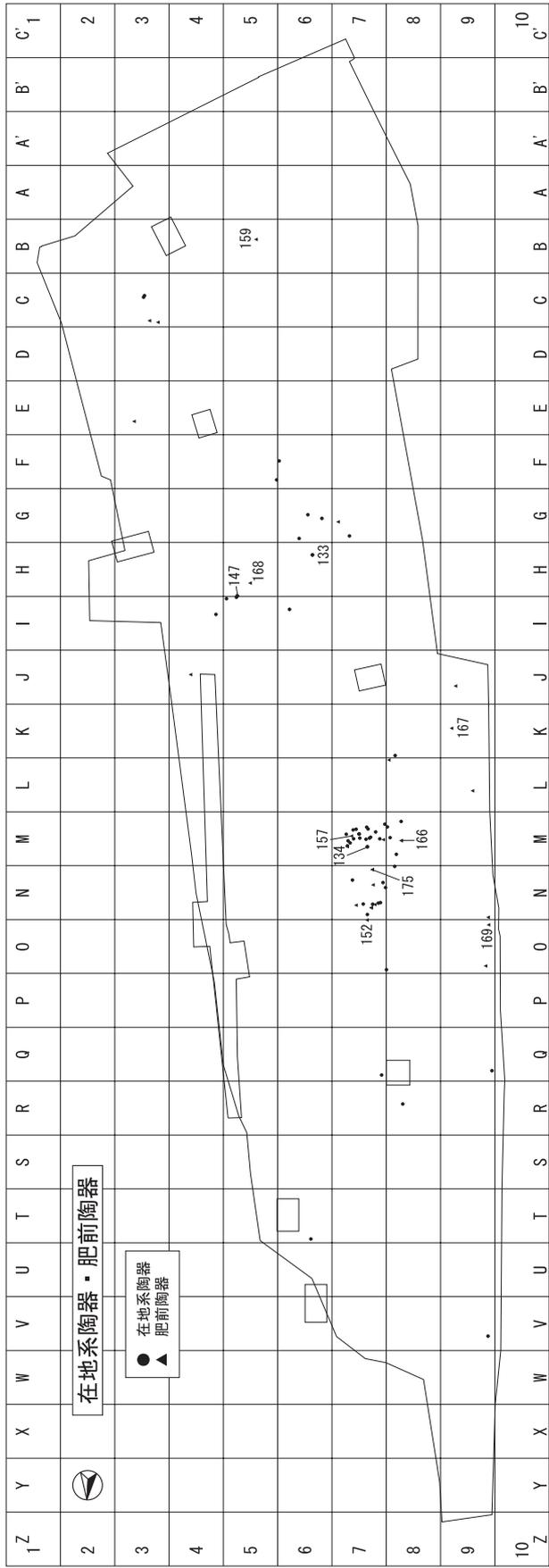
(1グリッド 10m×10m)

第138図 遺物出土状況図(1)全点ドット

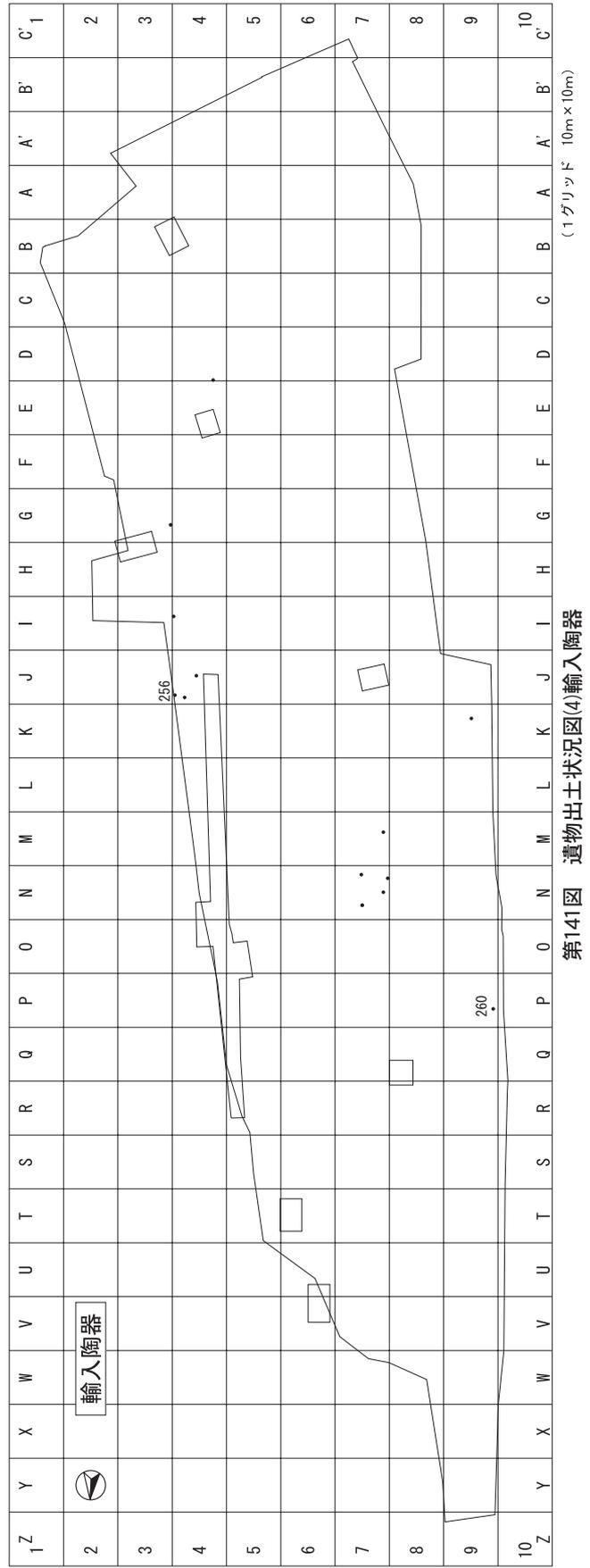


(1グリッド 10m×10m)

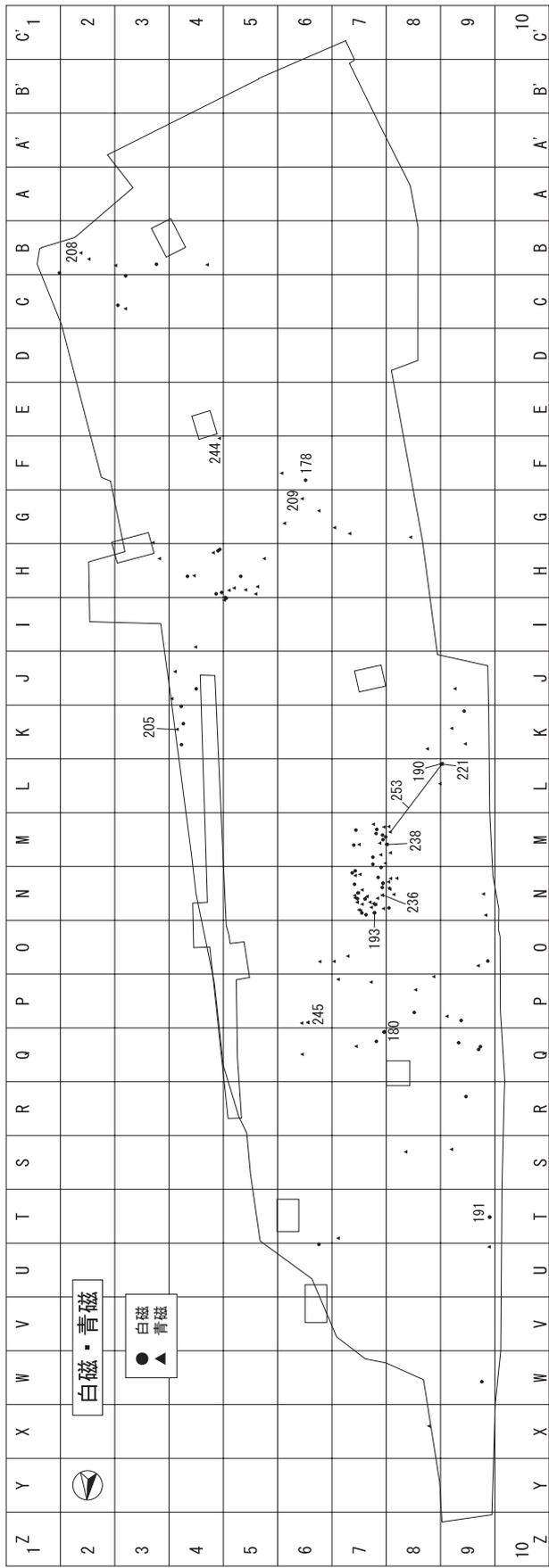
第139図 遺物出土状況図(2)中世瓦質土器・須恵器・国産陶器



第140図 遺物出土状況図(3)在地系陶器・肥前系陶器

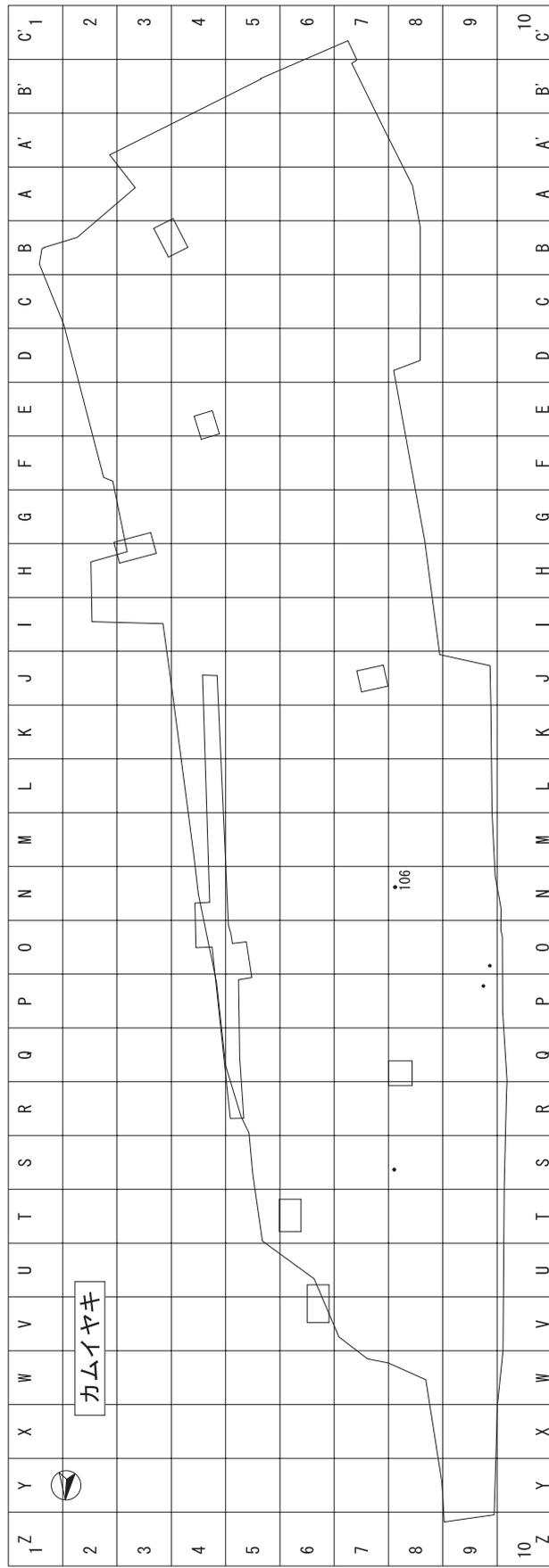


第141図 遺物出土状況図(4)輸入陶器



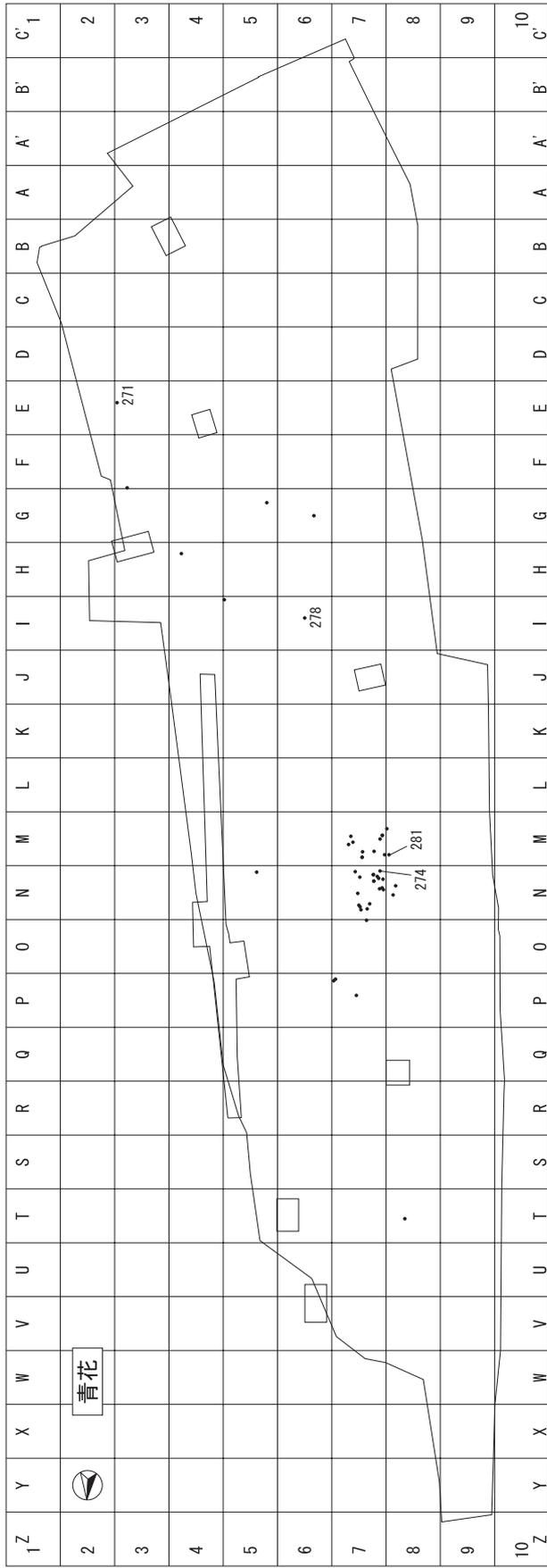
第142図 遺物出土状況図(5)白磁・青磁

(1グリッド 10m×10m)



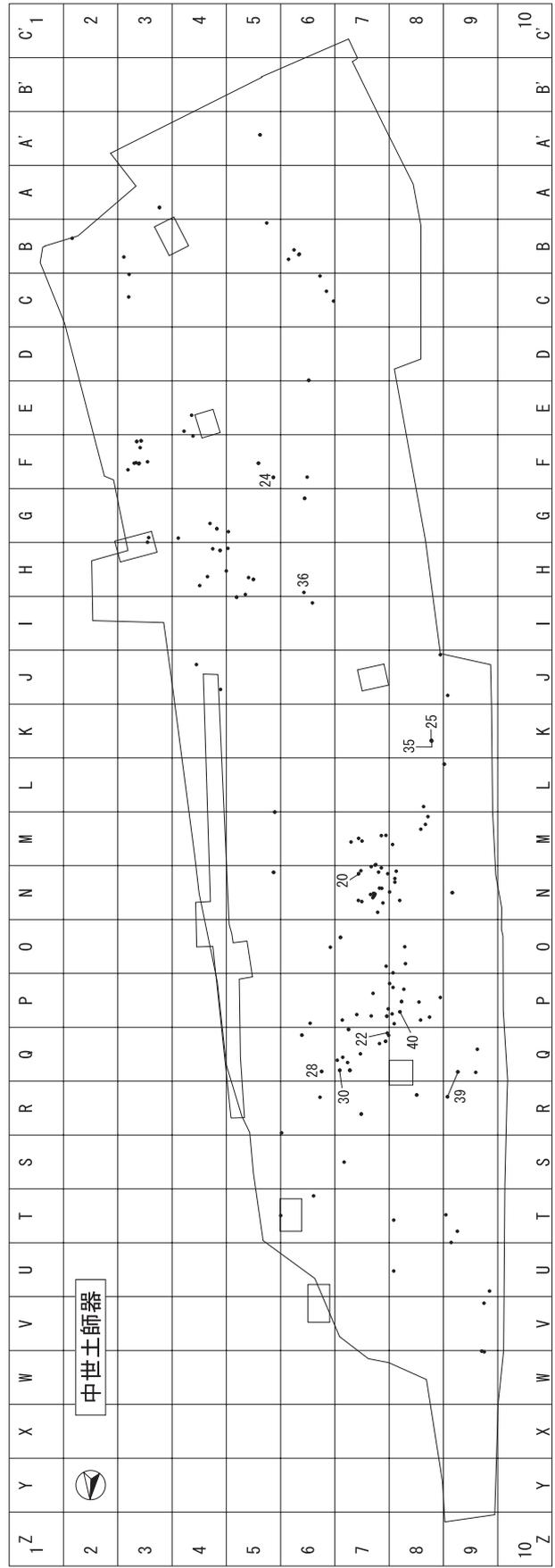
第143図 遺物出土状況図(6)カムイヤキ

(1グリッド 10m×10m)



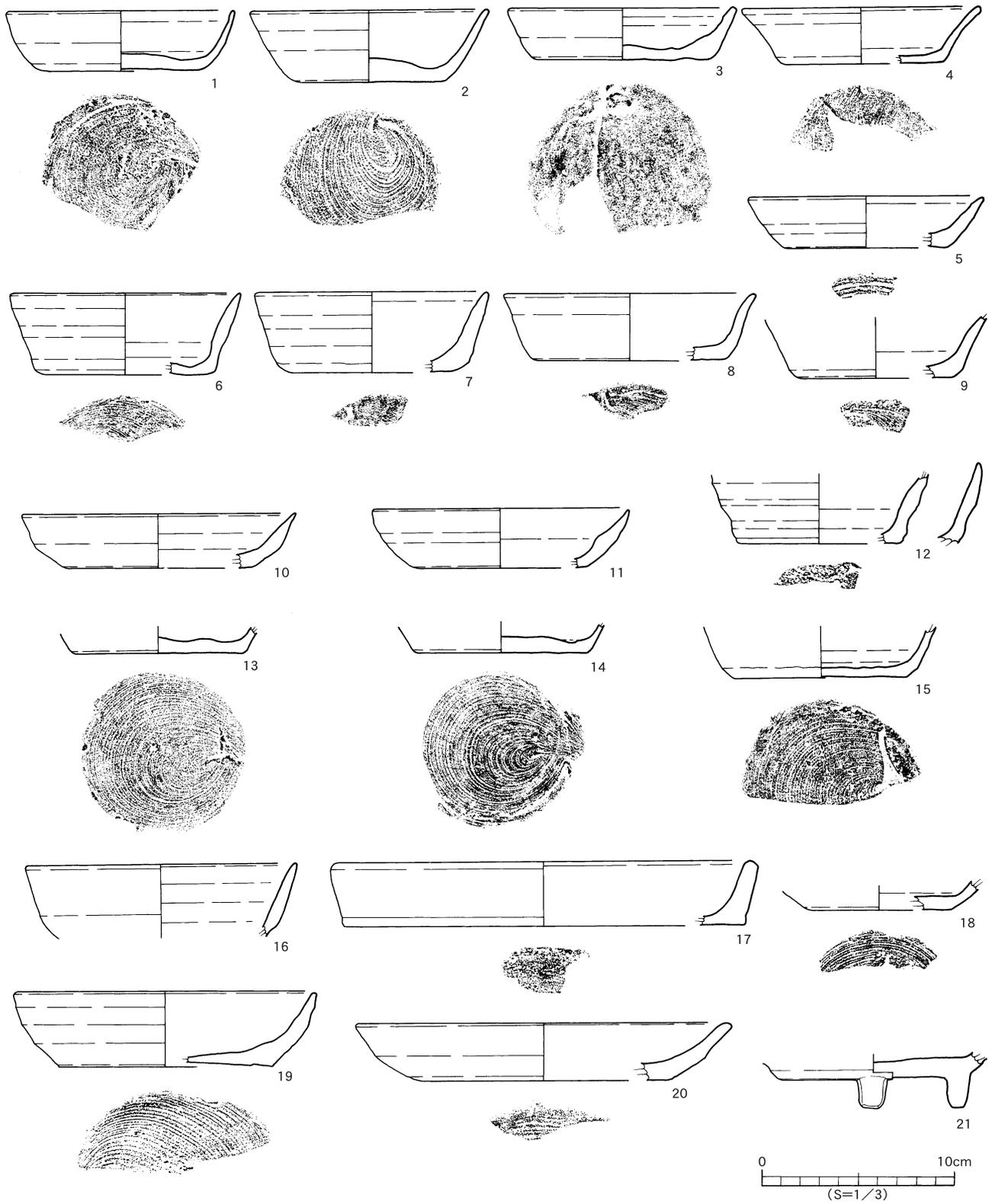
第144図 遺物出土状況図(7)青花

(1グリッド 10m×10m)

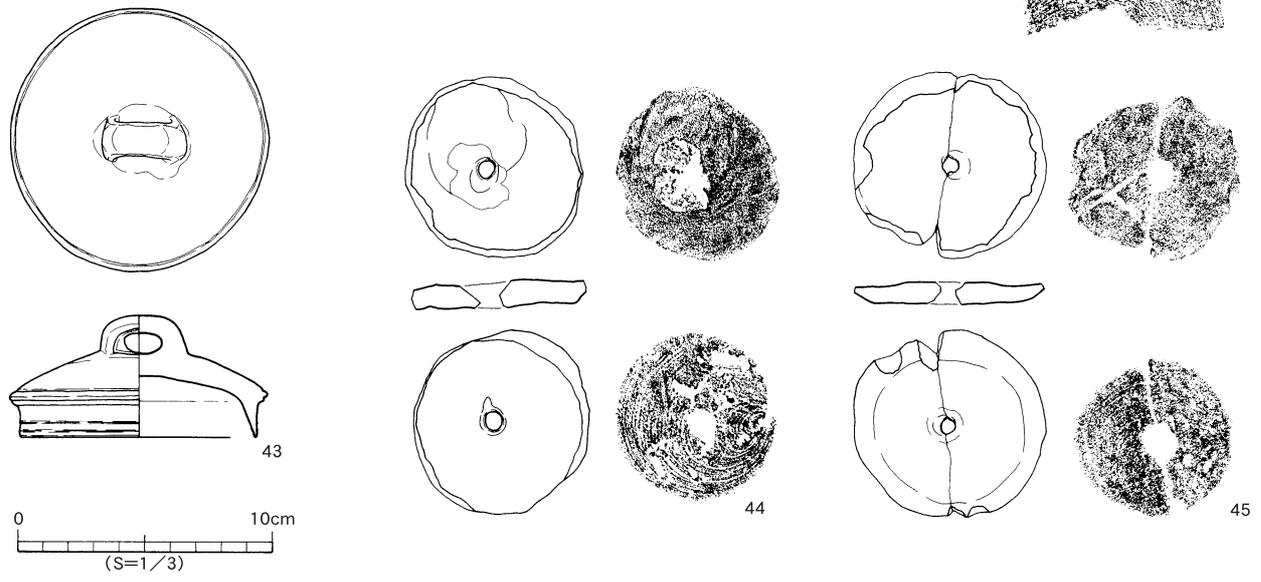
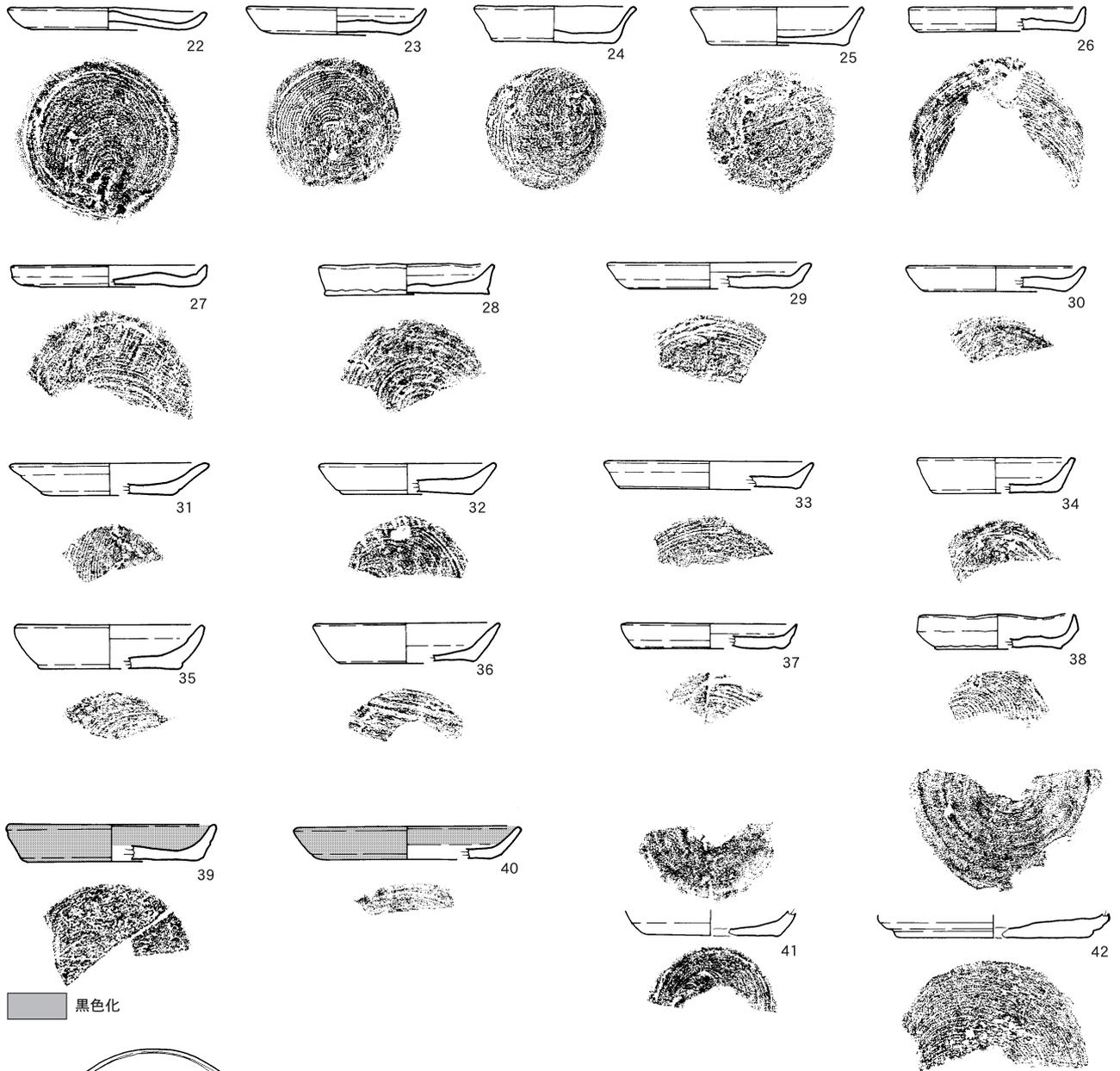


第145図 遺物出土状況図(8)中世土師器

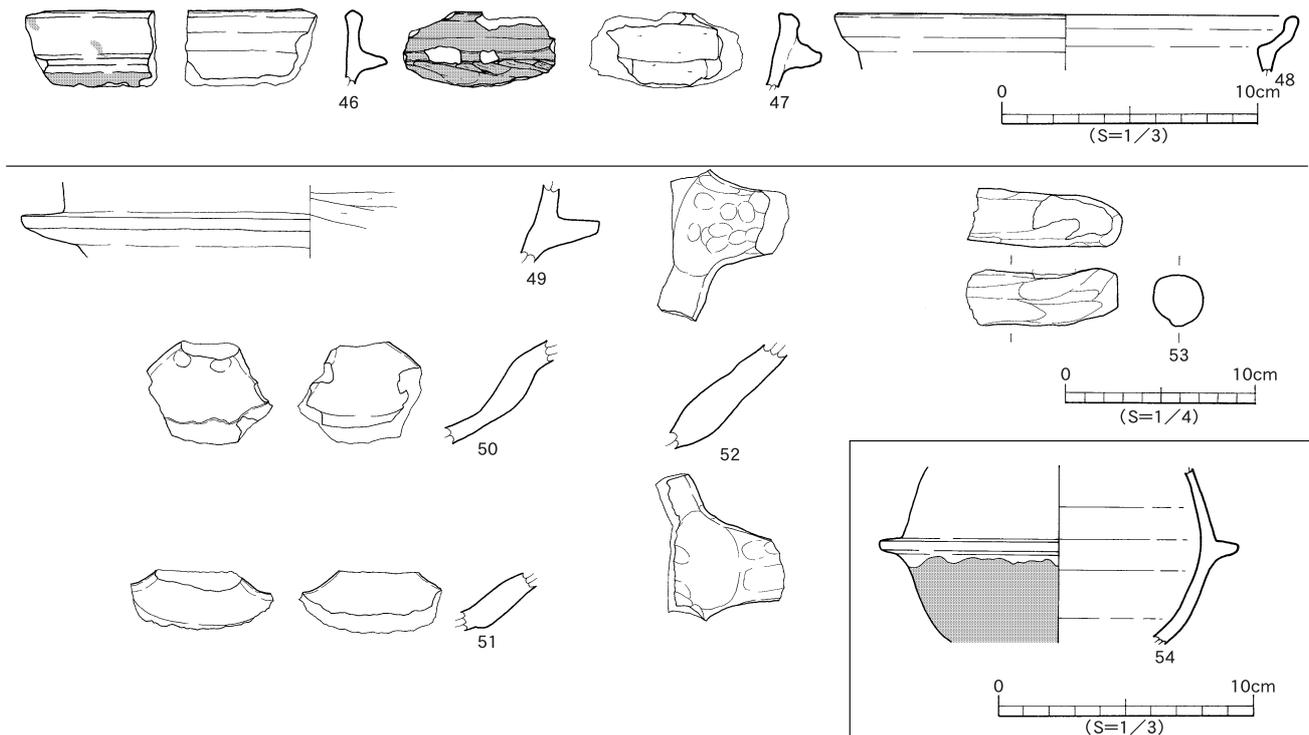
(1グリッド 10m×10m)



第146図 中近世遺物実測図(1)土師器①



第147図 中近世遺物実測図(2)土師器②



第148図 中近世遺物実測図(3)瓦質土器①・煮炊具

第2節 遺物の出土状況

遺物の出土状況は第138図～第145図に示した。一般遺物として、グリッド一括で取り上げたものが多いため、ドットは多くはないが出土の傾向はある程度示すことができた。

全体ドット図(第138図)では、M・N-7・8区にドットの集中がみられるが、この部分は周辺から窪んでいたところであるので一次的な遺物のあり方ではない可能性もある。第139図～第145図では、遺物をいくつかの類別ごとに示した。類須恵器(カムイヤキ)がごく少数の出土である(第143図)以外は、全体ドットと同様にM・N-7・8区にドットの集中がみられる。

ただし、土師器については、まばらではあるものの、ほぼ調査区全域といえる範囲から出土している。

これらの出土範囲は、多数発見された土坑・溝状遺構などに規制されているので、本来は遺跡全域に遺物が散布されていた可能性もある。

第3節 遺物

土師器(第146・147図)

1～45は土師器である。坏・小皿・蓋などがある。

・坏(第146図1～13・18・19)

1～13・18・19は土師器の坏である。底部が残っていないものもあるが、残っている物はすべて糸切底である。6・7・12のように底径と比較して器高が高いものも若

干あるが、多くは皿に近いような形態を持つ。

6と12については、類似しているので同一個体の可能性も考えられる。仮に同一個体であるとすると、上面観が非常にいびつな形態をしたものである。

13～15は底部を一括した。この中で、15は体部の底部付近をヘラ削りするものである。

・小皿(第146図22～40)

22～41は小皿である。いずれも底部の糸切痕が明瞭である。器高の低いもの(22・23・26・27・29・30・33・37)と、やや器高のあるもの(24・25・34～36)、中間的なもの(28・31・32・38)がある。

39・40は黒色土器B類の小皿である。内外面ともに黒色である。

・その他(第146・147図)

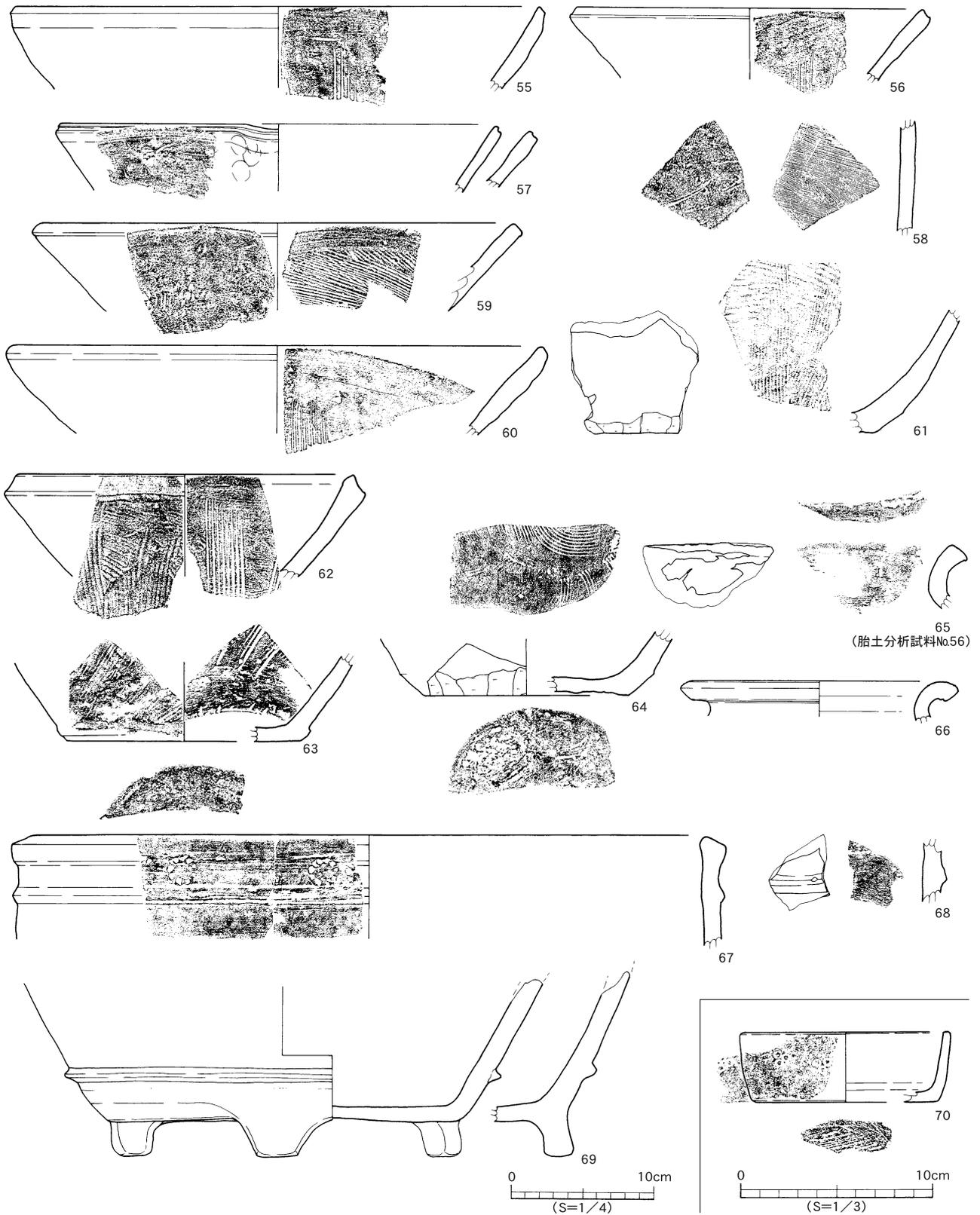
17は盤もしくは、鉢などの大型品の口縁部である可能性がある。ここでは土師器としたが、瓦質土器の可能性も高い。

20は、残存部分が少ないので不明瞭な点も多いが皿とした。やや大ぶりの皿である。

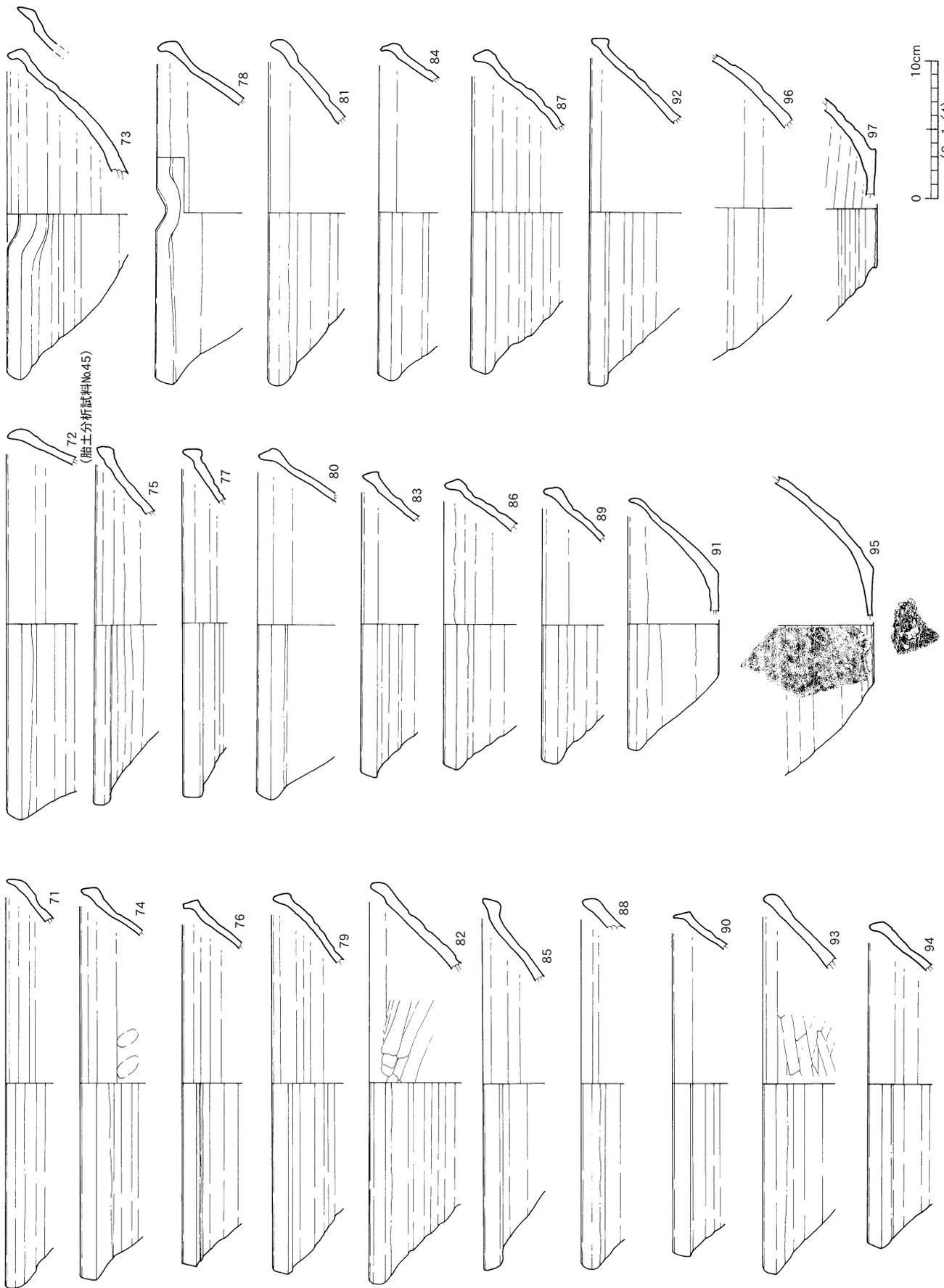
21は、脚付の鉢である。これも残存部分が少ないので不明瞭な点が多い。

43は蓋である。ほぼ完全なもので、上部に把手がつく。

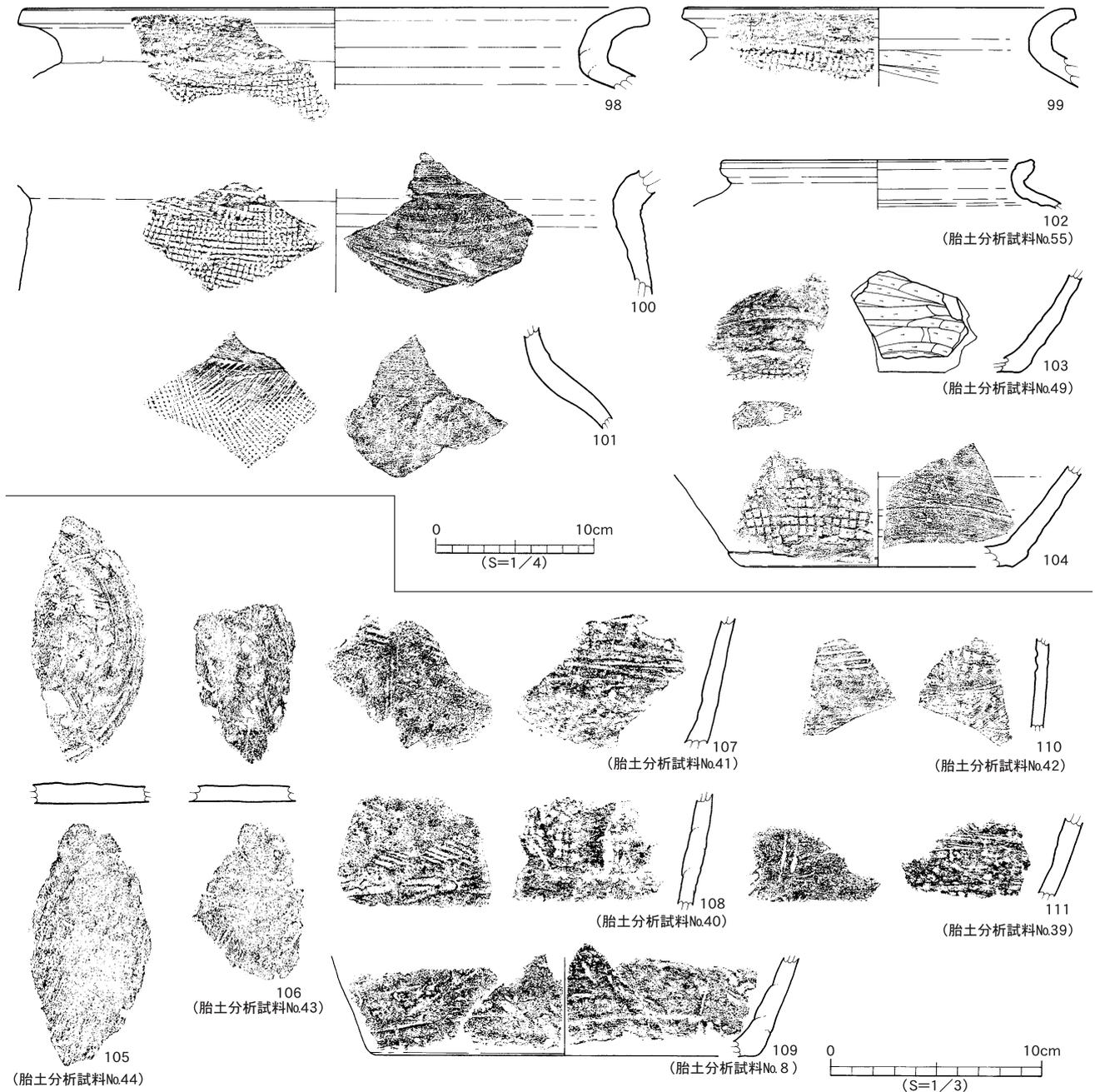
44・45は土師器坏の底部を転用した紡錘車である。41と42も転用紡錘車の可能性があるが、明確ではない。ここでは参考資料としたい。



第149図 中近世遺物実測図(4)瓦質土器②



第150図 中近世遺物実測図(5)東播磨系須恵器鉢



第151図 中近世遺物実測図(6)中世須恵器・カムイヤキ

瓦質土器 (第149図55~70)

46~52は、煮炊具である。46・47・49は、羽釜である。外面には煤が付着する。48は、二重口縁状のものであるが、風化が著しい。鍋である可能性がある。50~52は、フライパン形のホウロクと考えられる。いずれも板状の把手を持つものである。53は、ケズリが施された棒状の製品の一部である。フライパン形のホウロクの把手の可能性もある。

55~64は播鉢である。この中で58はハケメのみであるが播鉢の可能性のあるものとしてここで取り上げた。

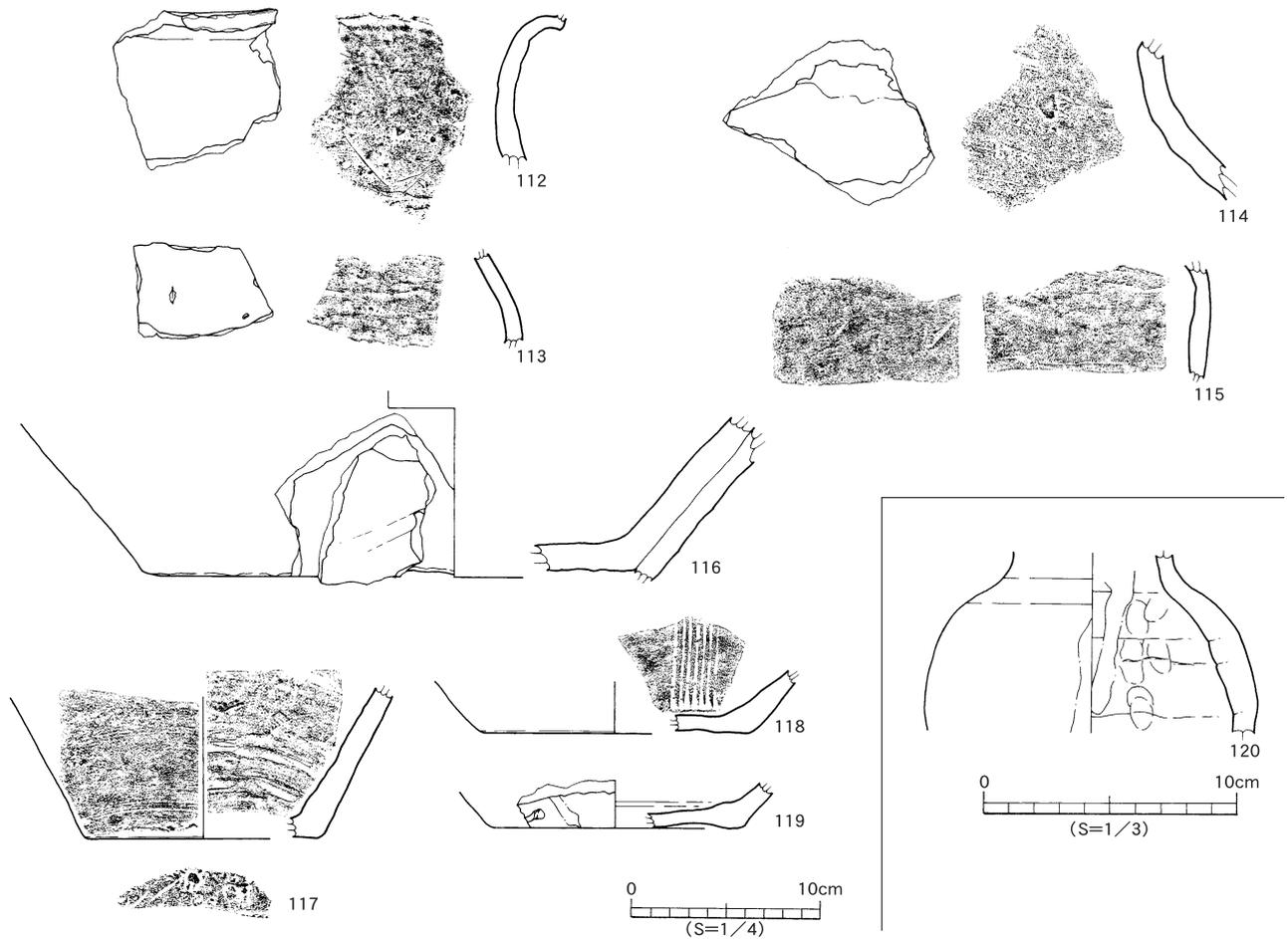
スリメが縦方向のみにつけられるもの(55・56・60), 斜め方向につけられるもの(59・63), ハケメが施され

た後に縦方向にスリメがつけられるもの(61・62)などがある。また、64は底部付近のみであるが、底部見込みに弧を描くようにスリメがつけられている。57は、風化のためスリメが観察できない。

65・66は甕もしくは壺である。いずれも外反する口縁部を持つ。

67・69は火鉢である。67は口縁部の外面に二条の突帯を巡らし、その間に点が環状に巡るスタンプが数箇所押される。68も小破片であるが、火鉢の一部であった可能性がある。

70は鉢もしくは坏であると考えられる。外面には三個の円を一単位としたスタンプが数箇所に押される。



第152図 中近世遺物実測図(7)国産陶器

須恵器 (第150図71～第151図109)

71～97・101は東播磨系の須恵器である。そのうち71～101は片口鉢で、101は甕である。また、98～100・102～104は樺万丈産の須恵器に類似するものである。

71～97は東播磨系の須恵器片口鉢である。いずれも口縁部外面には自然釉によるものとみられる黒色化がみられる。この中で、特にガラス質の自然釉がかかるのは75・76・78・86・87・90・92・94である。また、72・74・80～82・84・88・93は口縁部外面が燻されたように黒色化する。

また、断面で粘土を観察すると、赤色と白色の互層になっているものや、内面に自然釉がかかっているものもみられる。

101は東播磨系須恵器の甕である。外面に格子目状のタタキが矢羽根状(あるいは綾杉状)に丁寧に施される。

98～100・104は、樺万丈(樺番城)系の須恵器である。いずれも甕であり、外面には格子目のタタキが、内面にはヘラケズリがみられる。ただし、99は壺の可能性もある。

102・103は産地不明の中世須恵器である。中世ではなく古代の須恵器の可能性もあるが、内面のアテ具痕がな

いことから中世の須恵器とした。

類須恵器(カムイヤキ)(第151図105～111)

12点出土し、7点について図化した。いずれも甕もしくは壺であると考えられる。

107～111は胴部である。内面には、輪詰み痕と格子目状の当て具痕が残る。

105・106・109は底部である。105・106には、回転してナデを行った痕跡が残る。

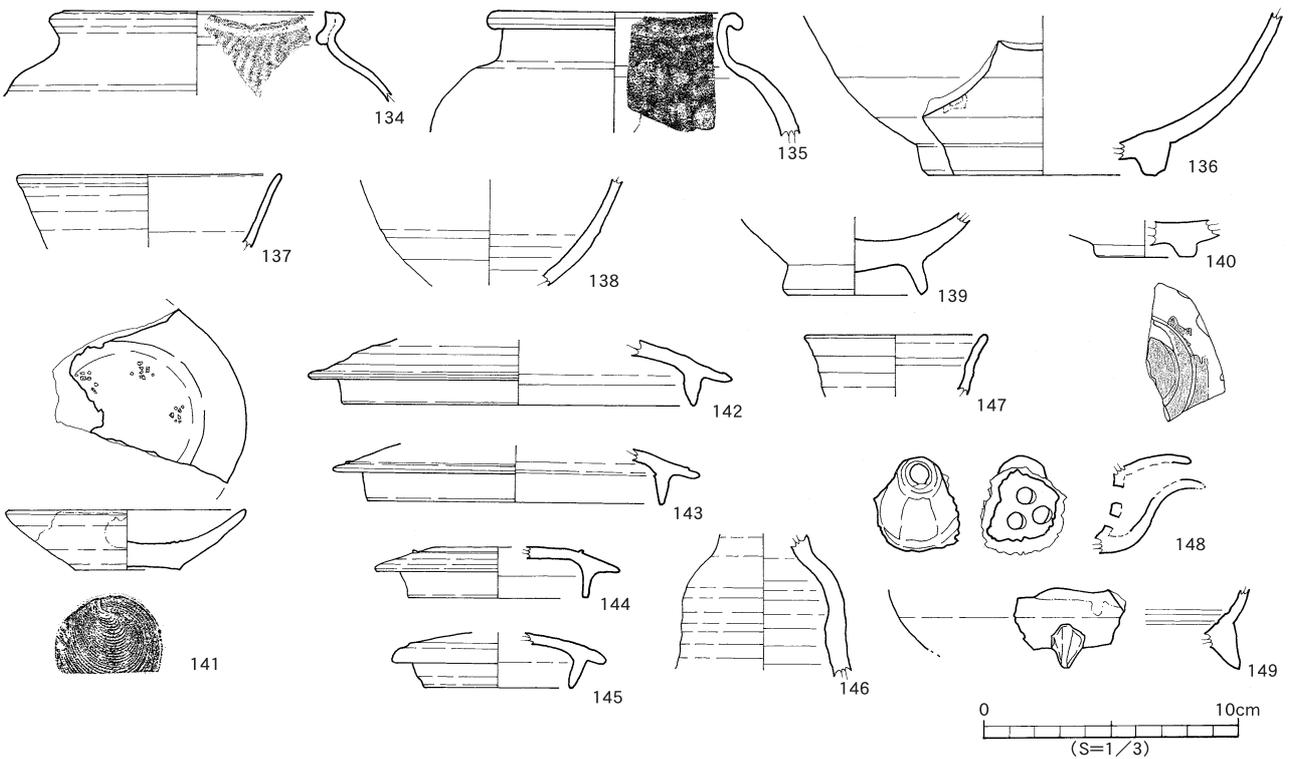
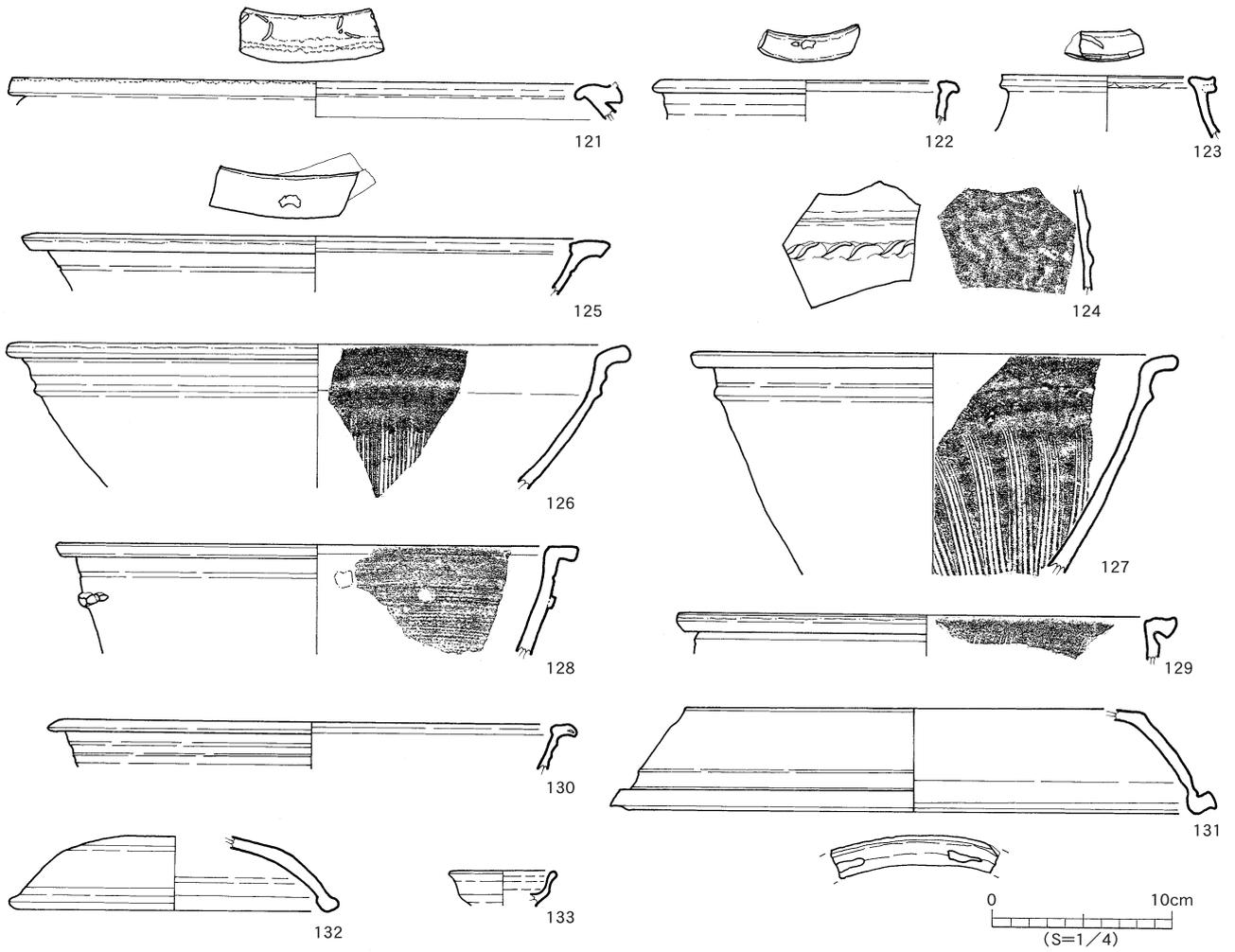
国産陶器(第152図)

在地産でないものを一括した。常滑・備前・瀬戸で生産されたものが含まれる。

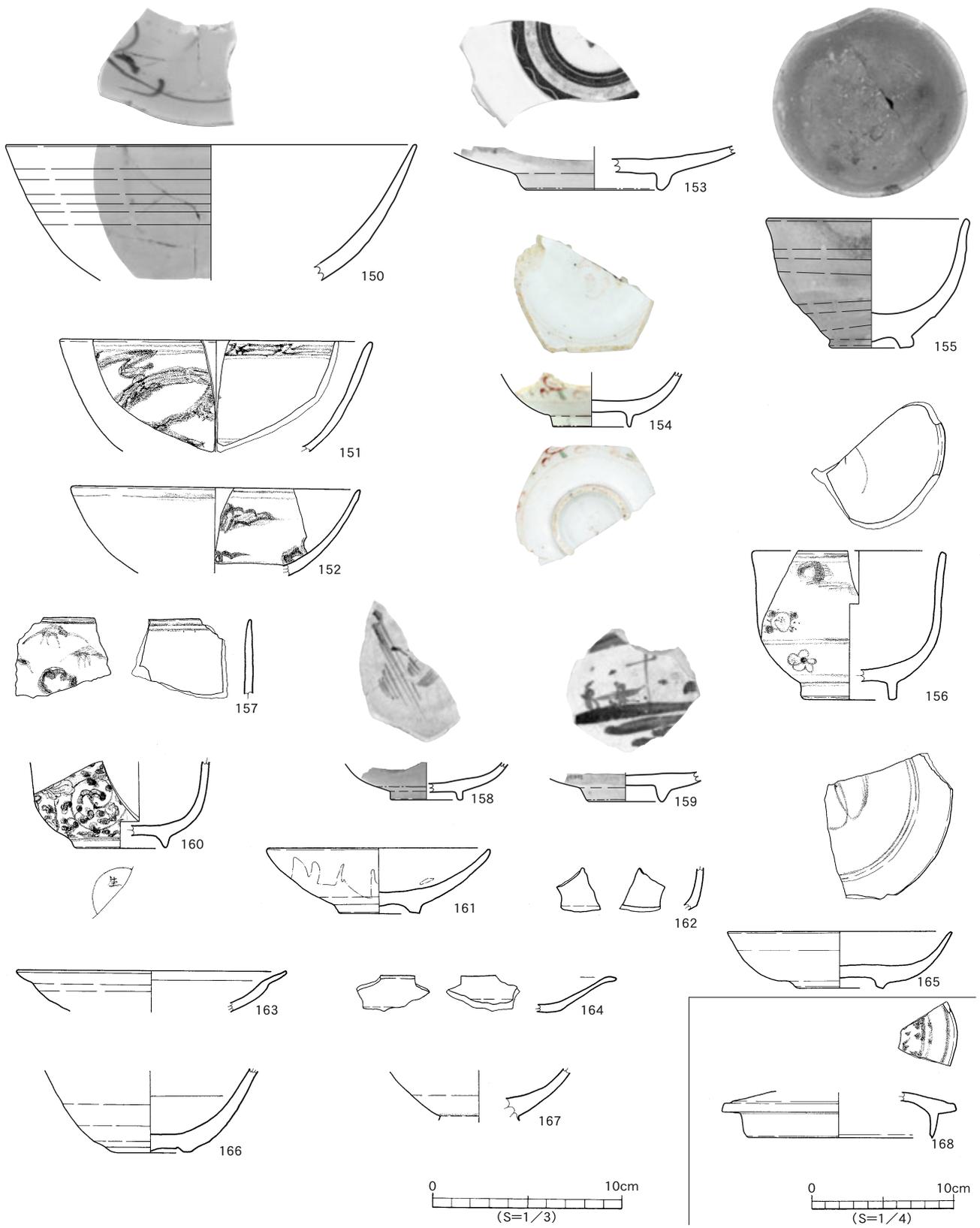
112～115は常滑産の甕である。口縁部がやや厚手で、先端が斜め上方につまみ上げられて縁帯を意識した成形を行っている。ただし、口縁部の屈曲部の根本付近から欠損している。常滑・渥美編年で4型式に該当し、12C末～13C初頭とされるものである(中野1994・2005)。

116～119は備前産である。116は甕の底部である。119は壺、118は搦鉢で、117は鉢の可能性もある。

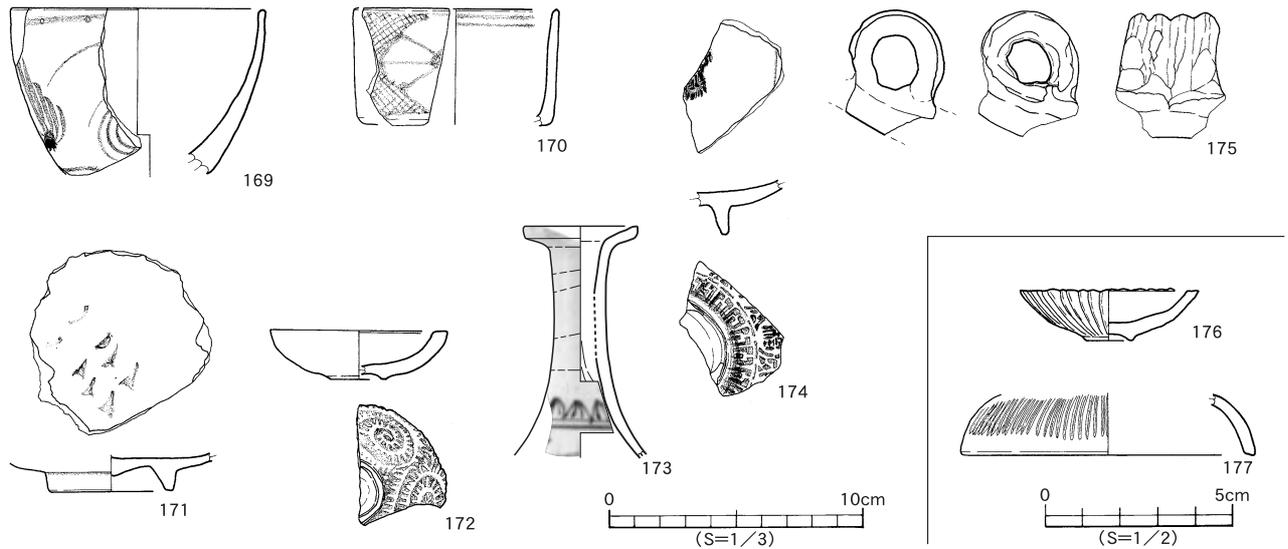
120は、瀬戸産の壺である。内面には輪積みの痕跡が



第153図 中近世遺物実測図(8)在地系陶器 (薩摩焼)



第154図 中近世遺物実測図(9)肥前系陶器①



第155図 中近世遺物実測図(10)肥前系陶器②・その他の国産陶器

明瞭に残り、指オサエと釉ダレがみられる。

薩摩焼（第153図）

121・122・123は、甕の口縁部の資料である。口縁部は、先端を外側に折り、さらに内側に折り返して肥厚させ丸くおさめ、「T」字状の形状をつくる。

121・123は、口唇部の内側を高くし外側を溝縁状にするタイプのものである。121は、口唇部内縁が内側に伸びるものである。内面口縁部下位には、同心円状のアテ具痕が残る。口唇部の釉は拭き取られ、貝目が残る。122の口縁部は、端部で外側に折り、さらに内側に折り返しておさめるため、「T」字状を呈する。内面口縁部下位には同心円状のアテ具痕が残る。口唇部の釉は拭き取られ、胎土詰貝目が残る。123は、外面にナデ調整による横筋が看取される。内面には、ヘラ状工具による調整痕が残る。口唇部の釉は拭き取られ、貝目が残る。

124は、甕の胴部の資料である。肩部に貼り付けの縄状の突帯を有し、その突帯の上位に1条の突帯を有するものである。縄状の突帯の下には、貼り付けあとのナデ調整による横筋が看取される。内面にはタタキ成形による同心円状のアテ具痕が残る。

126・127・129は、挿鉢である。器形は、「逆八」の字状にひらく。口縁部は外側に折り返して肥厚させ、2条の突帯をつくる。口縁端部がわずかに外反する。126は、口縁部や口唇部にナデ調整の痕が残る。内面口縁部下位に、下位から上位に向けて施したスリ目を同じような高さにするために指でナデ消した痕が看取できる。127は、内面にタタキ成形によるアテ具痕が残り、外面には板条のタタキ目が残る。深い播り目を下位から上位に向けて施す。129はの口唇部は、ほぼ平坦につくる。内面口縁部下位には、下方から上方へ施した播り目をナデ消した

痕跡が看取される。

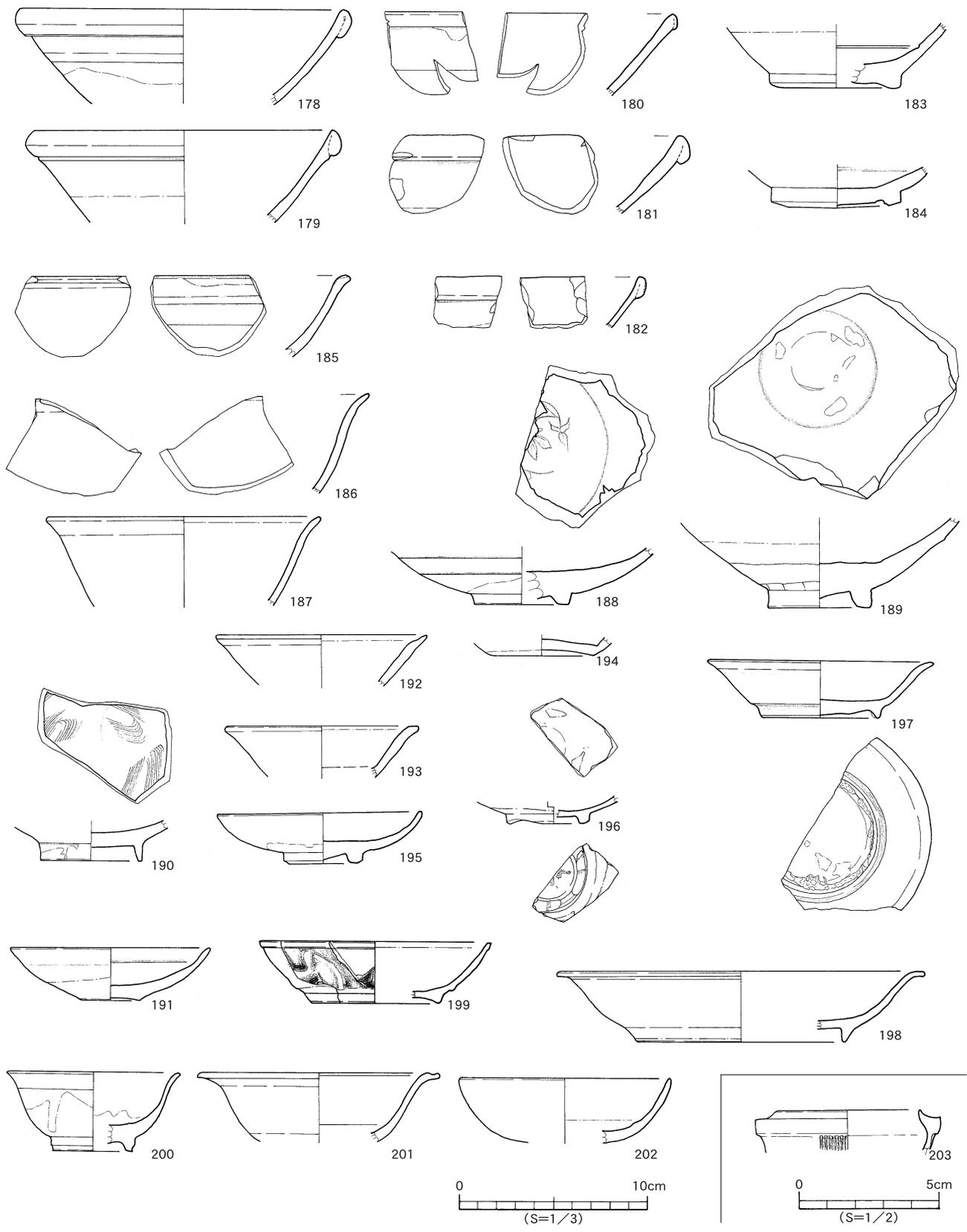
125・128は、口縁部が逆「L」字状を呈する鉢である。125は、大形の蓋である。口唇部は、ほぼ平坦につくる。外面口縁部下位に、1条の溝が巡っている。口唇部の釉は拭き取られ、胎土詰貝目が残る。128は、内外面にナデ調整の横筋が看取される。外面には波状の突起が貼り付けてある。また、内面口縁部下位に、波状の突起を貼り付ける際に付いたと思われる指圧痕が残る。口唇部内縁を除き施釉されている。

130は、鉢の口縁部である。端部を内側に折り返し口唇部をやや丸くおさめる。外面口縁部下位に細い2条の突帯が巡る。内面にタタキ成形による同心円状のアテ具痕が残る。口唇部には、重ね焼きの際に付いた他製品の釉が付着している。

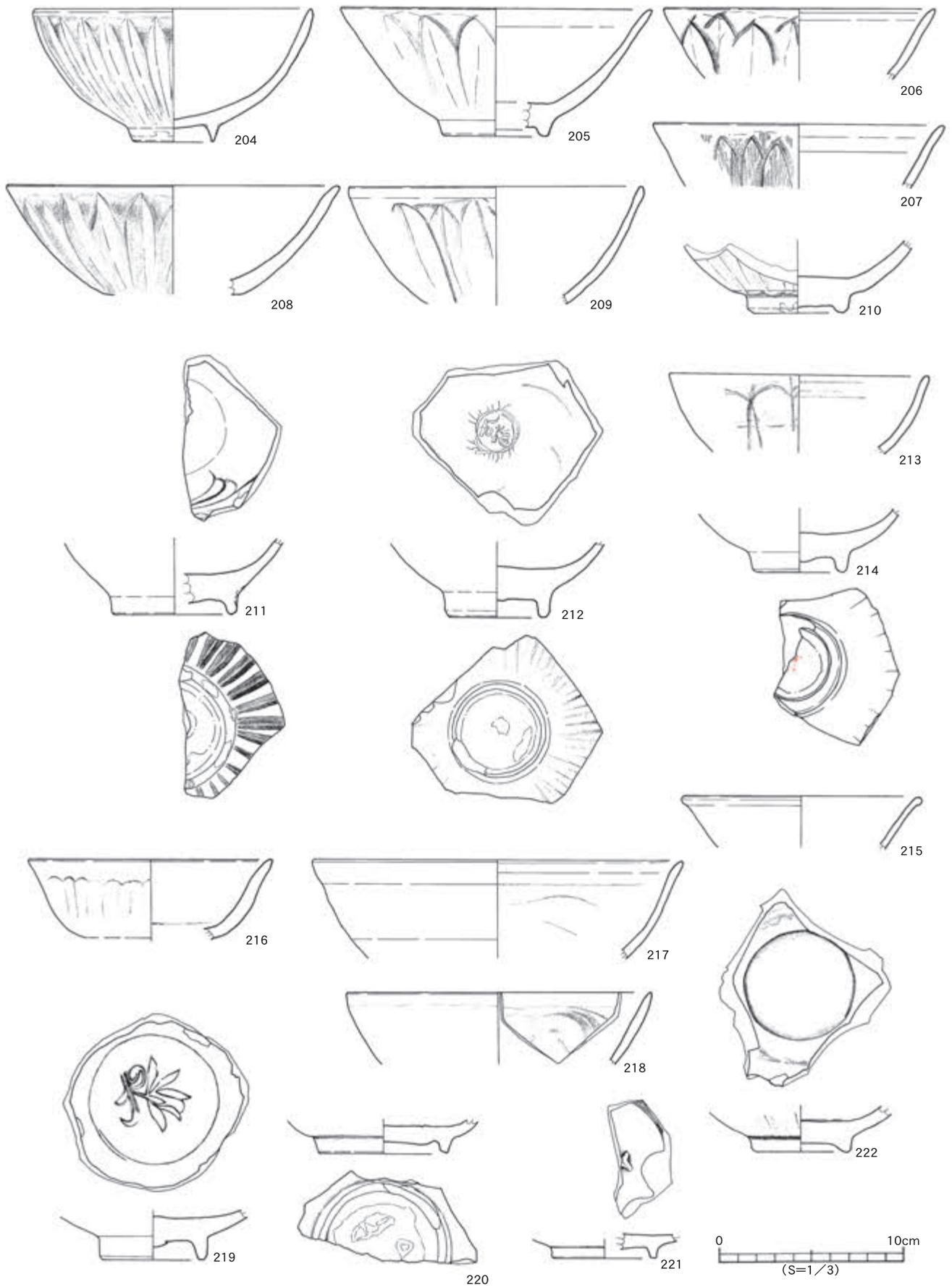
131・132は、蓋である。器形は浅鉢形であり、甕や壺に被せて使用したとみられる。口縁部を外反させ、さらに内側に折り返して肥厚させ、内側を丸くおさめている。口唇部は、内側が高く外側を溝縁状にするもので、貝目が残る。132は、内外面にヘラ状工具による調整痕が残る。

133・146は、瓶である。133は、口縁部の資料である。口縁部は端部を丸くおさめ、やや外反させている。内外面にヘラ状工具による調整の痕が残る。瓶の口縁部としたが他の器種の可能性も考えられる。一般の薩摩焼の胎土とは異なるので、薩摩焼ではない可能性もある。146は、頸部から胴部の資料であり、頸部で大きくくびれている。内外面に、ヘラ状工具による調整痕が看取される。内外面に飴釉が施釉される。

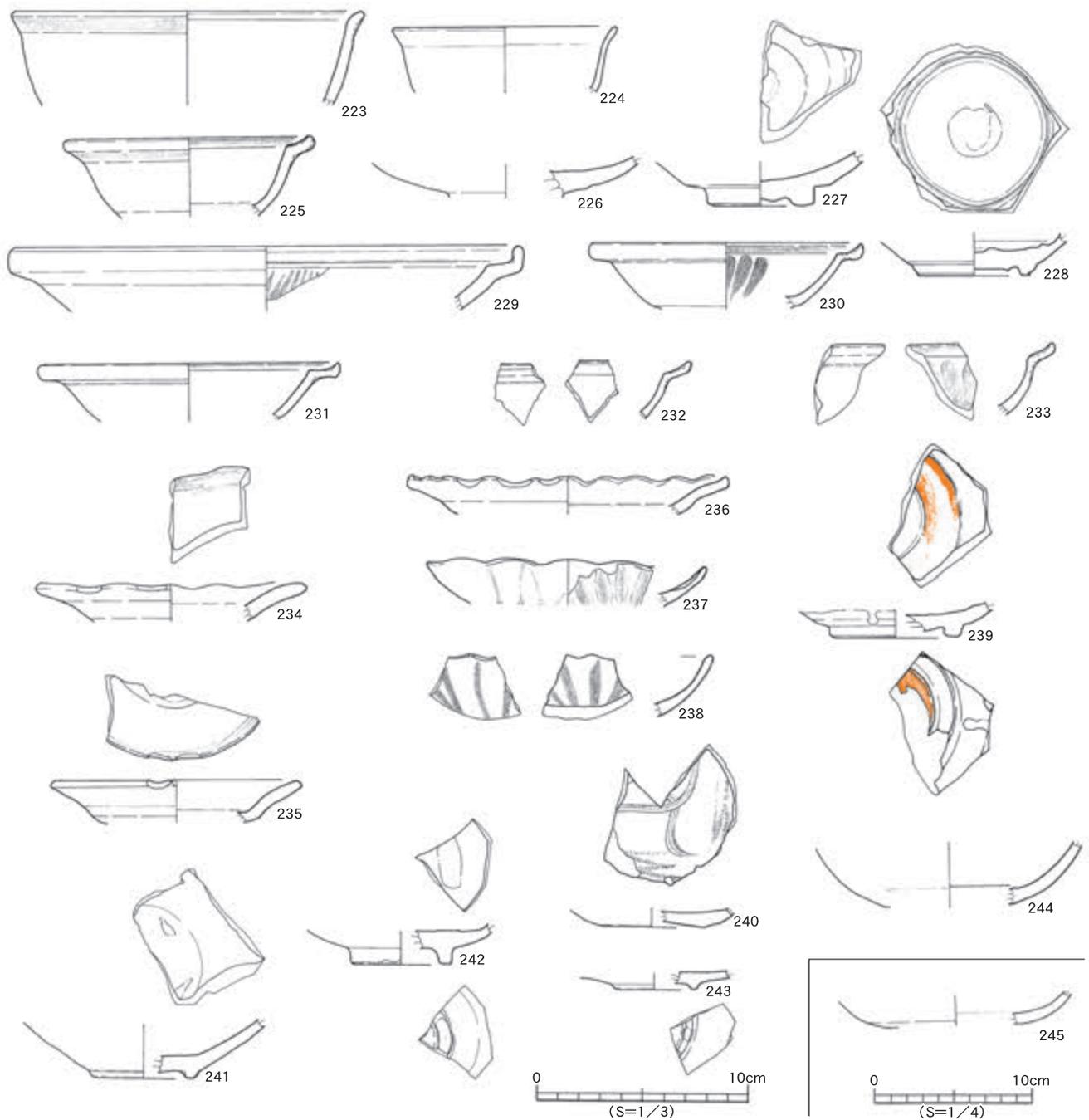
134・135は、壺である。134は、口縁部を内側に折り返して丸くおさめ、口唇部には蓋受け部を有する。内面にはタタキ成形による同心円状のアテ具痕が残る。総施



第156図 中近世遺物実測図(1)白磁



第157图 中近世遺物実測図(12)青磁①

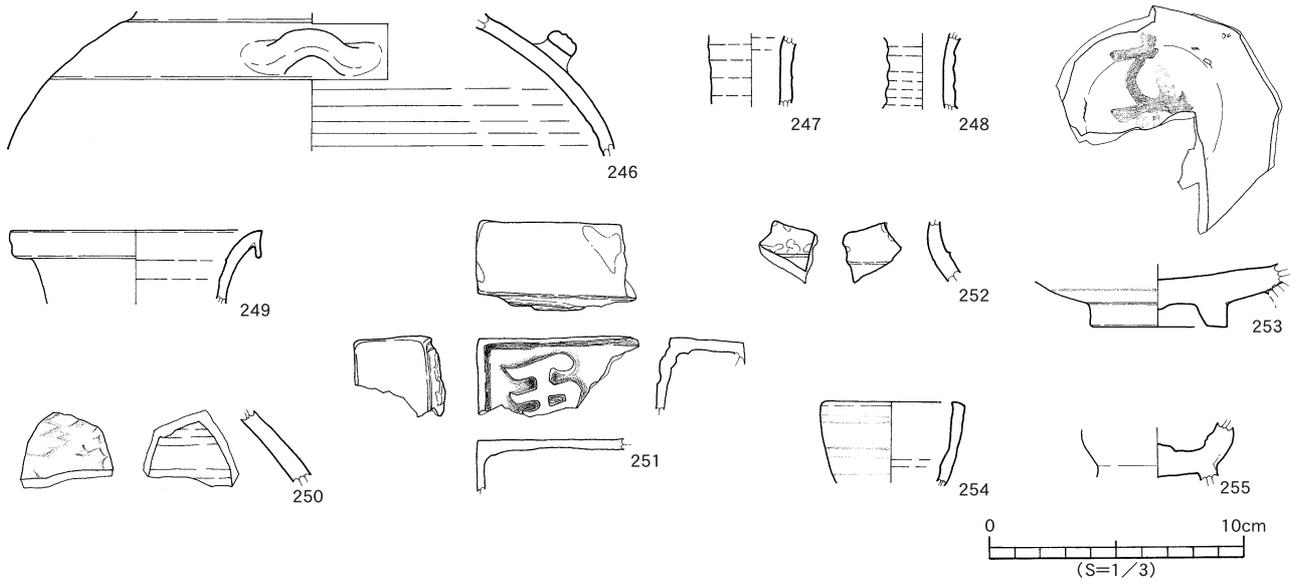


第158図 中近世遺物実測図(13)青磁②

釉品である。135は、口縁部から胴部にかけての資料である。口縁部は、端部を外側に折り返し口唇部を丸くおさめている。内外面に横方向のナデ調整の痕が残る。内面胴部に同心円状のアテ具痕が残る。

136～138・140は、碗である。136は、胴部下位から高台にかけての元立院窯（始良町）系に類似した大型の碗の資料である。腰部の張りは弱く、高台外部下位はヘラ状工具で「く」の字状に削られている。胴部外面にナデ調整の痕が残る、胴部下位にはヘラ状工具による調整痕

が残る。高台はいわゆる削り高台である。高台内面の厚さは、中心部にいくほど薄くなっている。内面全体に黒褐色釉が施され、外面の一部には黒褐色釉が施される。137は、口縁部がやや外反するものである。内外面にヘラ状工具による調整の痕が残る。138は、腰部の張りが弱く、丸みを帯びるものである。内外面にヘラ状工具による調整痕が残る。また、外面腰部には、ヘラ状工具によるケズリ調整の痕が残る。内面全体と外面腰部上位に飴釉がかけられている。137と138については、龍門司系



第159図 中近世遺物実測図(14)青磁③

の山元窯（加治木町）産の可能性ある。

140は、中国産白磁の森田D類の皿にも似た特徴を持つが、ここでは「白薩摩」とした。胎土は黄白色でやややや褐色を帯びる。透明釉が畳付を除き全面にかかると。また、貫入も観察される。高台はいわゆる削り高台であり、高台下部外面がヘラ状工具で「く」の字状に削られている。外面の高台畳付部分から見込みにかけて黒色化している。この黒色化が、墨書か煤によるものかは明らかでない。

141は、皿である。腰が張っており、口縁部はやや外反している。底部は口縁部と比較して厚くなっている。外面にヘラ状工具による調整の痕が残る。内面にはナデ調整の痕跡が残る、見込みに重ね焼きの際についた砂目が残る。外底面には糸切りの痕が明瞭に残る。

142・143は、蓋である。円盤状の体部の下面に、輪状の粘土紐を貼り付け、身受け部をつくるものである。体部上面には、ヘラ状工具による調整痕も看取される。体部上面のみ施釉される。143には、体部上面端部近くに重ね焼きの際に付いた他製品の身受け高台の痕が残る。

144・145は、水注などに被せたと考えられる蓋である。144は、円盤状の体部の下面に、輪状の粘土紐を貼り付け、身受け部をつくるタイプのものである。体部上面には、ヘラ状工具による調整の痕が残る。また、体部上面に重ね焼きの際に付いた他製品の胎土が残る。145は蓋である。円盤状の体部の下面に、輪状の粘土紐を貼り付け、身受け部をつくるタイプのものである。体部上面には、ヘラ状工具による調整痕が看取される。体部内面及び見受け部には、ナデ調整の痕が残る。

146は、龍門司系の可能性のある瓶である。筒型の胴部にすばまった頸部を持つものである。

147は、瓶の口縁部である。口縁部はやや外反している。内外面に、ヘラ状工具による調整痕が残る。口唇部の釉は、拭き取られている。瓶の口縁部としたが、他の器種の可能性も考えられる。

148は、土瓶の注口部であり、S字状の溜め口を呈する。茶止め穴が三角形に3か所設けられているが、内面から注口に向かって右側に偏っている。外面全体と注口内面端部に施釉される。

149は、土瓶の底部の資料である。外底面にヘラ状工具による筋状の痕跡が残る、内底面にヘラ状工具による調整痕が残る。円錐状の脚が貼り付けられており、貼り付け際に付いたと思われる指圧痕が看取される。外底面は露胎する。脚部や外底面に煤が付着しており、使用されたものであることが確認できる。

54は小型の羽釜である。胴部外面には鏝が巡る。胴部外面下半部には煤もしくは炭化物が付着している。

染付（第154・155図）

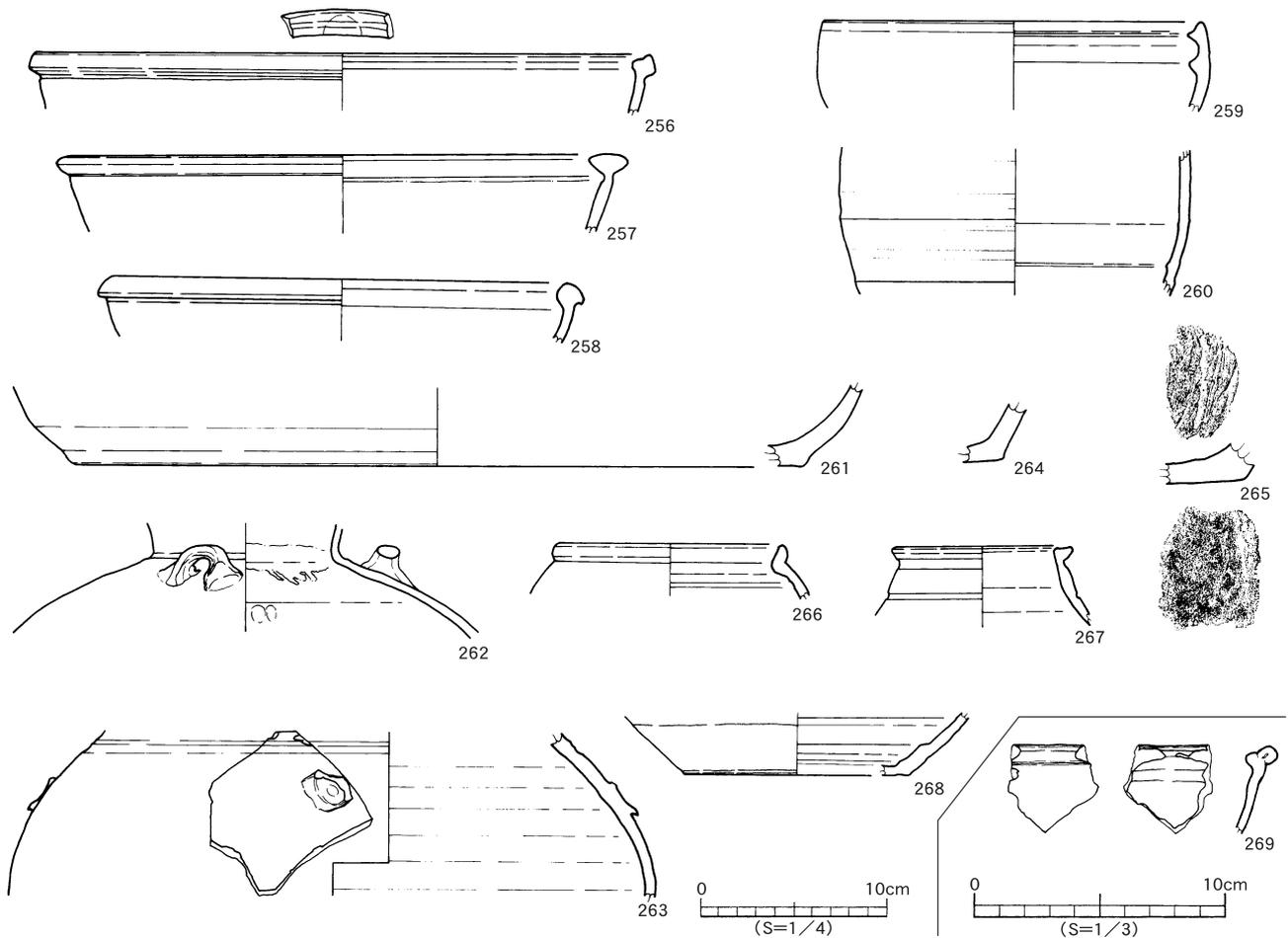
おおむね肥前系のもので、17世紀～18世紀前半代とみられるものが多い。ごく少数近代の可能性のあるものが入る。

150は、青磁に染付を施すもので、口縁は輪花状を呈する。波佐見（現長崎県東彼杵郡波佐見町に所在）産の可能性ある。

151は、外面に龍とみられる文様が、口縁部内面には雷文が施される碗である。

153は、見込みに蛇の目状の文様の中に鋸歯文を伴う皿である。

154は、色絵碗である。赤色と緑色に着色された文様がみられる。



第160図 中近世遺物実測図(15)輸入陶器

156は、外面に梅の花が描かれる碗で、口縁は直行する。

157は、筒型を呈する碗である。梅と笹の文様が施される。

158は、京焼を模した肥前系碗である。船とみられる鉄絵の文様が施されている。また、159も船とみられる文様が施される。

160は、外面には唐草文が、外底面見込みには「生」の字款のあるものである。

168は、蓋である。上面に削り込みによる文様がある。

170は、筒形の碗である。比較的新しい時期のものである。172は、合子もしくは紅皿で、タコ唐草文を浮き彫りにしたものである。174は、近代の可能性のある磁器碗で、外面底部近くに雷文を施す。175は、華南三彩を模倣した肥前系の甕の頸部につく耳部分である。茶道具にも類似の形態のものがあるので、茶道具（茶筌置きなど）に転用された可能性もある。176は、紅皿である。内面は無文で、外面は菊花状につくるものである。177は、合子の蓋である。繊細な文様が施されている。

159は、19世紀頃とみられるもので、比較的新しい時

期のものである。見込み部には絵付が施され、足付きハマ（窯道具）の痕跡である4点の目跡がつく。

白磁（第156図）

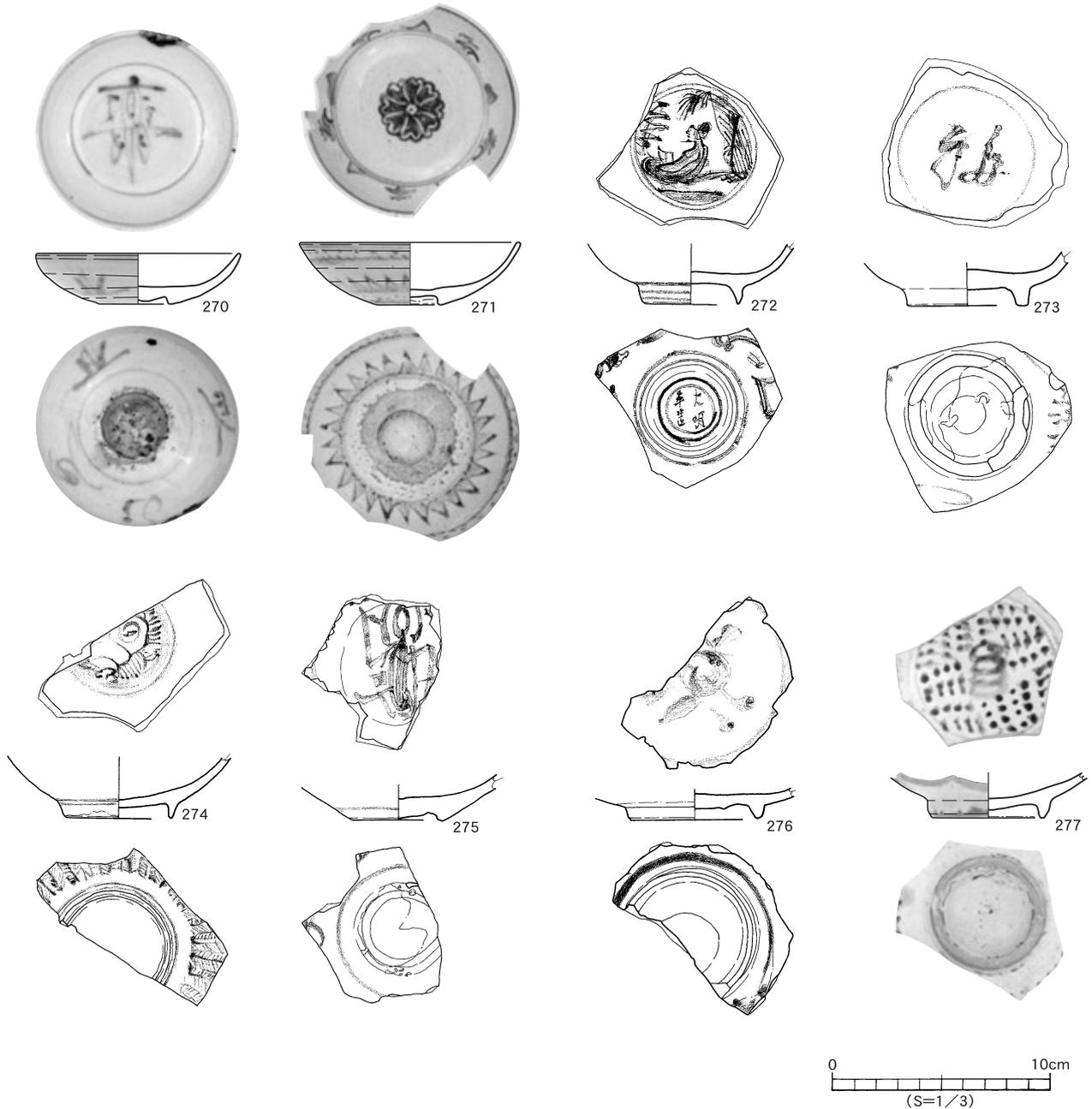
これらは、中国でつくられ輸入されたものである。

178～182は、口縁部を折り返してつくるもので、いわゆる玉縁口縁状を呈するものである。太宰府編年のC期の類に該当し、11世紀後半～12世紀前半頃のものである。

185～187は、口縁部が外反する碗である。187は口唇部の釉を拭き取るもので、いわゆる口禿碗である。185は、口縁部内面から口唇部にかけてシャープに屈曲するものであるが、その部分には釉溜まりがある。

190は、口縁部が若干外反するもので、碗類もしくは類の碗に該当する。内面には櫛目文が施される。C期もしくはD期に該当し、時期は11世紀後半～12世紀後半である。

192・193・194は皿である。皿1類に該当し口禿皿とも呼ばれるもので、口唇部の釉が拭き取られているのが特徴である。F期に該当し、時期は13世紀中頃～14世



第161図 中近世遺物実測図(16)青花①

紀初頭である。194は、底部外面であるが、ナデられた痕跡が残る。

196は、アーチ状高台とも呼ばれる割高台の皿である。底部外面高台見込みに「十」の字もしくは記号とみられる墨書が施される。森田分類のD群（太宰府編年のH期に相当）にあたり、15世紀頃の時期のものである。

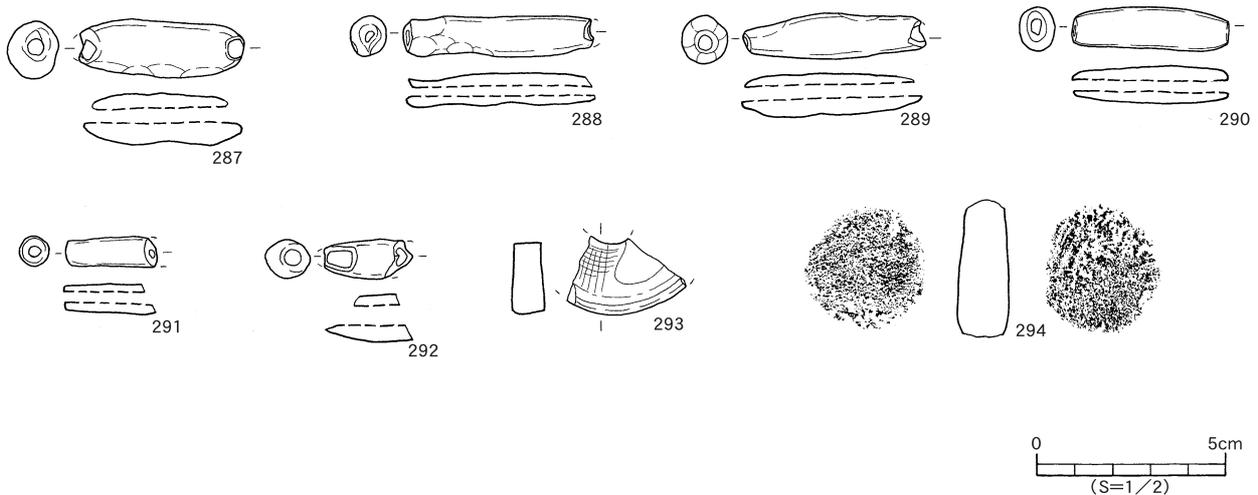
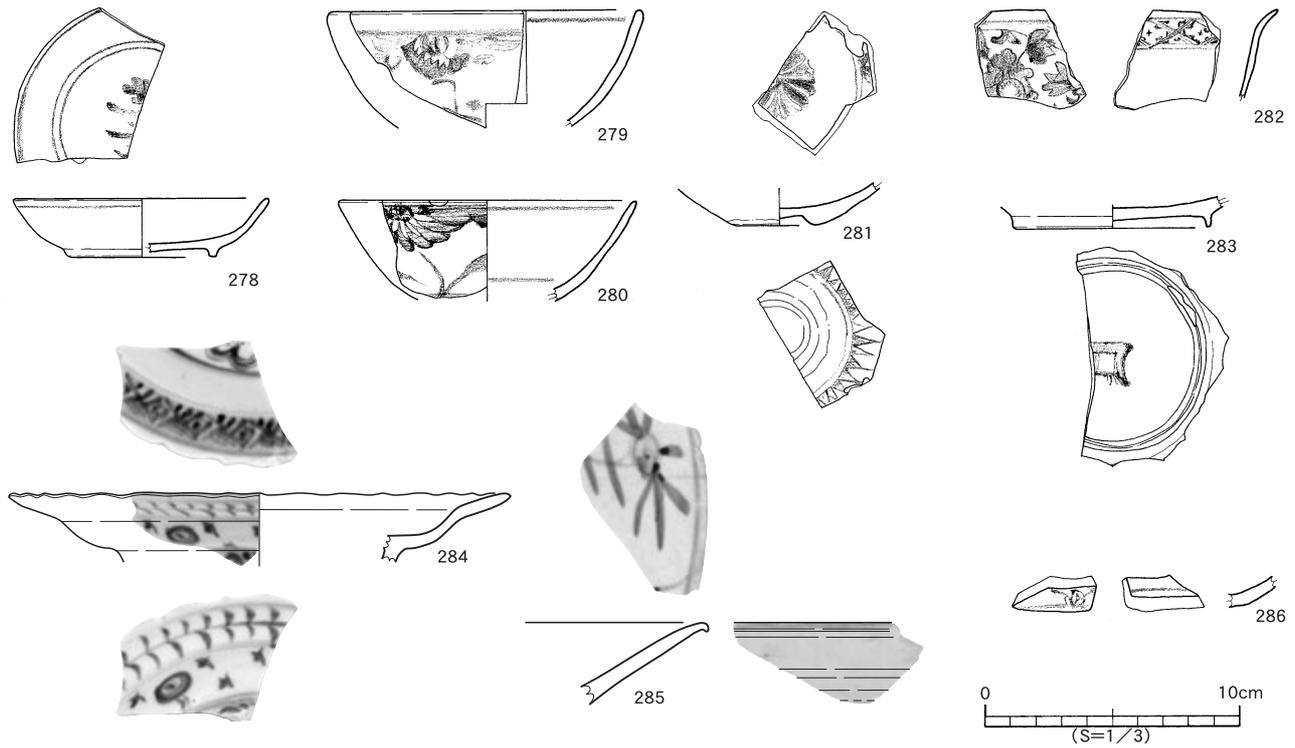
197は、漳州窯系の製品と考えられるが、青色の文様が施されていないので白磁に分類した。底部には砂目が残る。

198は、口径に比べて高さが高台の大きさが小さいものである。釉には細かい貫入が多く入る。森田勉氏がD群に分類したものに該当する。時期は14世紀後半～15世

紀前半頃である。

199は、口唇部と口縁部内面の釉が拭き取られている。底部には高台を有する。外面には浮文状の文様がみられる。高台見込み部には若干の粘土のしわが認められるので、型押し成形によるものとみられる。これらの特徴から徳化窯産の製品の可能性がある（大橋1999）。徳化窯産であれば、白磁印花唐草文の碗である可能性があり、南宋～元（13～14世紀）のものである（愛知県陶磁資料館2008）。

200は、国産のものにも似るが、胎土などの特徴から中国産とした。森田E群のものにも類似するが、国内で模倣されたものの可能性もある。201は、口縁部が溝縁



第162図 中近世遺物実測図(17)青花②・土錘

状を呈する。肥前産のものにも似るが、胎土などの特徴から中国産のものとして扱った。203は、合子の身である。

青磁 (第157図～159図)

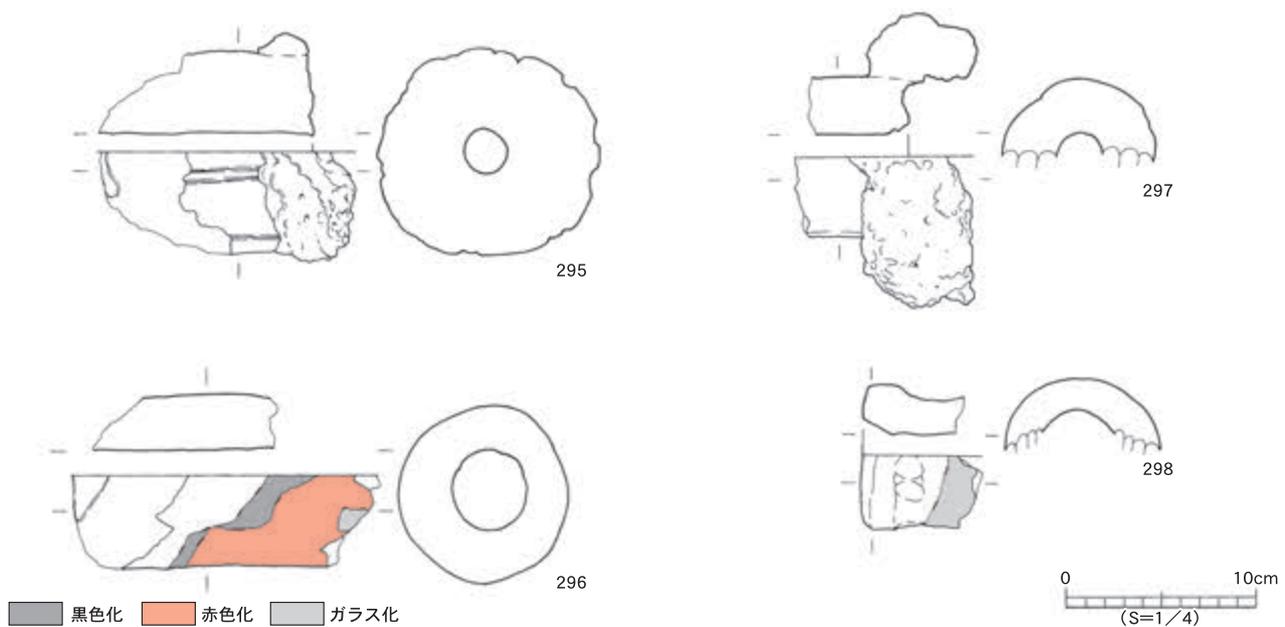
204～210は鑄連弁文の碗である。204・208はこの中でも特に残存状況が良好である。砧青磁と呼ばれる青磁碗に類似する。204は、他のものと比較して底部が小さく不安定ではあるが、非常に美しい発色と成形である。太宰府編年のF期にあたるもので、13世紀中頃～14世紀初頭の時期である。205～207, 209は、おおむねE期にあたるもので、13世紀はじめから中頃の時期である。

217・218は見込みに劃花文が施される碗である。D期にあたるもので、12世紀中頃～後半の時期である。

212は、外面に線連弁が施される碗で、見込みには「古林」か「吉林」とみられるスタンプ文が施される。

221は、見込みに双魚文のある皿である。ただし、文様は魚の尾のみの残存である。龍泉窯の類に該当する。

253・254は香炉である。254は根本から欠損しているのでわかりにくいですが、本来は底部付近に3本の脚がつくものである。見込みには、「立」に類似した墨書があるが、右半分が消滅しているため、全形は確認できない。これは、足利様式の花押の可能性もある。龍泉窯の碗イ類と胎土を同じくするもので、G期(14世紀以降)の



第163図 中近世遺物実測図(18)轆の羽口

ものである。234は、聞香炉（手持ち香炉）とされるものに類似する。これも明代でG期（14世紀以降）のものである。235も、香炉の可能性はあるが判然としない。

214は底部高台見込み部に「十」の字もしくは記号とみられる朱墨が施される。明代のもので、G期（14世紀以降）のものである。

224・226・227は胎土が灰色で、黒点が入るものである。これは、中国泉州産の可能性が指摘される（南城市教育委員会2006など）ものであるが、類例が少ないので検討を要する。晋江磁灶窯のものに類似するがこれも明らかではない（愛知県陶磁資料館2008）。

225・230～233は、口折れ坏である。明の時期に該当するもので、G期（14世紀以降）のものである

228は、見込みを蛇の目状に釉ハギするもので、G期（14世紀以降）の可能性のあるものである。

229は、盤である。口縁部は口折れの形態を呈する。これもG期以降のものである。

234～238は、稜花皿である。いずれも明代のもので、G期以降（14世紀以降）のものである。

239は、白磁か青磁かの判別が不可能なものである。形態は228に類似する。

241～243は高麗青磁である。いずれも底部外面と見込み部に目跡（胎土目）がつくものである。13世紀頃の可能性がある。

246は、貼り付けた耳のある壺で、比較的大型のものである。247・248は、瓶の頸部から口縁部にかけての部分である。249は、壺の口縁部である。下方に折り返す口縁を持つ。250は、外面に花文に似た文様が刻ま

れる。梅瓶にも類似するが、検討を要する。

251は、箱形を呈するもので、漢字の「五」のような浮き彫りが施される。水滴か花入れであろうか。

輸入陶器（第160図）

256～258は、泉州（晋江）磁灶窯産とみられる盤である。これらは、口唇部に目跡がつく。見込み部には不鮮明な鉄絵とみられる文様が認められる。ただし、一部のものについては国産の瀬戸の盤の可能性もあるので注意したい。

259は、華南系の鉢である。口縁部内面に二条の突帯を有する。

269は、泉州（晋江）磁灶窯産もしくは童子窯産とみられる盤の口縁部である。透明度の高い緑釉がかげられる。264は、同様のものの底部である。

262・263・268は、華南産とみられる壺である。頸部から胴部にかけての部分に把手もしくは耳がつく。

266・267は、中世前半とみられる壺である。水注の可能性もある。

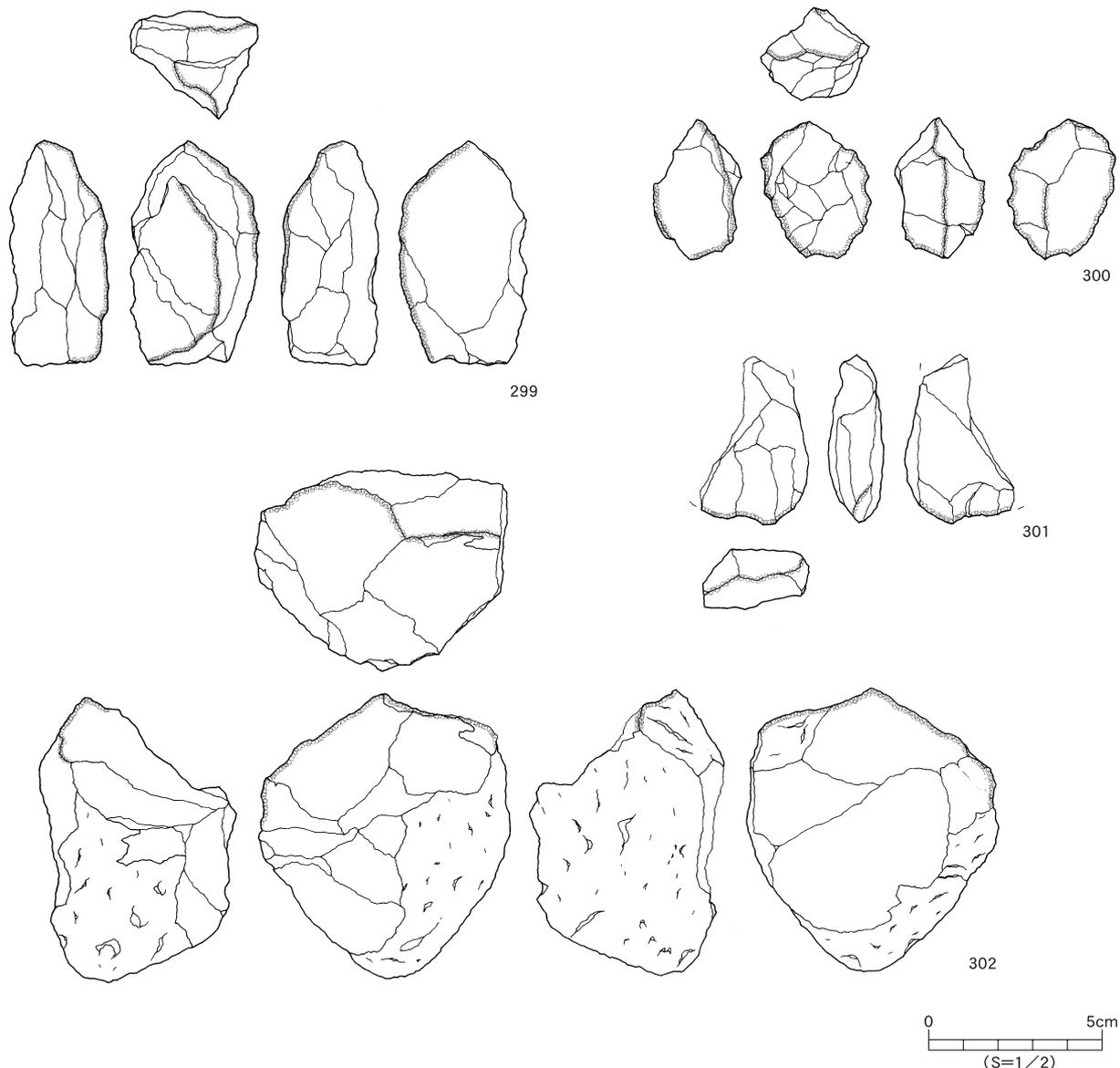
青花（第161・162図）

景德鎮窯系と漳州窯系とがある。

272・274・276・282・284・285は、景德鎮窯系の青花である。

274は、見込みにホラ貝文が施される。蓮子碗の形状を持つ。

272は、見込みに洞窟の陰で僧が読経している様子が描かれるものである。底部は慢頭心の形状をなし、外面



第164図 中近世遺物実測図(19)火打石

には「大明年製」の年款がある。284は、玉取獅子文が描かれる。

270・271・273・275・277・278～281・283は、漳州窯系の青花である。

271は碁笥底で外面に芭蕉文が施される皿である。見込みには「寿」を崩した文様が描かれる。

270・275は、見込みに寿を崩した文様が施される。278もその可能性がある。

283は、底部内面に「口」が描かれる。これは、福を崩した文様で、「画福」文と呼ばれるものである。

273は、見込みに「福」が描かれるものである。底部は慢頭心の形状をなす。

277は、連子碗である。見込みには連点状の文様が施される。

土製品（第147図・第163図）

円盤形土製品・土錘・紡錘車・ふいごの羽口などがある。

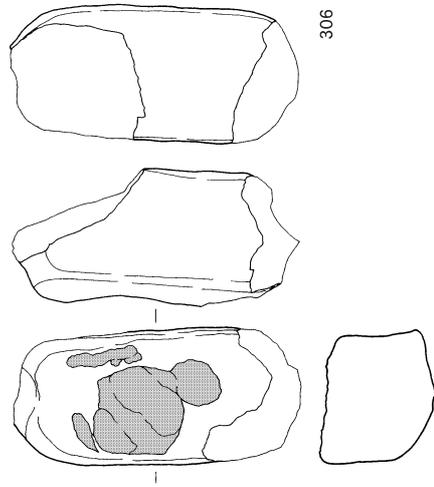
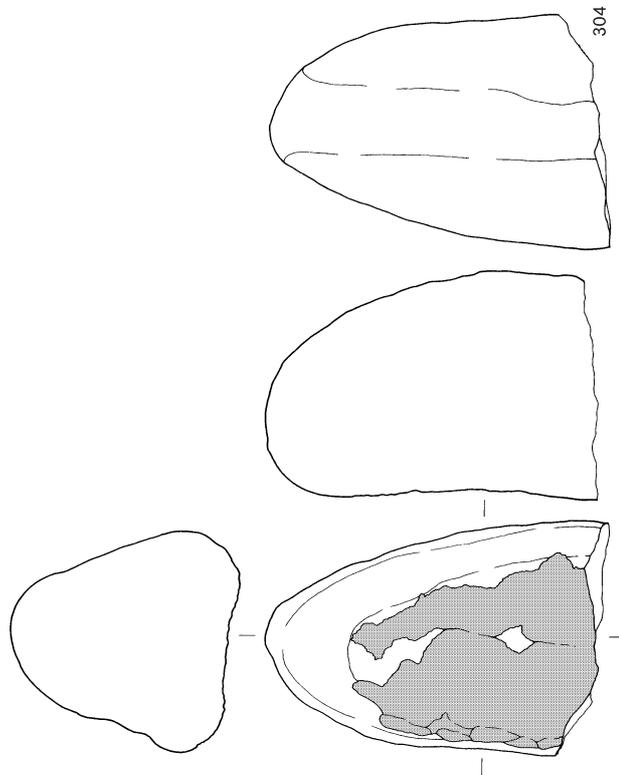
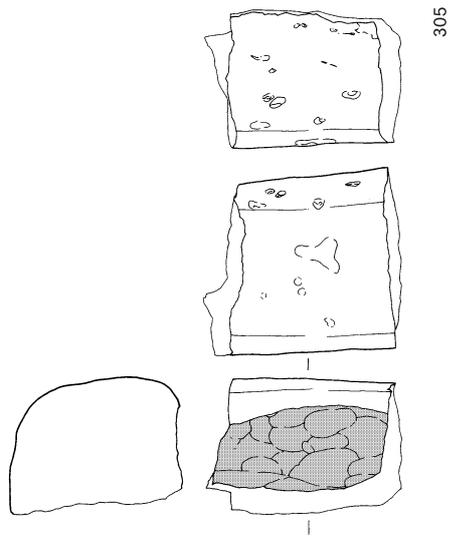
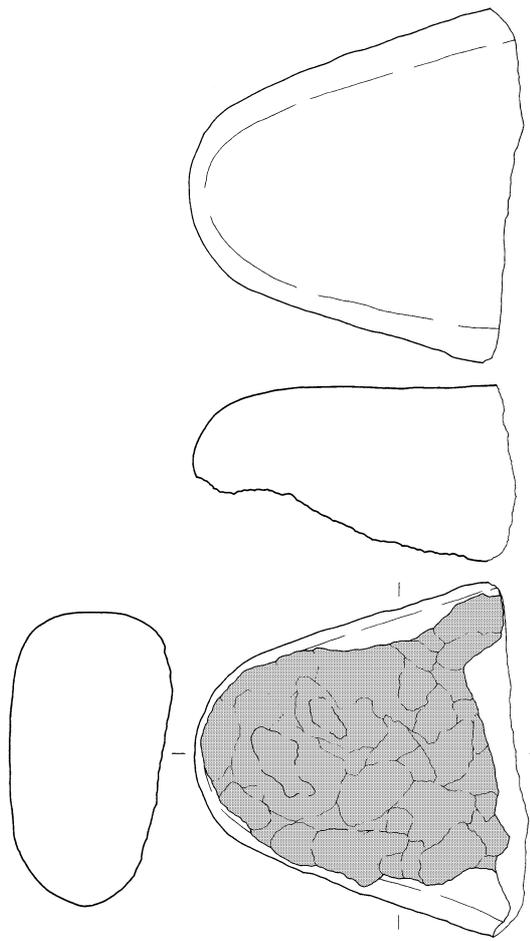
44・45は転用品である。坏の糸切底部を再利用している。

41・42は、穿孔にもとれる部分のある土師器坏の底部である。転用紡錘車の可能性のあるものとしてここに取り上げた。

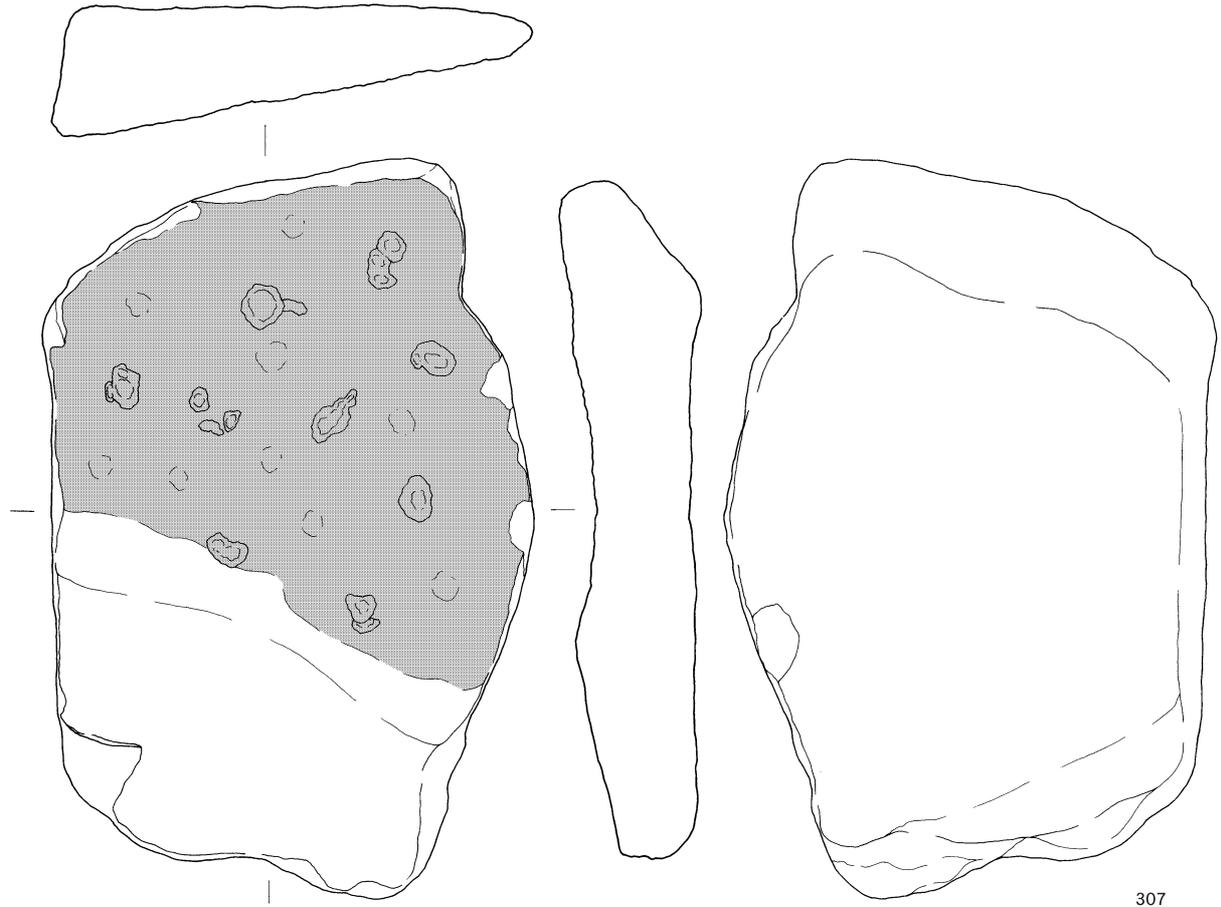
287～292は、土錘である。いずれも細身のもので、中世のものに多くみられるような粗雑な作りである。

293は、磁器製で中央部に穴のあいた円盤形を呈する。近代の紡績に使用する紡錘車の可能性がある。

295～298は、ふいごの羽口である。295は、大きめのもので、外面に幅1cm程度の数条の溝がある。口縁部付近には鉄滓が付着する。296は、ガラス質が付着する部



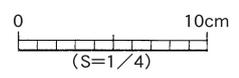
第165図 中近世遺物実測図(20)金床石①



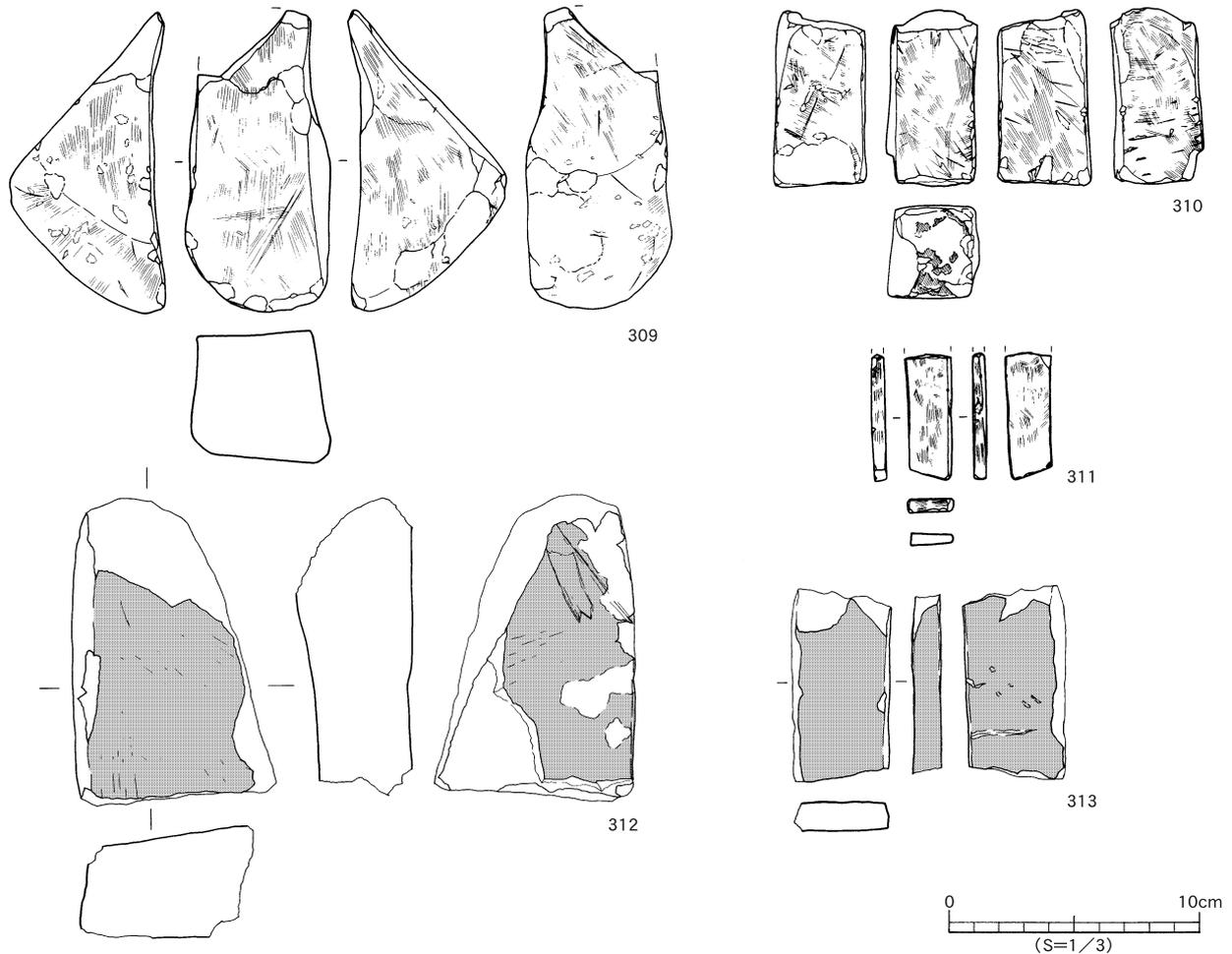
307



308



第166図 中近世遺物実測図(2)金床石②



第167図 中近世遺物実測図(2)砥石①

分と黒色化・赤色化した部分がそれぞれ帯状にめぐる。297は、口縁部に大きな鉄滓がつくものである。298は、口縁部が肥厚するものである。通常のものとは形態が異なるので、鍛冶炉側ではなく、ふいご側につく部分の可能性がある。

294は、円盤形に土器片を再加工した製品で、「メニコ」もしくは「円盤形再加工土製品」と呼称されるものである。

石器・石製品（第164～169図）

石器・石製品には、砥石・火打石・軽石製品などがある。また、金床石の可能性のあるものも含めてここに取り上げた。

299～302は、火打石である。角の部分がつぶれているが、これは調整によるものではなく、火打金との打撃によって刷りあわされてできたものである。

303～308は、金床石と考えられるものである。いずれも熱や打撃によるとみられる敲打・ハガレ・赤色化がみられる。

309～317は、砥石である。この中で、310・312・316

は天草砥石と呼ばれる天草産の石材を使用した砥石である。317は、筋状の溝が数条残るものである。通常の砥石の用途とは異なる可能性があるが、具体的な用途は不明である。

318～322は、軽石製品である。

318は、拳大よりやや大きめの軽石素材を箱形にくり抜いたもので、上部が欠損するものである。くり抜きの際のノミ痕が明瞭に観察される。

319は表裏の両面に比較的太い2条の溝が斬り合ってみられるが、表裏の溝はそれぞれ異なる方向にはいるものである。

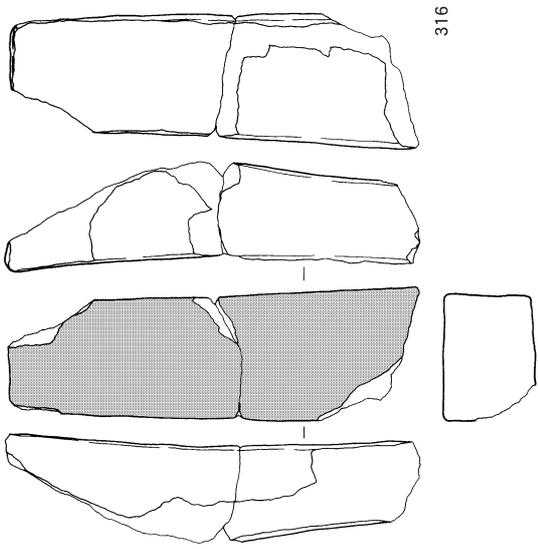
320は、円盤状で中央に穿孔されるものである。縄文時代の垂飾品に類似するが、用途は不明である。

321・322は、楕円形を呈する。用途は不明である。

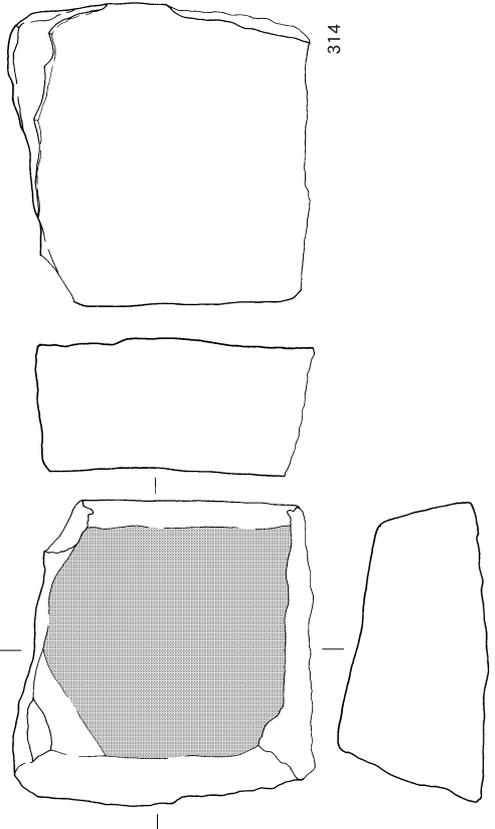
鉄器・鉄製品（第170～172図）

323は鎌である。有茎のもので形態が新出の要素をもつものである。近代の可能性もある。324も全形は不明であるが、鎌の一部の可能性はある。

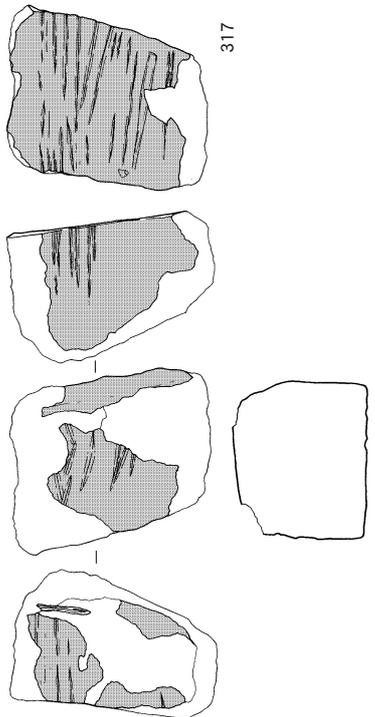
325～334は、小刀もしくは刀子と考えられる。



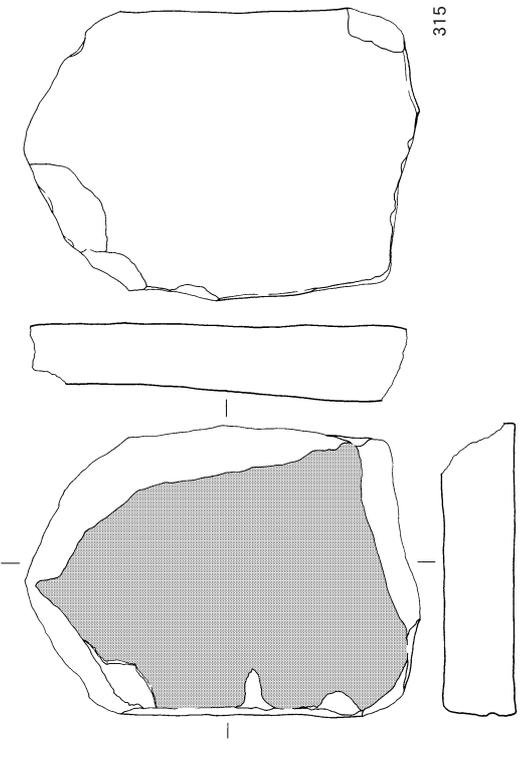
316



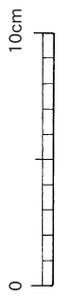
314



317

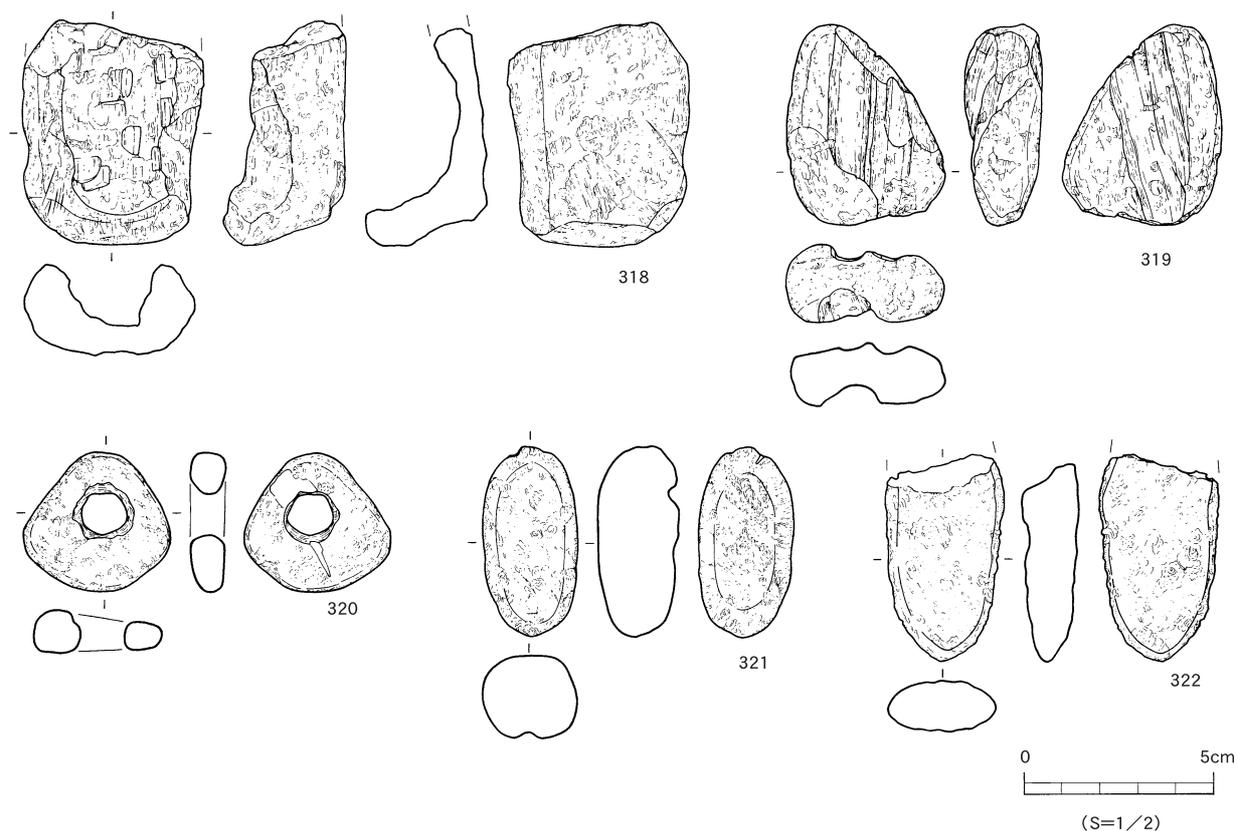


315



(S=1/3)

第168図 中近世遺物実測図(3砥石②)



第169図 中近世遺物実測図(24)軽石製品

335は、和ばさみである。近年になって、中世以降の同様の資料が増加しており注目されるものである。

336は、ノミもしくはタガネの可能性も考えられるものである。337・338は、カンナの可能性がある。337は、風化が著しく、亀裂が大きく断面形に関しては旧状を留めていない。

339・340は、短冊形を呈し、上部には穴が開けられるものである。342も短冊形を呈するもので、穴はないものの、339・340と同様のものである。

346～348は、環状の製品である。プレスレット状のものや指輪状のものがあるが用途は不明である。

349は、筒形を呈するもので、葉莢に類似するが、このようなものは類例がないので、葉莢ではなく中空の棒状製品の一部であると考えられる。350も筒形を呈するが、つなぎ目が開いている。これが当初からの形状であるかは不明である。

351～358は、板状の破片である。ひび割れが顕著なことから、鍛造品ではなく鋳造品であるとみられる。

359は、小札（こざね）である。板状を呈するもので、連続した穴が開けられている。甲冑の部品の一部である。

360・361は火打金である。ハンガー形を呈する。360は上部に穴がある。火打石と併せて発火具として用いたものである。

362は、飾り釘（頭部に円盤についた釘）もしくは傘

釘の可能性がある。

363～368は、釘である。いわゆる角釘であるが、もともとは土坑墓に伴う木棺・木桶などに打ち込まれていた可能性がある。369は、断面形が楕円形を呈するもので、近・現代の釘の可能性もある。370は、二本の曲がった釘がお互いにかみついたものである。これも近代の可能性もある。

373は、T字形の製品の一部である。用途は不明である。374は、頭部が傘状になっているもので、釘か金具の可能性のあるものである。375は、角釘に類似するが、カーブしている部分があるので、用途は不明である。376～378は、かすがい状のものである。

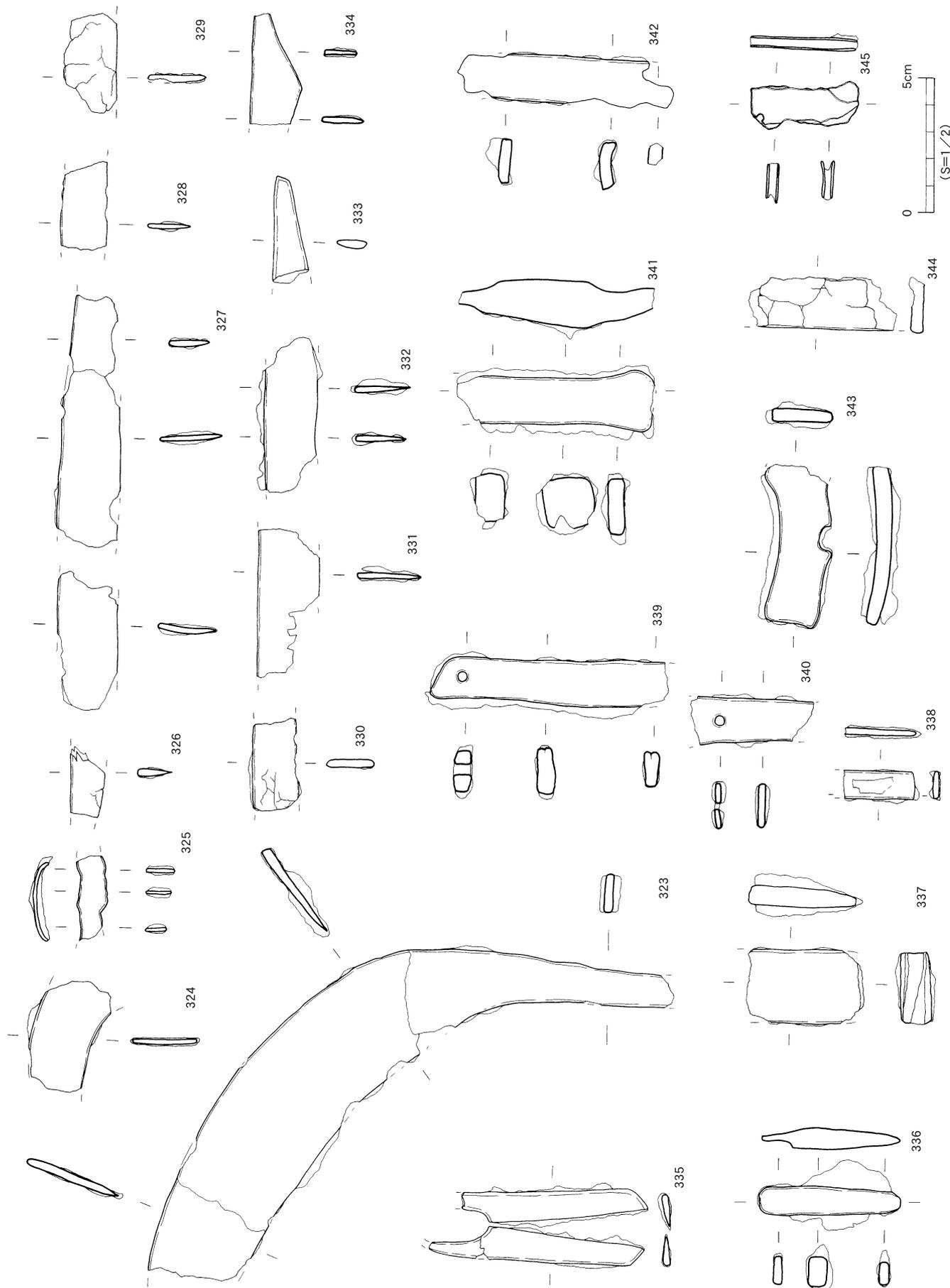
銅・青銅製品（第172図）

379は、短冊形の製品である。一边は欠損しているが、残りの三辺は丸みをもっている。

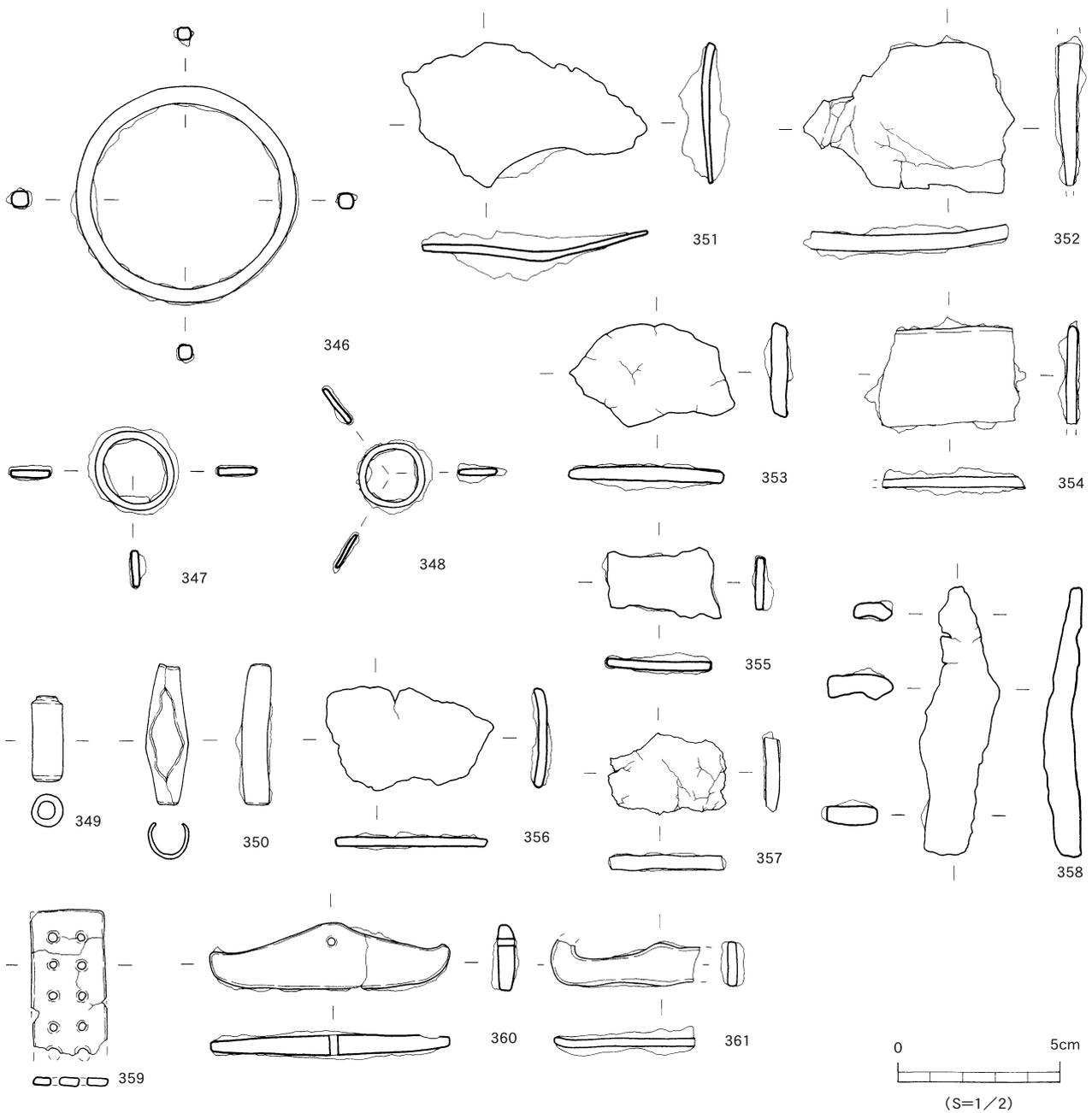
380は、キセルの煙口である。側面からの力によってつぶれている。

381は、太平洋戦争時の13mmの機銃弾である。施条痕（ライフルマーク）が6条つく。アメリカ軍のものに類似するが、アメリカ軍のものとは施条痕の回転方向が反対で、注目される資料である。

382は棒状製品で、縫い針の可能性もある。ただし、糸通しの穴は確認できない。



第170図 中近世遺物実測図(25鉄製品①)



第171図 中近世遺物実測図(26)鉄製品②

383は、断面が円形の棒状製品である。若干カーブしていることから、土瓶や鍋の把手であった可能性がある。

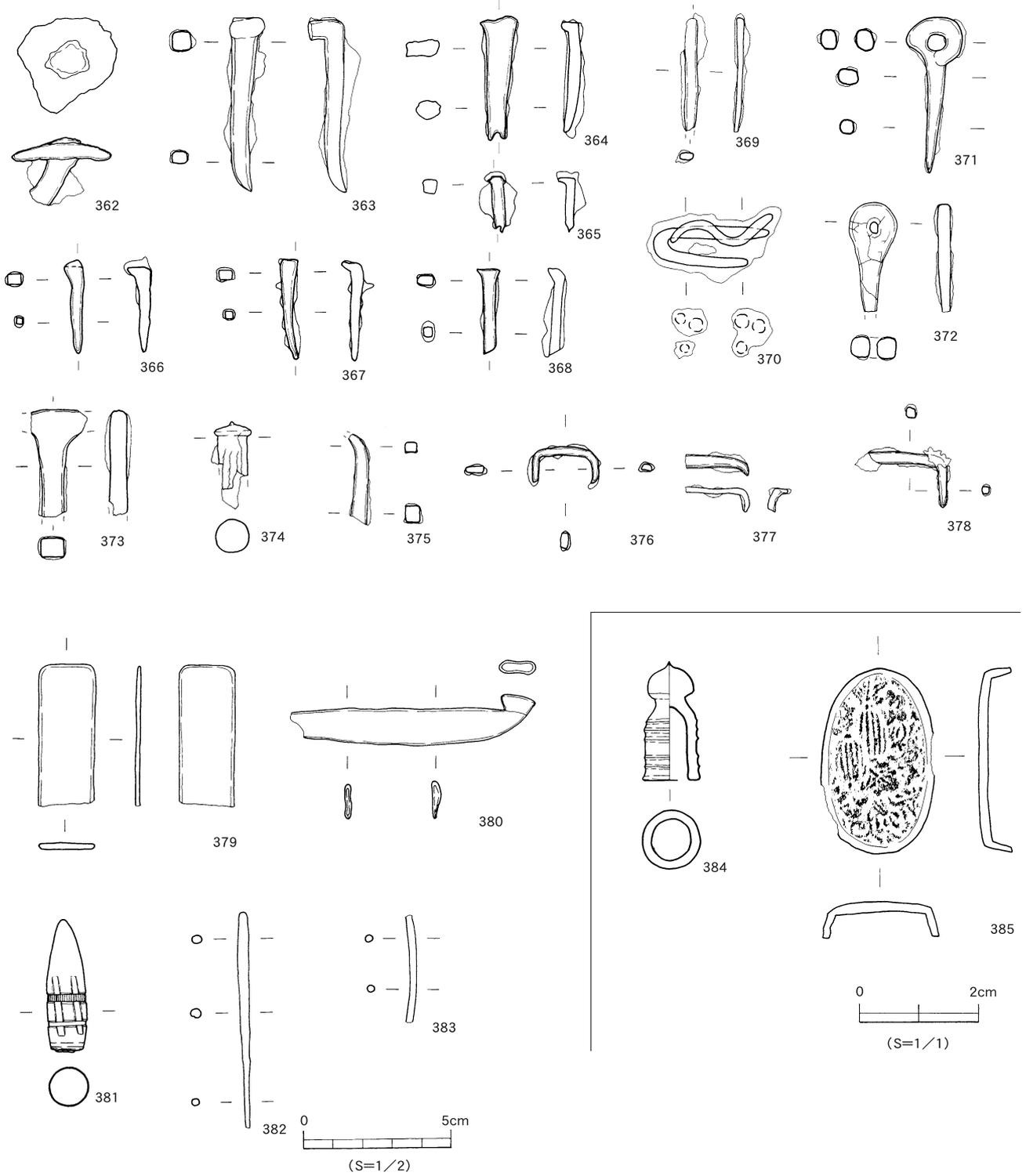
384は、擬宝珠形の小型製品である。用途は不明であるが、空洞があるのでそこになんらかのものを差し込んでいた可能性がある。

385は、細かい文様が表面に入るものである。刀の鐺(小尻・こじり：鞘尻の部分)・石突(いしづき)・頭(かしら・柄頭)につける金具に類似する。

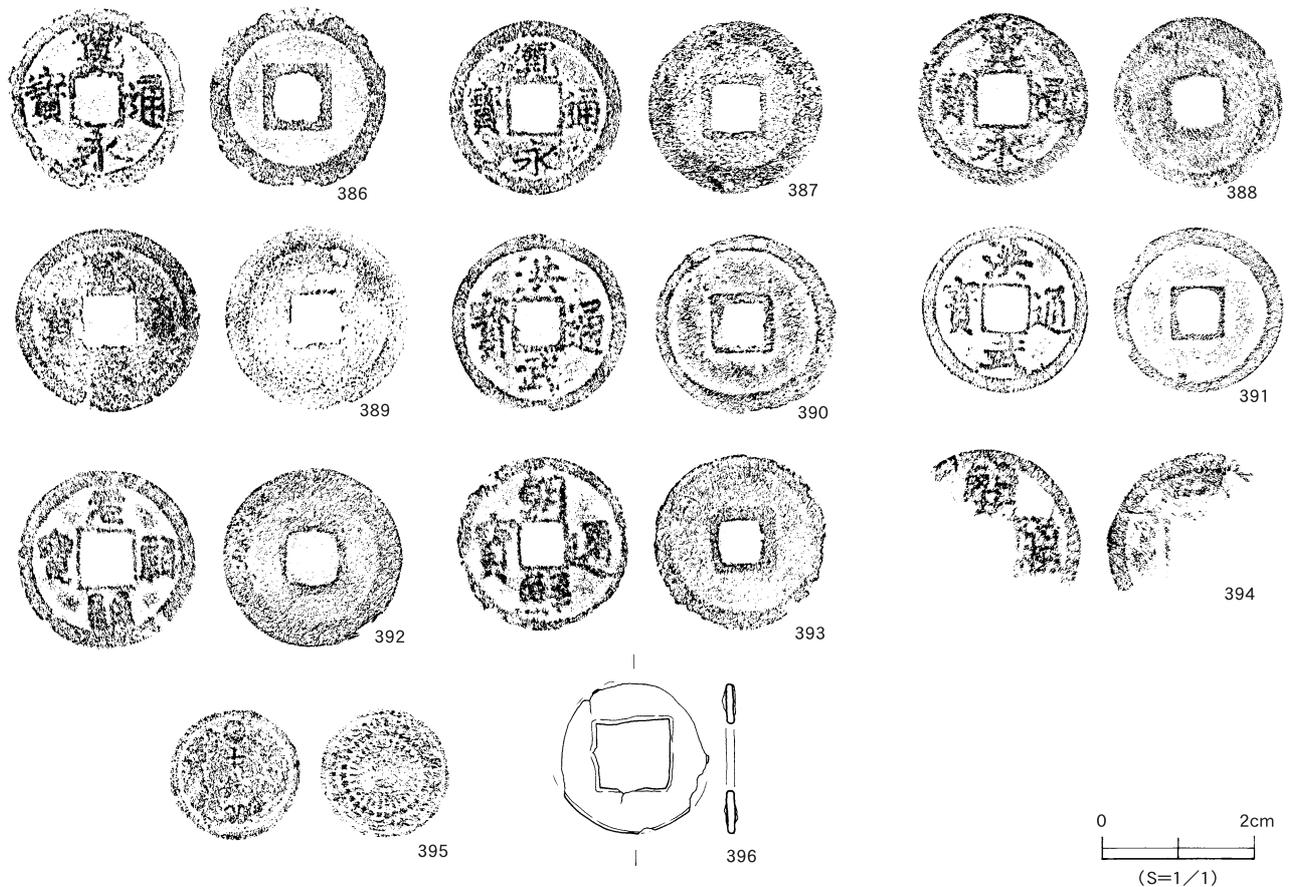
銭貨(第173図386~396)

洪武通寶・寛永通寶・朝鮮通寶・元祐通寶・開元通宝・無文銭・近代硬貨が出土している。

386~389は、寛永通寶である。386は、「寶」の「貝」の下部分が「ス」になっているいわゆる「ス貝寶銭」で比較的古い様相を示すが、他の3点は「貝」の下部分が「八」になる「八貝寶銭」である。ほとんどのものが青銅を基本とする素材のものであるが、389は鉄製のものであると考えられる。いずれも背面は無文である。



第172図 中近世遺物実測図(7)鉄製品③・銅製品



第173図 中近世遺物実測図(錢貨)

390・391は、洪武通寶である。いずれも背面は無文である。遺構内からは背面に「治」銘のあるものが多く出土しているが、それとは対照的である。初鑄は明の1368年である。

392は、元祐通寶である。篆書体で文字が入れている。初鑄は北宋の1086年である。

393は、朝鮮通寶である。背面は無文である。初鑄は朝鮮王朝の1423年である。

394は、半分しか残存していないが、「開」と「通」が確認されるもので、開元通寶であると考えられる。開元通寶であれば、初鑄は唐の621年及び845年もしくは南唐の960年である。

395は近代の十銭硬貨である。裏側に「大正二年」の銘がある。

396は、両面ともに文字が認められないので、いわゆる無文銭であると考えられる。ひび割れがあり、質の悪いものである。他のものと比較して孔が大きい。

第5章 科学分析

第1節 科学分析の概要

科学分析は、発掘調査中の平成12年度から平成17年度にかけて6回に分けて依頼した。整理作業が本格化した平成18年度以降も継続して依頼を計画しているが、今回報告分の対象試料は、縄文時代前期に関連する部分である。上水流遺跡1において報告した花粉分析等についても再録している。なお、分析結果については納品された各報告書を元に時代・分野などの領域別に再編を行い掲載している。

第2節 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ

伊藤茂・丹生越子・廣田正史・瀬谷薫・小林紘一
Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani・中村賢太郎

1. はじめに

鹿児島県に位置する上水流遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

試料の調製は廣田、瀬谷、Lomtadze、Jorjoliani、測定は伊藤、丹生、小林が行い、報告文は伊藤、中村が作成した。

2. 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表2のとおりである。

試料は、第38図181の土器に付着した炭化物（試料2，PLD-11508）、V-8区出土の炭化種実（試料3，PLD-11509）、第29図88の土器に付着した炭化物（PLD-12023）の3点である。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 15SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

3. 結果

表2に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（¹³C）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した¹⁴C年代、¹⁴C年代を暦年代に較正した年代範囲を、図1に暦年較正結果をそれぞれ示す。

暦年較正に用いた年代値は誤差を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代（yrBP）の算出には、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差（±1）は、測定の統計誤差、標準偏差等

表2 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-11508	調査区：V-9区 層位：層 遺物：第38図 181（37225） 試料：2	試料の種類：土器付着炭化物 付着部位：不明 状態：dry	超音波洗浄 アセトン処理 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：0.1N，塩酸：1.2N） サルフィックス
PLD-11509	調査区：V-8区 層位：層 遺物：（32782） 試料：3	試料の種類：炭化種実 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1N，塩酸：1.2N） サルフィックス
PLD-12023	遺物：第29図88 註記：KZ05・W-9・ 37230	試料の種類：土器付着炭化物 付着部位：口縁部外面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：0.1N，塩酸：1.2N） サルフィックス

表3 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	¹³ C （‰）	暦年較正用年代 （yrBP ± 1）	¹⁴ C年代 （yrBP ± 1）	¹⁴ C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 暦年代範囲	2 暦年代範囲
PLD-11508 試料：2 第38図181	-27.84 ± 0.21	4981 ± 24	4980 ± 25	3777BC（68.2%）-3712BC	3903BC（3.0%）-3880BC 3801BC（92.4%）-3696BC
PLD-11509 試料：3	-26.78 ± 0.12	5032 ± 25	5030 ± 25	3936BC（48.1%）-3873BC 3809BC（20.1%）-3780BC	3946BC（93.8%）-3761BC 3725BC（1.6%）-3715BC
PLD-12023 第29図88	-25.31 ± 0.16	4911 ± 24	4910 ± 25	3700BC（68.2%）-3657BC	3758BC（2.6%）-3743BC 3714BC（92.8%）-3643BC

に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。

なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

暦年較正

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い（¹⁴Cの半減期 5730 ± 40 年）を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

¹⁴C年代の暦年較正にはOxCal4.0（較正曲線データ：INTCAL04）を使用した。なお、1 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は¹⁴C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

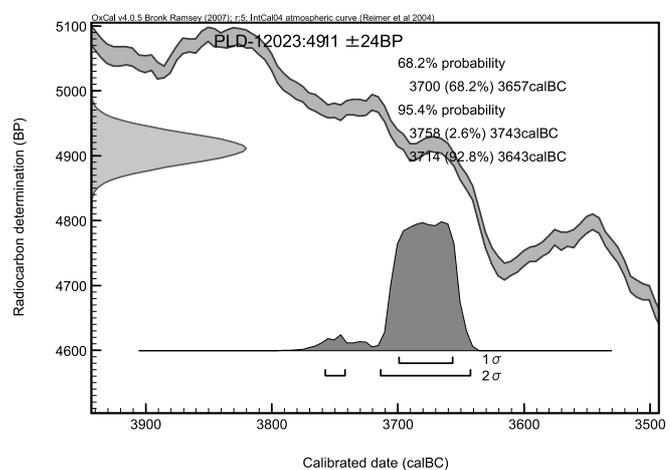
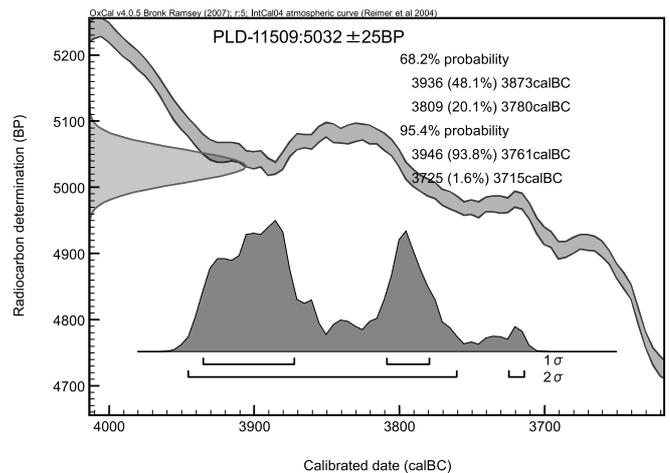
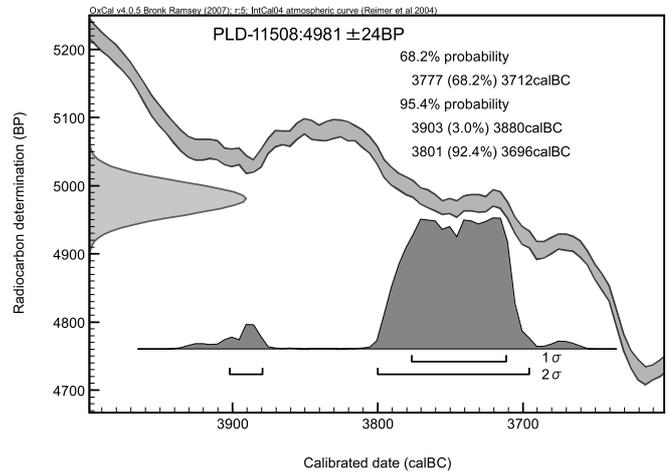
4. 考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。2 暦年代範囲に着目すると、試料 2（PLD-11508）の暦年代範囲は3801-3696calBC（92.4%）および3903-3880calBC（3.0%）、試料 3（PLD-11509）は3946-3761calBC（93.8%）および3725-3715calBC（1.6%）、遺物 88（PLD-12023）は3714-3643calBC（92.8%）および3758-3743calBC（2.6%）である。小林（2008）に照らすと、いずれも縄文時代前期後半に相当する。

参考文献

- Bronk Ramsey, C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. Radiocarbon, 37, 425-430.
- Bronk Ramsey, C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal. Radiocarbon, 43, 355-363.
- 小林謙一（2008）縄文時代の暦年代．縄文時代の考古学 2 歴史のものさし，同成社，257 - 269．
- 中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の¹⁴C年代．3 - 20．
- Reimer, P. J., Baillie, M. G. L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Bertrand, C. J. H., Blackwell, P. G., Buck, C. E., Burr, G. S., Cutler, K. B., Damon, P. E., Edwards, R. L., Fairbanks, R. G., Friedrich, M., Guilderson, T. P., Hogg, A. G., Hughen, K. A.,

Kromer, B., McCormac, G., Manning, S., Bronk Ramsey, C., Reimer, R. W., Remmele, S., Southon, J. R., Stuiver, M., Talamo, S., Taylor, F. W., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer, C. E. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26 cal kyr BP. Radiocarbon, 46, 1029-1058.



第174図 暦年較正結果

第3節 鹿児島県上水流遺跡出土植物遺体の同定調査
(株)加速器分析研究所

1 はじめに

鹿児島県上水流遺跡では、約100点の炭化した植物遺体が出土している。これらについてその種類を同定したので、以下にその結果を示す。

2 調査方法

試料を実体顕微鏡下で観察し、その形態から種の同定を試みた。その際、石川茂雄(1994年)、大井(1978年)、北村・村田(1979年)、中山・井之口・南谷(2000年)を参照した。

3 結果

木本1種が認められた。シイ属の核に内包される子葉であった。分割されていないものと、二分割されているものとが混在している。写真を示し、同定結果を表1, 2に記す。学名は北村・村田(1979年)によった。

表4 植物遺体同定表

	和名	科名	学名	種類	部位	写真
1	シイ属	ブナ	<i>Castanopsis</i>	木本	子葉	1~3

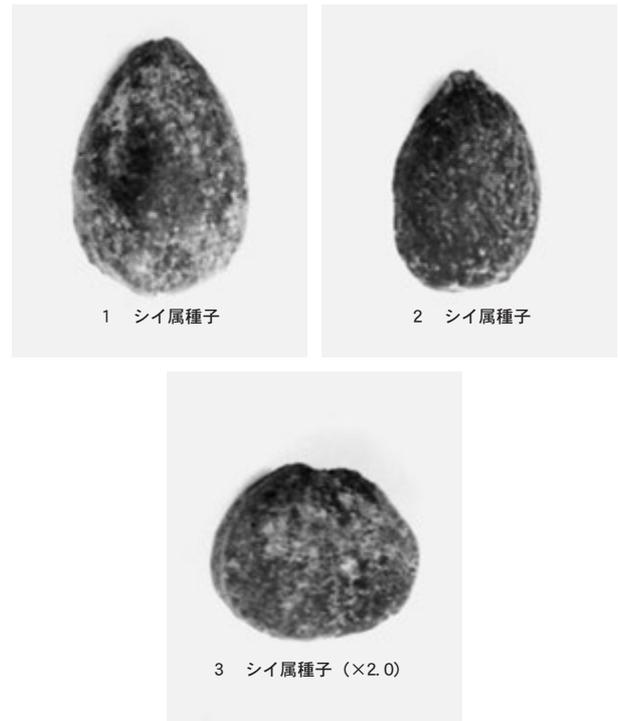
表5 出土遺構と結果

	試料	地区	出土層位	種類と部位	写真
1	14	区	6層	シイ属の子葉	1~3

参考文献

- 石川茂雄 1994 『原色日本植物種子写真図鑑』, 石川茂雄図鑑刊行委員会
 大井次三郎 1978 『改訂増補新版日本植物誌 顕花編』, 至文堂
 北村四郎・村田 源 1964 『原色日本植物図鑑 草本編』上, 中, 下保育社
 北村四郎・村田 源 1979 『原色日本植物図鑑 木本編』, 保育社
 中山至大・井之口希秀・南谷忠志 2000 『日本植物種子図鑑』, 東北大学出版会
 牧野富太郎 1989 『改訂増補牧野新日本植物圖鑑』, 北隆社

) 本測定は、当社協力会社・(株)吉田生物研究所にて実施した。



図版6 測定種子

第4節 花粉分析(再録)

鈴木 茂(パレオ・ラボ)

1 はじめに

花粉分析は、県立埋蔵文化財センターにより採取された調査区北側断面土壌を試料とした。この土壌試料を用いて行った花粉分析結果を示し、遺跡周辺の古植生についての検討を試みた。

2 試料と分析方法

試料は調査区北側断面の 層, a層, a層, 層 および泥炭層より採取された5試料(試料 1~5)で

表6 採取試料一覧

層位	試料番号	主な時代	層の特徴等
層	試料1	近・現代	
層		中・近世	部分的に細分
a'層		弥生~古代	
a層	試料2	縄文晩期~古墳	
b層		縄文晩期	灰ゴラがブロック状に検出されている
層		縄文中期後半~後期	
層	試料3	縄文前期末~中期前半	部分的にa~dに細分
層	試料4	縄文前期	層の一部が泥炭化している。両者は堆積状況の差で本来は同一のものとして理解
泥炭層	試料5	縄文前期	

ある。土相は粘土層を除きおおむね褐色系の粘土質砂で、泥炭層は炭片が点在する砂質の粘土である。なお 層は現表土， a層は縄文時代晩期～古墳時代の遺物包含層， a層は縄文時代中期の遺物包含層， 層は縄文時代前期の遺物包含層である。これら5試料について以下のような手順にしたがって花粉分析を行った。

試料（砂試料は湿重約15g，泥炭層試料は湿重約4g）を遠沈管にとり，10%の水酸化カリウム溶液を加え20分間湯煎する。水洗後，0.5mm目の篩にて植物遺体などを取り除き，傾斜法を用いて粗粒砂分を除去する。次に46%のフッ化水素酸溶液を加え20分間放置する。水洗後，比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い，浮遊物を回収し，水洗する。水洗後，酢酸処理を行い，続けてアセトリシス処理（無水酢酸9：1濃硫酸の割合の混酸を加え3分間湯煎）を行う。水洗後，残渣にグリセリンを加え保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作成して行き，その際サフランにて染色を施した。

3 分析結果

検出された花粉・胞子の分類群数は，樹木花粉10，草本花粉9，形態分類を含むシダ植物胞子3の総計22である。これら花粉・シダ植物胞子の一覧を表1に，それらの分布を図1に示した。なお，分布図は全花粉・胞子総数を基数とした百分率で示してあるが，下位3試料においては検出できた花粉・胞子の数が非常に少なく分布図として示せなかった。なお，表および図においてハイフンで結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示している。

検境の結果，上部2試料について分布図として示したが，これらを含め花粉化石の産出数は極めて少なかった。そのうち樹木花粉ではシイノキ属 - マテバシイ属（以後シイ類と略す）がやや目立って検出されており，アカガシ亜属が次いで多く観察されている。その他サンショウ属やモチノキ属，ムクロジ属などが検出されている。草本類ではヨモギ属やこのヨモギ属を除くキク亜科およびタンポポ科といったキク科植物が多く得られている。また試料 1でイネ科やアブラナ科がやや多く観察されており，同試料より1個体のみであるがアリノトウグサ属が認められている。さらに試料 2では単条型胞子がやや多く検出されている。

4 古植生について

上記したように，分布図として示した試料を含め検出できた花粉化石数は分類群数とともにかなり少なく，分解・消失してしまっている花粉も多いように思われる。よって分布図に示されている結果がそのまま当時の植生を反映しているかどうかについては疑問である。その中

上位2試料においてシイ類やアカガシ亜属がやや目立って検出されており，これらの時期において遺跡周辺ではシイ類やアカガシ亜属を主体にヤマモモ属やモチノキ属などを交えた照葉樹林が成立していたと推測されよう。その他マツ属複維管束亜属（アカマツやクロマツなどのいわゆるニヨウマツ類），スギの二次林や植林，ニレ属 - ケヤキ属，ムクロジ属などの落葉広葉樹林も一部に成立していたことが考えられよう。

一方低地部では現在水田稲作が行われており，その影響でイネ科花粉がやや目立って検出されているものと思われる。またアリノトウグサ属も水田雑草の可能性が考えられる。多く検出されているのはキク科であり，自然堤防上や水田周辺の畦などに生育していたことが推測されよう。また試料 1においてアブラナ科が他試料に比べやや高い出現率を示している。現時点においてその形態から種までの分類は難しいのが実状であるが，アブラナやダイコンなどの栽培種に由来する花粉である可能性もあり，今後の課題としたい。さらにシダ植物胞子が上位試料で多産しており，自然堤防上に多く生育していたとみられるが，花粉に比べ胞子は分解作用に比較的強い性質があることから，やや誇張されている可能性も考えられる。

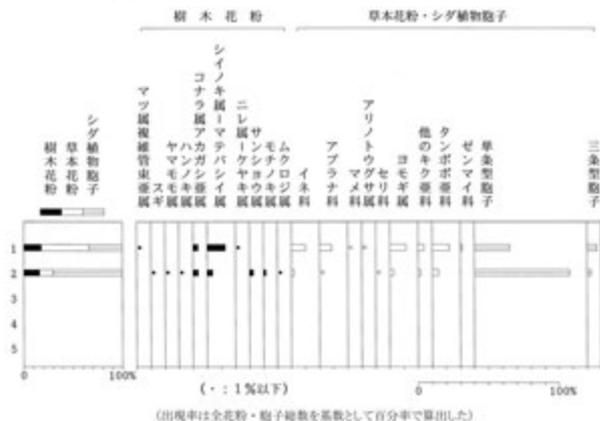
なお下部試料の堆積期については花粉化石がほとんど得られていないことから当時の植生については言及できなかった。

5 おわりに

試料5は泥炭質でありながら花粉化石はほとんど検出されなかった。写真図版で示したように細かな植物遺体は多く認められるものの花粉化石はほとんど観察されていない。珪藻分析結果をみると付近において流水の影響が考えられており，それが要因となってこのような結果になった可能性が推察される。すなわち微小な花粉粒は流され，大きめな植物遺体のみが残り，その後の陸域化により僅かに残った花粉もその多くが分解・消失してしまったことが考えられる。一般に花粉は丈夫な外幕を持っていることから頑丈であると言われているが，紫外線や土壌バクテリアなどによって容易に分解されてしまう。しかしながらこれらから守られる湿地や池・海などの水域では良好な状態で保存される。珪藻分析結果を通してみると，2～4において珪藻化石はほとんど得られておらず，他の試料においても陸生珪藻が主体となっており，各時期を通してあまり水がついていた環境ではなかったことが考えられている。このことから全試料を通して花粉化石が良好な状態で保存される環境ではなかった可能性が推察され，上記したような花粉化石の検出数や分類群数の少ない結果になったと推察される。

表7 花粉一覧表

A 分布図



B 花粉化石一覧

和名	学名	1	2	3	4	5
樹木						
マツ属短葉松亜属	<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	1	-	-	-	-
スギ	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don	-	1	-	-	-
ヤマモモ属	<i>Ryrica</i>	-	1	-	-	-
ハンノキ属	<i>Alnus</i>	-	1	-	-	-
コナラ属アカガシ亜属	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	5	4	-	-	-
シイノキ属マテバシイ属	<i>Castanopsis - Passania</i>	18	4	-	-	-
ニレ属ケヤキ属	<i>Ilmau - Zelkova</i>	1	-	-	-	-
サシユウ属	<i>Zanthoxylum</i>	-	3	-	-	-
モトノキ属	<i>Ilex</i>	-	2	-	-	-
ムクロジ属	<i>Sapindus</i>	-	1	-	-	-
草本						
イネ科	Gramineae	14	2	-	-	1
ギヤウリグサ科	Cyperaceae	-	-	-	-	2
アブラナ科	Cruciferae	12	1	-	-	-
マメ科	Leguminosae	1	-	-	-	-
アリノトウグサ属	<i>Haloragis</i>	1	-	-	-	-
セリ科	Umbelliferae	-	1	-	-	-
ヨモギ属	<i>Artemisia</i>	16	3	-	-	-
他のキク亜科	other Tubuliflorae	6	2	-	-	-
タンポポ科	Liguliflorae	17	5	-	-	-
シダ植物						
ゼンマイ科	Osmundaceae	2	-	-	-	-
単葉型孢子	Monolete spore	35	71	-	-	12
三葉型孢子	Trilete spore	10	5	-	-	12
樹木花粉	Arboreal pollen	25	17	0	0	0
草本花粉	Nonarboreal pollen	67	14	0	0	3
シダ植物孢子	Spores	47	74	0	0	24
花粉・孢子総数	Total Pollen & Spores	139	105	0	0	27
不明花粉	Unknown pollen	47	19	0	0	2

第5節 珪藻化石群集分析(再録)

黒澤 一男(パレオ・ラボ)

1 はじめに

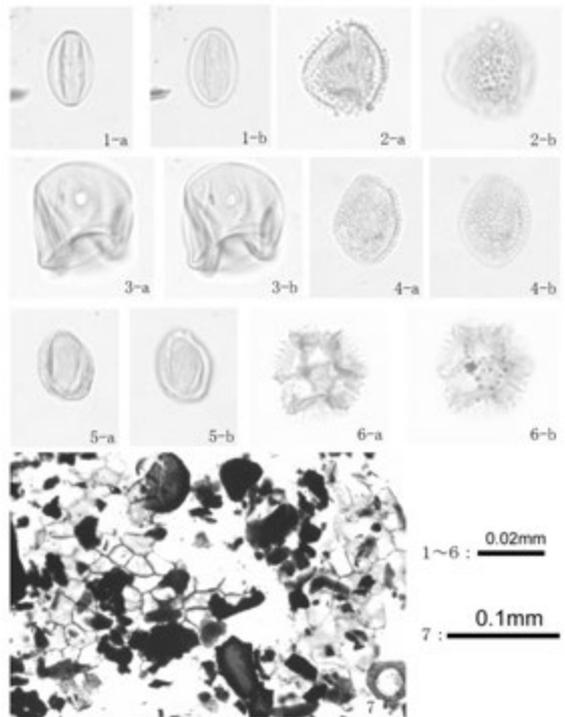
珪藻は淡水から海水に至るほとんどすべての水域に生息し、水域生態系の一次生産者として重要な位置を占めている。微小(0.01~0.5mm程度)ながら珪酸体からなる殻を形成するため、化石として地層中によく保存される。また種類ごとに様々な水域に適応し生息するため古環境の指標としてもよく利用されている。

ここでは、上水流遺跡より採取された試料を用いて珪藻化石群集を調べ、その堆積環境について検討する。

2 試料及び分析方法

分析には、上水流遺跡北側断面から採取された計5試料(前節の花粉分析採取地点と同一)を用いて、以下の珪藻分析をおこなった。

試料を湿潤重量で約1~3g程度取り出し、秤量した後にトールピーカーに移し、30%過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。



図版7 花粉化石

反応終了後、水を加え、1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てた。この作業は上澄み液が透明になるまで7回以上繰り返し行った。

ピーカーに残った残渣は遠心管に回収した。

マイクロピペットを用い、遠心管から適量を取り、カバーガラスに滴下し、乾燥した。乾燥後にマウントメディア(封入剤)で封入し、プレパラートを作成した。

各プレパラートを光学顕微鏡下400~1000倍で観察し、珪藻化石200個体以上について同定・計数を行った。なお、珪藻化石が少ない試料に関してはプレパラート全面について精査した。

3 珪藻化石の環境指標種群について

珪藻化石の環境指標種群は、主に小杉(1988)および安藤(1990)により設定された環境指標種群に基づいた。小杉(1988)は汽水~海水域における環境指標種群、安藤(1990)は淡水域における環境指標種群を設定した。なお環境指標種群以外の珪藻種については、淡水種は広布種として、海水種と汽水種は不明種として扱った。また、破片であるため属レベルで同定した分類群は不明種として扱った。以下に小杉(1988)と安藤(1990)において設定された環境指標種群の概要を記す。

外洋指標種群(A)

塩分が35‰以上の外洋水中を浮遊生活する種群。

内湾指標種群 (B)

塩分が26~35%の内湾水中を浮遊生活する種群。

海水藻場指標種群 (C1)

塩分が12~35%の水域の海藻や海草(アマモなど)に付着生活する種群。

海水砂質干潟指標種群 (D1)

塩分が26~35%の水域の砂底に付着生活する種群。

海水泥質干潟指標種群 (E1)

塩分が12~30%の水域の泥底に付着生活する種群。

汽水藻場指標種群 (C2)

塩分が4~12%の水域の海藻や海草に付着生活する種群。

汽水砂質干潟指標種群 (D2)

塩分が5~26%の水域の砂底に付着生活する種群。

汽水泥質干潟指標種群 (E2)

塩分が2~12%の水域(塩性湿地など)の泥底に付着生活する種群。

上流性河川指標種群 (J)

河川上流の渓谷部に集中して出現する種群。

中~下流性河川指標種群 (K)

中~下流域,すなわち河川沿いの河成段丘,扇状地および自然堤防,後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群。

最下流性河川指標種群 (L)

最下流域の三角州の部分に集中して出現する種群。

湖沼浮遊性指標種群 (M)

水深が1.5m以上で,水生植物が水底には生息していない湖沼に生息する種群。

湖沼沼沢湿地指標種群 (N)

湖沼における浮遊生種としても,沼沢湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ,湖沼・沼沢湿地の環境を指標する可能性が大きい種群。

沼沢湿地付着生指標種群 (O)

水深が1m内外で,植物が一面に繁茂しているところおよび湿地において付着状態で優勢な出現が見られる種群。

高層湿原指標種群 (P)

ミズゴケを主とした植物群落および泥炭地の発達が見られる場所に出現する種群。

陸域指標種群 (Q)

前述の水域に対して,陸域を生息域として生活している種群(陸生珪藻)。

4 珪藻化石群集の特徴(表8)

本研究において検出された珪藻化石は,海水種が5分類群5属5種,汽水種が3分類群3属3種,淡水種が76分類群23属60種3亜種である。これらの珪藻種から設定された環境指標種群は,海水種が3種群,淡水種が広布

種を含め5種群である。これら環境指標種群の出現状況より,3帯の珪藻化石分帯に区分される。以下に分帯ごとにこれら種群の出現状況の特徴と堆積環境について述べる。

【帯(泥炭層)】

堆積物1g中の珪藻殻数は 2.74×10^5 個,完形殻の出現率は約45%となる。この試料からは中~下流性河川指標種群の*Achnanthes lanceolata*が特徴的に検出され,*Navicula mutica*や*Hantzschia amphioxys*などの陸域指標種群が随伴して検出されている。

これらのことから堆積環境は河川に近接する陸域環境であると推定される。

【帯(a層・a層・層)】

堆積物1g中の珪藻殻数は $6.50 \times 10^3 \sim 2.37 \times 10^4$ 個,完形殻の出現率は約26~35%と非常に低くなる。検出された珪藻殻が少なく,かつ多くが広布種であり環境指標種が少ないため,珪藻化石より環境を推定することはできない。

【帯(層)】

堆積物1g中の珪藻殻数は 1.90×10^5 個,完形殻の出現率は約65%となる。この試料からは,*Achnanthes lanceolata*などの中~下流性河川指標種群と,*Pinnularia borealis*などの陸域指標種群が検出されている。

これらのことから堆積環境は河川に近接する陸域環境であると推定される。

5 考察

上水流遺跡より採取した堆積物試料を用いて珪藻分析を行った結果について考察する。

層と泥炭層からは堆積環境を推定するのに必要な珪藻を検出することができたが,残りの3試料については十分な珪藻を検出することができなかった。これら3試料には共通していることは,完形殻の出現率が低いことと広布種の*Achnanthes crenulata*が高率に含まれていることの2点があげられる。渡辺ほか(2005)では本種が日陰を好む陰生植物であることを示唆している。陰生植物に含まれるものにシダ植物やコケ植物などが含まれ,これらの生育する環境は森林内の地表付近が想像され,3試料の堆積環境としてこのような森林環境が考えられるが,他に根拠がないため可能性を示すのにとどめる。また珪藻殻が堆積後溶解した可能性も考えられる。Murakami(1996)において珪藻殻が湿地で溶解することが報告されているが,花粉化石からは乾燥した環境下を指示する結果が得られていることから溶解の可能性は低いと考えられる。しかし珪藻殻の溶解する理由が明らかにされていないので詳細な検討はできず,可能性の示

峻にとどめる。

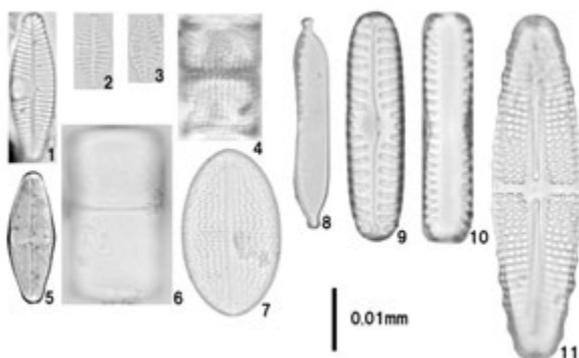
層中に見られる泥炭層の堆積環境は、河川の影響を受ける陸域環境であることが珪藻化石より推定された。通常、泥炭は湿地や水深のあまりない沼のような環境下で堆積した植物遺体より形成されるが、層中の泥炭層からは沼沢地や湿地を示す珪藻化石は高率には検出されず、なかった。湿地において珪藻殻の溶解することが報告されている（Murakami, 1996）。しかし花粉化石からは乾燥した環境下を指示する結果が得られており、矛盾が生じる。なお花粉化石は水成堆積物中では良好に保存され、乾燥した環境下では保存されにくいという特徴を持つ。このように花粉化石からも珪藻化石からも常時水分のある水域もしくは湿った環境下というのは考えにくく、これらのことを考慮すると、層中に見られる泥炭層は河川により運ばれた植物片などが集積して形成されたものと考えられる。

6 おわりに

上水流遺跡から採取された堆積物試料中の珪藻化石を検討した結果、層と泥炭層の堆積環境は、概ね陸域環境であり、河川に近接している環境と推定され、a層とa層、層の堆積環境は、乾燥した陸域環境と考えられ、日のあまりささない環境である可能性が考えられる。

引用文献

- 安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理，42，73-88．
- 小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用．第四紀研究，27，1-20．
- Murakami, T. (1996) Silicious Remains Dissolution at Sphagnum-bog of Nagano-yama Wetland in Aichi Prefecture, Central Japan. The Quaternary Research, 35, 17-23.
- 渡辺仁治・浅井一視・大塚泰介・辻彰洋・伯耆晶子（2005）淡水珪藻生態図鑑．群集解析に基づく汚濁指数DAIpo, pH耐性能．内田老鶴園．784pp．



図版8 珪藻化石写真

第6節 植物珪酸体分析（再録）

鈴木 茂（パレオ・ラボ）

1 はじめに

根より吸収された珪酸分が葉や茎の細胞内に沈積し形成された植物珪酸体（機動細胞珪酸体や単細胞珪酸体）については藤原（1976）や藤原・佐々木（1978）など、イネを中心としたイネ科植物の形態分類の研究が進められている。このような研究成果をもとに植物珪酸体分析から万之瀬川右岸の自然堤防上に立地している上水流遺跡におけるイネ科植物の古植生について検討した。

2 試料と分析方法

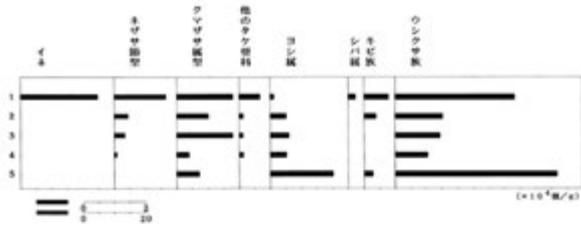
分析試料は調査区の北側断面より採取された5試料（前節の花粉分析・珪藻分析採取地点と同一）である。各試料について、試料1（層）は灰褐色のシルト混じり砂（現表土）、2（a層）は褐色のシルト混じり砂、3（層）は褐色の粘土質砂、4（層）は暗褐色の粘土質砂、5（泥炭層）は黒色の砂質泥炭質粘土で、炭片が散在している。これら5試料について以下のような手順にしたがって植物珪酸体分析を行った。

秤量した試料を乾燥後再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約1g（秤量）をトルビーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ（直径約40μm）を加える。これに30%の過酸化水素水を約20~30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により10μm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作成し、検鏡した。同定および計数はガラスビーズが300個に達するまで行った。

3 分析結果

同定・計数された各植物の機動細胞珪酸体個数とガラスビーズ個数の比率から試料1g当りの各機動細胞珪酸体個数を求め、それらの分布を第175図に示した。以下に示す各分類群の機動細胞珪酸体個数は試料1g当りの検出個数である。

検鏡の結果、試料1より多量のイネの機動細胞珪酸体が検出され、連なった状態でイネ型の単細胞珪酸体も認められた。ネザサ節型は上部に向かい増加する傾向を示し、1では160,000個を越えている。反対にヨシ属は上部に向かい減少する傾向がみられ、5では約20,000個と、機動細胞珪酸体の生産量が小さいヨシ属としては非常に高い数値を示している。ウシクサ族は1と5で多く得られており、5では50,000個を越えている。クマザサ属型は1~3で10,000個以上を示しており、キビ族は1でやや多く検出され、シバ属が同試料においてのみ観察されている。



第175図 機動細胞珪酸体分布図

4 遺跡周辺のイネ科植物

1 試料よりイネが検出されている。本遺跡周辺には現在水田が広がっており、イネの検出はこの影響が強く示されていると推測される。同試料においてキビ族が比較的多く観察されているが、その形態からアワ、ヒエ、キビといった栽培種によるものか、エノコログサ、スズメノヒエ、イヌビエなどの雑草類によるものかについて現時点においては分類できず不明である。しかしながら上記したように本試料は水田の影響が強く示されている可能性があることからこのキビ族についてはタイヌビエなど水田に関わる雑草類のキビ族ではないかと思われる。またシバ属は水田周辺の畦道などに生育していたと推測される。

この 1 試料においてネザサ節型が多量に観察されており、ウシクサ族もやや多く得られている。これらネザサ節型のササ類（ケネザサ、ゴキダケなど）やウシクサ族（ススキ、チガヤなど）は日のあたる開けたところでの生育が考えられ、花粉分析の節で推測されている照葉樹林の林縁部や空き地などに草地を形成していたとみられる（ケネザサ - ススキ群集など）。また分析結果をみるとこのネザサ節型のササ類やウシクサ族は縄文時代前期より緩やかに増加していることから、遺跡周辺において次第にその生育地を広げ、現在になって急激に分布を拡大したと推測される。またクマザサ属型のササ類（スズダケやミヤコザサなど）については森林の下草的存在で生育していたと推測される。

一方低地部では泥炭層形成期にはヨシ属が大群落を形成したとみられる。また同試料においてウシクサ族が多く検出されており、このウシクサ族はヨシ属と同じようなところに生育するオギの可能性が推測される。ヨシ属

は 2 ~ 4 においても連続して検出されている。同試料において珪藻化石はほとんど得られておらず、花粉化石も同様であることからこの時期はあまり水がついている環境ではなかったことが推測される。ヨシ属は一般には湿地や浅い水域などに生育するが、水がついていないところでも地下水位が高いところでは生育が可能である。こうしたことから 層から a 層堆積期においてヨシ属はみられたものの水環境としては、地下水位は高かったものの水は常時ついていた環境ではなかったと推察されよう。

5 まとめ

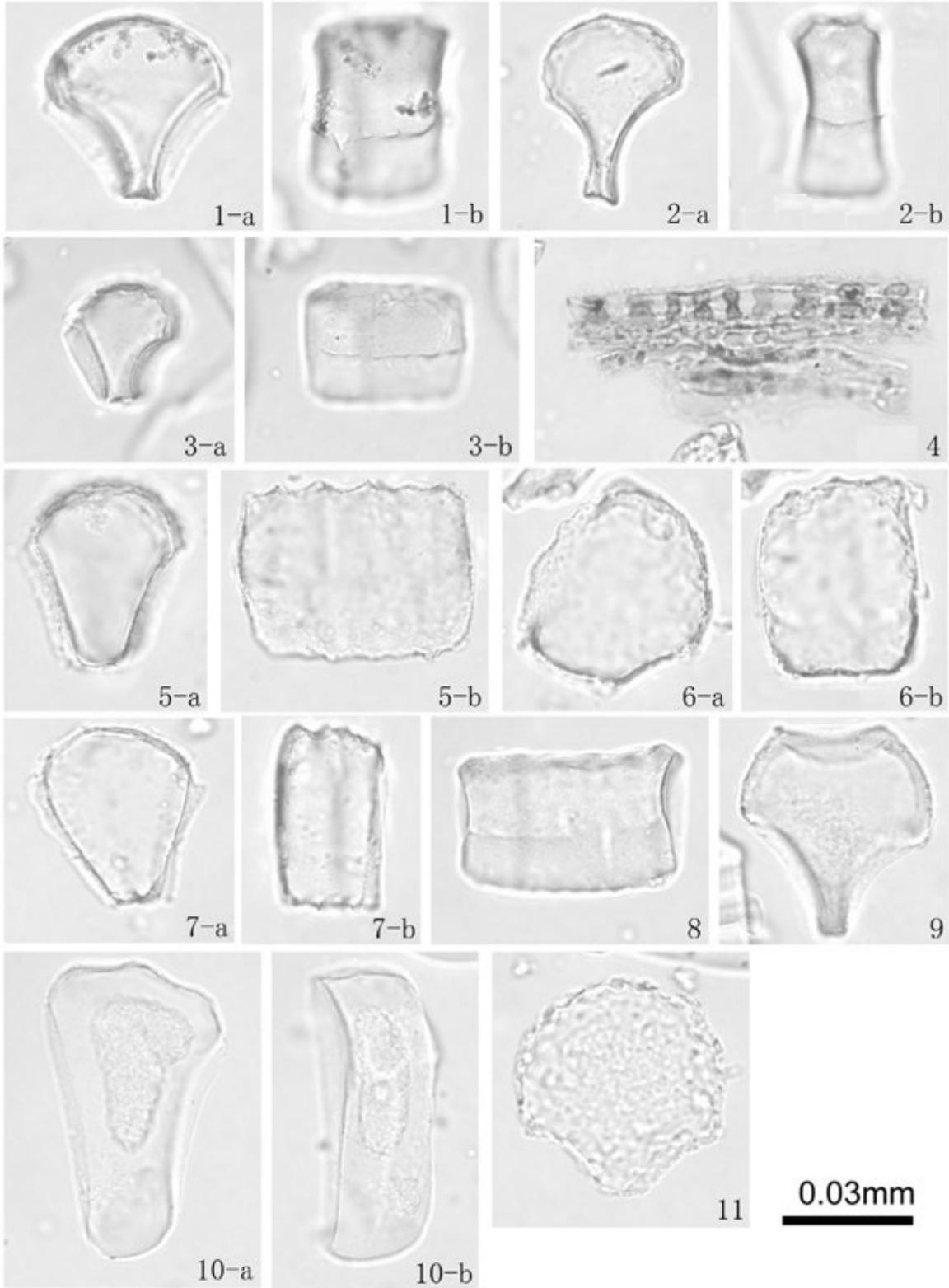
上水流遺跡周辺低地部では、泥炭層堆積期には流水の影響をうける湿地や水域の存在が推測され、ヨシ属やウシクサ族が多く生育していたとみられる。その後 a 層堆積期にかけての低地部は常時水がついた環境ではなかったことが推測され、ヨシ属は比較的地下水位の高いところに分布していたとみられる。またこの時期の遺跡周辺の自然堤防上や丘陵部にはネザサ節型のササ類（ケネザサ、ゴキダケなど）やウシクサ族（ススキ、チガヤなど）が生育しており、次第に分布を拡大したと推測される。また現在の遺跡周辺低地部では水田稲作が営まれ、水田雑草と推測されるキビ族が水田内に成育していたとみられる。また自然堤防上の空き地にはネザサ節型のササ類やウシクサ族が急速に生育地を拡大し、ケネザサ - ススキ群集といった草地を形成したとみられる。

引用文献

- 藤原宏志 1976 「プラント・オパール分析法の基礎的研究(1) - 数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法 - 」『考古学と自然科学』9, p.15-29.
- 藤原宏志 佐々木彰 1978 「プラント・オパール分析法の基礎的研究(2) - イネ (Oryza) 属植物における機動細胞珪酸体の形状 - 」『考古学と自然科学』11, p.9-20.

表9 植物珪酸体一覧表

試料番号	イネ (個/g)	ネザサ節型 (個/g)	クマザサ属型 (個/g)	他のタケ亜科 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	シバ属 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)	不明 (個/g)
1	24,700	165,300	18,000	6,700	1,100	2,200	7,900	38,200	21,400
2	0	44,400	10,100	1,300	5,100	0	3,800	15,200	11,400
3	0	34,600	17,900	1,200	6,000	0	0	14,300	10,700
4	0	9,100	3,900	1,300	5,200	0	0	10,400	9,100
5	0	0	7,200	0	20,100	0	2,900	51,700	14,400



1-3 : イネ (a: 断面、b: 側面) No.1

4 : イネ型単細胞珪酸体列 No.1

8 : キビ族 (側面) No.1

5 : ネザサ節型 (a: 断面、b: 側面) No.1

9 : シバ属 (断面) No.1

6 : クマザサ属型 (a: 断面、b: 側面) No.3

10 : ウシクサ族 (a: 断面、b: 側面) No.1

7 : 他のタケ亜科 (a: 断面、b: 側面) No.2

11 : ヨシ属 (断面) No.3

図版9 植物珪酸体写真

第6章 調査のまとめ

第1節 縄文時代前期の概要

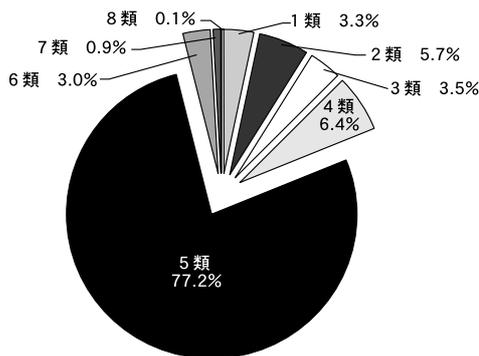
(1) 遺構について

該期の遺構としては、集石3基・土坑1基・ピット17基・焼土域4カ所・炭化物集中2カ所・集積2基が確認された。ピットについては、断ち割り作業などを行って認定していったが、これらの組み合わせによって平地式住居などの居住施設を確認するには至らなかった。

焼土域と炭化物集中のプランは概ね重なって検出されている。分析等の結果、種子炭化物はシイ属ブナ科が圧倒的に多く、その年代は ^{14}C で 5032 ± 25 年と示されている(第5章参照)。

(2) 土器について

6層から出土した土器は、器形と文様などの属性から8つの類に分類を行って報告を進めてきた。第176図は、各類ごとの出土割合を図化したものである。5類が多い



第176図 土器類別出土割合

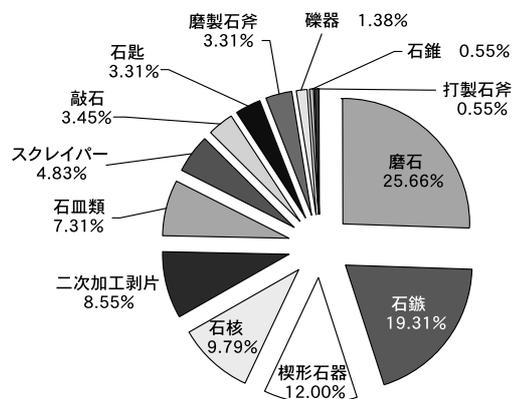
のは、胴部片を一括しているためである。これらの特徴は、いずれも沈線文を組み合わせることで文様効果を生じさせている曽畑式土器に該当する点である。6層からほぼ単独に近い状態で出土しており、ほかの土器型式をほとんど含まない。器形は、口縁部が外反し、胴部下半で下膨れ状に膨らんで丸底の底部に至る。文様は口縁部文様帯に刺突文を有するものや沈線文を有するものもあるが、口縁部文様帯を持たないものもある。胴部は沈線文の組み合わせで折帯文を意識しているものもあるが施文規則が崩れている資料も多い。このような文様の特徴などから、細分を行ってはいるがこれらの時間的な差は大きくない感じを受ける。区画を意識しているものもあるが、出土した資料の多くはその概念が崩壊あるいはその途上にあるものが多く、口縁部と胴部の文様帯としての変化が見られない3類などはその例であろう。滑石を含まない資料が圧倒的に多い点もこれを補強する。加えて、内面調整に関しても糸痕後ナデを行っている資料も少なく、古い段階の様相を呈する資料が少ないと言える

であろう。

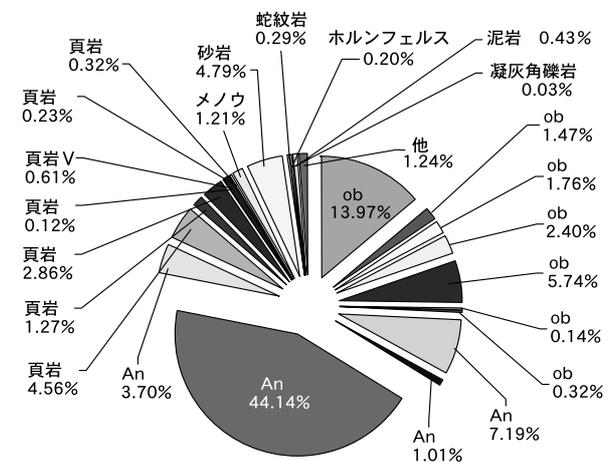
この中で、注目される点としては、248のように器高の低い資料が存在することや、78・249に代表されるような小型の土器が一定量出土しているという点である。無文土器についてもわずかではあるが出土しており、深鉢形以外に皿形を呈する資料も見られる。また、7類に位置づけた中に、609のような資料がある。出土状況は図版4- のような状態であった。口唇部に刻み目が施されている以外は無文である。胴部に関しては、粘土紐の痕跡を残しつつ、ナデによって調整が施されている。角部に関しては、粘土を貼り付けるなどの手法によってより強調させるなどしている。このような遺物に関しては、現段階で類例を示すことができていない。

(3) 石器について

6層の石器組成を第177図に示した。磨石の25%が最も高く、次に石鏃となっている。狩猟具と植物加工具が主体をしめる傾向にある。このような傾向は、鹿児島市仁田尾遺跡においても認められる(宮田編 2008)。仁田尾遺跡では、石鏃が30.5%で次いで磨石・凹石が



第177図 石器組成



第178図 石材一覧

表10 石器・剥片類一覧表

番号	器種	小計	黒曜石					安山岩					頁岩					メノウ	砂岩	蛇紋岩	ホルンフェルス	凝灰角礫岩	泥岩	その他			
1	石鏃	140	6	1	1		1	1	1	54	23	47	1		1						3						
2	石匙	24								6		10		7							1						
3	スクレイパー	35	7							1		22	1								4						
4	二次加工剥片	62	4	1		3	3			5		40		1			2				1	2					
5	楔形石器	87			1	2	4		1	6		71															2
6	石錐	4		1								3															
7	石核	71	24	1		1	3		4	8		24	3				2		1								
8	打製石斧	4								1				1	2												
9	磨製石斧	24								3				6	2	6	1			1			3				2
10	礫器	10												6	1					1		1					1
11	敲石	25												4	1	2	5					11		1			1
12	磨石	186												77	2	1	4					79					23
13	石皿類	53												22							15		1		1		14
14	剥片類・その他	2739	443	47	59	77	188	4	5	165	12	1312	20	135	34	84	3	17	8	8	33	58	7	5		15	
	合計	3464	484	51	61	83	199	5	11	249	35	1529	128	158	44	99	4	21	8	11	42	166	10	7	1	15	43

18.5%となり楔形石器14.9%と続く。比較遺跡が少ないが、概ね前期の曽畑式土器段階の特徴として指摘することができよう。

次に、石材について見てみると、第178図に示したように安山岩の利用が一定量存在していることが挙げられる。石材の質感などから、安山岩類としたものは、上牛鼻産の黒色安山岩に類似しており、石材獲得の特徴としてあげることができよう。さらに、これらの石核や剥片・チップなども一定量出土していることから、これらの石材を入手して遺跡地内で石器製作を行っていたと推察される。上牛鼻産の石材に関しては、黒曜石においても上牛鼻産が最も多く、次いで西北九州産の黒曜石が多い。安山岩もこの傾向に準じており興味深い。

なお、蛇紋岩の剥片類がわずかながら出土している。蛇紋岩製品は磨製石斧のみが出土しているが、この剥片がいかなる石器・石製品の加工途中のものなのか更なる検討を要する。第3節においても触れているが、本県の蛇紋岩産地に関してはまだまだ未解決の点も残されている。

石器の中で、特徴的なものに両極石核・楔形石器が挙げられる。岡村道雄氏の指摘以来（岡村 1976）、県内での事例も増加しており、宮田栄二氏によってまとめられている（宮田 1990）。宮田氏によると、「ピエス・エスキーユが多く出土しているのは、（中略）土器型式がより広域的な拡がりをもつ時期 南下した文化 と共通」する点を指摘し、また、形態分類も行っている。前期の石器組成に関しては宮田氏が、先述した仁田尾遺跡においても高い比率で出土している点を明らかにしている（宮田編 2008）。当遺跡出土資料は四角形状を呈する資料も多く、これも特徴の一つである。

石匙に関しては、摘み部を作出しているものとして捉えた。結果、ガラス質の石材以外にも頁岩などの素材を用いているものがここに分類されたが、石斧製作などで生じた剥片の転用とも考えられる。

磨製石斧に関しては、厚みのある資料は少ない。なお、蛇紋岩製磨製石斧に関しては、第3節に譲る。

(4) 土製・石製品

土製品としては、焼成粘土塊が出土している。焼成粘土塊は、本県においては曽畑式土器段階に比較的多く見られるもので、土器作りの際に生じたものであるとの見方もある。当遺跡の資料については、胎土分析を行っていないためにこれを証明することはできないが、肉眼観察では概ね出土土器と類似した胎土である。

石製品に関しては、2点を掲載しているが、いずれも明確にすることが出来なかった。7は全面が摩滅している以外は明確な人為的加工痕は観察されない。8に関しては、非常に微細な剥片に未完通の穿孔と側辺の線刻が施されている。今のところ類例を見ない。

引用・参考文献

- 岡村道雄1976「ピエス・エスキーユについて」『東北考古学の諸問題』東北考古学会
- 宮田栄二1990「鹿児島県下のピエス・エスキーユ」『南九州縄文通信』3 南九州縄文研究会
- 宮田栄二編2008『仁田尾遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（128）鹿児島県立埋蔵文化財センター（黒川忠広）

第2節 曽畑式土器の製作法について

当遺跡の層からは、曽畑式土器がまとまって出土している。完形品こそ少ないが、良好な状態のものが多い。その中に、土器製作の痕跡を残しているものも出土している。ここでは、これらの資料についてまとめていきたい。

はじめに、曽畑式土器製作の痕跡について研究史を見ていきたい。坂田邦洋氏は、曽畑式土器について、江湖貝塚では、「器形および文様の復元ができた」13点を見

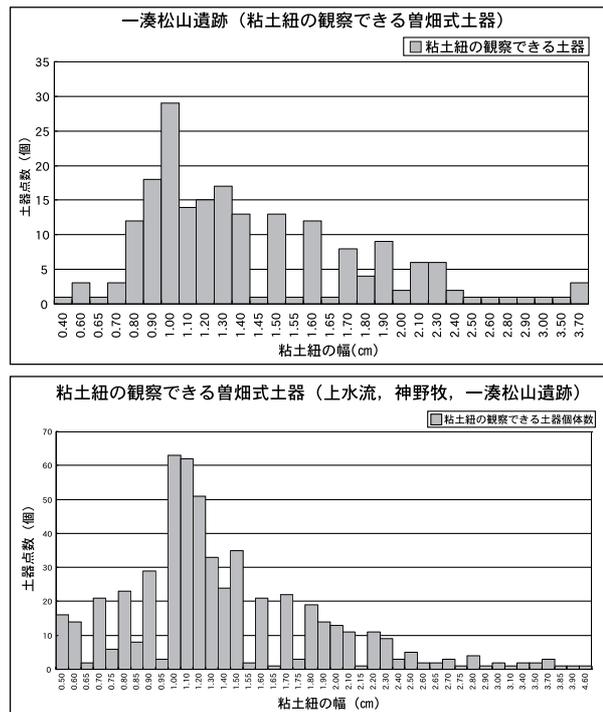
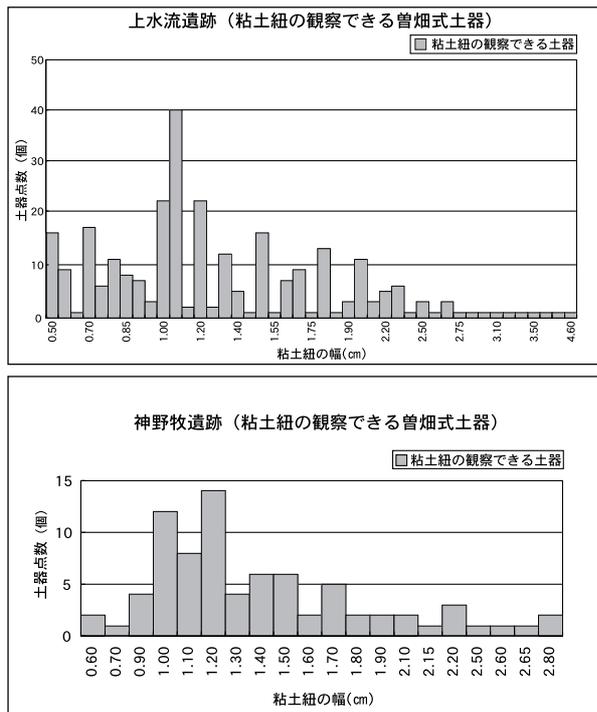
ると、実測図や「輪積みによる成形」とか、「粘土紐を積み重ねる」という記述から判断すると、すべて13点が外見から粘土紐が観察できたことを示している（坂田 1973）。また、江湖貝塚の深鉢形土器では「3～4 cm幅の粘土帯を輪積み」、壺形土器では口縁部を形成する最後の粘土帯は4.5 cm、脇岬遺跡の椀形土器では「2 cm幅の粘土帯を積み重ねて胴部および口縁部を完成する」と述べている（坂田 1975）。本県では、志布志市別府（石踊）遺跡では、「輪積み技法によると思われる接合部が認められる」と紹介されている（立神・中村 1979）。前迫亮一氏は、榎木原遺跡の曾畑式土器を説明する中で、「幅約1.5 cmの粘土帯を小刻みに接合しているのが特徴」と細い粘土紐を積み上げる特徴を指摘している（前迫 1987）。相美伊久雄氏は、仁田尾遺跡の報告の中で「接合痕で割れているものが多くそして小さく割れている印象が強く残った。これは土器制作における粘土紐の幅が狭いことが起因である可能性を指摘した（相美 2008）。堂込秀人氏は、「幅3～5 cmの粘土帯を巻き上げて制作され、底部は円盤状の粘土で成形する」と述べている（堂込 2008）。水ノ江和同氏は、「櫛目文土器には土器の製作法をはじめ（中略）関連性はほとんど見いだせず、曾畑式の出現問題は判然としない」とした（水ノ江 2008）。以上のように、幾つかの指摘がなされているが、まとまった出土例が少なく不明な点も多い。

それらを踏まえつつ、当遺跡の資料についてみていきたい。粘土紐の幅（粘土紐が観察できたもの280点）について、粘土紐の平均は1.3 cmであった。一見するとこの3倍幅のものが見受けられたが、割れ口から細かく観

察した結果、1～3本を単位にして剥落しているものであった（遺物番号22, 31, 172, 207）。これら多くは3本で、外観上1本に見える。粘土紐間の接続があまい場合、割れ口になりやすい。3本を積み上げて、時間差をもって、次が積み上げられているのであろうか。この粘土紐の積み上げ方法については、底部では、粘土を3つの方法で積み上げている。一つは、螺旋状（遺物番号589参照）に巻き上げて製作するもの。二つめは一つめと同じように螺旋状に積み上げていく時に、底部中心部の直径が2 cm程度の粘土で平らな円盤状もしくは、下方に凸型の円盤状の基部を製作し、螺旋状もしくは輪積みで粘土紐を繋げて製作（遺物番号598参照）するものも見られた。三つめは、粘土を円盤状にして、底部の基部とする。それを、ドーム状もしくは凸状（遺物番号590参照）に形成する。胴部から口縁部では、輪積みもしくは、螺旋状のいずれかで製作されている。水平もしくは斜め上方向に積み上げられている。以上のような特徴が見られた。

では、このような製作技法が普遍的に曾畑式土器に見られるのか、主な曾畑式土器出土遺跡の資料を見ていきたい。対象となる資料は、薩摩半島の一例として当遺跡を、大隅半島の曾畑式土器関連遺跡として鹿屋市神野牧遺跡、離島の曾畑式土器関連遺跡として屋久島町一湊松山遺跡である。

神野牧遺跡では、29点から接合面等の痕跡が観察できた。粘土紐の幅（粘土紐が観察できたもの）については、粘土紐の平均が1.4 cmで、一見するとこの1～3倍幅のものが見受けられるが、割れ口から細かく観察すると1



第179図 粘土紐観察結果

～2本を一塊にして製作されているものが多い。遺物番号288は、割れ口から3本確認できた。また、上水流遺跡と同様に、上下の割れ口が滑らかになっていた。次に粘土紐の積み上げ方法については、底部では上水流遺跡と同様に、螺旋状のもの、底部中心部に、直径が2cm程度の粘土で平らの円盤状もしくは、下方に凸型の円盤状の基部を製作し、螺旋状もしくは輪積みで粘土紐を繋げて製作（遺物番号384参照）するもの、粘土を円盤状にして、底部の基部とするもの（遺物番号353、372参照）が観察できた。胴部から口縁部に関して上水流遺跡と大きな相違はなかった。

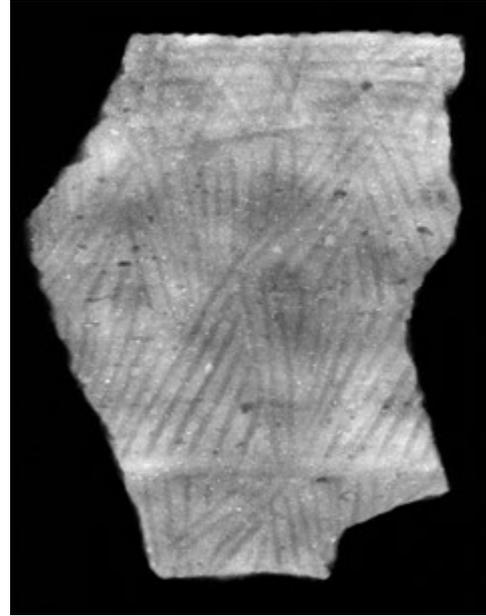
一湊松山遺跡では41点から接合面等の痕跡が確認された。粘土紐の幅については、粘土紐の平均は1.3cmで、一見すると1～3倍幅のものが見受けられるが、割れ口から細かく観察すると1～2本を一塊にして製作されている（遺物番号20、29、65、195参照）。多くは、2本で外観上1本に見える作りになっている。なお、粘土紐の積み上げ方法については、上水流遺跡と大きな相違はなかった。

以上のように、ほかの遺跡においても等しく粘土紐の痕跡が内面に多く残っていることがわかった。また、曽畑式土器に見られる製作技法の痕跡は、上水流遺跡に限らず、非滑石混入の曽畑式土器にも広く認められ、滑石混入の曽畑式土器は、その出土例が少ないということもあるが、接合痕があまり見られないという傾向があることがわかった。また粘土紐は、幅1.3～1.4cm程度を基本として製作されている点。粘土紐の積み上げ方法については、底部では、螺旋状のもの、底部中心部に、直径が2cm程度の粘土で平らの円盤状もしくは、下方に凸型の円盤状の基部を製作し、螺旋状もしくは輪積みで粘土紐を繋げて製作するもの、粘土を円盤状にして、底部の基部とするものが観察できた。胴部から口縁部では、螺旋状もしくは輪積みのいずれかで製作されている。

今回は、上水流遺跡、神野牧遺跡、一湊松山遺跡の3遺跡について曽畑式土器を製作に関する情報を収集した。結果については先述したとおりであるが、その中で幾つかの課題が浮かび上がった。1つは、一湊松山遺跡の滑石混入の曽畑式土器についてである。在地の雲母と滑石を混和剤として製作されたものと、雲母が見られず、滑石が多量に含まれているものとは前者の方が、粘土接合痕を残すものが多い点である。県外の資料を実見出来なかったため十分ではないが、粘土紐の幅や積み上げ法に大差は見いだせないが粘土接合痕を明瞭に残す特徴は、南九州の地域性の可能性も考えられるのではないだろうか。これは内面調整やそのタイミングなどの違いを示している可能性があるもうひとつは曽畑式土器の前段階と後続型式にどのような接合痕が残されているかである。残念ながら、これらに言及することはできなかった。今

後は、対象資料の幅を広げていき該期の土器研究に貢献できれば幸いである。最後に、粘土紐が確認できる土器をX線透過装置で撮影した一湊松山遺跡の遺物番号195を一例として撮影したものを示しておきたい。黒くぼんやりとくもった帯が粘土紐どうしの繋ぎ目である。

今後は粘土紐に関する研究を進めていき、曽畑式土器

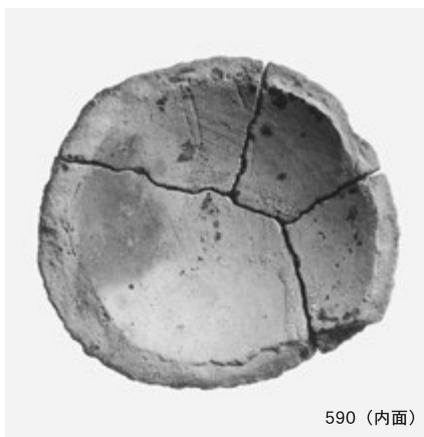
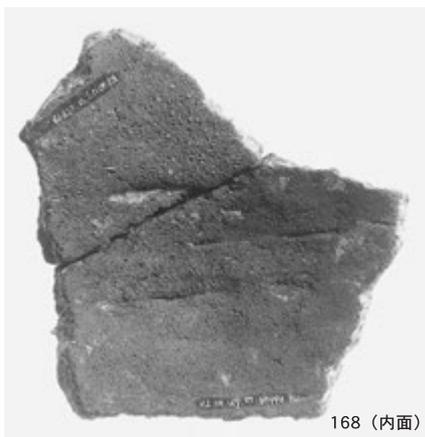
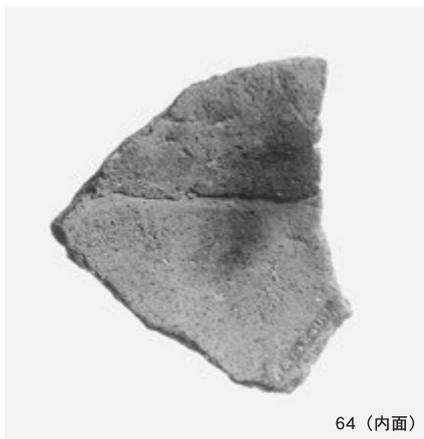


図版10 X線写真（遺物番号195）

の製作の過程から派生する諸問題を考察していきたい。また、今後本遺跡について掘り下げて考える機会が生じて来るであろう。その際、新たな研究から多岐にわたる情報を得られれば有り難い。なお、末筆であるが本稿の執筆にあたり中村耕治氏には資料の提供並びに多くの御教示を頂いた。深く感謝し、この稿を閉じたい。

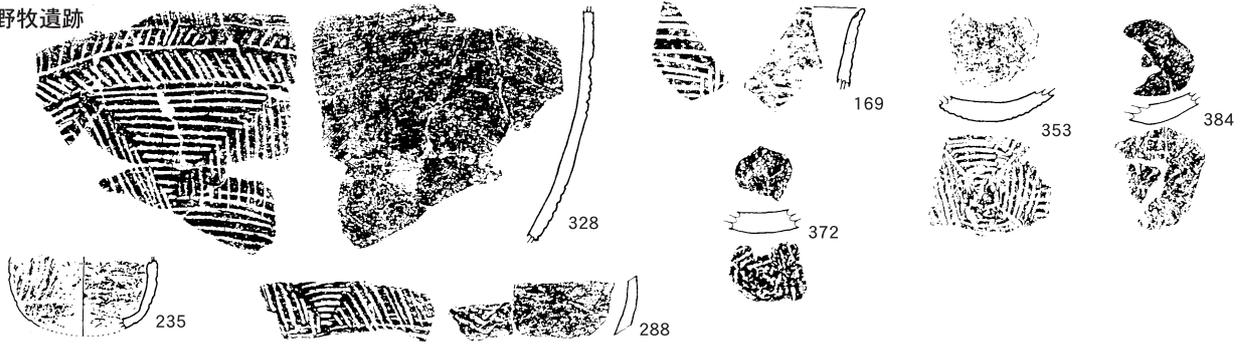
引用・参考文献

- 坂田邦洋 1973 「曽畑式土器に関する研究『江湖貝塚』長崎」 縄文文化研究会
 坂田邦洋 1974 「曽畑式土器に関する研究『尾田貝塚』長崎」 縄文文化研究会
 坂田邦洋 1975 「曽畑式土器に関する研究『曽畑式土器の器形』長崎」 縄文文化研究会
 立神次郎・中村耕治 1979 『別府（石踊）遺跡』志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書
 前迫亮一 1987 「1 縄文時代の出土遺物」『榎木原遺跡』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(44)
 堂込秀人 2008 「曽畑式土器」『総覧 縄文土器』
 水ノ江和同 2008 「九州地方・南島」『縄文時代の考古学2 歴史のものさし』同成社
 相美伊久雄 2008 「縄文時代前期の遺跡と遺物」『仁田尾遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(128)
 (木之下悦朗)

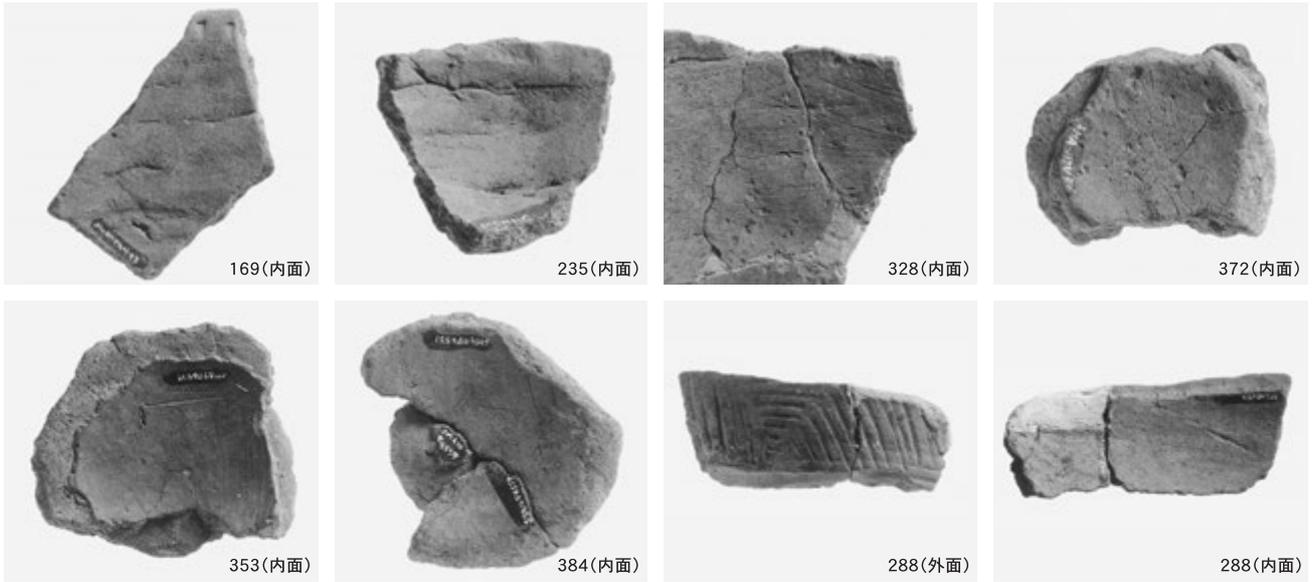


图版11 粘土接合痕（上水流遺跡）

神野牧遺跡

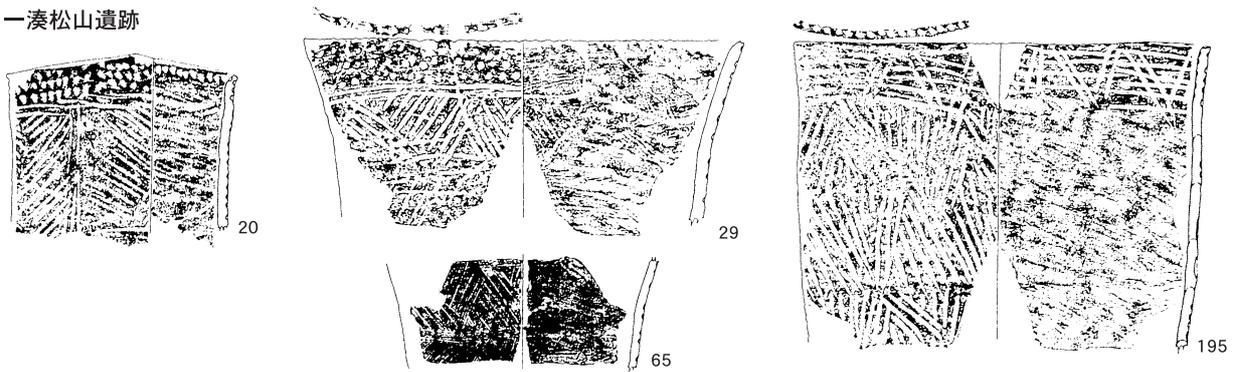


第180図 神野牧遺跡遺物実測図

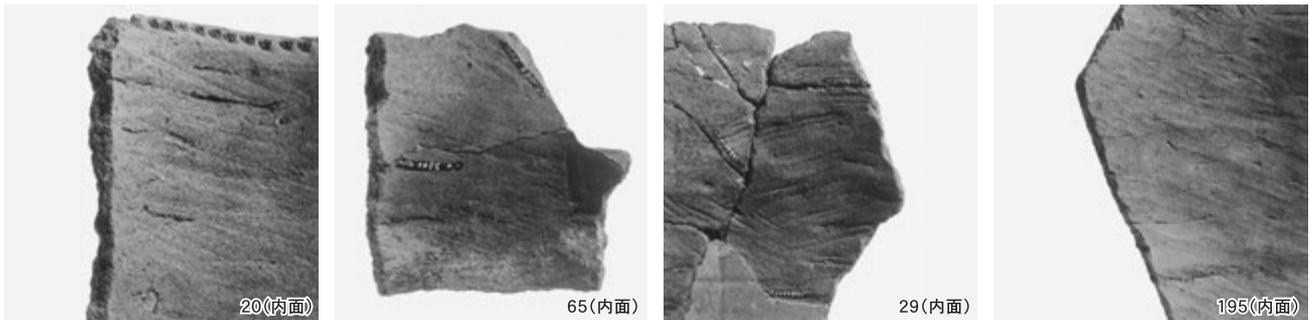


図版12 粘土接合痕（神野牧遺跡）

一湊松山遺跡



第181図 一湊松山遺跡遺物実測図



図版13 粘土接合痕（一湊松山遺跡）

第3節 縄文時代における蛇紋岩製石斧について

(1) はじめに

上水流遺跡の縄文時代前期の石斧については先述したとおりである。これらを構成する石材については、表1に示すが、この中で注目すべき石材としては蛇紋岩が挙げられる。蛇紋岩は確認されている産地は極めて限られており、上水流遺跡の酋畑式土器段階では石斧の内13%が蛇紋岩である点や、剥片が極めて少ないことが確認されている。このことから、該期の交流の一端を示す資料であると考え、縄文時代における県本土の蛇紋岩製磨製石斧の出土遺跡を中心に以下に考察を加えたい。

(2) 蛇紋岩とは

蛇紋岩は、暗緑色から黄緑色の岩石で、蛇の皮の模様 に似ていることから名付けられた。地学的には蛇紋石を主成分とする岩石を蛇紋岩という。蛇紋石は $Mg_3Si_2O_5(OH)_4$ の化学組成を持つ鉱物族であることから蛇紋岩はマグネシウムを大量に含んだ岩石であることが分かる。また、クロムやニッケルを含んでいることが多い。このうちニッケルは時として植物の生育に障害を与えたり、マグネシウムは植物の水分吸収能力を低下させたりすることがあり、蛇紋岩地帯の植生は低い海拔高度でも高山植物群を有するなど特異な植物群から成っていることが多い。また、蛇紋岩の周辺部には、まわりの黒色片岩との間に成分の交換作用が働き滑石帯、絹雲母・緑泥石帯、曹長石帯などの規則的な種々の変成鉱物の集合帯が形成されることがある。本遺跡及び周辺遺跡でも、石鍋をはじめ滑石製品が多数出土していることから、蛇紋岩の産地同定と合わせ関連を探る必要性を感じる。

(3) 蛇紋岩原産地及び蛇紋岩製石斧出土遺跡の分布

これまで、県内において蛇紋岩を扱った論考は少なかったが、石器原産地研究会において九州島内を対象として各県の動静がまとめられ、その中で星野一彦氏と國師洋之氏によって、「蛇紋岩製の磨製石斧は、中期頃から晩期まで点数は少ないものの出土」している現状が紹介された。また、「薩摩半島北部の出土が多い」とも指摘されている(星野・國師 2005)。ただし、頻繁に出土せず、また原産地も上述のとおり現在知られている範囲では県内でも限られていることもあり、報告書等ではたびたび注意が促されている。

蛇紋岩の原産地においては県内では薩摩半島の川辺町八瀬尾滝周辺、同じく薩摩半島南西部の野間半島の狭いエリアにおいて分布が確認されているが、大隅半島周辺での産地は知られていない。離島では徳之島町剝岳の麓(三京へ通じる林道)でも採集できる。最近、さつま町の鍋山周辺に滑石の分布が確認でき、蛇紋岩の分布も考えられる。隣県では、臼杵・八代構造線のなかに産地が確認されている。

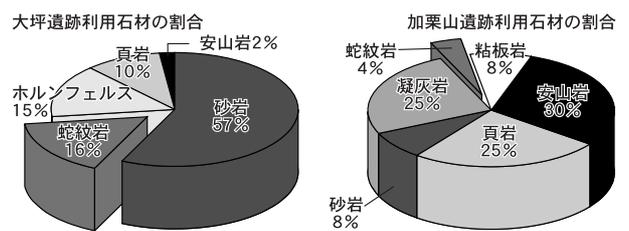
第182図は、筆者が知り得た「蛇紋岩製磨製石斧出土

遺跡分布図」である。この資料からも星野・國師の両氏が指摘するように1つ目のエリアとして県北に出土遺跡が比較的集中することがうかがえる。また、錦江湾周辺を2つ目のエリアとしながら薩摩半島においては全域に広がっているが、特に南薩に集中している。更に本遺跡同様南薩の中山遺跡(南さつま市)からも蛇紋岩の剥片が出土しており注目したい。一方で、大隅半島においては中央部にやや集中区が見て取れるが、全体的に出土例が少ない。遺跡数の少なさは否めないが、先に挙げた原産地からの距離との関連性も考えられる。

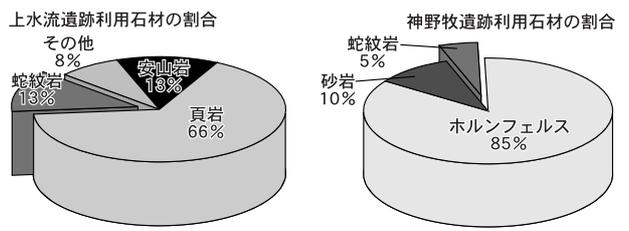


第182図 蛇紋岩製磨製石斧出土遺跡分布図

【北薩・大坪遺跡】後～晩期) 【中央部・加栗山遺跡】早期)



【南薩・上水流遺跡】前期) 【大隅・神野牧遺跡】前期)



第183図 磨製石斧利用石材の割合

第183図は、「地域別の主な遺跡における磨製石斧利用石材の割合」を示すグラフである。

表11 遺跡一覧表

① 蛇紋岩及び緑色石材を用いた磨製石斧出土遺跡

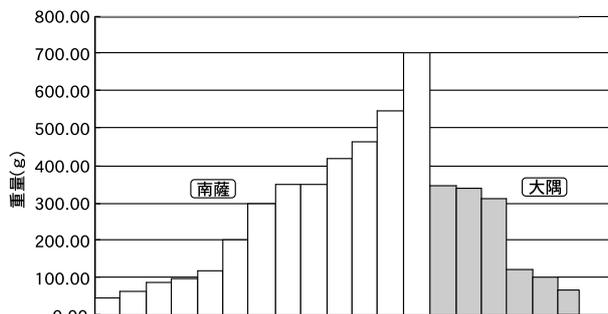
遺跡名	所在	石材	器種	全長(㎝)	最大幅(㎝)	最大厚(㎝)	幅厚比	重量(g)	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期
上野原遺跡	霧島市国分上野原	蛇紋岩	磨製石斧	6.10	5.20	1.80	2.89	61.70						
上野原遺跡	霧島市国分上野原	緑色片岩	磨製石斧	13.70	4.90	2.40	2.04	239.00						
上野原遺跡	霧島市国分上野原	蛇紋岩	磨製石斧	(1.50)	(2.80)	(0.40)	7.00	(1.50)						
加葉山遺跡	鹿児島市	磨製石斧	磨製石斧	6.10	3.50	1.20	2.92	39.00						
窪見ノ上遺跡	日置市吹上	蛇紋岩	石斧	6.80	3.80	1.70	2.24	44.50						
尾ヶ原遺跡	南さつま市金峰	磨製石斧	磨製石斧	12.70	5.50	2.30	2.39	700.00						
神野牧遺跡	鹿屋市被川	蛇紋岩	磨製石斧	13.30	4.65	3.60	1.57	337.50						
南田代遺跡	南九州市川辺	蛇紋岩	磨製石斧	9.90	5.16	1.50	2.77	85.50						
上水流遺跡3	南さつま市金峰	蛇紋岩	磨製石斧	9.80	5.60	1.30	4.31	117.90						
上水流遺跡3	南さつま市金峰	蛇紋岩	磨製石斧	12.00	3.60	1.40	2.57	95.10						
上水流遺跡3	南さつま市金峰	蛇紋岩	磨製石斧	16.50	8.30	2.30	3.61	464.00						
松山山西遺跡	鹿児島市根木原	磨製石斧	磨製石斧	9.05	4.50	1.65	2.73	98.10						
西原遺跡	日置市伊集院	蛇紋岩	磨製石斧	(3.55)	(2.50)	(0.70)	3.57	(6.04)						
出水貝塚	出水市中央	蛇紋岩	磨製石斧	9.10	4.80	1.50	3.20	100.00						
一本松遺跡	霧島市福山	蛇紋岩	小型石斧	8.50	4.20	1.80	2.33	86.20						
一本松遺跡	霧島市福山	蛇紋岩	大型石斧	8.90	4.90	1.50	3.27	131.30						
江内貝塚	出水市高尾野	蛇紋岩	小型磨製石斧											
中原遺跡	始良郡始良町	磨製石斧	磨製石斧	8.90	4.20	1.90	2.21	115.00						
山ノ中遺跡	鹿児島市西別府町	蛇紋岩	ノミ形磨製石斧	8.79	5.28	1.88	2.81	107.05						
山ノ中遺跡	鹿児島市西別府町	蛇紋岩	ノミ形磨製石斧	9.47	4.35	1.29	3.37	105.89						
山ノ中遺跡	鹿児島市西別府町	蛇紋岩	ノミ形磨製石斧	(5.15)	(3.55)	(1.15)	3.09	(27.30)						
山ノ中遺跡	鹿児島市西別府町	蛇紋岩	ノミ形磨製石斧	9.98	2.41	2.06	1.17	74.45						
山ノ中遺跡	鹿児島市西別府町	蛇紋岩	ノミ形磨製石斧	9.65	3.03	1.61	1.88	70.87						
山ノ中遺跡	鹿児島市西別府町	蛇紋岩	石斧	6.02	4.56	1.51	3.02	57.96						
山ノ中遺跡	鹿児島市西別府町	蛇紋岩	石斧	12.59	7.90	4.33	1.82	710.00						
山ノ中遺跡	鹿児島市西別府町	蛇紋岩	石斧	8.42	4.01	1.97	2.04	90.94						
大牟田遺跡	大口市下殿大牟田	蛇紋岩	磨製石斧	10.50	6.00	2.90	2.07	246.00						
大牟田遺跡	大口市下殿大牟田	磨製石斧	磨製石斧	(5.40)	(3.40)	(0.40)	8.50	(10.50)						
山崎A遺跡	湧水町栗野	蛇紋岩	磨製石斧	(3.10)	3.70	13.00	0.28	(20.20)						
干迫遺跡	始良郡加治木町	蛇紋岩	磨製石斧	(6.30)	1.50	1.30	1.15	19.94						
干迫遺跡	始良郡加治木町	蛇紋岩	磨製石斧	(6.20)	2.80	0.60	4.67	28.25						
楠元遺跡	薩摩川内市	石斧	石斧	(7.10)	1.95	1.75	1.11	40.54						
野田島遺跡	出水市野田	蛇紋岩	局部磨製石斧	9.50	4.20	1.60	2.63	91.00						
大坪遺跡	出水市	磨製石斧	磨製石斧	12.94	6.02	2.27	2.65	264.00						
大坪遺跡	出水市	磨製石斧	磨製石斧	15.70	6.10	4.05	1.51	545.00						
大坪遺跡	出水市	磨製石斧	磨製石斧	17.57	4.20	1.52	2.76	65.00						
大坪遺跡	出水市	磨製石斧	磨製石斧	8.20	4.60	0.72	6.39	48.00						
大坪遺跡	出水市	磨製石斧	磨製石斧	8.10	3.78	1.46	2.59	70.00						
大坪遺跡	出水市	磨製石斧	磨製石斧	6.08	2.93	1.20	2.44	36.00						
大坪遺跡	出水市	磨製石斧	磨製石斧	5.22	2.20	1.00	2.20	19.00						
大坪遺跡	出水市	磨製石斧	磨製石斧	11.55	2.14	1.60	1.34	45.00						
尾崎B遺跡	出水市	磨製石斧	磨製石斧	9.00	5.10	1.90	2.68	130.00						
尾崎B遺跡	出水市	磨製石斧	磨製石斧	(11.50)	(7.40)	(2.70)	2.74	390.00						
帖地遺跡(縄文編)	鹿児島市喜入	磨製石斧	磨製石斧	16.00	5.50	3.40	1.62	415.26						
二浦遺跡	長島町	磨製石斧	磨製石斧	(5.30)	(2.40)	(1.40)	1.71	(60.00)						
二浦遺跡	長島町	石斧	石斧	(4.10)	(6.50)	(1.50)	4.33	(50.00)						
島巡遺跡	大口市	緑泥片岩	磨製石斧	(9.90)	(5.00)	(1.90)	2.63	(138.00)						
尾ヶ原遺跡	南さつま市金峰	磨製石斧	磨製石斧	11.60	5.90	3.10	1.90	297.50						
尾ヶ原遺跡	南さつま市金峰	緑閃片岩	磨製石斧	14.70	6.90	3.70	1.86	546.00						
諏訪牟田遺跡	南さつま市金峰	磨製石斧	磨製石斧	8.20	3.20	1.60	2.00	62.00						
上水流遺跡1	南さつま市金峰	磨製石斧	磨製石斧	12.70	6.20	2.90	2.14	350.00						
上水流遺跡2	南さつま市金峰	磨製石斧	磨製石斧	11.90	5.70	2.90	1.97	350.00						
塚ヶ段遺跡	曾於市末吉	磨製石斧	磨製石斧	7.20	4.00	1.40	2.86	65.00						
飯盛ヶ岡遺跡	鹿屋市	磨製石斧	磨製石斧	13.80	6.40	2.40	2.67	348.00						
飯盛ヶ岡遺跡	鹿屋市	磨製石斧	磨製石斧	(5.90)	2.10	1.15	1.83	(24.86)						
飯盛ヶ岡遺跡	鹿屋市	磨製石斧	磨製石斧	(9.00)	4.30	2.70	1.59	170.76						
上野原遺跡	霧島市国分上野原	磨製石斧	磨製石斧	6.00	3.00	1.20	2.50	34.40						
上野原遺跡	霧島市国分上野原	磨製石斧	磨製石斧	11.10	3.50	1.60	2.19	96.10						
上野原遺跡	霧島市国分上野原	磨製石斧	磨製石斧	(6.50)	(4.00)	(2.80)	1.43	(59.60)						
上野原遺跡	霧島市国分上野原	磨製石斧(未製品)	磨製石斧(未製品)	10.70	5.90	3.80	1.55	352.00						
山内遺跡	枕崎市	磨製石斧	磨製石斧	9.00	4.50	1.50	3.00							
霜月田遺跡	薩摩川内市	磨製石斧	磨製石斧	(4.56)	(4.16)	(2.13)	1.95	(50.00)						
沖田若戸遺跡	始良郡始良町	磨製石斧	磨製石斧	(8.10)	3.90	1.40	2.79	80.00						
沖田若戸遺跡	始良郡始良町	磨製石斧	磨製石斧	(4.90)	(4.40)	1.60	(2.75)	40.00						
下堀遺跡	南さつま市金峰	磨製石斧	磨製石斧	(2.05)	(2.80)	(0.55)	5.09	(4.30)						
諏訪ヶ原遺跡	薩摩川内市東郷	緑泥片岩	小型磨製石斧	(2.60)	(1.80)	(1.00)	1.80	4.03						
立山B遺跡	曾於郡大崎町	磨製石斧	磨製石斧	(11.49)	(7.39)	(3.99)	1.85	360.00						
立山B遺跡	曾於郡大崎町	磨製石斧	磨製石斧	(6.51)	(7.34)	(1.81)	4.06	271.00						
道下段遺跡	出水市高尾野	磨製石斧	磨製石斧	(6.50)	(5.10)	(2.50)	2.04	(119.00)						
新番所後遺跡	指宿市	緑泥片岩	磨製石斧	(4.90)	(3.25)	(1.21)	2.69	(22.00)						
石塚遺跡	霧島市隼人	磨製石斧	磨製石斧	(7.20)	(2.80)	3.20	(0.88)	(60.00)						
石峰遺跡	霧島市溝辺	磨製石斧	磨製石斧	19.70										
妻之裏貝塚	薩摩川内市	磨製石斧	ノミ状石斧	(4.40)	1.60	1.30		(14.50)						
妻之裏貝塚	薩摩川内市	磨製石斧	ノミ状石斧	(7.45)	1.80	1.35		(42.90)						
妻之裏貝塚	薩摩川内市	磨製石斧	ノミ状石斧	8.52	2.25	1.70		61.20						
妻之裏貝塚	薩摩川内市	磨製石斧	磨製石斧	13.00	4.60	2.85		280.00						
核原貝塚	垂水市柃原	磨製石斧	磨製石斧	13.40	5.20	2.90		310.00						
諏訪ヶ原遺跡	薩摩川内市東郷	磨製石斧	磨製石斧	14.70	6.30	2.20		276.00						
原田久保遺跡	鹿児島市	磨製石斧	磨製石斧	9.60	4.70	1.40		88.80						
原田久保遺跡	鹿児島市	磨製石斧	磨製石斧	7.70	4.70	1.80		111.80						
柃ノ原遺跡・第3分冊	南さつま市	磨製石斧	磨製石斧	14.05	5.60	1.95		200.70						
大龍遺跡	鹿児島市	打製石斧	打製石斧	13.10	6.10	2.10								
中尾遺跡	鹿屋市吾平	磨製石斧	磨製石斧	7.50	5.80	1.40		120.00						
中ノ丸遺跡	鹿屋市大浦	磨製石斧	磨製石斧	8.75	3.20	1.08		51.96						
向栴城跡	日置市東市来町	磨製石斧	磨製石斧	(4.30)	(6.60)	(1.50)		(62.71)						
柿内遺跡	出水市	磨製石斧	磨製石斧	(10.50)	(5.55)	(3.30)		(320.00)						
吹上小中原遺跡	日置市吹上	磨製石斧	磨製石斧	(5.00)	4.95	1.20		32.00						
城ヶ尾遺跡	霧島市福山	磨製石斧	磨製石斧	(9.26)	(5.26)	(1.88)		134.00						
原田久保遺跡	鹿児島市	磨製石斧	磨製石斧	(6.35)	6.85	2.15		(120.40)						
原田久保遺跡	鹿児島市	磨製石斧	磨製石斧	(8.05)	6.95	2.75		(305.30)						
中山遺跡	南さつま市	磨製石斧	磨製石斧	(8.10)	(7.50)	(2.75)		150.60						
中山遺跡	南さつま市	磨製石斧	磨製石斧	(2.30)	(1.45)	(0.45)		(1.90)						
中山遺跡	南さつま市	磨製石斧	磨製石斧	(2.70)	(1.50)	(0.60)		(2.40)						
核原貝塚	垂水市柃原	磨製石斧	磨製石斧	(8.20)	(3.90)	(2.70)		(97.10)						
核原貝塚	垂水市柃原	磨製石斧	磨製石斧	(9.60)	(6.00)	(3.10)		(255.00)						
核原貝塚	垂水市柃原	磨製石斧	磨製石斧	(10.20)	(4.90)	(2.90)		(190.00)						

② 蛇紋岩及び緑色石材を用いた垂飾品等出土遺跡

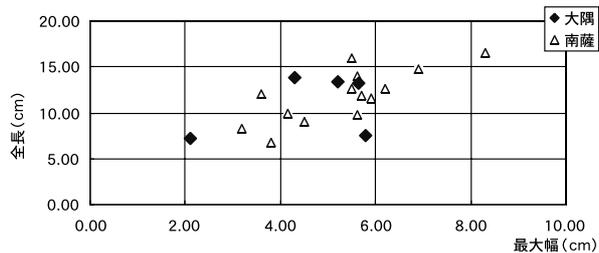
飯盛ヶ岡遺跡	鹿屋市	翡翠	管玉	0.85	0.80	0.50		0.65						
飯盛ヶ岡遺跡	鹿屋市	翡翠	管玉	1.80	1.00	1.10		2.20						
市ノ原(第1地点)遺跡	いちき串木野市市来	蛇紋岩	珠状耳飾	2.70	10.90	0.40		18.90						
市ノ原(第1地点)遺跡	いちき串木野市市来	蛇紋岩	用途不明石器	6.80	3.60	2.50		84.10						
武A・B・C遺跡	鹿児島市	磨製石斧	大珠	3.50	2.00	1.30		9.60						
市ノ原(第5地点)遺跡	日置市東市来町	磨製石斧	垂飾	(3.50)	2.00	0.30		(2.50)						
大門口遺跡	南さつま市金峰	磨製石斧	珠状耳飾	3.60	8.50	0.50		10.00						
帖地遺跡(縄文編)	鹿児島市喜入	磨製石斧	胸飾り	5.60	2.60	0.20		7.23						
鞍谷遺跡	枕崎市	磨製石斧	石製加工品	2.40	2.60	0.40		4.54						
鞍谷遺跡	枕崎市	磨製石斧	石製加工品	2.40	1.60	0.80		5.10						
鞍谷遺跡	枕崎市	磨製石斧	石製加工品	2.90	2.00	0.60		5.30						
上加工田遺跡(1)	南さつま市	磨製石斧	緑泥片岩	(12.50)	(8.40)	(1.60)		260.00						
川上(市来)貝塚2	いちき串木野市													

また、蛇紋岩製の石斧においては、産地から離れるに従い小型化していく傾向にあるという指摘もある。そこで、県内原産地に隣接する南薩と遠距離にある大隅出土の完形資料の大小を比較することにした。第184図では、両地域の重量を対比し、第185図は、長幅比（全長／最大幅）を示す。両図から、やや大隅出土のものが南薩出土のものに比べ小振りな感を受ける。しかし、資料数が結論を導き出すほど十分ではなく、蛇紋岩については、他の石材以上に科学分析による産地同定が困難であることから、今後より一層の資料の蓄積と一点一点の実見による分類とが要求される。

(4) 各時期の出土状況



第184図 南薩・大隅出土の蛇紋岩製磨製石斧重量比較



第185図 南薩・大隅出土の蛇紋岩製磨製石斧長幅比

表11は、蛇紋岩及び緑色の石材を用いた磨製石斧及び垂飾品等の出土遺跡一覧である。時期区分が明確にできない遺跡や資料もあるが、現在のところ県内遺跡では草創期における蛇紋岩製磨製石斧の出土は確認されていない。

早期に入ると加栗山遺跡（鹿児島市）から2点、窪見ノ上遺跡・尾ヶ原遺跡（南さつま市）から各1点ずつ出土している。しかも前平式土器との共伴もあり、早期前葉を示す資料も出土していることは注目に値する。また、上野原遺跡（霧島市国分）からは平椀式土器に伴う早期後葉を示す資料が3点出土している。

前期から中期にかけては時期区分が困難な遺跡が多く出土例も少ないが、本報告の上水流遺跡（南さつま市）から3点、神野牧遺跡（鹿屋市）、南田代遺跡（南九州市）からそれぞれ1点出土している。

後期に入ると、山ノ中遺跡（鹿児島市）、大牟田遺跡（伊佐市）、干迫遺跡（始良郡加治木町）等から複数点ずつ出土し、中原遺跡（始良郡始良町）、山崎A遺跡

（湧水町）、楠元遺跡（薩摩川内市）からもそれぞれ1点ずつ出土している。この時期には、出土遺跡数が増加すると共に、一つの遺跡からまとまった数で出土する傾向も見られる。

晩期でも、尾ヶ原遺跡、上水流遺跡（南さつま市）、沖田岩戸遺跡（出水市）、立山B遺跡（大崎町）からそれぞれ2点、飯盛ヶ岡遺跡（鹿屋市）から3点、上野原遺跡（霧島市国分）から4点と後期と同様に一遺跡内から複数点出土の傾向が見られる。

総括すると、後期から晩期にかけては出土量が著しく増加していることが分かり、従来からの指摘を本県でも追認できる結果が得られた。一方で、草創期には出土例がなく、早期前葉段階から晩期まで切れ目なく継続的に出土していることも指摘できる。

(5) 各時期の形状

第186～189図は、各時期の蛇紋岩と主な他石材製磨製石斧の完形資料に限り、それぞれが有する属性を比較したものである。第186図は、他石材製の「磨製石斧長幅比（全長／最大幅）」を示したものであるが、これを見ると、全長2.5～12cmで幅1.5～4.5cm、全長8.5～18cmで幅4.5～6cm、全長10～20cmで幅6～9cm程の小・中・大型に分類できるようなのである。更に、各時期ごとに見るとやはり、一定のサイズのグループ化を見せながらも、ほぼ同一の傾きをもった直線（軸）上に規則的に並ぶ傾向にあることも分かる。これは、目的や用途等に応じて大きさは変えながらも形状としては、装着や握りなどの観点から利便性を求め、一定の形状を維持しようとしたからではないだろうか。

第187図により蛇紋岩製に絞って見ると早期では、傾きおよそ「3.3」を軸に、全長6～8cm程で幅3～4cm程、全長12～14cm程で幅4～6cm程の2グループに大別できる。

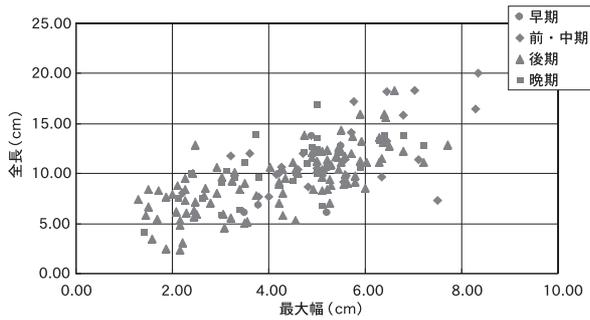
前・中期ではおよそ「1.85」を軸に、全長8～14cm程で幅3～6cm程、全長14cm以上で幅も8cmを超えるものの2グループに分類できる。

後期では、およそ「1.45」を軸に、全長5cm～12cm程で幅3～6cm程、全長8cm～12cm程で幅2～4cm程、全長12cm以上で幅も7cmを超えるものの3グループに分けられる。

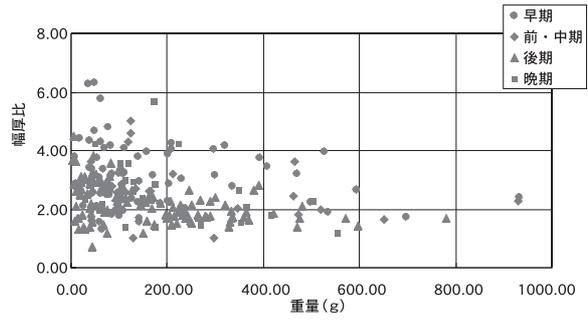
晩期では、およそ「2.1」を軸に、全長6～12cm程で幅3～5cm程、全長10～15cm程で幅5～7cm程の2グループに分類できる。

早期から前・中期、後期へと進むにつれ、傾きが次第に小さくなることから、縦長タイプから横幅の張ったものへと移行していくことが分かる。そして、晩期に入るとまた、やや縦長に落ち着くことが分かる。これは、他石材の磨製石斧の形状と一致する。

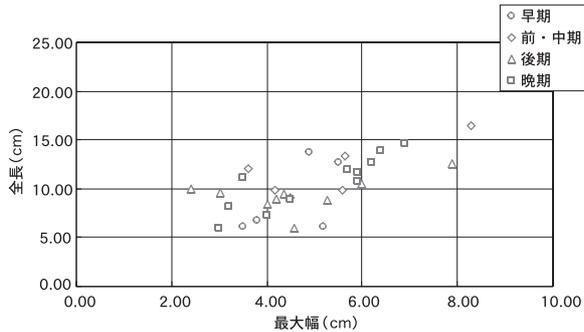
第188図は、他石材製の磨製石斧の「幅厚比（最大幅



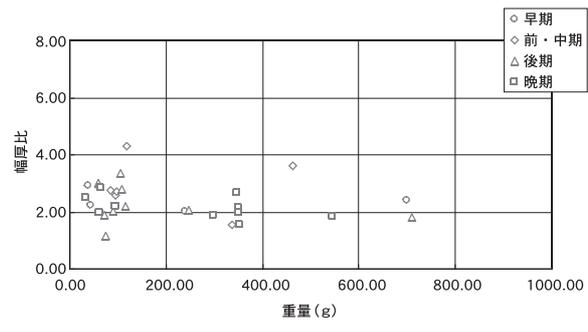
第186図 磨製石斧の長幅比



第188図 磨製石斧の幅厚比と重量の関係



第187図 蛇紋岩製磨製石斧の長幅比



第189図 蛇紋岩製磨製石斧の幅厚比と重量の関係

「最大厚」と重量の関係」を示したものである。この図から大きく次の3つのサイズに分類できる。それぞれ、小型（重量100g程を中心とし幅厚比1.0~6.0程度）、中型（重量400g程を中心とし幅厚比1.5~4.0程度）、大型（重量800g程を中心とし幅厚比1.5~2.5程度）である。また、サイズが大型化するにしたがい反比例するように幅厚比が小さくなり、幅も狭まっていく傾向にある。大型化にともない形状の画一化の傾向がうかがえ、出土数も少なくなっていくようである。これを時期ごとに概観すると、どの時期も同様に小・中型主流で、際立った差は見受けられない。

第189図の「蛇紋岩製磨製石斧の長幅比と重量の関係」からは、より一層明確に3つのサイズに分類され、基本的には他石材と一致することが分かる。

(6) まとめ

これまで、県内の蛇紋岩製磨製石斧を見てきて、おぼろげながら次のようなアウトラインが浮かんできた。

縄文時代早期から晩期まで継続的に出土し、後期から晩期にかけて出土量・遺跡数が増える。

分布は錦江湾周辺を中心としながら北薩・南薩に集中する傾向にある。大隅の出土例は少ない。

県内原産地に比較的近い南薩と遠い大隅の完形品を比較すると南薩の方がやや大型の傾向がある。

蛇紋岩剥片の出土が南薩の遺跡に見られる。

形状は他石材製のものとほぼ一致し、時期ごとの差は見受けられない。サイズは小・中型のものが主流である。

以上、稚拙ながら県内蛇紋岩製磨製石斧出土遺跡を概

観し感じたことを列記してきた。その中で、改めて今後の課題や方向性が見えてきた。蛇紋岩剥片や石斧未製品の分布に留意し原産地や石器製作過程等について考察を深めることもその一つである。また、使用痕や裂痕等に目を向け用途を追究することも必要である。何よりも各遺跡や出土品一点一点のより細かな観察・実見が重要であることは言うまでもない。

引用・参考文献

水ノ江和同 2005「縄文時代の石斧研究 - 九州を中心として - 」『Stone Sources 5』石器原産地研究会誌
 敦賀啓一郎 2005「福岡県における縄文時代の石斧 - 磨製石斧を中心に - 」『Stone Sources 5』石器原産地研究会誌
 星野一彦・國師洋之 2005「鹿児島県における縄文時代の磨製石斧と石材」『Stone Sources 5』石器原産地研究会誌
 山川統 2005「長崎県西彼杵半島一帯の変成岩および蛇紋岩について」石器原産地研究会 第6回研究集会
 上野平優紀 2005「縄文時代における蛇紋岩製磨製石斧の消長について」石器原産地研究会 第6回研究集会
 池田晋 2006「縄文時代蛇紋岩製石斧の流通」『考古学研究53-3』考古学研究会

(佐藤義明)

第4節 中・近世の上水流遺跡について

ここでは、昨年度刊行の『上水流遺跡2』で報告することができなかった中・近世の包含層出土遺物について報告する。上水流遺跡の当該時期について遺跡の概略を述べ中・近世全体の総括に変えたい。なお、昨年度刊行

分と重複する部分も少なくはないが、遺跡全体の性格を示す上で必要であるのでその点についてはご了承いただきたい。

中・近世は、その時期を代表して出土する遺物の様相からおおむね6時期にわけられる。

11世紀後半～12世紀中頃の時期の玉縁「白磁椀」

持躰松遺跡とほぼ同時期の、12世紀後半～13世紀初頭の中国龍泉窯系の劃花文「青磁椀」

13世紀中頃以降の龍泉窯系の連弁文「青磁椀」、東播磨系須恵器

14・15世紀頃の元・明の「青磁」「白磁」

15・16世紀頃の景德鎮産および漳州窯産の「青花」

16世紀末～18世紀初頭の「肥前系陶器」、「初期薩摩焼」(および朝鮮系陶器など)

これらを概観すると、一見中世から近世にかけて連続と遺物が出土しているようにみえるが、実は断続的であ

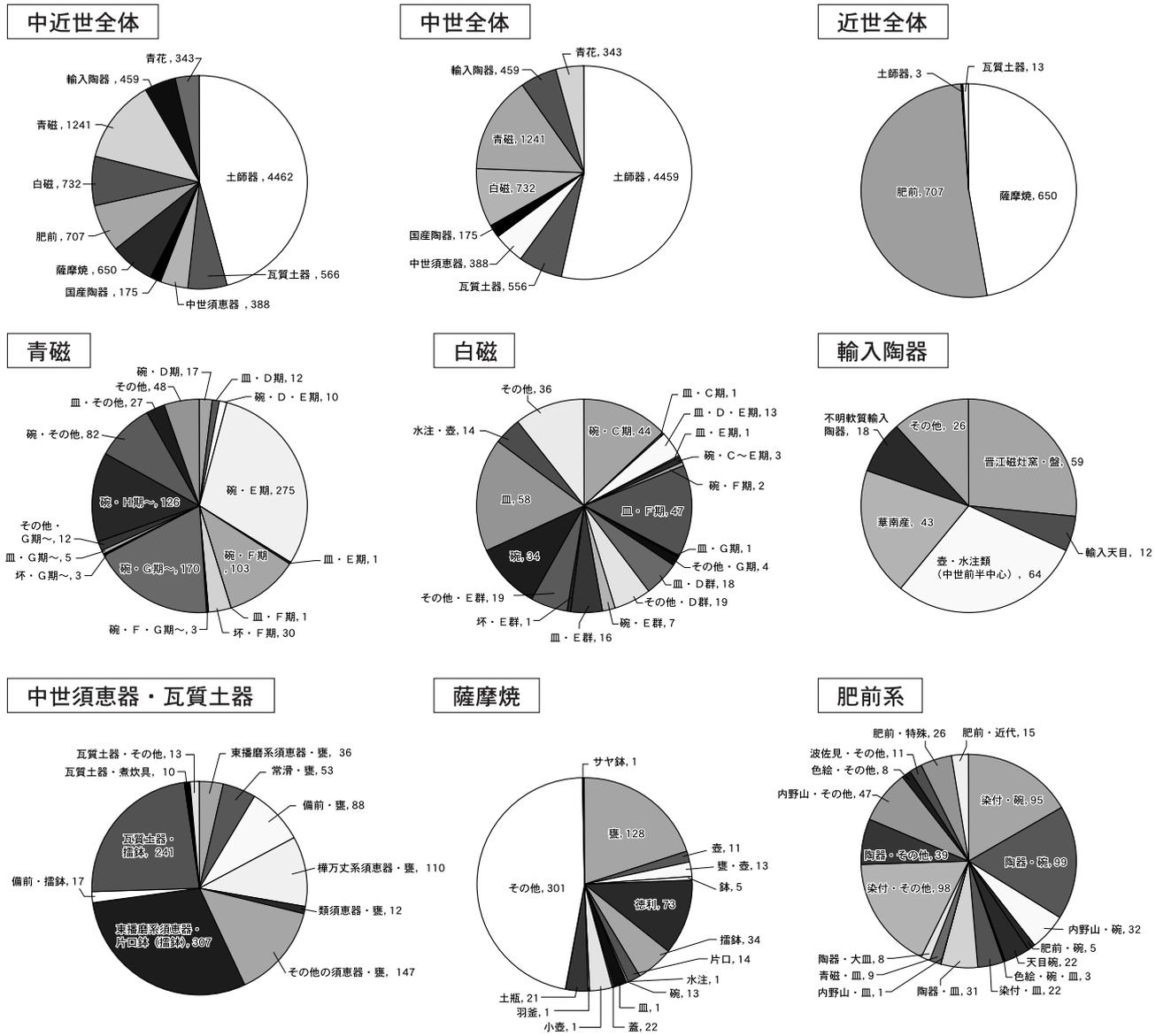
るともいえよう。特に、「元・明」の時期は「元寇」などの影響もあったことから、南北朝期の天龍寺船以外には公的な貿易が途絶えている時期であるので注目される。

本遺跡からは多くの輸入陶磁器が出土した。ここでは輸入陶磁器を中心としたおおまかな流れを示したい。

万之瀬川の中世遺跡として著名な持躰松遺跡はD期(13世紀前半)が主力であるが、本遺跡はC期・D期が少数でE期(13世紀中頃)以降が主力となり、特に陶磁器の量ではE・F期がメインとなる。F期の龍泉窯系青磁は、地方においては多い方である。G期(註1)も比較的多く、福建産の(泉州タイプ)粗製青磁椀・森田C類白磁・粗製白磁椀(無釉高台のもの)などのセット関係もみられる(註2)。

以下に時期ごとの様相をまとめる。

C期：白磁皿・類(少数)



第190図 本遺跡の各組成

D期：白磁椀 類・皿 - 1類，青磁同安窯・龍泉窯系椀 類（少数）

E期：青磁龍泉窯系椀 b・a，陶器 類，鉢・ - 2類（施釉）

F期：青磁龍泉窯系椀 類・坏 - 1a，白磁 - 1・2類椀・皿，徳化窯系白磁印花唐草文碗

G期：白磁森田C類，青磁泉州タイプ・ 類大椀・小椀・皿

H期（15世紀）：白磁森田D類，青磁上田 類・B・C・D・E（倣龍泉系青磁【土龍泉】）

16世紀：青磁上田 類，白磁森田E類，青花景德鎮及び漳州窯椀・皿

他に白磁壺 類がC～F期のいずれかの時期のものである。

次に、国産のものをみてみたい。それらは、在地土器・東播磨系須恵器片口鉢（以下、東播系鉢）・備前の播鉢（15・16世紀）・備前の大甕・常滑の甕・備前を模した在地の瓦質土器播鉢・瓦質土器羽釜・フライパン形土器（焙烙・炒り具）・初期薩摩焼（主は堂平窯産）・肥前系陶磁器（染付・陶器など）などがあり、多種多様である。

註

- 1 G期に属するこれらは沖縄・東南アジアに多いものである。H期まで下る可能性も若干含む。
- 2 山本信夫氏（早稲田大非常勤准教授）の御教示による。アルファベットのついた時期区分も彼による太宰府分類のものである。なお、泉州タイプについては亀井明德氏と手塚直樹氏が指摘するものという。なお、『東アジアの海とシルクロードの拠点福建』【展示図録】（愛知県陶器資料館2008）では、類似のものが、磁灶窯出土品にみられる。

第5節 鹿児島県内出土の火打金・火打石

(1) はじめに

上水流遺跡では、中世以降のものとみられるハンガー形の鉄製品と、明確な加工痕を持たないメノウ・玉随製の石製品が出土している。

特に、ハンガー形の鉄製品については、調査時点から気にはなっていたものの、どのようなものかわからず、そのままになっていた。ある日、屋鈍遺跡（大島郡宇検村）出土鉄製品のX線写真を見る機会があり、これが上水流遺跡出土品に類似していることに気付いた。そして、藤木聡氏の論考（藤木2004）があることを知り、これが「火打金」であることを確認した。また、県内には火打石の産地が他地域と比較して多いのに反して、火打金とともにほとんど確認されていないということも確認した。

これを受け、整理事業の段階で中近世の遺構内および包含層中に存在する原石もしくは石核としていたものに

ついて、再度見直しを行った。その結果、角がつくりだされて、火打石との打撃によるとみられるつぶれがあるものを抽出することができた。つまり、火打金と火打石の両方を同じ遺跡から確認することができた。そこで、今回は県内出土遺物について見直すこととし、火打金・火打石について集成を試み、若干の考察を加えることとしたい。

(2) 県内の火打金について

藤木氏が確認した時点では、桑幡氏館跡のみであった。今回確認したところ、未報告のものも含めて10箇所で見られていることが判明した。この中には、報告書刊行済みのものもあるが、文中で「火打金」としているものは少ない。

出土傾向としては、薩摩国が8箇所、大隅国が2箇所、奄美が1箇所となっている。特に集中している薩摩国は、いずれも東シナ海側に偏っている。横川城跡（霧島市）と虎居城跡（さつま町）が内陸に位置する。

該当時期については、大島遺跡（薩摩川内市）が古代で、県内でも最古の例である（註1）。中世では、桑幡氏館跡（霧島市）・横川城跡（霧島市）・中之城跡（阿久根市）・虎居城跡（さつま町）・上野城（薩摩川内市）・持躰松遺跡（南さつま市）があるが、明確な出土状況を示すものではなく、場合によっては近世に入るものもあるかもしれない。現時点では、近世のものとして示されているのは、上ノ平遺跡（日置市）のみである。

上水流遺跡出土品は、遺物からみて中世後半～近世前半（15～18初頭頃）が想定される。

(3) 県内の火打石について

藤木氏が確認した時点では、弥勒院跡のみであった。今回確認したところ、未報告のものも含めて10箇所での出土例を確認した。この中には、報告書刊行済みのものもあるが、文中で「火打石」としているものは小倉畑遺跡のみであった。

傾向としては、薩摩国が2箇所、大隅国が2箇所となっている。また、虎居城のように内陸部の河川沿いに立地するものもあった。

時期については、弥勒院（霧島市）のものが近世とされる以外は、いずれも中世以降としかいいようがなく詳細は不明である。

(4) まとめにかえて

以上のように、火打金と火打石について県内の概観を行ったが、決して資料数が多いとはいえない状況である。人間の長い歴史の中で、「火起こし」という作業は、生きていくために重要な行為であったはずであるが、その痕跡が少ないというのは本来不思議なことである。実際のところ、不明鉄器として報告されていない可能性も考えられるし、さびにおおわれて確認できなかった場合も少なくなかったのではなかろうか。今回確認できたもの

についても報告の段階ではほとんどが性格不明の遺物として扱われていた。

藤木氏によれば、「九州の場合、縄文時代の石核として報告された火打石あるいは用途不明品とされた火打金など、火打金や火打石という遺物に対する認識の有無に大きなウェイトがあろう」という。まさに本県の資料もそれに該当するもので、今後は古代以降の遺跡から出土する鉄片や石片などについても、注意の目を向けていかなければならない。

註

(1) 藤木氏から9世紀代の可能性があるというご教示を得ている。

引用・参考文献

藤木聡2004「九州における火打石・火打金 - 資料集成と基礎的な整理 - 」『古文化談叢』第51号 九州古文化研究会

第6節 上水流遺跡出土の特徴的な遺物について

(1) はじめに

本遺跡出土遺物の中で、注目されるものがある。たとえば、東播磨系須恵器片口鉢・瓦質土器羽釜・鉄鍋・鉄製小札などで、多種多様である。ここでは、これらの注目される遺物について取り上げ若干の考察を行いたい。

(2) 東播磨系須恵器について

兵庫県の神出（神戸市）および魚住（明石市）の窯跡出土資料と実際に比較を行った。その結果、形態は生産地の13世紀代のものとほぼ同じであるが、胎土と釉薬のかかり具合が異なるもので、神出・魚住のどちらでもない可能性があることが明らかになった。具体的には、胎土が赤色と白色の層状になる点が最も異なる点といえよう。加えて、見込みや口縁部に自然釉がかかるものも目立つが、これも実見した窯跡出土資料には見つけられなかった。

また、甕についても同様にタタキとナデが全く異なることが明らかになった。タタキは、矢羽根状（あるいは綾杉状）に平行タタキを組み合わせたもので、「東播磨系」の技法に類似する。しかしながら、神出および魚住の窯跡出土資料をみる限り、本遺跡出土資料ほど丁寧には矢羽根状にタタキを行っていないことが確認された。

この事実から、本遺跡出土の東播磨系とされるものは産地不明であり、広義の「東播磨系」であるものの厳密な「東播磨産」ではないことがほぼ明らかとなった。今後、県内各地出土のものも含め再検討を行う必要がある。

ただし、窯内では様々な現象が起きており、胎土の色だけではなんともいえないのではないかとの意見もある。たとえば、焼成中になんらかの事（窯の崩落や熱の加減

など）があったため酸化してしまった結果、胎土が赤色と白色の層状となる場合もありうるという。

しかしながら、実見した窯跡資料にはそのようなものではなく、また数人の神出および魚住の窯跡調査担当者からもそのような例はこれまでにないとの意見をj得ている。いわゆる「東播磨」ではなく、その周辺（西播磨や北播磨など）や、九州を含む他の地域で生産された可能性も模索する必要がある。

(3) 榊万丈（榊番城）系須恵器について

本遺跡では、いわゆる「榊万丈」系の須恵器も出土している。榊万丈は、熊本県荒尾市の小岱山西麓で生産された須恵器で、おおむね13世紀頃のものと考えられている（吉岡1994・美濃口1997）。

県内でも数箇所出土例があり、流通品であるとされている。しかし、美濃口氏によって、有明海を越えるものではなく、かつ榊万丈ではみられない「壺形」の器形のもが鹿児島に存在するという事実が指摘されている（美濃口2007）。つまり、県内で出土する「榊万丈」系の須恵器は、「榊万丈に似て非なるもの」であるということになる。本遺跡出土品も、そのようなものである可能性が考えられる。また、美濃口氏によれば、鹿児島県西部地域に集中する傾向があり、「当該地域に同系統の須恵器窯が存在する可能性を指摘できる」という。今後、注目すべき資料となるかもしれない。

(4) 肥前の見込荒磯文染付（第191図）（上水流2に掲載）

本遺跡でも多くの肥前系陶磁器が出土しているが、その中でも注目されるのが、見込荒磯文の染付碗である。

見込荒磯文の染付は1650年代中頃～1660年代のものでされており、比較的近い年代の中国磁器がモデルとなっている。また、東南アジアなどへ向けた海外需要を強く意識した製品の中でも代表的なものであるという（野上2005）。これが本遺跡から出土しているということは、本遺跡の性格の一端を示す可能性がある。

(5) その他

上記の遺物以外に、注目される遺物には鉄製品がある。

本遺跡からは、鉄鍋片とみられる鑄造鉄器片が出土している。口縁部などの特徴的な部位はなく、器形や部位などは不明である。

周辺では、上加世田遺跡で良好な出土例があるので関連があるかもしれない。今回は触れることができなかったが、こわれた鉄鍋片を用いて農具などに再加工される場合も他の地域では多くみられることから、鉄生産とも関連する可能性もあるので、今後注目すべき遺物であるといえよう。

また、鉄製小札や雁股鏃などの武具・武器も出土している。これは甲冑の部品の一部であるが、島津忠良による戦い（註1）も周辺で行われていることから、関連す

表12 鹿児島県内出土の火打金

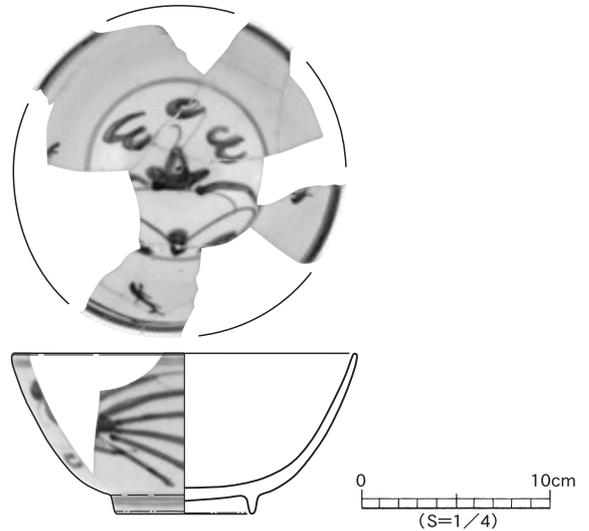
遺跡名	所在地	出土遺構	備考
桑幡氏館跡	霧島市隼人町神宮二丁目字川上	56号土坑	旧57号土坑含む、中世
上野城跡	薩摩川内市百次町字上野	-	中世か
大島	薩摩川内市東大小路町	-	9世紀頃か?
上ノ平	日置市伊集院町下神殿字上ノ平	-	近世
横川城跡	霧島市横川町中ノ字城山	-	中世か
中之城跡	阿久根市山下字鳴川	ピット6	中世か
屋鈍	大島郡宇検村字屋鈍	-	中世か
虎居城跡	さつま町虎居	-	中世か、未報告
持躰松	南さつま市金峰宮崎字持躰松	-	中世か
渡畑	南さつま市金峰宮崎字渡畑	-	中世か、未報告
上水流	南さつま市金峰花瀬字上水流・森山	-	中世と近世か

表13 鹿児島県内出土の火打石

遺跡名	所在地	出土遺構	備考
弥勒院	霧島市隼人町内字堀之内	-	近世(18~19世紀)、未報告
柵城跡	いちき串木野市上名字門前ほか	-	中・近世、未報告
小倉畑	始良町西持田字小倉畑	-	中・近世、蔵王岳産珪質頁岩およびチャート
虎居城跡	さつま町虎居	-	中世か、未報告

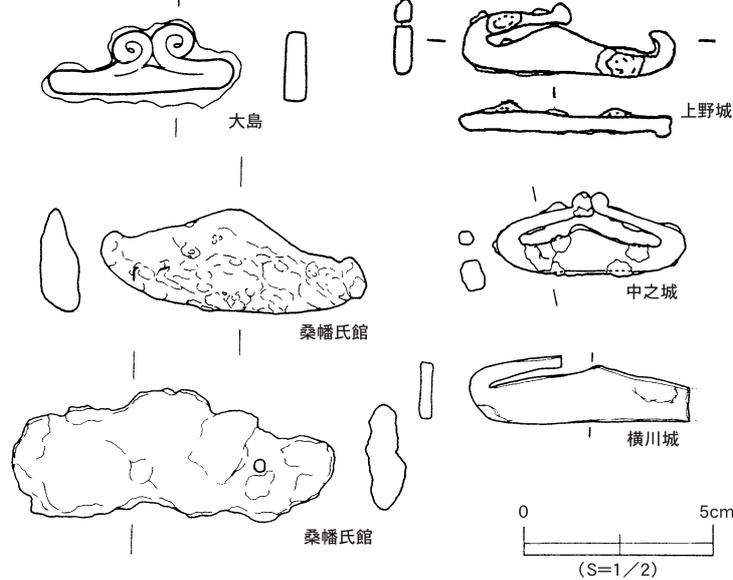
文献一覧

- 阿久根市教育委員会2003『中之城跡』阿久根市埋蔵文化財発掘調査報告書(4)
- 江戸東京博物館2002『火打ち道具の製作 調査と映像記録』映像音響資料制作に伴う調査報告6 東京都江戸東京博物館調査報告書 第14集
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2002『小倉畑遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(34)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2004『上野城跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(68)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2004『上ノ平遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(70)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2005『大島遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(80)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2007『持躰松遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(120)
- 加世田市教育委員会1985『上加世田遺跡-1』加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書(3)
- 隼人町教育委員会2003『桑幡氏館跡-第3次調査-』
- 藤木聡2004『九州における火打石・火打金 -資料集成と基礎的な整理-』『古文化談叢』第51号 九州古文化研究会
- 横川町教育委員会1987『横川城跡』横川町埋蔵文化財発掘調査報告書(1)

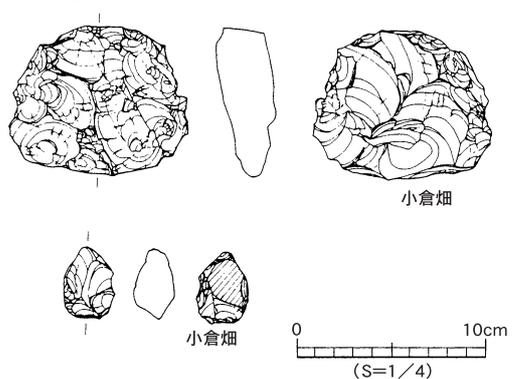


第191図 見込荒磯文碗(肥前)

(火打金)



(火打石)



第192図 火打金・火打石集成図

る可能性がある。

註

1 『三國名勝図会』によれば、花瀬打立本（現在のところ詳細な位置は未確認）は天文7(1538)年に島津忠良が別府城を攻撃した時に陣したところと伝えられるという。

引用・参考文献

野上建紀2005「有田の文様 - 17世紀中頃～後半の窯場の様相

と文様の変化 - 』『金大考古』第47号 金沢大学考古学研究室

吉岡康暢1994「第一部 中世須恵器研究序説」『中世須恵器の研究』吉川弘文館

美濃口雅朗1997「樺番城窯跡の中世須恵器(1)」『肥後考古』第10号

美濃口雅朗2007「樺番城窯（熊本県）」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』補遺編 全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年」実行委員会

(上床 真)



魚住の甕



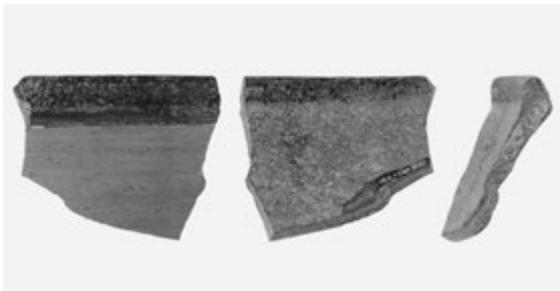
魚住の甕



魚住の片口鉢



魚住の片口鉢



上水流の片口鉢 No.86



上水流の片口鉢 No.97

図版14 東播磨系須恵器

表14 鹿児島県内出土の鉄鍋

遺跡名	所在地	出土遺構	備考
上加世田遺跡	南さつま市加世田川畑字上加世田	-	口縁部
上野城跡	薩摩川内市百次町字上野	-	
和早地遺跡	大島郡喜界町荒木字和早地	-	口縁部・表採・中世か
上水流遺跡	南さつま市金峰町花瀬字上水流・森山	-	破片

觀 察 表

表15 土器観察表(1)

挿図	レリア外 番号	区	層	取上 番号	X	Y	Z	色調		調整		胎土										
								外面	内面	外面	内面	石 英	長 石	角 閃石	雲 母	滑 石	そ 他					
18	1	W 9		137257	39 759	43 005	-1 293	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ											
		W 9		137256	39 887	43 054	-1 319															
		W 9		137269	39 904	42 630	-1 359															
		V 9		137270	40 100	42 957	-1 333															
		V 9		137263	40 101	43 112	-1 316															
	V 9		136896	40 786	44 598	-1 004	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ												
	W 9		137076	38 209	43 799	-1 192																
	U 8		136525	50 825	51 660	-0 231																
	U 8		137039	50 968	50 956	-0 685																
	U 8		136520	52 940	54 385	-0 167																
	4	V 8		134797	41 460	51 135	0 268	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ											
		U 7		68159	56 654	67 165	2 655	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ											
		U 7		68172	57 191	67 042	3 610															
		U 7		68190	57 967	67 001	2 560															
		V 9		134591	42 396	47 728	-0 313															
V 9		132919	42 671	49 475	-0 082																	
19	6	V 9		132920	42 708	49 362	-0 087	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ											
		V 9		134839	43 055	48 631	-0 279															
		V 9		134586	43 730	48 242	-0 298															
		V 9		134813	44 295	48 255	-0 284															
		V 9		134566	48 947	48 553	-0 419															
	7	W 9		136957	37 575	43 910	-0 951	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ											
		W 9		133000	37 910	47 519	-0 046															
	8	W 9		136755	38 555	44 517	-0 812	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ											
		V 8		136943	49 837	50 242	-0 310															
	9	U 8		136942	50 044	50 373	-0 330	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ											
S 8			131056	71 755	55 646	-0 370	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ												
U 6			60970	59 988	70 581	2 745	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ												
W 9			136781	37 652	43 160	-1 027	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ												
20	13	V 9		136893	40 918	44 547	-0 967	乳灰茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ											
		V 9		132912	43 206	49 643	-0 110	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ											
	14	V 9		132912	43 206	49 643	-0 110	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ											
		V 9		134551	45 961	48 491	-0 273	暗茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ											
	15	-		-	-	-	-	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ											
		-		-	-	-	-	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ											
	17	U 8		137212	53 949	56 975	0 185	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ											
		U 7		68117	54 571	66 373	2 575	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ											
	19	W 9		134634	39 071	46 969	-0 294	灰黄茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ											
		T 8		121301	60 394	57 347	0 278	黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ											
T 8		121304	60 520	57 080	0 299																	
T 8		121306	60 863	57 282	0 406																	
21	21	V 9		134548	45 336	47 848	-0 349	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ											
		V 9		133631	46 580	49 374	-0 265															
		V 9		132892	46 672	49 425	-0 276															
		V 9		133632	46 757	49 381	-0 288															
		V 9		134553	46 885	49 575	-0 272															
		V 9		134197	47 056	49 428	-0 285															
		V 8		133548	48 442	54 911	0 234															
	V 8		133032	48 468	51 601	-0 005																
	22	T 8		121594	68 929	57 396	-0 120	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ											
		T 8		121596	69 022	57 445	-0 118															
T 8			121599	69 119	57 625	-0 142																
23	W 9		136381	30 052	44 886	-0 480	灰茶褐色	暗灰茶褐色	ナデ	ナデ												
	W 9		136390	30 897	44 764	-0 500																
23	23	V 9		133626	44 424	49 503	-0 187	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ											
		V 9		134563	47 543	48 367	-0 322															
		W 9		134746	31 648	44 704	-0 418															
		T 8		130741	69 335	54 887	-0 227															
		W 9		137100	38 045	43 101	-1 130															
		W 9		137060	37 243	43 594	-1 131															
		U 8		133529	53 846	55 619	0 292															
		W 9		133986	38 311	47 499	-0 068															
		W 9		134641	38 387	47 549	-0 085															
		V 8		134860	44 296	50 473	-0 024															
		W 9		136755	38 555	44 517	-0 812															
		W 8		136637	39 310	53 155	0 144															
		V 9		136453	42 889	44 819	-0 862															
		X 9		136323	29 604	44 166	-0 550															
		W 9		134730	33 064	46 739	-0 226															
24	24	U 8		134083	52 819	56 507	0 185	灰褐色	灰褐色	ナデ	ナデ											
		U 7		67372	55 854	61 055	3 880															
		U 6		63199	57 066	72 417	2 875															
		U 6		63164	56 834	75 205	2 820															
		V 9		133945	45 739	46 007	-0 345															
		V 8		134047	44 586	50 096	-0 138															
		-		-	-	-	-															
		V 8		136190	45 654	54 866	-0 034															
		V 8		134862	41 833	50 315	0 196															
		-		-	-	-	-															
		V 9		134813	44 295	48 255	-0 284															
		U 6		63187	56 878	72 624	2 855															
		V 9		133958	42 294	45 657	-0 453															
		-		-	-	-	-															
		W 9		136939	30 450	43 466	-0 933															
U 8		132119	55 358	53 100	0 136																	
X 9		137258	28 239	43 810	-0 567																	
V 9		137154	40 159	48 970	-1 049																	
-		-	-	-	-																	
V 9		134813	44 295	48 255	-0 284																	
U 8		134406	53 268	54 841	0 029																	

表17 土器観察表(3)

挿図	レリア外 番号	区	層	取上 番号	X	Y	Z	色調		調整		胎土							
								外面	内面	外面	内面	石 英	長 石	角 閃石	雲 母	滑 石	そ の 他		
32	107	U	8	133390	58.370	54.715	0.319	灰茶褐色	黒褐色	ナデ	ナデ								
	108	V	9	136710	40.511	44.311	-0.965	灰茶褐色	明灰茶褐色	ナデ	ナデ								
	109	W	9	136742	37.720	44.947	-0.768	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ								
	110	T	8	130728	66.704	54.772	-0.034	茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ							茶粒	
	111	V	7	34343	46.439	66.860	2.967												
		V	7	34344	46.474	66.997	3.070	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ								
		V	7	36585	46.181	66.250	2.888												
	112	W	9	136878	34.652	42.880	-0.927	黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ								
	113	U	6	63180	57.733	73.181	2.825												
		U	6	63155	57.997	73.245	2.825	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ								茶粒
114	T	8	121339	62.425	57.445	0.353	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ									
33	U	7	34423	52.497	69.825	3.055													
	U	7	34485	52.433	69.924	2.996	暗黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ									
	U	6	34495	52.243	70.338	2.945													
	T	6	63119	65.134	74.405	0.525													
	V	9	136723	40.002	45.046	-0.548	茶褐色	黒褐色	ナデ	ナデ								砂粒	
	117	W	9	137229	38.239	42.486	-1.230	黒褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ								
	118	-	-	-	-	-	-	暗茶褐色	黒褐色	ナデ	ナデ								
	119	W	9	137079	37.169	42.849	-1.021	暗褐色	暗褐色	ナデ	ナデ								
	120	W	9	137284	37.155	42.335	-1.187												
	120	W	9	137207	38.433	42.758	-1.132	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ								
34	U	8	133864	54.107	56.965	0.233													
	U	8	133697	55.178	57.119	0.315	赤茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ									
	S	8	131075	73.447	54.865	-													
	V	8	136141	47.160	50.074	-0.255	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
	123	W	9	134735	32.929	46.471	-0.272	明黄茶褐色	明黄茶褐色	ナデ	ナデ								
	124	W	9	136931	38.253	44.796	-0.872	灰褐色	黒褐色	ナデ	-								
	125	W	9	137300	39.796	42.324	-1.307	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								
	126	U	7	68281	54.772	61.712	3.205	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								小礫
	127	V	8	136136	46.507	50.012	-0.252	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ								
	128	V	9	136861	41.294	44.436	-1.017	茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
129	V	7	36732	44.146	65.791	2.827	黄茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ									
130	-	-	-	-	-	-	暗茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
131	V	9	136104	42.413	49.311	-0.224	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									
132	V	9	134816	44.012	49.161	-0.246													
132	V	9	136454	42.777	44.655	-0.904	赤茶褐色	灰茶褐色	ナデ	-									
133	W	9	137269	39.904	42.630	-1.359	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
134	T	6	63324	68.810	75.304	0.820	茶褐色	明茶褐色	ナデ	ナデ									
135	W	8	136636	39.180	52.800	0.155	茶褐色	黒褐色	ナデ	ナデ									
136	V	8	134042	41.629	50.681	0.268													
136	V	8	134043	41.643	50.544	0.261	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ									
35	137	U	8	132166	53.401	52.593	-0.070	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
	138	U	7	68147	55.936	66.463	2.550	茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ								
	139	V	9	136858	42.576	44.323	-1.034	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								
	140	V	9	136711	40.285	44.212	-0.908	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ								
	141	U	9	134622	51.274	48.969	-0.404	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ								
	142	W	9	136498	38.519	43.346	-0.990	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
	143	W	9	132976	38.155	49.543	0.228	暗灰茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ								
	144	W	9	136802	31.363	44.072	-0.814	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
	145	-	-	-	-	-	-	暗茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								
	146	W	9	136738	37.386	44.251	-0.894	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
147	-	-	-	-	-	-	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
148	T	8	121592	68.911	57.182	-0.026	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ									
149	W	9	137298	38.892	42.336	-1.304	茶褐色	明茶褐色	ナデ	ナデ									
150	V	8	134448	45.824	50.656	-0.120	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
151	U	8	136987	51.001	50.738	-0.460	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ									
152	U	8	132113	54.801	53.257	-0.023	暗茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
153	V	9	136858	42.576	44.323	-1.034	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
154	V	9	132937	41.204	48.528	-0.088	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									
155	S	6	63360	73.000	72.846	0.760	灰茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
36	156	V	9	134510	41.122	47.708	-0.239	暗茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								
	157	U	8	137013	50.930	50.982	-0.538												
	157	U	8	137039	50.968	50.956	-0.685	茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
	158	U	6	36604	53.790	70.604	2.965	暗茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								
	159	W	9	134729	33.145	46.577	-0.239	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ								
	160	-	-	-	-	-	-	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
	161	V	9	134503	41.127	47.311	-0.308	灰茶褐色	暗褐色	ナデ	ナデ								
	162	U	8	132145	55.781	53.686	0.101	暗茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ								
	163	-	-	136296	0.000	0.000	0.000	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ								
	164	W	9	134098	32.328	47.757	-0.022	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								
165	W	9	136867	39.664	44.181	-0.959	暗褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									
166	U	8	132752	55.801	51.508	0.281	茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ									
167	-	-	136282	-	-	-	暗茶褐色	黒褐色	ナデ	ナデ									
168	U	7	67991	54.775	67.249	2.715	灰茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ									
168	U	7	67898	55.560	66.855	2.740													
169	U	7	67896	55.116	66.822	2.720	暗茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
170	V	9	136923	41.061	44.895	-0.966	黄茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									
171	V	9	132921	42.635	49.226	-0.086	暗茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
172	U	8	132166	53.401	52.593	-0.070	暗茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ									
173	W	9	134634	39.071	46.969	-0.294	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ									
174	W	9	134104	34.210	44.830	-0.440													
	V	9	134164	42.783	48.817	-0.183													
	V	9	132918	43.006	48.785	-0.192	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ									
	V	9	134541	44.519	48.969	-0.243													
175	X	9	134184	46.757	47.993	-0.306													
37	175	X	9	134926	28.008	46.033	-0.089	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ								

表18 土器観察表(4)

挿図	レリア外 番号	区	層	取上 番号	X	Y	Z	色調		調整		胎土								
								外面	内面	外面	内面	石 英	長 石	角 閃石	雲 母	滑 石	そ の 他			
37	175	V 8		136850	49 658	50 534	-0 270	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ									
		U 8		132761	56 163	50 666	0 342													
		V 9		134818	44 154	47 985	-0 329													
	176	V 9		134180	45 313	47 660	-0 433	黄茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ								小礫	
		V 9		134548	45 336	47 848	-0 349													
		V 9		134181	45 461	47 648	-0 394													
	177	W 9		137250	39 622	42 769	-1 271	灰茶褐色	明灰茶褐色	ナデ	茶痕後ナデ									
		T 6		63285	65 187	73 533	0 570	灰茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ									
	178	T 6		63395	65 434	73 691	0 470													
		U 7		67986	56 005	67 025	2 625													
179	T 6		63285	65 187	73 533	0 570	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ										
	U 8		132184	53 972	52 404	-0 153														
38	180	U 8		132184	53 972	52 404	-0 153	暗茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ									
	181	V 9		137225	40 189	43 219	-1 185													
		V 9		137241	40 275	43 139	-1 212													
	182	- -		-	-	-	-	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ									
	183	W 8		136606	37 894	52 250	0 113	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
	184	S 6		68286	72 278	72 010	0 600	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									
	185	S 8		131046	70 204	55 416	-0 283	灰褐色	灰褐色	ナデ	ナデ									
	186	U 8		133864	54 107	56 965	0 233	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								小礫	
	187	U 8		133699	54 818	57 021	0 298	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ									
	188	W 8		132953	38 417	50 090	0 302	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ									
	189	U 8		132725	55 470	51 366	0 257	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								小礫	
	190	W 9		132993	39 946	48 362	-0 112	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
	191	V 8		132611	48 459	53 776	0 305	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									
	192	S 6		63368	72 000	74 663	0 875	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
	193	- -		-	-	-	-	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									
	194	U 8		134976	50 474	56 280	0 181	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ									
	195	W 8		133194	36 676	52 271	0 286	暗褐色	暗褐色	ナデ	ナデ									
	196	U 8		133867	53 838	56 756	0 204	暗赤茶褐色	暗赤茶褐色	ナデ	ナデ									
	197	V 8		132589	49 733	52 993	0 278	黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ									
	198	V 8		133934	47 831	55 336	0 230	赤茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									
	199	W 9		137294	36 774	42 248	-1 213	暗赤茶褐色	暗赤茶褐色	ナデ	ナデ									
	39	200	U 8		131402	53 546	51 437	-	暗茶褐色	暗黄茶褐色	ナデ	ナデ								
		201	V 9		137167	40 161	48 822	-1 066	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ								
			W 9		137092	38 741	43 109	-1 101												
		202	W 9		137139	38 823	42 978	-1 127	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								小礫
		203	W 8		136658	34 780	51 061	0 037	暗黄茶褐色	暗黄茶褐色	ナデ	ナデ								
		204	W 9		136753	38 408	43 582	-0 953	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
		205	W 9		137096	37 684	43 021	-1 184	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
			X 9		137214	28 558	43 889	-0 713												
		206	X 9		137261	29 057	43 812	-0 869	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
V 9				137267	40 391	43 322	-1 353													
207		S 8		130750	70 125	54 475	-0 350	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ								小礫	
208		W 9		132988	39 533	49 022	0 108	茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ									
209		V 9		133619	43 908	49 715	-0 191	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
210		S 8		131047	70 285	54 129	-0 416	黄茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									
		S 8		131385	70 399	54 153	-													
40	211	W 9		137138	38 695	42 865	-1 142	黄茶褐色	暗褐色	ナデ	-								小礫	
	212	U 8		133390	58 370	54 715	0 319	灰褐色	灰褐色	ナデ	ナデ									
	213	V 6		34506	49 290	70 584	3 047	暗茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
	214	U 6		63199	57 066	72 417	2 875	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								茶粒	
	215	U 7		68144	55 994	66 129	2 425	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									
	216	U 8		131336	58 974	53 187	-	暗茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									
	217	- -		-	0 000	0 000	0 000	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	茶痕後ナデ									
	218	W 9		134636	39 254	47 446	-0 261	黄茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ									
	219	U 7		68137	55 590	66 007	2 390	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
	220	- -		-	-	-	-	暗赤茶褐色	暗赤茶褐色	ナデ	ナデ									
	221	- -		-	-	-	-	灰褐色	灰褐色	ナデ	ナデ									
	222	U 8		132809	50 069	51 704	-0 053	灰褐色	灰褐色	ナデ	ナデ									
	223	W 9		136495	37 604	43 786	-0 923	黄茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								小礫	
	224	W 8		136637	39 310	53 155	0 144	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									
	225	U 8		130901	59 423	54 038	0 206													
T 8			121583	68 434	57 875	-0 037	暗茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ										
	T 8		121586	68 816	57 904	-0 027														
41	226	U 8		137073	50 749	50 413	-0 657	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ									
	U 8		136527	50 836	50 912	-0 273														
	227	U 6		63159	58 340	74 663	2 845	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ									
	228	V 8		133481	49 400	51 726	-0 023	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ								小礫	
	229	U 8		132184	53 972	52 404	-0 153	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ									
	230	- -		-	-	-	-	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ									
	231	- -		-	-	-	-	明黄茶褐色	明黄茶褐色	ナデ	ナデ									
	232	- -		-	-	-	-	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									
	233	W 9		136391	31 227	44 609	-0 455	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ									
		W 9		136487	38 195	44 929	-0 796													
	234	U 8		133492	50 760	55 549	0 229	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ									
	235	T 6		63326	68 674	75 672	0 780	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ									
	236	- -		-	-	-	-	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									
	237	V 9		132886	45 893	49 118	-0 234	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									
	238	- -		-	-	-	-	灰茶褐色	暗灰茶褐色	ナデ	ナデ									
	239	W 9		134653	38 790	46 589	-0 294	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									
	240	U 8		131326	58 573	52 945	-	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ									
	241	V 9		137154	40 159	48 970	-1 049	黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ									

表19 土器観察表(5)

挿図	レリア外 番号	区	層	取上 番号	X	Y	Z	色調		調整		胎土										
								外面	内面	外面	内面	石 英	長 石	角 閃石	雲 母	滑 石	そ の 他					
42	248	W 9		134887	31.434	47.522	-0.125															
		V 9		134164	42.783	48.817	-0.183															
		V 9		134587	42.958	47.837	-0.344	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ											
		V 9		134534	43.153	48.605	-0.251															
	V 9		136110	43.188	48.698	-0.290																
43	249	W 9		137226	39.748	42.809	-1.220	明茶褐色	明茶褐色	ナデ	ナデ											
		W 9		137216	39.924	43.206	-1.141															
	W 8		134006	34.870	50.424	0.116	暗褐色	暗褐色	ナデ	ナデ												
	U 9		134204	51.522	48.724	-0.304	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ												
	V 8		134040	41.471	51.170	0.302	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ												
44	253	W 9		134712	34.156	46.137	-0.309															
		W 9		134710	34.303	46.105	-0.319															
		W 9		137045	37.541	44.015	-1.055	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ											
		W 8		136665	33.122	50.790	-0.075															
		W 8		136663	33.617	50.801	-0.039															
	V 9		137154	40.159	48.970	-1.049	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ												
	V 7		36561	47.727	66.800	2.916	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ												
	-		-	-	-	-	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ												
	U 8		132756	55.880	50.636	0.422	黄茶褐色	黒褐色	ナデ	ナデ												
	X 9		133651	23.714	49.315	0.419	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ												
	-		-	-	-	-	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ												
	W 9		136720	39.822	44.592	-0.787	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ												
	X 9		137231	29.371	44.770	-0.738	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ												
	V 8		134037	41.765	51.376	0.315	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ												
	V 8		132868	40.870	51.435	0.379	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ												
V 8		133600	41.372	50.848	0.309	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ													
V 9		133630	45.076	48.904	-0.245	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ													
W 9		134124	39.927	47.350	-0.248	灰茶褐色	暗褐色	ナデ	ナデ													
T 8		121366	65.284	56.940	0.263	暗茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ													
V 9		136129	43.807	48.347	-0.357	紅色	紅色	ナデ	ナデ													
V 9		136547	44.094	48.580	-0.321	紅色	紅色	ナデ	ナデ													
-		-	-	-	-	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ													
U 8		131211	55.351	54.475	-	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ													
U 8		131209	55.367	54.350	-	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ													
W 9		133981	34.099	47.572	0.055	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ													
W 9		133688	33.522	48.435	0.076	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ													
W 9		134691	34.202	47.315	-0.023	暗褐色	暗褐色	ナデ	ナデ													
W 9		133691	34.544	48.392	0.143	暗褐色	暗褐色	ナデ	ナデ													
X 9		134091	28.009	43.968	-0.291	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ													
W 8		134778	33.030	50.099	0.030	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ													
T 8		121341	62.590	57.486	0.361	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ													
T 8		121342	62.594	57.137	0.313	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ													
V 9		137275	40.336	42.305	-1.369	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ													
U 7		68301	58.170	67.483	2.365	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ													
V 9		134484	40.303	49.479	0.149	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ													
V 8		134035	42.971	50.718	0.084	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ													
V 8		134034	43.042	50.674	0.076	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ													
V 9		133610	42.346	49.050	-0.110	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ													
-		-	-	-	-	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ													
-		-	-	-	-	暗褐色	暗褐色	ナデ	ナデ													
W 9		133971	33.873	45.085	-0.353	暗褐色	暗褐色	ナデ	ナデ													
W 9		137155	39.961	48.642	-1.009	暗褐色	暗褐色	ナデ	ナデ													
W 8		136631	39.756	52.021	0.246	暗褐色	暗褐色	ナデ	ナデ													
-		-	-	-	-	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ													
U 8		136525	50.825	51.660	-0.231	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ											茶粒		
S 8		130754	76.140	55.277	-0.345	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ													
V 9		137177	40.182	48.556	-1.063	暗茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ											小礫		
W 9		136492	37.519	44.375	-0.874	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ													
W 9		136737	37.564	44.642	-0.842	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ													
W 9		136491	37.626	44.439	-0.870	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ													
X 9		134963	28.518	44.429	-0.244	灰黄茶褐色	明灰茶褐色	ナデ	ナデ													
W 9		134691	34.202	47.315	-0.023	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ													
W 9		134711	34.715	45.647	-0.446	灰茶褐色	灰褐色	ナデ	ナデ													
V 9		137159	40.506	49.210	-1.107	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ													
T 8		121585	68.706	57.788	-0.030	赤茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ													
T 8		121581	68.278	58.098	-0.041	灰茶褐色	暗褐色	ナデ	ナデ													
W 9		136430	36.020	44.645	-0.760	暗茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ													
U 8		136442	50.829	50.048	-0.222	暗茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ													
-		-	-	-	-	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ													
-		-	-	-	-	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ													
W 9		137288	36.585	42.367	-1.199	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ													
W 9		134889	31.458	45.938	-0.339	暗黄茶褐色	暗黄茶褐色	ナデ	ナデ													
U 8		133431	53.150	55.624	0.241	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ													
V 7		34443	47.732	69.486	3.125	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ													
U 8		133894	51.434	56.111	0.221	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ													
-		-	-	-	-	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ													
-		-	-	-	-	暗灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ											輝石		
W 8		132971	36.576	50.765	0.200	暗灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ													
W 8		134000	37.663	51.316	0.185	暗灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ													
W 9		133992	39.640	48.926	0.083	茶褐色																

表20 土器観察表(6)

挿図	レリア外 番号	区	層	取上 番号	X	Y	Z	色調		調整		胎土								
								外面	内面	外面	内面	石 英	長 石	角 閃石	雲 母	滑 石	そ の 他			
46	315	-	-	-	-	-	-	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ									
	316	V	9	137244	40.141	43.054	-1.205	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
	317	U	8	131199	54.743	53.580	-	暗灰茶褐色	暗灰茶褐色	ナデ	ナデ									
	318	-	-	-	-	-	-	明灰黄褐色	明灰黄褐色	ナデ	ナデ									
	319	V	9	134510	41.122	47.708	-0.239	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ									
	320	-	-	-	-	-	-	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
	321	-	-	-	-	-	-	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ									
	322	U	8	131435	55.032	50.122	-	赤茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ									
	323	W	9	133970	33.777	45.266	-0.349	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ									
	324	W	9	134103	33.974	45.146	-0.397	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ									
	324	W	8	133634	39.450	52.420	0.293	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ									
	325	W	8	136613	38.817	50.820	0.149	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ									
	326	-	-	-	-	-	-	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									
	327	T	6	63346	70.521	76.748	0.770	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
	328	T	8	121379	66.243	58.635	0.236	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									
	329	V	8	133500	47.831	52.489	0.027	暗赤茶褐色	暗赤茶褐色	ナデ	ナデ									
	330	U	8	132763	57.174	50.781	0.341	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ									
	331	V	9	134176	43.706	48.804	-0.265	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
	332	V	8	132816	48.730	51.783	-0.033	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ									
	333	U	6	67867	54.841	71.191	3.010	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ									
	334	-	-	-	-	-	-	明灰茶褐色	明灰茶褐色	ナデ	ナデ									
	335	T	8	131352	60.039	54.215	-	茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ									
	336	W	9	132977	38.225	49.335	0.196	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ									
	337	V	9	134843	41.717	47.704	-0.384	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									
	338	W	8	132948	38.696	50.392	0.287	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									
	339	-	-	-	-	-	-	暗褐色	暗黄褐色	ナデ	ナデ									
	340	S	6	63374	72.131	75.249	0.810	茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ									
	341	V	9	136695	43.526	48.402	-0.349	明灰茶褐色	明灰茶褐色	ナデ	ナデ									
	342	V	8	132543	49.947	54.026	0.309	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ									
	342	U	8	132801	50.140	54.050	0.210	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ									
	343	V	9	134581	44.087	47.814	-0.324	赤茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ									砂粒
	344	V	9	136714	40.311	44.023	-0.956	灰茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ									
	345	U	8	132092	52.653	53.565	0.146	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
346	X	9	136375	28.400	43.257	-0.550	明灰褐色	明灰褐色	ナデ	ナデ										
347	W	9	136998	39.742	43.666	-1.095	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ										
348	U	8	137237	53.587	57.130	0.125	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ										
348	U	8	133415	55.555	55.660	0.318	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ										
349	V	8	134026	43.268	51.206	0.160	暗茶褐色	明茶褐色	ナデ	ナデ										
349	V	8	133595	43.388	51.179	0.188	暗茶褐色	明茶褐色	ナデ	ナデ										
350	W	9	137133	30.325	44.348	-0.889	明茶褐色	明茶褐色	ナデ	条痕後ナデ										
350	W	9	137051	30.378	44.112	-0.849	明茶褐色	明茶褐色	ナデ	条痕後ナデ										
351	-	-	136298	0.000	0.000	0.000	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ										
352	V	9	136118	43.236	49.473	-0.186	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ										
353	W	9	136670	30.324	48.041	-0.209	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ										
353	V	9	133610	42.346	49.050	-0.110	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ										
353	V	9	134530	42.738	48.360	-0.259	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ										
354	U	8	130933	56.519	52.809	0.132	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ										
355	V	9	134538	43.407	48.337	-0.289	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ										
356	V	8	134058	49.295	51.462	-0.058	暗灰茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ										
357	-	-	-	-	-	-	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ										
358	U	8	131439	52.942	53.824	-	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ										
359	W	9	137099	37.328	43.349	-1.225	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ										
359	W	9	137095	37.603	43.162	-1.255	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ										
360	U	7	67900	55.812	67.257	2.780	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ										
361	W	9	137295	37.879	42.371	-1.244	暗灰茶褐色	暗灰茶褐色	ナデ	ナデ										
362	W	9	137292	38.002	42.375	-1.290	灰茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ										
363	V	8	136850	49.658	50.534	-0.270	灰茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ										
364	V	7	36696	42.777	66.750	2.958	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ										
365	W	9	137152	39.225	47.851	-1.028	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ										
366	X	9	136338	28.430	46.948	-0.060	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ										
367	W	9	136388	30.920	45.348	-0.515	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ										
368	V	9	137159	40.506	49.210	-1.107	暗褐色	灰褐色	ナデ	ナデ									小礫	
369	W	9	136907	31.892	46.421	-0.598	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ										
370	V	8	134039	41.287	51.474	0.329	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ										
371	V	9	134191	46.402	49.895	-0.236	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ										
372	V	8	134480	41.205	53.353	0.234	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ										
372	U	7	68194	57.967	67.733	2.595	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ										
373	U	8	131020	54.913	50.537	0.189	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ										
374	V	8	133483	48.713	52.012	0.019	暗茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ										
375	X	9	134905	29.280	46.498	-0.162	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ										
376	W	9	137207	38.433	42.758	-1.132	茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ										
377	V	7	34436	48.896	68.964	3.148	暗茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ										
378	U	8	132730	54.673	51.599	0.103	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ										
379	W	9	134875	34.803	46.377	-0.348	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ										
380	V	8	134858	45.893	50.050	-0.211	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ										
381	W	9	134883	30.756	48.682	-0.083	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ										
382	W	9	136431	35.889	44.182	-0.770	黄茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ										
383	V	9	134839	43.055	48.631	-0.279	暗茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ										
384	V	9	133615	43.386	49.872	-0.110	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ										
385	V	9	136863	40.967	44.633	-0.882	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ										
385	V	9	136468	41.012	44.677	-0.852	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ										
386	V	9	136713	40.457	44.073	-0.992	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ										
386	V	9	136710	40.511	44.311	-0.965	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ										
387	W	9	132022	34.928	46.385	1.315	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ										
387	V	8	134063	47.775	52.486	-0.011	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ										
388	U	6	67859	55.083	70.758	2.950	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ										
389	U	6	63206	57.290	72.106	2.910	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									小礫	
390	V	9	134586	43.730	48.242	-0.298	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ										
391	-	-	-	-	-	-	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ										

表22 土器観察表(8)

挿図	レリア外 番号	区	層	取上 番号	X	Y	Z	色調		調整		胎土						
								外面	内面	外面	内面	石 英	長 石	角 閃石	雲 母	滑 石	そ の 他	
53	468	W	9	137079	37.169	42.849	-1.021	灰茶褐色	灰褐色	ナデ	ナデ							
	469	-	-	-	-	-	-	灰茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ							
	470	W	9	136428	36.031	45.314	-0.525	茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ							
	471	U	8	131160	55.201	51.013	-	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ							
	472	-	-	-	-	-	-	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ							
	473	-	-	-	-	-	-	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ							
	474	U	7	68290	56.867	66.961	2.550	暗茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ							
	475	W	9	134740	32.457	45.565	-0.350	黒褐色	黒褐色	ナデ	ナデ							
	476	U	8	133417	55.244	55.444	0.347	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ							
	477	V	8	133592	43.155	50.037	-0.080	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ							
	478	-	-	-	-	-	-	茶褐色	黒褐色	ナデ	ナデ							
	479	V	8	133561	46.613	54.848	0.223	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ							
	480	U	8	133444	53.659	54.809	0.286	茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ							
	481	-	-	-	-	-	-	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ							
	482	U	8	131413	54.466	51.118	-	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ							
	483	U	8	132169	53.384	51.467	-0.117	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ							
	484	W	9	136487	38.195	44.929	-0.796	暗茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ							
	485	-	-	-	-	-	-	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ							
	486	-	-	-	-	-	-	暗茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ							
	487	V	8	134481	41.557	52.475	0.247	灰茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ							
488	V	9	134841	42.321	48.287	-0.266	灰茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ							小礫	
489	T	8	121584	68.608	57.995	-0.032	茶褐色	黒褐色	ナデ	ナデ								
490	U	6	68000	55.574	73.372	2.840	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ								
491	T	8	130729	67.941	55.063	-0.160	灰黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ							茶粒	
492	T	8	121612	69.008	59.424	-0.016	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ								
493	W	9	132987	38.771	48.809	0.069	茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ								
494	U	8	121273	59.714	58.637	0.264	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
495	V	8	134019	43.924	52.029	0.103	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ								
496	U	8	132765	57.537	50.341	0.404	暗茶褐色	明茶褐色	ナデ	ナデ								
497	W	9	136593	37.092	48.198	-0.294	茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ								
498	W	9	136681	31.918	47.952	-0.338	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								
499	V	9	136563	42.628	48.029	-0.325	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ								
500	W	9	133663	38.809	47.678	-0.080	赤茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
501	V	9	136474	40.436	43.638	-1.053	赤茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								
502	V	9	133955	42.864	45.843	-0.425	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ								
503	U	7	68155	56.368	66.928	2.660	茶褐色	黒褐色	ナデ	-								
504	V	9	134154	43.587	47.464	-0.383	茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
505	T	8	121604	69.253	58.668	-0.049	茶褐色	黒褐色	ナデ	ナデ								
506	W	9	136981	37.485	44.719	-0.857	灰褐色	灰褐色	ナデ	ナデ								
507	-	-	-	-	-	-	暗灰茶褐色	灰褐色	ナデ	ナデ								
508	W	9	137251	39.563	42.580	-1.269	灰褐色	灰褐色	ナデ	ナデ								
509	W	10	134182	31.937	41.270	-2.375	灰茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ							小礫	
510	T	7	63263	68.977	68.437	0.845	茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ								
511	-	-	-	-	-	-	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
512	T	6	47323	60.066	76.908	3.220	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	条痕	条痕後ナデ							
513	W	9	133656	39.722	49.882	0.291	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ								
514	X	9	134895	29.960	46.200	-0.212	茶褐色	黒褐色	ナデ	ナデ								
515	X	9	134936	25.540	47.298	-0.189	茶褐色	黒褐色	ナデ	ナデ								
516	V	8	134020	44.100	52.109	0.083	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								
517	V	9	137179	40.223	48.759	-1.165	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
518	-	-	-	-	-	-	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ							小礫	
519	W	8	136594	37.348	50.139	-0.004	黄茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
520	W	9	133974	33.364	44.664	-0.407	黄茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
521	-	-	-	-	-	-	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
522	-	-	-	-	-	-	灰茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ								
523	W	9	136740	37.922	44.230	-0.870	灰褐色	暗褐色	ナデ	ナデ								
524	U	8	131402	53.546	51.437	-	茶褐色	暗褐色	ナデ	ナデ								
525	U	8	132511	50.627	54.654	0.292	黄茶褐色	暗褐色	ナデ	ナデ								
526	U	6	63177	57.590	73.069	2.825	明黄茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ							砂粒 茶粒	
527	-	-	-	-	-	-	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								
528	U	8	132513	50.693	54.762	0.290	茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ								
529	W	9	134766	31.907	47.148	-0.132	暗褐色	暗褐色	ナデ	ナデ								
530	X	9	133979	27.784	43.846	-0.292	暗褐色	暗褐色	ナデ	ナデ								
531	-	-	-	-	-	-	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								
532	V	8	133591	43.907	50.223	-0.109	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								
533	W	9	134891	31.046	44.324	-0.414												
	W	9	134650	38.073	47.088	-0.143												
	W	9	136587	38.202	47.323	-0.194	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
	W	9	137144	39.394	42.970	-1.168												
	534	W	9	136753	38.408	43.582	-0.953	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ							
	535	U	8	133518	52.741	55.431	0.198	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ							
	536	W	9	136785	37.307	43.695	-0.896	灰黄茶褐色	灰褐色	ナデ	ナデ							
	537	W	9	134716	34.562	46.520	-0.239	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ							
	538	W	9	134753	30.580	45.790	-0.340	黄茶褐色	灰褐色	ナデ	ナデ							
	539	-	-	-	-	-	-	暗茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ							
	540	-	-	-	-	-	-	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ							
	541	W	9	137143	38.989	42.721	-1.196	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ							
	542	-	-	-	-	-	-	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ							
	543	V	9	136098	41.561	48.121	-0.198	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ							
	544	V	9	137181	41.341	49.683	-1.237	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ							
545	T	6	60988	64.252	72.205	0.605	暗黄茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								
546	W	9	134889	31.458	45.938	-0.339	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ								
547	-	-	-	-	-	-	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								
548	W	9	137067	32.145	45.638	-0.800	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ								
549	W	9	137103	36.104	43.121	-1.177	茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ								
550	W	9	136741	38.006	44.845	-0.814	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
551	V	9	136447	49.970	49.546	-0.281												
551	U	9	136446	50.024	49.522	-0.287	暗褐色	暗黄褐色	ナデ	ナデ								

表23 土器観察表(9)

挿図	レリア外 番号	区	層	取上 番号	X	Y	Z	色調		調整		胎土							
								外面	内面	外面	内面	石 英	長 石	角 閃石	雲 母	滑 石	そ の 他		
56	552	V	9	137180	40 663	49 352	-1.185	灰黄茶褐色	灰褐色	ナデ	ナデ								
	553	U	8	133533	50 357	54 615	0.210	黄茶褐色	黄褐色	ナデ	ナデ								
	554	U	8	137072	50 745	50 576	-0.682	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								
	555	W	9	136386	30 524	45 539	-0.495	暗褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
	556	W	9	134722	33 732	47.117	-0.040	暗褐色	暗褐色	ナデ	ナデ								
	557	V	9	136139	47 452	49.173	-0.314	茶褐色	灰褐色	ナデ	ナデ								
	558	V	9	136113	43 494	48.707	-0.325	暗褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
	559	V	9	134840	42 694	48.135	-0.280	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								
	560	U	6	63184	57 697	72.911	2.865	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								
	561	-	-	-	-	-	-	灰黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ								
	562	W	9	134635	39 065	47 321	-0.184	黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ								
	563	W	9	134634	39 071	46 969	-0.294	黄茶褐色	灰黄茶褐色	ナデ	ナデ								
564	W	9	136407	30 562	46 838	-0.250	赤茶褐色	暗褐色	ナデ	ナデ									
565	W	9	136718	39 706	44.092	-0.978	灰黄茶褐色	灰褐色	ナデ	ナデ									
566	V	9	134142	40 311	47.197	-0.332	茶褐色	灰褐色	ナデ	ナデ									
567	W	9	136946	33 826	49 975	-0.193	赤茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ									
568	-	-	-	-	-	-	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ									
569	W	9	136685	33 926	48 376	-0.188	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ									
57	570	W	9	137293	37 426	42 306	-1.217	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ								
	571	S	6	63366	71 825	74 291	0.920	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ								
	571	U	8	63371	71 835	74 970	0.845	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ								
	571	U	8	132172	52 742	51 268	-0.005	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ								
	572	U	8	132170	53 097	52 412	0.004	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ								
	572	U	8	132806	50 230	53.058	0.223	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ								
	573	S	8	131076	70 383	54 084	-	赤茶褐色	暗褐色	ナデ	ナデ								
	574	X	9	134964	28 606	44 074	-0.389	灰黄茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
	575	T	8	121587	68 683	57 640	-0.032	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								小礫
	576	V	8	133498	48 507	55 875	0.237	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ								
	577	W	8	136635	39 510	53.098	0.154	黒褐色	黒褐色	ナデ	ナデ								
	578	W	9	137065	30 342	44 070	-0.866	暗茶褐色	黒褐色	ナデ	ナデ								
579	V	8	136085	48 312	50 964	-0.234	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
580	S	8	131048	70 828	54 400	-0.423	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
580	S	8	131050	71 476	54 587	-0.357	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
581	W	9	136800	31 666	45 055	-0.811	赤茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									
58	582	V	9	136118	43 236	49 473	-0.186	赤茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								茶粒
	582	V	9	134831	43 420	49 470	-0.197	赤茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
	582	V	9	136554	43 423	49 416	-0.260	赤茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
	582	V	9	134827	43 676	49 362	-0.219	赤茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
	583	V	9	134804	48 159	49 448	-0.344	灰褐色	灰茶褐色	ナデ	条痕後ナデ								
	584	U	8	134983	50 842	53 634	-0.048	灰黄茶褐色	灰褐色	ナデ	条痕後ナデ								
	584	U	8	134988	51 197	52 636	-0.082	灰黄茶褐色	灰褐色	ナデ	条痕後ナデ								
	584	U	8	134984	51 247	53 437	-0.031	灰黄茶褐色	灰褐色	ナデ	条痕後ナデ								
	584	U	8	134982	51 403	53 764	0.008	灰黄茶褐色	灰褐色	ナデ	条痕後ナデ								
	584	U	8	136522	51 680	56 447	-0.085	灰黄茶褐色	灰褐色	ナデ	条痕後ナデ								
	584	U	8	136516	52 970	56 459	-0.030	灰黄茶褐色	灰褐色	ナデ	条痕後ナデ								
	584	U	8	136515	52 985	56 633	-0.010	灰黄茶褐色	灰褐色	ナデ	条痕後ナデ								
59	585	W	9	136483	38 923	45 248	-0.558	明灰黄褐色	灰黄茶褐色	-	-								
	586	-	-	-	-	-	-	黄茶褐色	灰褐色	ナデ	ナデ								
	587	W	9	136406	30 399	46 880	-0.230	黄茶褐色	灰褐色	ナデ	ナデ								
	588	W	9	136732	38 221	45 304	-0.575	茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ								
	589	T	8	121394	67 668	57 752	0.101	赤茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
	590	V	9	136862	41 032	44 378	-0.974	灰黄茶褐色	明灰黄茶褐色	ナデ	ナデ								
	591	-	-	136280	0 000	0 000	0 000	灰褐色	灰褐色	ナデ	ナデ								
	592	U	9	136443	50 649	49 936	-0.229	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ								
	592	U	8	136835	50 731	50 077	-0.235	赤茶褐色	赤茶褐色	ナデ	ナデ								
	593	U	8	132798	56 963	53 690	0.279	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
	594	W	8	134788	35 332	50 097	0.076	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
	594	W	8	133677	35 633	50 343	0.127	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
594	W	8	134789	36 801	50 314	0.107	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									
595	U	8	131008	53 750	50 496	0.213	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									
595	U	8	131238	56 193	53 790	-	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ									
596	X	9	134966	29 851	43 872	-0.437	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
597	W	8	136647	36 602	51 897	0.011	灰褐色	灰褐色	ナデ	ナデ									
598	U	8	131284	58 104	52 364	-	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
598	T	8	130893	60 050	53 966	0.134	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
598	T	8	131353	60 093	54 103	-	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ									
60	599	W	9	134716	34 562	46 520	-0.239	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								
	600	U	6	63177	57 590	73 069	2.825	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								
	601	U	6	63253	57 364	73 151	2.835	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
	602	U	6	63177	57 590	73 069	2.825	灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
	602	U	7	67899	55 561	66 989	2.685	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								
	603	-	-	-	-	-	-	暗茶褐色	暗茶褐色	ナデ	ナデ								
	604	V	9	130702	47 452	48 785	2.315	暗灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
	604	V	9	130717	48 649	49 295	2.277	暗灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
	605	V	8	134459	44 281	50 422	-0.046	茶褐色	茶褐色	ナデ	ナデ								
	606	T	6	63381	65 383	73 426	0.540	暗灰茶褐色	灰茶褐色	ナデ	ナデ								
	607	U	6	60970	59 988	70 581	2.745	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ								
	61	608	X	9	134915	29 016	45 011	-0.374	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ							
609		W	9	136765	36 757	43 752	-0.891	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ								
609		W	9	136767	36 868	43 612	-0.892	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ								
609		W	9	136978	38 279	44 212	-0.856	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ								
609		V	9	134580	44 327	47 544	-0.352	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ								
610		V	8	136147	48 890	50 025	-0.362	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ								
611	V	9	136138	46 501	48 785	-0.397	黄茶褐色	黄茶褐色	ナデ	ナデ									

表24 石器観察表(1)

挿図	番号	区	層	取上番号	X	Y	Z	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	
99	1	W	9	136744	43.767	48.838	-0.828	石鏃	安山岩	1.40	(1.30)	0.30	0.40	
	2	V	9	135069	55.234	51.476	-0.201	石鏃	安山岩	1.60	1.20	0.40	0.70	
	3	W	8	133178	56.634	52.468	0.233	石鏃	安山岩	a 1.60	1.60	0.40	0.70	
	4	V	8	132683	56.634	52.468	0.295	石鏃	安山岩	(1.70)	1.30	0.40	0.60	
	5	V	8	132642	56.634	52.468	0.381	石鏃	安山岩	1.50	1.20	0.40	0.50	
	6	W	9	133222	68.892	54.89	0.273	石鏃	安山岩	b 1.50	1.50	0.30	0.40	
	7	W	9	135694	44.304	48.528	-0.38	石鏃	安山岩	b (1.40)	1.50	0.30	0.40	
	8	U	8	131228	55.951	52.804	-	石鏃	安山岩	b 1.57	1.43	0.24	0.40	
	9	U	8	130888	-	-	0.029	石鏃	安山岩	b 1.20	1.08	0.36	0.30	
	10	X	9	137136	28.933	45.951	-0.427	石鏃	安山岩	a 1.27	1.32	0.23	0.22	
	11	W	9	135646	44.304	48.528	-0.032	石鏃	安山岩	b 1.34	1.37	0.25	0.30	
	12	V	8	136011	44.304	48.528	0.266	石鏃	安山岩	a 1.24	1.20	0.29	0.26	
	13	U	8	131828	56.634	52.468	0.192	石鏃	黒曜石	1.31	1.08	0.34	0.26	
	14	X	9	136230	44.304	48.528	-0.21	石鏃	安山岩	b 1.38	1.24	0.31	0.39	
	15	W	8	136630	79.801	47.599	0.057	石鏃	安山岩	a (1.49)	(1.38)	0.30	(0.53)	
	16	W	9	136807	43.767	48.838	-0.521	石鏃	安山岩	b 1.39	1.21	0.35	0.32	
	17	W	9	135749	44.304	48.528	-0.25	石鏃	安山岩	a 1.38	1.25	0.22	0.29	
	18	V	8	133318	68.892	54.89	0.272	石鏃	安山岩	a 1.50	(1.50)	(0.30)	0.50	
	19	V	9	135180	42.478	47.125	-0.081	石鏃	安山岩	a 1.50	1.60	0.40	0.60	
	20	W	9	135568	44.304	48.528	-0.245	石鏃	安山岩	a (1.50)	(1.40)	0.32	(0.35)	
	21	U	8	132426	56.634	52.468	-0.319	石鏃	安山岩	b 1.40	(1.30)	0.30	0.40	
	22	V	8	135975	44.304	48.528	0.004	石鏃	安山岩	a 1.58	1.58	1.48	0.53	
	23	W	9	135684	44.304	48.528	-0.478	石鏃	安山岩	a 1.50	1.34	0.24	0.27	
	24	V	8	133363	68.892	54.89	0.163	石鏃	安山岩	b 1.64	1.34	0.27	0.35	
	25	V	8	136777	43.767	48.838	0.117	石鏃	安山岩	a 1.39	1.21	0.35	0.32	
	26	V	8	134343	55.234	51.476	-0.195	石鏃	めのう系	- 1.50	1.40	0.30	0.30	
	27	U	8	135299	42.478	47.125	-0.017	石鏃	安山岩	b 1.40	1.10	0.30	0.20	
	28	X	9	136211	44.304	48.528	-0.23	石鏃	安山岩	b (1.40)	1.30	0.30	0.30	
	29	X	9	136826	28.933	45.951	-0.381	石鏃	安山岩	1.30	1.30	0.30	0.30	
	30	V	9	133146	56.634	52.468	-0.162	石鏃	安山岩	a 1.40	1.50	0.30	0.40	
	31	W	9	135539	44.304	48.528	-0.383	石鏃	安山岩	(1.58)	(1.18)	0.36	(0.49)	
	32	V	8	132781	56.634	52.468	0.405	石鏃	黒曜石	1.90	1.80	0.30	0.70	
	33	V	8	133048	56.634	52.468	0.284	石鏃	安山岩	a (1.40)	1.70	0.30	0.50	
	34	V	8	132649	56.634	52.468	0.251	石鏃	安山岩	a 1.40	1.50	0.30	0.40	
100	35	X	9	136348	44.304	48.528	-0.315	石鏃	安山岩	b 1.39	1.09	0.29	0.31	
	36	X	9	136812	43.767	48.838	-0.28	石鏃	安山岩	a (1.68)	1.40	(0.27)	(0.39)	
	37	X	9	136339	44.304	48.528	-0.24	石鏃	安山岩	a 1.39	1.39	0.30	0.38	
	38	W	9	135687	44.304	48.528	-0.211	石鏃	安山岩	1.52	1.09	0.28	0.29	
	39	U	8	132504	56.634	52.468	0.294	石鏃	安山岩	a 1.71	1.26	0.20	0.37	
	40	W	9	133212	68.892	54.89	0.229	石鏃	安山岩	a 1.60	1.20	0.30	0.50	
	41	V	9	135194	42.478	47.125	-0.258	石鏃	めのう系	1.90	1.80	0.30	0.60	
	42	V	8	135998	44.304	48.528	0.178	石鏃	安山岩	b (1.70)	(1.30)	0.30	0.50	
	43	W	9	135719	44.304	48.528	-0.068	石鏃	安山岩	a (1.40)	(1.00)	0.30	0.30	
	44	X	9	-	-	-	-	石鏃	安山岩	a 1.50	1.10	0.30	0.30	
	45	X	9	136374	79.801	47.599	-0.52	石鏃	安山岩	1.80	1.30	0.30	0.40	
	46	V	8	133301	68.892	54.89	0.224	石鏃	安山岩	b 1.90	1.60	0.40	0.80	
	47	X	9	136266	44.304	48.528	-0.23	石鏃	安山岩	b 1.50	(1.50)	0.30	0.50	
	48	W	9	136488	79.801	47.599	-0.767	石鏃	安山岩	a 1.90	1.60	0.50	0.70	
	49	X	9	135867	44.304	48.528	-0.355	石鏃	安山岩	b (1.20)	(0.80)	0.20	0.20	
	50	V	8	133087	56.634	52.468	0.265	石鏃	安山岩	b (1.50)	(1.20)	0.30	0.50	
	51	V	9	135124	55.234	51.476	-0.148	石鏃	安山岩	a 2.00	0.60	0.29	0.49	
	52	W	8	136627	79.801	47.599	0.258	石鏃	安山岩	b 2.01	1.60	1.55	1.01	
	53	W	9	133209	68.892	54.89	0.214	石鏃	安山岩	a 1.69	1.52	0.32	0.41	
	54	V	9	135044	55.234	51.476	-0.264	石鏃	安山岩	a 2.11	1.75	0.35	0.87	
	55	W	9	135663	44.304	48.528	0.019	石鏃	安山岩	a (1.69)	1.49	0.30	(0.52)	
	56	V	8	133352	68.892	54.89	-0.105	石鏃	安山岩	(1.78)	(1.40)	0.40	(0.48)	
	57	X	9	136347	44.304	48.528	-0.375	石鏃	安山岩	(1.63)	(1.22)	0.34	(0.41)	
	58	W	9	135676	44.304	48.528	-0.449	石鏃	安山岩	b (2.20)	(1.50)	0.40	0.70	
	59	X	9	135787	44.304	48.528	-0.035	石鏃	黒曜石	(1.37)	1.66	(0.31)	(0.44)	
	60	X	9	137102	28.933	45.951	-0.37	石鏃	安山岩	b 1.94	1.50	1.44	0.86	
	61	R	9	131103	-	-	-	石鏃	安山岩	a 2.27	1.28	0.40	0.70	
	62	S	9	131080	-	-	-	石鏃	安山岩	a (2.11)	(1.11)	0.44	(0.75)	
	63	V	8	133341	68.892	54.89	0.254	石鏃	安山岩	a (2.04)	(1.49)	0.35	(0.75)	
	101	64	U	8	132179	56.634	52.468	0.127	石鏃	黒曜石	(0.85)	0.95	0.21	(0.14)
		65	V	8	132578	56.634	52.468	0.347	石鏃	安山岩	b (1.80)	1.50	0.40	0.90
		66	V	8	133786	68.892	54.89	-0.043	石鏃	黒曜石	(1.80)	(1.30)	0.40	0.60
		67	U	8	131445	56.634	52.468	-	石鏃	安山岩	b (1.80)	(1.10)	0.40	0.60
		68	V	8	136080	44.304	48.528	-0.285	石鏃	めのう系	(1.50)	(1.10)	(0.30)	0.30
		69	W	8	136970	28.933	45.951	0.097	石鏃	頁岩	1.50	1.49	0.22	0.43

表25 石器観察表(2)

挿図	番号	区	層	取上番号	X	Y	Z	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	
101	70	X	9	136223	44 304	48 528	-0.21	石鏃	安山岩	b	2.05	1.72	0.58	1.40
	71	W	8	133190	37 556	52.143	0.297	石鏃	安山岩		1.77	1.14	0.50	0.97
	72	T	8	130736	-	-	-0.238	石鏃	安山岩	a	2.52	1.96	0.51	3.00
	73	W	9	137052	28 933	45 951	-0.778	石鏃	安山岩	a	2.66	1.14	0.64	2.06
	74	W	9	135596	44 304	48 528	-0.151	石鏃	安山岩	a	2.34	1.34	0.55	1.46
	75	V	8	135974	44 304	48 528	0.076	石鏃	安山岩	a	2.06	(1.60)	(0.76)	(2.07)
	76	V	9	133129	56 634	52 468	-0.118	石鏃	安山岩		2.40	1.80	0.60	1.90
102	77	W	9	135431	42 478	47.125	-0.301	石匙	安山岩	a	4.90	6.55	1.05	24.56
	78	-	-	135227	42 478	47.125	-0.198	石匙	安山岩	a	4.75	7.60	0.80	25.59
	78	V	9	136034	44 304	48 528	-0.247	石匙	安山岩	a	4.75	7.60	0.80	25.59
	79	U	8	132135	56 634	52 468	0.187	石匙	安山岩	b	4.35	5.80	1.35	25.36
103	80	X	9	136316	44 304	48 528	-0.12	石匙	安山岩	b	4.30	6.40	1.25	20.35
	81	V	9	135334	42 478	47.125	0.062	石匙	安山岩	b	4.60	6.60	0.50	18.61
	82	W	9	135440	42 478	47.125	-0.077	石匙	安山岩	a	6.45	5.05	1.25	34.05
104	83	V	9	135085	55 234	51 476	-0.299	石匙	安山岩	a	6.25	5.05	0.85	22.07
	84	W	8	136663	79 801	47 599	-0.039	石匙	安山岩	b	5.40	3.00	1.45	15.13
	85	X	9	135797	44 304	48 528	-0.28	石匙	安山岩	a	6.75	3.25	1.65	22.82
105	86	V	9	137276	28 933	45 951	-1.36	石匙	安山岩	a	5.51	3.65	1.10	17.09
	87	V	9	135153	55 234	51 476	-0.344	石匙	安山岩	a	5.10	4.90	1.00	22.40
	88	V	9	132799	56 634	52 468	-0.256	石匙	安山岩	a	4.00	3.10	0.70	17.80
106	89	W	9	135430	42 478	47.125	-0.421	石匙	安山岩	a	6.10	4.10	1.00	24.00
	90	V	9	134166	68 892	54 89	-0.061	石匙	頁岩		5.40	7.60	0.30	0.50
	91	V	9	136117	44 304	48 528	-0.261	石匙	頁岩		7.05	7.10	1.20	45.41
107	92	X	9	136824	28 933	45 951	-0.354	石匙	頁岩		11.40	5.70	1.15	60.38
	93	V	9	135370	42 478	47.125	0.173	石匙	頁岩		6.55	3.70	0.95	19.50
	94	V	8	132559	56 634	52 468	0.16	石匙	頁岩		6.75	6.50	0.95	32.23
108	95	W	9	136933	28 933	45 951	-0.937	スクレイパー	黒曜石		2.60	3.10	0.90	5.80
	96	V	9	134366	55 234	51 476	-0.31	スクレイパー	安山岩	a	3.70	3.20	0.60	4.80
	97	X	9	-	-	-	-	スクレイパー	安山岩	a	5.00	3.70	1.40	19.70
	98	U	8	135270	42 478	47.125	0.103	スクレイパー	めのう系		3.35	2.05	0.70	3.77
	99	W	8	134264	37 488	51 857	0.179	スクレイパー	安山岩	a	4.40	2.00	0.70	3.90
	100	W	9	137289	28 933	45 951	-0.983	スクレイパー	安山岩	a	3.10	1.20	0.70	2.20
	101	W	9	136584	79 801	47 599	-0.407	スクレイパー	安山岩	a	3.00	1.50	0.50	2.00
	102	W	9	-	-	-	-	スクレイパー	安山岩	a	2.70	0.80	0.70	0.80
	103	X	9	137122	28 933	45 951	-0.621	スクレイパー	安山岩	a	2.00	2.30	0.70	3.00
	104	W	9	133220	68 892	54 89	-0.004	スクレイパー	安山岩	a	2.80	2.60	1.20	8.10
	105	W	8	133191	68 892	54 89	0.258	スクレイパー	めのう系		3.40	3.20	1.20	12.50
	106	V	9	133141	56 634	52 468	-0.118	スクレイパー	安山岩	a	2.05	1.85	0.70	2.26
	109	107	V	9	133142	56 634	52 468	-0.122	スクレイパー	黒曜石		2.00	1.40	0.55
108		U	8	131349	59.71	52.643	-	スクレイパー	めのう系		2.80	1.25	0.60	1.27
109		W	9	136588	79 801	47 599	-0.146	スクレイパー	安山岩	a	2.65	3.45	1.05	7.33
110		X	9	136271	44 304	48 528	-0.51	スクレイパー	安山岩	a	2.20	2.30	0.70	2.25
111		U	8	133394	68 892	54 89	0.385	スクレイパー	安山岩	b	3.00	6.10	0.90	13.70
112		V	8	132727	56 634	52 468	0.205	スクレイパー	安山岩	b	2.90	4.65	1.05	9.83
113		V	9	135168	42 478	47.125	-0.19	スクレイパー	安山岩	a	4.20	1.75	0.55	3.06
114		V	9	135496	44 304	48 528	-0.329	スクレイパー	安山岩	a	3.00	1.80	0.60	3.20
115		V	9	136572	79 801	47 599	-0.228	スクレイパー	黒曜石		1.40	1.60	0.60	1.40
116		W	9	137137	28 933	45 951	-1.105	スクレイパー	安山岩	a	3.80	3.10	1.20	13.70
117		V	8	134333	55 234	51 476	0.02	スクレイパー	黒曜石		3.80	2.80	1.20	12.90
118		U	8	131025	-	-	0.122	スクレイパー	黒曜石		3.60	2.60	1.40	14.00
119		W	9	137091	28 933	45 951	-1.187	二次加工	頁岩		9.40	7.80	2.30	141.40
120	W	8	136649	79 801	47 599	0.023	二次加工	安山岩	a	3.40	1.60	0.50	2.60	
111	121	W	9	136982	28 933	45 951	-0.854	二次加工	安山岩	a	14.30	5.40	3.75	211.60
	122	V	9	-	-	-	0	楔形石器	安山岩	a	2.15	1.95	0.95	4.51
	123	V	9	135209	42 478	47.125	-0.294	楔形石器	安山岩	a	2.35	2.20	1.00	4.54
	124	V	8	136199	44 304	48 528	0.148	楔形石器	安山岩	b	2.30	2.70	1.20	6.50
	125	U	8	137028	28 933	45 951	-0.542	楔形石器	安山岩	a	2.10	1.80	1.00	3.60
	126	V	9	-	-	-	0	楔形石器	安山岩	a	2.20	1.70	0.65	2.34
	127	W	8	133198	68 892	54 89	0.249	楔形石器	安山岩	a	2.80	2.00	0.80	5.00
	128	-	-	133208	68 892	54 89	0.237	楔形石器	安山岩	b	2.20	1.70	0.80	2.40
112	129	V	8	132774	56 634	52 468	0.374	楔形石器	安山岩	a	2.50	2.30	1.10	4.42
	130	W	9	136979	28 933	45 951	-0.928	楔形石器	安山岩	a	2.20	1.90	0.80	2.95
	131	X	9	136262	44 304	48 528	-0.275	楔形石器	安山岩	a	2.70	2.50	0.60	3.50
	132	V	8	134323	55 234	51 476	0.151	楔形石器	安山岩	a	2.10	2.80	0.70	3.60
	133	X	9	136360	25 474	47.704	-0.29	楔形石器	安山岩	a	2.25	2.25	0.75	2.62
	134	U	8	121234	-	-	0.316	楔形石器	安山岩	a	2.50	3.15	1.05	6.79
	135	V	8	133061	56 634	52 468	-0.093	楔形石器	安山岩	a	2.60	2.80	0.80	6.00
	136	W	9	137208	28 933	45 951	-1.169	楔形石器	黒曜石		2.40	2.10	1.30	4.40
	137	V	8	133037	56 634	52 468	0.064	楔形石器	安山岩	a	2.10	1.60	0.80	3.10
	138	V	9	134373	55 234	51 476	-0.298	楔形石器	安山岩	a	2.75	1.80	0.80	2.94

表26 石器觀察表(3)

挿図	番号	区	層	取上番号	X	Y	Z	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	
113	139	W	9	-	-	-	0	楔形石器	安山岩	a	2.75	1.95	0.95	4.50
	140	X	9	135859	44.304	48.528	-0.217	楔形石器	安山岩	a	2.90	1.90	0.70	3.70
	141	X	9	136212	44.304	48.528	-0.245	楔形石器	安山岩	b	2.45	1.50	1.15	4.64
	142	X	9	136345	44.304	48.528	-0.295	楔形石器	安山岩	b	2.85	1.40	0.90	3.33
	143	W	8	136619	79.801	47.599	0.184	楔形石器	安山岩	a	3.75	1.75	1.70	11.47
	144	X	9	-	-	-	-	楔形石器	安山岩	b	3.60	1.10	1.20	5.10
	145	V	8	133794	68.892	54.89	0.082	楔形石器	安山岩	a	4.20	1.30	1.60	8.90
	146	W	8	134265	55.234	51.476	0.177	楔形石器	黑曜石		1.80	1.30	0.50	0.80
	147	W	9	135593	44.304	48.528	0.06	楔形石器	安山岩	a	2.20	1.30	0.50	1.50
	148	W	9	135644	44.304	48.528	-0.127	楔形石器	安山岩	a	3.60	2.30	2.00	14.70
114	149	U	8	130962	-	-	0.22	石錐	安山岩	b	2.85	1.75	1.10	3.49
	150	X	9	135893	44.304	48.528	-0.167	石錐	安山岩	b	3.65	1.40	0.95	3.14
	151	V	9	135167	55.234	51.476	-0.235	石錐	安山岩	a	3.90	1.55	0.85	3.88
	152	W	8	133200	68.892	54.89	0.129	石核	黑曜石		2.20	2.80	2.40	12.10
	153	V	9	133842	68.892	54.89	-0.345	石核	安山岩	a	3.45	2.25	2.50	13.88
	154	V	8	135921	44.304	48.528	-0.262	石核	黑曜石		2.10	2.80	2.00	11.50
	155	U	8	132154	56.634	52.468	0.172	石核	黑曜石		2.80	2.70	2.30	16.81
	156	S	9	130777	-	-	-0.531	石核	黑曜石		2.30	2.85	2.20	11.80
	157	V	8	134277	55.234	51.476	0.245	石核	黑曜石		2.10	3.20	2.30	13.40
	158	V	9	136049	44.304	48.528	-0.476	石核	安山岩	a	3.20	2.15	1.65	8.06
115	159	W	9	135756	44.304	48.528	-0.235	石核	黑曜石		3.05	3.25	1.70	18.12
	160	V	8	133300	68.892	54.89	0.255	石核	黑曜石		3.65	2.75	1.65	17.36
	161	U	8	133279	68.892	54.89	0.199	石核	黑曜石		2.80	3.40	1.80	15.40
	162	W	9	136408	79.801	47.599	-0.37	石核	安山岩	b	12.30	13.40	5.90	985.00
	163	V	9	135014	55.234	51.476	-0.47	石核	安山岩	b	3.60	6.30	5.80	171.90
	164	W	9	137054	28.933	45.951	-0.511	石核	安山岩	b	6.25	9.00	5.60	287.67
	165	W	9	135666	44.304	48.528	-0.086	石核	黑曜石		4.60	5.80	5.40	164.50
	166	X	9	135829	44.304	48.528	-0.43	石核	安山岩	a	4.20	6.65	2.80	61.58
	167	V	8	132751	56.634	52.468	0.202	石核	安山岩	b	4.95	4.75	3.10	72.95
	168	W	9	137146	28.933	45.951	-1.161	石核	黑曜石		2.55	5.35	4.00	48.70
116	169	W	9	137157	28.933	45.951	-1.031	石核	安山岩	a	5.10	3.55	1.60	25.15
	170	W	9	135745	44.304	48.528	-0.294	石核	安山岩	a	4.75	3.75	2.00	26.33
	171	W	9	135616	44.304	48.528	-0.439	石核	安山岩	b	1.70	4.10	2.55	13.89
	172	W	9	137291	28.933	45.951	-1.198	石核	安山岩	a	3.90	5.70	2.00	43.50
	173	W	8	135485	42.478	47.125	0.31	打製石斧	頁岩		9.85	3.05	0.95	32.41
	174	X	9	135471	42.478	47.125	-0.371	打製石斧	安山岩	b	9.65	4.50	1.40	60.19
	175	U	8	131332	59.71	52.643	-	打製石斧	頁岩		11.10	5.20	1.50	104.80
	176	V	9	135384	42.478	47.125	-0.24	打製石斧	頁岩		13.65	3.65	2.00	87.27
	177	U	8	131334	59.71	52.643	-	磨製石斧	蛇紋岩	-	9.80	5.60	1.30	117.90
	178	W	9	136870	28.933	45.951	-0.85	磨製石斧	頁岩		11.80	3.20	3.20	297.79
117	179	U	8	132417	56.634	52.468	0.168	磨製石斧	頁岩		12.00	4.70	1.80	165.70
	180	V	8	135323	42.478	47.125	0.253	磨製石斧	蛇紋岩	-	12.00	3.60	1.40	95.10
	181	W	9	136686	79.801	47.599	-0.111	磨製石斧	頁岩		14.10	5.70	2.80	346.00
	182	W	8	135482	42.478	47.125	0.239	磨製石斧	頁岩		15.90	6.80	2.80	462.00
	183	X	9	135472	42.478	47.125	-0.283	磨製石斧	蛇紋岩	-	16.50	8.30	2.30	464.00
	184	V	8	136149	44.304	48.528	-0.272	磨製石斧	頁岩		10.45	4.60	2.05	97.47
	185	W	9	137156	28.933	45.951	-0.926	磨製石斧	頁岩		11.40	7.10	1.55	124.74
	186	X	9	136320	44.304	48.528	-0.28	磨製石斧	頁岩		7.30	7.50	1.50	124.02
	187	V	8	135321	42.478	47.125	0.228	磨製石斧	頁岩		7.70	3.80	1.05	40.94
	188	V	9	135397	42.478	47.125	-0.196	磨製石斧	頁岩		(6.90)	(3.25)	(1.35)	37.01
118	189	S	8	131373	59.71	52.643	-	磨製石斧	安山岩	a	(7.55)	(3.75)	(1.55)	73.19
	190	W	9	135420	42.478	47.125	-0.017	磨製石斧	頁岩		(9.25)	(3.60)	(1.80)	81.68
	191	W	9	135419	42.478	47.125	0.136	磨製石斧	頁岩		10.00	4.20	1.60	80.12
	192	V	8	135363	42.478	47.125	0.236	磨製石斧	頁岩		8.10	2.20	2.20	129.22
	193	U	8	131331	59.71	52.643	-	磨製石斧	安山岩	a	(8.50)	(6.40)	(1.20)	96.93
	194	W	9	135450	42.478	47.125	-0.148	磨製石斧	頁岩		(7.50)	(6.70)	(1.90)	94.90
	195	U	8	132471	56.634	52.468	0.246	礫器	頁岩		9.80	9.30	2.70	295.00
	196	U	8	131447	56.634	52.468	-	礫器	頁岩		10.80	8.40	2.40	260.00
	197	W	8	135481	42.478	47.125	0.27	礫器	頁岩		13.00	9.30	3.10	335.00
	198	V	8	135332	42.478	47.125	0.213	礫器	頁岩	-	9.45	6.40	2.60	-
119	199	W	9	136415	79.801	47.599	-0.525	礫器	頁岩		17.50	9.50	4.00	702.00
	200	V	8	132684	56.634	52.468	0.337	礫器	頁岩		12.80	4.50	3.50	197.40
	201	V	8	135335	42.478	47.125	0.149	礫器	頁岩		9.20	4.90	1.60	72.00
	202	V	8	132617	56.634	52.468	0.288	礫器	安山岩		5.60	10.40	1.10	78.90
	203	U	8	131164	-	-	-	礫器	砂岩	-	9.60	10.20	4.10	303.00
	204	V	8	135322	42.478	47.125	0.257	敲石	石英斑岩	-	6.65	2.55	2.25	57.83
	205	V	9	136462	79.801	47.599	-0.762	敲石	頁岩		9.10	2.90	2.05	79.88
	206	W	9	135401	42.478	47.125	0.136	敲石	頁岩		9.95	4.00	1.85	105.46
	207	W	9	137003	28.933	45.951	-0.996	敲石	砂岩	-	9.00	3.80	2.55	103.56
	208	W	8	136658	79.801	47.599	0.037	敲石	頁岩		10.05	3.75	2.50	152.26

表27 石器觀察表(4)

挿図	番号	区	層	取上番号	X	Y	Z	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
123	209	V	8	135328	42 478	47 .125	- 0 .124	敲石	砂岩	-	11 50	2 40	2 40	159 .76	
	210	X	9	135461	42 478	47 .125	- 0 .193	敲石	砂岩	-	10 20	4 00	3 00	141 .09	
124	211	V	8	135371	42 478	47 .125	0 27	敲石	砂岩	-	8 85	4 50	3 15	146 22	
	212	V	8	132767	56 634	52 468	0 359	敲石	砂岩	-	7 20	4 20	4 00	167 71	
	213	X	9	135459	42 478	47 .125	- 0 209	敲石	頁岩	-	10 60	5 25	2 05	183 61	
	214	V	8	132568	56 634	52 468	0 291	敲石	砂岩	-	11 25	5 10	2 20	211 97	
	215	W	8	135479	42 478	47 .125	0 .112	敲石	頁岩	-	12 80	5 70	3 15	360 00	
	216	V	6	136605	79 801	47 599	0 .119	敲石	頁岩	-	12 30	4 90	2 35	227 41	
	217	V	9	135339	42 478	47 .125	- 0 29	敲石	砂岩	-	7 55	3 25	2 10	73 62	
	218	U	8	131257	59 71	52 643	-	敲石	安山岩	-	(5 25)	(3 00)	(2 30)	56 90	
	219	X	9	137127	28 933	45 951	- 0 687	敲石	砂岩	-	7 00	4 50	3 10	131 70	
	220	X	9	136305	44 304	48 528	- 0 235	敲石	砂岩	-	7 25	5 15	3 85	201 36	
	221	W	9	135424	42 478	47 .125	- 0 46	敲石	頁岩	-	(8 80)	(4 00)	2 00	85 90	
	125	222	W	9	135414	42 478	47 .125	0 001	磨石敲石	安山岩	-	6 20	4 90	3 30	146 80
223		W	9	135444	42 478	47 .125	- 0 108	磨石敲石	安山岩	-	6 40	4 80	2 80	132 30	
224		V	9	135389	42 478	47 .125	- 0 14	磨石敲石	安山岩	-	6 90	5 00	3 30	168 10	
225		V	9	135396	42 478	47 .125	- 0 209	磨石敲石	安山岩	-	7 30	4 90	3 70	194 10	
226		W	9	135434	42 478	47 .125	- 0 226	磨石敲石	安山岩	-	7 10	5 50	2 40	148 30	
227		W	8	136661	79 801	47 599	- 0 03	磨石敲石	安山岩	-	7 00	5 30	2 50	147 60	
228		V	8	136502	79 801	47 599	0 265	磨石敲石	安山岩	-	7 20	5 70	2 80	178 00	
229		W	9	135416	42 478	47 .125	0 086	磨石敲石	砂岩	-	7 10	6 00	2 80	173 00	
230		V	8	132724	56 634	52 468	0 279	磨石敲石	安山岩	-	6 40	5 00	3 80	161 60	
231		W	9	133730	68 892	54 89	0 248	磨石敲石	安山岩	-	6 30	5 00	2 90	144 80	
232		W	9	136684	79 801	47 599	- 0 277	磨石敲石	安山岩	-	7 10	5 00	2 80	157 40	
233		W	9	133737	68 892	54 89	- 0 175	磨石敲石	砂岩	-	6 80	5 00	2 50	116 80	
234		W	8	136660	79 801	47 599	0 067	磨石敲石	安山岩	-	6 80	5 80	3 30	192 00	
235		W	9	135435	42 478	47 .125	- 0 066	磨石敲石	砂岩	-	7 20	6 60	2 30	164 00	
236		X	9	136308	44 304	48 528	- 0 135	磨石敲石	安山岩	-	7 40	4 30	2 60	134 50	
237		V	8	133719	68 892	54 89	0 032	磨石敲石	安山岩	-	10 10	8 20	4 30	573 00	
126		238	V	8	133723	68 892	54 89	0 181	磨石敲石	安山岩	-	10 30	8 60	3 90	555 00
		239	W	8	136653	79 801	47 599	- 0 085	磨石敲石	砂岩	-	10 50	7 90	4 30	537 00
	240	U	8	132109	56 634	52 468	0 146	磨石敲石	安山岩	-	9 10	8 60	5 10	622 00	
	241	V	9	135340	42 478	47 .125	- 0 246	磨石敲石	安山岩	-	9 60	8 40	4 30	540 00	
	242	V	8	135336	42 478	47 .125	- 0 136	磨石敲石	安山岩	-	9 10	7 80	4 20	443 00	
	243	V	8	133717	68 892	54 89	0 169	磨石敲石	砂岩	-	10 80	8 00	4 90	684 00	
	244	W	9	136803	43 767	48 838	- 0 613	磨石敲石	安山岩	-	12 20	8 90	4 80	793 00	
	245	V	9	133725	68 892	54 89	0 071	磨石敲石	安山岩	-	10 40	10 00	4 20	607 00	
127	246	V	9	136544	79 801	47 599	- 0 446	磨石敲石	安山岩	-	10 20	8 90	5 20	708 00	
	247	W	9	136678	79 801	47 599	- 0 009	磨石敲石	安山岩	-	11 00	9 70	4 10	683 00	
	248	V	8	132624	56 634	52 468	0 135	磨石敲石	石英斑岩	-	13 70	9 20	5 00	990 00	
	249	W	9	137078	28 933	45 951	- 1 127	磨石敲石	安山岩	-	10 50	9 50	5 20	827 00	
	250	V	8	136174	44 304	48 528	- 0 272	磨石敲石	安山岩	-	11 00	8 80	4 30	626 00	
	251	W	9	133845	68 892	54 89	- 0 142	磨石敲石	安山岩	-	10 20	8 70	4 70	631 00	
	252	W	9	136591	79 801	47 599	- 0 351	磨石敲石	安山岩	-	11 00	9 80	5 50	903 00	
128	253	V	7	136553	79 801	47 599	- 0 269	磨石敲石	安山岩	-	10 20	9 7	5 5	829	
	254	V	8	135368	42 478	47 .125	0 189	磨石敲石	花崗岩	-	12 20	10 40	4 70	850 00	
	255	W	8	136608	79 801	47 599	0 157	磨石敲石	安山岩	-	10 60	10 40	5 60	965 00	
	256	U	8	135345	42 478	47 .125	0 116	磨石敲石	石英斑岩	-	11 70	10 60	5 60	1027 00	
129	257	S	9	130797	-	-	- 0 738	磨石敲石	石英斑岩	-	12 00	10 10	5 70	1017 00	
	258	W	9	136716	39 881	43 989	- 1 025	磨石敲石	安山岩	-	10 90	9 30	6 00	916 00	
	259	T	8	130860	-	-	- 0 021	磨石敲石	砂岩	-	9 40	8 70	7 70	831 00	
	260	W	8	133735	68 892	54 89	0 257	磨石敲石	砂岩	-	7 10	6 80	4 30	227 00	
	261	X	9	137196	28 933	45 951	-	磨石敲石	砂岩	-	11 20	10 10	8 40	1331 00	
	262	W	9	136411	79 801	47 599	- 0 785	磨石敲石	砂岩	-	8 90	5 20	2 90	220 00	
	263	V	8	133724	68 892	54 89	0 377	石皿	安山岩	-	(15 65)	(14 60)	(2 60)	910 00	
130	264	V	9	135381	42 478	47 .125	- 0 296	石皿	砂岩	-	(9 40)	(9 15)	(3 35)	283 64	
	265	X	9	136816	24 9	48 351	- 0 289	石皿	砂岩	-	(11 20)	(7 80)	(2 40)	212 71	
	266	X	9	135460	42 478	47 .125	- 0 113	石皿	安山岩	-	(17 60)	(12 00)	(4 20)	1400 00	
	267			-	-	-	-	石皿	砂岩	-	(7 35)	(6 3)	(2 9)	200	
	268	W	9	135412	42 478	47 .125	- 0 099	石皿	安山岩	-	(14 00)	(15 10)	(3 00)	1000 00	
	269	W	9	137000	28 933	45 951	- 1 019	石皿	安山岩	-	(12 60)	(5 20)	(3 40)	500 00	
131	270	W	9	136975	28 933	45 951	- 1 037	石皿	安山岩	-	22 80	16 05	7 75	3300 00	
	271	V	9	135378	42 478	47 .125	- 0 251	石皿	砂岩	-	23 80	15 90	6 00	2700 00	
	272			136456	79 801	47 599	- 0 993	石皿	砂岩	-	34 20	28 70	5 4	6300	
132	273	W	9	136422	79 801	47 599	- 0 52	石皿	安山岩	-	30 40	31 80	5 40	7500 00	
	274	V	8	133715	68 892	54 89	0 309	石皿	安山岩	-	21 40	16 30	2 35	1400 00	
	275	V	9	136548	79 801	47 599	- 0 314	石皿	砂岩	-	22 70	18 10	4 30	2400 00	
	276	V	8	133720	68 892	54 89	0 076	石皿	安山岩	-	20 50	15 60	5 70	2900 00	
133	277	W	9	135453	42 478	47 .125	- 0 189	石皿	花崗岩	-	25 70	20 30	13 80	1350 00	
	278	W	9	136791	43 767	48 838	- 0 56	石皿	砂岩	-	23 40	21 20	9 20	2300 00	
	279	U	8	136944	28 933	45 951	- 0 487	石皿	砂岩	-	22 50	16 60	9 80	3800 00	

表28 中・近世出土遺物観察表(1)

挿図	出土区	取上 番号	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胴径 (cm)	色調		調整		備考
											外面	内面	外面	内面	
146	1	B-5	-	土師器	坏		11.8		3.1		にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	2	A-5	-	土師器	坏		12.4	3.7			にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	3	A-5	-	土師器	坏		11.8		2.7		褐灰	明褐灰	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	4	M-?	-	土師器	坏		12.4		2.9		灰黄褐	にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	5	B-2	-	a	土師器	坏	12.2		2.8		灰褐	にぶい褐	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	6	A-6	-	土師器	坏		12	4.2			橙	橙	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	7	B-5	-	土師器	坏		12				にぶい黄橙	橙	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	8	B-6	-	土師器	坏		13				にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	9	B-4	-	土師器	坏			7.8			にぶい橙	にぶい赤褐	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	10	B-6	-	土師器	坏		14.4		2.8		にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	11	B-4	-	土師器	坏			8.8	3.1		にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	12	A-5	-	土師器	坏			8.4			橙	にぶい橙	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	13	A-5	-	土師器	坏			8.6			灰黄褐	灰黄褐	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	14	A-5	-	土師器	坏			8.8	1.4		灰黄褐	灰黄褐	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	15	A-5	-	土師器	坏				9		にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	16	A-5	-	土師器	坏		14		3.8		にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	
	17	C-? ~ C-6 ~8	-	土師器	坏			20.8			にぶい橙	にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	
	18	B-6	-	土師器	皿か			7.6	1.6		にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	糸切り
	19	A-6	-	土師器	坏		15.8		3.9		にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	20	N-7	111146	-	土師器	皿			14		暗灰黄	灰黄	ヨコナデ	ヨコナデ	
	21	-	-	-	土師器・瓦質土器	脚付鉢	底部				浅黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	
147	22	Q-7	106352	a	土師器	小皿	9.2				にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り。ゆがみあり。
	23	A-5	-	土師器	小皿		8.4		1.2		灰黄褐	灰黄褐	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	24	F-5	100704	-	土師器	小皿			5.6	1.7	灰黄	浅黄	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	25	K-8	120378	-	土師器	小皿		6.4	1.8		にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り後、板状工具による擦り痕
	26	A-5	-	土師器	小皿		8.2		1.1		にぶい橙	橙	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	27	A-5	-	表	土師器	小皿		8.2	1		明黄褐	明黄褐	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	28	R-6	27889	a	土師器	小皿			7.6	1.4	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	29	A-5	-	土師器	小皿		9.4				浅黄橙	にぶい橙	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	30	R-7	25865	a	土師器	小皿		8.2			にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	31	B-6	-	土師器	小皿		9.2				にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	32	A-5	-	土師器	小皿		8.3		1.4		黒褐	にぶい褐	ヨコナデ	ヨコナデ	スス付着・いびつ・糸切り
	33	A-4	-	土師器	小皿		9.6				にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	34	K-2	120377	-	土師器	小皿		5.8	1.65		にぶい黄橙	浅黄	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	35	H-4	10821	-	土師器	小皿		8.6			にぶい黄橙	にぶい橙	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	36	F-4	105440	b	土師器	小皿		8.6		1.85	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	底部に板状工具による擦痕
	37	B-6	-	土師器	小皿		8.2		1.2		にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	38	A-4	-	表	土師器	小皿		5.8	1.6		にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り
	39	Q-9 R-9	116974 119942	a	黒色土器B類	小皿		9.6			黒	黒	ヨコナデの ちミガキ	ヨコナデの ちミガキ	
	40	P-8	106438	a	黒色土器B類	小皿		10.4			黄灰	黒	ミガキ	ミガキ	11C前半～
	41	D-5	-	土師器	小皿			6.4	1.2		浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	糸切り・底部穿孔か
	42	B-5	-	土師器	皿			8.8			にぶい黄橙	にぶい黄橙	-	-	糸切り・底部穿孔か
43	U-9	125728	-	土師器・瓦質土器	蓋	完形	9.4	10.2	4.8	橙	橙	ケズリのち ミガキ	ナデ	急須か何かの蓋。火消し壺ではない。	
44	A-5	-	土師器	転用紡錘車			6	0.9		にぶい黄橙	にぶい黄橙	-	-	研磨して整形・糸切り	
45	J-4	-	表	土師器	転用紡錘車		6.9	1.1		灰黄	灰黄	-	-	整形・糸切り	
148	46	B-5	-	瓦質土器	羽釜						にぶい黄	にぶい橙	ナデ	ナデ	スス付着
	47	B-5	-	瓦質土器	羽釜						暗灰黄	にぶい黄橙	ナデ。工具 痕	ケズリ	スス付着
	48	A-4	-	土師器・瓦質土器	土鍋か		18.2				浅黄	浅黄	ナデ	ナデ	
	49	I-8	-	表	土師器・瓦質土器	羽釜				30.4	にぶい黄橙	にぶい黄	ナデ	ケズリ	スス付着
	50	H-7	-	表	土師器・瓦質土器	焙烙か					にぶい黄橙	浅黄橙	ナデ。指痕	ナデ。工具 痕	スス付着
	51	O-7	108841	-	土師器・瓦質土器	焙烙か					橙	橙	ナデ。指痕	ナデ。工具 痕	スス付着
	52	F-4	-	表	土師器・瓦質土器	焙烙か					浅黄橙	浅黄橙	ナデ。指痕	ナデ。工具 痕	
	53	N-9	128621	-	土師器・瓦質土器?	把手					灰黄褐	x	ナデ。指オ サエ	x	直径2.8cm
	54	G-I-7-8	-	-	薩摩焼	小型羽釜				14.2	暗褐	にぶい赤褐	ナデ	ナデ	スス付着
	149	55	I-8	-	瓦質土器	擂鉢	口縁部	37.4				にぶい黄橙	にぶい橙	ケズリ	スリ目
56		I-6	-	表	瓦質土器	擂鉢	口縁部	24.2			灰	灰	ナデ。指オ サエ	ナデ。スリ 目	在地(備前の横俵)。14C未か
57		C-7	-	瓦質土器	擂鉢	口縁部	30.4				にぶい黄橙	にぶい褐	指圧痕	横ナデ	
58		N-7	111055	-	瓦質土器	擂鉢?	胴部				オリブ黒	オリブ黒	ナデ	ハケ目	
59		A-4	-	瓦質土器	擂鉢	口縁部	34.4				灰	灰黄	ナデ	ハケ目	
60		S-8	106540	-	瓦質土器	擂鉢	口縁部	38			灰	黄灰	ナデ	ナデ。スリ 目	
61		R-5	-	表	瓦質土器	擂鉢	底部				灰黄	浅黄	ナデ。ケズ リ。	ナデ。ハケ 目。スリ目	
62		L-9	128590	-	瓦質土器	擂鉢	口縁部	25.2			浅黄	浅黄	ハケ目。ナ デ	ナデ。スリ 目	
63		I-7	-	瓦質土器	擂鉢	底部		16.2			灰	灰	ハケ目。ナ デ	ナデ。スリ 目	
64		I-6	-	表	瓦質土器	擂鉢	底部		14.2		灰白色	灰白色	ナデ。ケズ リ。	ナデ。スリ 目	
65		T-9	-	-	東播磨系須恵器	甕	口縁部				灰	黄灰	ナデ	ナデ	神出・魚住ではない。14Cか
66		C-6	-	-	東播磨系須恵器	甕	口縁部	19.4			黒	灰-黒	ナデ	ナデ	神出・魚住ではない。14Cか

表29 中・近世出土遺物観察表(2)

挿図	出土区	取上 番号	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胴径 (cm)	色調		調整		備考
											外面	内面	外面	内面	
149	67	C-3	-	瓦質土器	火鉢	口縁部				49.8	浅黄	浅黄	ナデ	ナデ	突帯接合あり
	68	D-7	105183	瓦質土器	火鉢か	胴部					灰	黄灰	ナデ	ナデ	
	69	K-5	29	瓦質土器	火鉢	底部・脚		24.4			浅黄橙	浅黄橙	ケズリ。ナデ	ケズリ。ナデ	
	70	D-2	-	瓦質土器	鉢	口縁部～ 底部	10.7	9.6			灰	灰	ナデ	ナデ	スタンプ文
150	71	B-4	-	東播磨系須恵器	片口鉢	口縁部	29.4				黒灰	灰	ナデ	ケズリ。ナデ	中世。口縁部に一部分自然釉か？
	72	.	-	東播磨系須恵器	片口鉢	口縁部	28.6				灰, 灰黄	灰黄	ナデ	ケズリ。ナデ	中世。口縁部に一部分イブシあり
	73	A-5 B-5	-	東播磨系須恵器	片口鉢	口縁部～ 胴部	23				暗灰, 灰	灰	ナデ	ケズリのち ナデ	口縁部にイブシあり
	74	A '3	-	東播磨系須恵器	片口鉢	口縁部	28				暗灰黄, 灰黄	灰黄	ナデ	ケズリ。ナデ。指オサエ	指頭痕。イブシあり(弱い)
	75	A '5 B-6	-	東播磨系須恵器	片口鉢	口縁部	26.2				黒, 灰	褐灰	ナデ	ケズリ。ナデ	自然釉(イブシもありか?)
	76	M-7	115681	東播磨系須恵器	片口鉢	口縁部	26.2				黒, 灰	灰	ナデ	ケズリ。ナデ	C3・D類(兵庫津分類) 神出・魚住ではない自然釉。口縁部に窯から出す際に切り離したような跡がみられる。14C前半
	77	A-5	-	東播磨系須恵器	片口鉢	口縁部	25				灰	灰	ナデ	ケズリ。ナデ	少し楕円きみか？
	78	A-5	-	東播磨系須恵器	片口鉢	口縁部	24				黒, 灰	灰	ナデ	ケズリ。ナデ	C3・D類(兵庫津分類) 神出・魚住ではない自然釉。口縁部に重ね焼きを剥いた跡がみられる。14C前半
	79	A-4	-	東播磨系須恵器	片口鉢	口縁部	26.8				灰	灰	ナデ	ケズリ。ナデ	
	80	B-6	-	東播磨系須恵器	片口鉢	口縁部	25.6				灰, 浅黄	浅黄	ナデ	ケズリ。ナデ	口縁部にイブシあり
	81	E-8	-	東播磨系須恵器	片口鉢	口縁部	25.2				灰, 灰黄褐	灰黄	ナデ	ケズリ。ナデ	口縁部にイブシあり
	82	B-4	-	東播磨系須恵器	片口鉢	口縁部	28.6				灰, 灰白	灰黄	ナデ	ケズリ。ナデ	口縁部にイブシ?少し楕円きみか？
	83	A-5	-	東播磨系須恵器	片口鉢	口縁部	21.6				灰	黄灰	ナデ	ケズリ。ナデ	
	84	A-5	-	東播磨系須恵器	片口鉢	口縁部	24				暗灰黄	灰黄	ナデ	ケズリ。ナデ	C3・D類(兵庫津分類) 神出・魚住ではない自然釉。イブシあり。14C前半
	85	A-5	-	東播磨系須恵器	片口鉢	口縁部	27				黒, 灰	灰	ナデ	ケズリ。ナデ	自然釉(イブシありか?)。口縁部内面に焼成時の裂け目あり。口縁部に窯から出す際に削った跡あり。
	86	O-9	120247	a	東播磨系須恵器	片口鉢	口縁部	20.2			黒, 灰	黄灰	ナデ	ケズリ。ナデ	C3・D類(兵庫津分類) 神出・魚住ではない自然釉。14C前半
	87	B-5	-	東播磨系須恵器	片口鉢	口縁部	22.4				黒, 灰	灰	ナデ	ケズリ。ナデ	C3・D類(兵庫津分類) 神出・魚住ではない自然釉か? 口縁部に自然釉の痕。14C前半
	88	B-5-6	-	東播磨系須恵器	片口鉢	口縁部	26.4				灰	灰	ナデ	ケズリ。ナデ	イブシあり
	89	A-5	-	東播磨系須恵器	片口鉢	口縁部	19.6				灰黄	灰白	ナデ	ケズリ。ナデ	口縁部にイブシあり
90	A-5 B-4 B-5	-	東播磨系須恵器	片口鉢	口縁部	24.4				黒褐, 灰	灰	ナデ	ケズリ。ナデ	口縁部にイブシあり	
91	B-5	-	東播磨系須恵器	片口鉢	口縁部～ 底部		7.2			にぶい黄橙, 黄灰	にぶい黄橙	ナデ	ケズリ。ナデ	痛みが激しく外面の調整不明。底部内面に強いナデあり	
92	A-4 A '5 A-5	-	東播磨系須恵器	片口鉢	口縁部	25.2				灰	灰	ナデ	ケズリ。ナデ		
93	A-5	-	東播磨系須恵器	片口鉢	口縁部	27				灰, 灰白	灰黄	ナデ	ケズリ。ナデ	イブシあり	
94	C 'C-6 -8	-	東播磨系須恵器	片口鉢	口縁部	23				黒, 灰オリブ	灰	ナデ	ケズリ。ナデ	口縁部外面に自然釉	
95	A-5 D-5	-	東播磨系須恵器	片口鉢	胴部～ 底部	8				灰白	灰白	ナデ	ナデ		
96	CD-7	-	東播磨系須恵器	片口鉢	胴部				20.6	灰	灰	ナデ	ケズリ。ナデ		
97	N-9	128616		東播磨系須恵器	片口鉢	胴部～ 底部		8		灰	オリブ黒	ナデ	ナデ	内面に施釉	
151	98	N-8	111254	榊万丈系須恵器	甕	口縁部	39.6				灰黄	灰黄	格子目タタキ。ナデ	ケズリのち ナデ	
	99	N-9	119934	a	榊万丈系須恵器	甕	口縁部	24.8			灰	灰, 灰白	格子目タタキ。ナデ	ケズリのち ナデ	全体的にいぶし
	100	N-7	111067		榊万丈系須恵器	甕	頸部～ 胴部			35.2	灰黄	灰	格子目タタキ。ナデ	ケズリのち ナデ	
	101	A '4	-	東播磨系須恵器	甕	頸部					黒	灰黄褐	格子目タタキ。ナデ	ケズリのち ナデ	神出・魚住ではない。14Cか
	102	M-7	113794		須恵器	甕	口縁部	19.6			灰	灰	タタキ。ナデ	ナデ	古代の可能性あり
	103	N-9	128609		須恵器	甕・鉢?	底部				灰	灰白	格子目タタキ。ケズリ。ナデ	ケズリのち ナデ	
	104	O-9	120247	a	須恵器	甕か	底部			20.8	灰黄	灰黄	格子目タタキ。ナデ	ケズリのち ナデ	中世
	105	N-4-5	鉄溝3	-	類須恵器	甕	底部		13.6		黒褐	暗赤褐	ナデ	指オサエ。ナデ	
	106	N-8	113714		類須恵器	甕	底部		6.8		黒褐	暗赤褐	ナデ	指オサエ。ナデ	

表30 中・近世出土遺物観察表(3)

挿図	出土区	取上 番号	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胴径 (cm)	色調		調整		備考	
											外面	内面	外面	内面		
151	107	P-9	-	類須恵器	甕	胴部					灰	暗赤褐	タタキ。ナ アテ具。ナ	ナ		
	108	P-9	-	類須恵器	甕	胴部					灰	暗赤褐	タタキ。ナ アテ具。ナ	ナ		
	109	Q-9	-	類須恵器	甕	底部		18			褐灰	暗赤褐	タタキ。ナ アテ具。ナ	ナ		
	110	B-4	-	類須恵器	甕か	胴部					灰	灰	タタキ。ナ アテ具。ナ	ナ		
	111	Q-9	-	類須恵器	甕	胴部					灰	暗赤褐	タタキ。ナ アテ具。ナ	ナ		
152	112	C-6	-	常滑焼	甕・4型式	口縁部					灰オリブ	紫黒	ナデ	ナデ	12C末~13C初・4型式。自然釉	
	113	C-2	-	常滑焼	甕	胴部					オリブ	褐	ナデ	ナデ	自然釉がかかる	
	114	B-4	103210	備前焼	壺?	頸部					にぶい褐	にぶい褐	ナデ	ナデ	自然釉がかかる	
	115	C-2	-	備前焼	甕?	胴部					暗褐	明褐灰	ナデ	ナデ。指オサエ		
	116	M-4	-	備前焼	甕?	底部		25.6			極暗赤褐	褐	ナデ。指押さ ナデ。指オサエ	ナデ。指オサエ	破片の張り付き	
	117	H-3	-	備前焼	甕、壺	底部		12.8			黒褐	赤褐	ケズリのち ナデ	ケズリのち ナデ		
	118	I-6	-	備前焼	鉢	底部		14			灰褐	黒褐	ナデ	ナデ。スリ目	水田の土。16C初	
	119	-	-	備前焼	壺	底部		14.2			赤褐	赤褐	ケズリのち ナデ	ケズリのち ナデ	種壺?	
	120	J-7	-	瀬戸	壺	肩部~胴部				11.8	黒褐	暗赤褐	ナデ	指オサエ。ナ ナデ	オチコミ。外面に緑釉がかかる。内面に釉だれ。中世後半か	
	153	121	C-6	-	薩摩焼	甕	口縁部	34.4				オリブ黒	灰	ナデ	ナデ	貝目。内外面とも施釉
122		B-3	-	薩摩焼	甕	口縁部	17.2				暗赤灰	暗赤灰	ナデ	ナデ	貝目。内外面とも施釉	
123		C-5	-	薩摩焼	甕	口縁部	12				灰赤。灰	灰	ナデ	ナデ	貝目。内外面とも施釉	
124		G-6	-	薩摩焼	甕	胴部					暗赤灰。灰	灰	ナデ	ナデ	外面に施釉	
125		C-6	-	薩摩焼	鉢	口縁部	33				灰赤	灰	ナデ	ナデ	貝目。内外面とも施釉	
126		N-6	-	薩摩焼	播鉢	口縁部	34.8				オリブ黒	灰赤。灰	ナデ	ナデ。スリ目	内外面とも施釉	
127		-	-	薩摩焼	播鉢	口縁部~胴部	24.6				オリブ黒	オリブ黒	ナデ	ナデ。スリ目	18C	
128		G・I・7・8	-	薩摩焼	鉢	口縁部	29.2				オリブ黒	オリブ黒	ナデ	ハケ目。ナ ナデ	内外面とも施釉	
129		M-7	113736	薩摩焼	播鉢	口縁部	28				灰オリブ	赤灰	ナデ	ナデ。スリ目	貝目。内外面とも施釉	
130		J-5	-	薩摩焼	鉢	口縁部	29.8				オリブ黒	オリブ黒	ナデ	ナデ	内外面とも施釉	
131		G-6	-	薩摩焼	蓋	口縁部	34		5.7		オリブ黒	灰オリブ	ナデ	ナデ	貝目。内外面とも施釉	
132		C-2	-	薩摩焼	蓋	口縁部	18.4		4.2		オリブ黒	灰オリブ	ケズリ。ナ ナデ	ナデ	内外面とも施釉	
133		M-7	110746	薩摩焼か?	瓶	口縁部	6				オリブ黒	オリブ黒	ナデ	ナデ	内外面とも施釉。薩摩焼ではない可能性大。	
134		M-7	115688	a	薩摩焼	鉢	口縁部~胴部	10.2			オリブ黒	オリブ黒	ナデ	アテ具。ナ ナデ	17C 苗代川。内外面とも施釉	
135		-	-	薩摩焼	鉢	口縁部~胴部	9.6				黒褐	オリブ黒	ナデ	アテ具。ナ ナデ	17C 苗代川。内外面とも施釉	
136		G-2	-	薩摩焼(元立院か?)	碗	底部		9			オリブ褐	黒	ケズリのち ナデ	ナデ	元立院か?。内面のみ施釉	
137		G・H・I・7・8	-	薩摩焼	碗	口縁部				10.4	黒	黒	ナデ	ナデ	内外面とも施釉	
138		C-7	-	薩摩焼(加治木・始良系。龍門司か?)	碗	胴部				8.2	黄褐	黄褐	ナデ	ナデ	龍門司か?。内外面とも施釉	
139		J-8	-	白薩摩	碗	底部		5.2			浅黄	浅黄	ナデ	ナデ	内外面とも施釉	
140		B-5	-	白薩摩	碗	底部		4			灰白	灰白	ケズリのち ナデ	ナデ	朝鮮軟式陶器の可能性あり。底部に墨。内外面とも施釉	
141		T-9	-	a	薩摩焼(加治木・始良系。龍門司か?)	皿	口縁部~底部	9.5	4.1	2.4		にぶい褐	黄褐	ナデ	ナデ	龍門司か?。糸切り痕。見込みに目あと。内面施釉。外面部分的に釉だれ
142		H-5	-	薩摩か?	蓋	口縁部	13.6			16.6	灰	灰	ナデ	ナデ	外面に施釉	
143		H・I・6・7	-	薩摩か?	蓋	口縁部	11.6			14.4	暗オリブ褐	にぶい赤褐	ナデ	ナデ	上面に重ね焼の痕跡あり。外面に施釉	
144		U-9	-	薩摩か?	蓋	口縁部	7			9.6	黒褐	にぶい赤褐	ナデ	ナデ	上面に重ね焼の痕跡あり。外面に施釉	
145		M-8	-	a	薩摩か?	蓋	口縁部	6		8.4	黒褐	灰	ナデ	ナデ	外面に施釉	
146		C-8	-	龍門司か?	瓶	肩部~胴部				6	黄褐	黄褐	ナデ	ナデ	外面に施釉	
147		I-5	11316	b	薩摩	瓶	口縁部	7.2			オリブ黒	オリブ黒	ナデ	ナデ	内外面とも施釉	
148		I-5	-	薩摩	土瓶	注口部					オリブ黒	灰。オリブ黒			外面に施釉。口の内部に釉薬が流れ込んでいる。タメ口。穴3つ	
149	Q-7	-	a	薩摩か?	土瓶(脚)	底部			14	にぶい赤褐	にぶい赤褐	ナデ	ナデ	内面に施釉。外面に釉だれ		
154	150	C-7	一括	青磁染付	大皿・鉢	口縁部~胴部					スノウホワイト・藍	スノウホワイト・青磁			波佐見か17後半~18C くらわんか手以前 輪花口縁	
	151	C-2	-		碗	口縁部~胴部	16.2				うす水	うす水				
	152	O-7	115921	肥前	碗	口縁部~胴部	15.2				ミストグリーン	うす水				
	153	I-7	一括	染付	皿	底部					スノウホワイト・藍・焦茶	スノウホワイト・藍・焦茶			染付・蛇の目釉剥ぎ後鉄釉・線刻文様。高台ケズリ	
	154	C-7	一括	肥前	碗	胴部~底部					スノウホワイト・ラッカーレッド・緑	スノウホワイト			肥前色絵(赤・緑)。17C	
	155	J-8	一括	肥前(唐津)	碗	口縁部~底部					キャメル・オリブドラブ・シダーグリーン	キャメル・オリブドラブ・シダーグリーン	回転ケズリ		肥前16末~17初。胎土目	
	156	E-2	-	肥前(染付)	碗	口縁部~底部	10.2	5	7.8		藍白	藍白			砂目	
	157	M-7	113856	肥前	筒形碗	口縁部~										
	158	N-6	一括	肥前(京風)	碗	底部					ベールベージュ・ブロンズ	ベールベージュ・ハニースイート	回転ケズリ、口クロナデ		肥前(京風)・鉄絵(17世紀初~18世紀前)	
	159	G-7	104115	染付	皿						アイボリーホワイト・紺青	アイボリーホワイト・シルバークレイ			19C在地・内面に足付ハマ痕4ヶ所	
	160	M-4	-	染付	碗	底部		4.8			灰白色	灰白色			高台豊付以外全施釉。底部に「生」唐草文。	
	161	I-3	-	肥前(唐津)	皿	口縁部~底部	11.6	4.2			にぶい赤褐	灰黄			内面全面・外面腰部まで施釉。釉薬：灰黄。見込みに目跡	

表31 中・近世出土遺物観察表(4)

挿図	出土区	取上 番号	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胴径 (cm)	色調		調整		備 考
											外面	内面	外面	内面	
154	162	X-9	-	肥前		胴部					黄褐	黄褐			内外面とも施釉
	163	.	?	肥前青磁	口折れ皿	口縁部	14.2				ミストグリーン	ミストグリーン			全体的に施釉
	164	M-8	-	a 肥前(唐津)		口縁部~ 底部辺り					灰オリーブ	灰オリーブ			底部露呈
	165	C-6	-	染付	皿	口縁部~ 底部	11.8	4.6	3		灰白	灰白			ゆがみ大。17C前半。砂目
	166	M-8	119470	肥前(唐津)	碗	胴部~ 底部		4.4			にぶい赤褐	灰黄			内面全面・外面腰部まで施釉。 釉薬: 灰黄
	167	K-9	121109	青磁?	碗	胴部					ミストグリーン	ミストグリーン			近代か?
	168	I-5	11362	b 肥前?	蓋	口縁~ 底部					灰白	灰白			
155	169	O-9	128627	初期伊万里	椀	口縁部~ 胴部	9				藍白	藍白			
	170	G-I-7-8	-	肥前	筒形椀	口縁部~ 底部	8		4.6		藍白	藍白			
	171	B-5	-	肥前	椀	底部		4.8			ミストグリーン	ミストグリーン			雁文か
	172	B-3	-	表 肥前	小皿	口縁部~ 底部	7	1.9			藍白	藍白			内外ともに施釉。タコ唐草文。
	173	C-7	-	一括 染付	瓶	口縁部~ 頸部					ブルーウォッシュ ・シダーグリーン	スノウホワイト・シ ダーグリーン	ロクロナデ	絞り痕	染付
	174	E-5	-	瀬戸	皿	底部					藍白	藍白			17C初頭
	175	N-7	111173		陶器	壺の把手					褐	褐	ナデ	ナデ	内外面とも施釉。海で拾って きたか、転用して何かに使っ ている
	176	M-6	-		紅皿	底部	4.8	1.4	1.35		灰白	灰白			口唇から内面のみ施釉
156	177	B-5	-		蓋?	口縁部	7.7				灰白	灰白			全面施釉
	178	Q-7	101345	a 白磁	碗	口縁部	16.8				淡黄・灰黄	淡黄・灰黄			内面から外面腰部まで施釉。 釉薬: 灰黄。玉縁
	179	C-8	-	一括 白磁	碗	口縁部	15.8				灰白	灰白			内面と外面腰部まで施釉。玉 縁
	180	G-7	106411	白磁	碗	口縁部					灰	灰			全面施釉。106412と接合。玉 縁
	181	I-6	-	白磁	碗	口縁部					灰白	灰白			内面全面施釉。外面腰部まで 施釉。玉縁
	182	P-9	-	一括 白磁	碗	口縁部					灰白	灰白			内面全面施釉。外面腰部まで 施釉。玉縁
	183	T-9	-	一括 白磁	碗	底部		7			灰白	灰白			内面施釉。外面腰部まで施釉。 釉薬: 灰白。底部にケズリ
	184	.	-	- 白磁	碗	底部		7			灰黄・浅黄・灰 白	灰黄・浅黄			釉薬: 灰白。底部にケズリ
	185	Q-9	-	一括 白磁	碗	口縁部					灰白	灰白			全面施釉。釉薬: 灰白。端反 り縁
	186	B-5	-	白磁	碗	口縁~ 胴部					灰白	灰白			口縁部以外全面施釉。口壳。 釉薬: 灰白
	187	A-5	-	一括 白磁	碗	口縁~ 胴部	14.6				灰白	灰白			口縁部以外全面施釉。口壳。 釉薬: 灰オリーブ
	188	C-3	-	- 白磁	碗	底部		5			灰白	灰白			14C。見込みにスタンプ。底 部にケズリ
	189	F・G-26	-	- 白磁	碗	胴部~ 底部		5.5			灰白・灰オリー ブ	灰白			外面中位から下に施釉。見込 みに目跡。釉薬: 灰オリーブ。 底部にケズリ
	190	O-9	120247	a 白磁	碗	底部		5.4			灰白	灰白			高台内部以外全面施釉。透明 釉、灰白色。見込みにカキ目。 底部にケズリ
	191	T-9	127763	白磁 - 1 a	皿	口縁部~ 底部	10.6	3.2	2.8		灰白・灰オリー ブ	灰白			底部以外全面施釉。釉薬: 灰 オリーブ
	192	A-5	-	白磁	皿	口縁部	11.2				灰白	灰白			口壳。釉薬: オリーブ灰
	193	N-7	111109	白磁	皿	口縁部	10.2				灰白	灰白			口壳。釉薬: 灰白
	194	A-4	-	白磁	皿	底部		5.5			灰白	灰白			全面施釉。釉薬: 灰白
	195	.	-	- 白磁	皿	口縁~ 底部	10.7	4.2	2.7		灰白	灰白			森田D類(15C)外面高台量付 内面以外施釉。釉薬: 灰白。 底部にケズリ。釉に細かい貫 入を多く伴う。
	196	A-6	-	白磁	割高台	底部		4.4			灰白	灰白			岡山流域窯。15C 3/4~4/4。 底部に墨書
	197	N-6	-	青花	皿	口縁~ 底部	12	6.3	3.1		灰白	灰白			全面施釉。砂粒付着(目跡) 福建省(漳州窯)。釉薬: 灰白。 16C
	198	A-6	-	白磁(景德鎮)	皿	口縁部~ 底部	19.4	11			灰白	灰白			量付高台以外全面施釉。釉薬: 灰白。景德鎮
	199	A-5-B- 5-6	-	白磁	碗	口縁部~ 底部	11	7.2	3.3		灰白	灰白			徳化窯産か。口壳。透明釉。 13~14C代。型打ち
200	L-6	-	白磁	碗	口縁部~ 底部	9.2	4.2	4.2		灰白・明緑灰	灰白			内面見込以外全面施釉。釉薬: 明緑灰色	
201	M-4	-	白磁	碗	口縁~ 胴部	12.8				灰黄	灰黄			溝縁状口縁	
202	Q-9	-	一括 白磁	碗	口縁~ 胴部	11.2				灰白	灰白			全面施釉。見込み釉剥ぎ。釉 薬: 灰白	
203	B-5	-	白磁	合子の身	口縁~ 胴部	6.6				黄褐	黄褐	クシ目	ケズリ	外面のみ施釉。12~13Cか?	
157	204	A-7	-	青磁	椀	口縁部~ 底部	15	4.3	7.3		裏葉	裏葉			外面に蓮弁文。底部釉剥ぎ
	205	K-4	4363	a 青磁	椀	口縁部~ 底部		5.8			ブロンズ	ブロンズ			外面に蓮弁文
	206	B-6	-	青磁	椀	口縁部	14.8				オリーブグリーン	オリーブグリーン			蓮弁文
	207	M-4	-	一括 青磁	椀	口縁部	15.8				オリーブグリーン	オリーブグリーン			外面に蓮弁文。ハケ目
	208	C-2	19197	a 青磁	椀	口縁部~ 胴部	18.1				モスグリーン	モスグリーン			外面に蓮弁文
	209	G-6	101765	青磁	椀	口縁部	16				裏葉	裏葉			外面に蓮弁文。二次焼成。 直口縁
	210	OP-6	-	- 青磁	椀	底部		5.2			ミストグリーン	ミストグリーン			全体的に施釉。二次焼成。底 部にケズリ
	211	J-5	-	青磁	椀	底部		6.8			裏葉	裏葉			外面に蓮弁文。底部にケズ リ。底部に目跡
	212	T-6	-	青磁	椀	底部		5.2			モスグリーン	モスグリーン			外面に蓮弁文。見込みにス タンプ(古林?)
	213	L-5	-	青磁	椀	口縁部	14				モスグリーン	モスグリーン			外面に蓮弁文
	214	N-P-4	-	青磁	椀	底部		5.2			スレートグリーン	スレートグリーン			施釉。底部にケズリ。底部に 朱墨文字。12C後半か

表32 中・近世出土遺物観察表(5)

挿図	出土区	取上 番号	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胴径 (cm)	色調		調整		備 考	
											外面	内面	外面	内面		
157	215	B-5	-	青磁	坏 1類	口縁部	13				スレートグリーン	スレートグリーン			施釉。稀少なもの(上物)。F期。端反り口縁	
	216	M-4	一括	青磁	椀	口縁部	13.3				ミストグリーン	ミストグリーン			外面に蓮弁文	
	217	-	-	青磁	椀	口縁部	20.2				ミストグリーン	ミストグリーン			画花文	
	218	B-6	-	青磁	椀	口縁部	16.6				裏葉	裏葉			画花文	
	219	I-8	一括	青磁	椀	底部		5.6			ろくしょう	ろくしょう			見込みにスタンプ。底部ケズリ。目跡	
	220	G-6	-	青磁	皿	底部		7			裏葉	ろくしょう			内外面とも施釉。見込み釉剥ぎ。底部ケズリ。目跡	
	221	O-9	120247	a	青磁	坏か?	脚部		5.6			裏葉	裏葉			内外面とも施釉。底部釉剥ぎ。ケズリ
	222	-	-	青磁	椀	底部		5			モスグリーン	モスグリーン			内面外面とも施釉。外面は蓮弁文か。底部ケズリ	
	223	M-5	-	青磁	碗	口縁部	16.8					ろくしょう	ろくしょう			内外面とも施釉。端反り口縁
	224	C-7	-	青磁	碗	口縁部	10.6					オリーブドラブ	オリーブドラブ			福建か?とされている(手塚,亀井氏)。G期。内外面とも施釉。端反り口縁
158	225	A-4	一括	青磁	坏 - 3a	口縁部~胴部	12				ブロンズ	ブロンズ			全体的に施釉。口折れ坏	
	226	C 6-8	-	青磁	碗	底部		9.6			灰汁	油			内面施釉。外面ケズリ。G期	
	227	B-5	-	青磁	碗	底部		5			ミストグリーン	ミストグリーン			内面施釉。外面ケズリ。G期	
	228	U-10	-	a	青磁	椀か?	底部		5.4			枯草	スレートグリーン			内外面とも施釉。見込み蛇の目釉剥ぎ。底部ケズリ
	229	U-8	-	a	青磁	盤	口縁部	24				ろくしょう	ろくしょう			全体的に施釉。内面に沈線
	230	A-3	-	青磁	坏 b類	口縁部	12.8					オリーブドラブ	オリーブドラブ			口折れ坏。全面施釉。見込みに花弁状ヘラガキ。13C中頃~14C初
	231	A-4	-	青磁	坏 a類	口縁部	14.2					オリーブドラブ	オリーブドラブ			口折れ坏。全面施釉。
	232	A-4	一括	青磁	坏 a類	口縁部						オリーブドラブ	オリーブドラブ			口折れ坏。内面、外面とも施釉
	233	H-5	一括	青磁	坏 b類	口縁部~胴部						ろくしょう	ろくしょう			口折れ坏。全体的に施釉。内面に花弁状ヘラガキ
	234	N-7	113725	青磁	稜花皿	口縁部				7.6		ナイルブルー	ナイルブルー			内外とも施釉。内面に雷文。15C 3/4~4/4
	235	O-5	-	青磁	稜花皿	口縁部~胴部	12					ろくしょう	ろくしょう			全体的に施釉
	236	N-7	115421	青磁	稜花皿	口縁部~胴部				10.4		スレートグリーン	スレートグリーン			内外面とも施釉。15C後半
	237	O-5	-	青磁	稜花皿	口縁部	13.2					ミストグリーン	ミストグリーン			内外面とも施釉。外面に蓮弁文。内面蓮弁文か?型つくりか?
	238	M-8	113814	青磁	稜花皿	口縁部						裏葉	裏葉			型つくりか?全面施釉。内外とも蓮弁文
	239	Q-9	-	磁器	碗	底部		6.2				鳥の子	うす水・キャロツオレンジ			白磁と青磁の判別不能(231と類似。青磁か?)。見込み蛇の目釉剥ぎ。朱色付着。底部ケズリ。(F~)G期。(南宋末~)元
	240	R-4	一括	青磁	皿類 - 1b	底部		4.8				ミストグリーン	ミストグリーン			内面施釉。外面腰部まで施釉。シグザグ状点描文。底部ヘラ切り。同安窯系。12C中~後半。
	241	A-3	-	高麗青磁	碗	底部		4.8				油	油			初期高麗か。内外面施釉。砂目。目跡。11C後半~12C
	242	A-4	-	高麗青磁	碗	底部		4.8				パウダーブルー	パウダーブルー			初期高麗か。内外面施釉。目跡。胎土目。11C後半~13C
243	C-5	-	高麗青磁	碗	底部		4				油	油			初期高麗か。内外面施釉。目跡。胎土目。11C後半~12C	
244	P-7	6557	青磁	碗か?	胴部				9.4		モスグリーン	モスグリーン			内外面とも施釉	
245	Q-6	26810	青磁	碗か?	底部				11.3		灰黄	枯草	ケズリ		内面施釉。中世。鉢などの可能性あり。	
159	246	U-6	-	青磁	耳付壺	胴部				20.6	モスグリーン	モスグリーン			内外面とも施釉。二次焼成。中世	
	247	B-6?	-	青磁	長口瓶	頸部					オリーブドラブ	オリーブドラブ			頸部径3.2cm。全体的に施釉	
	248	C-6	-	青磁	長口瓶	頸部					オリーブドラブ	オリーブドラブ			頸部径2.7cm。内外面とも施釉。15C後半	
	249	C-8	-	青磁	壺	口縁部	10					オリーブドラブ	オリーブドラブ			内外とも施釉
	250	K-4	-	c	青磁	壺	胴部					ライムグリーン	灰白			梅瓶か?外面施釉。文様有り
	251	C-3	-	青磁	不吸(箱形)							ミストグリーン	ミストグリーン			箱形。外面施釉。内面ナシ。「王か?玉か?五か?」
	252	Q-5	-	輸入陶器	壺	頸部						ろくしょう	オリーブイエロー			外面施釉。中世
	253	M-8 O-9	113819 120247	a	青磁	香炉(三脚)	底部		5.6			クリームイエロー・ベージュ	クリームイエロー・ベージュ			見込部に墨書(足利様式の花押か)。外面施釉。底部に砂目。15C頃。
	254	Q-8	?	-	青磁	聞香炉	口縁部~胴部				5	裏葉	裏葉			内外面とも施釉。15C後半
	255	I-3	溝21	青磁	瓶か小壺	底部				2.5		モスグリーン	ベージュ			集石2。外面施釉。ロクロ作り。底部にヘラケズリ。SD-1
160	256	K-4	4151	a	輸入陶器	盤	口縁部	22.8			油	油			口唇部に目跡。中世	
	257	C-5	-	輸入陶器	盤	口縁部	30.6				ローズストーン	ミストグリーン			内面施釉。中世	
	258	C-2	-	輸入陶器	盤	口縁部	25				ローズストーン	ミストグリーン			口唇部と内面に施釉。中世	
	259	A-4	-	輸入陶器	鉢	口縁部	20.3					灰汁	ラセットゴールド			口縁部内面に2条の突帯あり。中世
	260	P-9	128639	輸入陶器	壺	胴部				19		モスグリーン	小麦色			内面外面とも施釉。二次焼成。中世
	261	C-7	-	輸入陶器	盤	底部				43		にぶい褐	灰白			泉州(晋江)磁灶窯。内面に鉄絵
	262	A-5	イコウ393	-	輸入陶器	耳付壺	頸部~肩部					オリーブ褐	にぶい黄橙			中世
	263	G-6	-	輸入陶器	耳付壺	肩部						黒褐	にぶい褐			外面施釉。耳部欠損。中世
264	A-5	-	輸入陶器	盤	底部						にぶい褐	灰オリーブ	ケズリ		内面緑釉がかかる。268と同一個体か?	

表33 中・近世出土遺物観察表(6)

挿図	出土区	取上番号	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胴径 (cm)	色調		調整		備考	
											外面	内面	外面	内面		
160	265	A-6	-	輸入陶器		底部					黄灰	灰黄	ケズリのちナデ	ケズリのちナデ	産地不明。瓦質土器に類似	
	266	H-2	-	輸入陶器	壺	口縁部	12				油	油			口縁部に重ね焼き目跡。内外面施釉。中世	
	267	K-4	-	c 輸入陶器	壺	口縁部	9.4				油	油			口縁部に目跡。内外面施釉。中世	
	268	N-7	113726		輸入陶器	壺	底部		12			にぶい黄	にぶい褐	ナデ	ナデ	福建・広東。内面鉄釉か？。中世
	269	A-4	-		輸入陶器	盤	口縁部					にぶい褐	にぶい黄褐, オリーブ灰			(晋江)磁灶窯系。福建。クリアな緑釉が内面と外面の一部にかかる。内面の突帯は後付け。268と同一個体か？。12-13C
161	270		表採	青花	皿	完形	9.45		2.35		オイスター・琥珀・藍	オイスター・琥珀・薄水			染付(青花)・暮節底(漳州窯系青花寿文皿15後半~16)。焼きつきあり。底部ケズリ。	
	271		2980	青花	皿	皿	10.2	2.9	2.9		パールホワイト・藍	パールホワイト・薄葉			染付(青花)・暮節底。景德鎮。外面に芭蕉文。底部ケズリ	
	272	O-5	-	青花	椀	底部		4.6			藍白	藍白			景德鎮。見込みに洞窟の陰で僧が読経。底部外面に「大明年製」	
	273	K-2	-	青花	椀	底部		5.6			裏葉	裏葉			漳州窯。見込みに「福」文。目跡。底部ケズリ	
	274	N-7	111177		青花	椀	底部		5		裏葉	裏葉			景德鎮。ホラ貝蓮子文	
	275	I-7	-	-	青花	皿	底部		4.2		ミストグリーン	ミストグリーン			漳州窯。見込みに「寿」文。暮節底。底部ケズリ。目跡	
	276	I-J-4-5	-		青花	皿	底部		6.4		サロー	サロー			漳州窯。染付後施釉。見込みに「寿」文。底部ケズリ。16C	
	277	C-3	一括		青花	蓮子椀	底部			2.1	オイスター・濃藍	オイスター・サロー			景德鎮	
162	278	M-7	112774		青花	皿	口縁・底部	10	5.8	2.3	藍白	藍白			景德鎮。見込みに「寿」文。砂目	
	279	A-4	-	青花	椀	口縁部	12.2				サロー	サロー			漳州窯。福建広東方向。16-17C	
	280	S-6	-	青花	椀	口縁・胴部	11.8				ミストグリーン	ミストグリーン			景德鎮	
	281		113873		青花	皿	底部		3.2		藍白	藍白			景德鎮。暮節底。外面に芭蕉文	
	282	L-9	-	青花	椀	口縁部					藍白	藍白			景德鎮	
	283	C-7	-	青花	皿	底部		7.8			アイボリホワイト	アイボリホワイト			景德鎮。底部外面に画福文。16C末~17C初	
	284	I-7	一括		青花	稜花皿	口縁・底部				スノウホワイト・紺青	スノウホワイト・藍			景德鎮。玉取獅子	
	285	C-6	-		青花か？	皿か？	胴部				藍白	藍白			内外面とも施釉。外面に文様	
	286	E-2	一括		青花	端反り大皿	口縁部				パールホワイト・藍	パールホワイト・藍白			染付(芙蓉手)	

表34 中近世の土製品

挿図	出土区	取上番号	層	種別	名称	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考		
162	287	I-3	-	-	土製品	土鍾	4.3	1.5	1.35	9		
	288	B-6	-	-	土製品	土鍾	5	1.1	0.85	4		
	289	-	-	-	土製品	土鍾	4.9	1.2	1.2	5.6		
	290	H-4	8620	b	土製品	土鍾	4.2	1.2	1	4.4		
	291	B-6	-	-	土製品	土鍾	2.4	0.8	0.8	1.4		
	292	F-3	30142		土製品	土鍾	2.3	1	1.3	2		
	293	H-6	-	-	磁器	穿孔円盤形製品	1.9	2.9	0.9	8	紡錘車の軸か？透明釉がかかる	
	294	I-5・6	-	-	土製品	メンコ	3.7	3.4	1.45	18.6		
	295	J-4	中近世集石 8	-	-	土製品	羽口	13.5	12.1	5.2	1300	外面に数条の溝あり。鉄滓付着
	296	N-7	115413		-	土製品	羽口	16.4	10.4	3	1000	ガラス質付着。被熱
163	297	K-5	大溝石列 8	-	土製品	羽口	9.7	15.6	3	600	鉄滓付着	
	298	J-7	大ミソ	-	土製品	羽口	6.5	8.2	2.7	200	指押さえ。口縁部肥厚	

表35 中近世の石製品

挿図	出土区	取上番号	層	種別	名称	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考	
164	299	-	溝26-A	-	石製品	火打石	メノウ・玉ずい	6.6	3.8	3.2	70	SD-5-A
	300	I-8	大ミソ	-	石製品	火打石	メノウ・玉ずい	3.9	3.2	2.7	30	稜線は使用によってほとんどつぶれている
	301	M-4・5	溝16	-	石製品	火打石	メノウ・玉ずい	4.9	3.1	1.6	25	割れた火打石。テツミソ5
	302	-	溝15	-	石製品	火打石	メノウ・玉ずい	8.2	7.3	5.9	340	テツミソ6
165	303	-	-	-	石製品	金床石	砂岩	17.7	18.7	9.35	3600	敲打
	304	T-1	t-1 イコウ3160	-	石製品	金床石	砂岩	18.1	12.5	12	3400	敲打。塚西側土坑
	305	M-4	近世集石B-9	-	石製品	金床石か？	凝灰岩	10.5	7.2	10	1248	敲打
	306	-	-	-	石製品	金床石か？	砂岩	15.1	7.2	7.1	1050	敲打
166	307	M-7	土坑98	-	石製品	金床石か？	砂岩	39.4	25.9	7.6	10400	敲打
	308	M-7	土坑98	-	石製品	金床石	安山岩	20.5	28.6	9.2	6400	敲打
	309	I-8	大ミソ	-	石製品	砥石	砂岩	12.1	5.9	6.3	425	
167	310	K-5	大溝石列11	-	石製品	砥石	無斑晶流紋岩	7.1	3.7	3.3	150	天草砥石(木目石・リソイダイト)
	311	I-8	大ミソ	-	石製品	砥石	シルト質頁岩	5.1	1.9	0.5	10	
	312	-	溝22-A	-	石製品	砥石	無斑晶流紋岩	12.4	8	4.6	560	天草砥石(木目石・リソイダイト)。SD-2-A
	313	N-7	大型土坑 3	-	石製品	砥石	砂岩	7.8	4.1	1.2	66	イコウ1174
	314	N-7・8	大型土坑 3	-	石製品	砥石	砂岩	11.8	12	5.8	1380	イコウ1174
168	315	-	溝26-B-5	-	石製品	砥石	砂岩	15.6	11.4	3	905	SD-5-B-5
	316	I-8	大ミソ	-	石製品	砥石	無斑晶流紋岩	16.2	5.3	3.1	430	天草砥石(木目石・リソイダイト)
	317	-	溝24	-	石製品	砥石	無斑晶流紋岩	8.1	7.4	5.3	375	数条のミソあり。天草砥石(木目石・リソイダイト)。SD-3。
169	318	J-7	大ミソ	-	軽石製品	舟形石製品	軽石	8.9	7.2	4.9	43	舟形
	319	I-7	大ミソ	-	軽石製品	有溝石製品	軽石	8	6.3	3.1	35	数条のミソあり
	320	J-7	大ミソ	-	軽石製品	有孔石製品	軽石	3.2	3.9	1.1	0.8	円盤形穿孔
	321	I・J-7	大ミソ	-	軽石製品	楕円形石製品	軽石	5.1	2.5	2.2	15	楕円
	322	I-8	大ミソ	-	軽石製品	楕円形石製品	軽石	5.5	3.2	1.5	0.9	楕円

表36 中近世の金属製品

挿回	出土区	取上番号	層	種別	名称	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	備考	
	323	B・5	-	鉄器	鎌	22	4.3	0.4		
	324	X・9	-	鉄器	鑄造板状製品片	4.3	3	-	鉄鍋片か。	
	325	T・8	14603	鉄器	刃物(刀子か)	3.2	1.2	0.2		
	326	D・5	-	鉄器	刀子か?	2.6	1.3	0.3		
	327	B・5	-	鉄器	刃物(小刀か)	(14)	2.4	0.2	復元長14cm	
	328	G・5	8070	鉄器	刀子か?	3.3	1.7	0.4		
	329	A・5	-	鉄器	刀子か?	3.7	2.1	0.4		
	330	Q・5	大型土坑 1	-	鉄器	刀子か?	3.5	2	-	テツ口G
	331	X・8	-	鉄器	刃物(小刀か)	5.6	2.4	0.2		
	332	C・7	-	鉄器	刃物(小刀か)	6	2.2	0.2		
	333	A'・4	-	鉄器	和ばさみ? 刀子の柄?	4	1.5	0.3		
	334	V・9	-	鉄器	刃物(小刀か)	4.2	1.9	0.3	「なかご」か?	
	335	B・4	-	鉄器	和ばさみ	6.9	3.1	0.5		
	336	X・8	-	鉄器	くさび形製品	5.3	1.2	0.7	「のみ」か「たがね」か。7号住居横の落ち込み	
	337	A'・5	-	鉄器	「かんな」か?	4.5	2.8	-		
	338	N・7	大型土坑 3・102	-	鉄器	「かんな」か?	3	1.2	0.3	鉄器片。鉋(やりがんな)か?。イコウ1174
	339	H・7	-	鉄器	短冊形有孔板状製品	8.9	1.7	0.7	用途不明	
	340	W・9	-	鉄器	短冊形有孔板状製品	4.6	1.8	0.3	用途不明	
	341	K・4	-	鉄器	くさび形製品	7.4	2.3	2	用途不明	
	342	U・9	-	鉄器	短冊形板状製品	8.1	1.8	0.5	用途不明	
	343	U・9	-	鉄器	箱形製品	6.2	2.7	0.5	用途不明	
	344	A・6	-	鉄器	短冊状製品	5.6	2	0.6	刀子の可能性あり	
	345	B・6	-	鉄器?	箱形製品か	4	1.4	0.4	青銅製の可能性あり。2枚の板状製品を組み合わせたもの	
	346	-	-	鉄器	環状製品	7	0.7	0.8	用途不明	
	347	M・7	113753	鉄器	環状製品	2.8	1.3	1.4	用途不明	
	348	M・7	113837	鉄器	環状製品	2.4	1.4	0.5	用途不明	
	349	V・8	-	鉄器	筒形製品	2.7	1	-	葉莖に類似	
	350	A'・4	-	鉄器	筒形製品	4.5	1.3	-		
	351	B・5	-	鉄器	鑄造板状製品片	7.6	4.6	1.6	鉄鍋片か。	
	352	A・3	-	鉄器	鉄鍋	6.6	4.9	1.1		
	353	F・2	-	鉄器	鑄造板状製品片	5.1	3.2	1	鉄鍋片か。	
	354	V・9	6号住居内 256	a'	鉄器	鑄造板状製品片	3.3	4.8	0.8	鉄鍋片か。
	355	M・8	113818	鉄器	鑄造板状製品片	3.7	2.2	0.7	鉄鍋片か。	
	356	M・9	128603	鉄器	鑄造板状製品片	5.1	3.2	0.6	鉄鍋片か。	
	357	P・8	ビットP8・65	-	鉄器	鑄造板状製品片	3.7	2.4	0.6	鉄鍋片か。
	358	K・4	4262	a	鉄器	鑄造板状製品片	8.4	2.5	1	鉄鍋片か。錆化している
	359	C・7	-	鉄器	小札	4.7	2.5	-	連続した穴あり。	
	360	A・6	トレンチ	-	鉄器	火打金	7.5	2.1	0.5	
	361	M・8	ビットM8・36	-	鉄器	火打金	4.7	1.5	-	
	362	B・5	-	鉄器	傘状製品	3.3	3.2	2.3	用途不明。傘釘の可能性あり。	
	363	B・4	-	鉄器	角釘	5.9	1.2	1.2		
	364	H・5	-	鉄器	角釘	4.2	1.3	0.7		
	365	E・F・2	-	b	鉄器	角釘	2	0.7	0.3	
	366	E・F・2	-	b	鉄器	角釘	2.9	0.7	0.4	
	367	M・9	土坑墓B14	-	鉄器	角釘	3.3	0.7	0.4	
	368	M・9	土坑墓B14	-	鉄器	角釘	2.9	0.8	0.3	
	369	A・4	-	-	鉄器	釘か?	4	0.8	0.5	
	370	M・8	113820	-	鉄器	角釘	4.1	1.9	0.4	
	371	A・3	-	鉄器	環付棒状製品	5.3	2	0.5	頭部を環状(もしくはフック状)にしている。	
	372	B・6	-	鉄器	環付棒状製品	3.7	1.6	0.6	頭部を環状(もしくはフック状)にしている。	
	373	K・4	4405	a	鉄器	L字型製品	3.6	1.9	0.9	
	374	-	-	鉄器	釘か?	2.9	1.3	-		
	375	-	-	鉄器	釘か?	4.2	1.4	0.7		
	376	A・5	-	鉄器	かすがい形製品	2.3	1.9	0.5		
	377	H・6	土坑墓B10	-	鉄器	かすがい形製品	1.9	0.9	-	
	378	I・6	-	-	鉄器	かすがい? 釘?	3.2	2.1	-	
	379	H・7	-	-	青銅製品	短冊形板状製品	4.8	1.9	0.2	
	380	I・6	-	-	青銅製品	キセル	8.3	1.3	-	
	381	C・2	-	・	青銅製品	棒状製品(縫い針か)	7.3	-	0.4	糸通しの穴は未確認。
	382	H・I・6・7	-	-	青銅製品	棒状製品	3.7	-	0.3	
	383	-	-	-	青銅製品	13mm機銃弾	4.4	1.3	1.3	左回転の施条痕(ライフルマーク)が6条
	384	J・4	-	-	青銅製品	小型擬宝珠状製品	2	1	-	
	385	M・8	-	-	青銅製品	刀装具か	3.1	1.9	0.1	

表37 中近世の古銭

挿回	出土区	取上番号	層	種別	名称	直径 (cm)	備考	
	386	C・2	-	・	古銭	寛永通寶	2.5	寛永通寶
	387	F・4	-	b	古銭	寛永通寶	2.3	寛永通寶
	388	H・7	攪乱	-	古銭	寛永通寶	2.3	寛永通寶
	389	C・2	-	・	古銭	寛永通寶	2.5	寛永通寶・鉄銭か?
	390	O・8	116808	a'	古銭	洪武通寶	2.4	洪武通寶
	391	M・7	113769	-	古銭	洪武通寶	2.2	洪武通寶
	392	I・4	-	・	古銭	元祐通寶	2.4	元祐通寶(げんゆうつうほう)。北宋1086年。篆書
	393	M・7	119476	a'	古銭	朝鮮通寶	2.3	朝鮮通寶
	394	C・8	-	-	古銭	開元通寶か	(1.9)	開通
	395	I・6	-	-	古銭	十銭硬貨	1.8	大正二年銘
	396	K・9	-	a'	古銭	無文銭	2	無文銭

写真図版



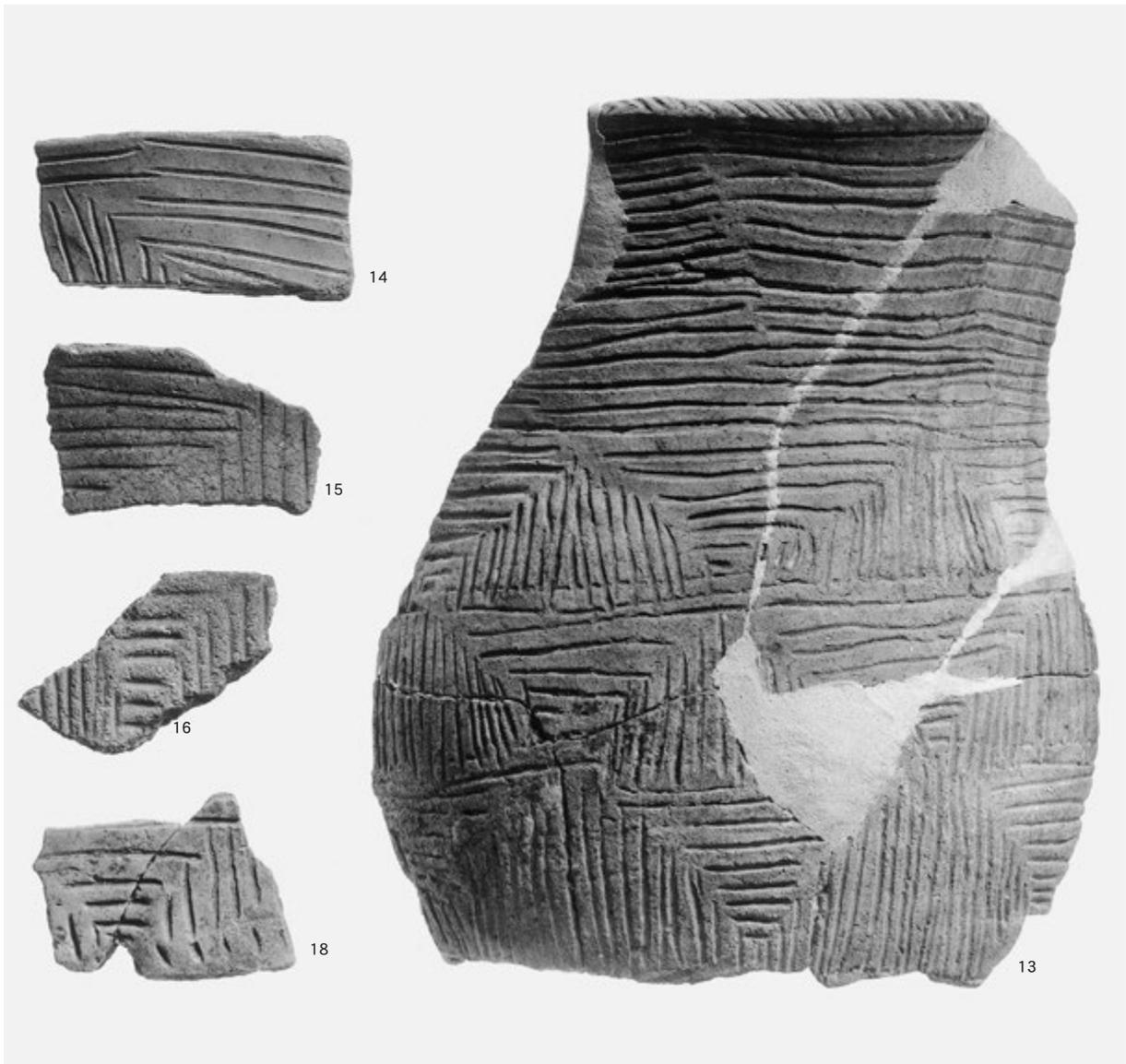
縄文時代前期の遺構内出土遺物



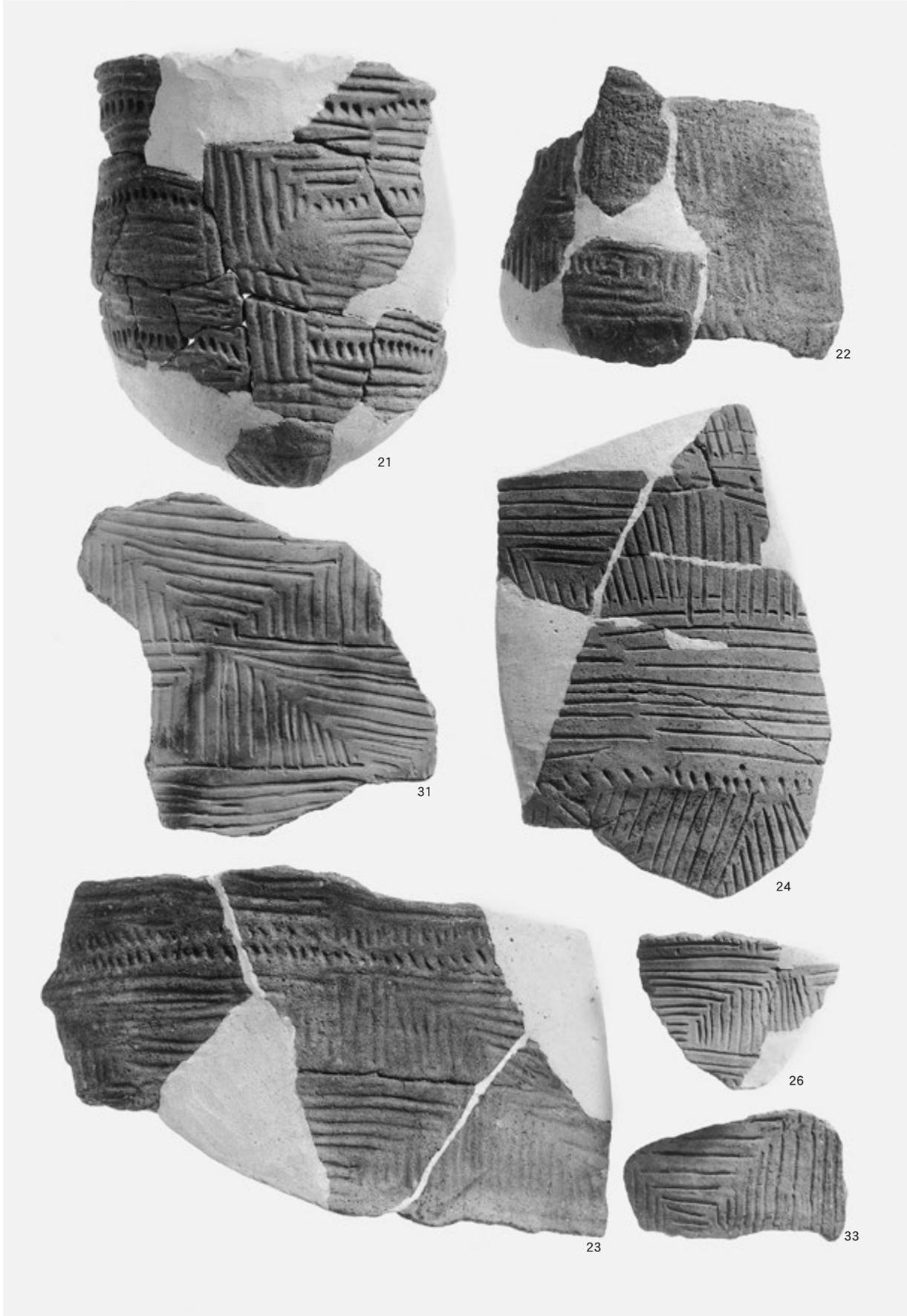
縄文時代前期の土器(1)



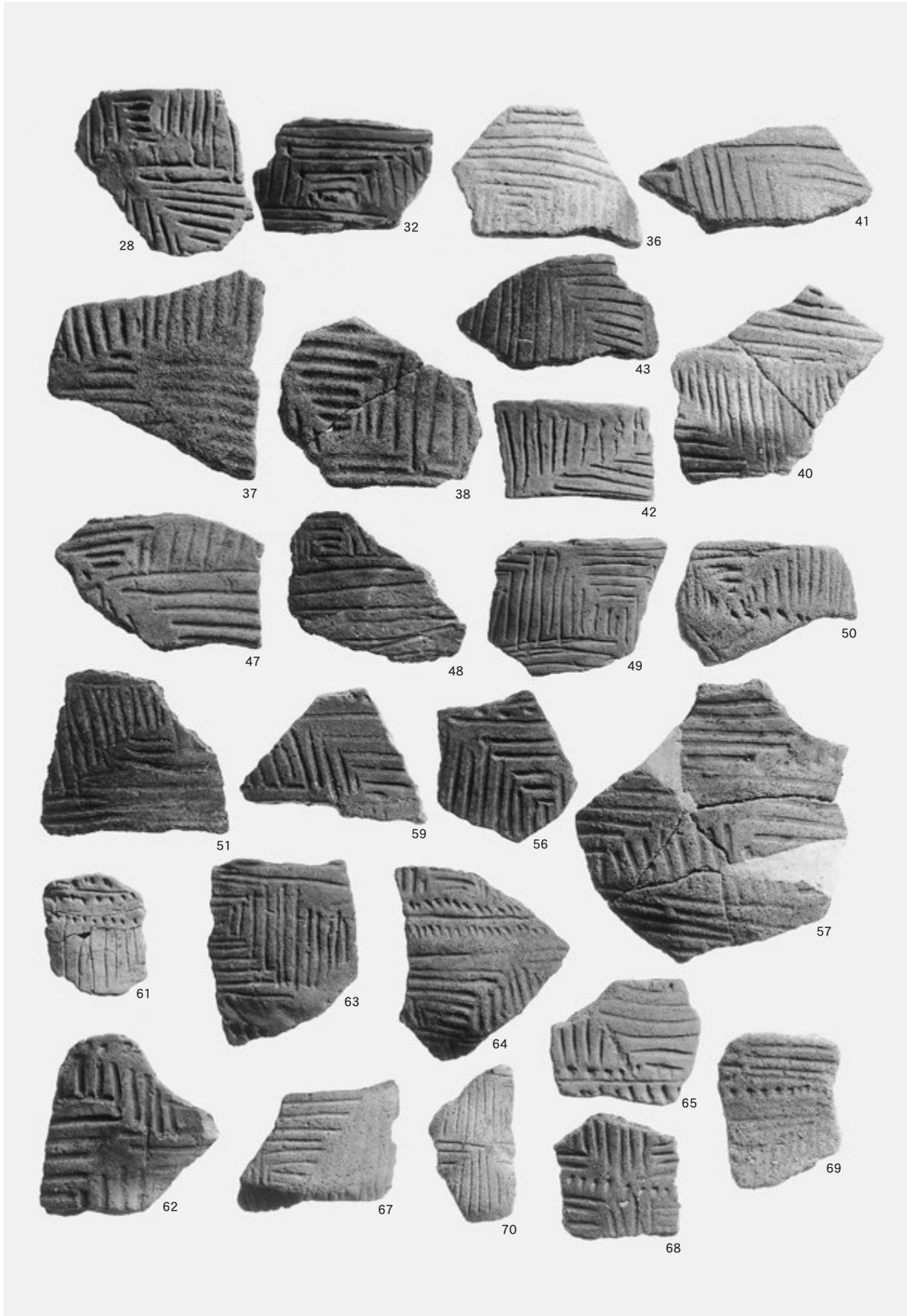
縄文時代前期の土器(2)



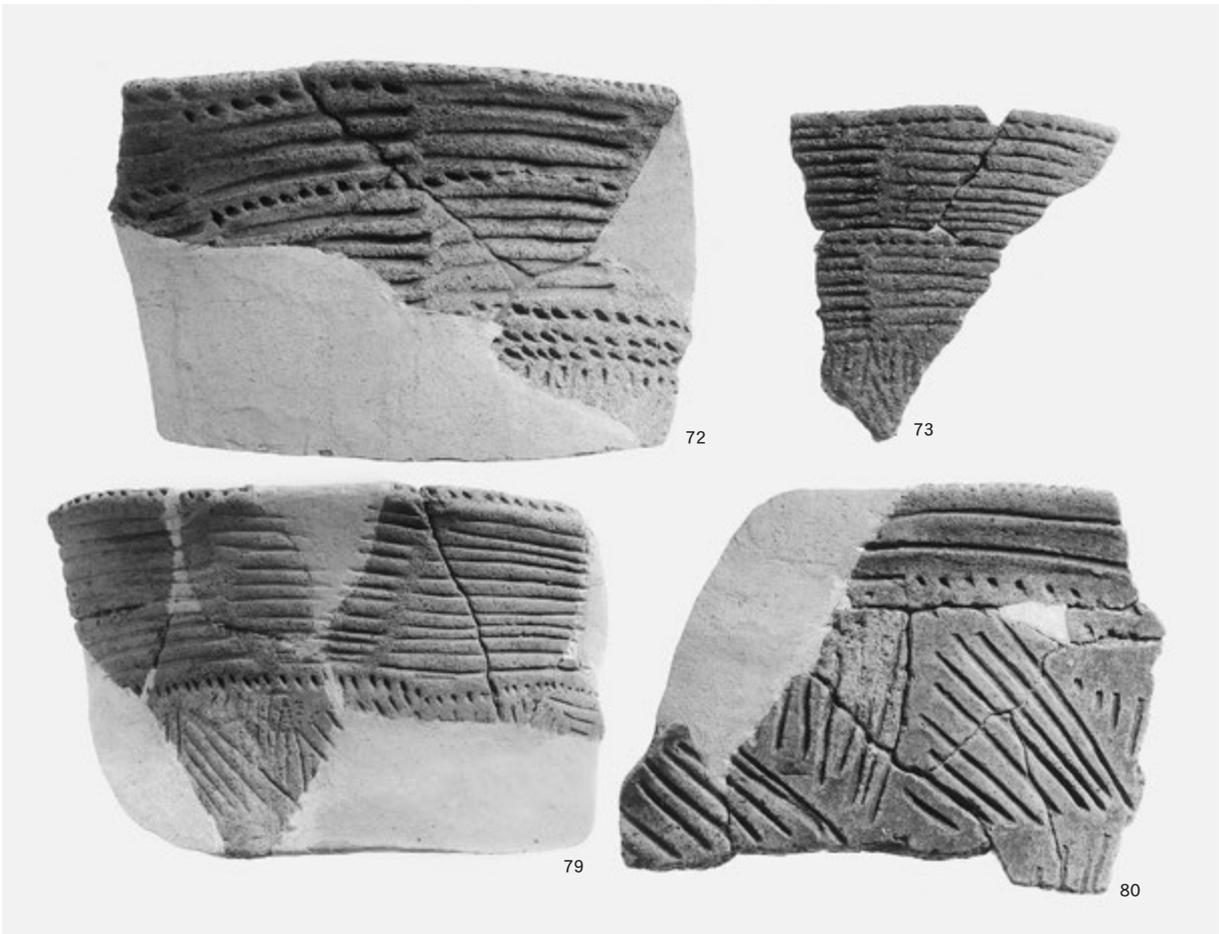
縄文時代前期の土器(3)



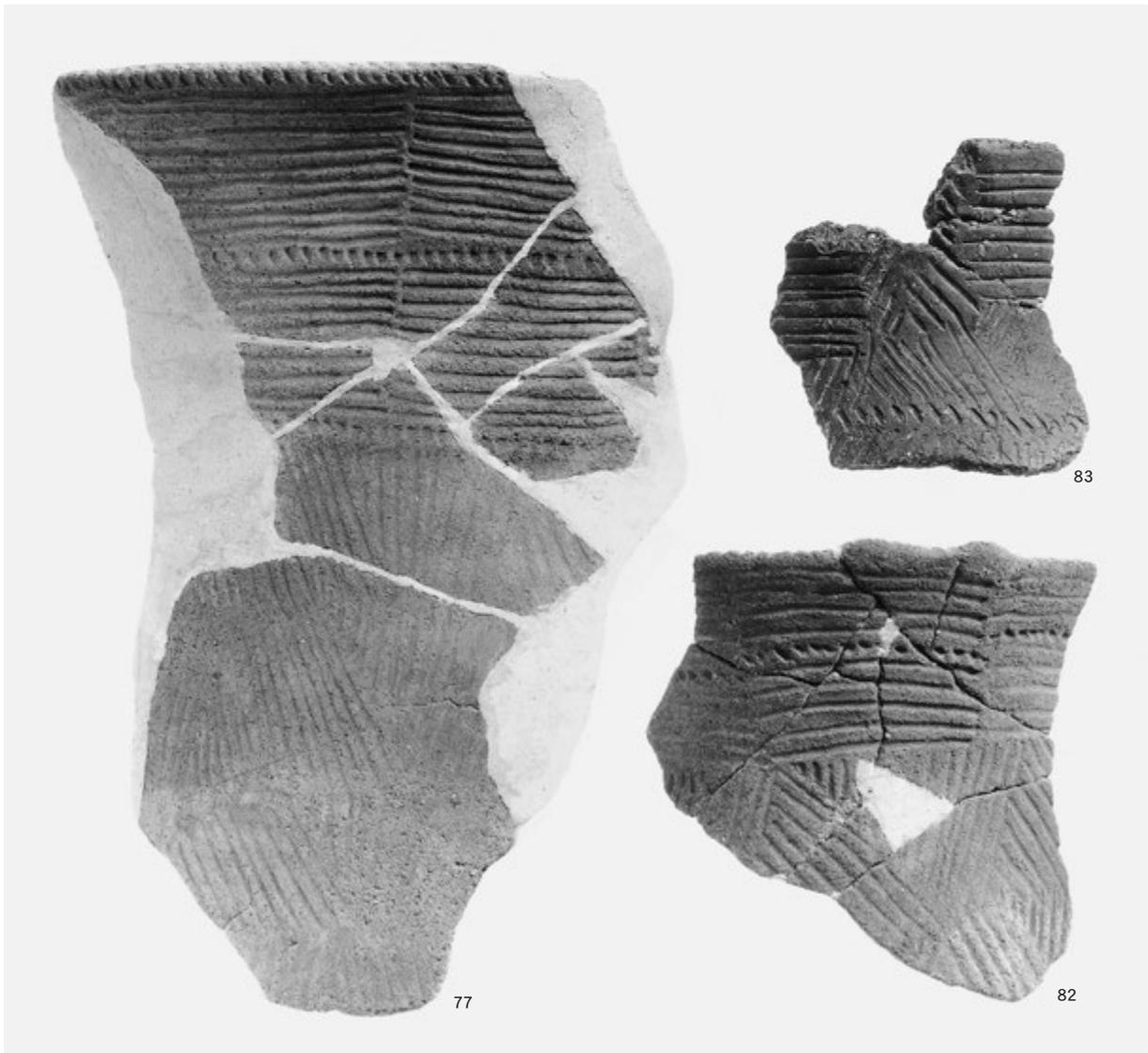
縄文時代前期の土器(4)



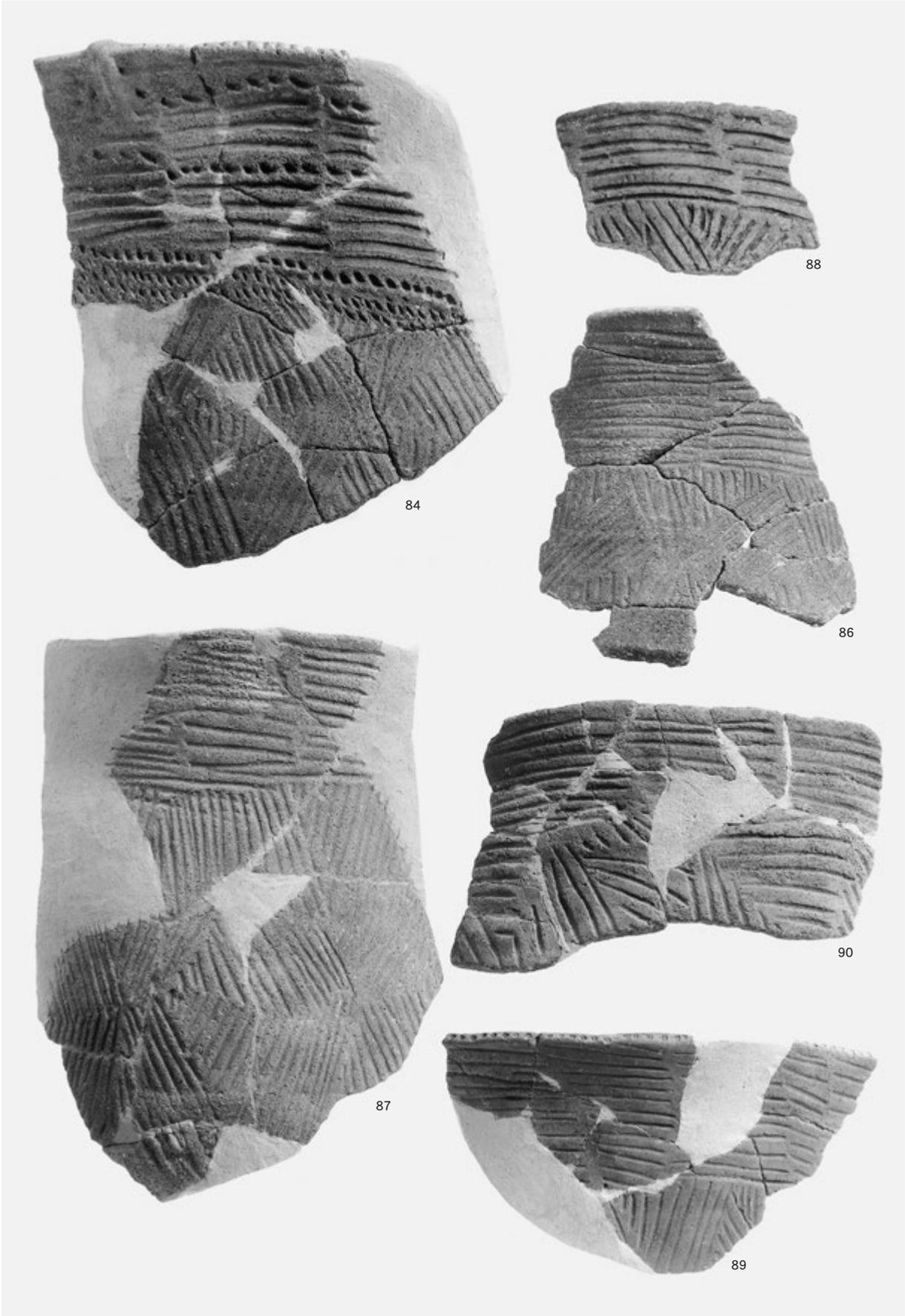
縄文時代前期の土器(5)



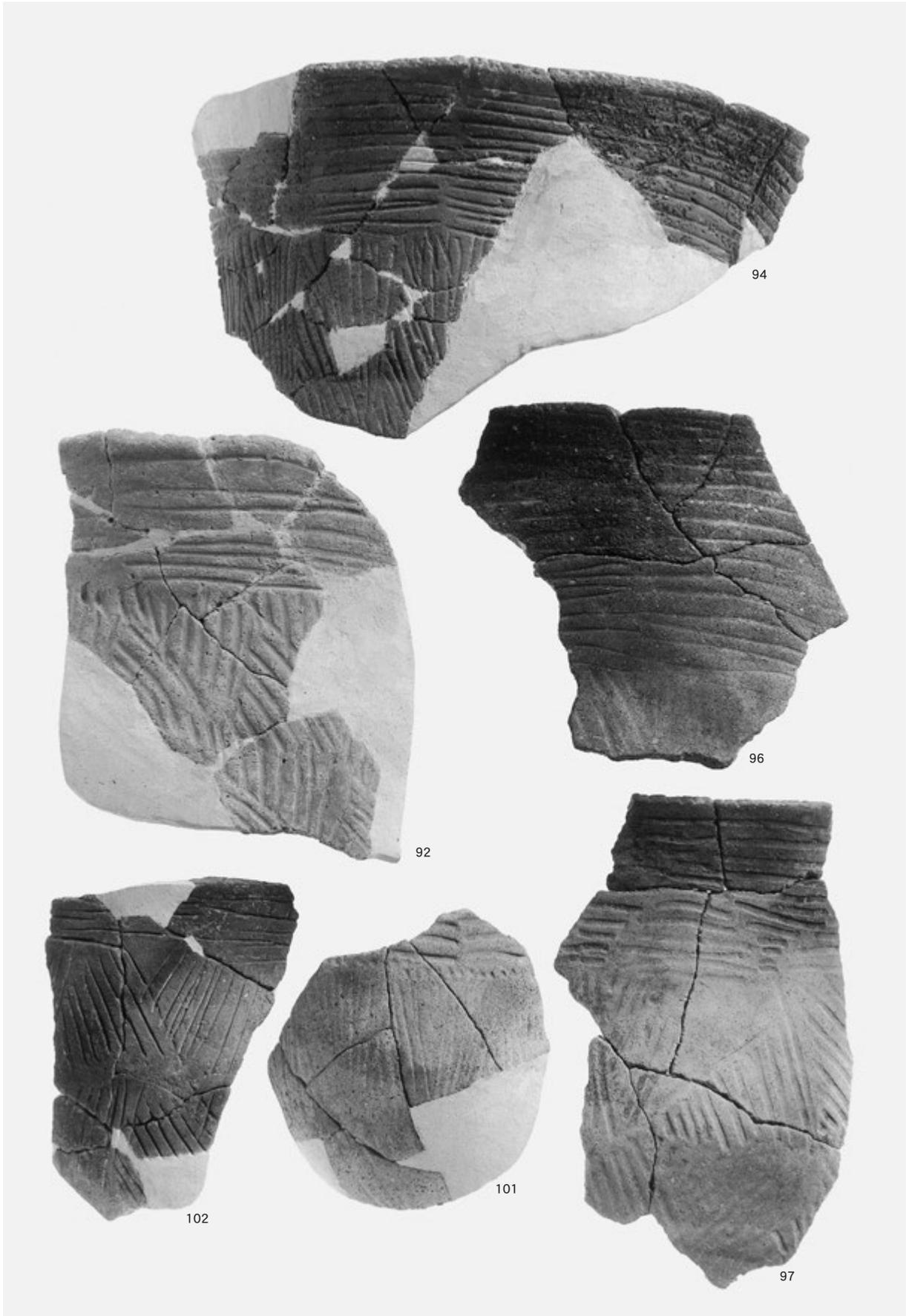
縄文時代前期の土器(6)



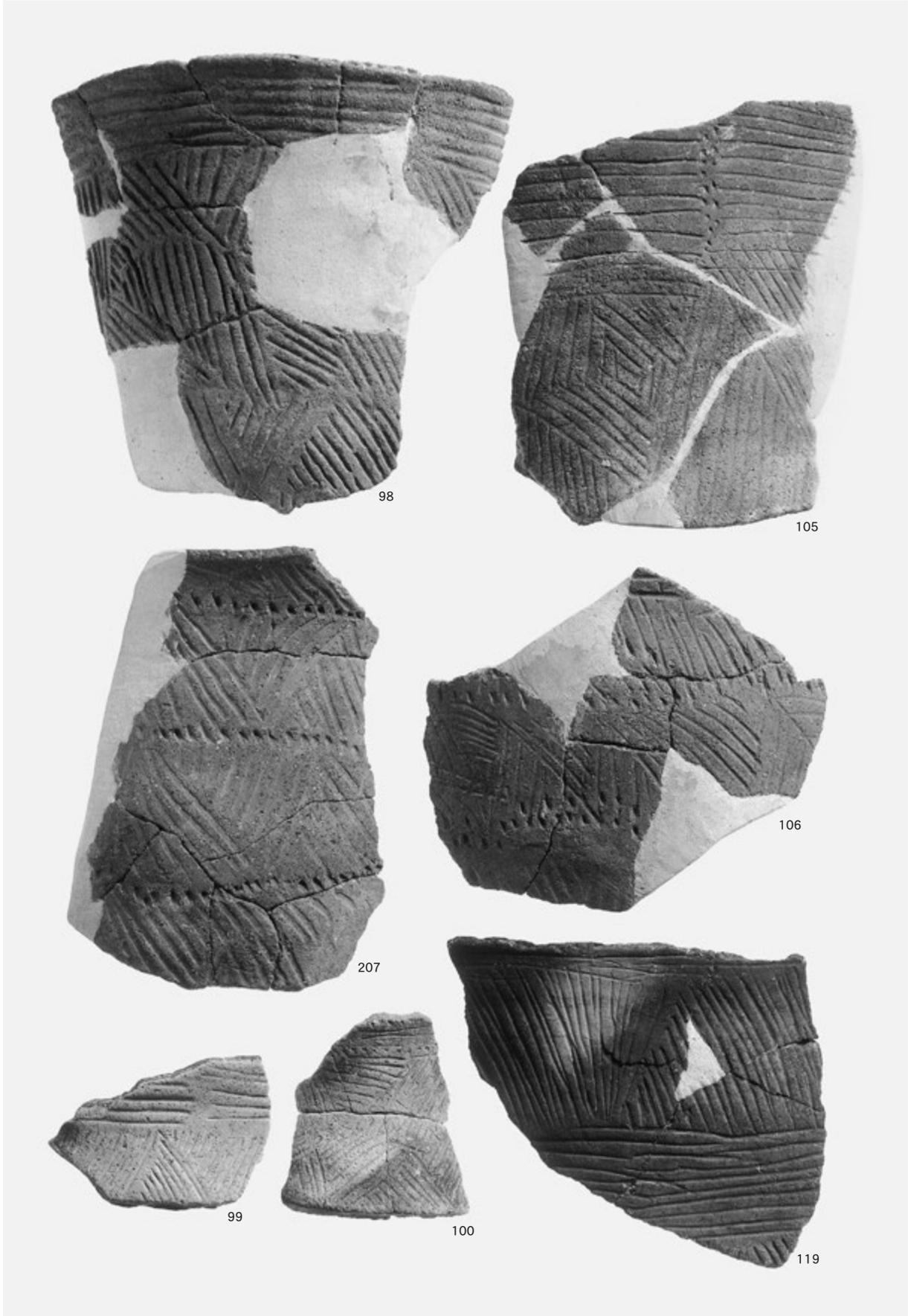
縄文時代前期の土器(7)



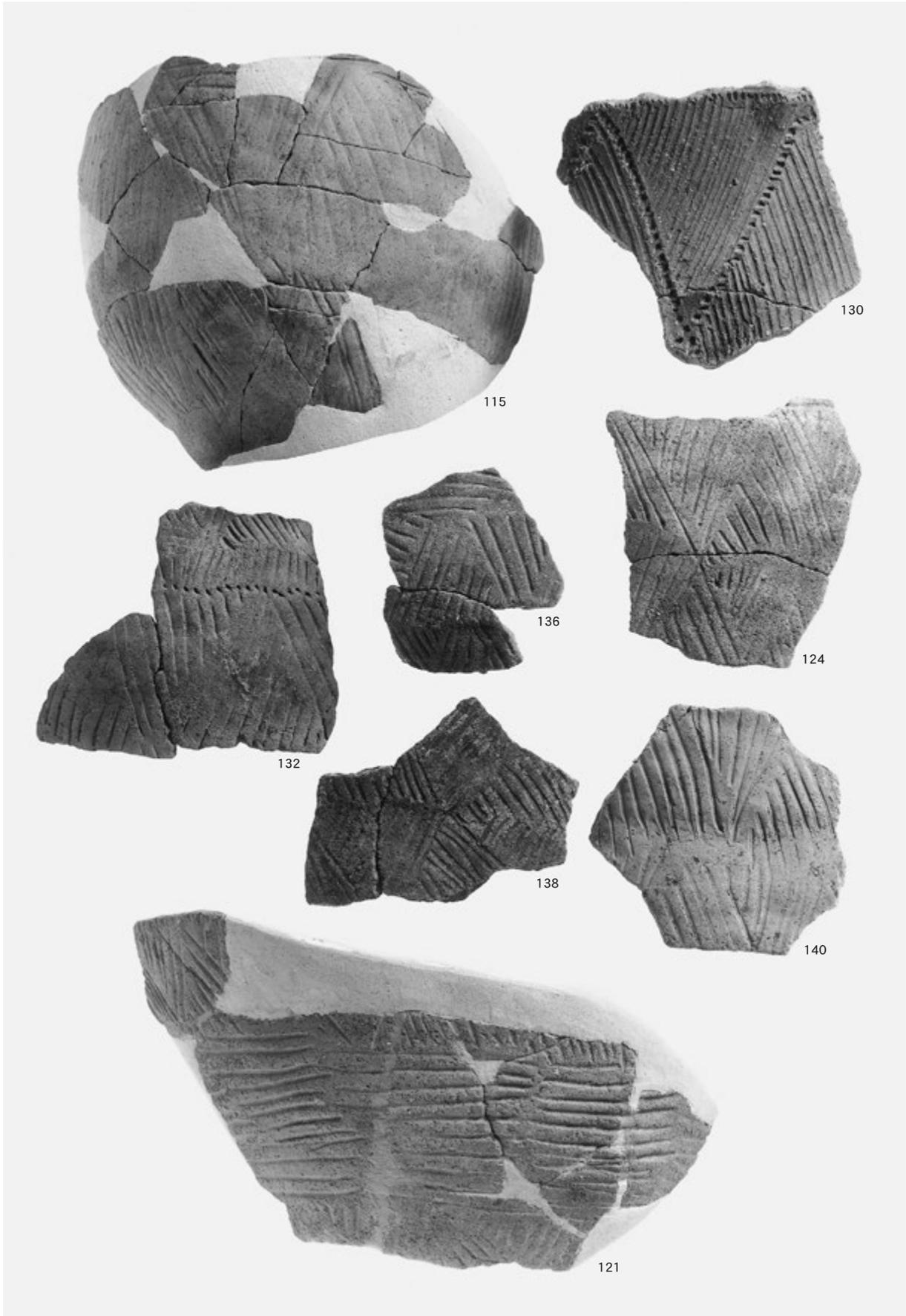
縄文時代前期の土器(8)



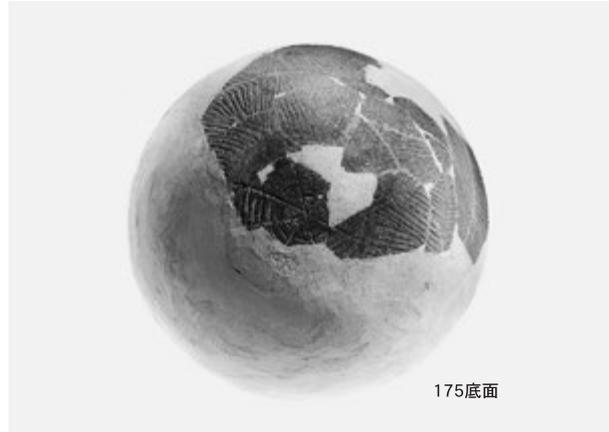
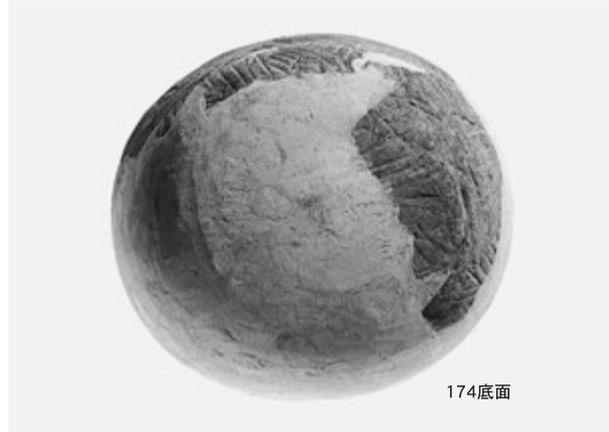
縄文時代前期の土器(9)



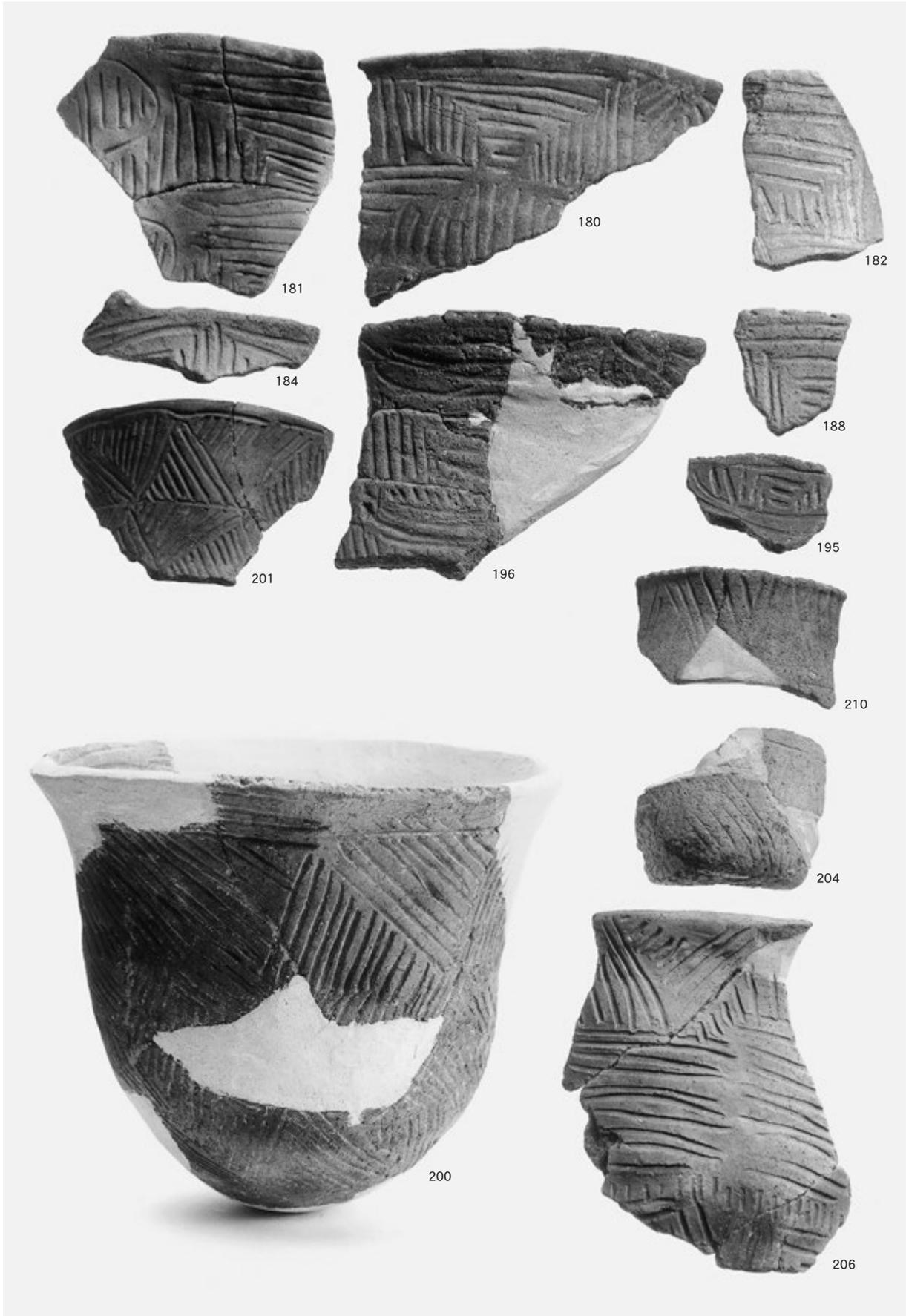
縄文時代前期の土器(10)



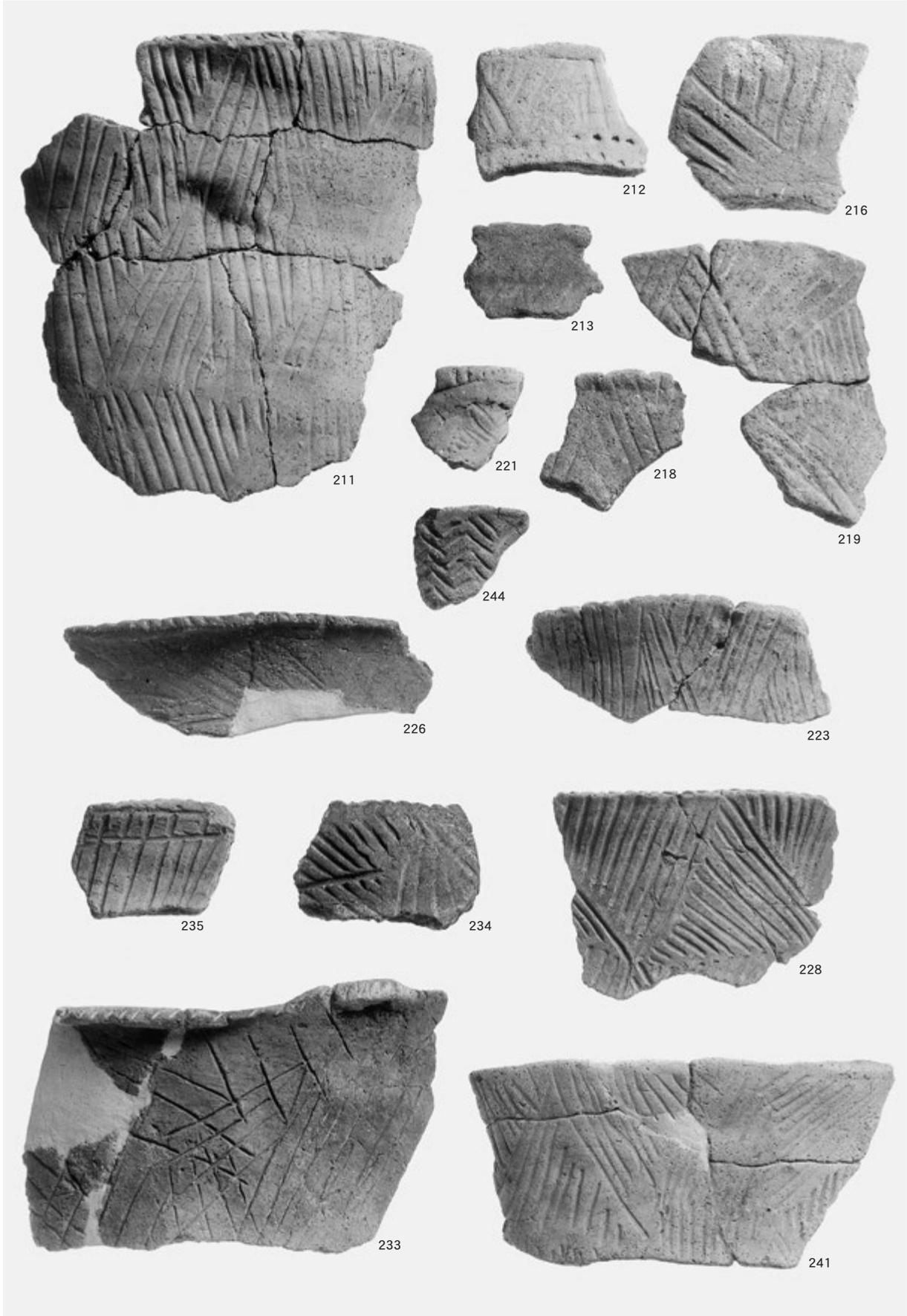
縄文時代前期の土器(1)



縄文時代前期の土器(12)



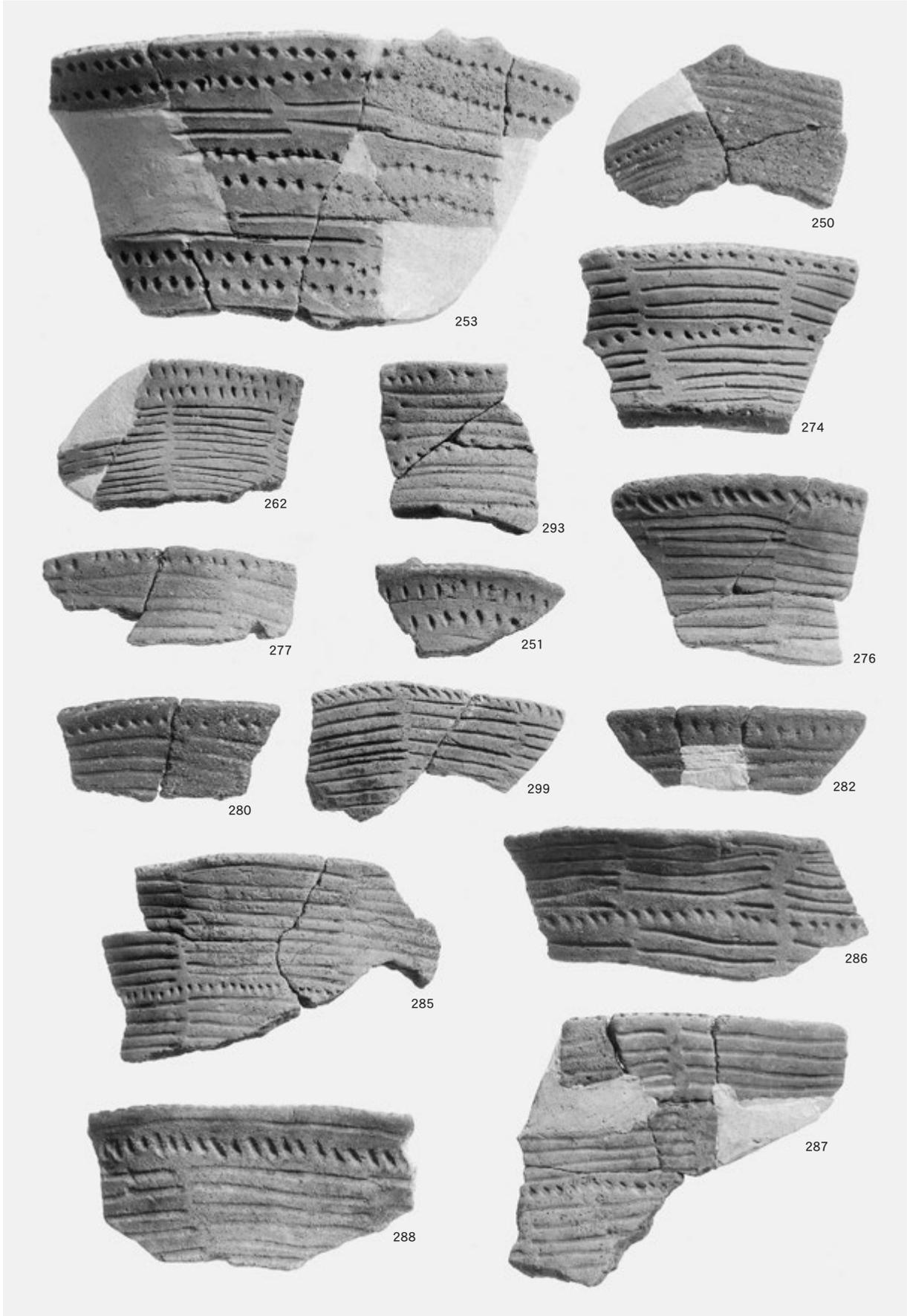
縄文時代前期の土器(13)



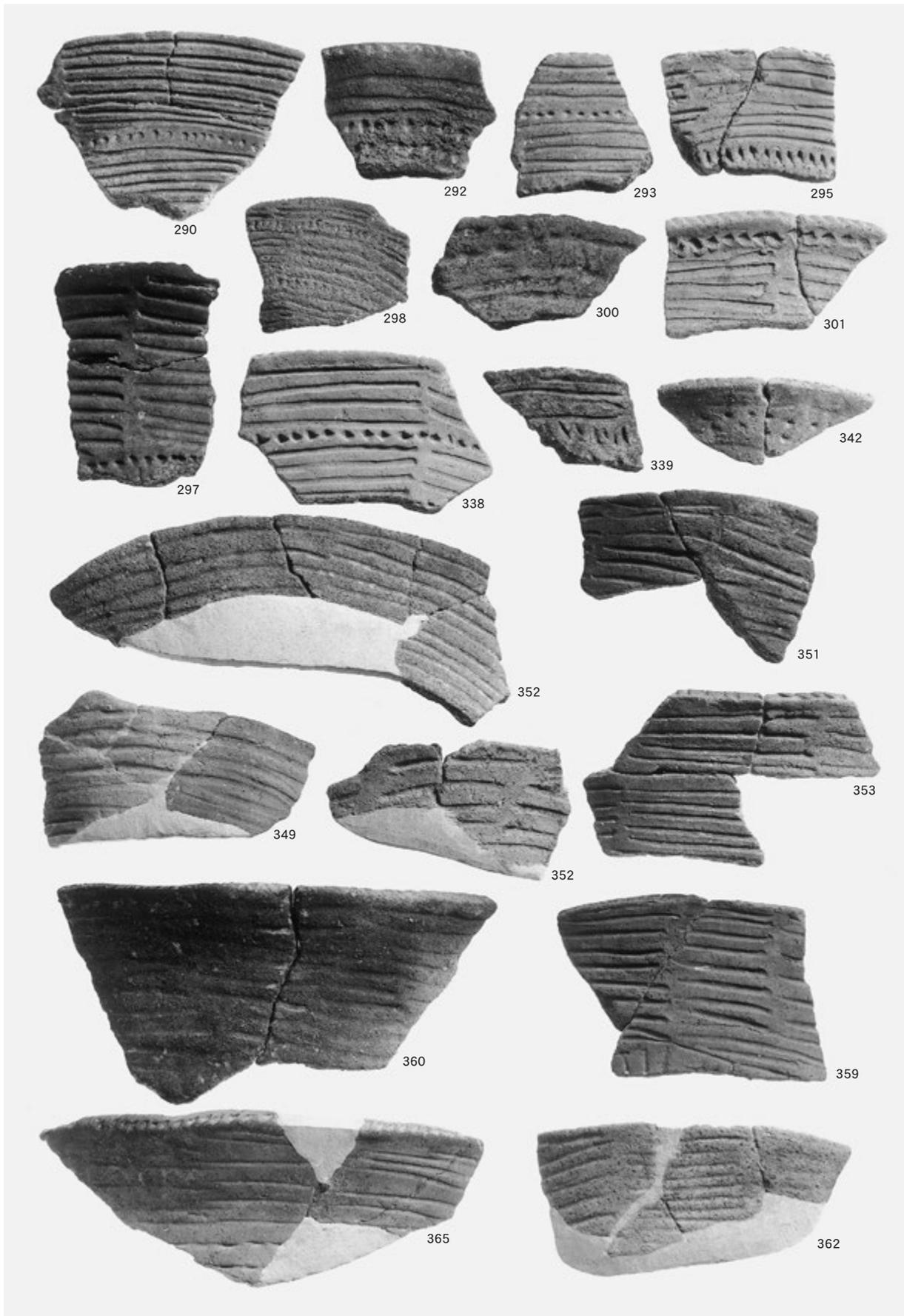
縄文時代前期の土器(4)



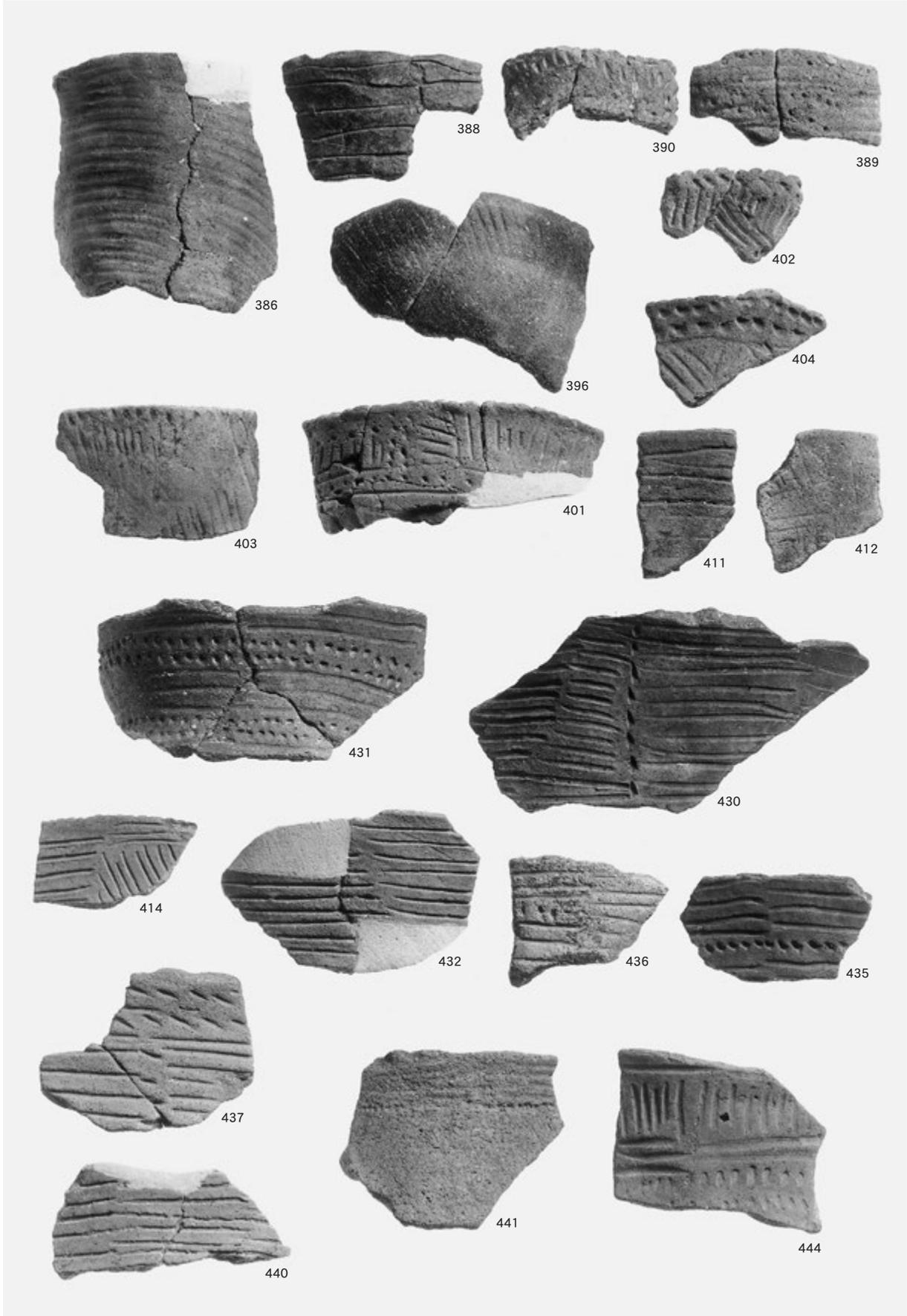
縄文時代前期の土器(15)



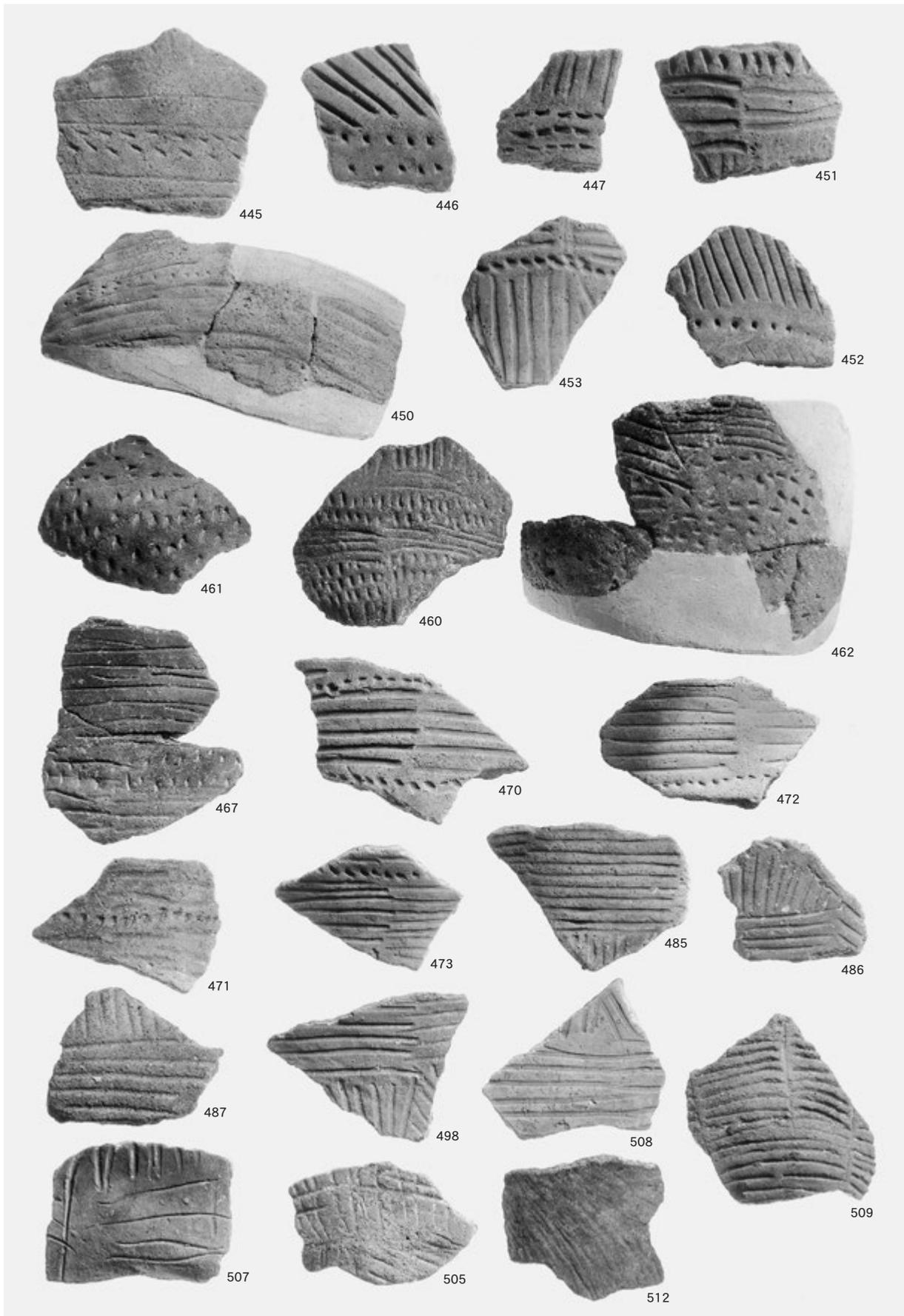
縄文時代前期の土器(16)



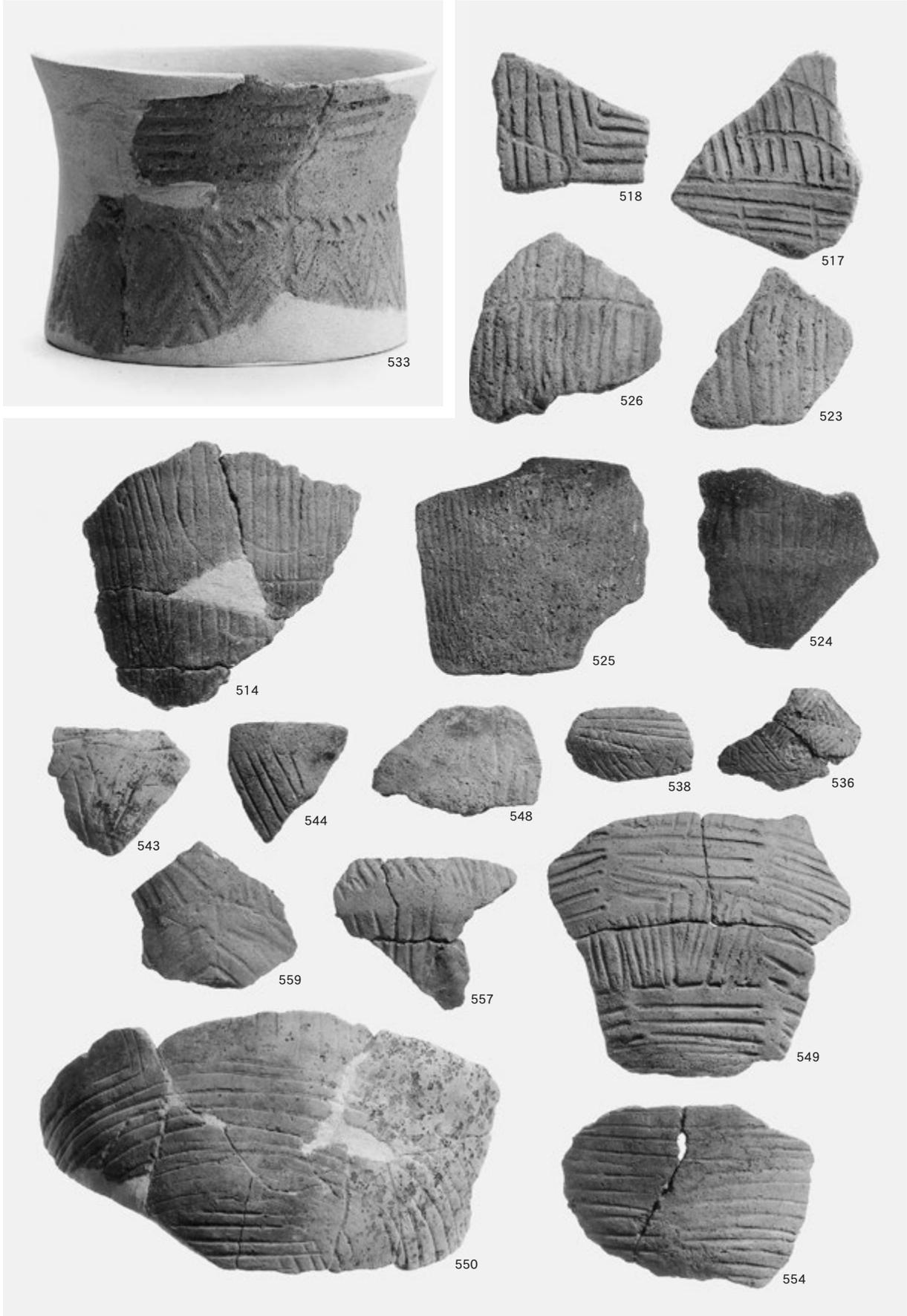
縄文時代前期の土器(17)



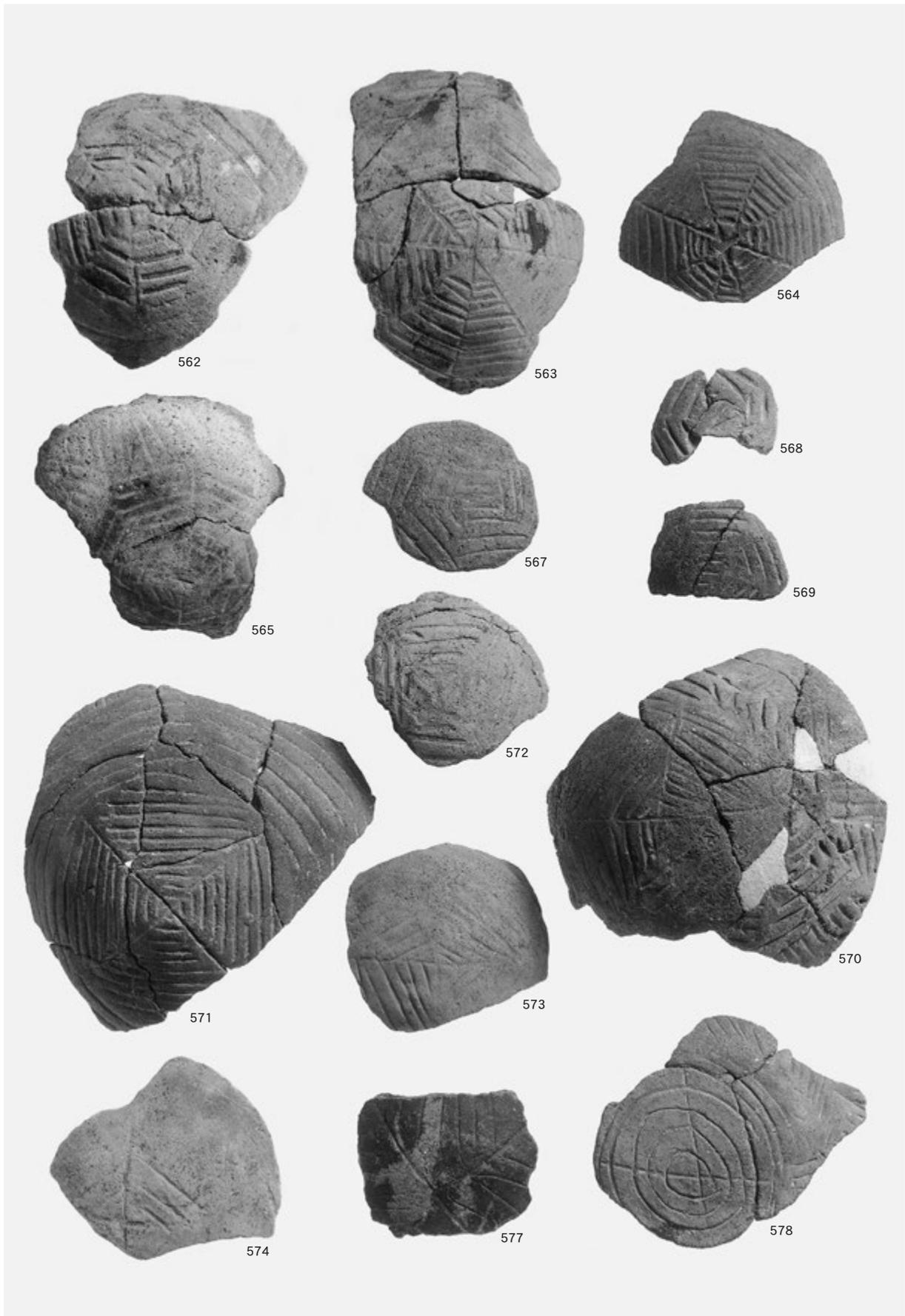
縄文時代前期の土器(18)



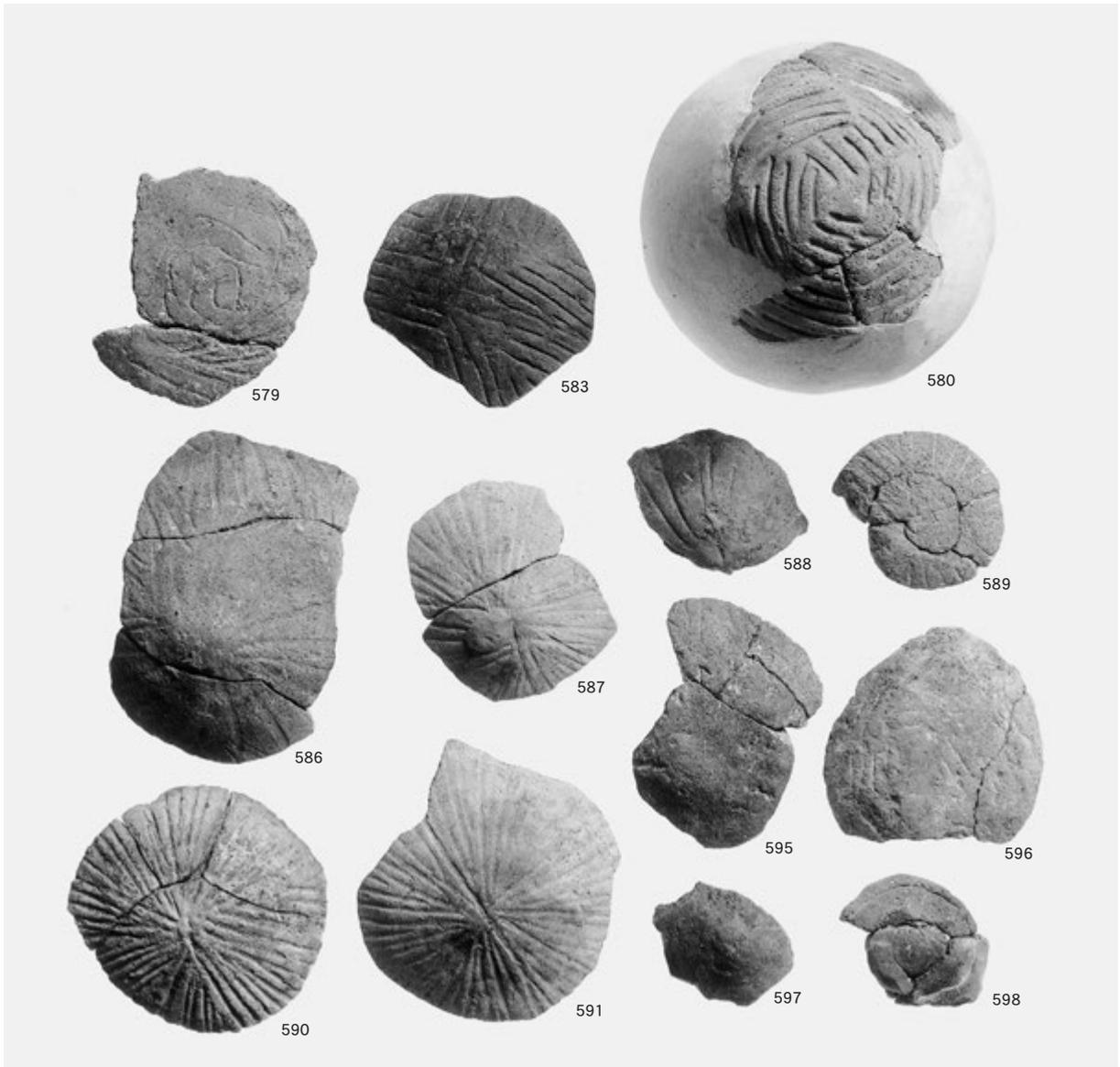
縄文時代前期の土器(19)



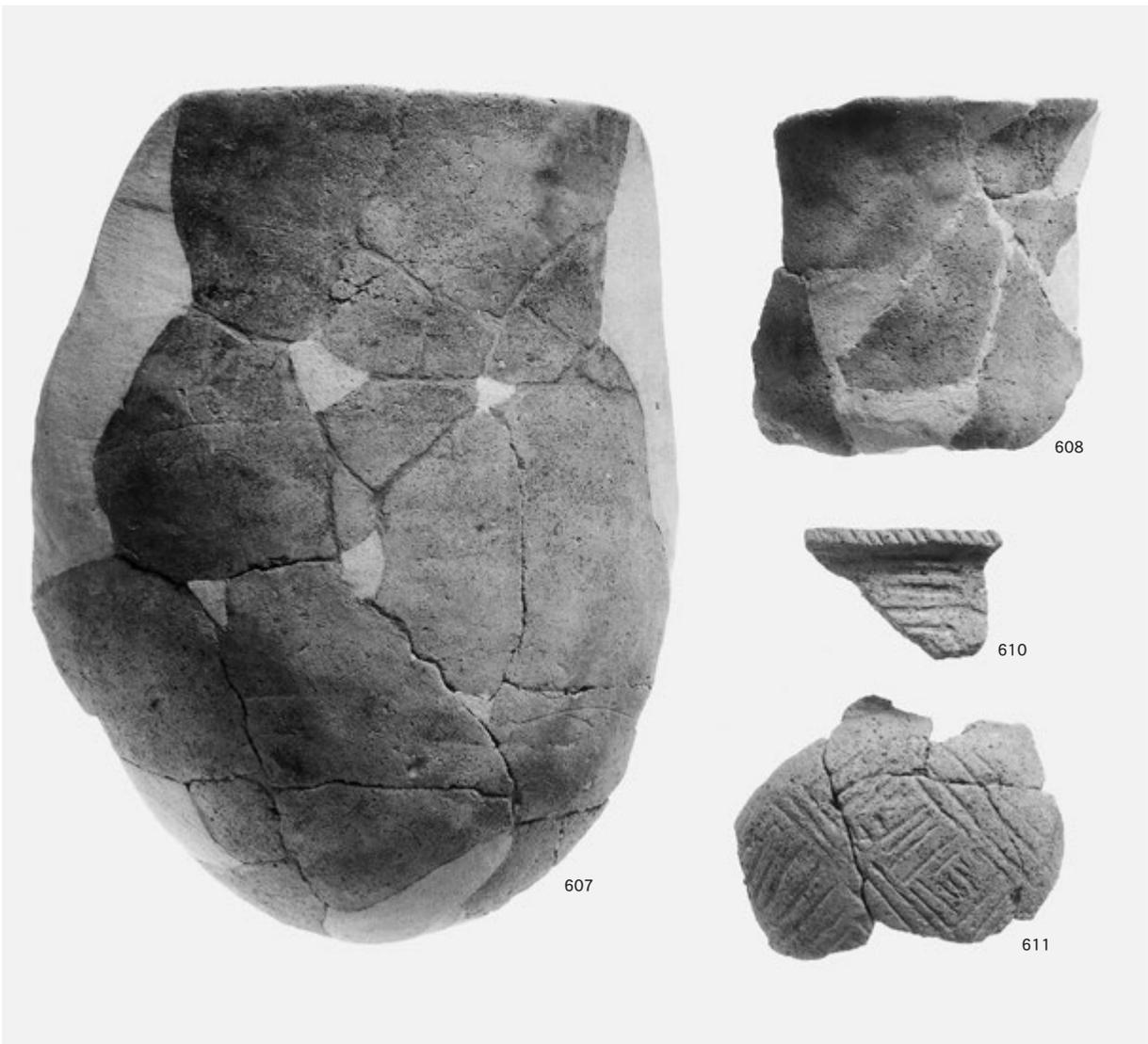
縄文時代前期の土器(20)



縄文時代前期の土器(2)



縄文時代前期の土器(2)



縄文時代前期の土器(2)



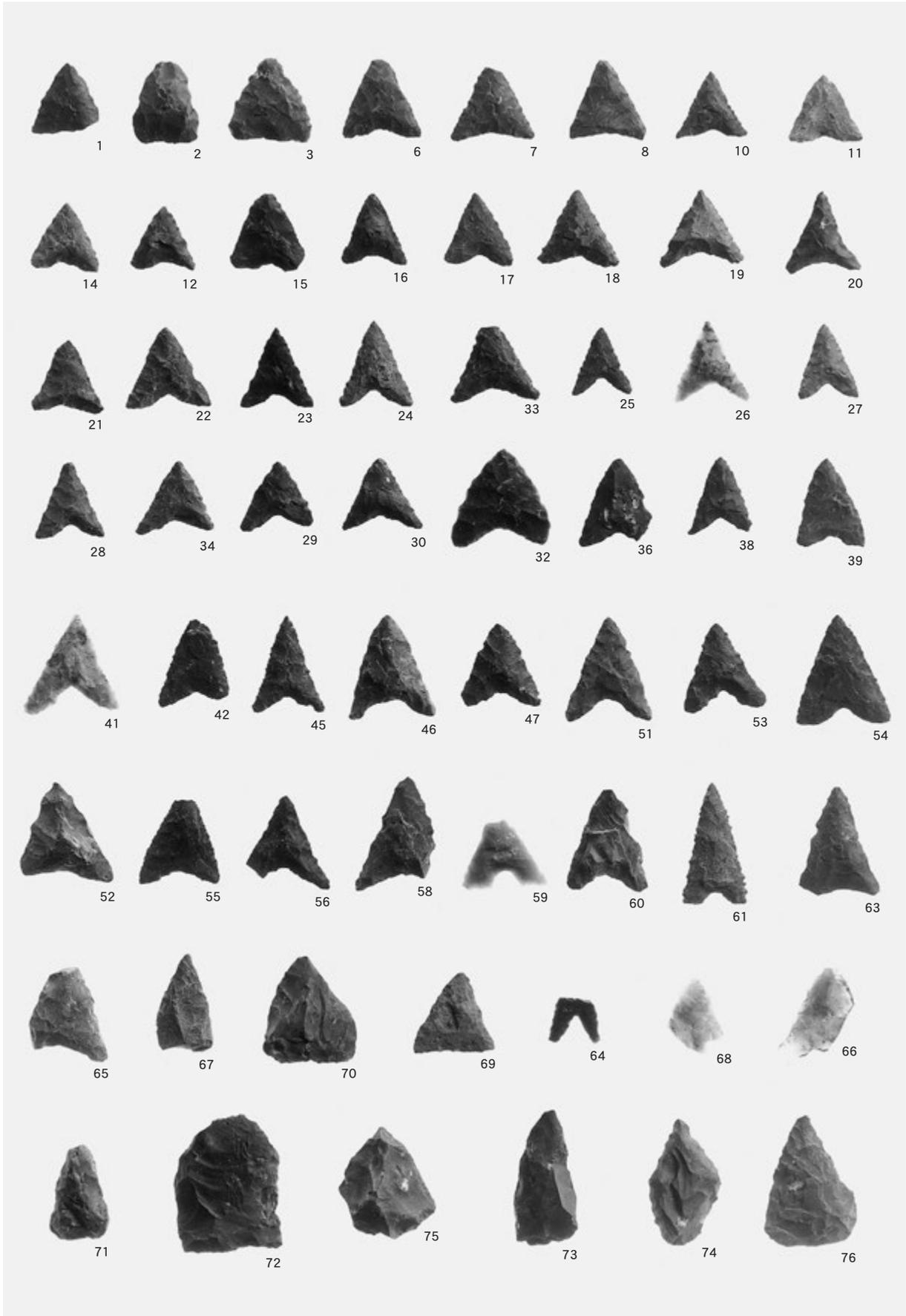
底面付近の突起



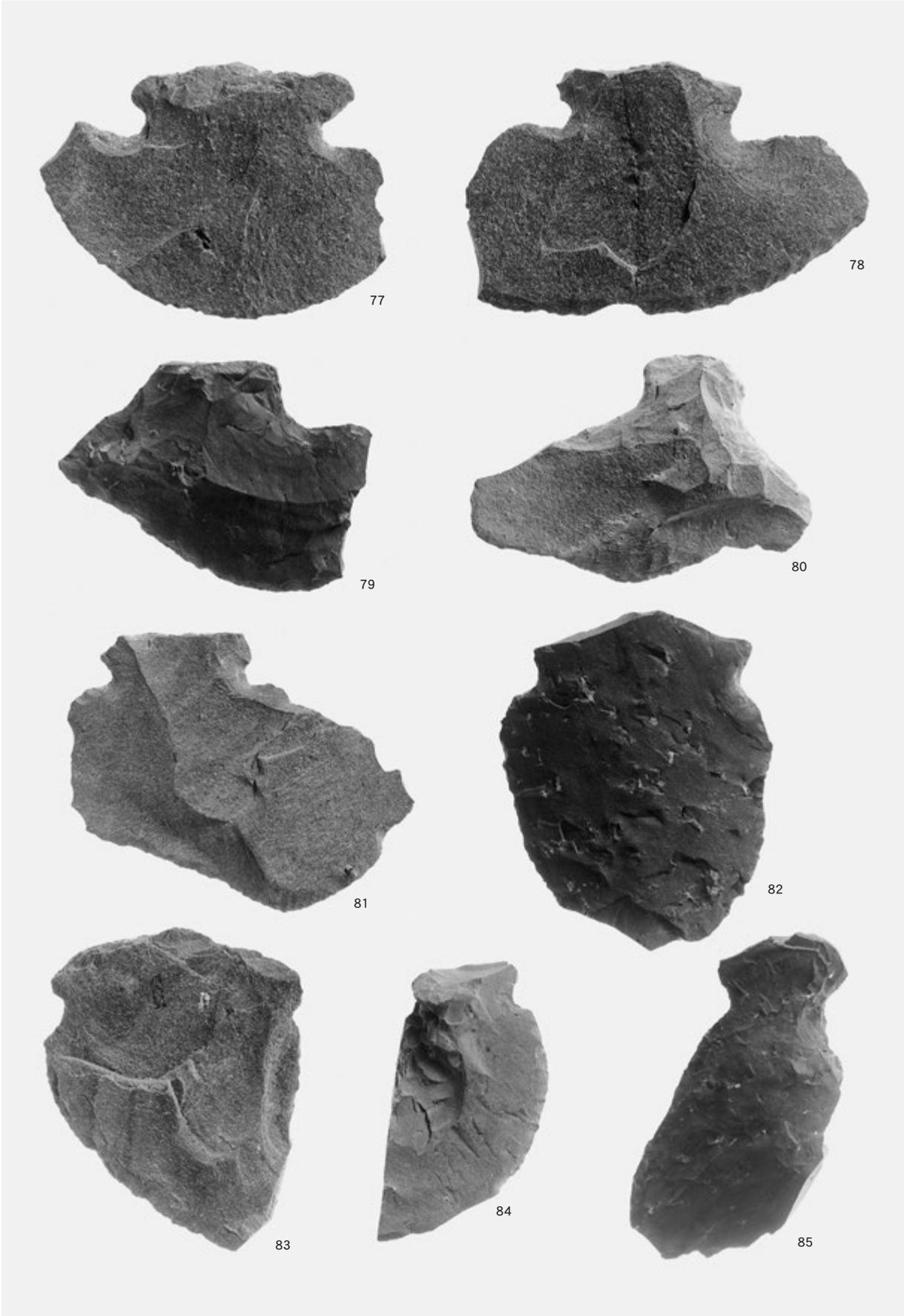
口縁部と角部の調整痕等



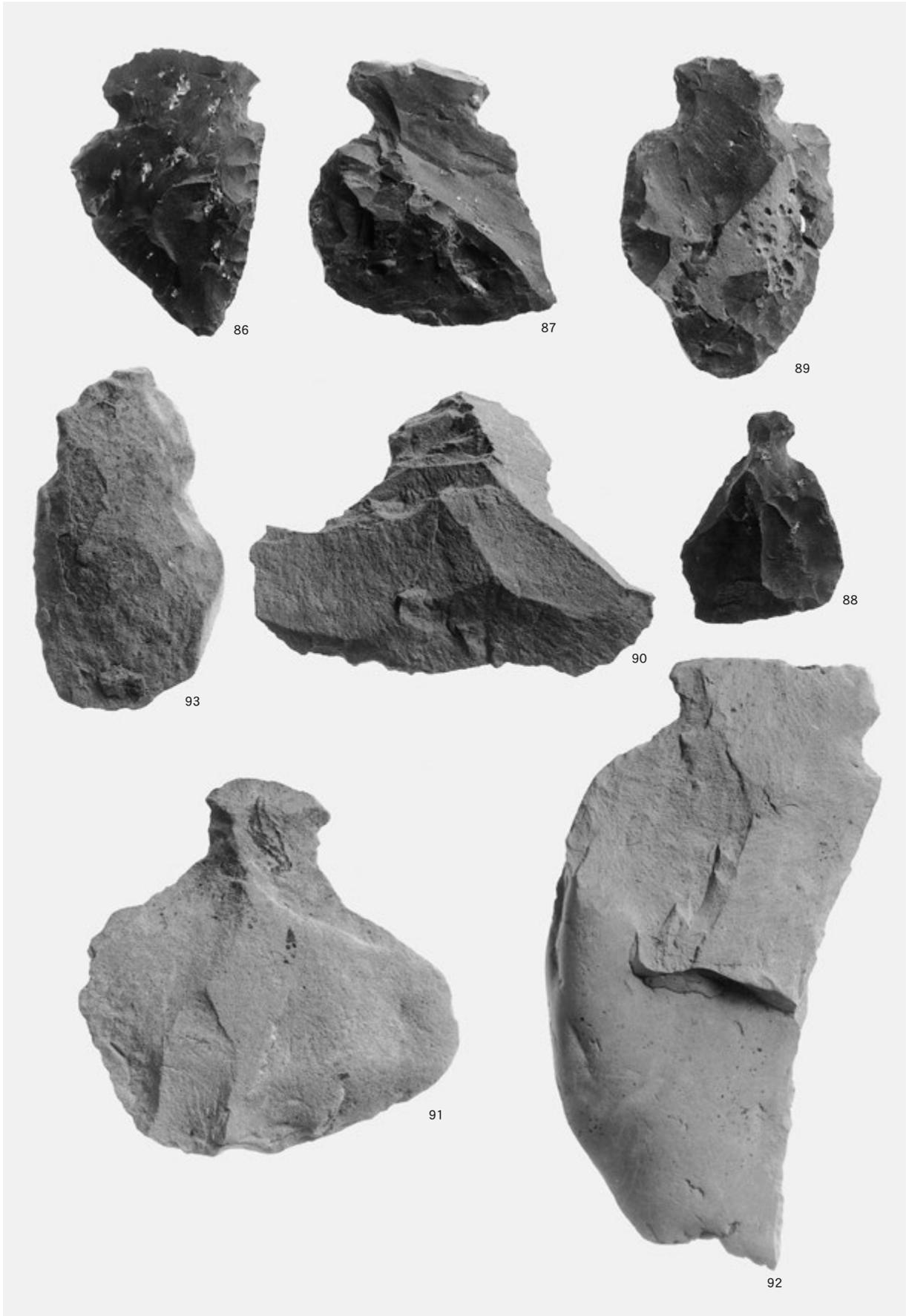
縄文時代前期の土器(24)



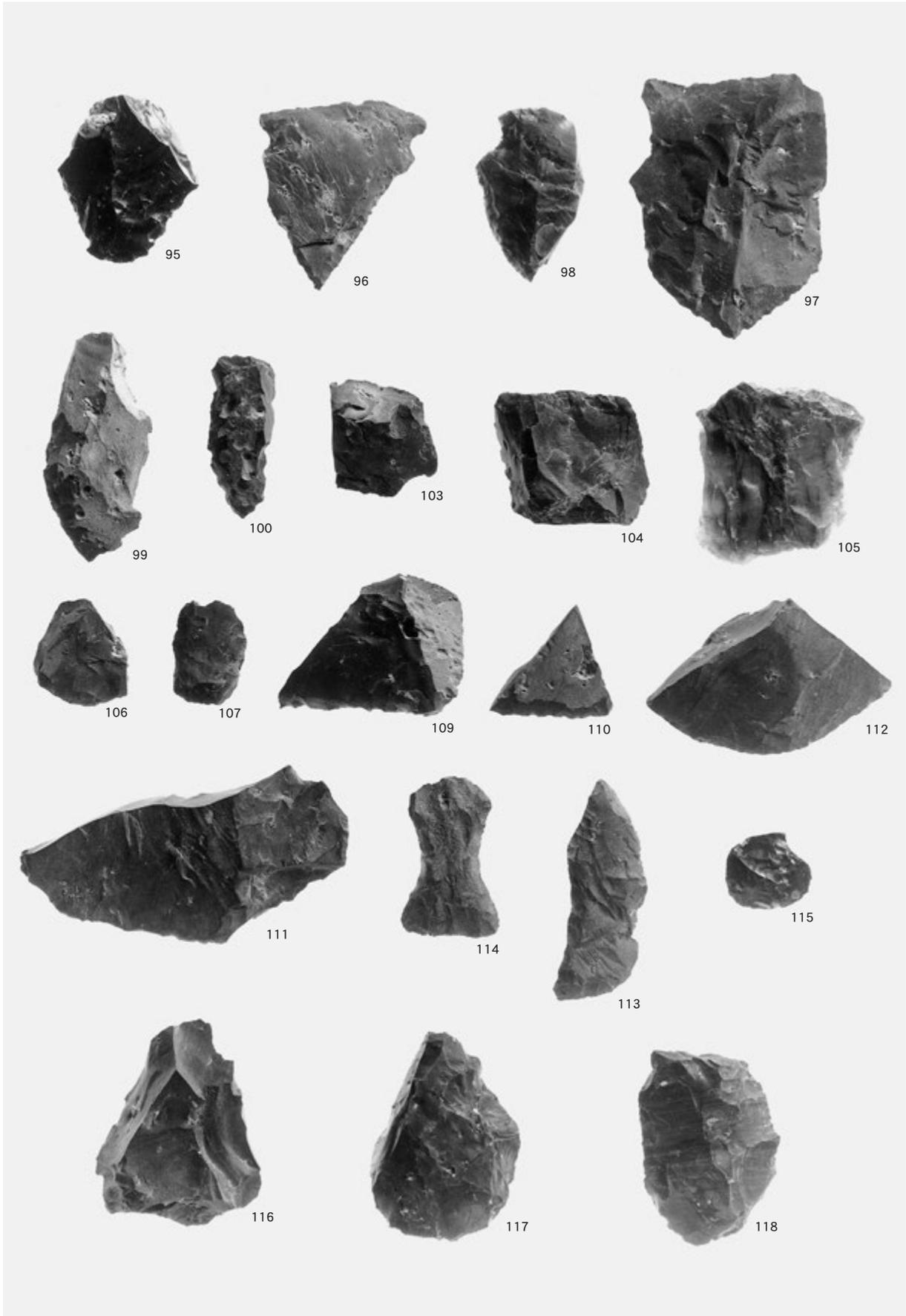
縄文時代前期の石器(1)



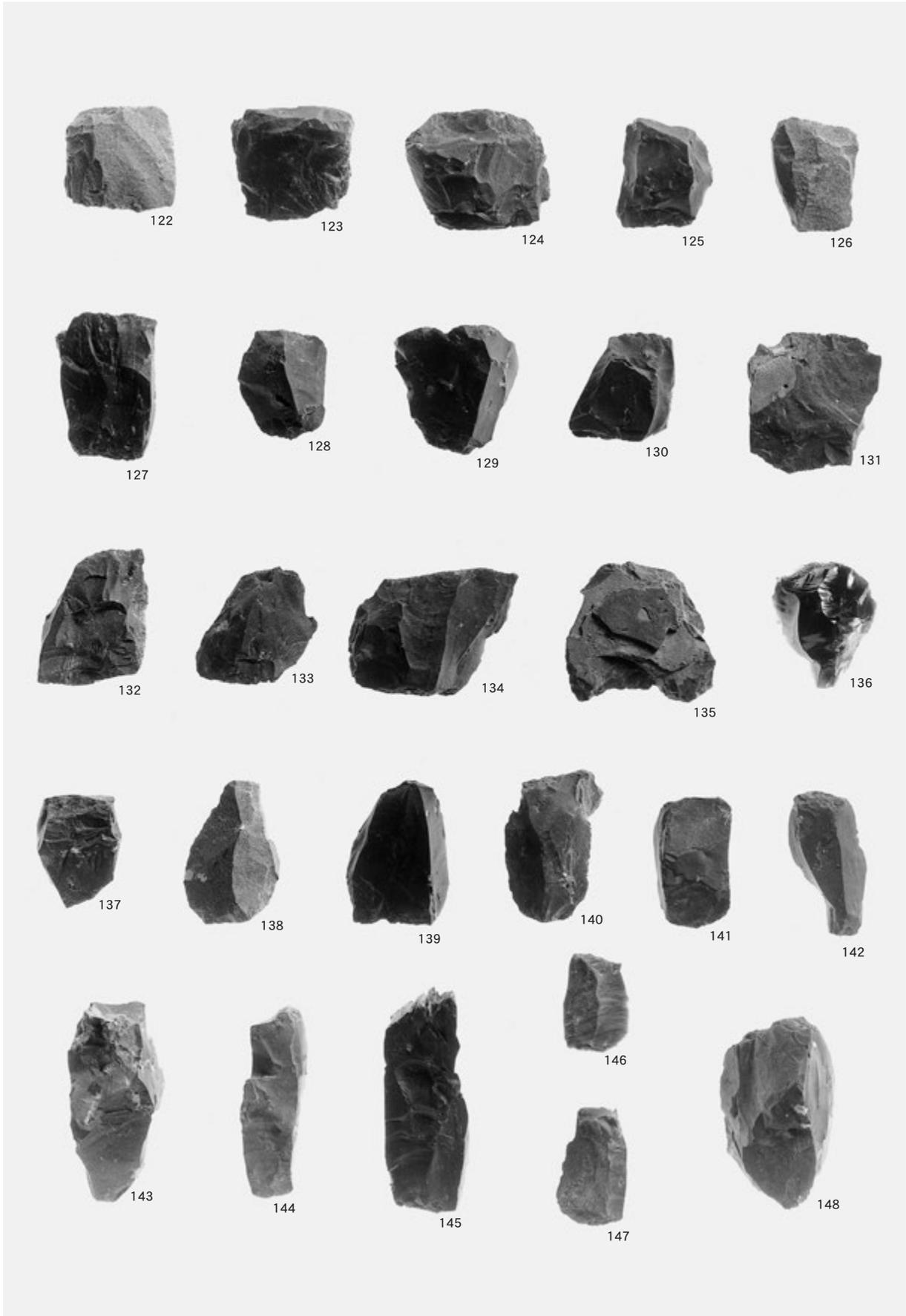
縄文時代前期の石器(2)



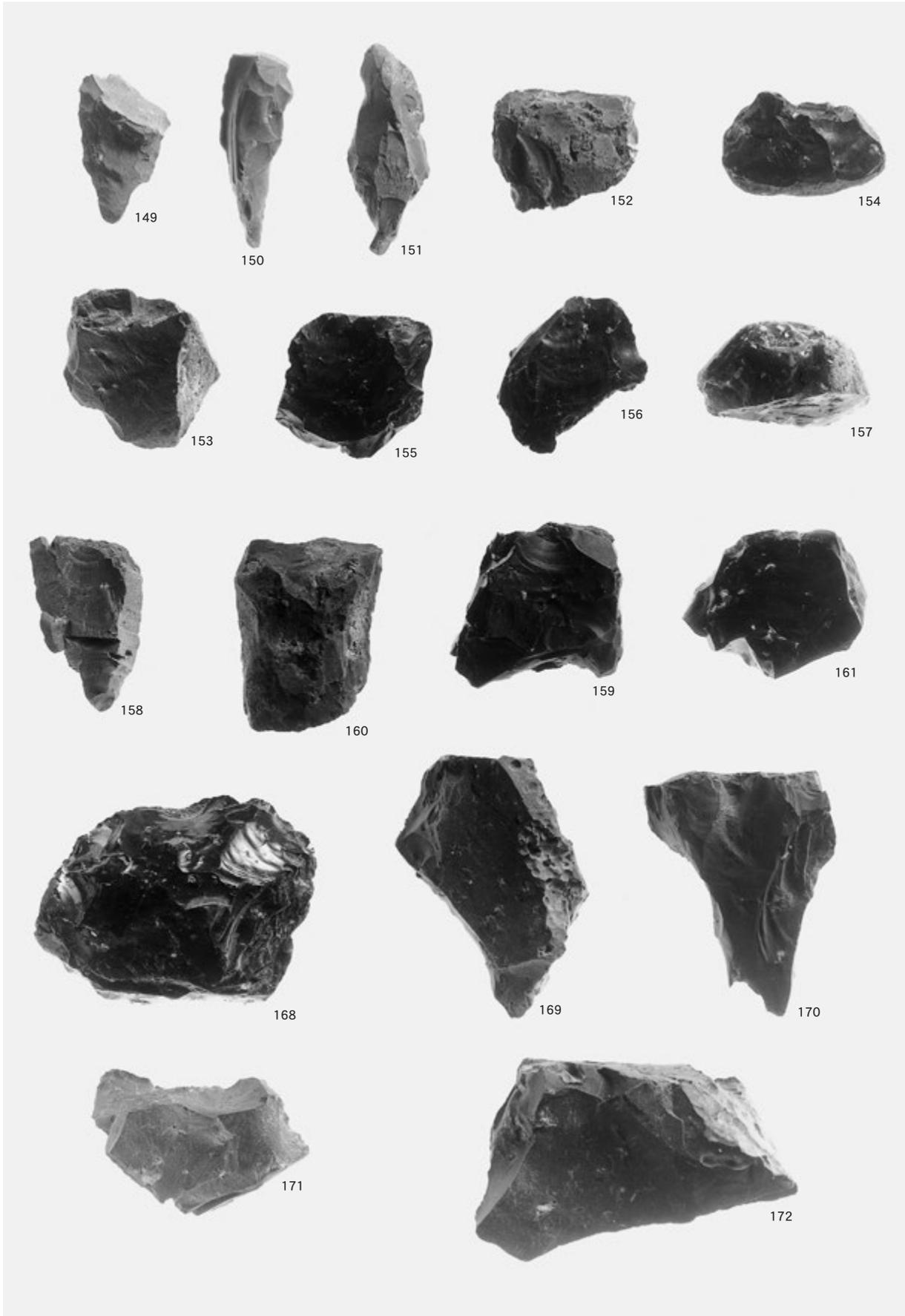
縄文時代前期の石器(3)



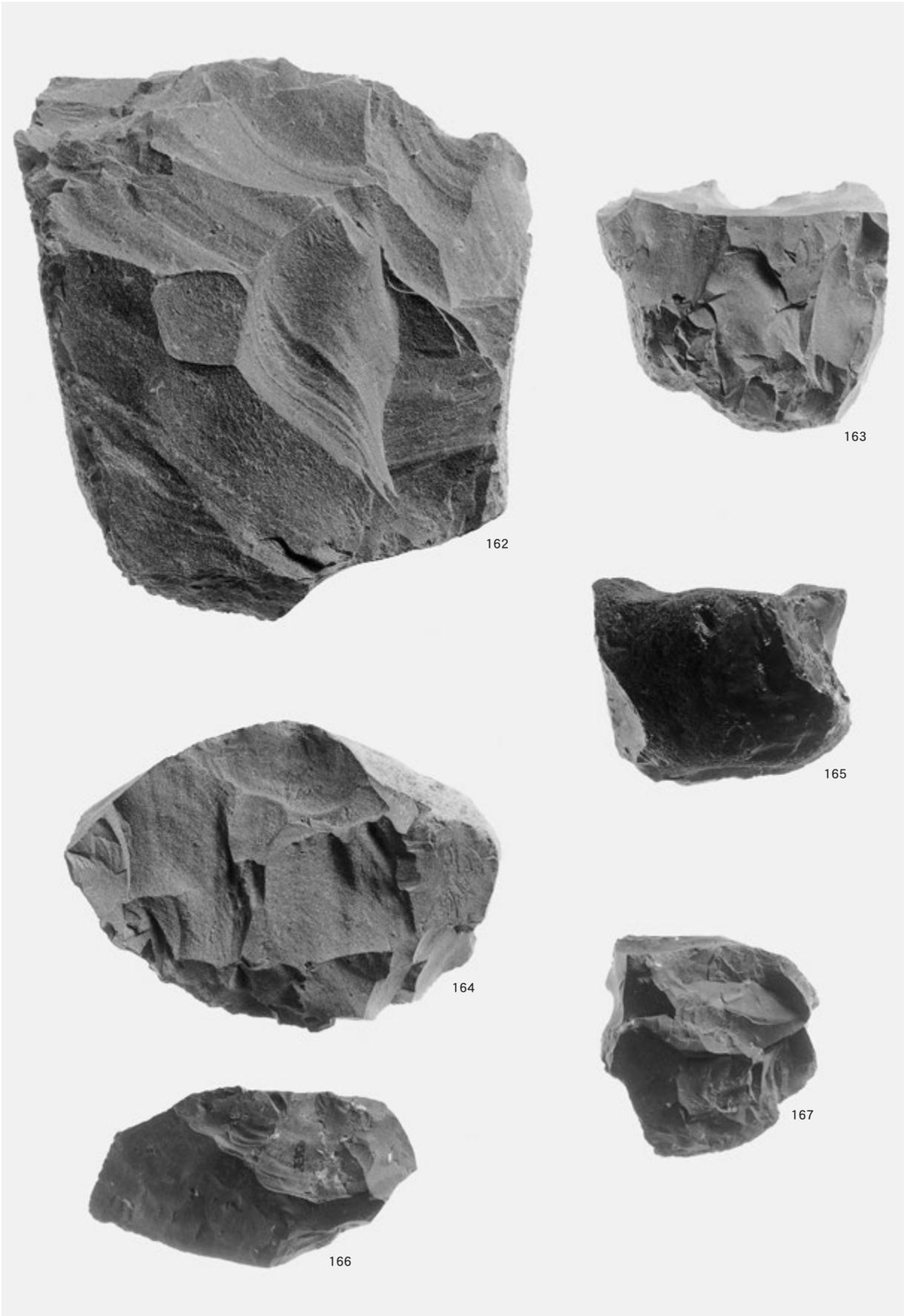
縄文時代前期の石器(4)



縄文時代前期の石器(5)



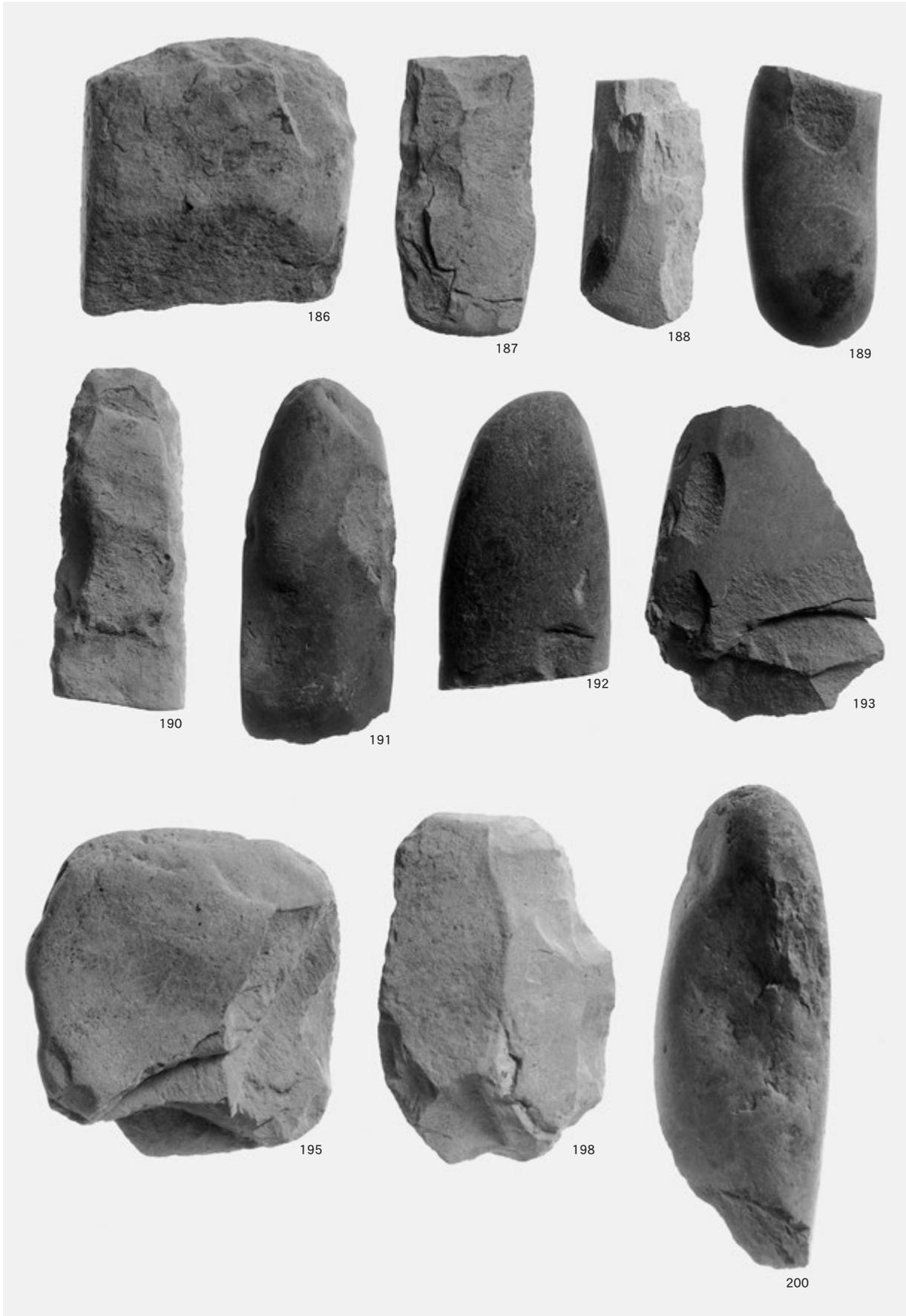
縄文時代前期の石器(6)



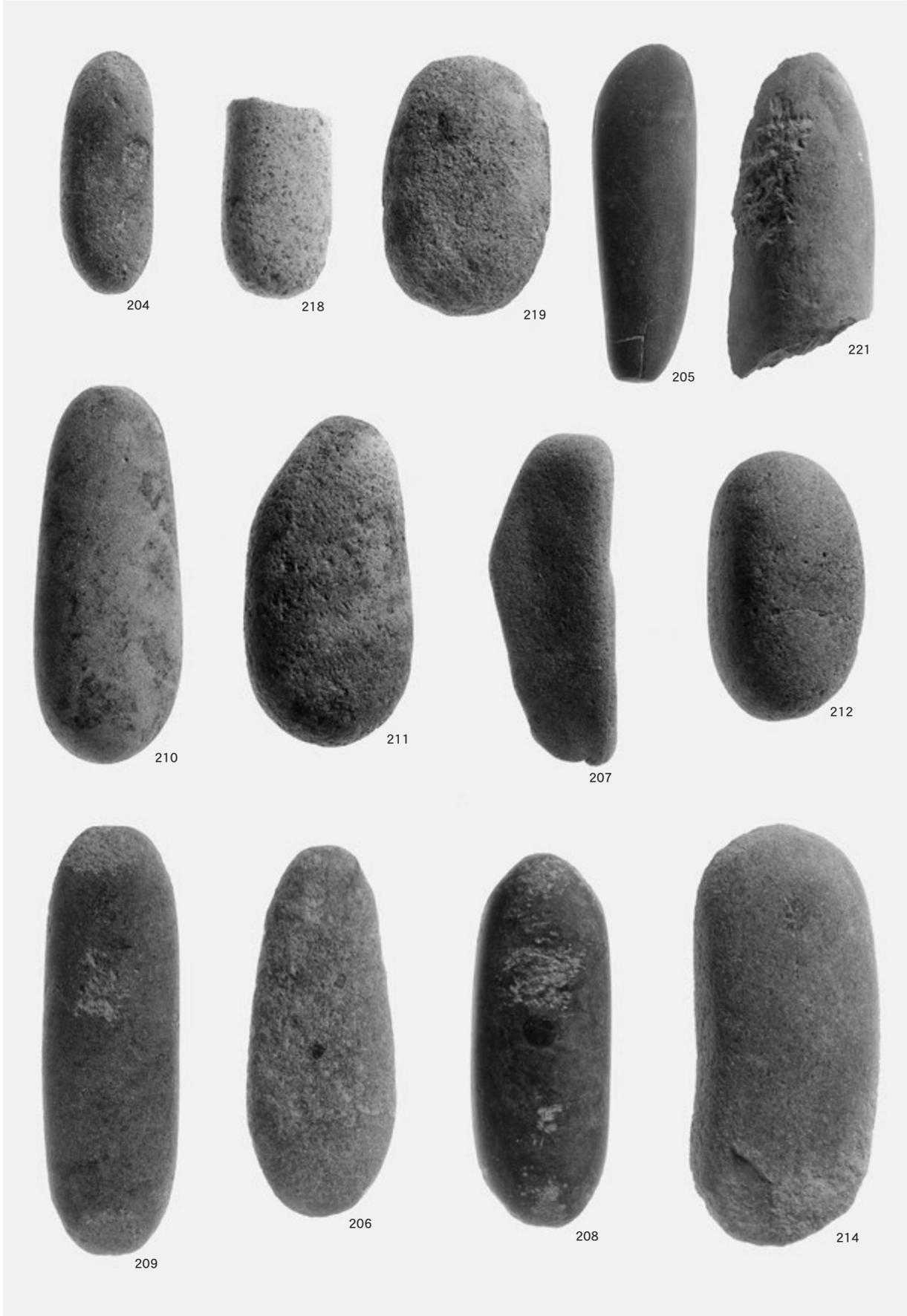
縄文時代前期の石器(7)



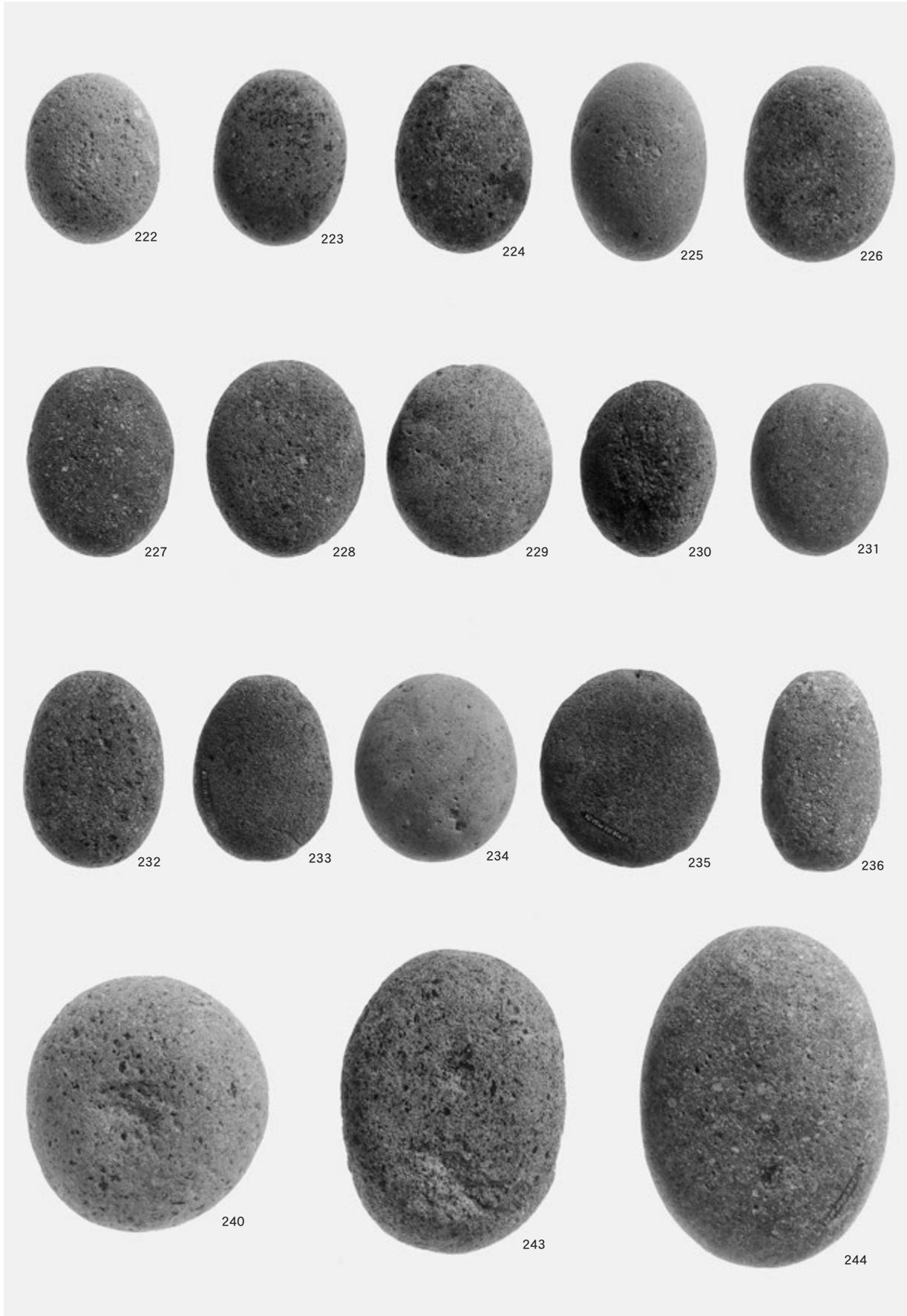
縄文時代前期の石器(8)



縄文時代前期の石器(9)



縄文時代前期の石器(10)



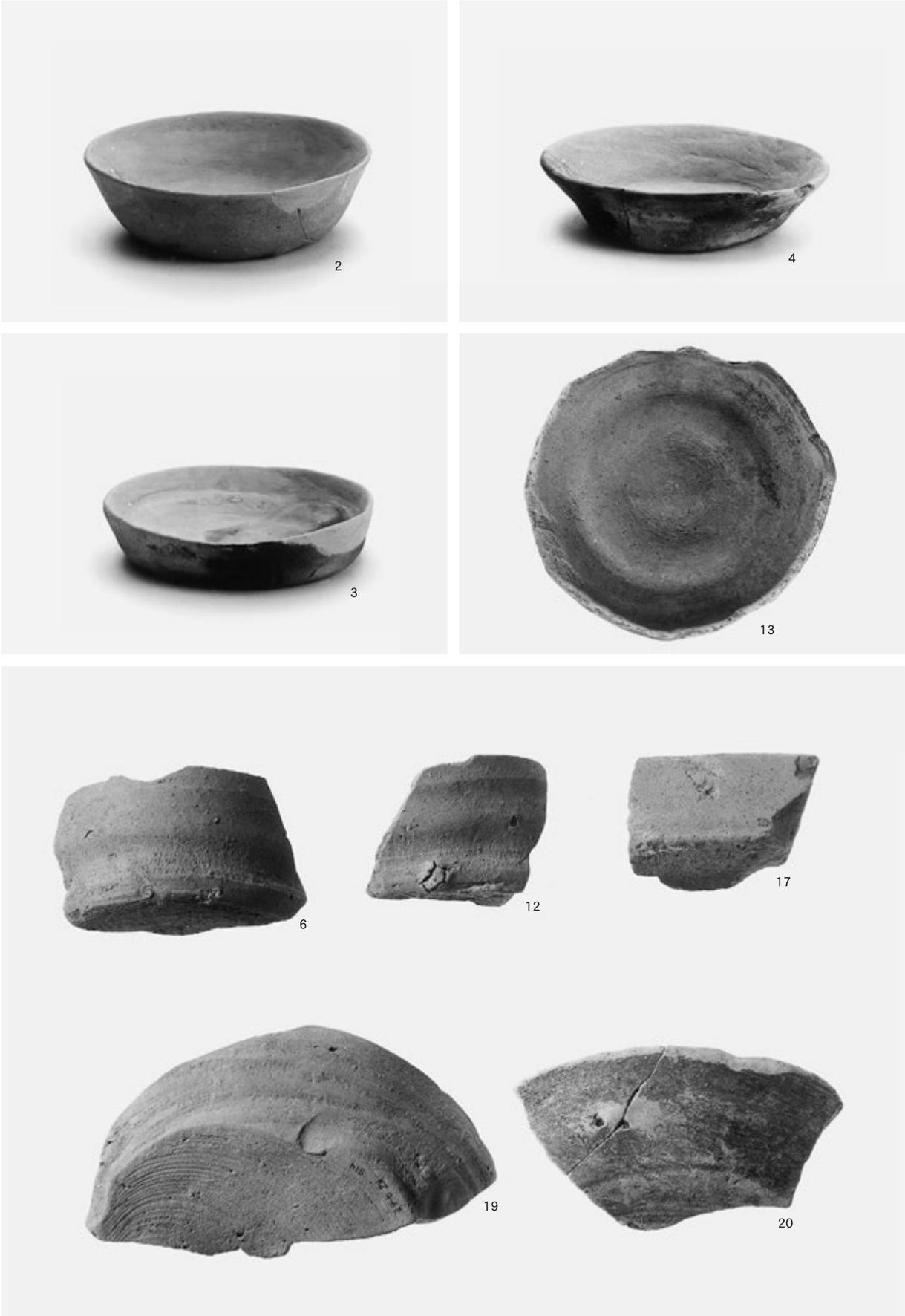
縄文時代前期の石器(1)



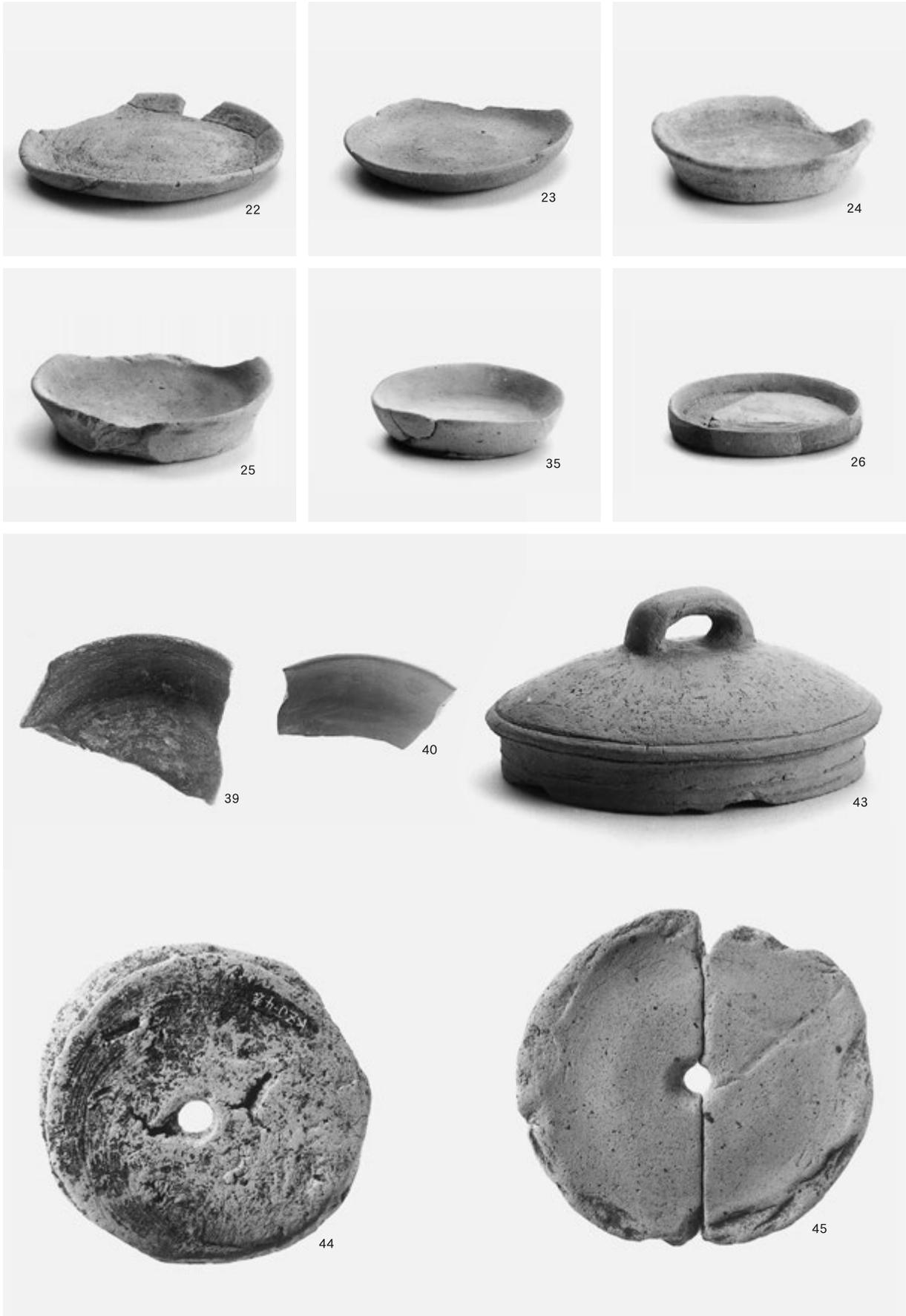
縄文時代前期の石器(12)



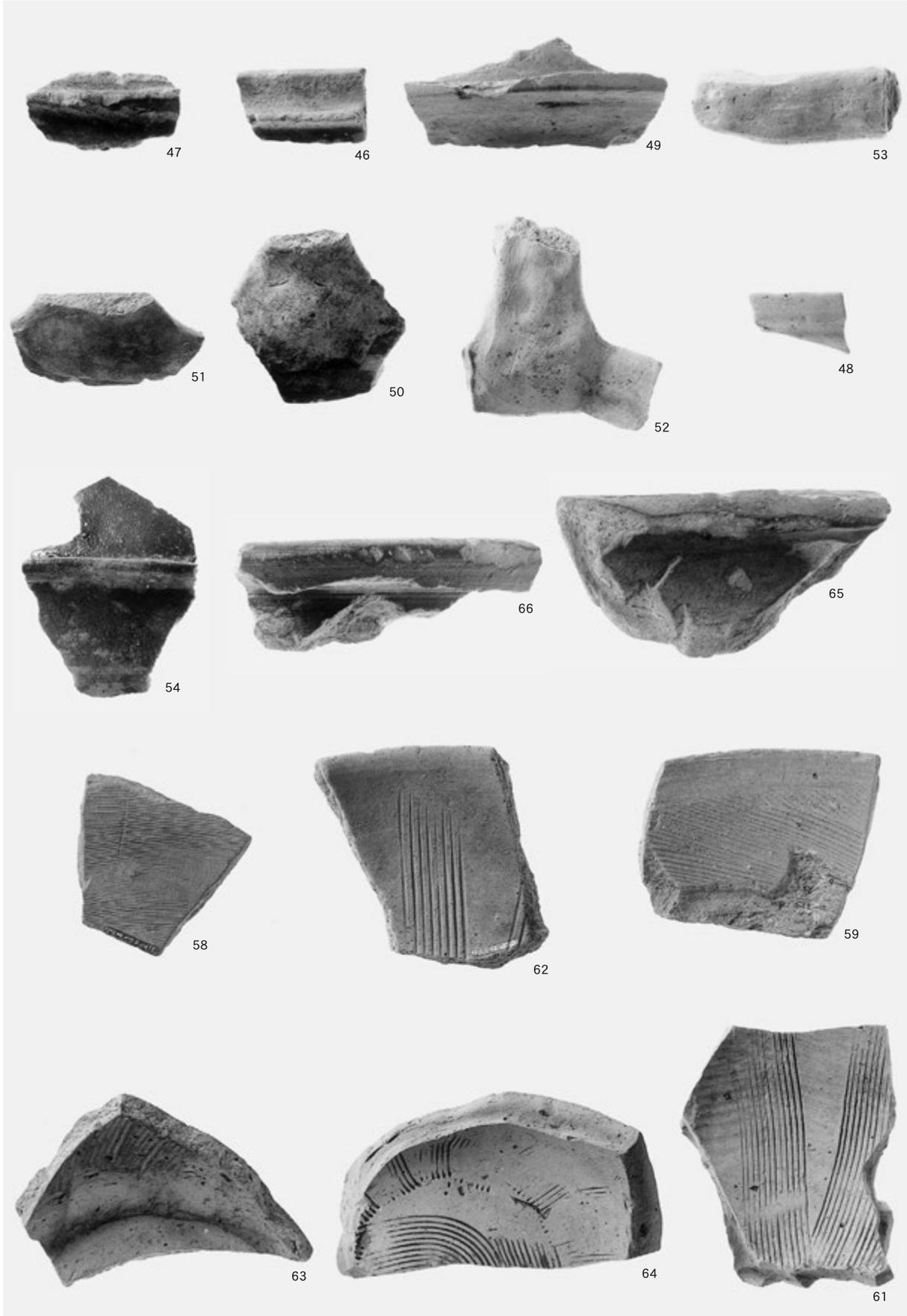
縄文時代前期の石器(13)



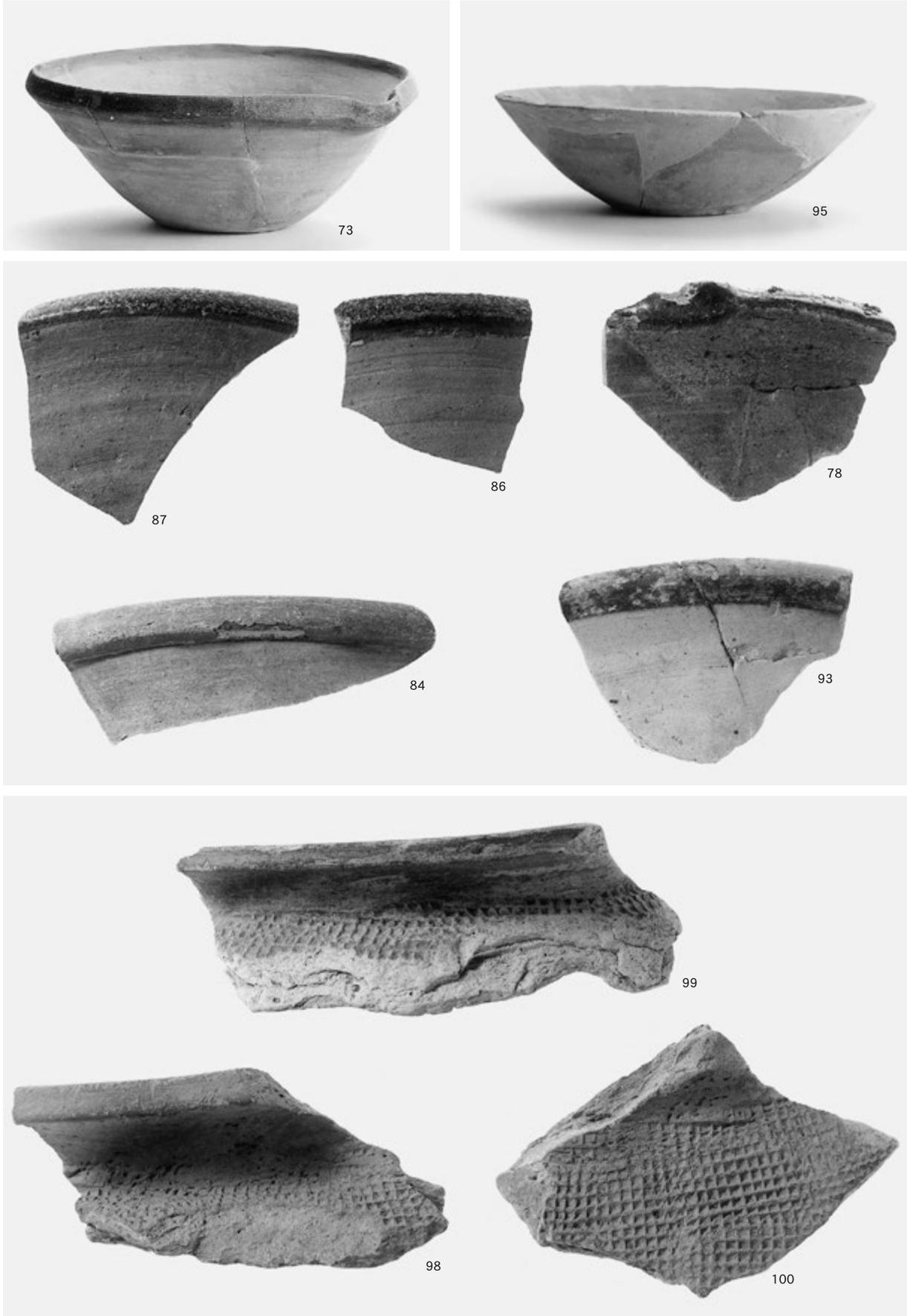
中近世の遺物(1)



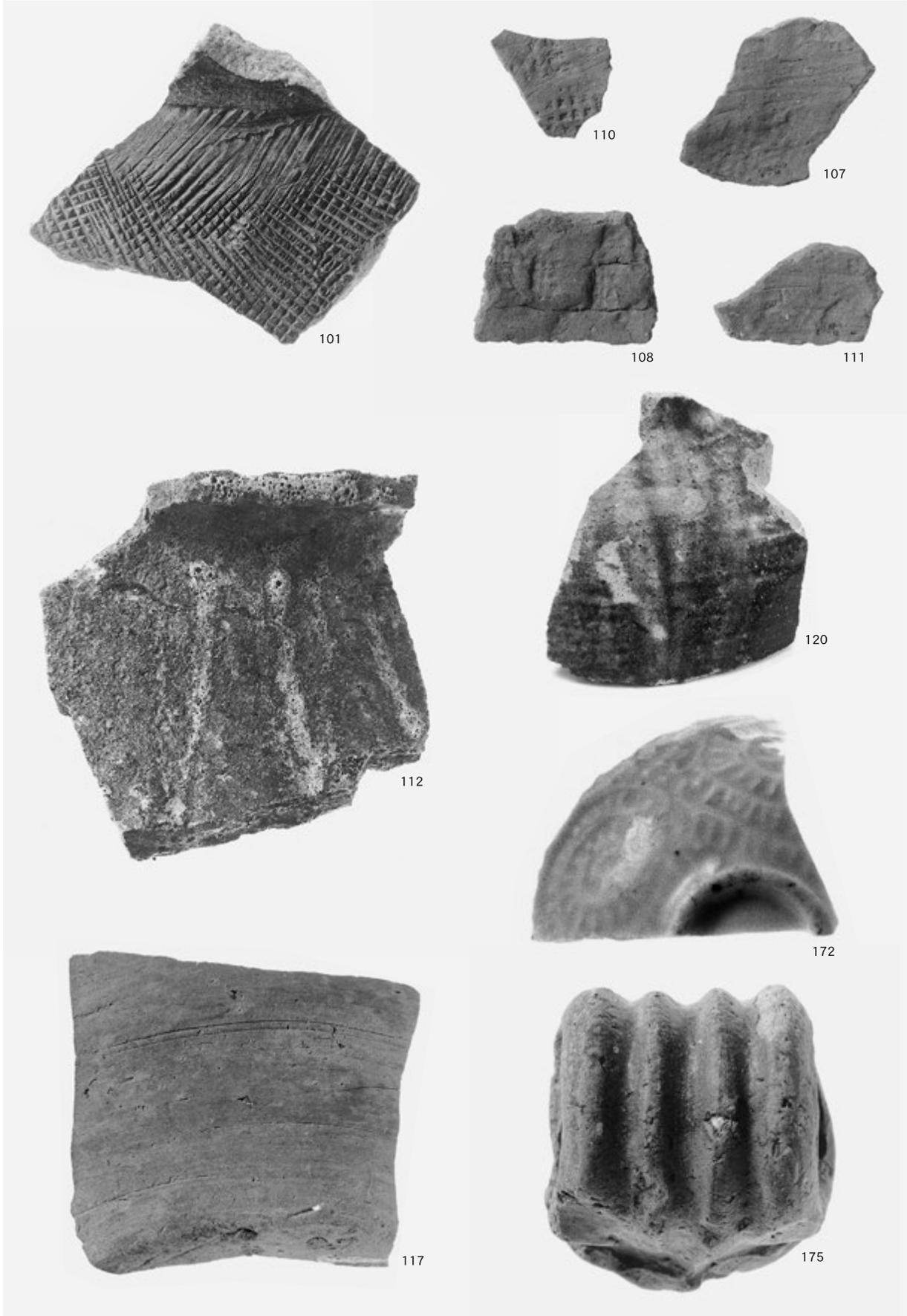
中近世の遺物(2)



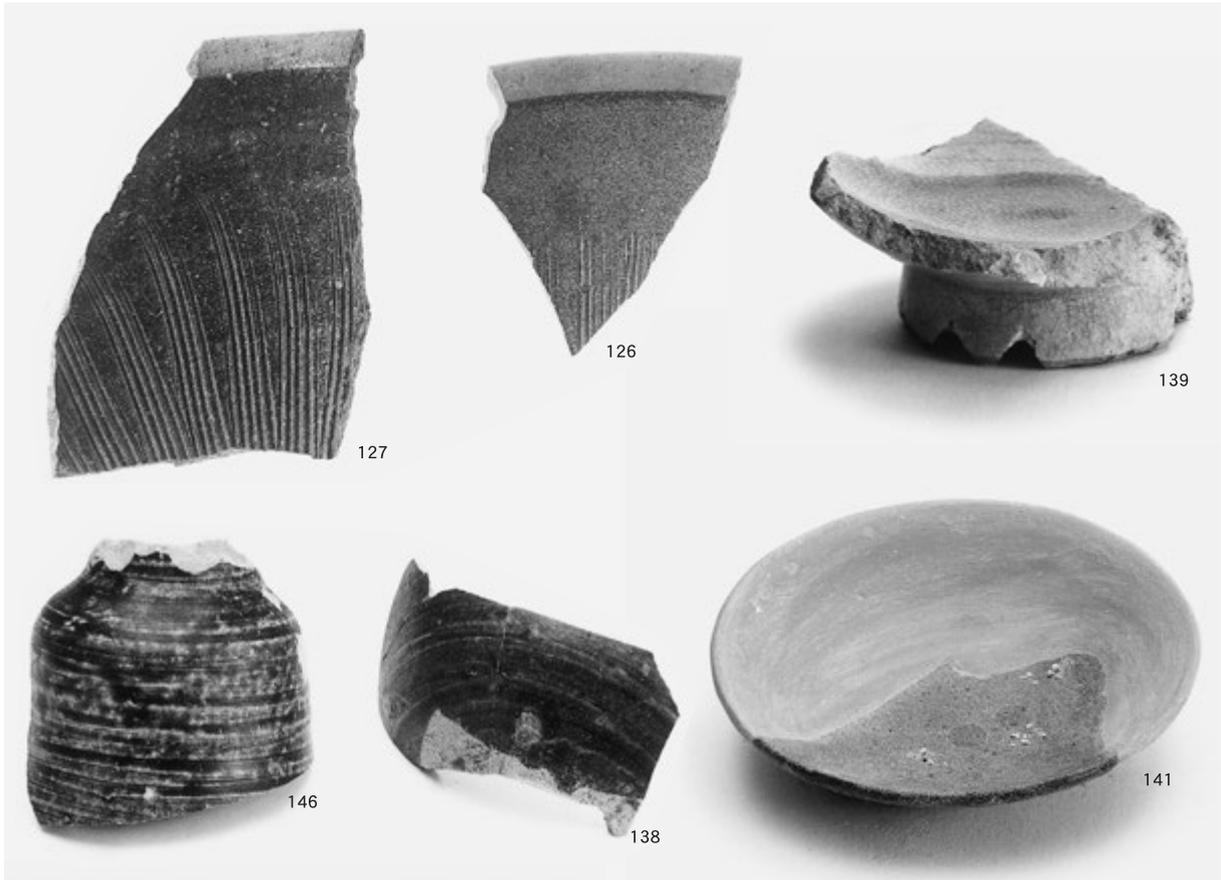
中近世の遺物(3)



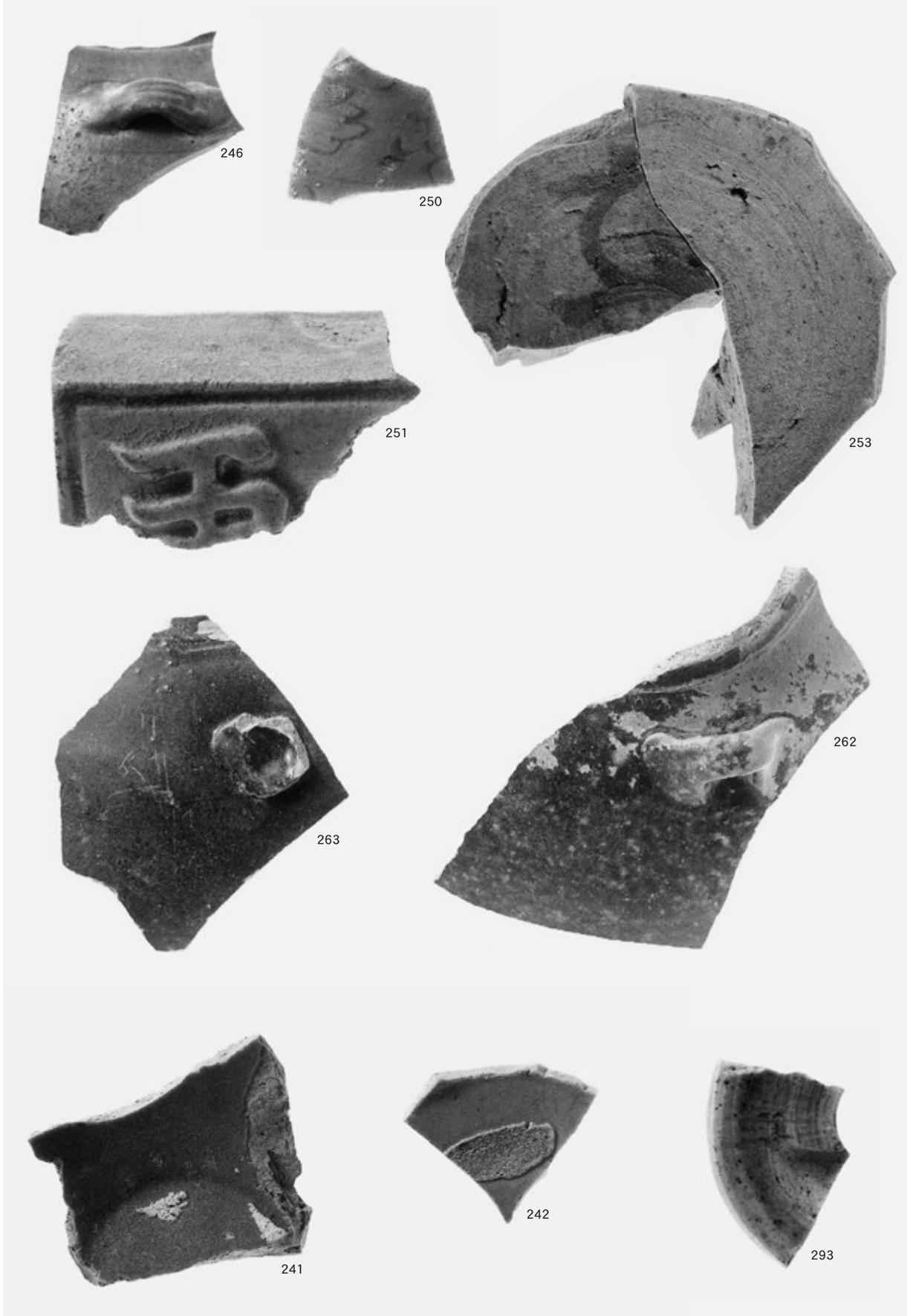
中近世の遺物(4)



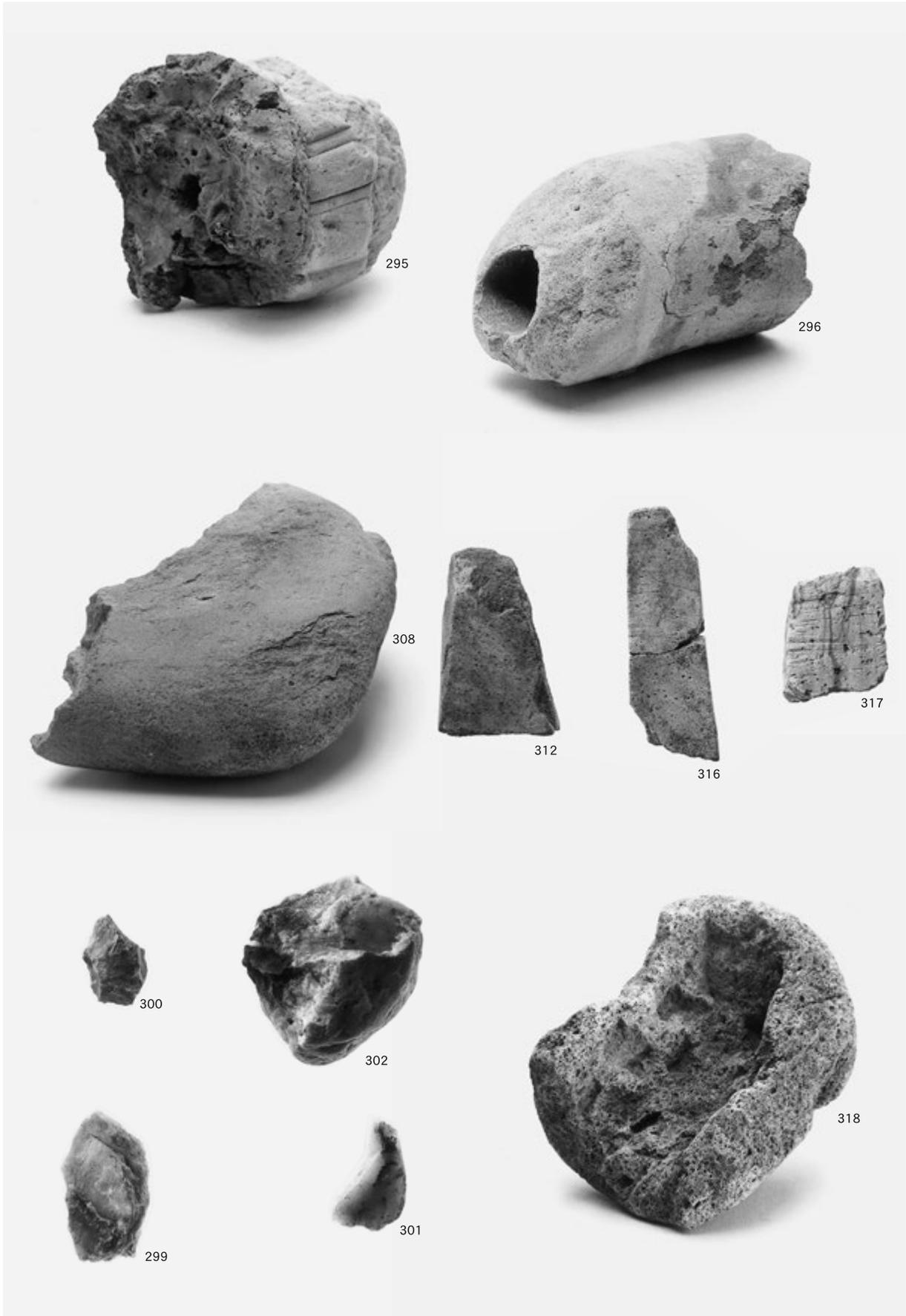
中近世の遺物(5)



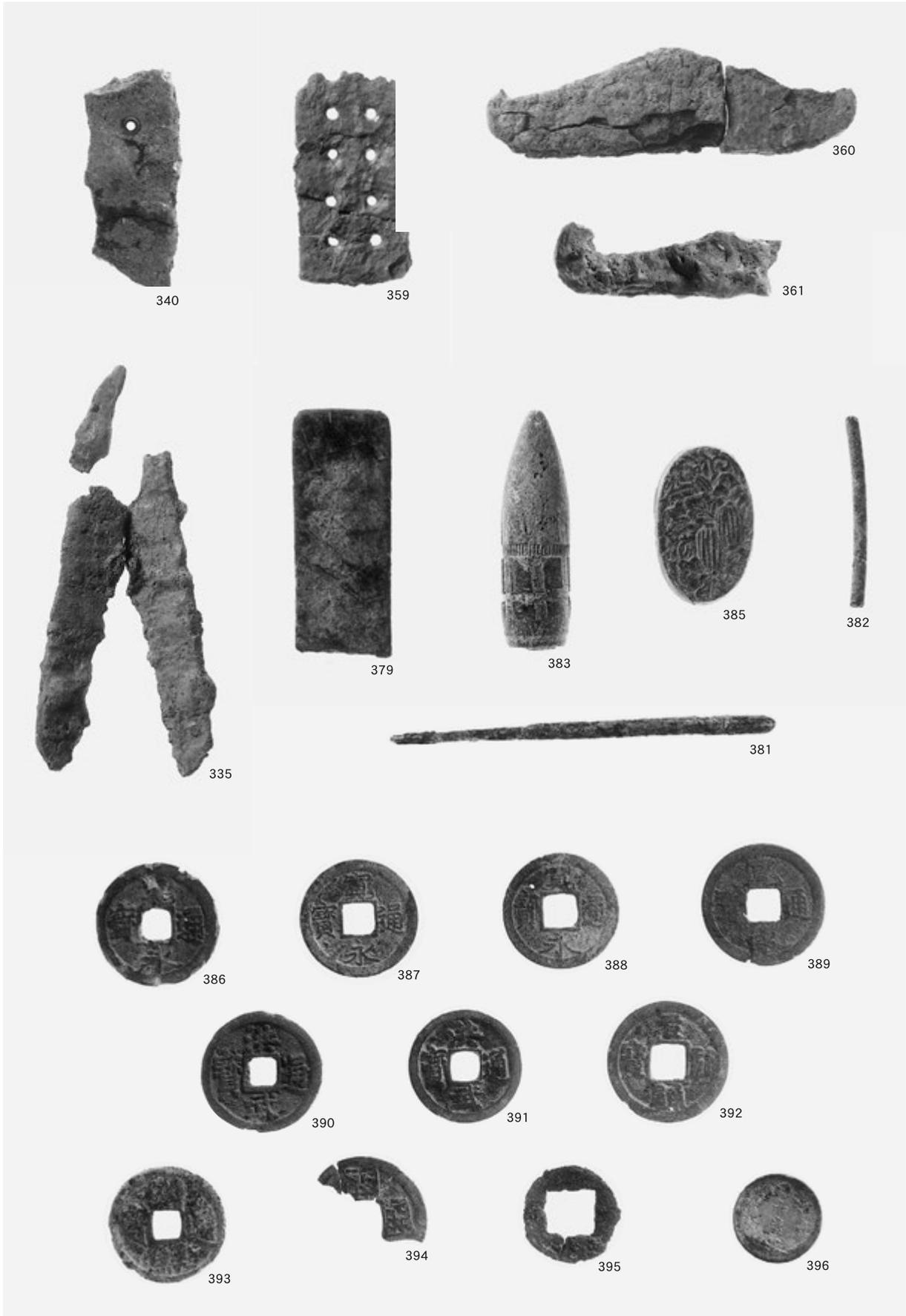
中近世の遺物(6)



中近世の遺物(7)



中近世の遺物(8)



中近世の遺物(9)

あ と が き

今回で、本事業により発掘調査された遺跡の報告書も4冊目になる。上水流遺跡に関しては3冊目になり、縄文時代前期末から中期前半編を残すのみとなった。報告書をまとめればまとめるほどに、遺跡が如何に多くの情報を有しているかがわかる。本来はまだまだ多くの情報があったに違いない。長い年月によって失われたもの、あるいは調査中や整理作業中に見落としてしまったものもあるだろう。遺跡の調査に携わるという業務は、調査担当者・報告書担当者の力量が常に問われる世界である。1つの事象に満足することなく精進して行かなくてはならない。

さて、今回は上水流遺跡の中で最も古い時代の報告を含んでいる。これまでの報告が、幾つかの時代や時期を含んでいる層を対象として報告であったが、今回の6層は、ほぼ曽畑式土器単純層といってよい状況であった。ここ数年の調査報告で単純期の報告はなかなか見られない。このため、該期の文化解明に大きな手掛かりを与えることになるであろう。だが、それに耐えうる内容だろうか不安は尽きない。

いずれにせよ、発掘調査から報告書作成に至るまで多くの方々の協力でここにたどり着くことが出来た。末筆ながら名前を記して感謝したい。

報告書作成スタッフ・指導協力者等(H20年度・順不同)

有村貴子 池田真弓 市園厚子 石坂きくえ
海老原弘子 小田原美保 柏木節子 加藤明子
川野高子 小園久美子 木島恵美 小中由美子
細田保子 下入佐正子 末川章吾 田實美穂 垂門加世
鶴みつ子 永井絹子 長澤みどり 西清子 西川明美
福留良映 藤田みどり 別府祐子 松下奈津美
宮坂多美子 宮原紀代 森山優子 山下貴子
吉松みち子 池田由美子 上別府理香 丸田幸子
石原公子 植山ひろみ 乙幡佳子 門口由美
川俣真由美 隈元優子 諏訪園万里子 郷田千秋
高野広子 高見昇子 田中美佐枝 田ノ上輝美

徳重貴子 中村直美 西実華 二宮るみ 林明子
真野さゆり 和田真祈 坂田かおり 島元喜久美
永野愛子 坂元真由美 半下石あけ美
岩永勇亮 岩元康成 栗畑光博 森雄二 福園美由紀
栗林文夫 峰岸純夫 佐藤亜聖 渡辺芳郎 八賀晋
森田稔 森内秀造 岡田章一 池田榮史 上田耕
佐藤真人 新里貴之 新里亮人 関一之 所崎平
永濱功治 永山修一 新田栄治 橋口拓也 橋口巨
堀田孝弘 林匡 韓盛旭 東和幸 廣栄次 川口雅之
本田道輝 前迫亮一 馬籠亮道 松田朝由 森脇広
森幸一郎 宮下貴浩 桃崎祐輔 柳原敏昭 抜水茂樹
森村健一 三辻利一 坂元恒太



鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（136）
中小河川改修事業（万之瀬川）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（Ⅳ）

上水流遺跡3

発行日 平成21年3月

発行者 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899 - 4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号
T E L (0995) 48 - 5811

印刷所 株式会社あすなろ印刷
〒899 - 0041 鹿児島市城西2 - 2 - 36
T E L (099) 214 - 3757

